

芦屋市総合計画策定に向けた 市民意識調査報告書

2025 年2月

《 目 次 》

I. 調査の目的と概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査設計	1
(1) 実施時期.....	1
(2) 対象者	1
(3) 配布・回収	1
(4) 性別・年代別回答状況.....	2
(5) 地区別回答状況.....	3
(6) 回答方法別	4
(7) 標本誤差について	6
(8) 分析についての注意点.....	7
II. アンケート調査結果.....	8
1. 回答者属性.....	8
(1) 問 1 年齢.....	8
(2) 問 2 性別.....	10
(3) 問 3 居住地区.....	12
(4) 問 4 居住年数.....	14
(5) 問 5 世帯構成.....	17
2. お住まいの地域での生活や住みやすさについて	18
(1) 問 6 定住意向	18
(2) 問 7 現在芦屋市に住み続けている理由（3つまで選択）	21
(3) 問 8 地域の活動や行事への参加状況	22
(4) 問 9 「すでに参加している」地域の活動・「今後参加したい」地域の活動（複数選択）	25
(5) 問 10 地域の活動に参加している理由（3つまで選択）	30
(6) 問 11 地域の活動に参加していない理由（3つまで選択）	32
(7) 問 12 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況.....	34
(8) 問 13 日常的に近所の子どもと接する機会.....	36
(9) 問 14 家族や親族以外で相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所.....	39
(10) 問 15 地域の人との関わりの程度	42
(11) 問 16 地域の人との関わりは必要だと思うか	44
(12) 問 17 地域の人との関わりが必要だと思う理由（3つまで選択）	46
(13) 問 18 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（3つまで選択）	48
(14) 問 19 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか	50
(15) 問 20 地域のまちなみやまちなかの緑の景観.....	50
(16) 問 21 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度	53
(17) 問 22 市内の公園の利用頻度.....	56

(18) 問 23 自然災害に対する日頃からの備え（複数選択）	59
(19) 問 24 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（複数選択）	62
(20) 問 25 交通手段に関わらない市内の移動の利便性.....	64
(21) 問 26 生活用品の購入場所	67
(22) 問 27 家事や育児など夫婦間での分担についての考え	86
(23) 問 28 市役所への届け出や書類申請などの手続き	107
3. 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて	110
(1) 問 29 第5次芦屋市総合計画の各施策の達成状況についての満足度.....	110
(2) 問 30 芦屋市の現状の評価	151
(3) 問 31 魅力創出のため今後力を入れるべき施策目標（3つまで選択）	154
(4) 問 31 今後力を入れるべき施策目標を選んだ理由	156
(5) 問 29×問 31 評点と重要度による散布図の提示.....	163
(6) 問 32 美しく清潔で快適なまちだと思うか.....	165
4. 健康づくりについて	168
(1) 問 33 運動習慣の有無.....	168
(2) 問 34 健康診査・健康診断の受診頻度	171
(3) 問 35 BMI 値	172
5. あなたの暮らしについて.....	173
(1) 問 36 自身の幸福度	173
(2) 問 37 暮らしの満足度.....	176
(3) 問 38 町内の幸福度	179
(4) 問 39 周りも楽しい	182
6. 文化的なふれあいや学び、市民参画について	185
(1) 問 40 「文化」という言葉に対してイメージするもの	185
(2) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ	186
(3) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）	188
(4) 問 41 「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由（複数選択）	198
(5) 問 42 芦屋市の文化的資源の認知度.....	199
(6) 問 43 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度	228
(7) 問 44 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度....	231
(8) 問 45 自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思うか	234
(9) 問 46 身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいと思うこと （複数選択）	235
(10) 問 47 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいと思うこ と（複数選択）	236
(11) 問 48 文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること（複数 選択）	239
(12) 問 49 市民参画・協働を必要だと思うか	240

(13) 問 50	市民参画・協働が必要だと言う理由（3つまで選択）	242
(14) 問 51	市民参画・協働が不要だと言う理由（3つまで選択）	244
(15) 問 52	市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（複数選択）	246
7.	市政情報について	247
(1) 問 53	市政情報の認知度	247
(2) 問 54	地域や文化などに関する情報の入手方法	248
(3) 問 55	「広報あしや」の満足度	251
(4) 問 56	「広報あしや」に不満な理由（複数選択）	254
(5) 問 57	「市のホームページ」の満足度	256
(6) 問 58	「市のホームページ」に不満な理由（複数選択）	259
8.	教育や学習に関する取組について	261
(1) 問 59	芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思うか（3つまで選択）	261
(2) 問 60	こどもたちや教育について課題と感じていること（3つまで選択）	262
(3) 問 61	就学前教育の充実のために必要な取組（3つまで選択）	263
(4) 問 62	小・中学校に対して望むこと（3つまで選択）	265
(5) 問 63	いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと（3つまで選択）	267
(6) 問 64	今後力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業	269
9.	総合計画・各種計画について	282
(1) 問 65	総合計画の認知度	282
(2) 問 66	まちづくり全般について、ご意見など	284
III.	資料編	287
1.	調査票	287

I. 調査の目的と概要

1. 調査の目的

令和 8 年度（2026 年度）から 5 年間のまちづくりの指針となる総合計画の後期基本計画の策定に向け、施策の進捗状況の評価や指標値を把握するほか、教育・文化・市民参画協働に関わる施策の進捗状況を把握するため、「市民意識調査」を実施した。

2. 調査設計

(1) 実施時期

令和 6 年（2024 年）10 月 17 日（木）～令和 6 年（2024 年）11 月 1 日（水）

(2) 対象者

市内にお住まいの 18 歳以上の方から無作為に選んだ 3,000 人の方を対象。

（令和 6 年（2024 年）9 月 1 日現在の住民基本台帳登録者）

(3) 配布・回収

	件数	備考
①対象者数	3,000	
②有効配布数	2,993	未配達 7 件
③有効回答数	1,439	用紙回収：1,046 件、WEB 回収：393 件
④有効回収率	48.1%	③有効回答数÷②有効配布数

[過去の市民意識調査との回答状況の比較]

	配布数（未配達数）	有効回収数	有効回収率 （%）
平成 16 年度（2004 年度）調査	2,000（15 件）	1,203	60.6
平成 20 年度（2008 年度）調査	3,000（15 件）	1,811	60.7
平成 24 年度（2012 年度）調査	2,000（11 件）	1,015	51.0
平成 26 年度（2014 年度）調査	3,000（11 件）	1,426	47.7
平成 29 年度（2017 年度）調査	3,000（3 件）	1,611	53.7
令和元年度（2019 年度）調査①	3,000（11 件）	1,377	46.1
令和元年度（2019 年度）調査②	3,000（5 件）	1,430	47.7
令和 5 年度（2023 年度）調査	3,000（3 件）	1,598	53.3

(4) 性別・年代別回答状況

従来のアンケートでは、若年層の回答率が低く、高齢層の回答率が高い傾向がみられるため、過去の年代階層別の回答率を考慮して、前回調査に引き続き、年代別の抽出数を設定した。結果として性別・年代別の構成比においては、概ね実際の人口構成に近似した回答が得られている。

性別	年代	母集団		配布数		回答者		性別	年代	母集団		配布数		回答者	
		実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比			実数	構成比	実数	構成比	実数	構成比
男性	10歳代	961	2.7	83	5.5	23	3.9	答えたくない	10歳代	-	-	-	-	1	9.1
	20歳代	3,476	9.8	236	15.7	51	8.7		20歳代	-	-	-	-	2	18.2
	30歳代	3,383	9.5	188	12.5	63	10.8		30歳代	-	-	-	-	1	9.1
	40歳代	5,538	15.6	267	17.8	81	13.8		40歳代	-	-	-	-	2	18.2
	50歳代	7,362	20.8	295	19.6	117	20.0		50歳代	-	-	-	-	2	18.2
	60歳代	5,610	15.8	174	11.6	89	15.2		60歳代	-	-	-	-	1	9.1
	70歳代	5,436	15.3	160	10.7	101	17.3		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	3,702	10.4	99	6.6	58	9.9		80歳以上	-	-	-	-	1	9.1
	無回答	-	-	-	-	2	0.3		無回答	-	-	-	-	1	9.1
	計	35,468	100.0	1,502	100.0	585	100.0		計	-	-	-	-	11	100.0
女性	10歳代	896	2.0	60	4.0	21	2.5	無回答	10歳代	-	-	-	-	0	0.0
	20歳代	3,795	8.4	201	13.4	66	7.9		20歳代	-	-	-	-	0	0.0
	30歳代	4,177	9.3	185	12.3	76	9.0		30歳代	-	-	-	-	0	0.0
	40歳代	6,870	15.2	198	13.2	122	14.5		40歳代	-	-	-	-	0	0.0
	50歳代	8,791	19.5	271	18.1	163	19.4		50歳代	-	-	-	-	0	0.0
	60歳代	6,685	14.8	188	12.6	126	15.0		60歳代	-	-	-	-	0	0.0
	70歳代	7,112	15.8	183	12.2	125	14.9		70歳代	-	-	-	-	0	0.0
	80歳以上	6,748	15.0	212	14.2	138	16.4		80歳以上	-	-	-	-	0	0.0
	無回答	-	-	-	-	3	0.4		無回答	-	-	-	-	3	100.0
	計	45,074	100.0	1,498	100.0	840	100.0		計	-	-	-	-	3	100.0
上記にあてはまらない	10歳代	-	-	-	-	0	0.0	計	10歳代	1,857	2.3	143	4.8	45	3.1
	20歳代	-	-	-	-	0	0.0		20歳代	7,271	9.0	437	14.6	119	8.3
	30歳代	-	-	-	-	0	0.0		30歳代	7,560	9.4	373	12.4	140	9.7
	40歳代	-	-	-	-	0	0.0		40歳代	12,408	15.4	465	15.5	205	14.2
	50歳代	-	-	-	-	0	0.0		50歳代	16,153	20.1	566	18.9	282	19.6
	60歳代	-	-	-	-	0	0.0		60歳代	12,295	15.3	362	12.1	216	15.0
	70歳代	-	-	-	-	0	0.0		70歳代	12,548	15.6	343	11.4	226	15.7
	80歳以上	-	-	-	-	0	0.0		80歳以上	10,450	13.0	311	10.4	197	13.7
	無回答	-	-	-	-	0	0.0		無回答	-	-	-	-	9	0.6
	計	-	-	-	-	0	0.0		計	80,542	100.0	3,000	100.0	1,439	100.0

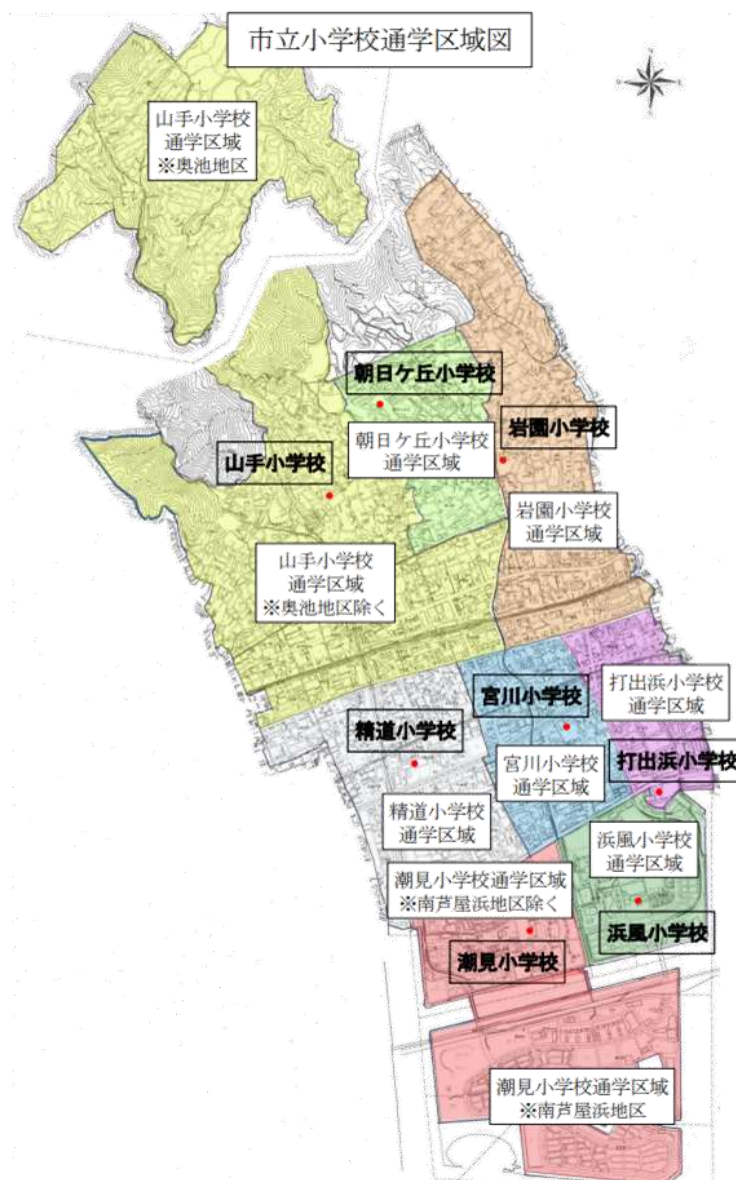
(※)「10歳代」は、実際の人口から10～17歳を除いた数値。令和6年9月30日現在。

(5) 地区別回答状況

地区別の構成比について母集団と回答者の比率を比較すると、概ね実際の人口に近似した回答が得られている。

地区	母集団		回答者	
	実数	比率	実数	比率
奥池地区	1,138	1.4	20	1.4
山手小学校区(奥池地区除く)	15,854	19.7	245	17.0
岩園小学校区	11,090	13.8	196	13.6
朝日ヶ丘小学校区	7,725	9.6	107	7.4
精道小学校区	11,186	13.9	226	15.7
宮川小学校区	9,746	12.1	184	12.8
打出浜小学校区	8,127	10.1	169	11.7
浜風小学校区	6,140	7.6	129	9.0
潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	4,567	5.7	92	6.4
南芦屋浜地区	4,969	6.2	67	4.7
無回答	-	-	4	0.3
合計	80,542	100.0	1,439	100.0

(※)「母集団」は、各地区の実際の人口から0～17歳を除いた数値。令和6年9月30日現在。



(6) 回答方法別

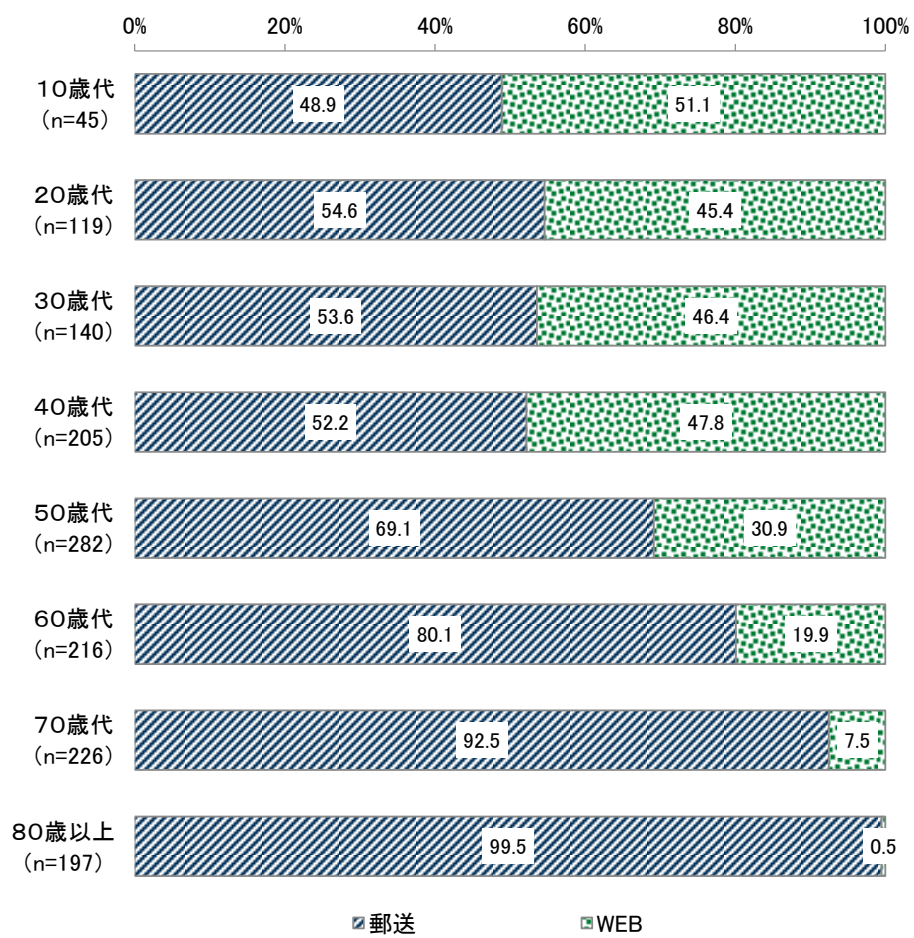
回答方法別の回答率を比較すると、市全体では郵送が約 70%、WEB が、約 30%となっている。

	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
市全体	1,046	72.7	393	27.3	1,439	100.0

性別	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
男性	395	67.5	190	32.5	585	100.0
女性	641	76.3	199	23.7	840	100.0
上記に当てはまらない	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	63.6	4	36.4	11	100.0
無回答	3	100.0	0	0.0	3	100.0

年代	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
10歳代	22	48.9	23	51.1	45	100.0
20歳代	65	54.6	54	45.4	119	100.0
30歳代	75	53.6	65	46.4	140	100.0
40歳代	107	52.2	98	47.8	205	100.0
50歳代	195	69.1	87	30.9	282	100.0
60歳代	173	80.1	43	19.9	216	100.0
70歳代	209	92.5	17	7.5	226	100.0
80歳以上	196	99.5	1	0.5	197	100.0
無回答	4	44.4	5	55.6	9	100.0

地区	郵送		WEB		合計	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
奥池地区	17	85.0	3	15.0	20	100.0
山手小学校区(奥池地区除く)	185	75.5	60	24.5	245	100.0
岩園小学校区	121	61.7	75	38.3	196	100.0
朝日ヶ丘小学校区	78	72.9	29	27.1	107	100.0
精道小学校区	164	72.6	62	27.4	226	100.0
宮川小学校区	127	69.0	57	31.0	184	100.0
打出浜小学校区	131	77.5	38	22.5	169	100.0
浜風小学校区	96	74.4	33	25.6	129	100.0
潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	75	81.5	17	18.5	92	100.0
南芦屋浜地区	48	71.6	19	28.4	67	100.0
無回答	4	100.0	0	0.0	4	100.0



(7) 標本誤差について

- 一般的に標本調査においては、信頼度 95%（※）のレベルでの結果を評価することが妥当とされており、信頼度 95%における標本誤差は次の式で算出される。今回調査の標本誤差については下表の通りとなっている。
- 例えば回答者全体（1,439 人）が回答している設問について、ある選択肢に回答した比率が 50%であった場合、回答比率の誤差範囲は±2.6%（47.4%～52.6%）の間にあることが推測できる。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (100-P)}{n}}$$

N：母集団数（令和 6 年 9 月末時点の 18 歳以上の男女 80,542 人）

n：標本数

P：測定値（回答の比率）

（※）信頼度 95%：同一の調査を 100 回実施した場合、うち 95 回はこの誤差の範囲におさまること

	母集団	n	P	5% または 95%	10% または 90%	15% または 85%	20% または 80%	25% または 75%	30% または 70%	35% または 65%	40% または 60%	45% または 55%	50%
回答者総数	80,542	1,439		±1.1%	±1.5%	±1.8%	±2.0%	±2.2%	±2.3%	±2.4%	±2.5%	±2.5%	±2.6%
性別													
男性	35,468	585		±1.8%	±2.4%	±2.9%	±3.2%	±3.5%	±3.7%	±3.8%	±3.9%	±4.0%	±4.0%
女性	45,074	840		±1.5%	±2.0%	±2.4%	±2.7%	±2.9%	±3.1%	±3.2%	±3.3%	±3.3%	±3.3%
年代別													
10歳代	1,857	45		±6.3%	±8.7%	±10.3%	±11.5%	±12.5%	±13.2%	±13.8%	±14.1%	±14.4%	±14.4%
20歳代	7,271	119		±3.9%	±5.3%	±6.4%	±7.1%	±7.7%	±8.2%	±8.5%	±8.7%	±8.9%	±8.9%
30歳代	7,560	140		±3.6%	±4.9%	±5.9%	±6.6%	±7.1%	±7.5%	±7.8%	±8.0%	±8.2%	±8.2%
40歳代	12,408	205		±3.0%	±4.1%	±4.8%	±5.4%	±5.9%	±6.2%	±6.5%	±6.7%	±6.8%	±6.8%
50歳代	16,153	282		±2.5%	±3.5%	±4.1%	±4.6%	±5.0%	±5.3%	±5.5%	±5.7%	±5.8%	±5.8%
60歳代	12,295	216		±2.9%	±4.0%	±4.7%	±5.3%	±5.7%	±6.1%	±6.3%	±6.5%	±6.6%	±6.6%
70歳代	12,548	226		±2.8%	±3.9%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.9%	±6.2%	±6.3%	±6.4%	±6.5%
80歳以上	10,450	197		±3.0%	±4.1%	±4.9%	±5.5%	±6.0%	±6.3%	±6.6%	±6.8%	±6.9%	±6.9%
地区別													
奥池地区	1,138	20		±9.5%	±13.0%	±15.5%	±17.4%	±18.8%	±19.9%	±20.7%	±21.3%	±21.6%	±21.7%
山手小学校区(奥池地区除く)	15,854	245		±2.7%	±3.7%	±4.4%	±5.0%	±5.4%	±5.7%	±5.9%	±6.1%	±6.2%	±6.2%
岩園小学校区	11,090	196		±3.0%	±4.2%	±5.0%	±5.6%	±6.0%	±6.4%	±6.6%	±6.8%	±6.9%	±6.9%
朝日ヶ丘小学校区	7,725	107		±4.1%	±5.6%	±6.7%	±7.5%	±8.1%	±8.6%	±9.0%	±9.2%	±9.4%	±9.4%
精道小学校区	11,186	226		±2.8%	±3.9%	±4.6%	±5.2%	±5.6%	±5.9%	±6.2%	±6.3%	±6.4%	±6.5%
宮川小学校区	9,746	184		±3.1%	±4.3%	±5.1%	±5.7%	±6.2%	±6.6%	±6.8%	±7.0%	±7.1%	±7.2%
打出浜小学校区	8,127	169		±3.3%	±4.5%	±5.3%	±6.0%	±6.5%	±6.8%	±7.1%	±7.3%	±7.4%	±7.5%
浜風小学校区	6,140	129		±3.7%	±5.1%	±6.1%	±6.8%	±7.4%	±7.8%	±8.1%	±8.4%	±8.5%	±8.5%
潮見小学校区(南芦屋浜地区除く)	4,567	92		±4.4%	±6.1%	±7.2%	±8.1%	±8.8%	±9.3%	±9.6%	±9.9%	±10.1%	±10.1%
南芦屋浜地区	4,969	67		±5.2%	±7.1%	±8.5%	±9.5%	±10.3%	±10.9%	±11.3%	±11.7%	±11.8%	±11.9%

(8) 分析についての注意点

- 集計・分析においては、実数とともに、特記しない限り有効回答数（n=1,439）を母数とした出現率（%）を算出している。
- 比率の合計は、小数点第二位を四捨五入している関係から、内訳の合計と一致しない場合がある。
- 複数回答設問については、回答者数を母数として出現率を算出しているため、出現率の合計が100%を超える場合がある。
- 属性別のクロス集計のうち、年代別の「10 歳代」（45 件）、地区別の「奥池地区」（20 件）については回答者数が少なく、前項の通り誤差が大きくなっていることから結果の利用には注意が必要である。
- 本文や図表中の選択肢表記は、語句を簡略化している場合がある。
- 回答者属性以外の項目について、過去の調査結果と比較が可能な項目について比較を行っている。比較を行った調査はそれぞれ下記のとおりとなっている。
 - 前回調査①：令和 5 年度に実施した「市民意識調査」
 - 前回調査②：令和 2 年度に実施した「市民意識調査」
 - 前回調査③：令和元年度に実施した「市民参画協働推進に関する市民意識調査」
 - 前回調査④：平成 28 年度に実施した「文化振興基本計画策定のためのアンケート調査」
 - 前回調査⑤：令和 2 年度に実施した「教育振興に関するアンケート調査」
 - 前回調査⑥：令和 5 年度に実施した「転入に関するアンケート調査」
- 前回調査と項目や選択肢の数、言い回しが異なっているものについては今回調査の項目（選択肢）で表記し、必要に応じて注釈を付けている。

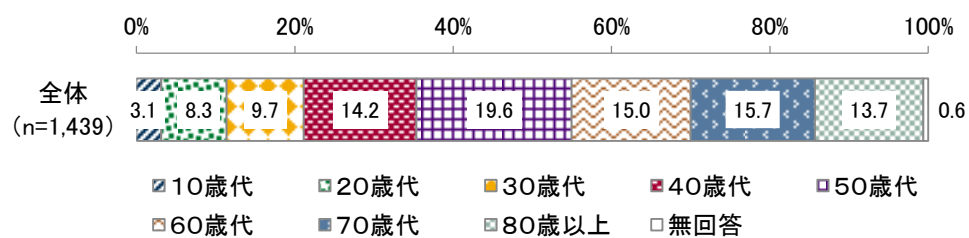
II. アンケート調査結果

1. 回答者属性

(1) 問1 年齢

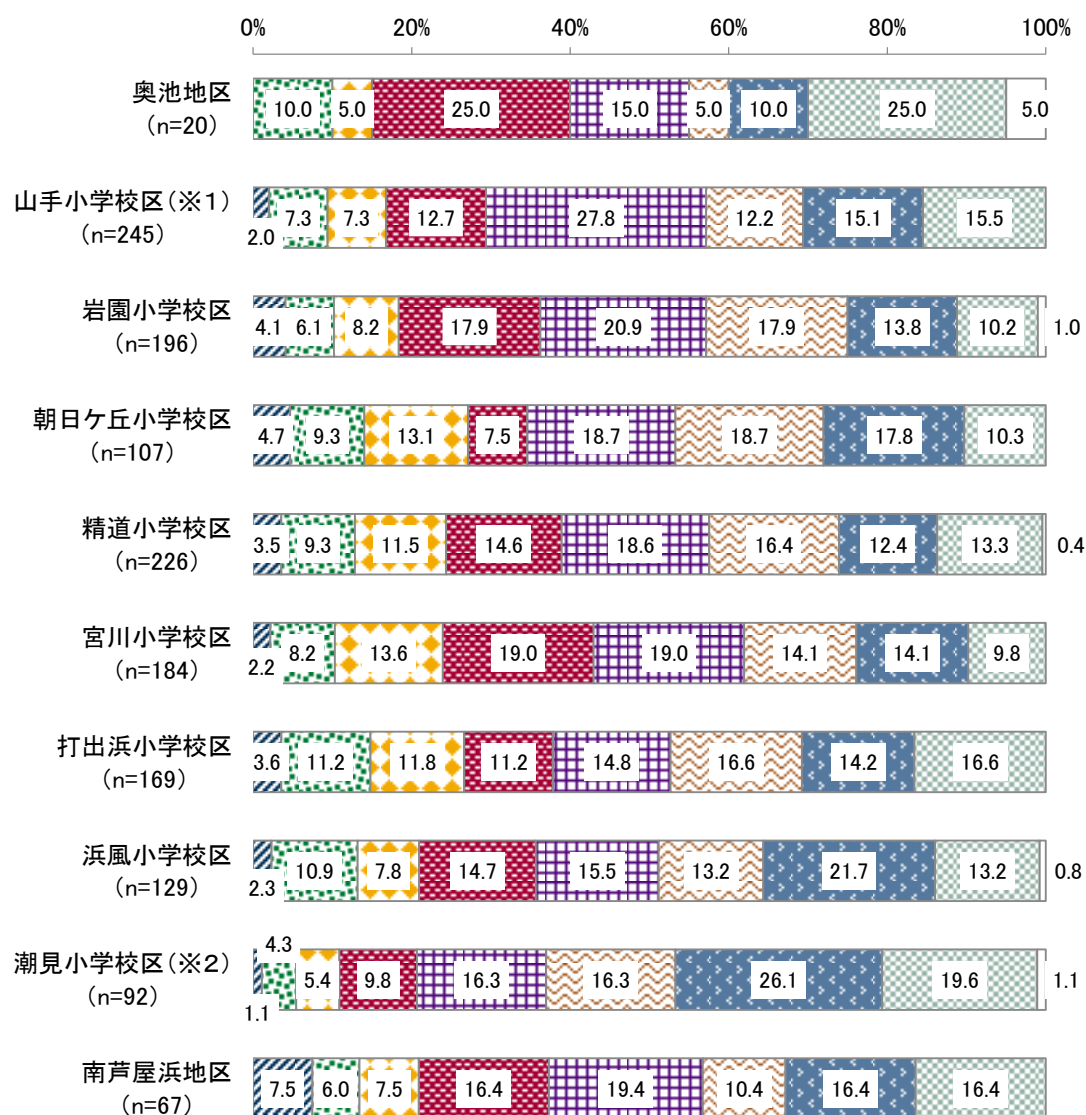
「50歳代」の割合が最も高く 19.6%となっている。次いで、「70歳代（15.7%）」、「60歳代（15.0%）」となっている。

図表 II-1 年齢



地区別にみると、潮見小学校区は他の地区に比べて 60 歳以上の割合が高くなっている。

図表 II-2 年齢（クロス集計）



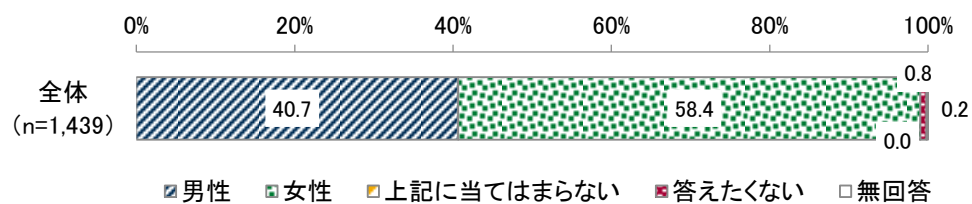
(※ 1) 奥池地区除く (以下同様)

(※ 2) 南芦屋浜地区除く (以下同様)

(2) 問2 性別

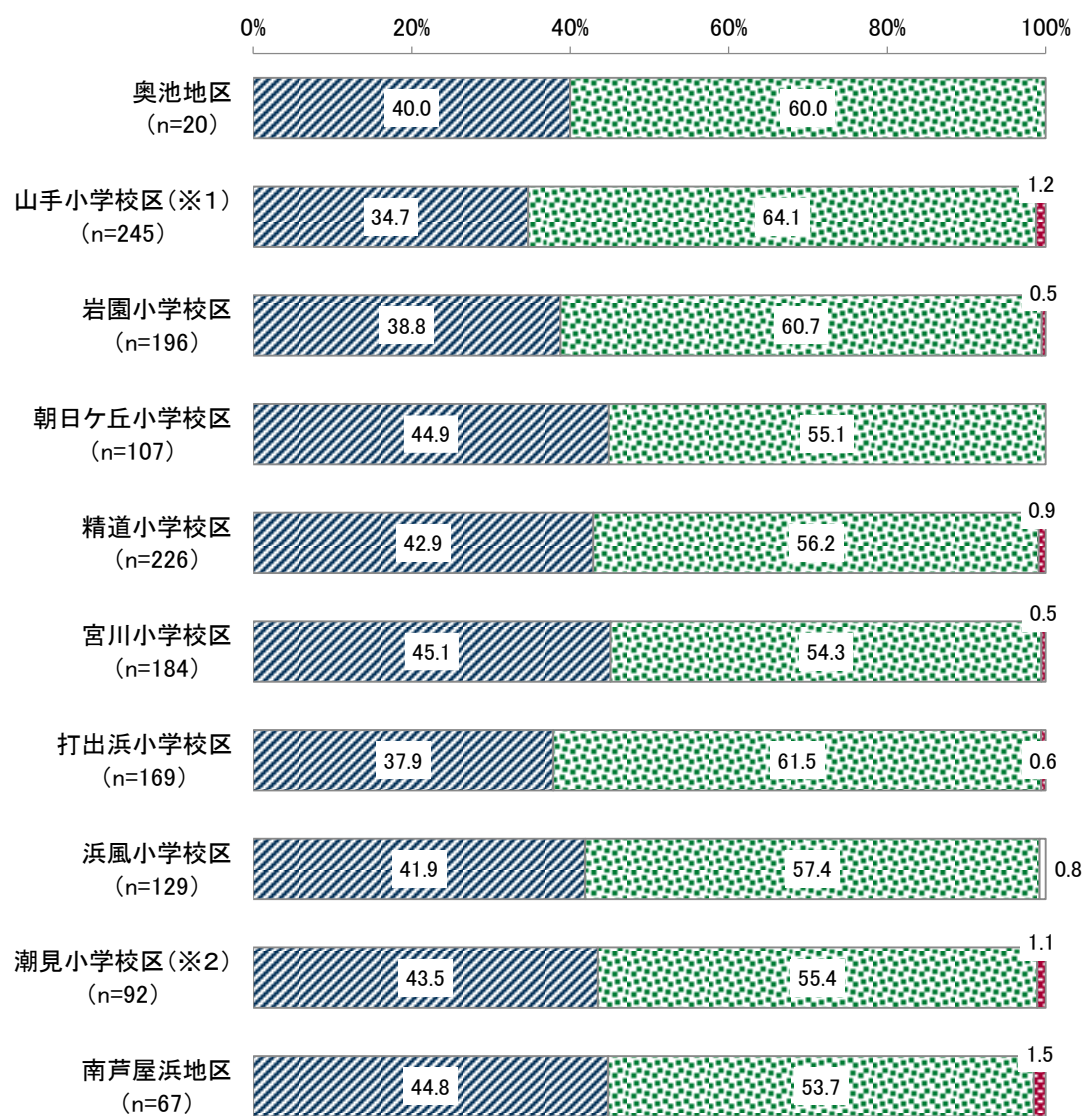
「女性」の割合が最も高く 58.4%となっている。次いで、「男性（40.7%）」、「答えたくない（0.8%）」となっている。

図表 II-3 性別



地区別にみると、山手小学校区は他の地区と比較して女性の割合が高くなっている。

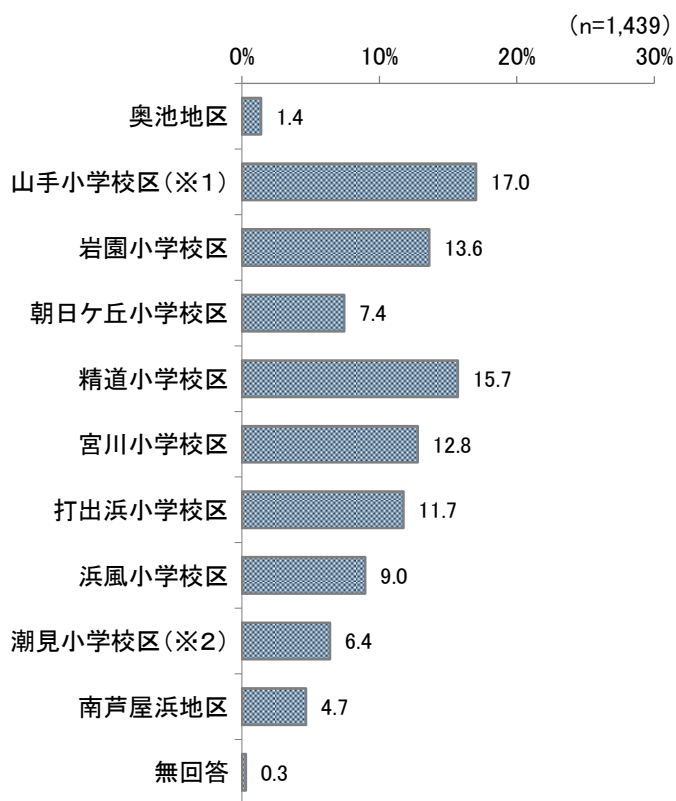
図表 II-4 性別（クロス集計）



(3) 問3 居住地区

「山手小学校区（奥池地区除く）」の割合が最も高く17.0%となっている。次いで、「精道小学校区（15.7%）」、「岩園小学校区（13.6%）」となっている。

図表 II-5 居住地区



女性は、男性と比較して山手小学校区に住む割合が少し高くなっている。

また、年代別にみると、10 歳代は他の年代と比較して岩園小学校区に住む割合が比較的高くなっているほか、50 歳代は他の年代と比較して山手小学校区に住む割合が高くなっている。また、70 歳代は他の年代と比較して潮見小学校区に住む割合が高くなっている。

図表 II-6 居住地区（クロス集計）

		調査数	奥池地区	山手小学校区（奥池地区除く）	岩園小学校区	朝日ヶ丘小学校区	精道小学校区	宮川小学校区	打出浜小学校区	浜風小学校区
										(%)
市全体		1,439	1.4	17.0	13.6	7.4	15.7	12.8	11.7	9.0
性別	男性	585	1.4	14.5	13.0	8.2	16.6	14.2	10.9	9.2
	女性	840	1.4	18.7	14.2	7.0	15.1	11.9	12.4	8.8
年代別	10歳代	45	0.0	11.1	17.8	11.1	17.8	8.9	13.3	6.7
	20歳代	119	1.7	15.1	10.1	8.4	17.6	12.6	16.0	11.8
	30歳代	140	0.7	12.9	11.4	10.0	18.6	17.9	14.3	7.1
	40歳代	205	2.4	15.1	17.1	3.9	16.1	17.1	9.3	9.3
	50歳代	282	1.1	24.1	14.5	7.1	14.9	12.4	8.9	7.1
	60歳代	216	0.5	13.9	16.2	9.3	17.1	12.0	13.0	7.9
	70歳代	226	0.9	16.4	11.9	8.4	12.4	11.5	10.6	12.4
	80歳以上	197	2.5	19.3	10.2	5.6	15.2	9.1	14.2	8.6

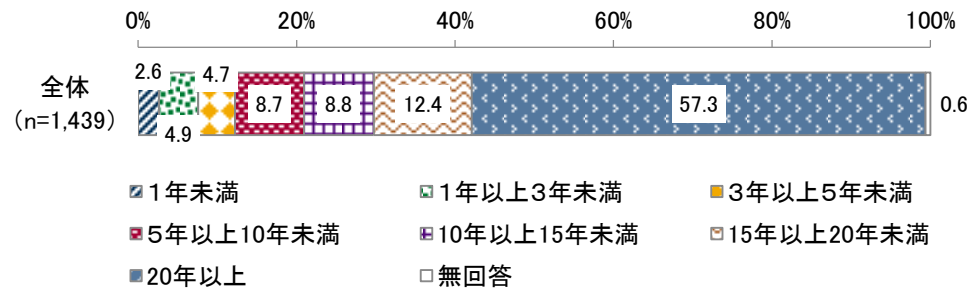
		潮見小学校区（南芦屋地区除く）	南芦屋地区	無回答
市全体		6.4	4.7	0.3
性別	男性	6.8	5.1	0.0
	女性	6.1	4.3	0.1
年代別	10歳代	2.2	11.1	0.0
	20歳代	3.4	3.4	0.0
	30歳代	3.6	3.6	0.0
	40歳代	4.4	5.4	0.0
	50歳代	5.3	4.6	0.0
	60歳代	6.9	3.2	0.0
	70歳代	10.6	4.9	0.0
	80歳以上	9.1	5.6	0.5

（注）性別の「上記に当てはまらない」「答えたくない」は集計母数が少ないため非表示としている。（以下同様）

(4) 問4 居住年数

「20 年以上」の割合が最も高く 57.3%となっている。次いで、「15 年以上 20 年未満（12.4%）」、「10 年以上 15 年未満（8.8%）」となっている。

図表 II-7 居住年数

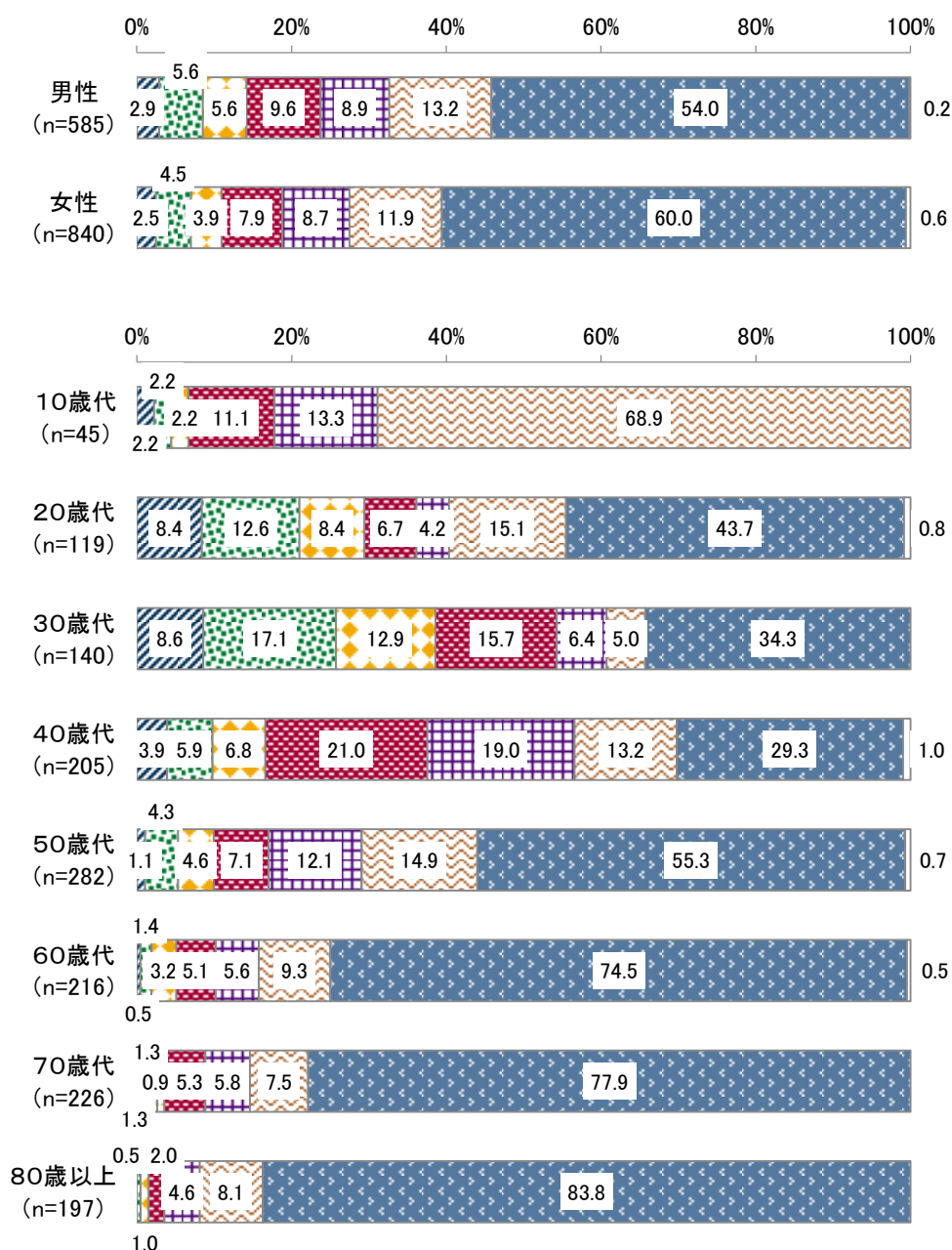


女性は、男性と比較して、居住年数が20年以上の割合が高くなっており、居住年数が10年未満の割合が低くなっている。

年代別にみると、30歳代までは年代が高くなるほど居住年数が15年以上の割合が低く、居住年数が5年未満の割合が高い傾向にあるが、40歳代以上は年代が高くなるほど、居住年数が15年以上の人の割合が高く、居住年数が5年未満の割合が低い傾向にある。

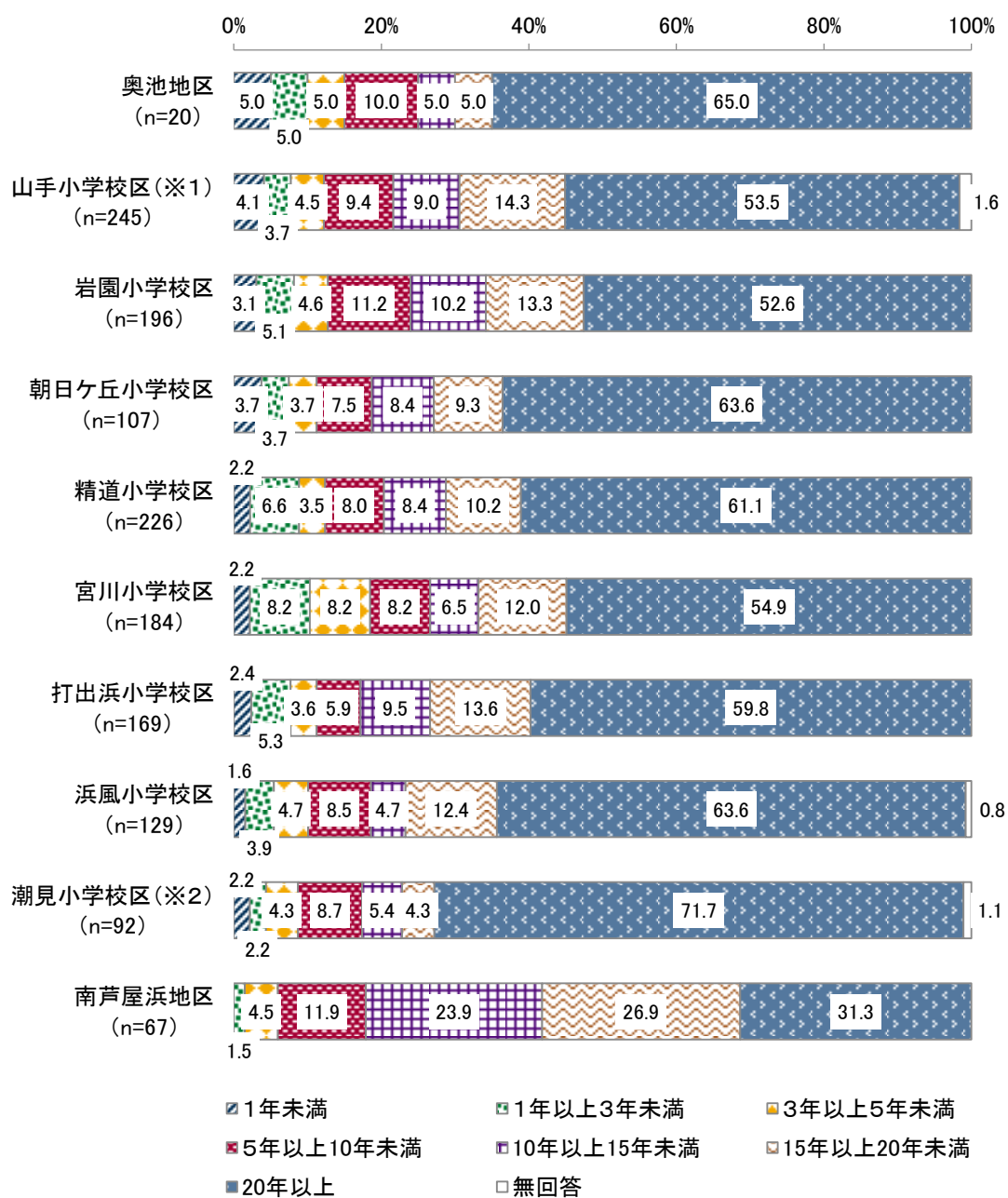
地区別にみると、南芦屋浜地区は、他の地区と比較して、居住年数が20年以上の割合が低くなっている。

図表 II-8 居住年数（クロス集計）



(注1) 性別の「上記に当てはまらない」「答えたくない」は集計母数が少ないため非表示としている。(以下同様)

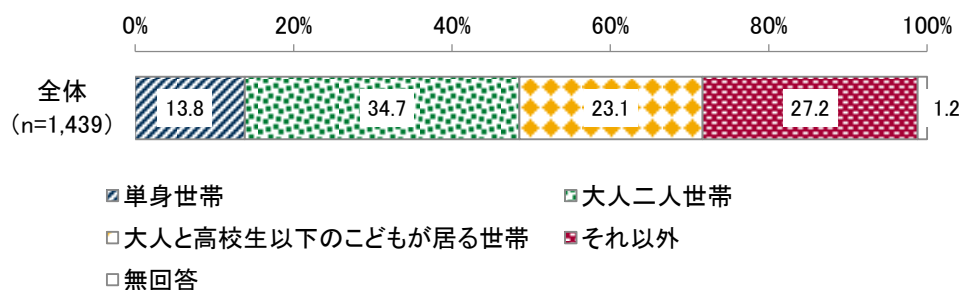
(注2) クロス集計のグラフにおいては、値0%のラベルを非表示としている。(以下同様)



(5) 問5 世帯構成

「大人二人世帯」の割合が最も高く34.7%となっている。次いで、「それ以外（27.2%）」、「大人と高校生以下の子どもが居る世帯（23.1%）」となっている。

図表 II-9 世帯構成



(注) この設問では、「大人の人数」「高校生より大きい子どもの人数」「高校生まで（高校生含む）の子ども的人数」をそれぞれ聞いている。上記は各項目の人数を区分して集計を行ったもので、「大人二人世帯」であっても夫婦とは断定できない（「成人の回答者とその親」なども想定される）点に注意が必要である。

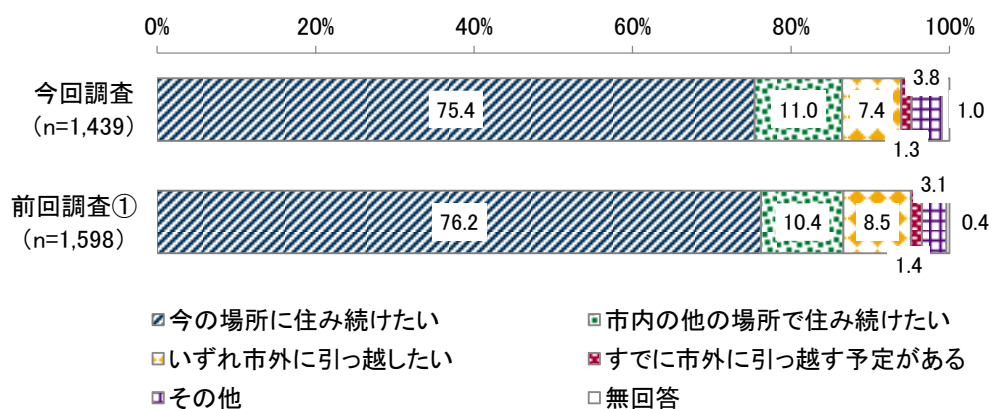
2. お住まいの地域での生活や住みやすさについて

(1) 問6 定住意向

「今の場所に住み続けたい」の割合が最も高く 75.4%となっている。次いで、「市内の他の場所で住み続けたい（11.0%）」、「いずれ市外に引っ越したい（7.4%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-10 定住意向

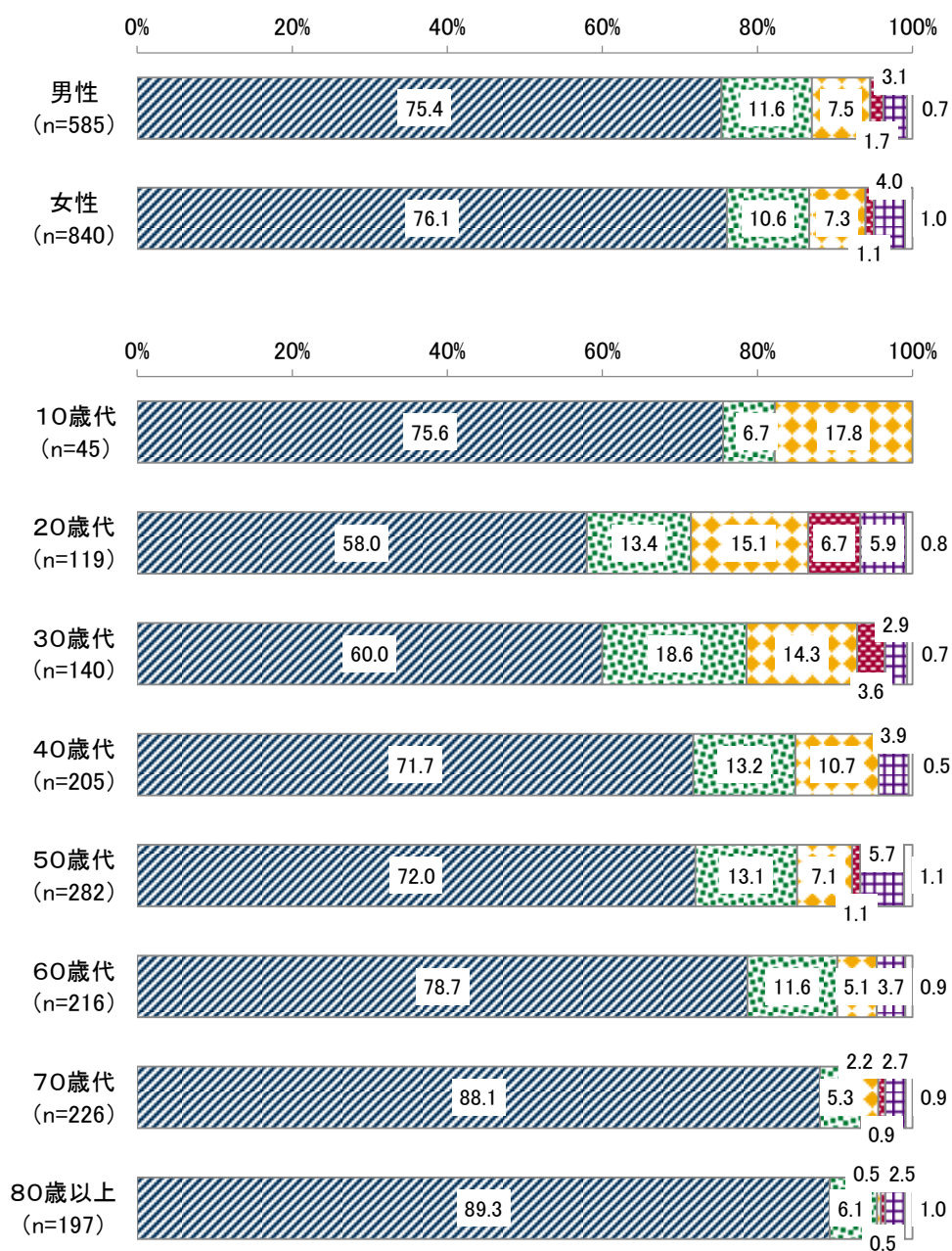


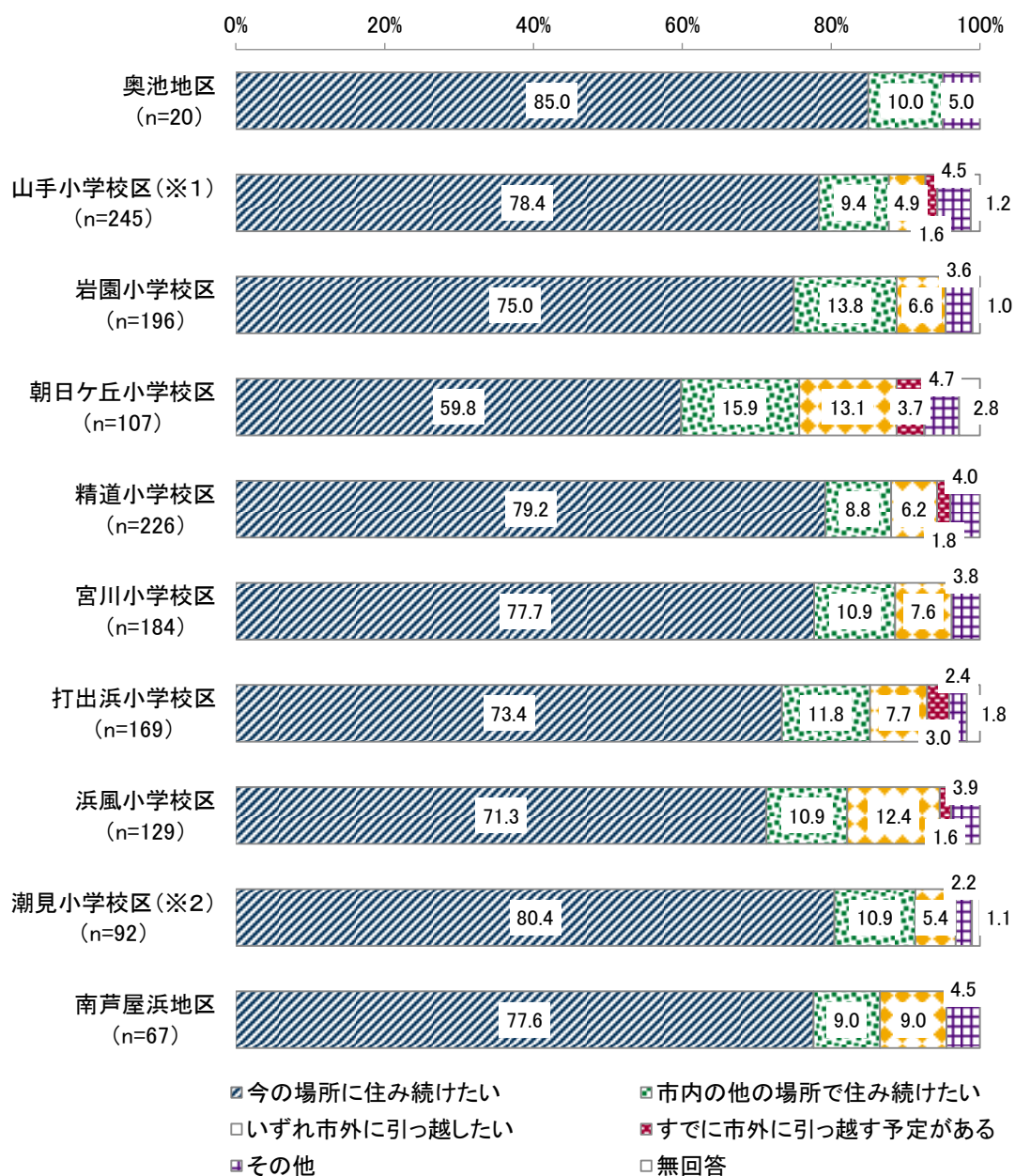
男女で定住意向の傾向に大きな差異は見られない。

年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「今の場所に住み続けたい」の割合が低くなっている。10 歳代を除き、年代が高くなるほど、「今の場所に住み続けたい」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地区と比較して、「今の場所に住み続けたい」の割合が低くなっている。

図表 II- 1 1 定住意向（クロス集計）



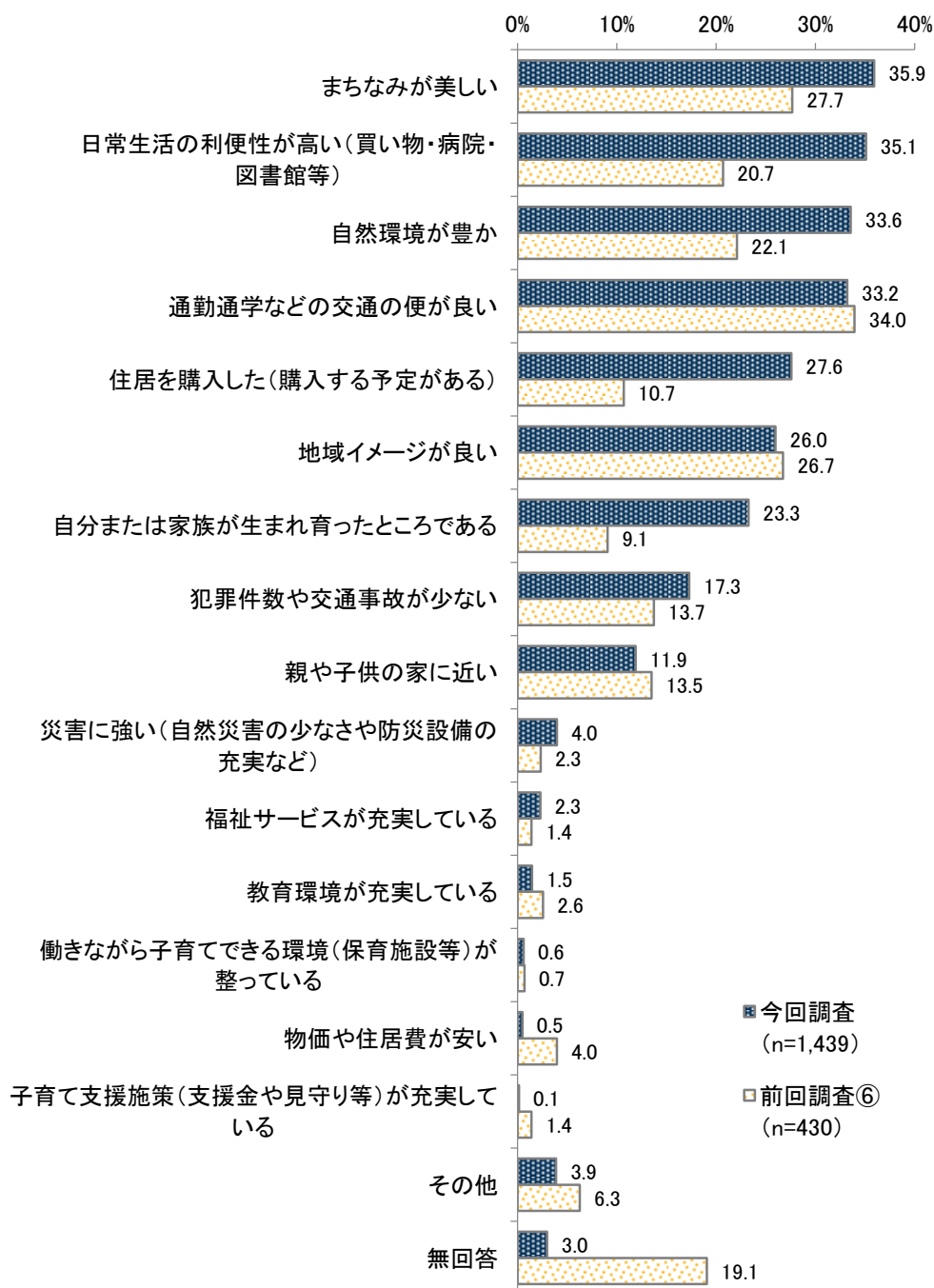


(2) 問7 現在芦屋市に住み続けている理由（3つまで選択）

「まちなみが美しい」の割合が最も高く 35.9%となっている。次いで、「日常生活の利便性が高い（買い物・病院・図書館等）（35.1%）」、「自然環境が豊か（33.6%）」となっている。

また、転入者を対象に実施した前回調査⑥の結果をみると、「通勤・通学などの交通の便が良い」の割合が最も高く 34.0%となっている。次いで、「まちなみが美しい（27.7%）」、「地域イメージが良い（26.7%）」となっている。

図表 II- 1 2 現在芦屋市に住み続けている理由



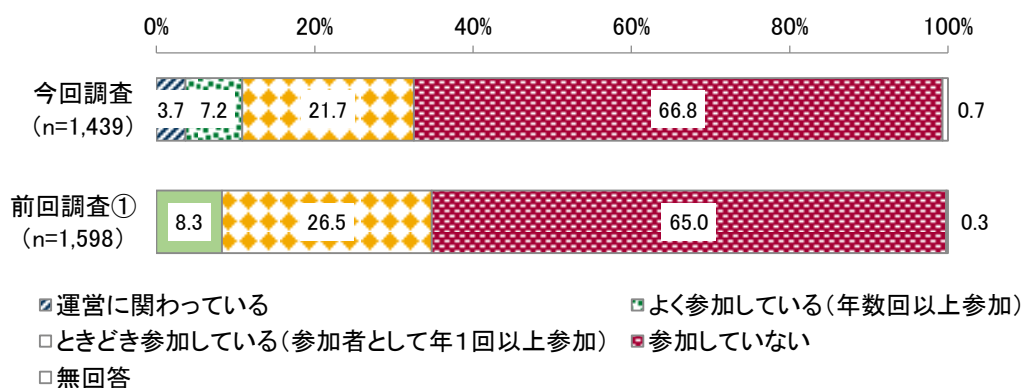
(注) 前回調査⑥では、芦屋市に転入してきた人に対して「引っ越し先を選択するときに重視した項目」として上記項目を聞いており、調査内容が異なるため比較には注意が必要である。

(3) 問8 地域の活動や行事への参加状況

「参加していない」の割合が最も高く66.8%となっている。次いで、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）（21.7%）」、「よく参加している（年数回以上参加）（7.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、よく参加している（年数回以上参加している人及び運営に関わっている人）の割合が高くなっている。

図表 II- 13 地域の活動や行事への参加状況



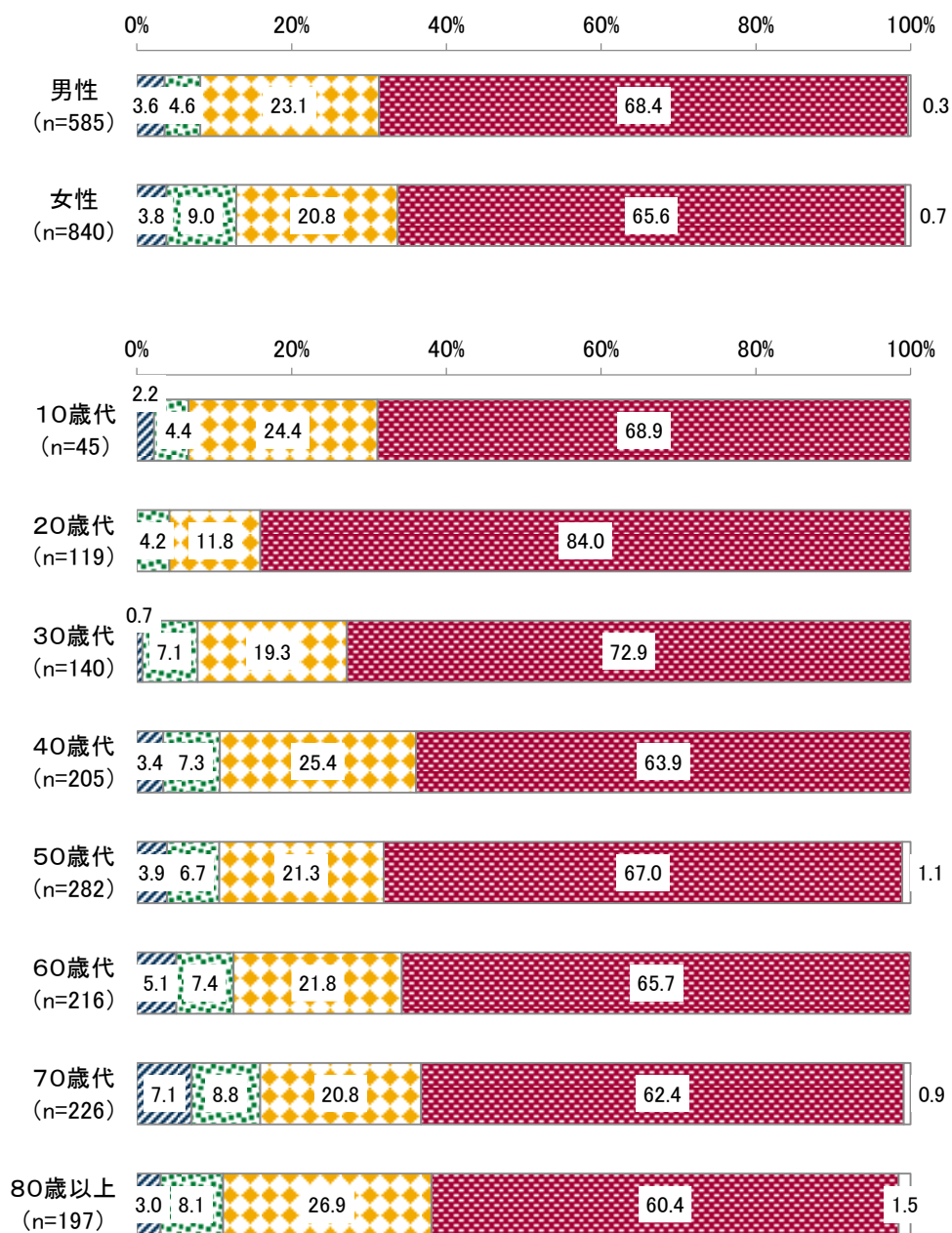
（注）前回調査①の選択肢では「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」だったものが今回は「運営に関わっている」「よく参加している（年数回以上参加）」に分けられている。

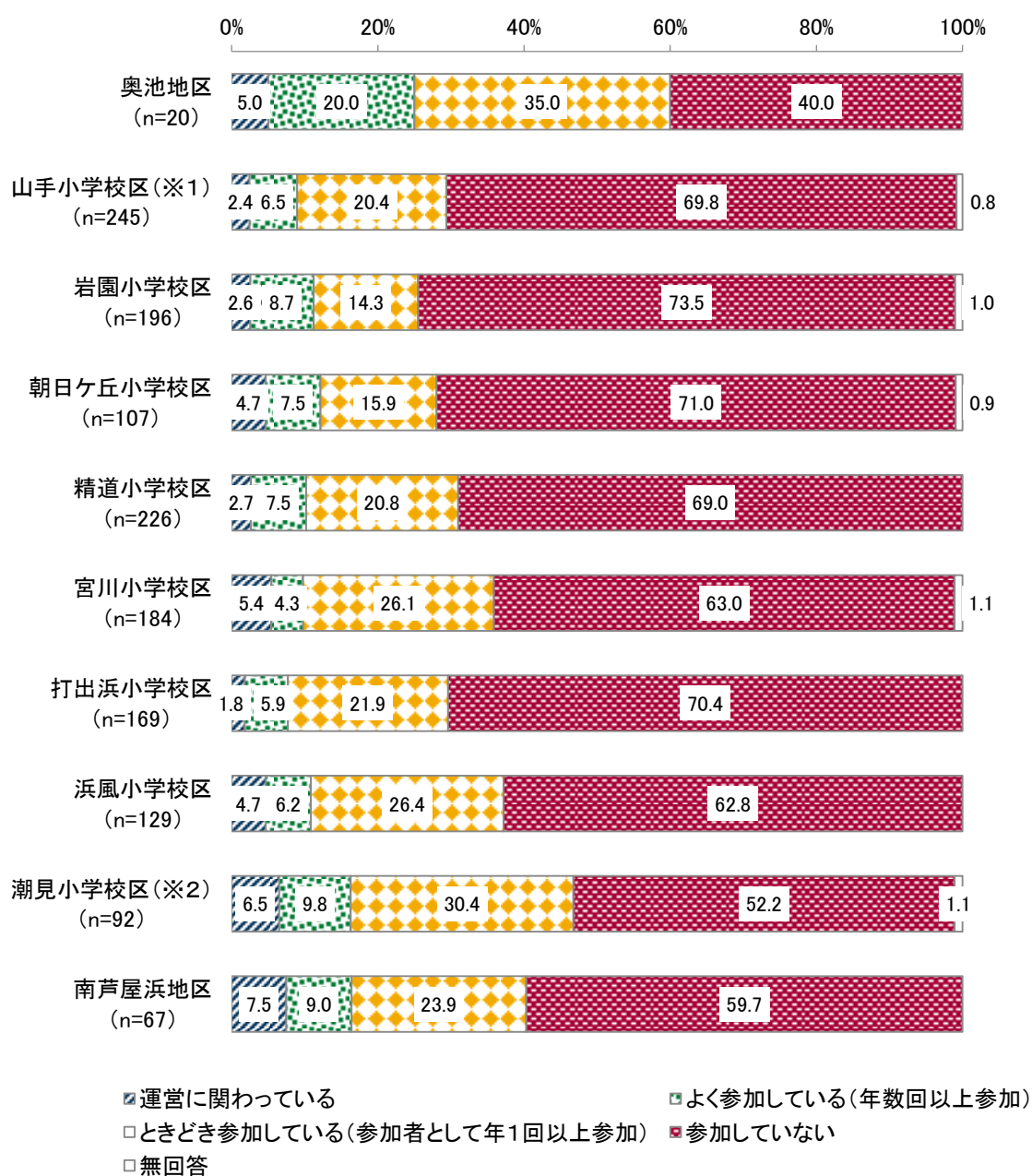
男女で地域における活動や行事への参加状況に大きな差異は見られない。

年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「参加していない」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「参加していない」の割合が低くなっている。

図表 II- 1 4 地域の活動や行事への参加状況（クロス集計）





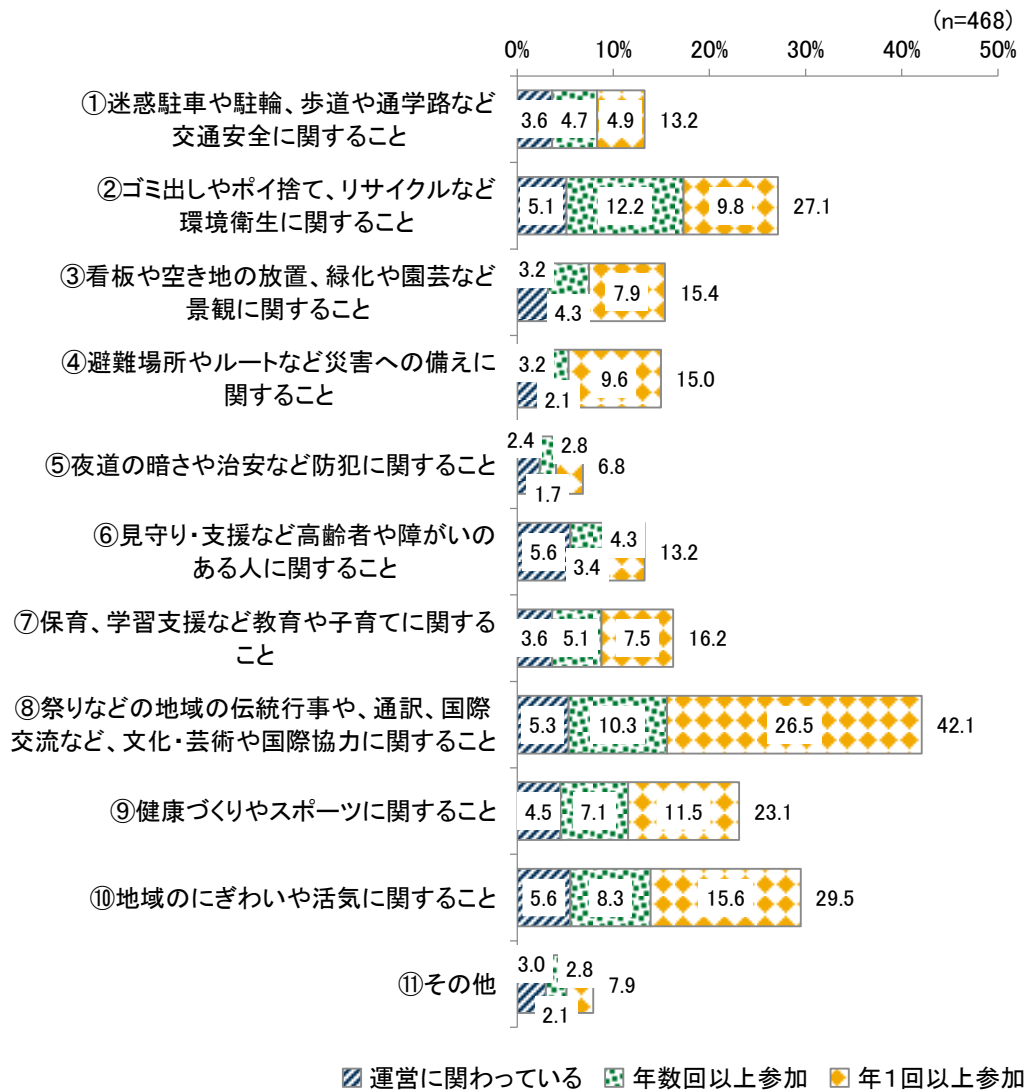
(4) 問9 「すでに参加している」地域の活動・「今後参加したい」地域の活動（複数選択）

「すでに参加している」（「運営に関わっている」と「年数回以上参加」、「年1回以上参加」の割合の合計）地域の活動では、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」における割合が最も高く42.1%となっている。次いで、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること（29.5%）」、「②ゴミ出しやポイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関すること（27.1%）」となっている。

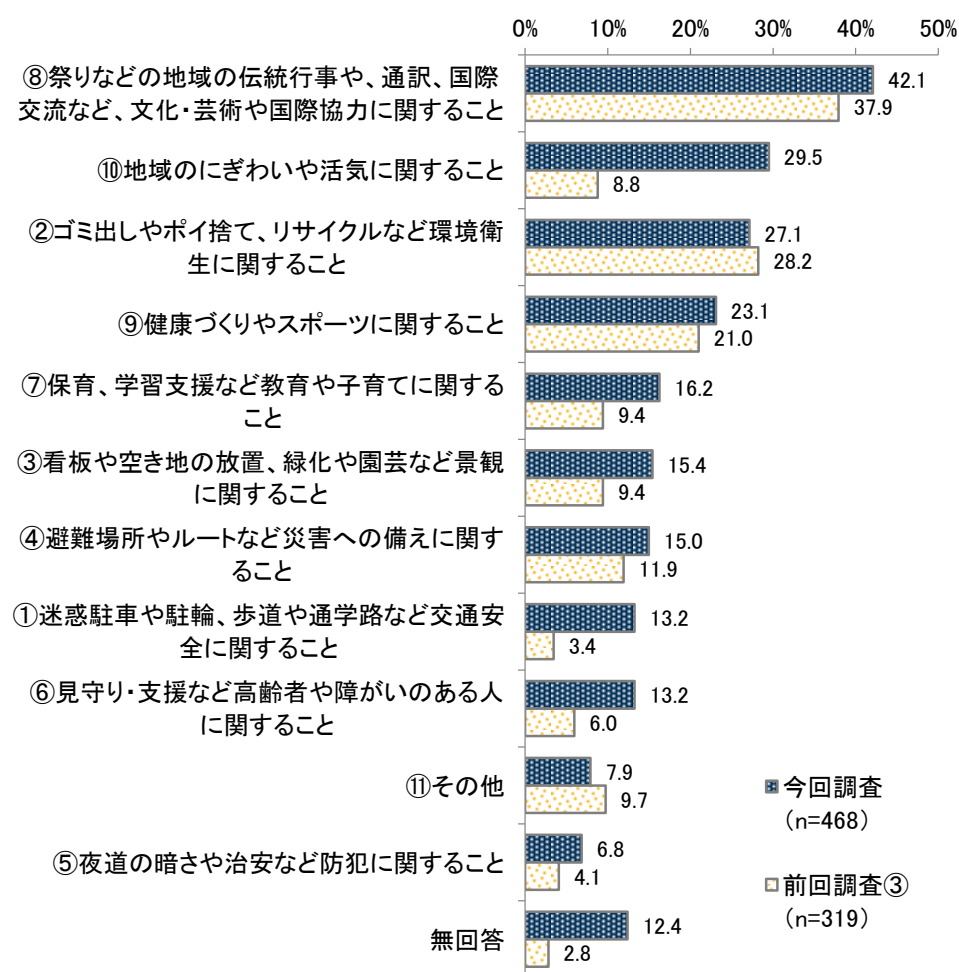
その他の回答としては、「自治会」「こども会」や、「こども食堂」等の回答がみられた。

前回調査③と比較すると、「すでに参加している」地域の活動については、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること」の割合が大幅に上昇したほか、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」「⑦保育、学習支援など教育や子育てに関すること」「③看板や空き地の放置、緑化や園芸など景観に関すること」「①迷惑駐車や駐輪、歩道や通学路など交通安全に関すること」「⑥見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」の割合が上昇している。

図表 II-15 「すでに参加している」地域の活動



図表 II- 1 6 「すでに参加している」地域の活動（前回調査③との比較）



（注）前回調査③の選択肢では、「見守り・支援など高齢者に関すること」「見守り・支援など障がい者に関すること」と分かれていたが、今回は「見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」と統合されている。また、前回調査③の選択肢では、「地域行事や祭りなど、地域の伝統や、文化・芸術に関すること」「通訳や生活サポート、交流など国際協力に関すること」と分かれていたが、今回は「祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」と統合されている。

男性は女性と比較して、「②ゴミ出しやポイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関すること」に参加している割合が高くなっている。

年代別に比較すると、60歳代は他の年代と比較して「②ゴミ出しやポイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関すること」「③看板や空き地の放置、緑化や園芸など景観に関すること」「④避難場所やルートなど災害への備えに関すること」「⑤夜道の暗さや治安など防犯に関すること」「⑥見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」「⑨健康づくりやスポーツに関すること」など、全体的に地域の活動に参加している割合が高くなっている。

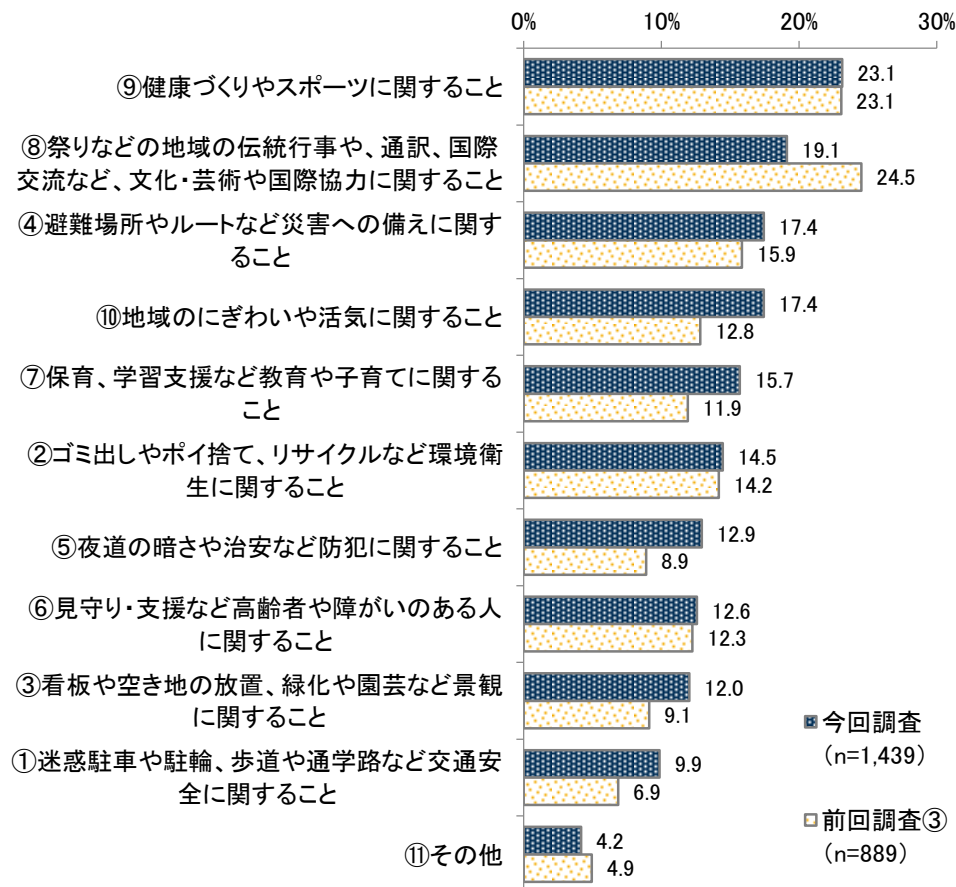
図表 II- 17 「すでに参加している」地域の活動（クロス集計）

		調査数	関や① す通迷 る学惑 こと路駐 車なや ど交駐 通輪 安、全歩 に道	に② 関サゴ すイミ るク出 ることし となや どポイ 環捨 境衛 生、	す緑③ る化看 ことや と園や 空な き地 の景 観に 置関、	と災④ 害避 への難 の場 所や えに ル ー ト に 関 す な こ ど	防⑤ 犯夜 に道 関の 暗 さ や 治 安 な ど	す者⑥ るや こと障 が守 り ・ の支 援 な ど に 高 関 関 齢	育⑦ や保 子育 育、 学に 習支 関援 すな こど 教	協な行⑧ 力ど事 に、や 関文、 す化通 る・訳 こ芸、 と術国 や域 国際の 交伝 際流統
市全体		468	13.2	27.1	15.4	15.0	6.8	13.2	16.2	42.1
性別	男性	183	10.9	31.1	14.2	16.4	8.2	12.0	14.2	43.7
	女性	283	14.8	24.7	16.3	14.1	6.0	14.1	17.7	41.3
年代別	10歳代	14	0.0	21.4	0.0	14.3	0.0	7.1	14.3	57.1
	20歳代	19	10.5	10.5	5.3	5.3	10.5	0.0	10.5	78.9
	30歳代	38	15.8	10.5	2.6	13.2	0.0	7.9	39.5	68.4
	40歳代	74	25.7	20.3	13.5	17.6	4.1	9.5	35.1	60.8
	50歳代	90	11.1	25.6	15.6	12.2	3.3	12.2	11.1	38.9
	60歳代	74	14.9	40.5	23.0	21.6	17.6	20.3	16.2	32.4
	70歳代	83	6.0	34.9	20.5	14.5	6.0	16.9	6.0	25.3
	80歳以上	75	12.0	28.0	16.0	13.3	8.0	14.7	5.3	29.3

		に⑨ 関健 る康 ことづ くり や ス ポ ー ツ	に⑩ 関地 す域 るの こと に ぎ わ い や 活 気	⑪ そ の 他	無 回 答
市全体		23.1	29.5	7.9	12.4
性別	男性	25.1	31.7	6.6	10.4
	女性	21.9	28.3	8.8	13.1
年代別	10歳代	14.3	21.4	7.1	14.3
	20歳代	31.6	31.6	0.0	5.3
	30歳代	13.2	36.8	5.3	7.9
	40歳代	17.6	28.4	6.8	1.4
	50歳代	16.7	35.6	11.1	8.9
	60歳代	33.8	36.5	12.2	6.8
	70歳代	28.9	22.9	7.2	14.5
	80歳以上	22.7	20.0	5.3	34.7

「今後参加したい」地域の活動について前回調査③と比較すると、「⑩地域のにぎわいや活気に関すること」「⑦保育、学習支援など教育や子育てに関すること」「⑤夜道の暗さや治安など防犯に関すること」「①迷惑駐車や駐輪、歩道や通学路など交通安全に関すること」の割合が上昇している一方で、「⑧祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」の割合が低下している。

図表 II- 1 8 「今後参加したい」地域の活動（前回調査③との比較）



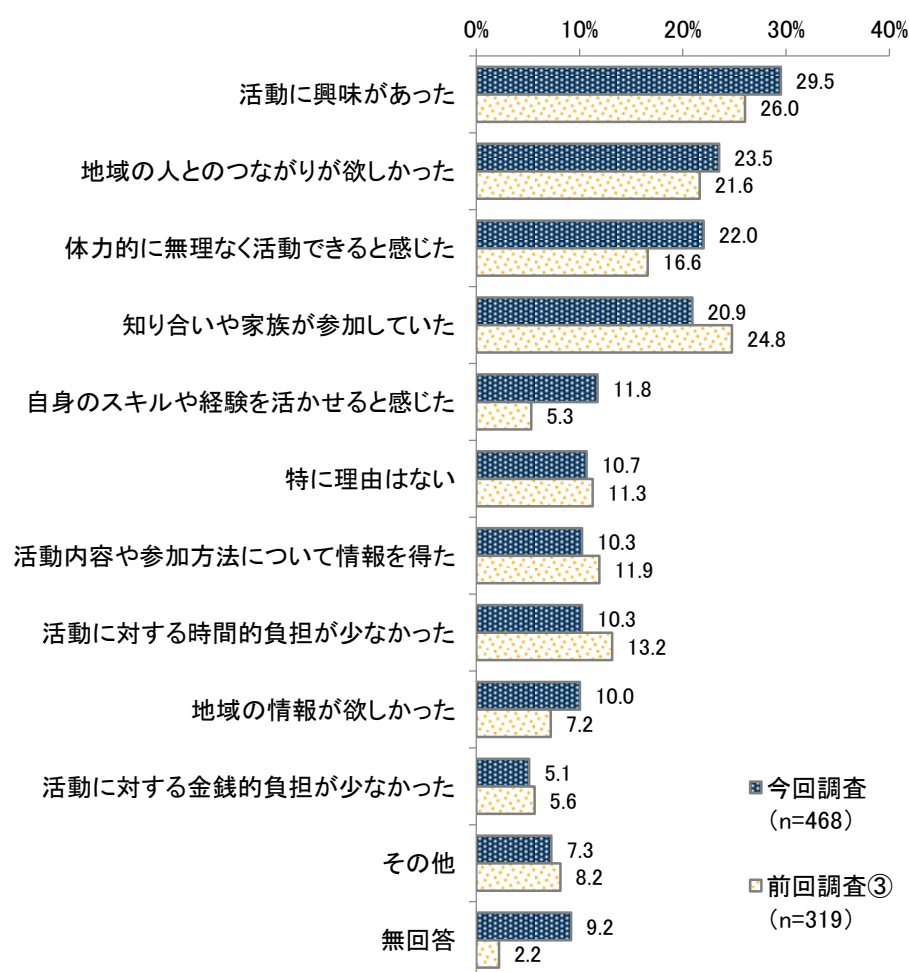
（注）前回調査③の選択肢では、「見守り・支援など高齢者に関すること」「見守り・支援など障がい者に関すること」と分かれていたが、今回は「見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関すること」と統合されている。また、前回調査③の選択肢では、「地域行事や祭りなど、地域の伝統や、文化・芸術に関すること」「通訳や生活サポート、交流など国際協力に関すること」と分かれていたが、今回は「祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文化・芸術や国際協力に関すること」と統合されている。

(5) 問 10 地域の活動に参加している理由（3つまで選択）

「活動に興味があった」の割合が最も高く 29.5%となっている。次いで、「地域の人とのつながりが欲しかった（23.5%）」、「体力的に無理なく活動できると感じた（22.0%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「活動に興味があった」「体力的に無理なく活動できると感じた」「自身のスキルや経験を活かせると感じた」の割合が増加している。

図表 II- 19 地域の活動に参加している理由



（注）前回調査③では、「体力的に無理なく活動できると感じた」は「体力的に無理なく活動できそう」となっている。

男性は女性と比較して、「地域の人とのつながりが欲しかった」の割合が高く、女性は男性と比較して「体力的に無理なく活動できると感じた」の割合が高くなっている。

年代別にみると、10 歳代から 30 歳代は、他の年代と比較して、「活動に興味があった」「知り合いや家族が参加していた」の割合が高くなっている。また、60 歳代から 80 歳以上は、他の年代と比較して、「地域の人とのつながりが欲しかった」「体力的に無理なく活動できると感じた」の割合が高くなっている。

図表 II-20 地域の活動に参加している理由（クロス集計）

		調査数	活動に興味があった	地域の人とのつながり	知り合いや家族が参加していた	地域の情報が欲しかった	活動内容や情報を得た方法	活動に少なかつた金銭的負担	活動に少なかつた時間的負担	体力的に無理なく活動できると感じた
										(%)
性別	市全体	468	29.5	23.5	20.9	10.0	10.3	5.1	10.3	22.0
	男性	183	28.4	26.2	23.0	9.8	7.7	3.8	8.7	19.1
	女性	283	30.0	21.9	19.8	10.2	12.0	6.0	11.3	24.0
年代別	10歳代	14	42.9	0.0	57.1	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1
	20歳代	19	52.6	15.8	26.3	5.3	5.3	5.3	0.0	5.3
	30歳代	38	42.1	13.2	28.9	10.5	15.8	13.2	5.3	5.3
	40歳代	74	28.4	20.3	28.4	13.5	17.6	0.0	0.0	4.1
	50歳代	90	22.2	13.3	14.4	11.1	11.1	7.8	11.1	15.6
	60歳代	74	27.0	24.3	16.2	4.1	14.9	5.4	5.4	32.4
	70歳代	83	27.7	36.1	22.9	8.4	4.8	2.4	22.9	39.8
	80歳以上	75	28.0	36.0	12.0	16.0	2.7	5.3	17.3	33.3

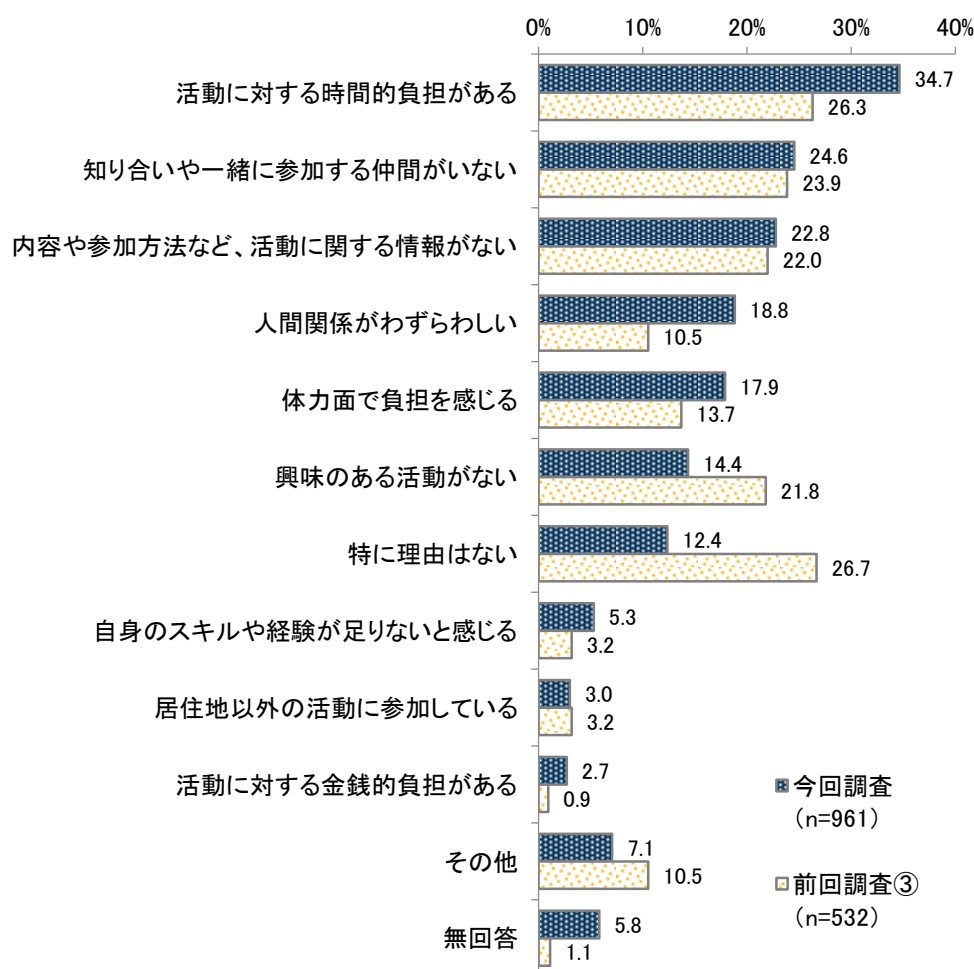
		を自身のスキルや経験で活かせる	特に理由はない	その他	無回答
性別	市全体	11.8	10.7	7.3	9.2
	男性	11.5	14.8	6.0	9.3
	女性	12.0	8.1	8.1	8.8
年代別	10歳代	14.3	7.1	0.0	14.3
	20歳代	10.5	5.3	0.0	5.3
	30歳代	5.3	5.3	7.9	2.6
	40歳代	10.8	18.9	6.8	4.1
	50歳代	14.4	15.6	15.6	6.7
	60歳代	8.1	10.8	4.1	16.2
	70歳代	16.9	7.2	4.8	9.6
	80歳以上	10.7	5.3	6.7	13.3

(6) 問 11 地域の活動に参加していない理由（3つまで選択）

「活動に対する時間的負担がある」の割合が最も高く 34.7%となっている。次いで、「知り合いや一緒に参加する仲間がいない（24.6%）」、「内容や参加方法など、活動に関する情報がない（22.8%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「活動に対する時間的負担がある」「人間関係がわずらわしい」「体力面で負担を感じる」の割合が上昇している。一方で、「興味のある活動がない」の割合は低下している。

図表 II-2 1 地域の活動に参加していない理由



男性は女性よりも「興味のある活動がない」「人間関係がわずらわしい」の割合が高くなっている。女性は、男性よりも「内容や参加方法など、活動に関する情報がない」「体力面で負担を感じる」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して「興味のある活動がない」「知り合いや一緒に参加する仲間がない」「活動に対する時間的負担がある」の割合が高くなっている。また、70 歳代以上は他の年代と比較して「活動に対する時間的負担がある」の割合が低くなっている一方で、「体力面で負担を感じる」の割合が高くなっている。

図表 II-2 2 地域の活動に参加していない理由（クロス集計）

(%)

	調査数	興味のある活動がない	人間関係がわずらわしい	知り合いや一緒に参加する仲間がない	内容や活動に関する情報がなく、参加方法がわからない	活動に対する金銭的負担がある	活動に対する時間的負担がある	体力面で負担を感じる	自身にスキルや経験が足りない
市全体	961	14.4	18.8	24.6	22.8	2.7	34.7	17.9	5.3
性別									
男性	400	17.8	21.0	24.8	20.5	3.5	34.8	15.3	5.8
女性	551	12.0	16.9	24.1	24.5	2.0	34.7	20.1	4.9
年代別									
10歳代	31	35.5	19.4	19.4	35.5	0.0	32.3	9.7	3.2
20歳代	100	14.0	9.0	28.0	31.0	3.0	35.0	3.0	3.0
30歳代	102	20.6	22.5	29.4	25.5	3.9	48.0	8.8	2.0
40歳代	131	11.5	21.4	26.7	29.8	1.5	45.0	9.9	3.8
50歳代	189	12.2	19.0	27.0	19.6	4.2	40.7	11.6	6.3
60歳代	142	9.9	17.6	22.5	26.1	3.5	40.1	20.4	4.9
70歳代	141	19.1	24.1	24.1	17.7	2.1	22.7	31.2	9.2
80歳以上	119	10.9	14.3	15.1	9.2	0.8	10.1	41.2	5.9

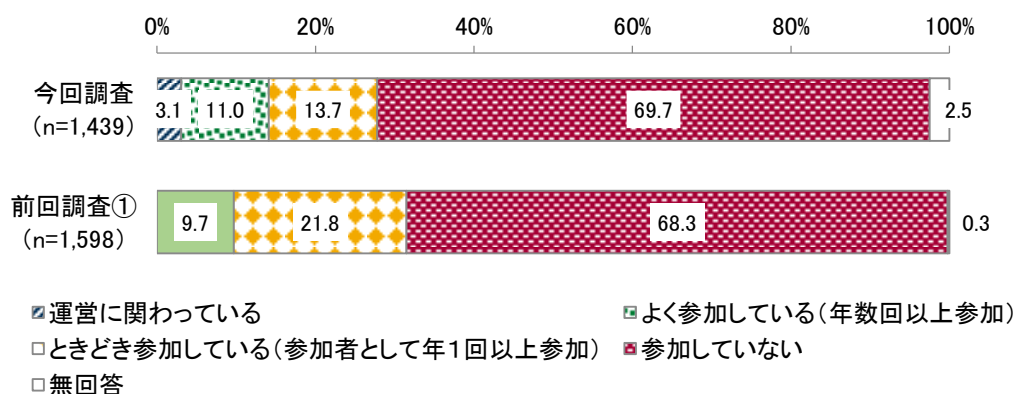
	参加居住地以外の活動に	特に理由はない	その他	無回答
市全体	3.0	12.4	7.1	5.8
性別				
男性	2.8	13.8	6.3	6.5
女性	3.1	11.6	7.8	5.1
年代別				
10歳代	0.0	16.1	3.2	0.0
20歳代	3.0	25.0	10.0	4.0
30歳代	0.0	4.9	4.9	2.9
40歳代	0.0	9.9	9.2	3.8
50歳代	3.7	13.8	9.5	4.8
60歳代	2.8	11.3	7.7	3.5
70歳代	5.0	12.1	3.5	7.1
80歳以上	5.9	10.1	4.2	16.8

(7) 問 12 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況

「参加していない」の割合が最も高く 69.7%となっている。次いで、「ときどき参加している（参加者として年1回以上参加）（13.7%）」、「よく参加している（年数回以上参加）（11.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、よく参加している（「運営に関わっている」及び「年数回以上参加」）の割合が上昇している。

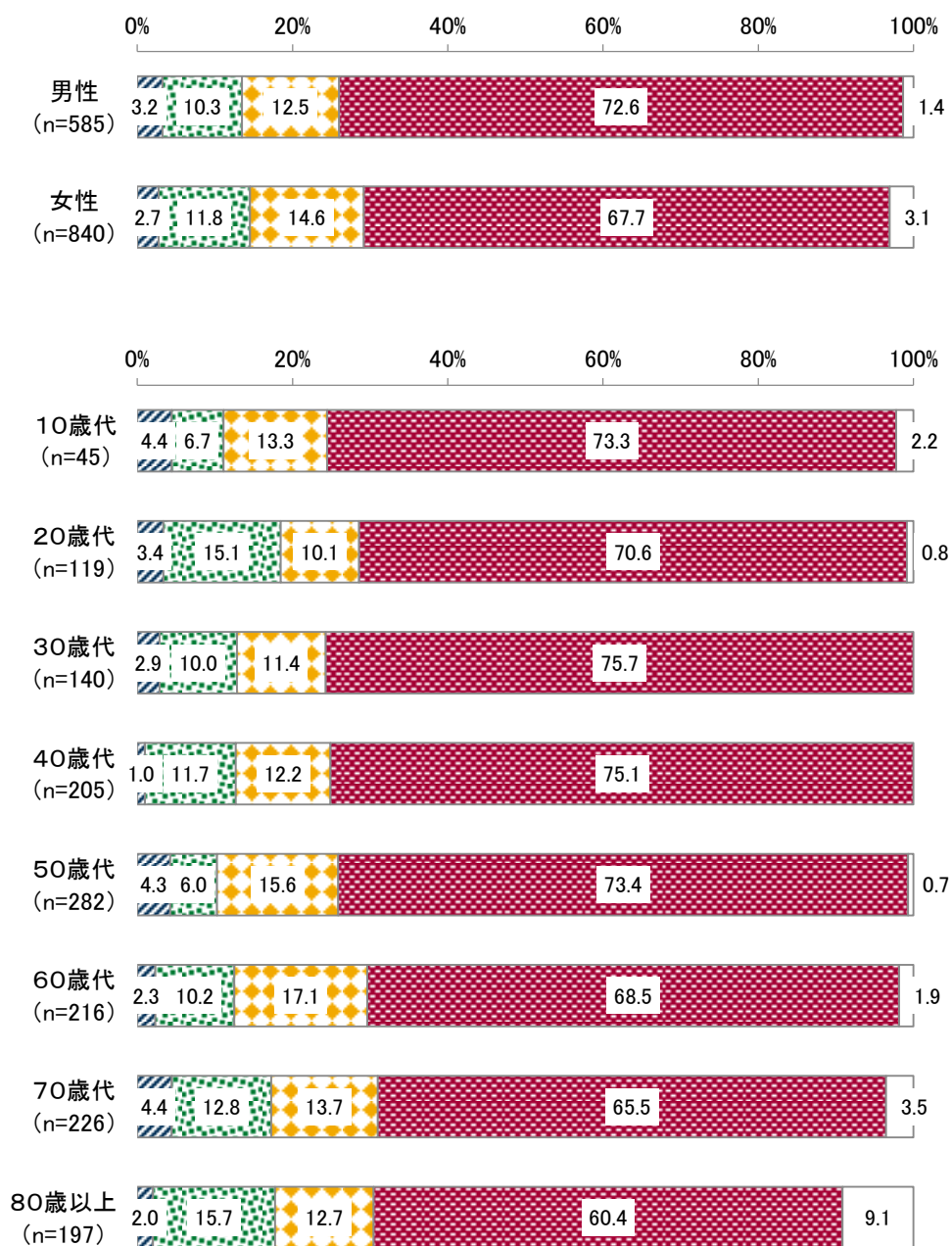
図表 II-23 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況



（注）前回調査①の選択肢では「よく参加している（年数回以上参加／運営に関わっている）」だったものが今回は「運営に関わっている」「よく参加している（年数回以上参加）」に分けられている。

男性と女性で、居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況に大きな差異はみられない。
年代別にみると、80歳以上は他の年代と比較して「参加していない」の割合が低くなっている。また、20歳代、80歳以上は他の年代と比較して「よく参加している（年数回以上参加）」の割合が高くなっている。

図表 II-2 4 居住する地域にとらわれない趣味の活動への参加状況（クロス集計）

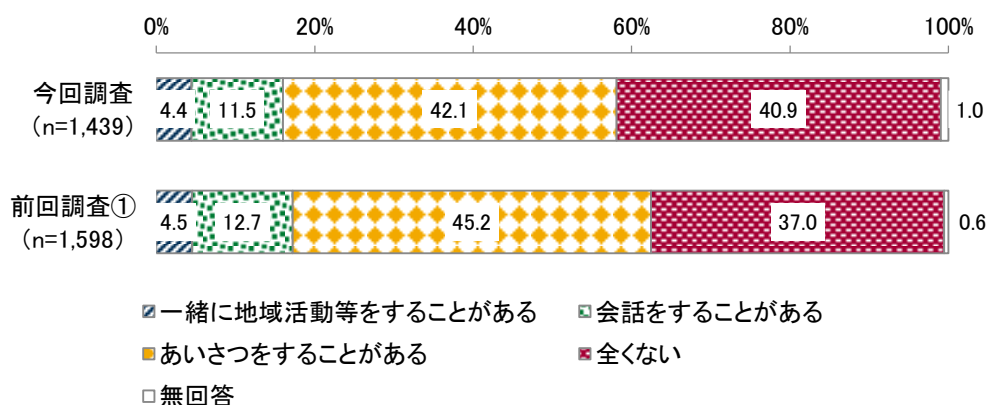


(8) 問 13 日常的に近所の子どもと接する機会

「あいさつをすることがある」の割合が最も高く 42.1%となっている。次いで、「全くない（40.9%）」、「会話をすることがある（11.5%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-25 日常的に近所の子どもと接する機会

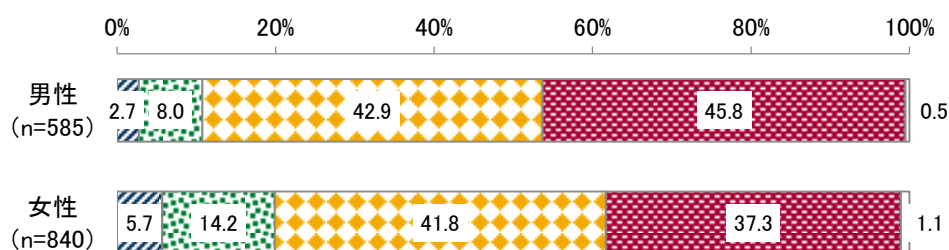


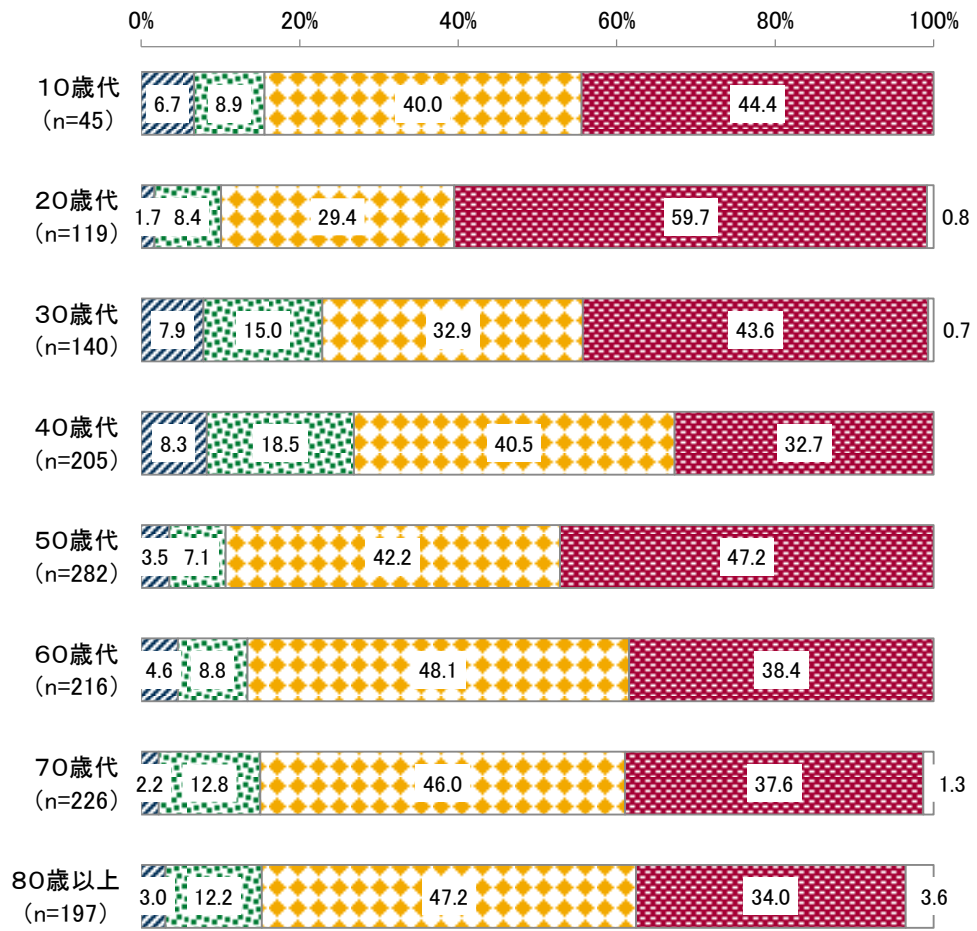
女性は男性よりも「全くない」の割合が低くなっている。

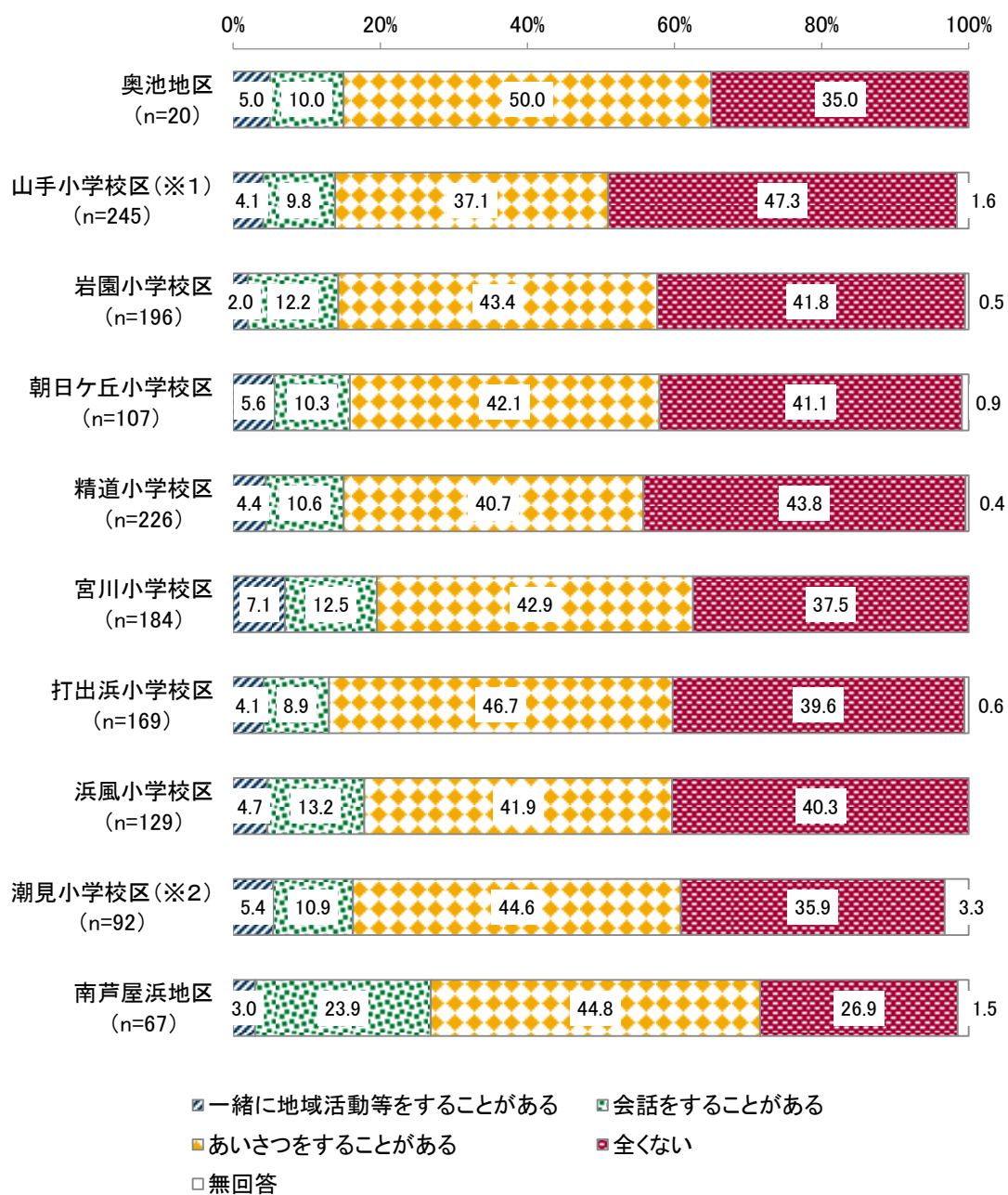
年代別にみると、40 歳代と、60 歳代以上は他の年代と比較して、「全くない」の割合が低い傾向にある。また、30 歳代、40 歳代は他の年代と比較して、「一緒に地域活動等をすることがある」の割合が高くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「全くない」の割合が低くなっている。

図表 II-26 日常的に近所の子どもと接する機会（クロス集計）





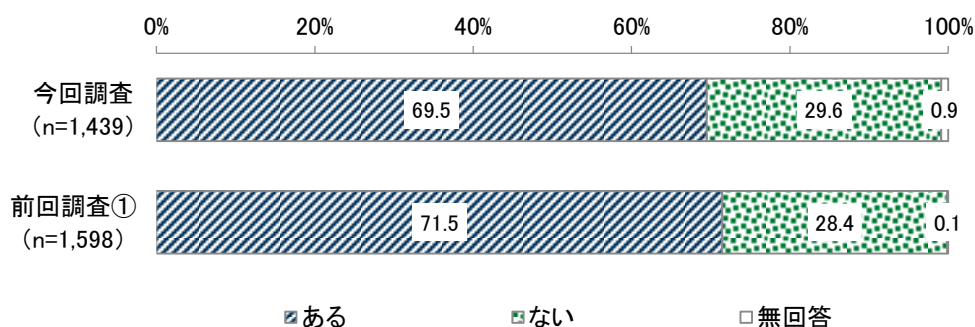


(9) 問 14 家族や親族以外で相談できる人（友人、知人、民生委員等）や場所

「ある」の割合が最も高く 69.5%となっている。次いで、「ない（29.6%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 2 7 家族や親族以外で相談できる人や場所

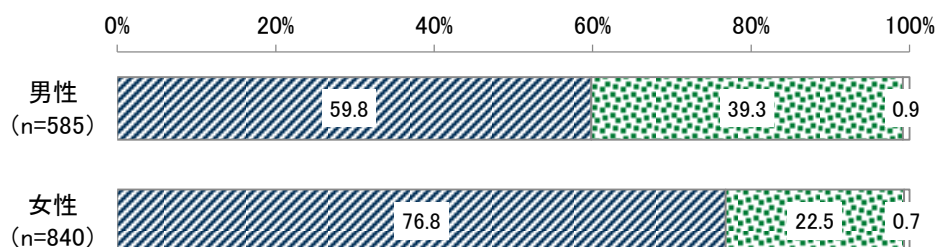


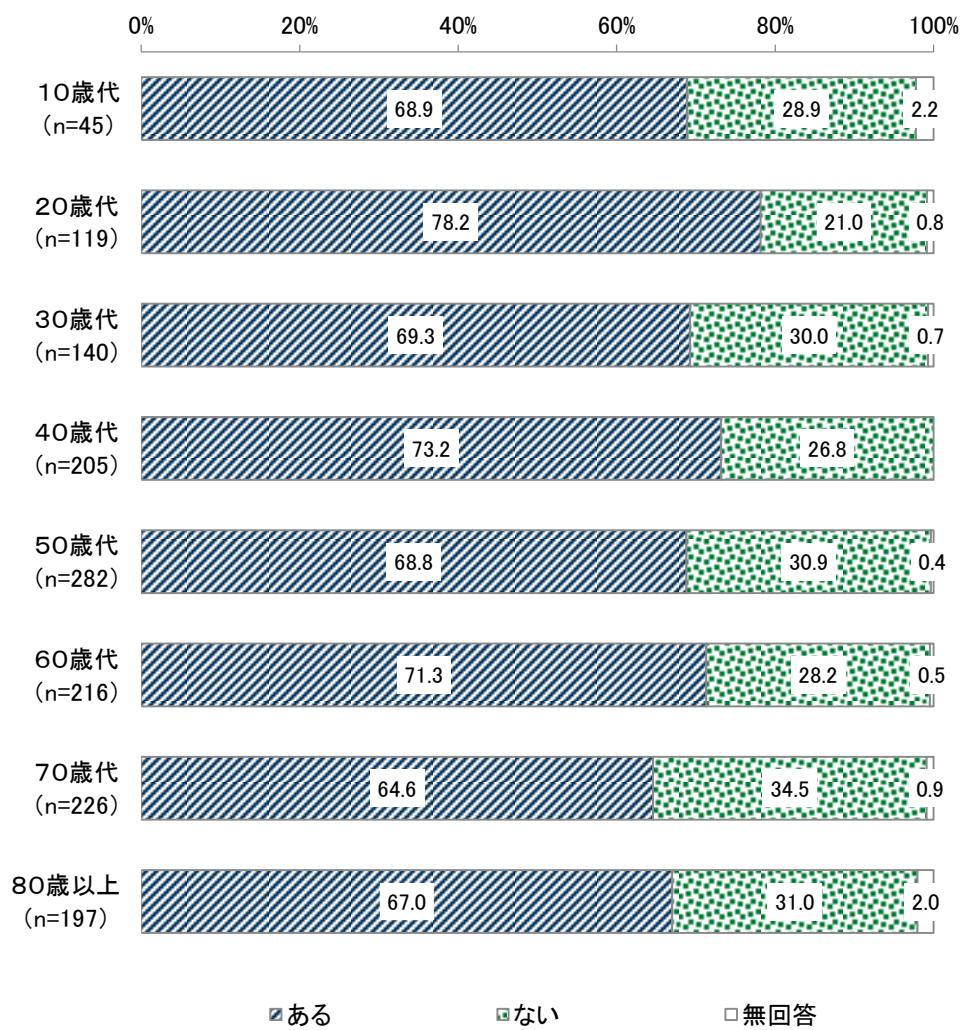
女性は男性よりも家族や親族以外で相談できる人や場所が「ある」と回答した割合が大幅に高くなっている。

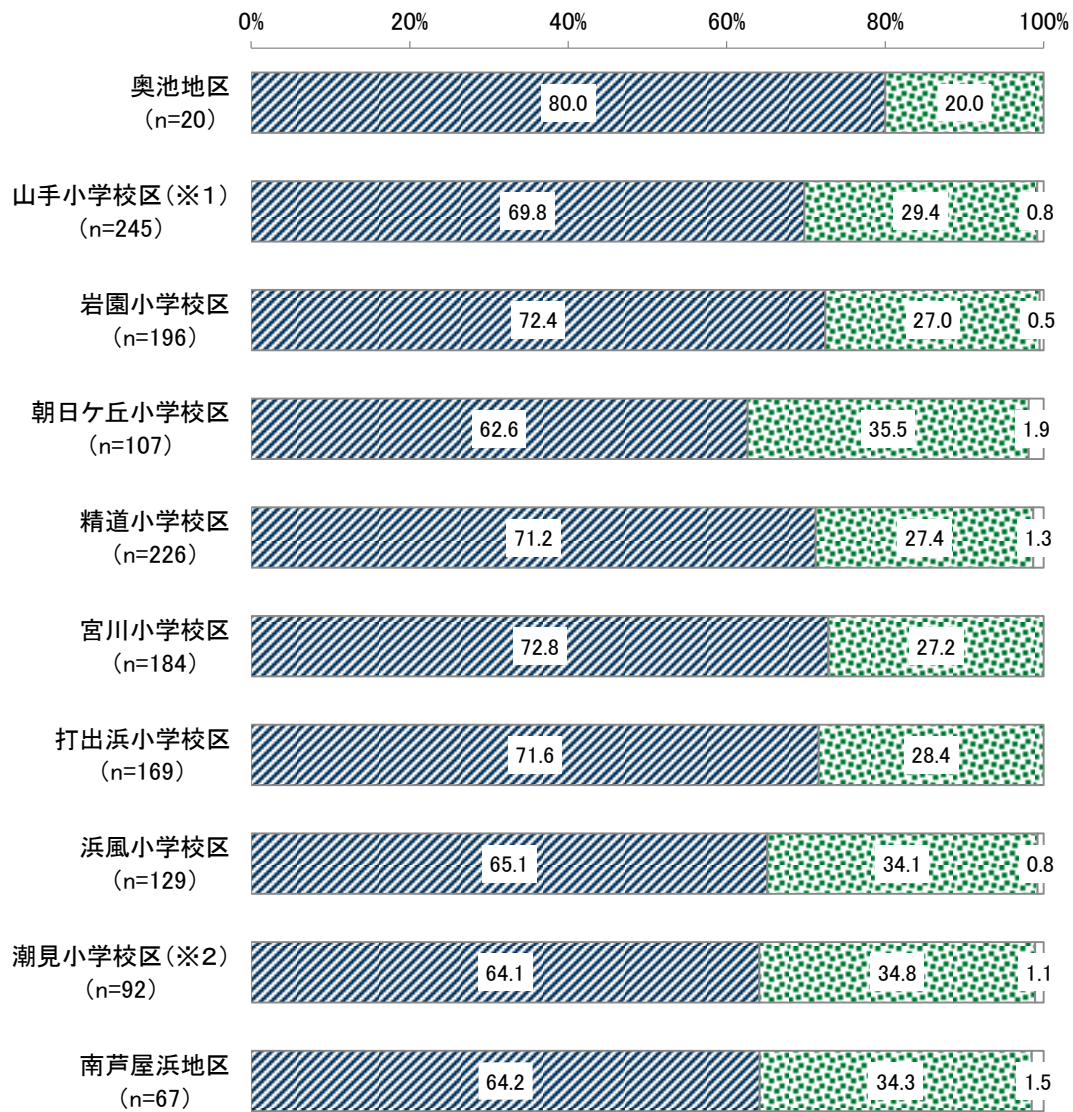
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して「ある」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地区と比較して「ある」の割合が低くなっている。

図表 II- 2 8 家族や親族以外で相談できる人や場所（クロス集計）





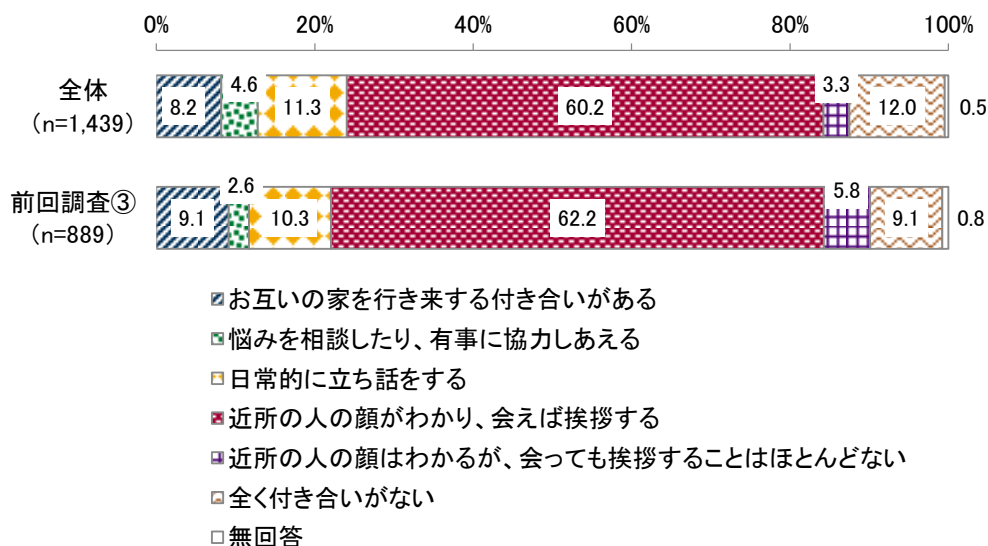


(10) 問 15 地域の人との関わりの程度

「近所の人の顔がわかり、会えば挨拶する」の割合が最も高く 60.2%となっている。次いで、「全く付き合いがない（12.0%）」、「日常的に立ち話をする（11.3%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「全く付き合いがない」の割合が上昇している。

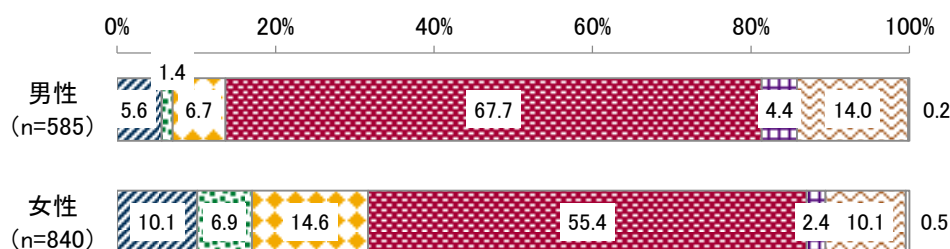
図表 II-29 地域の人との関わりの程度

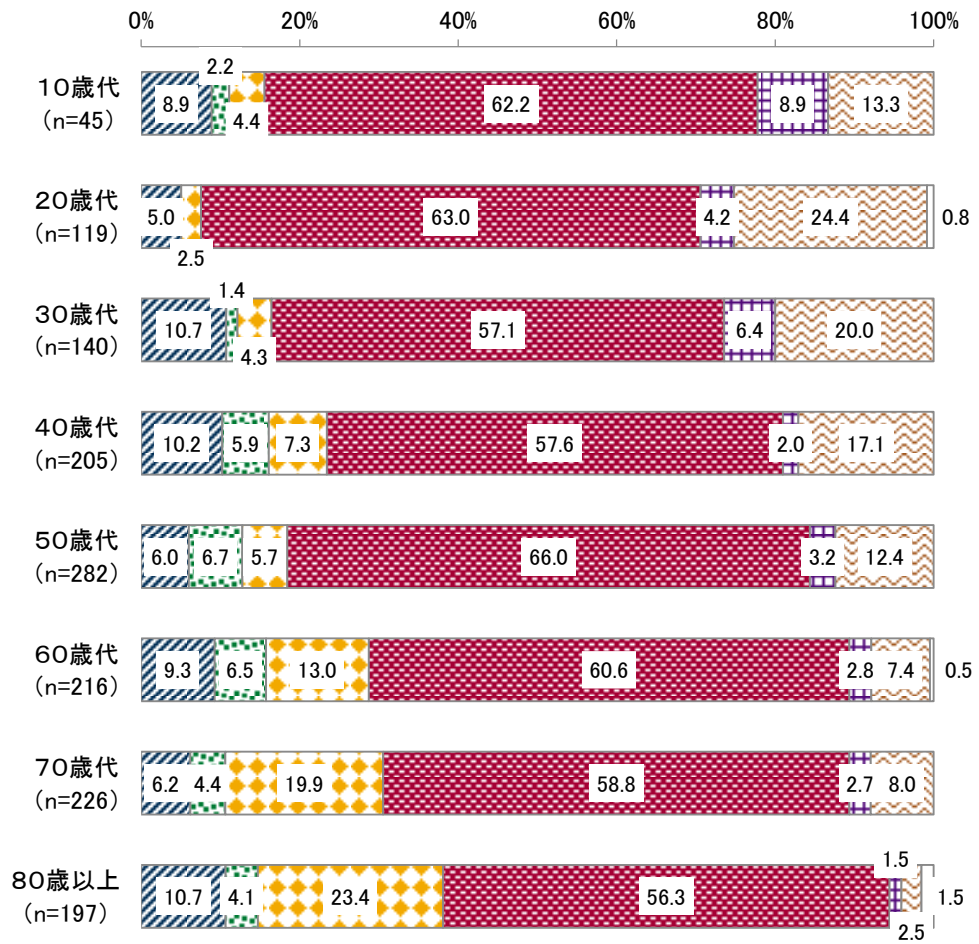


男性は女性よりも、「全く付き合いがない」の割合が高くなっている。女性は、男性よりも、「お互いの家を行き来する付き合いがある」「悩みを相談したり、有事に協力しあえる」「日常的に立ち話をする」の割合が高くなっている。

年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して「全く付き合いがない」の割合が高くなっている。

図表 II-30 地域の人との関わりの程度（クロス集計）

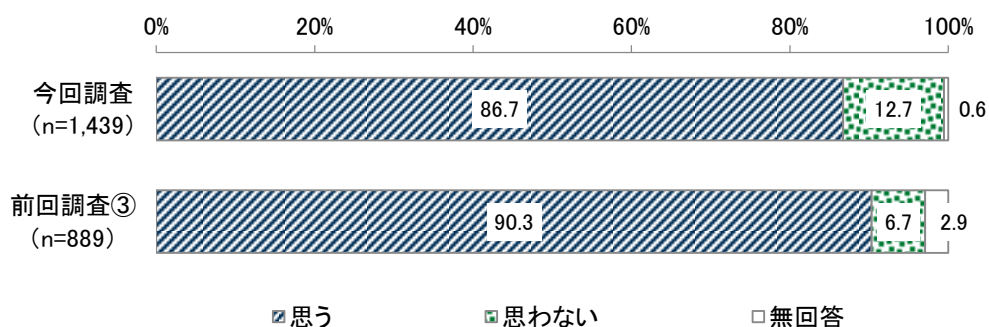




(11) 問 16 地域の人との関わりは必要だと思うか

「思う」の割合が最も高く 86.7%となっている。次いで、「思わない（12.7%）」となっている。
 前回調査③と比較すると、必要だと「思う」の割合が低下し、「思わない」の割合が上昇している。

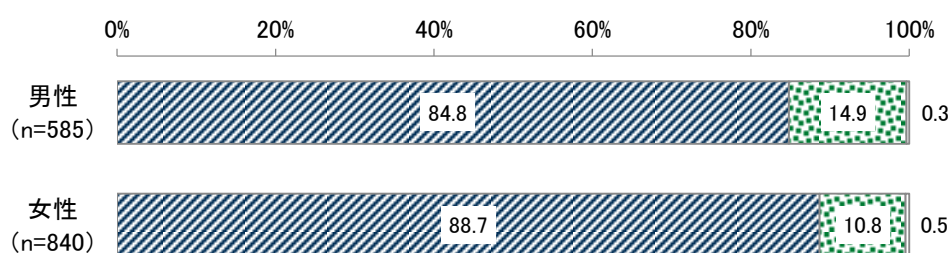
図表 II-3 1 地域の人との関わりは必要だと思うか

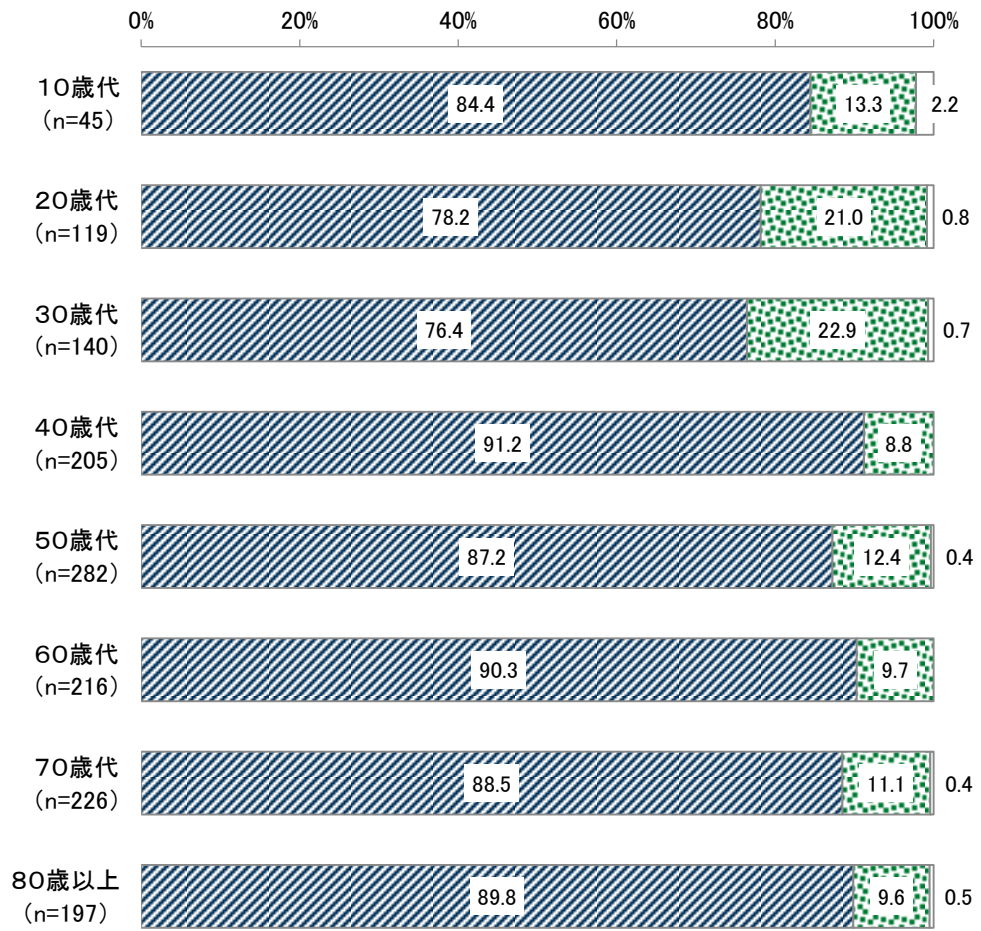


(注) 前回調査③の選択肢は「関わりは必要」「関わりは不必要」となっている。

女性は男性よりも地域の人との関わりが必要だと「思う」と回答した割合が高くなっている。
 年代別にみると、20 歳代、30 歳代は他の年代と比較して「思う」の割合が低くなっている。

図表 II-3 2 地域の人との関わりは必要だと思うか（クロス集計）



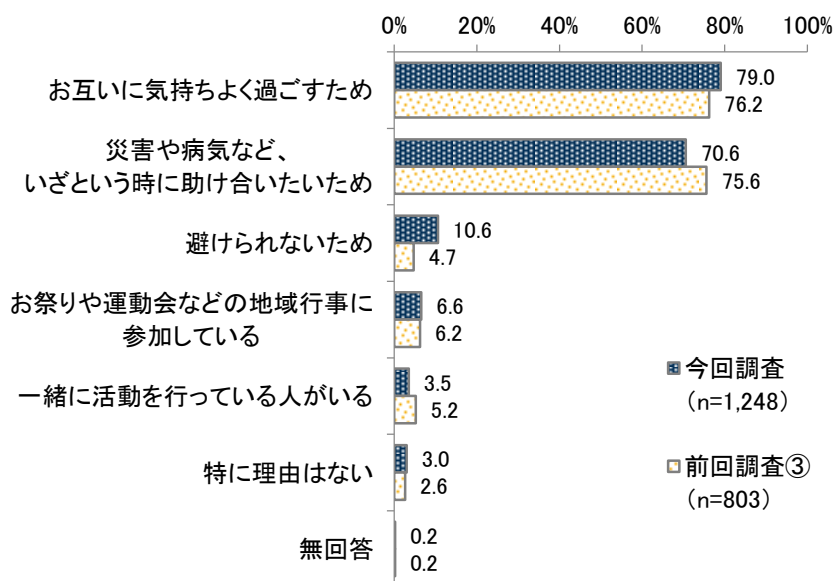


(12) 問 17 地域の人との関わりが必要だと思う理由（3つまで選択）

「お互いに気持ちよく過ごすため」の割合が最も高く 79.0%となっている。次いで、「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため（70.6%）」、「避けられないため（10.6%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため」の割合が減少し、「避けられないため」の割合が上昇している。

図表 II-33 地域の人との関わりが必要だと思う理由



(注) 前回調査③では「関わりは必要」とする理由と「関わりは不必要」とする理由を同一設問で聞いているため、それぞれの回答者を抽出し今回の調査に該当する選択肢の回答のみを比較した。

女性は男性よりも「災害や病気など、いざという時に助け合いたいため」の割合が高くなっている。
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して、「お互いに気持ちよく過ごすため」の割合が高くなっている。

図表 II-3 4 地域の人との関わりが必要だと思う理由（クロス集計）

(%)

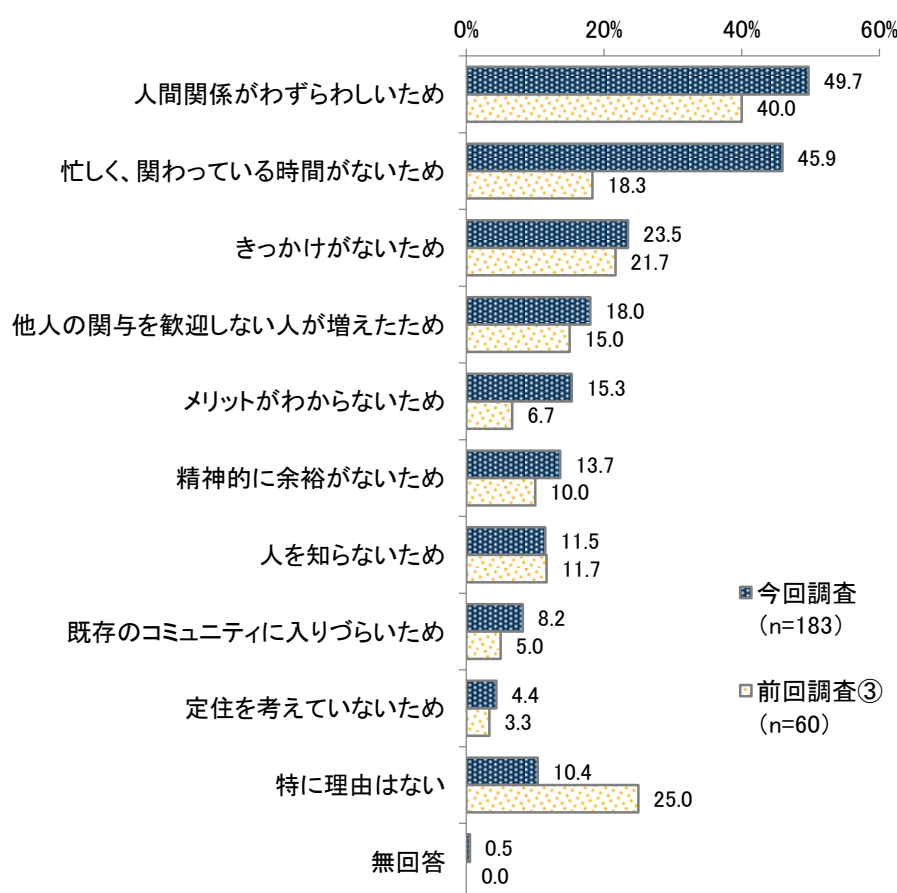
		調査数	いざ災害や病気など、いざという時に助け合い	お互いに気持ちよく過ごすため	避けられないため	お祭りや運動会など、地域の行事に参加したい	一緒に活動を行っている	特に理由はない	無回答
	市全体	1,248	70.6	79.0	10.6	6.6	3.5	3.0	0.2
性別	男性	496	65.3	78.4	12.9	6.7	2.8	4.0	0.2
	女性	745	74.1	79.7	9.0	6.4	4.0	2.4	0.3
年代別	10歳代	38	65.8	73.7	15.8	15.8	0.0	5.3	0.0
	20歳代	93	74.2	78.5	21.5	3.2	0.0	2.2	0.0
	30歳代	107	68.2	87.9	7.5	9.3	0.0	0.9	0.0
	40歳代	187	70.1	77.5	12.3	9.1	1.6	2.7	0.0
	50歳代	246	73.6	81.3	11.0	5.3	1.6	2.0	0.0
	60歳代	195	76.4	77.9	6.7	2.6	5.1	3.1	0.5
	70歳代	200	72.0	76.5	9.5	7.5	6.5	4.5	0.0
	80歳以上	177	59.9	77.4	8.5	7.3	7.9	4.5	1.1

(13) 問 18 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（3つまで選択）

「人間関係がわずらわしいため」の割合が最も高く 49.7%となっている。次いで、「忙しく、関わっている時間がないため（45.9%）」、「きっかけがないため（23.5%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が大幅に上昇しているほか、「人間関係がわずらわしいため」「他人の関与を歓迎しない人が増えたため」「メリットがわからないため」「精神的に余裕がないため」「既存のコミュニティに入りづらいため」の割合が上昇している。

図表 II- 3 5 地域の人との関わりが不必要だと思う理由



（注）前回調査③では「関わりは必要」とする理由と「関わりは不必要」とする理由を同一設問で聞いているため、それぞれの回答者を抽出し今回の調査に該当する選択肢の回答のみを比較した。

男性は女性よりも、「きっかけがないため」の割合が高くなっている。女性は男性よりも、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30 歳代から 60 歳代は、他の年代と比較して、「忙しく、関わっている時間がないため」の割合が高くなっている。

図表 II-3 6 地域の人との関わりが不必要だと思う理由（クロス集計）

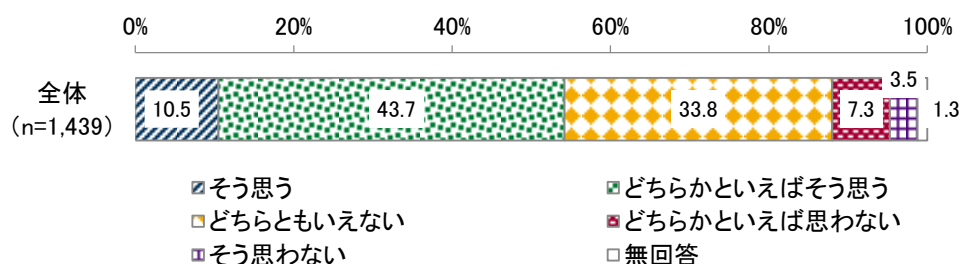
		調査数	きっかけがないため	人を知らないため	忙しく、関わっていないため	精神的に余裕がないため	メリットがわからないため	人間関係がわずらわしいため	既存のコミュニティ
									(%)
市全体		183	23.5	11.5	45.9	13.7	15.3	49.7	8.2
性別	男性	87	28.7	12.6	43.7	16.1	14.9	51.7	10.3
	女性	91	18.7	9.9	48.4	12.1	13.2	48.4	6.6
年代別	10歳代	6	66.7	0.0	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7
	20歳代	25	44.0	8.0	36.0	4.0	32.0	44.0	8.0
	30歳代	32	28.1	15.6	56.3	18.8	21.9	46.9	9.4
	40歳代	18	5.6	16.7	66.7	11.1	5.6	61.1	11.1
	50歳代	35	22.9	5.7	54.3	20.0	14.3	60.0	11.4
	60歳代	21	28.6	19.0	52.4	19.0	4.8	57.1	0.0
	70歳代	25	16.0	16.0	28.0	4.0	8.0	48.0	8.0
	80歳以上	19	0.0	5.3	21.1	10.5	15.8	36.8	0.0

		他人の関与を歓迎しない	定住を考えていない	特に理由はない	無回答
市全体		18.0	4.4	10.4	0.5
性別	男性	17.2	5.7	6.9	0.0
	女性	19.8	2.2	14.3	1.1
年代別	10歳代	0.0	0.0	16.7	0.0
	20歳代	8.0	12.0	8.0	0.0
	30歳代	18.8	6.3	0.0	0.0
	40歳代	27.8	5.6	0.0	0.0
	50歳代	22.9	2.9	2.9	0.0
	60歳代	23.8	0.0	4.8	4.8
	70歳代	20.0	4.0	28.0	0.0
	80歳以上	5.3	0.0	36.8	0.0

(14) 問 19 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか

「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く 43.7%となっている。次いで、「どちらともいえない（33.8%）」、「そう思う（10.5%）」となっている。

図表 II-37 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思うか

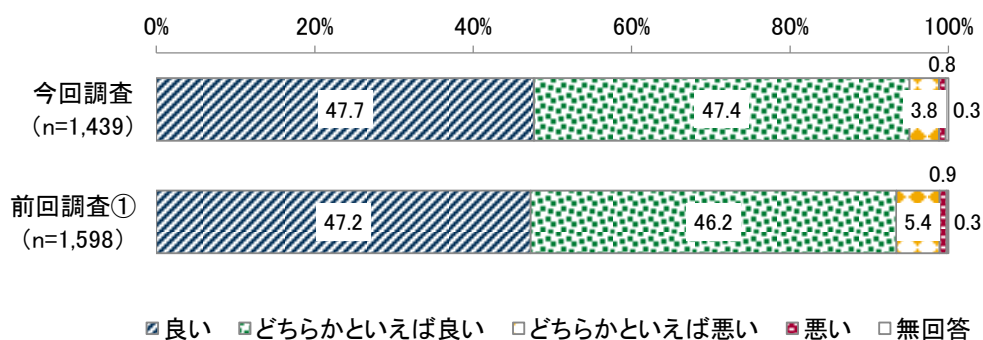


(15) 問 20 地域のまちなみやまちなかの緑の景観

「良い」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「どちらかといえば良い（47.4%）」、「どちらかといえば悪い（3.8%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-38 地域のまちなみやまちなかの緑の景観

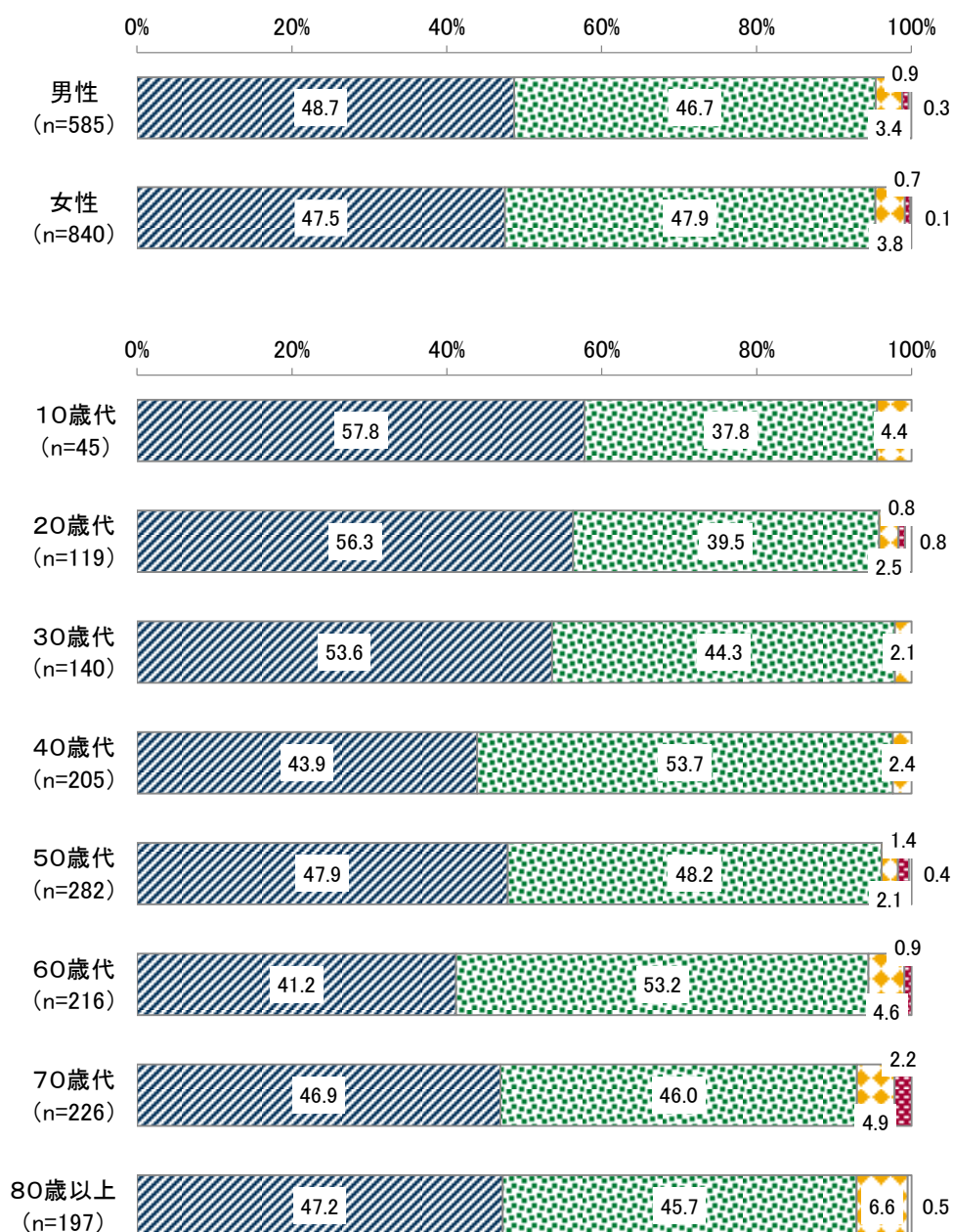


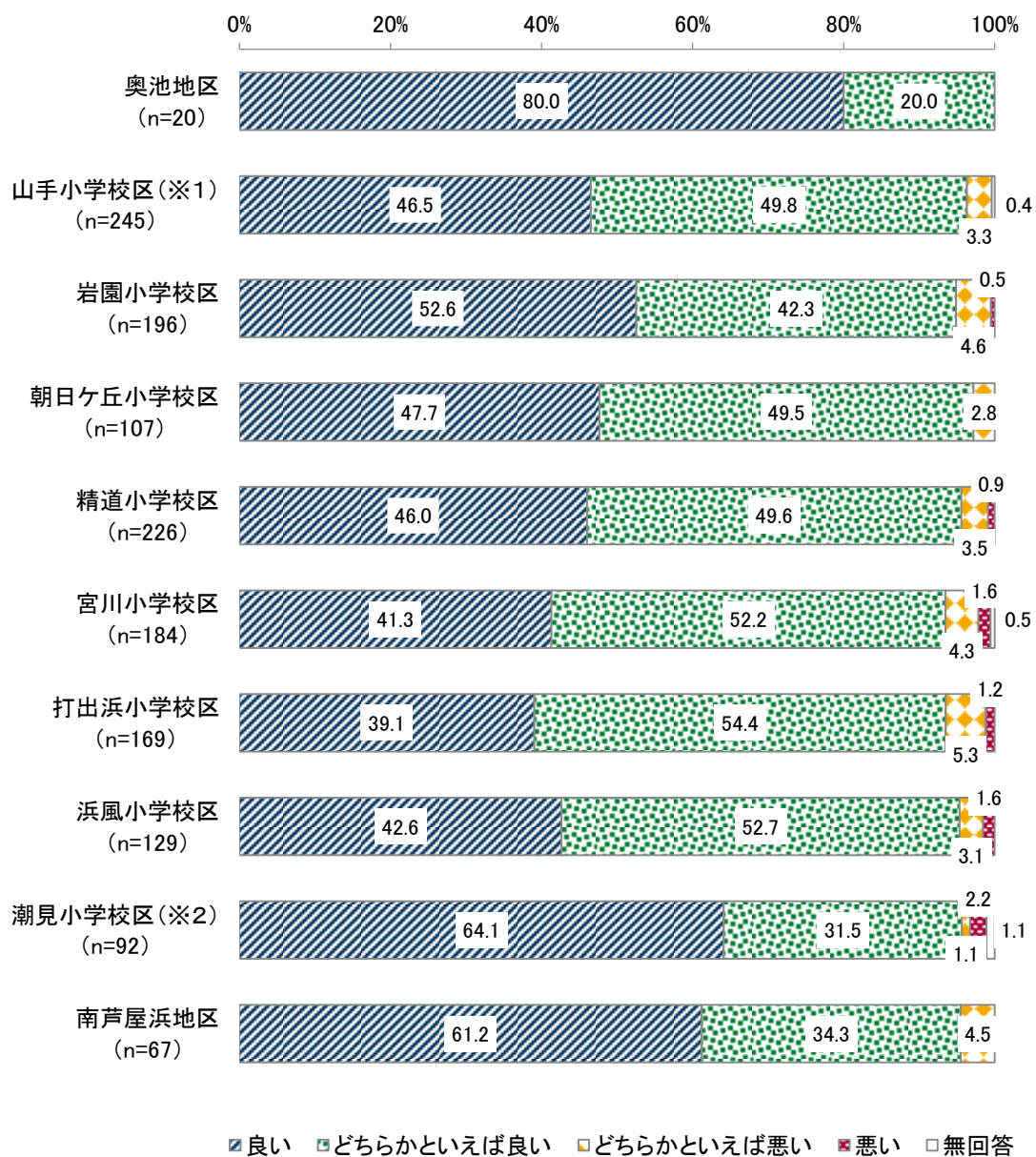
男女で大きな差異は見られない。

年代別にみると、10 歳代から 30 歳代はそれ以上の年代と比較して、「良い」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区、南芦屋浜地区は他の地区と比較して「良い」の割合が高くなっている。

図表 II- 3 9 地域のまちなみやまちなかの緑の景観（クロス集計）



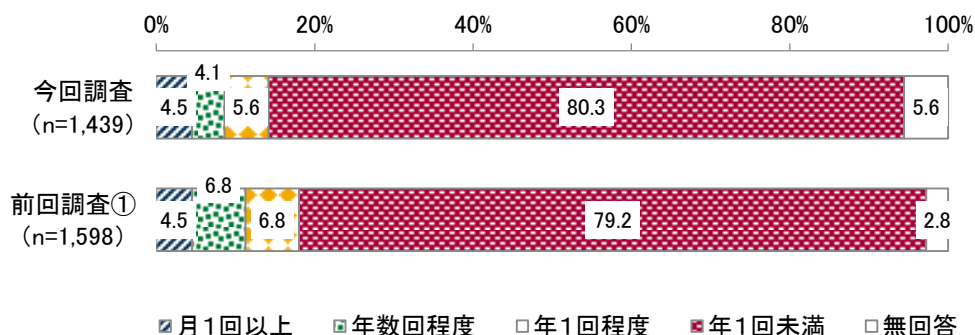


(16) 問 21 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度

「年 1 回未満」の割合が最も高く 80.3%となっている。次いで、「年 1 回程度（5.6%）」、「月 1 回以上（4.5%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「年 1 回以上」の割合が低下している。

図表 II-4 0 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度

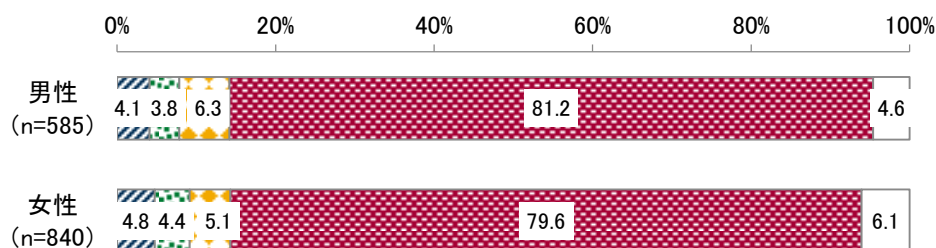


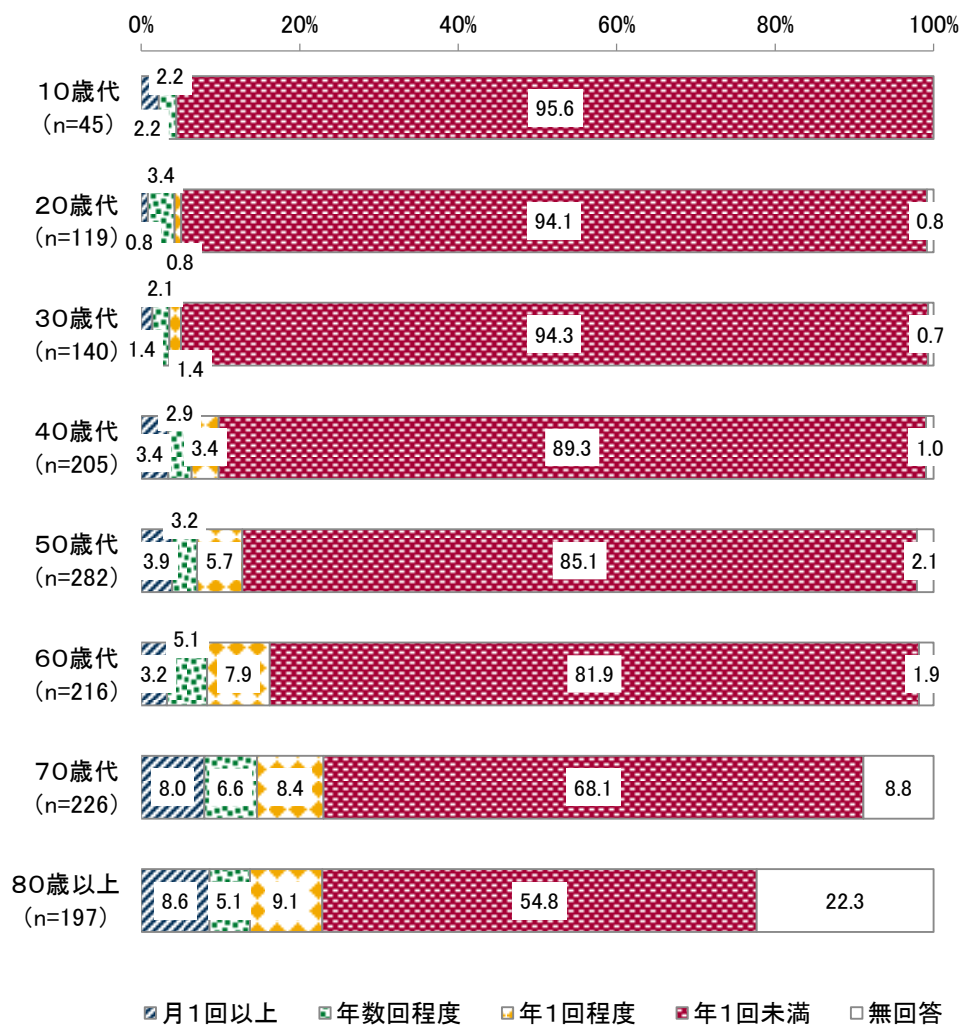
男女で活動への参加頻度に大きな差異は見られない。

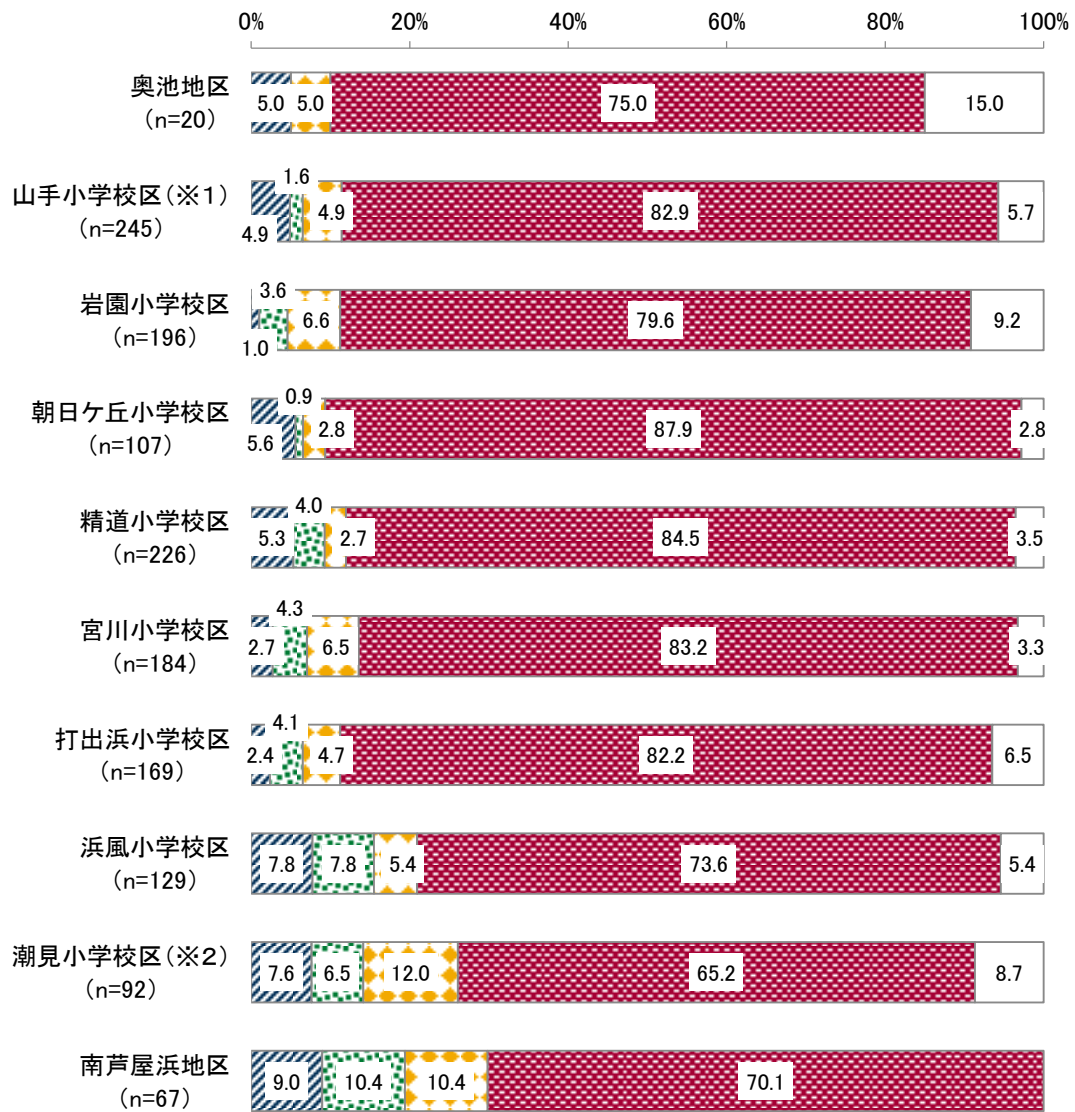
年代別にみると、年代が上がるにつれ、「年 1 回未満」の割合が低くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区、潮見小学校区、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、年 1 回程度以上活動に参加していると回答した割合が高くなっている。

図表 II-4 1 まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動への参加頻度（クロス集計）





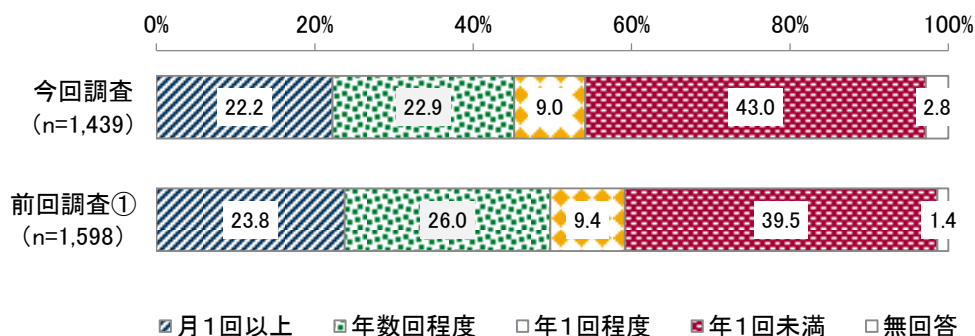


(17) 問 22 市内の公園の利用頻度

「年 1 回未満」の割合が最も高く 43.0%となっている。次いで、「年数回程度（22.9%）」、「月 1 回以上（22.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「年数回程度」の割合が低下している。

図表 II-4 2 市内の公園の利用頻度

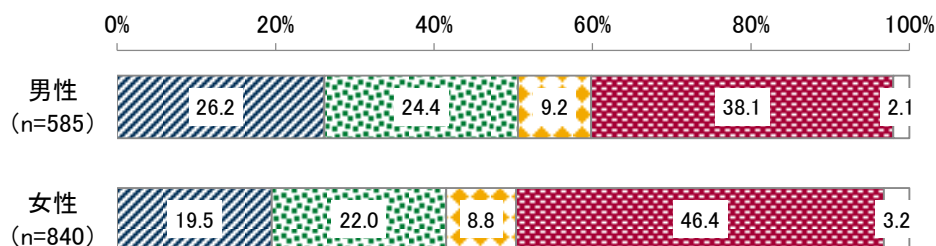


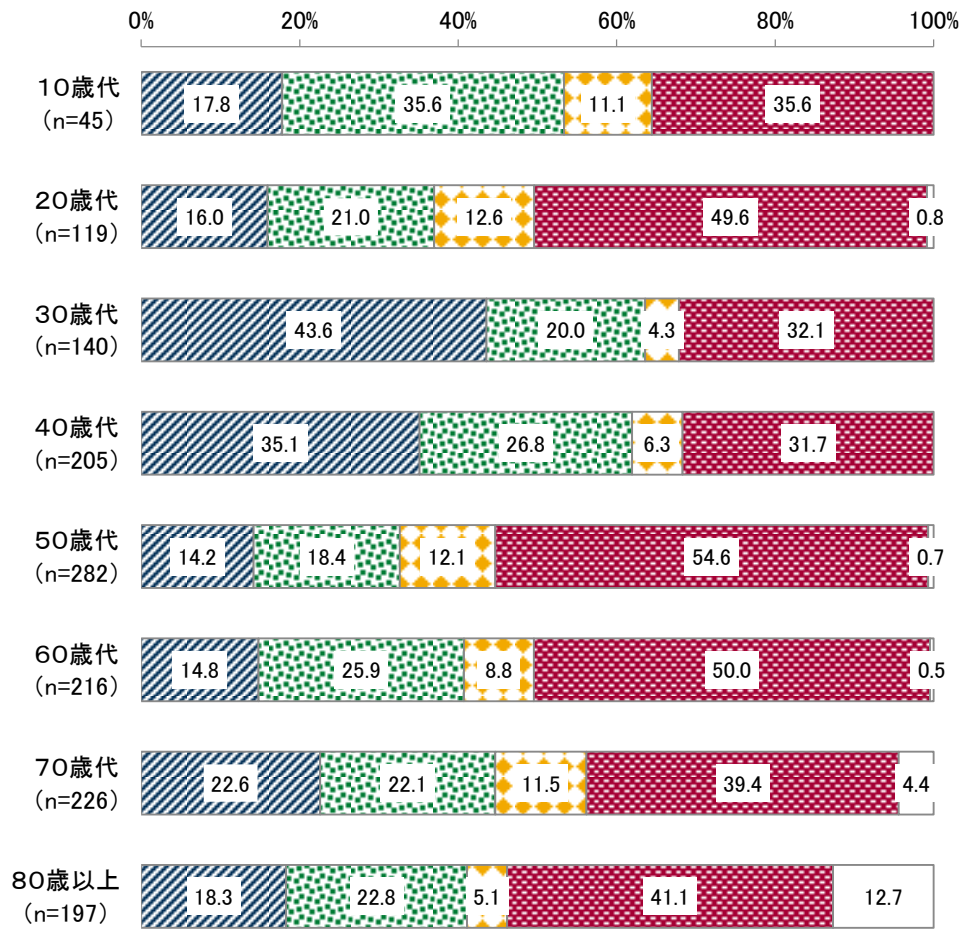
男性は女性よりも「月 1 回以上」利用している割合が高く、「年 1 回未満」の割合が低くなっている。

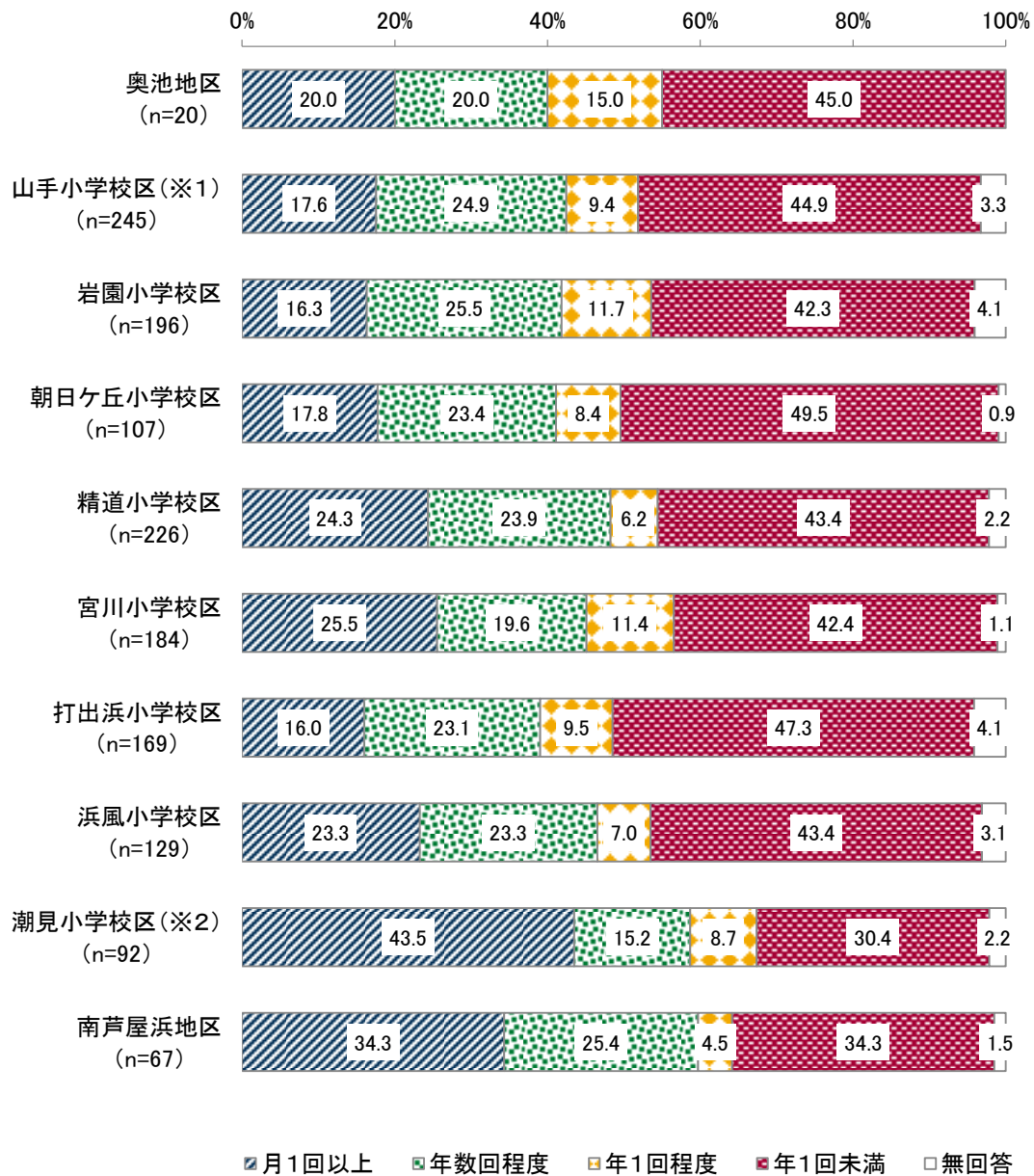
年代別にみると、30 歳代、40 歳代は他の年代と比較して「月 1 回以上」利用している割合が非常に高く、「年 1 回未満」の割合が非常に低くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区、南芦屋浜地区は他の地区と比較して「年 1 回未満」の割合が低くなっている。

図表 II-4 3 市内の公園の利用頻度（クロス集計）





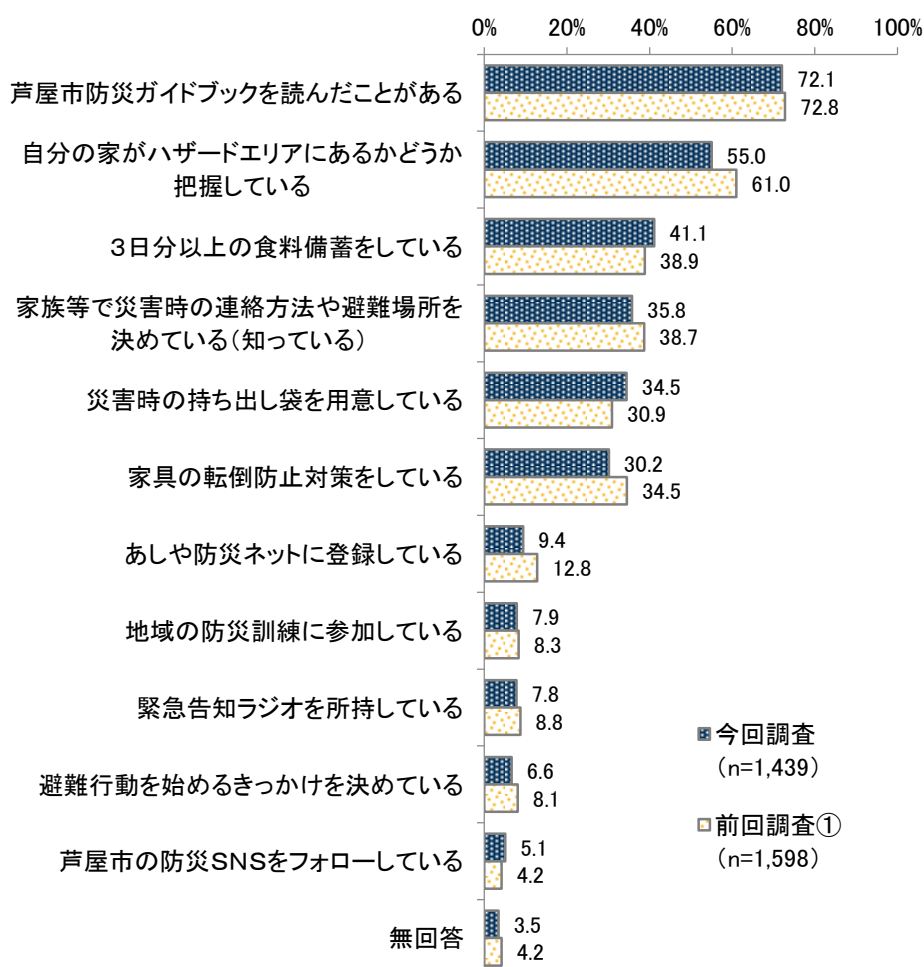


(18) 問 23 自然災害に対する日頃からの備え（複数選択）

「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」の割合が最も高く 72.1%となっている。次いで、「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している（55.0%）」、「3日分以上の食料備蓄をしている（41.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「災害時の持ち出し袋を用意している」の割合が上昇している一方で、「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」「家具の転倒防止対策をしている」「あしや防災ネットに登録している」の割合が低下している。

図表 II-4 4 自然災害に対する日頃からの備え



男性は女性よりも「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」「あしや防災ネットに登録している」「家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている（知っている）」「災害時の持ち出し袋を用意している」割合が低くなっている。

年代別にみると、60 歳代以上は、他の年代と比較して、「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」割合が高くなっている。また、40 歳代は、他の年代と比較して、「あしや防災ネットに登録している」割合が高くなっている。10 歳代と 80 歳以上は、「緊急告知ラジオを所持している」割合が高くなっている。また、10 歳代と 20 歳代は「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」割合が低くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区、浜風小学校区は他の地区と比較して、「芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある」「家具の転倒防止対策をしている」「自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している」割合が低くなっている。

図表 II-45 自然災害に対する日頃からの備え（クロス集計）

(%)

		調査数	芦屋市防災ガイドブックがある	芦屋市防災ネットに登録している	芦屋市の防災Sをフォローしている	緊急告知ラジオを所持している	家具の転倒防止対策をしている	家族等と避難場所を決めている（知っている）	家族等と避難場所を決めている（知っている）	災害時の持ち出し袋を用意している
市全体		1,439	72.1	9.4	5.1	7.8	30.2	35.8	34.5	
性別	男性	585	66.0	6.7	4.1	7.2	30.1	33.2	30.6	
	女性	840	76.5	11.3	5.8	8.2	30.6	37.9	37.4	
年代別	10歳代	45	35.6	4.4	2.2	15.6	17.8	46.7	37.8	
	20歳代	119	47.1	4.2	5.0	4.2	29.4	42.0	36.1	
	30歳代	140	55.0	4.3	2.9	2.1	27.1	31.4	42.9	
	40歳代	205	69.3	17.6	6.8	5.9	30.2	42.0	39.5	
	50歳代	282	73.4	11.7	6.4	5.0	29.4	37.6	32.3	
	60歳代	216	83.8	10.2	4.2	10.2	26.4	39.8	32.9	
	70歳代	226	84.5	8.0	4.4	9.7	34.1	31.9	27.9	
	80歳以上	197	82.2	5.6	5.1	13.7	36.5	23.9	34.0	
居住地区	奥池地区	20	85.0	15.0	5.0	10.0	35.0	35.0	25.0	
	山手小学校区(※1)	245	73.5	7.8	5.7	6.1	26.9	29.0	31.4	
	岩園小学校区	196	73.0	11.7	5.6	8.7	26.0	34.2	33.2	
	朝日ヶ丘小学校区	107	64.5	6.5	4.7	7.5	24.3	36.4	33.6	
	精道小学校区	226	73.0	6.6	6.2	8.4	37.2	40.3	38.1	
	宮川小学校区	184	71.2	12.5	4.9	7.1	27.2	37.5	34.8	
	打出浜小学校区	169	74.0	5.3	3.6	9.5	36.1	42.6	36.1	
	浜風小学校区	129	65.1	10.9	3.9	7.0	23.3	33.3	32.6	
	潮見小学校区(※2)	92	77.2	9.8	4.3	8.7	37.0	32.6	30.4	
	南芦屋浜地区	67	74.6	19.4	6.0	6.0	37.3	38.8	47.8	

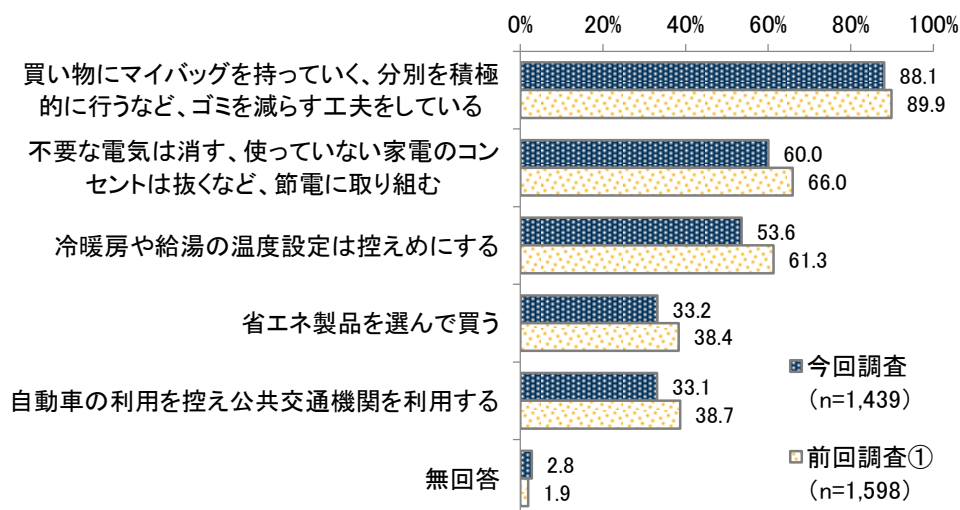
		3日分の食料を以ての備蓄している	自分のかたがたの家の防災グッズを把握している	避難行動の開始を決めることができる	地域参加の防災訓練に参加している	無回答
市全体		41.1	55.0	6.6	7.9	3.5
性別	男性	39.8	56.6	6.7	6.5	3.2
	女性	42.1	54.3	6.5	8.9	3.3
年代別	10歳代	37.8	42.2	13.3	4.4	4.4
	20歳代	36.1	40.3	6.7	1.7	7.6
	30歳代	37.9	51.4	4.3	2.1	5.0
	40歳代	35.6	62.0	4.4	5.9	3.4
	50歳代	44.3	58.2	6.4	8.2	2.5
	60歳代	40.7	60.6	6.9	9.7	0.9
	70歳代	41.2	59.7	9.7	12.8	2.2
	80歳以上	48.7	45.7	5.1	10.7	4.6
居住地区	奥池地区	70.0	80.0	10.0	20.0	0.0
	山手小学校区(※1)	44.1	55.9	5.3	4.9	5.3
	岩園小学校区	40.3	58.2	4.6	5.1	4.1
	朝日ヶ丘小学校区	45.8	50.5	4.7	6.5	6.5
	精道小学校区	38.5	59.7	6.2	4.9	1.8
	宮川小学校区	35.3	54.9	8.2	7.6	2.2
	打出浜小学校区	43.2	56.2	8.9	12.4	2.4
	浜風小学校区	38.0	45.7	8.5	11.6	3.1
	潮見小学校区(※2)	38.0	47.8	3.3	12.0	4.3
	南芦屋浜地区	47.8	55.2	10.4	11.9	0.0

(19) 問 24 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（複数選択）

「買い物にマイバッグを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」の割合が最も高く 88.1%となっている。次いで、「不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む（60.0%）」、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする（53.6%）」となっている。」

前回調査①と比較すると、すべての取組について、できていると回答した割合が低下している。

図表 II-46 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること



（注）前回調査①では「買い物には、マイバッグを持っていく」だったものが今回は「買い物にマイバッグを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」になっている。

女性は男性よりも、取り組めていると回答した割合が全体を通じて高くなっている。特に、「買い物に枚バックを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている」「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」の割合が高くなっている。

年代別にみると、年代が高くなるにつれ、取り組めていると回答した割合が全体的に高くなっている。特に、60 歳代以上は他の年代と比較して、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする」「自動車の利用を控え公共交通機関を利用する」の割合が高くなっている。

図表 II-47 地球温暖化防止に向けた取組のうちできていること（クロス集計）

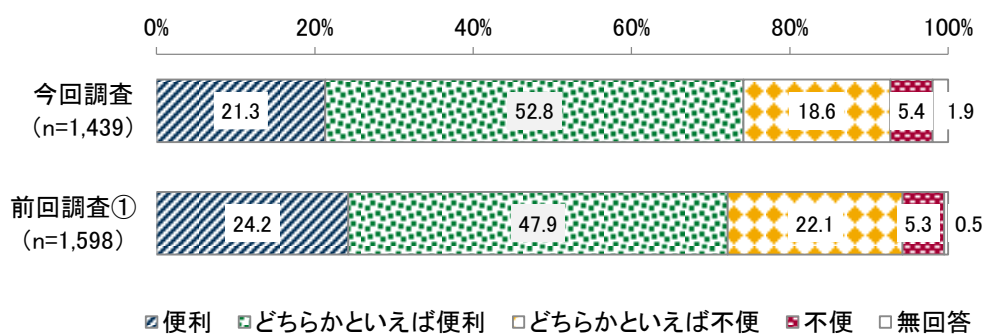
		調査数	ゴミを減らす工夫をしているなど、買い物を分別マイバッグを持っていく	冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする	不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む	省エネ製品を選んで買う	自動車の利用を控え公共交通機関を利用する	無回答
市全体		1,439	88.1	53.6	60.0	33.2	33.1	2.8
性別	男性	585	83.6	46.2	58.3	30.9	31.1	4.1
	女性	840	91.8	58.9	61.3	34.9	34.6	1.7
年代別	10歳代	45	71.1	31.1	37.8	13.3	35.6	4.4
	20歳代	119	73.9	37.0	49.6	15.1	31.9	6.7
	30歳代	140	85.0	37.1	51.4	20.7	27.1	5.0
	40歳代	205	88.3	42.0	55.6	32.7	22.4	3.4
	50歳代	282	90.1	52.1	63.5	38.7	32.3	2.5
	60歳代	216	92.6	61.6	65.3	41.2	35.2	1.4
	70歳代	226	89.8	66.4	61.9	39.8	37.6	0.9
	80歳以上	197	93.9	71.1	70.6	34.0	43.1	1.0
居住地区	奥池地区	20	90.0	45.0	50.0	60.0	5.0	5.0
	山手小学校区(※1)	245	89.4	57.6	59.6	32.7	38.4	2.0
	岩園小学校区	196	89.3	50.0	58.2	34.2	34.2	2.6
	朝日ヶ丘小学校区	107	83.2	52.3	57.9	28.0	29.0	5.6
	精道小学校区	226	87.6	54.0	63.3	31.9	34.1	2.7
	宮川小学校区	184	85.9	47.3	58.2	32.6	31.0	3.8
	打出浜小学校区	169	89.9	60.4	59.2	34.9	33.1	0.6
	浜風小学校区	129	83.7	46.5	58.9	30.2	28.7	3.1
	潮見小学校区(※2)	92	92.4	63.0	64.1	37.0	44.6	1.1
	南芦屋浜地区	67	95.5	55.2	67.2	37.3	22.4	3.0

(20) 問 25 交通手段に関わらない市内の移動の利便性

「どちらかといえば便利」の割合が最も高く 52.8%となっている。次いで、「便利（21.3%）」、「どちらかといえば不便（18.6%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「便利」の割合が低下している一方で、「どちらかといえば便利」の割合は増加し、「どちらかといえば不便」の割合は低下している。

図表 II-4 8 交通手段に関わらない市内の移動の利便性

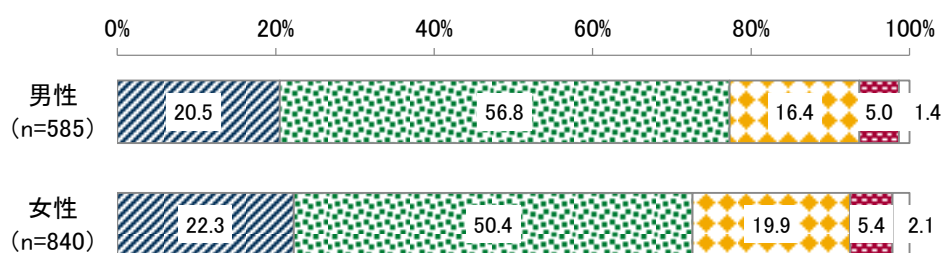


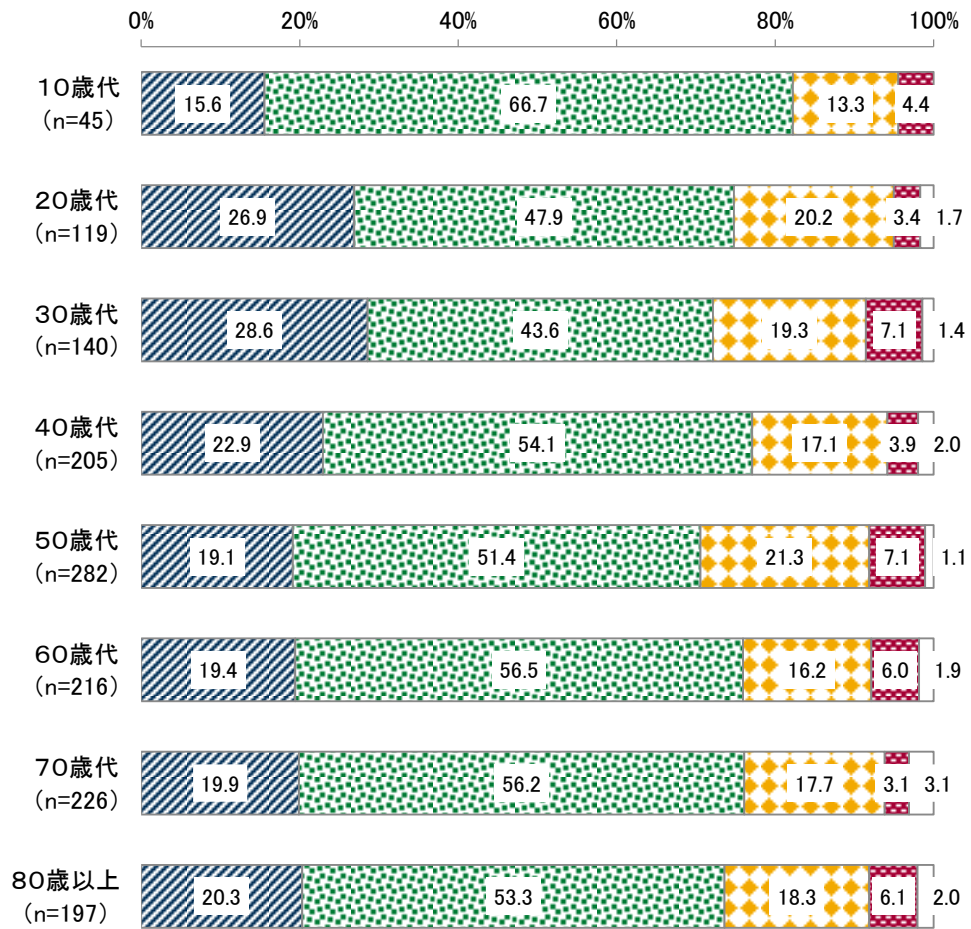
女性は男性よりも「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。

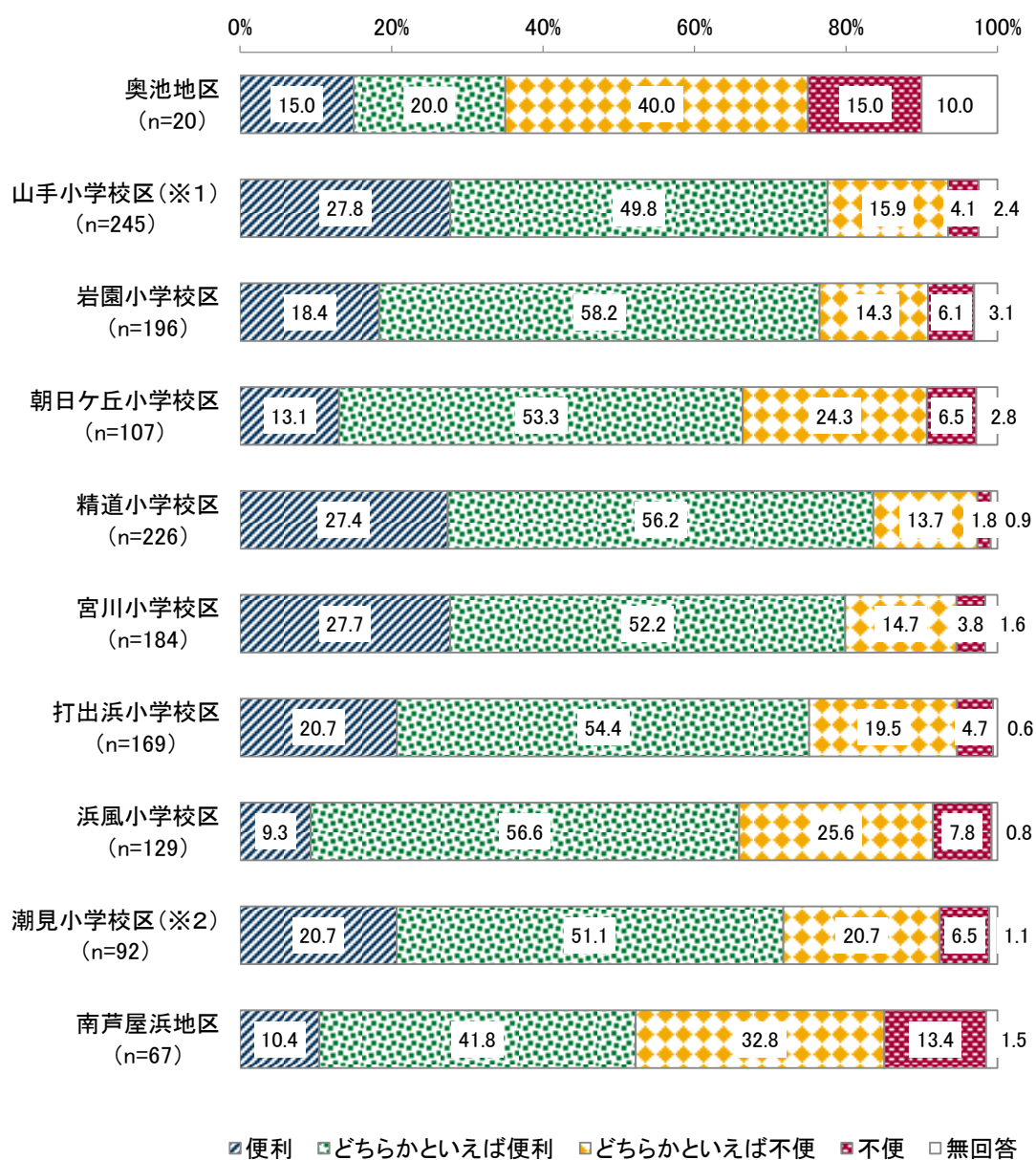
年代別にみると、50 歳代は他の年代と比較して、「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は、他の地区と比較して「どちらかといえば不便」「不便」の割合が高くなっている。精道小学校区は、他の地区と比較して、「どちらかといえば不便」「不便」の割合が低くなっている。

図表 II-4 9 交通手段に関わらない市内の移動の利便性（クロス集計）







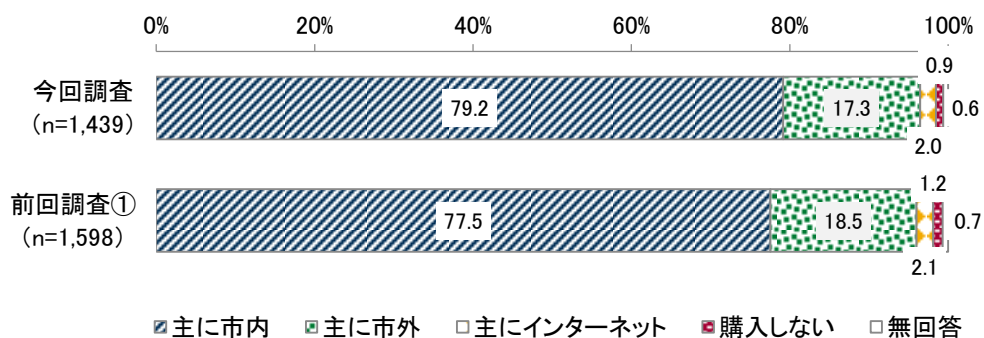
(21) 問 26 生活用品の購入場所

① 食料品

「主に市内」の割合が最も高く 79.2%となっている。次いで、「主に市外（17.3%）」、「主にインターネット（2.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-5 0 食料品の購入

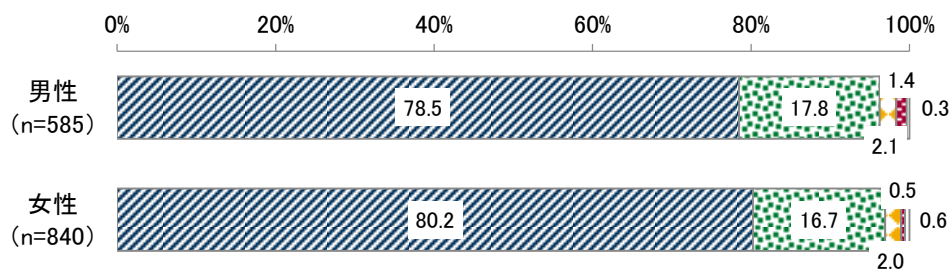


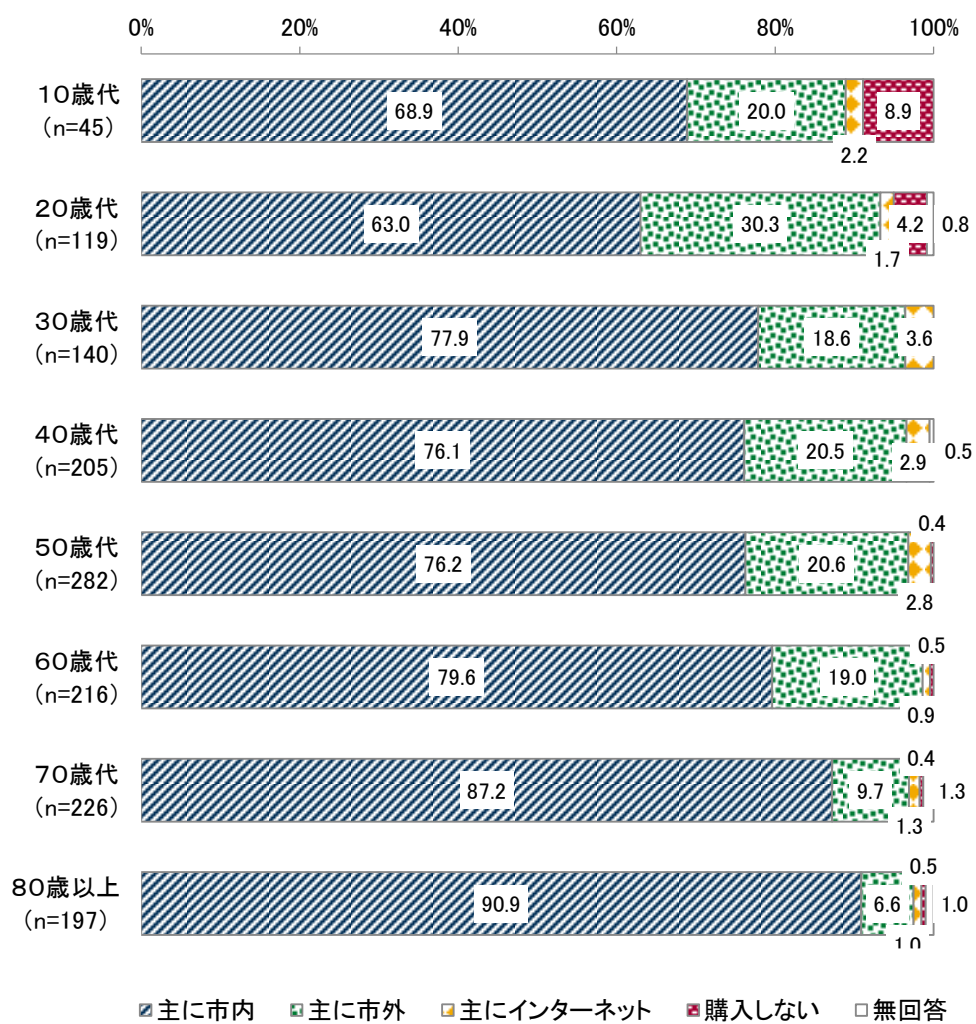
男女で大きな差異はみられない。

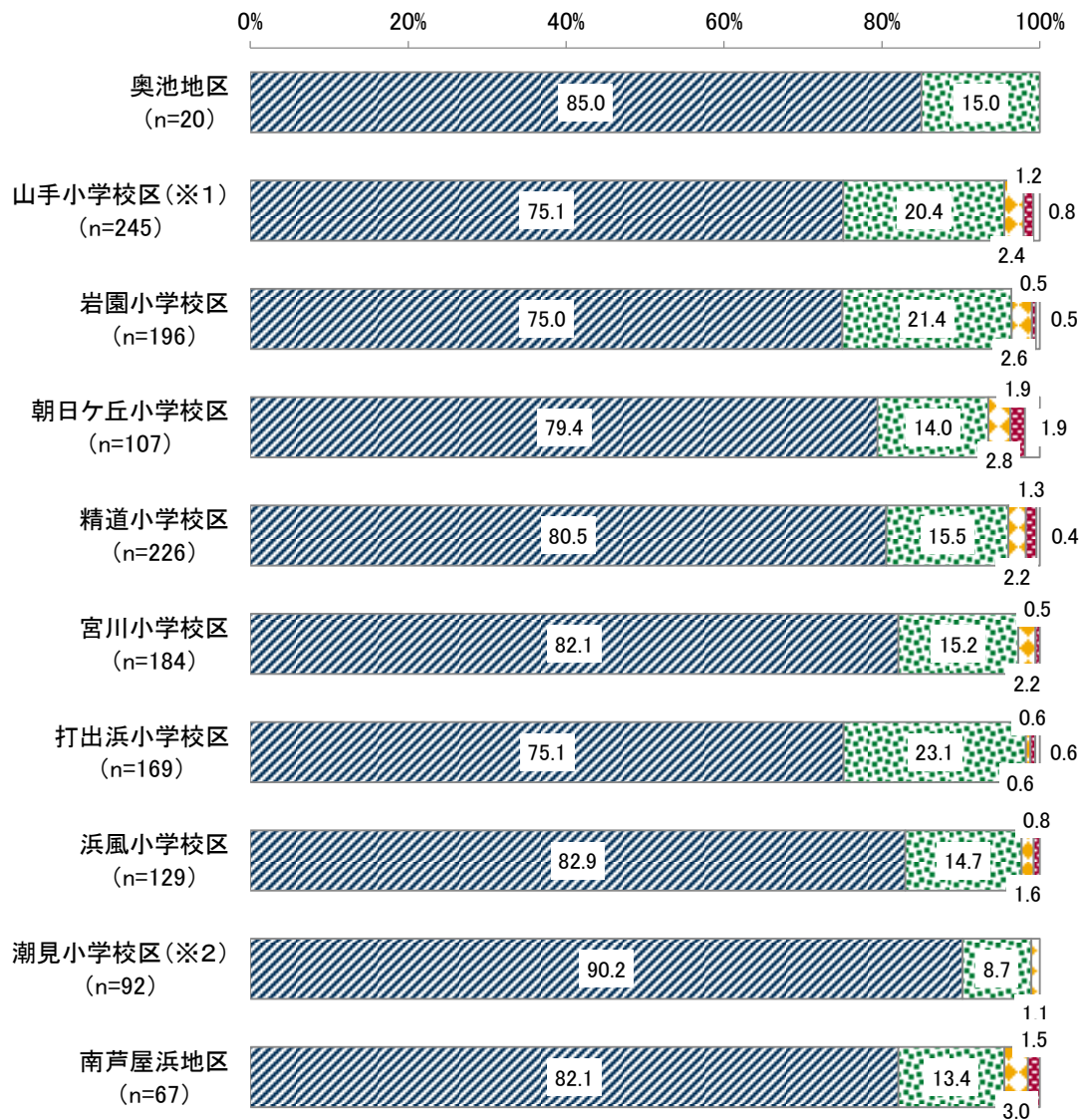
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が低くなっている。また、80 歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

図表 II-5 1 食料品の購入（クロス集計）





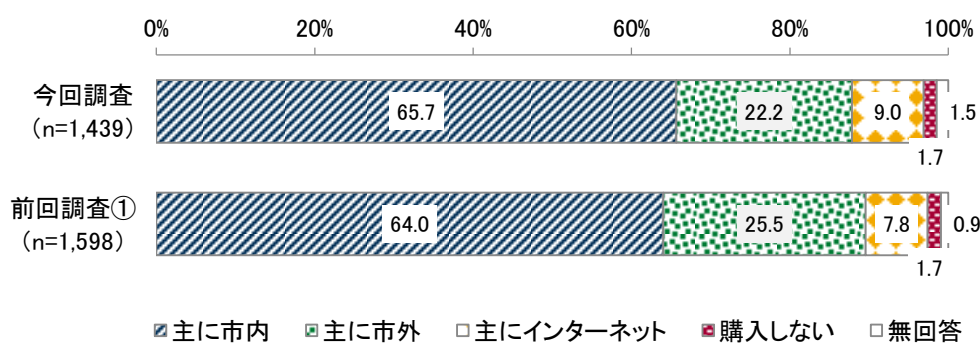


② 日用品（台所・掃除・洗濯用品等）

「主に市内」の割合が最も高く 65.7%となっている。次いで、「主に市外（22.2%）」、「主にインターネット（9.0%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」「主にインターネット」の割合が上昇している。

図表 II-5 2 日用品の購入

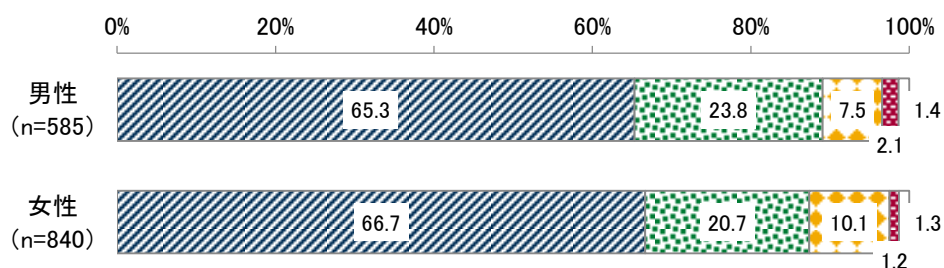


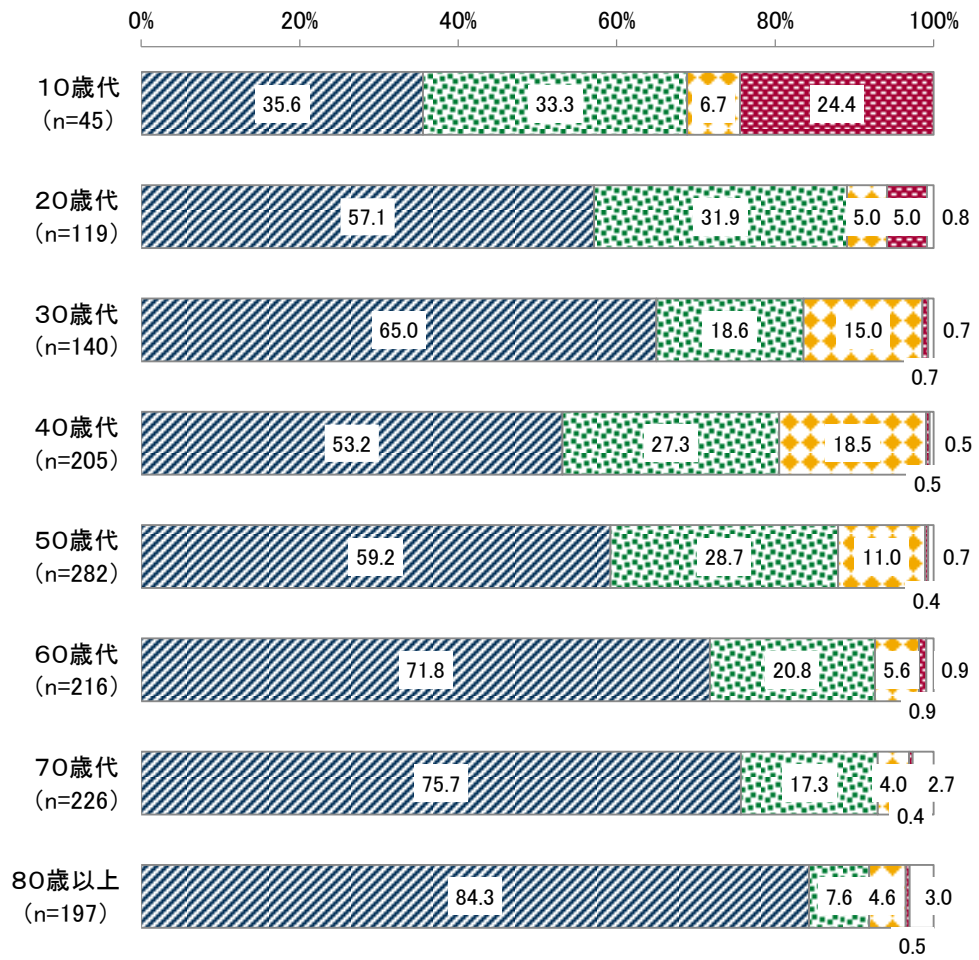
男性と女性で日用品の購入場所に大きな差異は見られない。

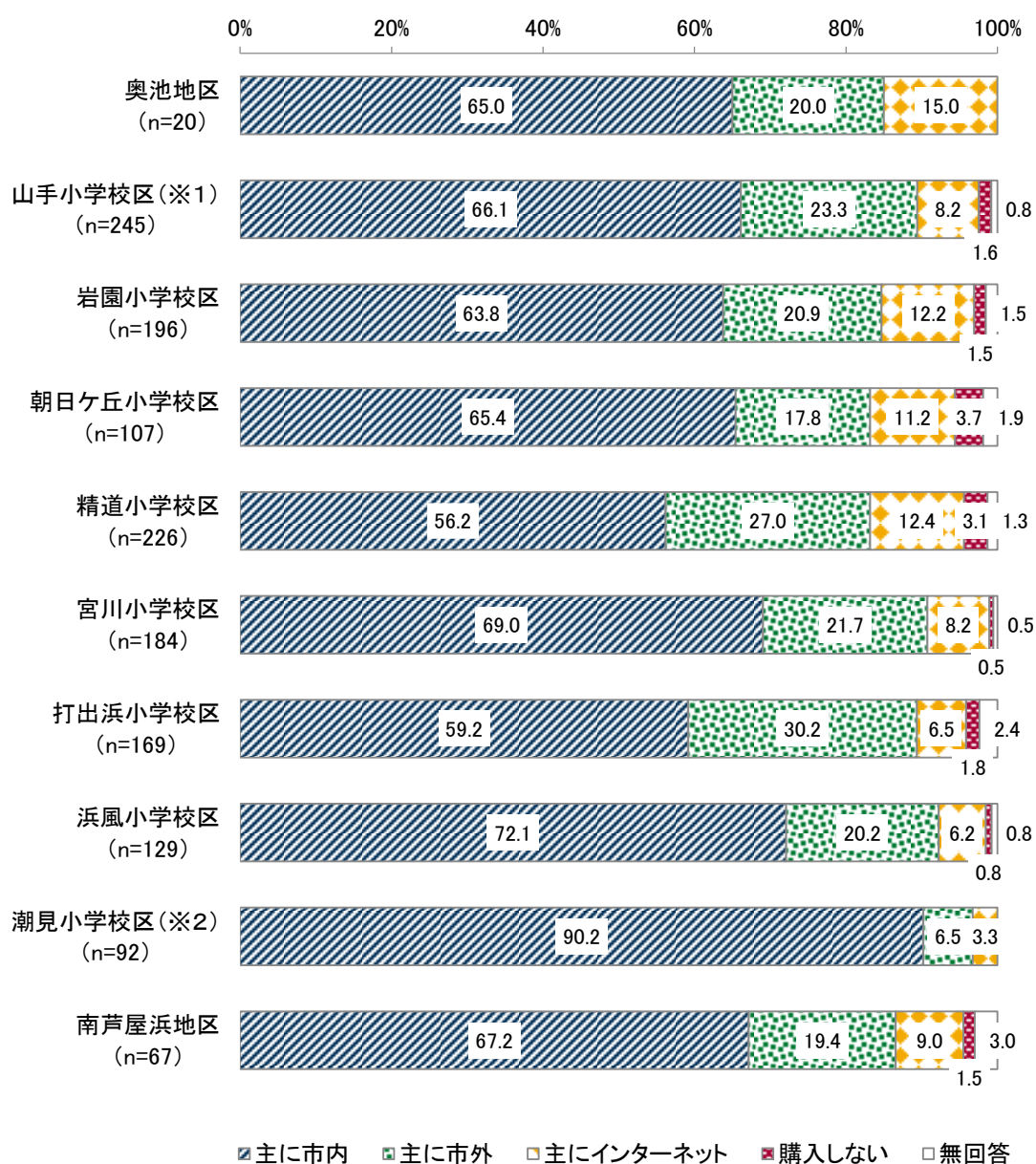
年代別にみると、10 歳代は他の年代と比較して、「購入しない」の割合が高くなっている。40 歳代は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が低く、80 歳以上は他の年代と比較して、「主に市内」で購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して「主に市内」で購入する割合が非常に高くなっている。また、精道小学校区、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で購入する割合が低くなっている。

図表 II-5 3 日用品の購入（クロス集計）





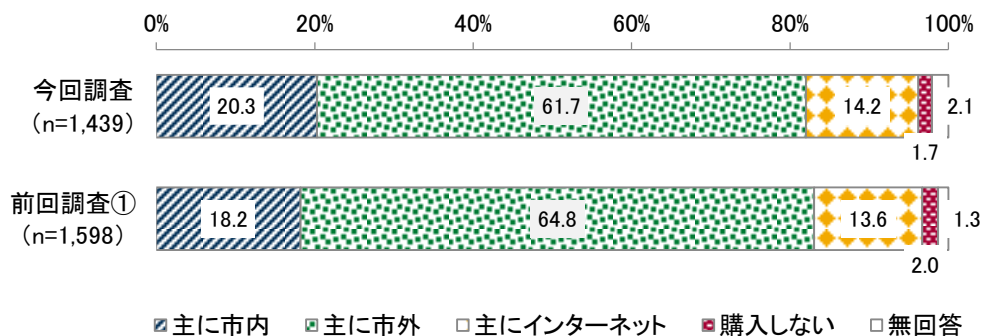


③ 衣料品

「主に市外」の割合が最も高く 61.7%となっている。次いで、「主に市内（20.3%）」、「主にインターネット（14.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」の割合が上昇している。

図表 II-5 4 衣料品の購入

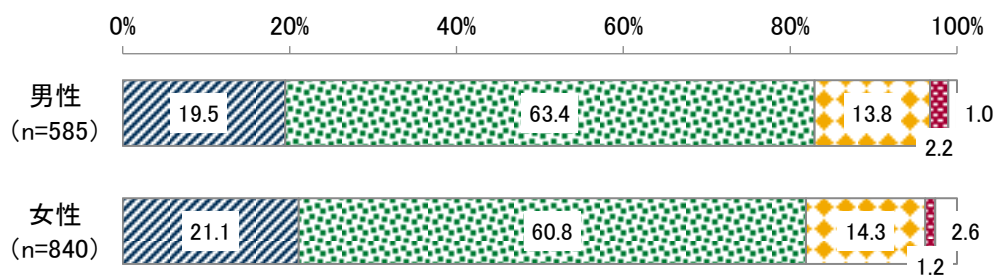


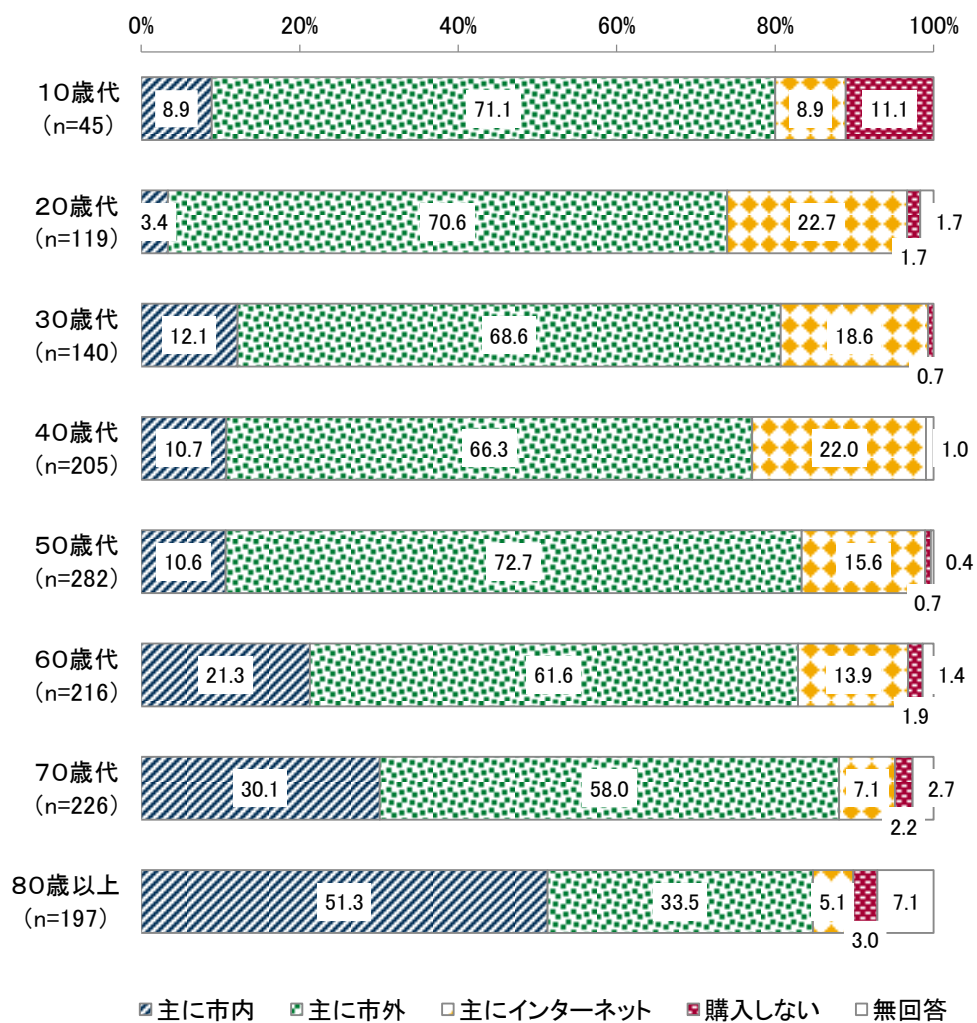
男女で大きな差異はみられない。

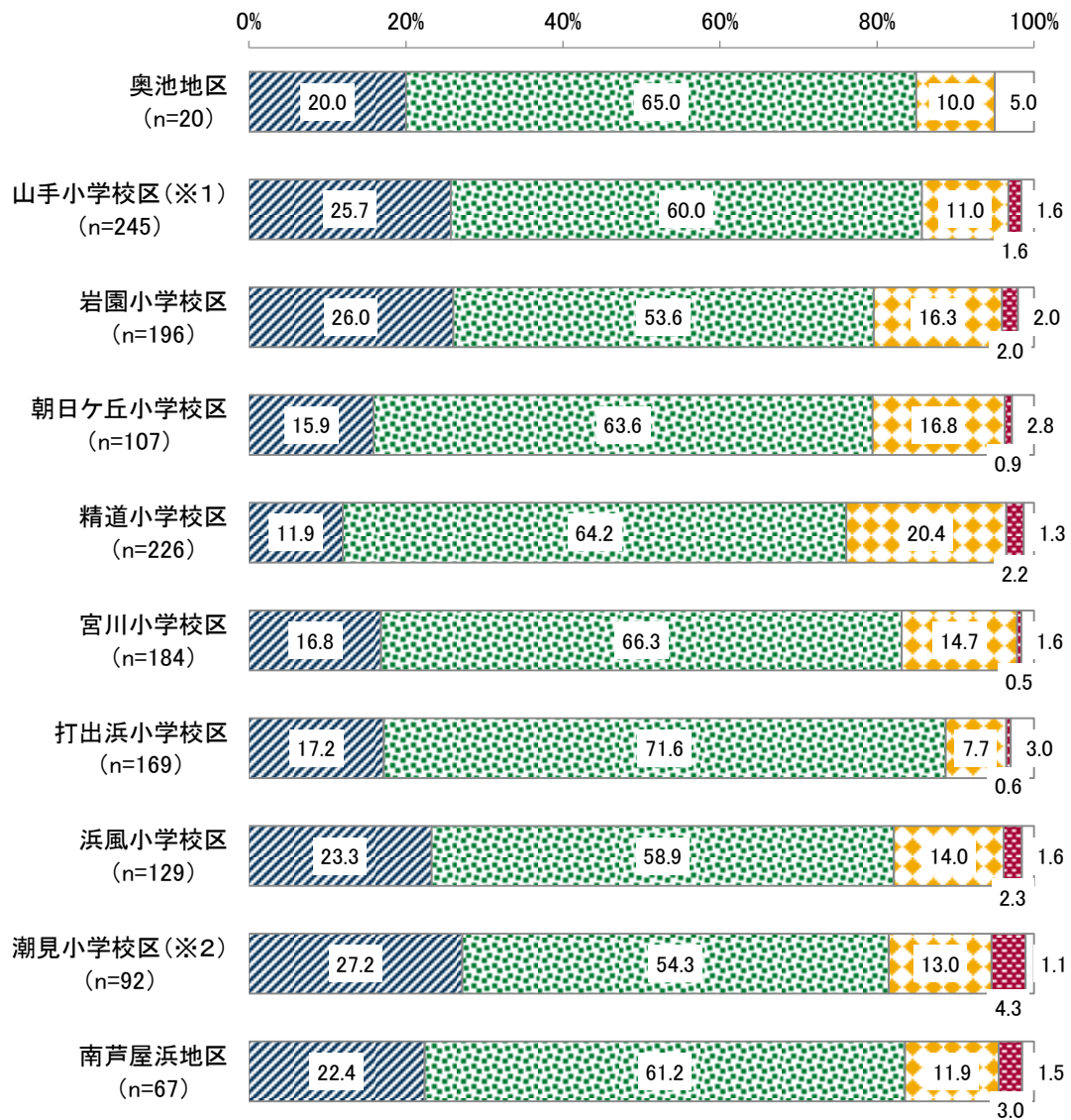
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「主に市外」で衣料品を購入する割合が高くなっている。80 歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で衣料品を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、精道小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で衣料品を購入する割合が低く、「主にインターネット」の割合が高くなっている。打出浜小学校区は他の地区と比較して、「主に市外」の割合が高くなっている。

図表 II-5 5 衣料品の購入（クロス集計）





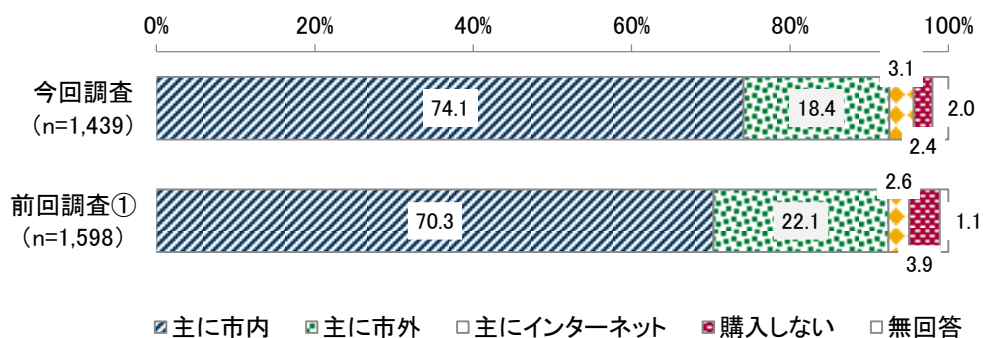


④ 医薬品

「主に市内」の割合が最も高く 74.1%となっている。次いで、「主に市外（18.4%）」、「主にインターネット（3.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「主に市外」の割合が低下し、「主に市内」の割合が上昇している。

図表 II-5 6 医薬品の購入

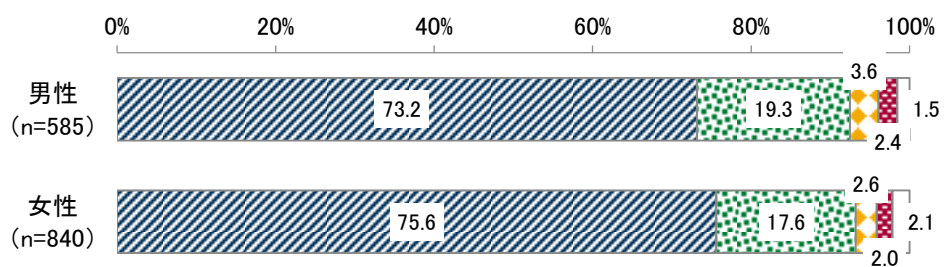


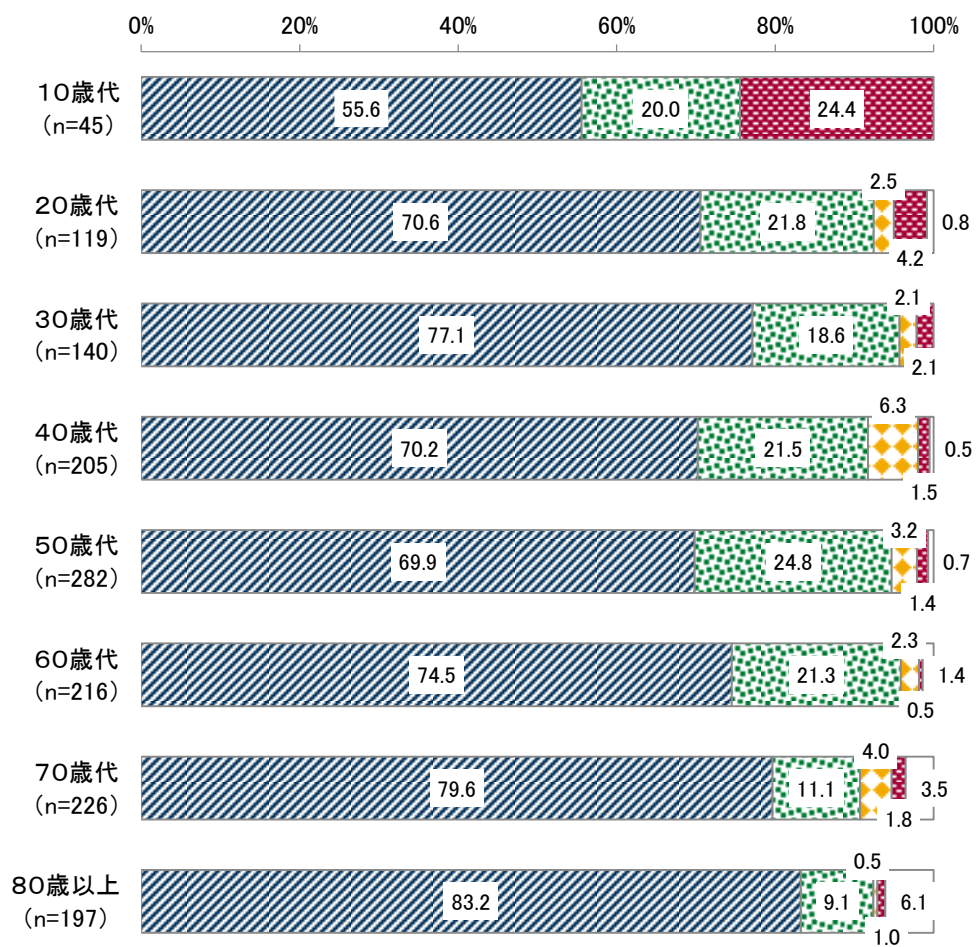
男女で大きな差異はみられない。

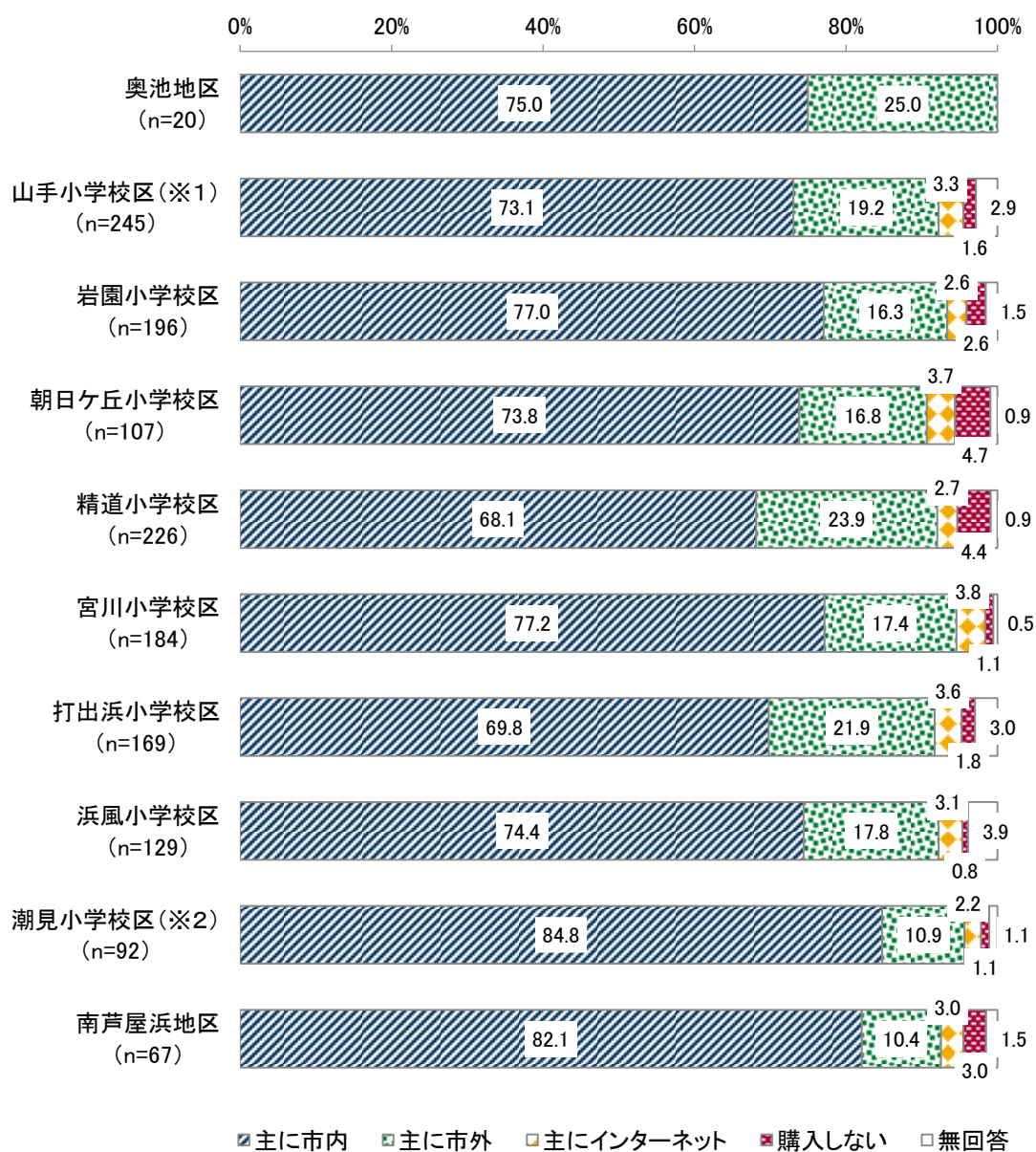
年代別にみると、80 歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で医療品を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、精道小学校区、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で医療品を購入する割合が低くなっている。

図表 II-5 7 医薬品の購入（クロス集計）





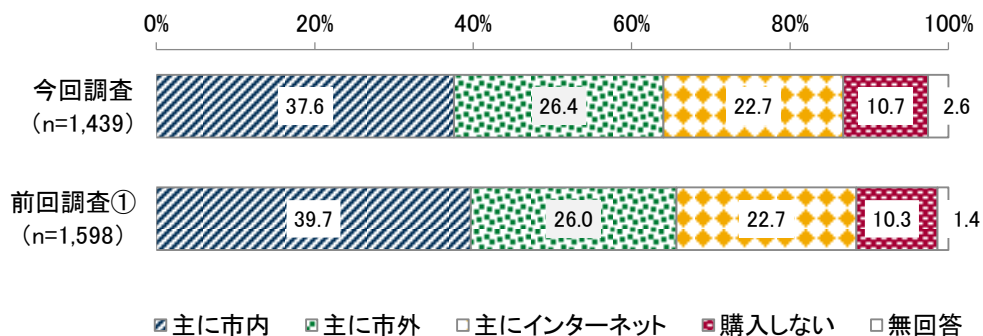


⑤ 書籍

「主に市内」の割合が最も高く 37.6%となっている。次いで、「主に市外（26.4%）」、「主にインターネット（22.7%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-5 8 書籍の購入

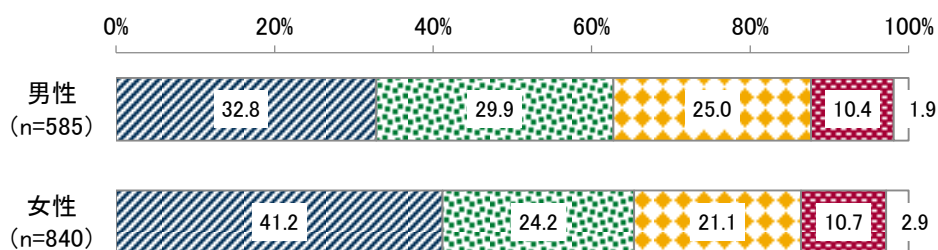


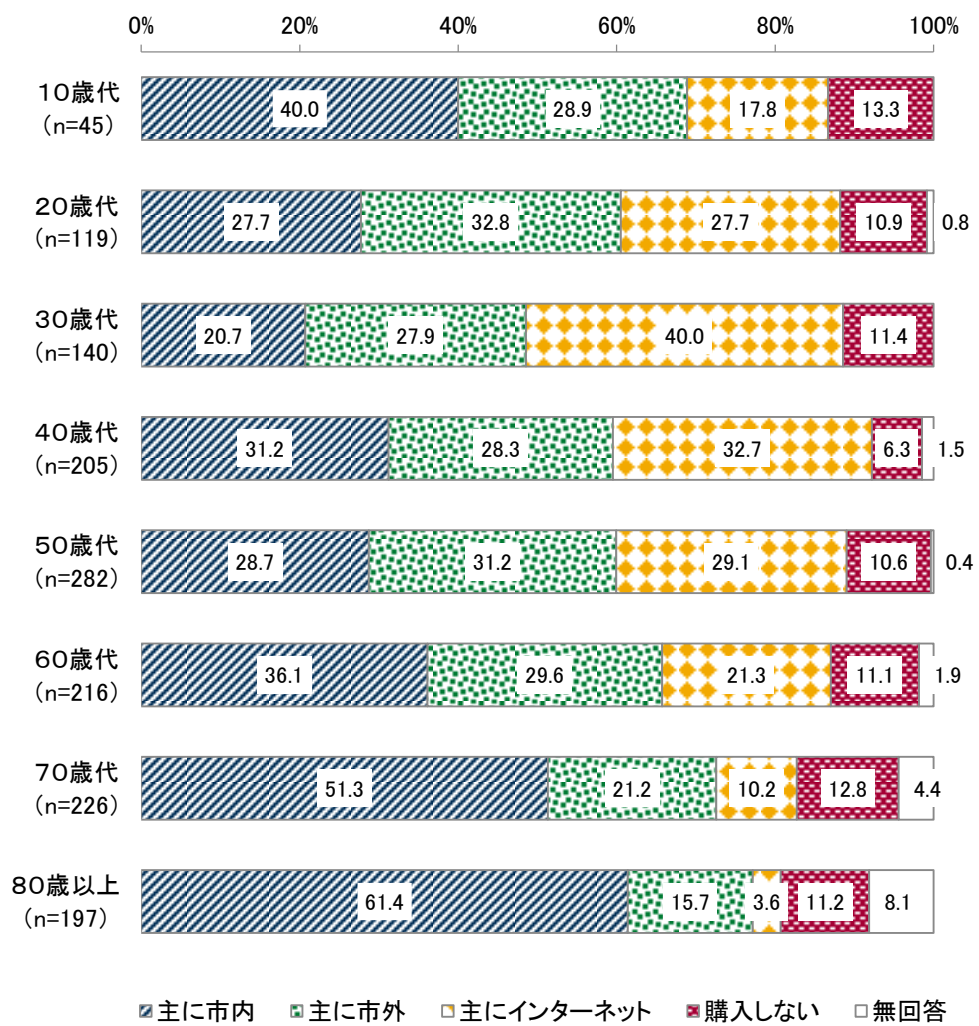
女性は男性と比較して、「主に市内」で書籍を購入する割合が高くなっている。

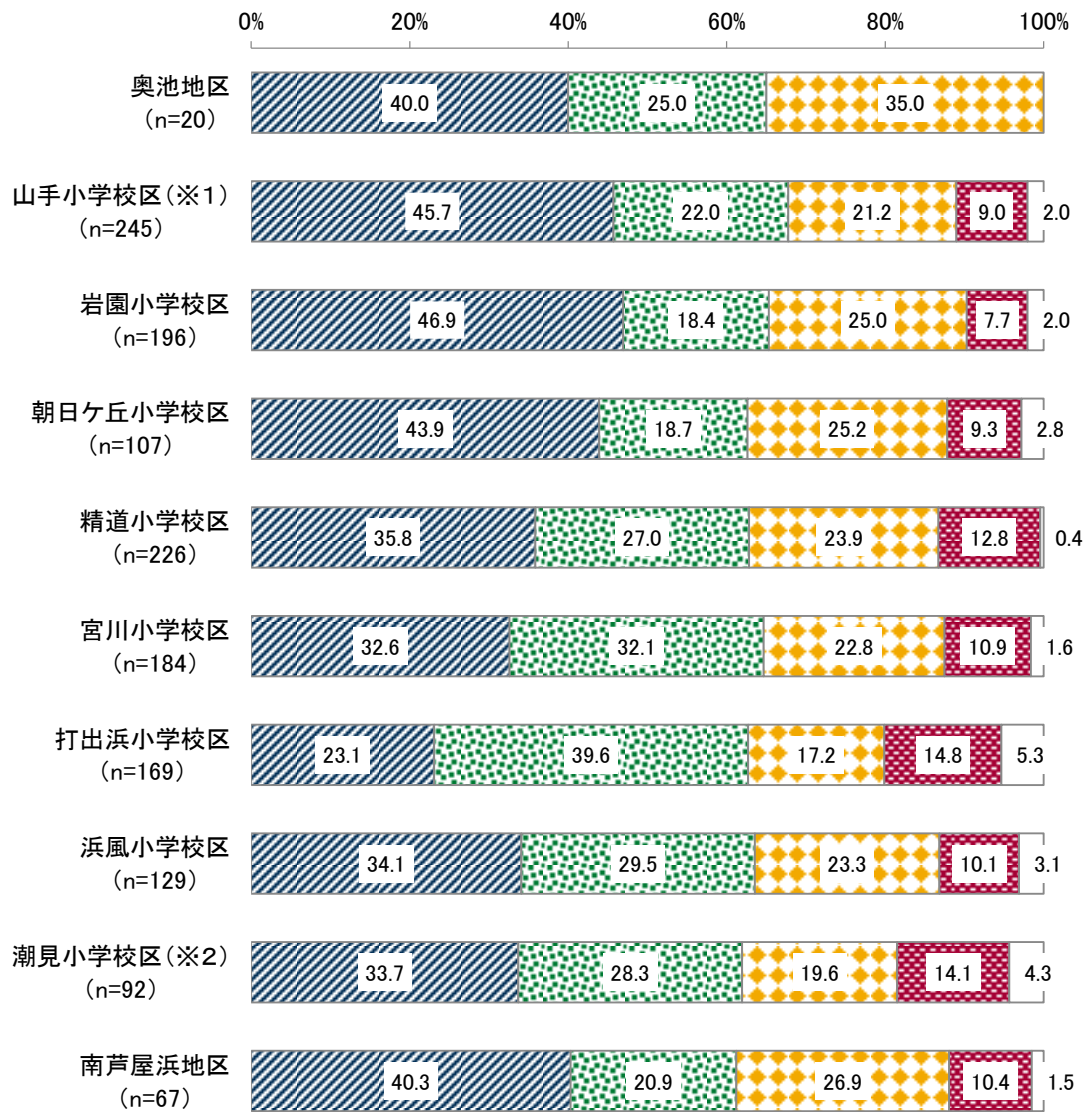
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して、「主にインターネット」で書籍を購入する割合が高くなっている。80 歳以上は、他の年代と比較して、「主に市内」で書籍を購入する割合が高くなっている。

地区別にみると、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「主に市外」で書籍を購入する割合が高くなっている。

図表 II-5 9 書籍の購入（クロス集計）





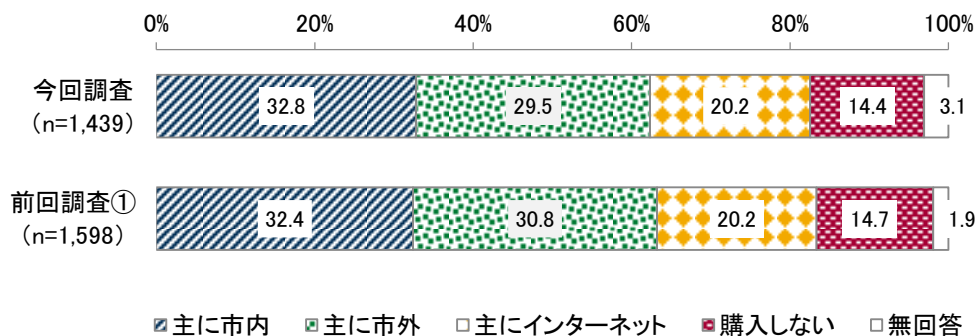


⑥ 化粧品

「主に市内」の割合が最も高く 32.8%となっている。次いで、「主に市外（29.5%）」、「主にインターネット（20.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-6 0 化粧品の購入



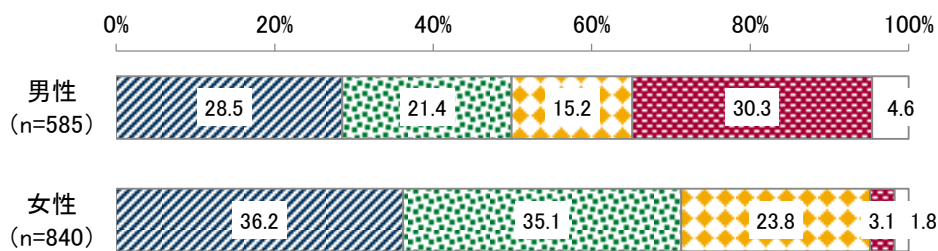
男性は女性よりも、「購入しない」の割合が高くなっている。

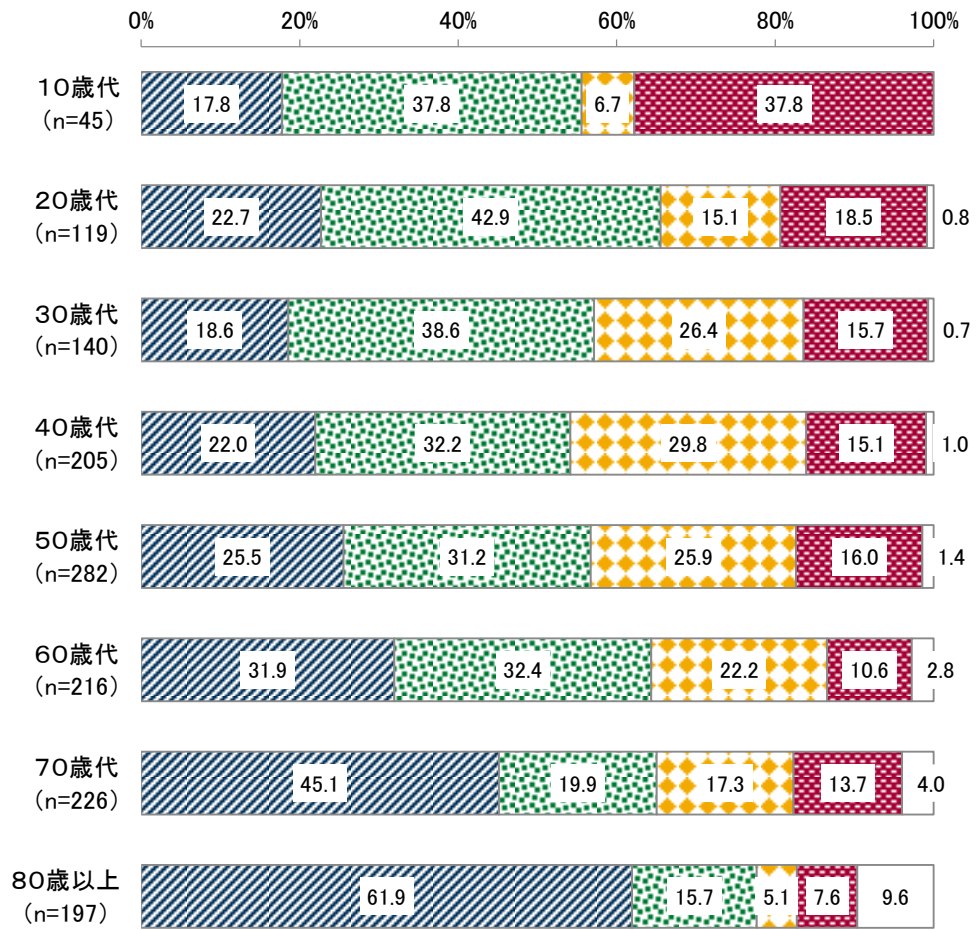
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「主に市外」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

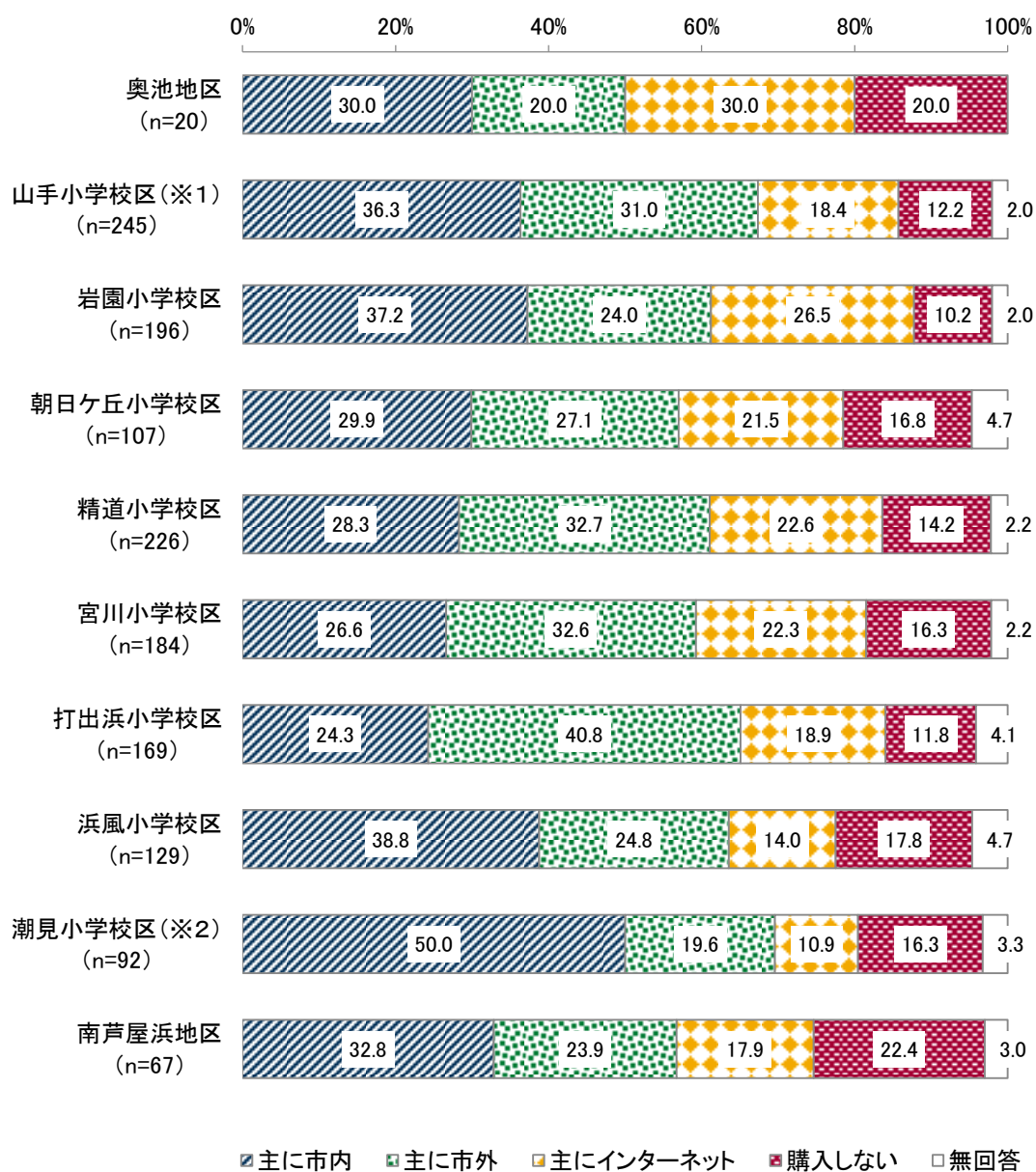
地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して、「主に市内」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

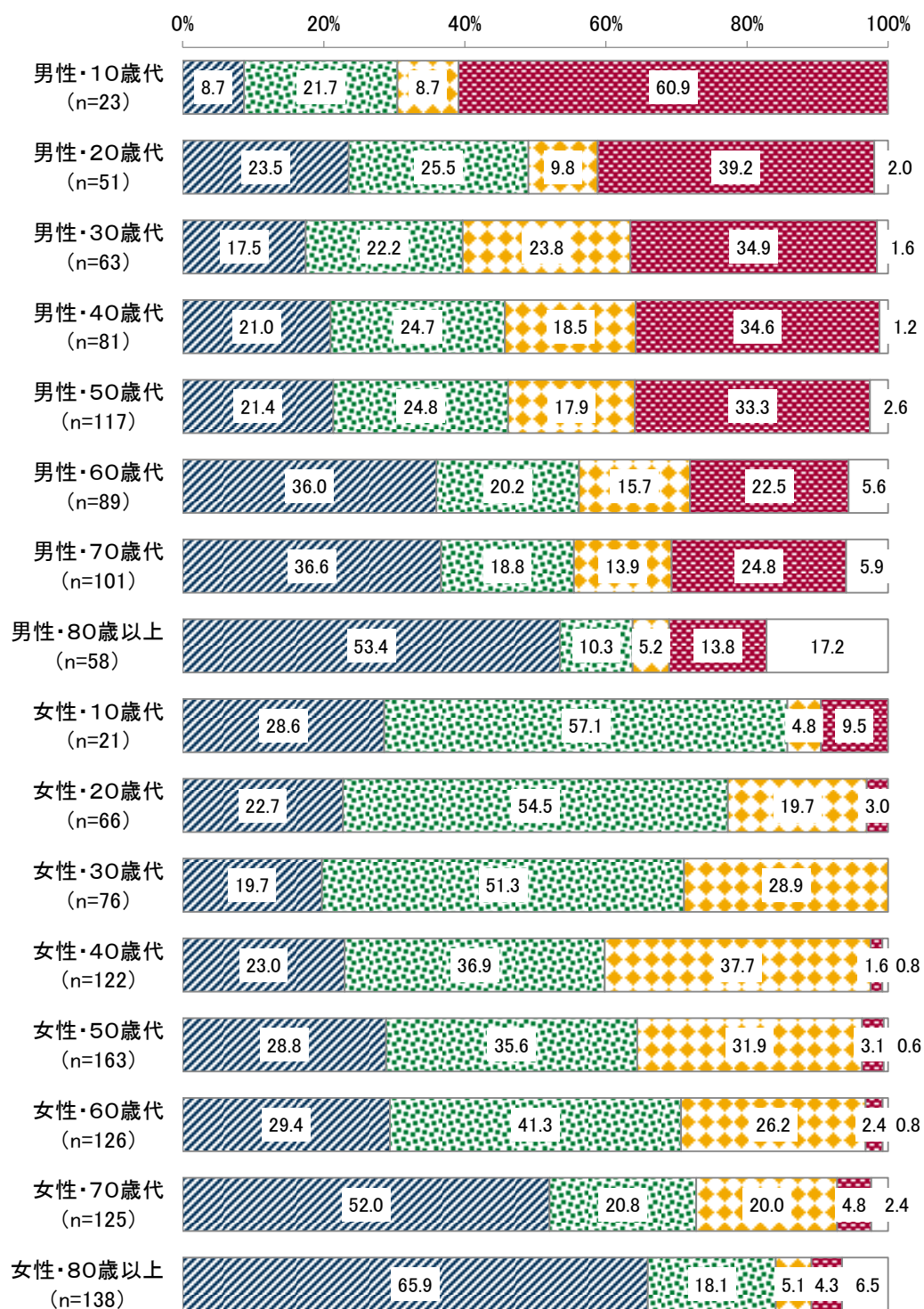
性別・年代別にみると、40 歳代女性は、他の年代の女性と比較して、「主にインターネット」で化粧品を購入する割合が高くなっている。また、70 歳代、80 歳以上の女性は、「主に市内」で化粧品を購入する割合が高くなっている。

図表 II-6 1 化粧品の購入（クロス集計）









(22) 問 27 家事や育児など夫婦間での分担についての考え

① 元集計

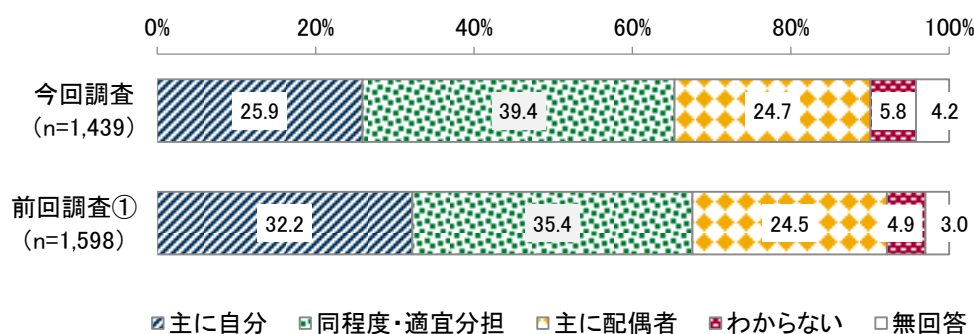
1) 生活費の負担

理想で「同程度・適宜分担」が 39.4%と最も高い一方で、現実では 26.6%と 12.8 ポイント低くなっている。

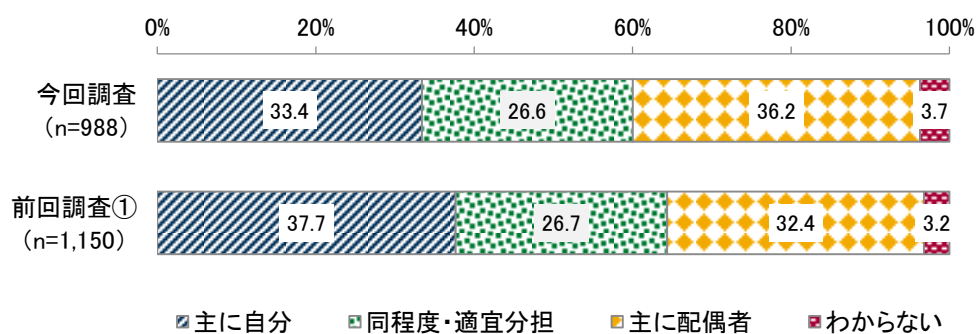
前回調査①と比較すると、理想については、「主に自分」の割合が低下し、「同程度・適宜分担」の割合が上昇している。現実については、「主に自分」の割合が低下し、「主に配偶者」の割合が上昇している。

図表 II-6 2 生活費の負担

【理想】



【現実】



(注) 【現実】の「生活費の負担」「家事」は配偶者のいる方（事実婚及びパートナーシップ含む）のみ、「育児・子育て」は該当する方のみ、が答える設問であるため、無回答を除いたサンプルを集計している。以下②まで同様。

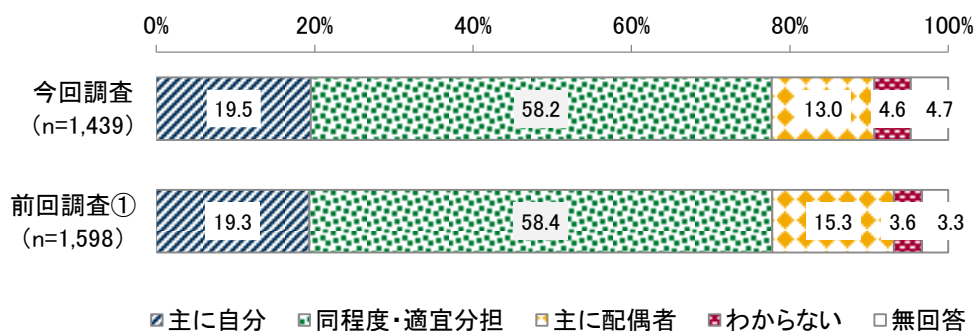
2) 家事

理想で「同程度・適宜分担」が 58.2%と最も高い一方で、現実では 30.2%と 28.0 ポイント低くなっている。

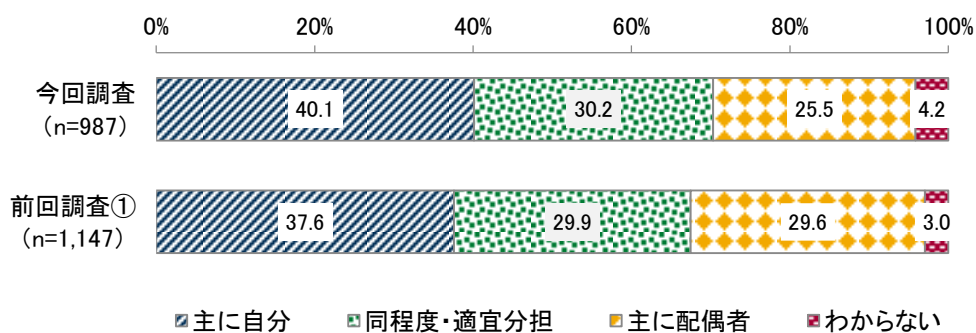
前回調査①と比較すると、理想については大きな変化は見られない。現実については、「主に自分」の割合が上昇している。

図表 II-6 3 家事

【理想】



【現実】



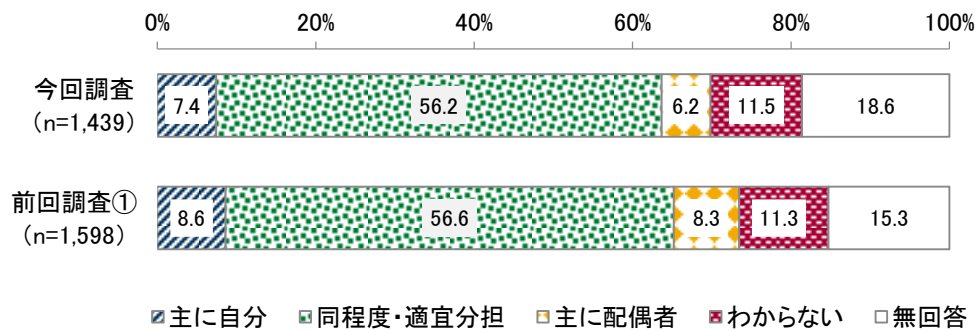
3) 育児・子育て

理想で「同程度・適宜分担」が 56.2%と最も高い一方で、現実では 29.7%と 26.5 ポイント低くなっている。

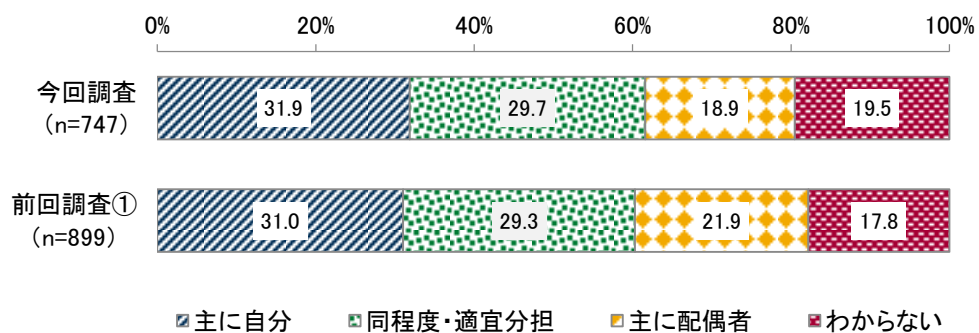
前回調査①と比較すると、理想については大きな変化は見られない。現実については、「主に配偶者」の割合が低下している。

図表 II-6 4 育児・子育て

【理想】



【現実】



② 性別再集計

回答者の性別から、分担について「同程度・適宜分担」「主に男性」「主に女性」「わからない」に分類した。

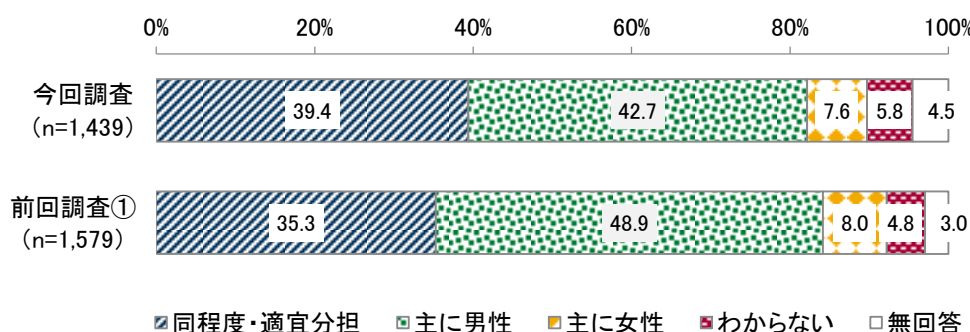
1) 生活費の負担

理想では「主に男性（42.7%）」が最も多く、現実でも同様に、「主に男性（81.5%）」が最も多くなっている。

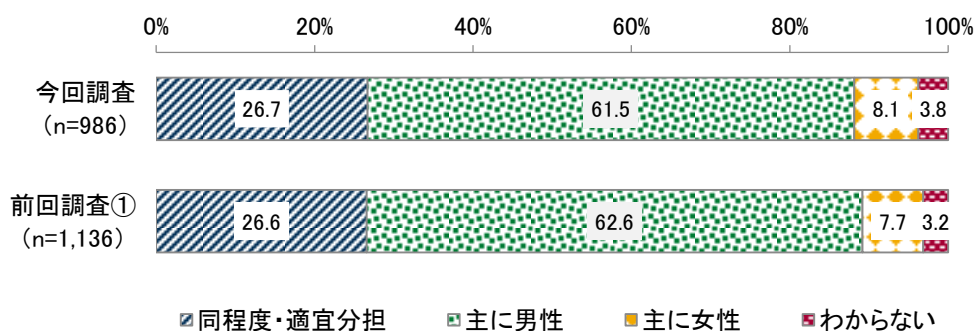
前回調査①と比較すると、理想では「主に男性」の割合は減少し、「同程度・適宜分担」が増加している。

図表 II-65 生活費の負担(性別再集計)

【理想】



【現実】



(注) 男性回答者については、「主に自分」を「主に男性」に、「主に配偶者」を「主に女性」に変換、女性回答者については「主に自分」を「主に女性」に、「主に配偶者」を「主に男性」に変換している。性別を「上記に当てはまらない」「答えたくない」「無回答」としたデータは含まない。以下 3) まで同様。

理想について、

女性は男性よりも、「同程度・適宜分担」の割合が高く、「主に男性」の割合が低くなっている。

年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が大幅に高く、「主に男性」の割合が低くなっている。

地区別にみると、岩園小学校区、潮見小学校区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

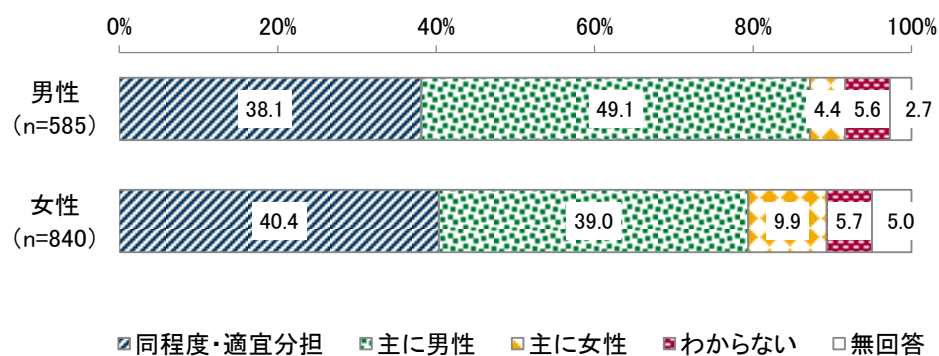
現実について、

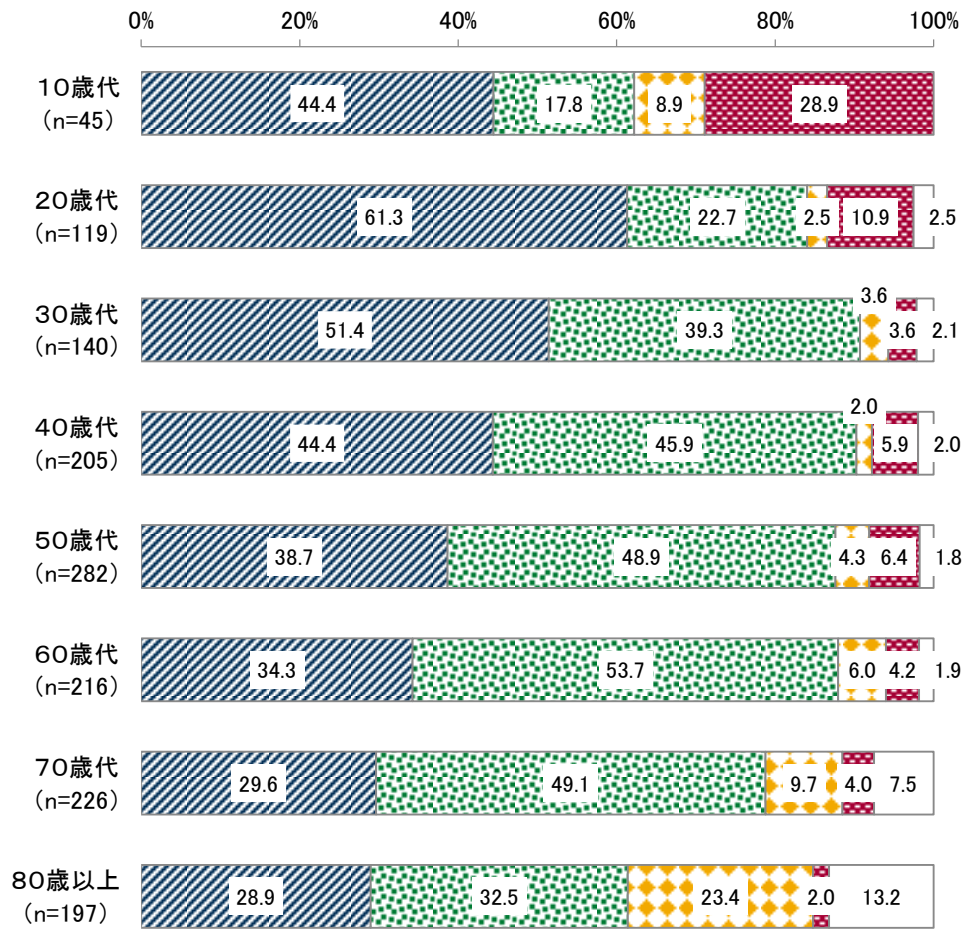
男女で大きな差異はみられない。

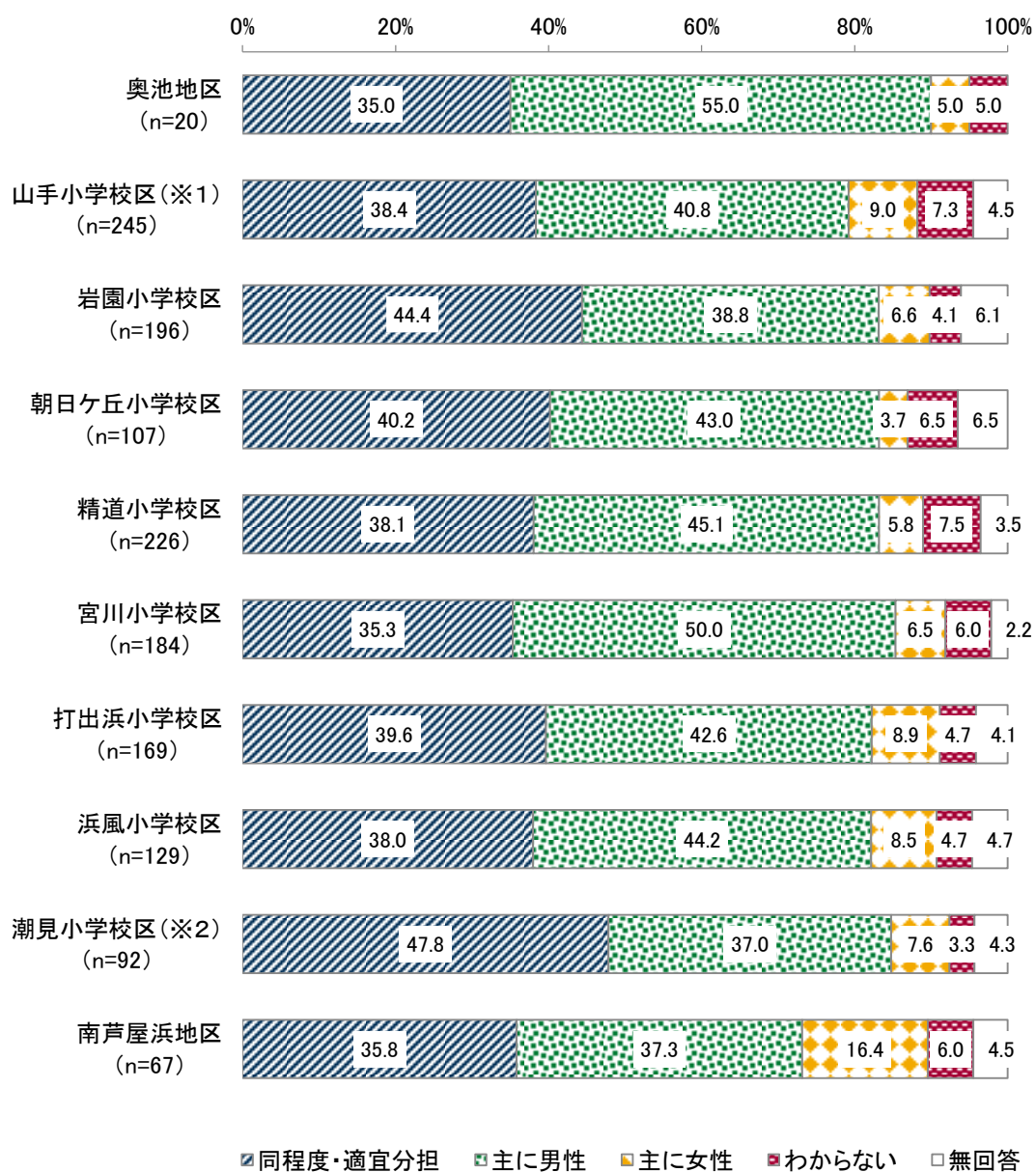
年代別にみると、20 歳代、30 歳代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

図表 II-6 6 生活費の負担(性別再集計・クロス集計)

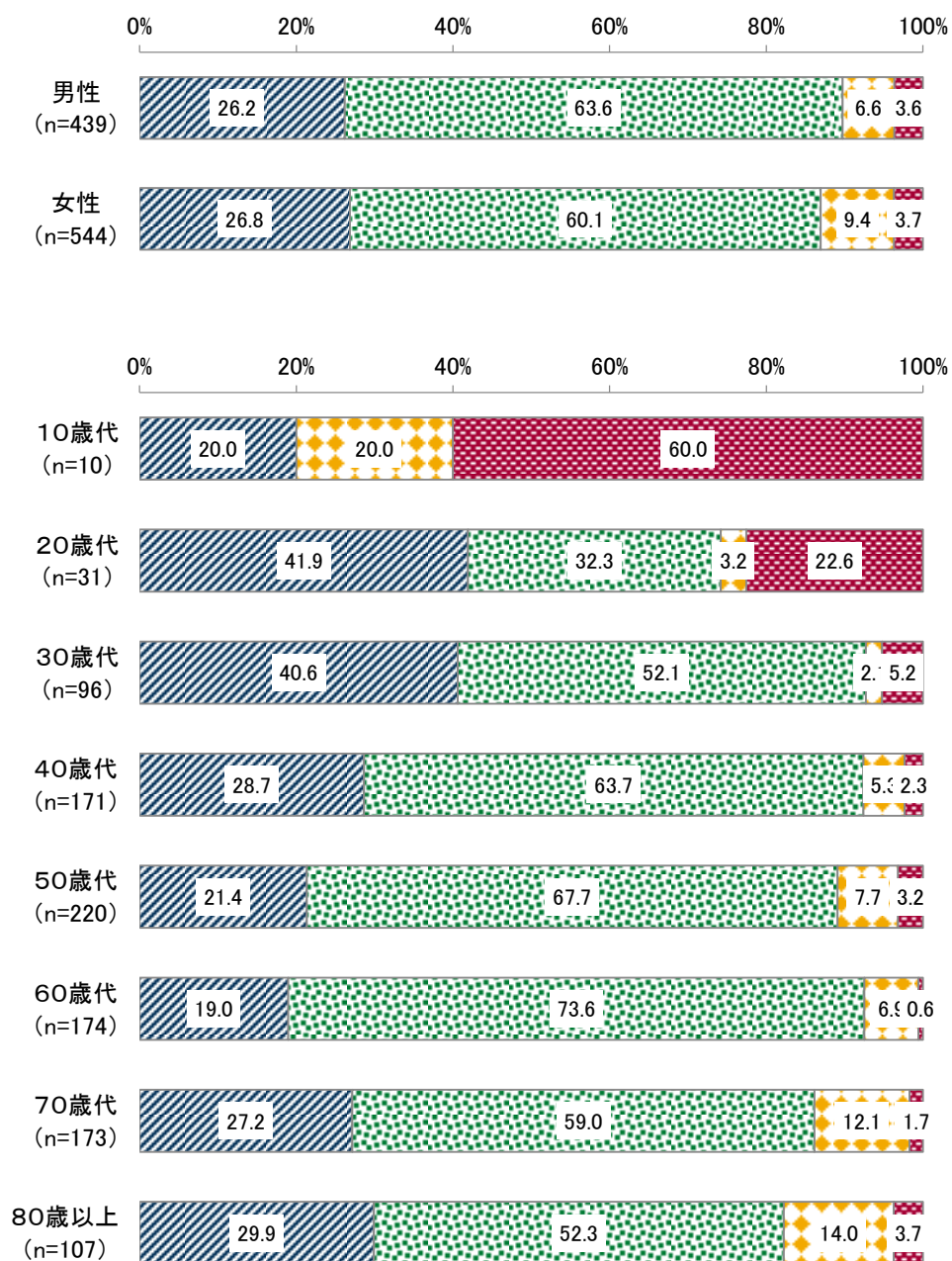
【理想】

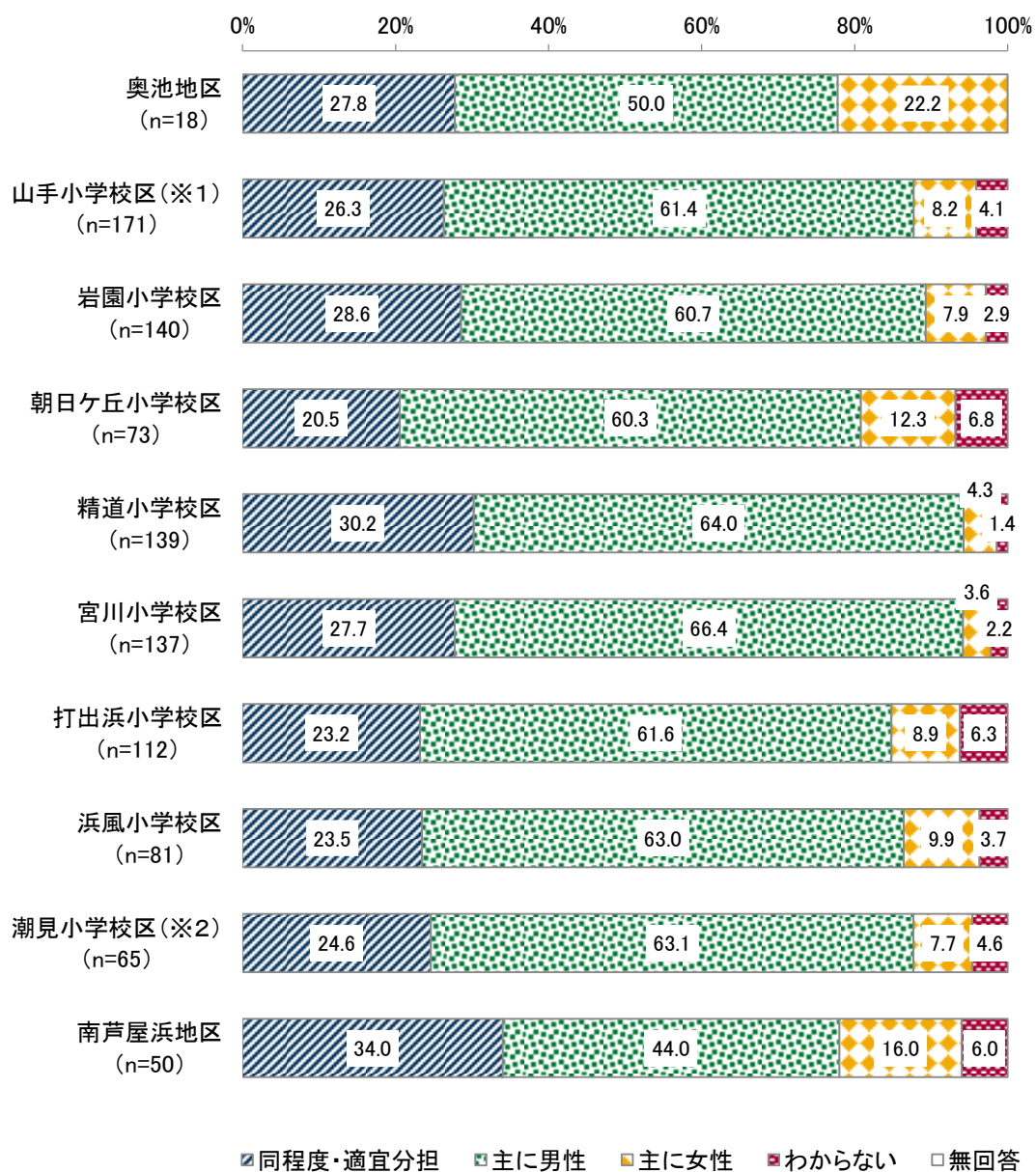






【現実】





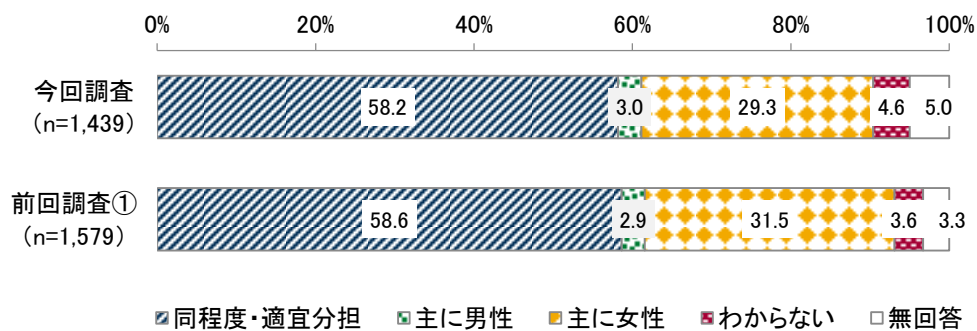
2) 家事

理想で「同程度・適宜分担（58.2%）」が最も高い一方で、現実では「主に女性（61.8%）」が最も高くなっている。

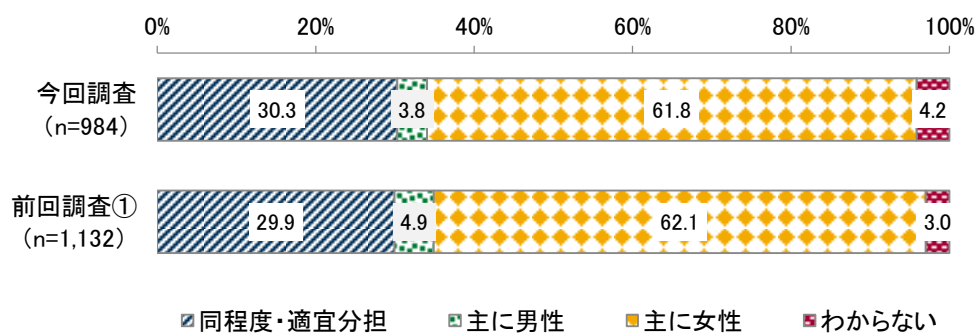
前回調査①と比較すると、理想、現実共に大きな差異は見られない。

図表 II-67 家事(性別再集計)

【理想】



【現実】



理想について、

男女で大きな差異はみられない。

年代別にみると、30 歳代以下は、それより上の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

現実について、

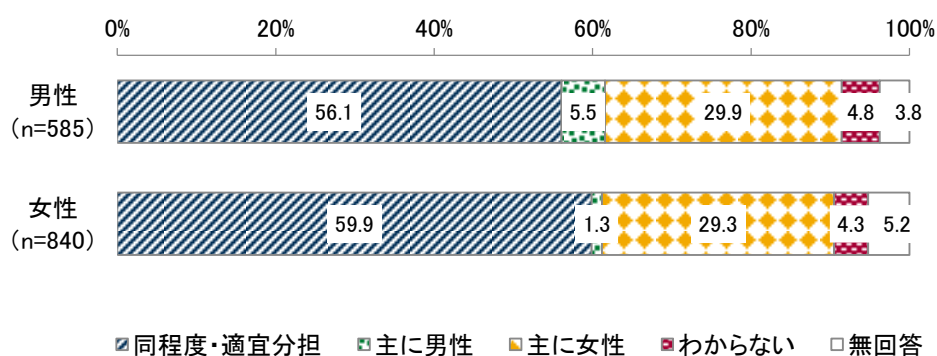
女性は男性と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

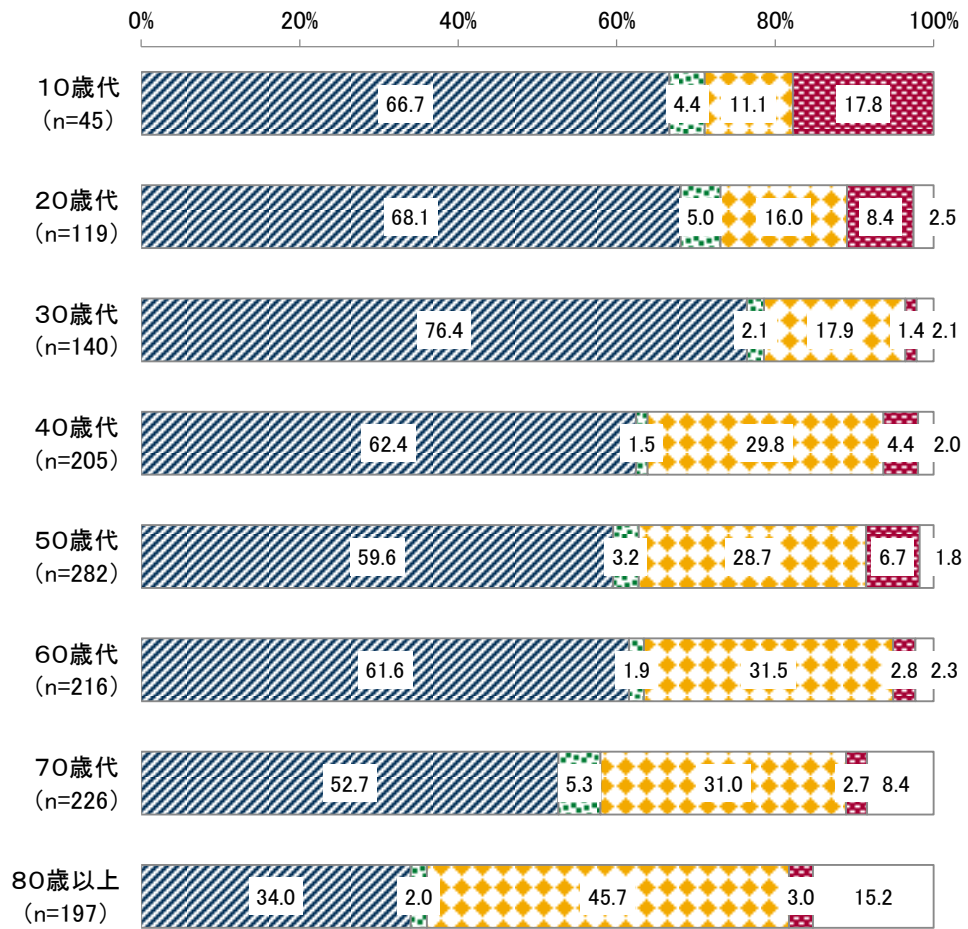
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

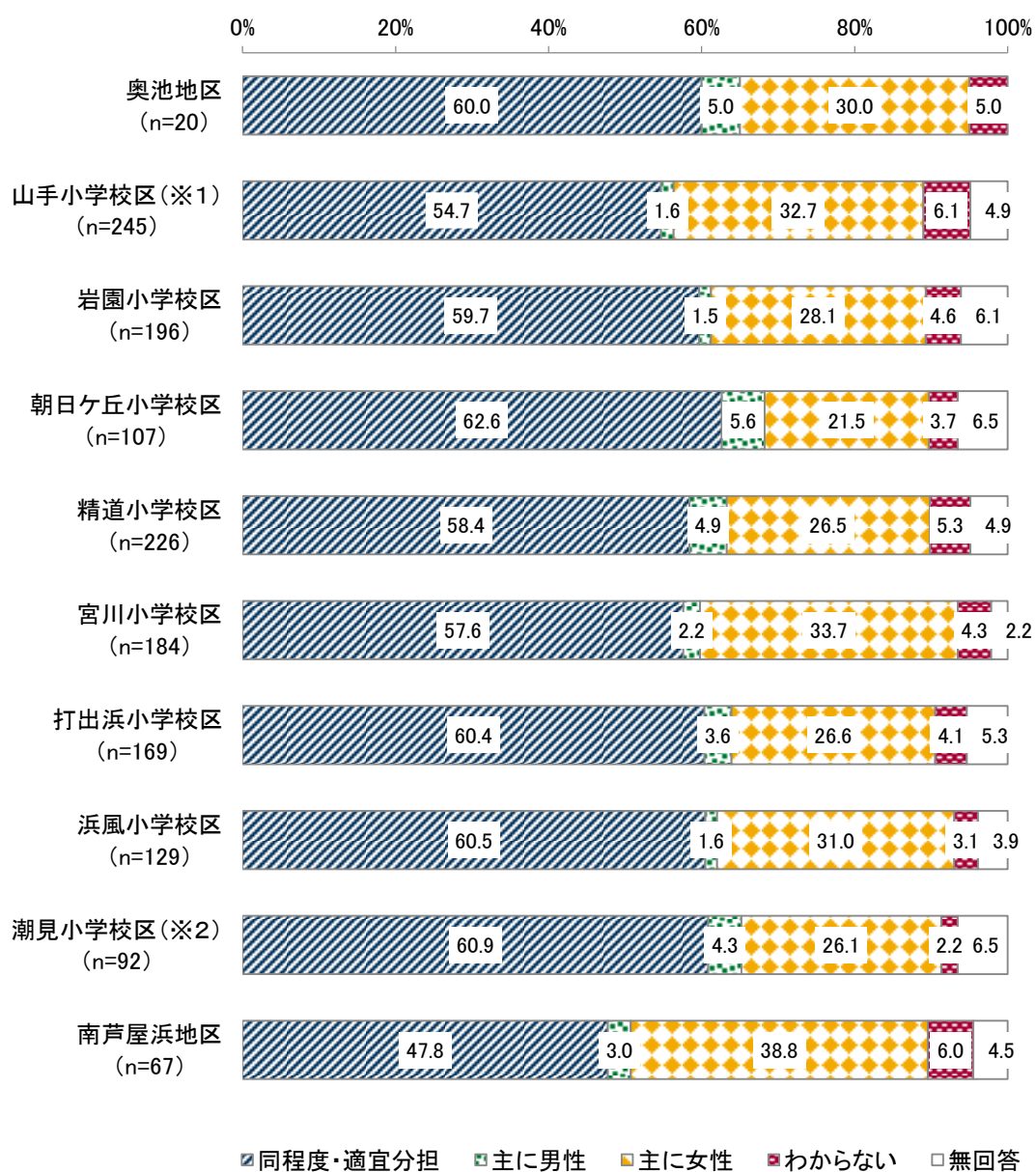
地区別にみると、精道小学校区、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

図表 II-68 家事(性別再集計・クロス集計)

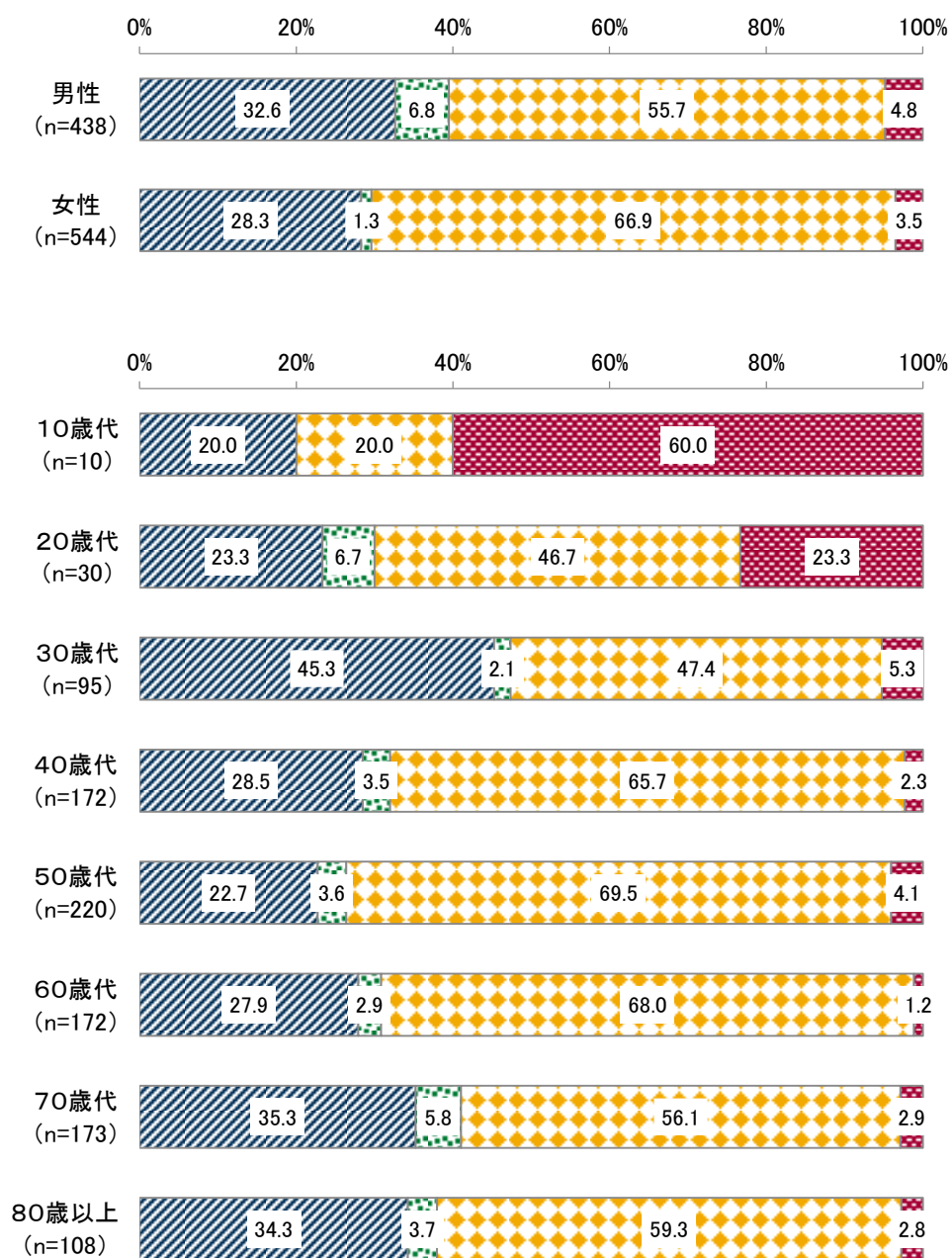
【理想】

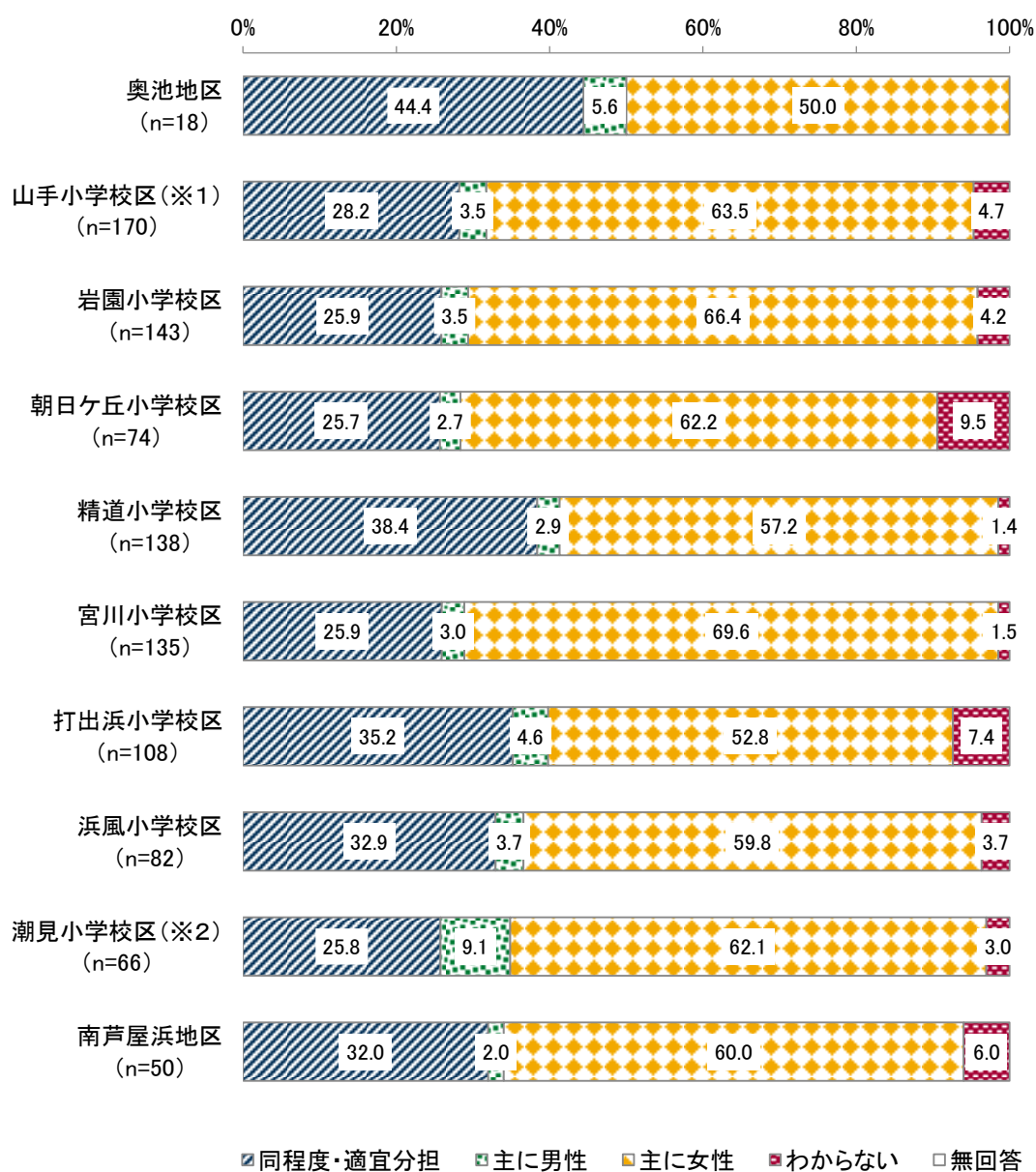






【現実】





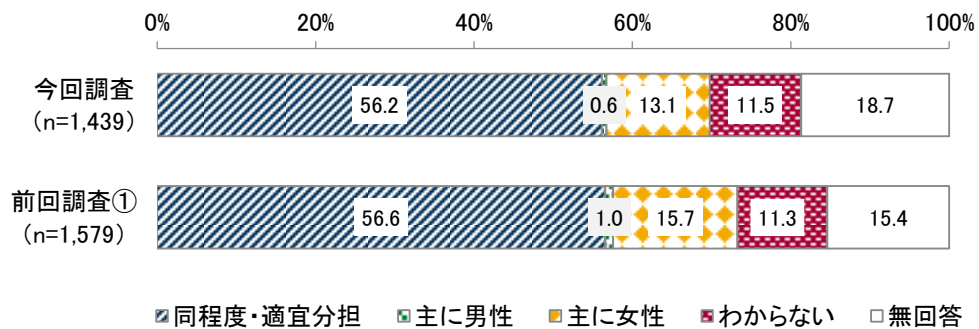
3) 育児・子育て

理想で「同程度・適宜分担（56.2%）」が最も高い一方で、現実には「主に女性(49.4%)」が最も高くなっている。

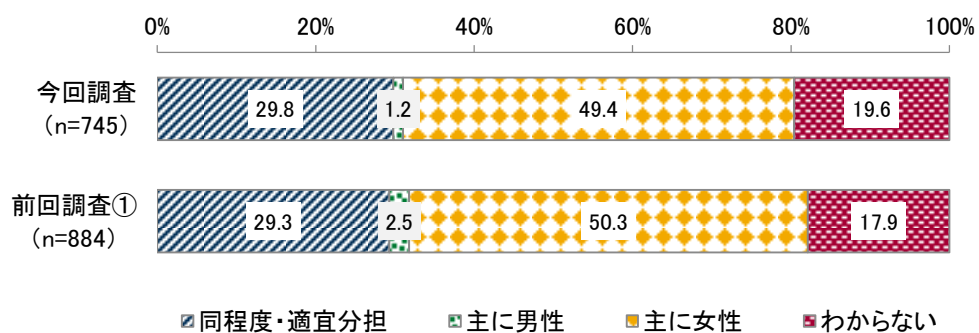
前回調査①と比較すると、理想では、「主に女性」の割合が少し低くなっている。現実では、大きな差異は見られない。

図表 II-6 9 育児・子育て(性別再集計)

【理想】



【現実】



理想について、

女性は男性よりも「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30 歳代以下はそれ以上の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が高くなっている。

地区別にみると、山手小学校区、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

現実について、

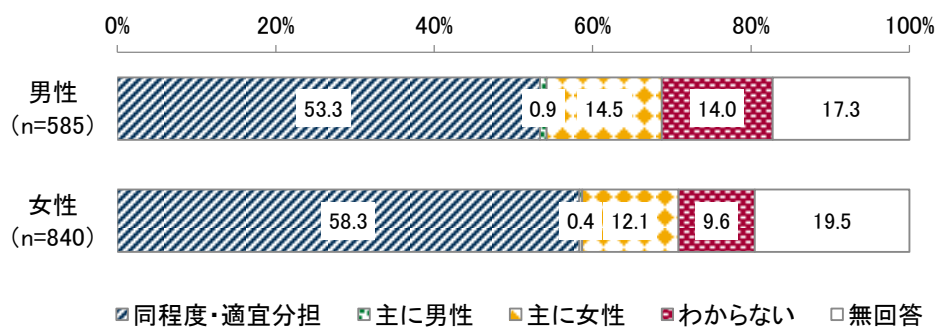
女性は男性よりも「主に女性」の割合が高くなっている。

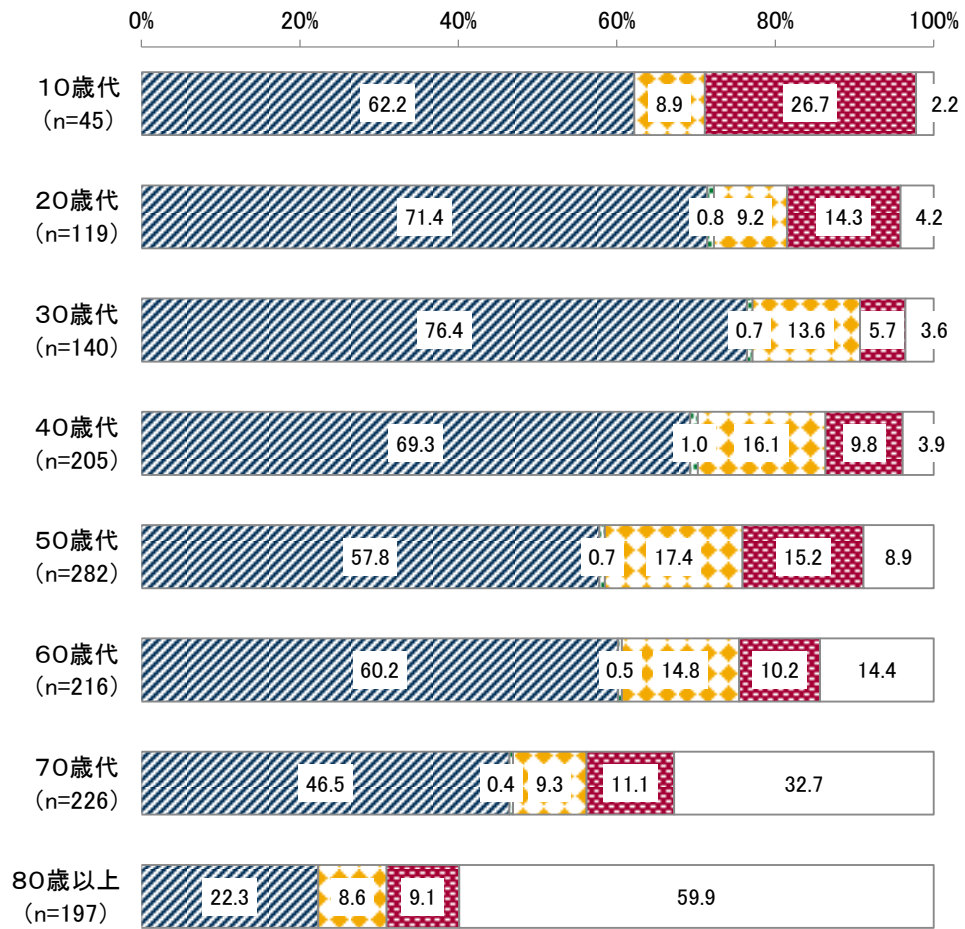
年代別にみると、50 歳代、60 歳代は他の年代と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低く、「主に女性」の割合が高くなっている。

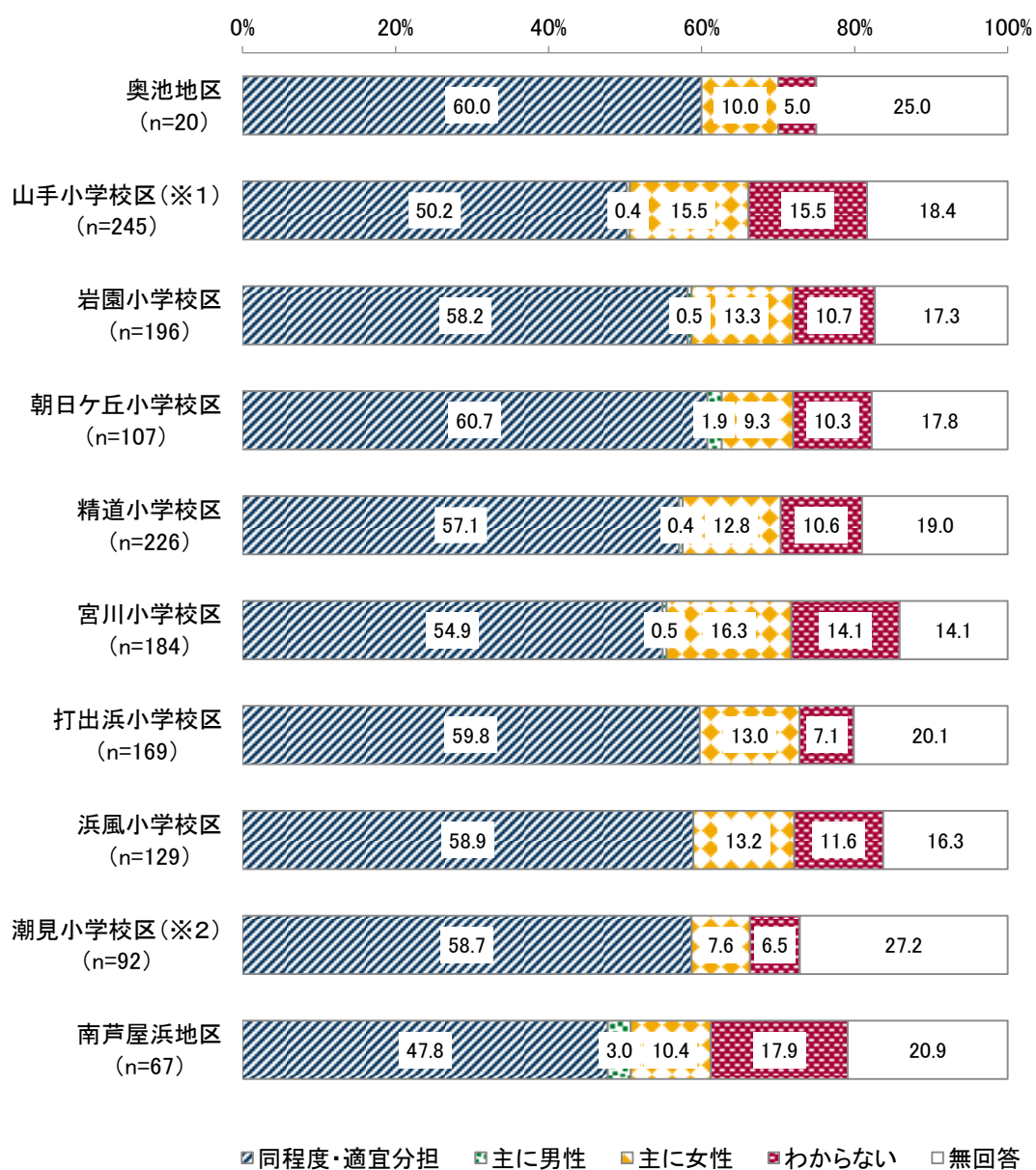
地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区・浜風小学校区は他の地区と比較して、「同程度・適宜分担」の割合が低くなっている。

図表 II-70 育児・子育て(性別再集計・クロス集計)

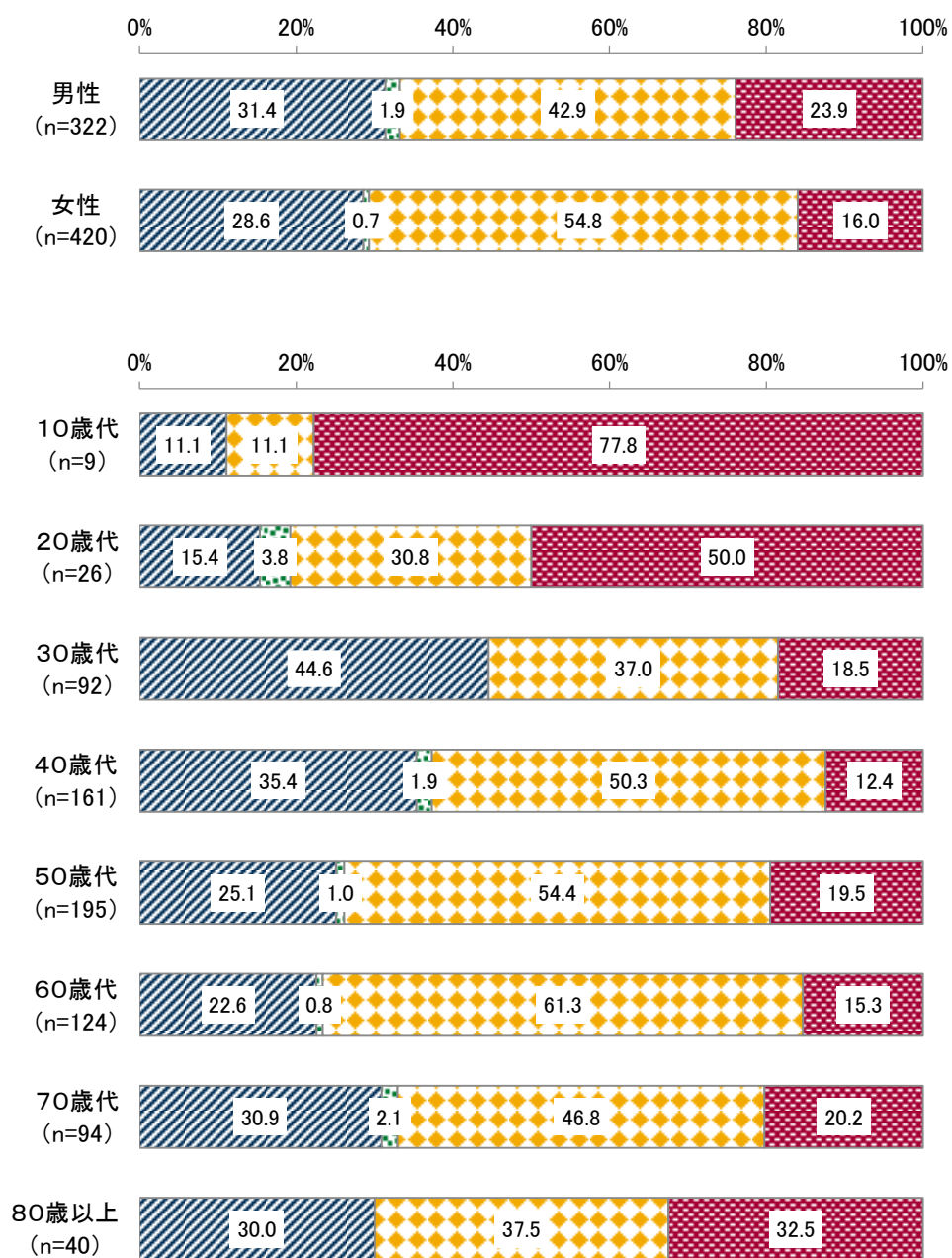
【理想】

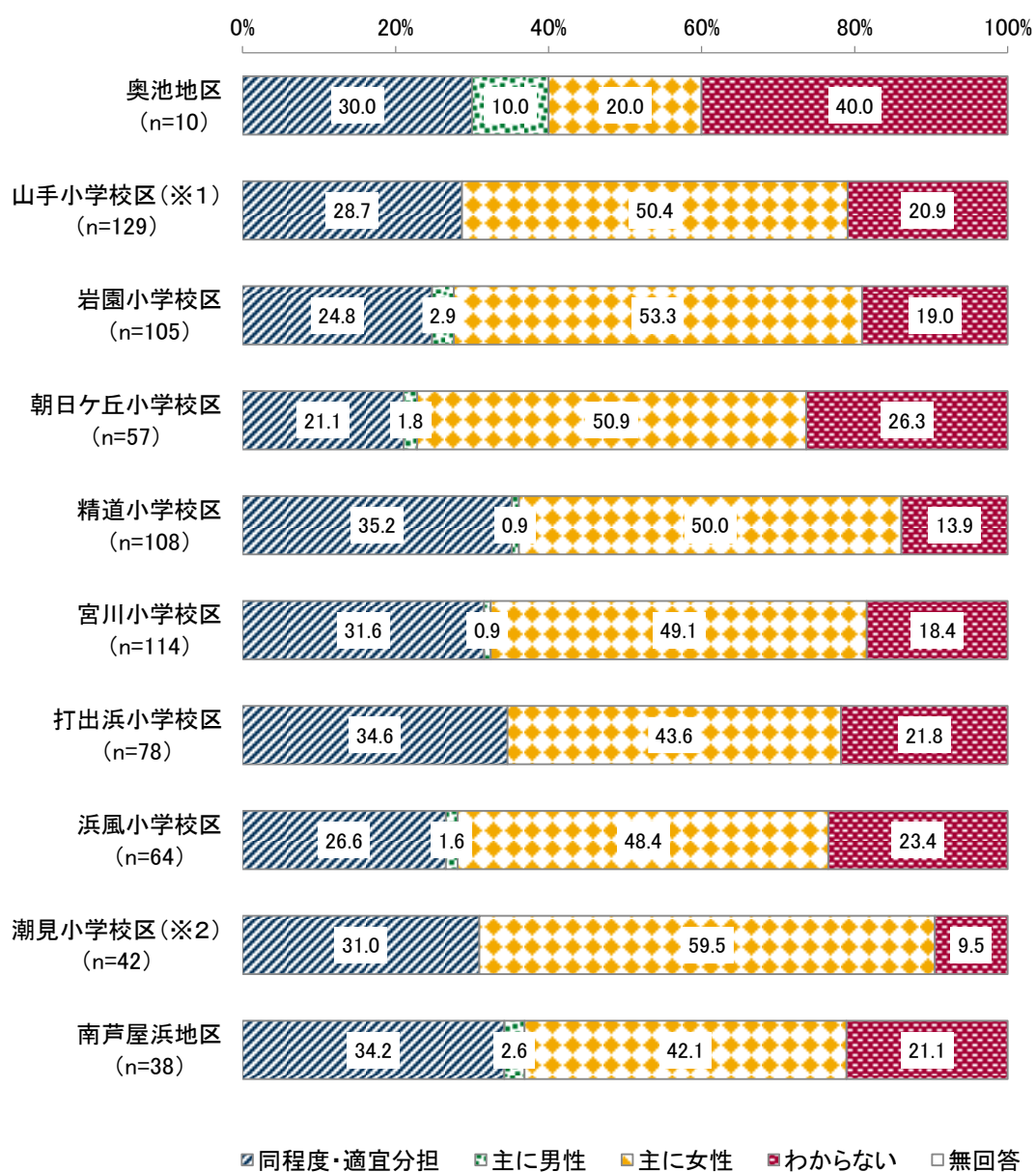






【現実】



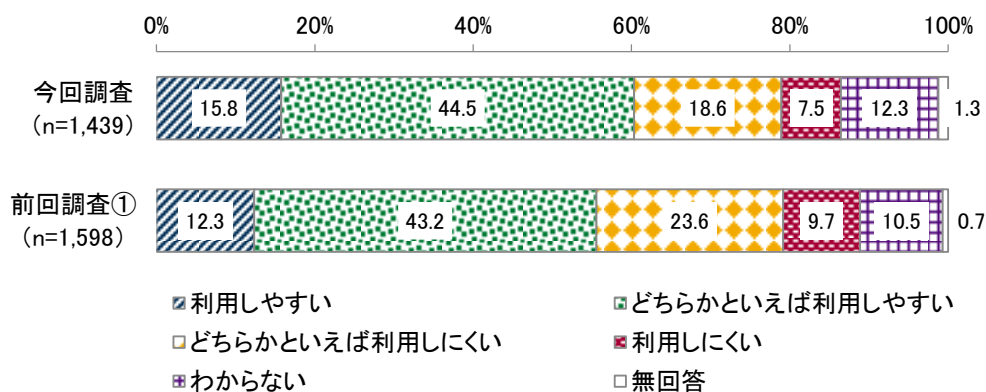


(23) 問 28 市役所への届け出や書類申請などの手続き

「どちらかといえば利用しやすい」の割合が最も高く 44.5%となっている。次いで、「どちらかといえば利用しにくい（18.6%）」、「利用しやすい（15.8%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「利用しやすい」の割合が上昇し、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が低下している。

図表 II- 7 1 市役所への届け出や書類申請などの手続き

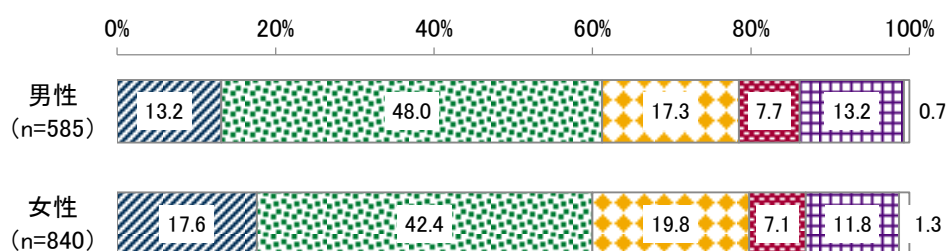


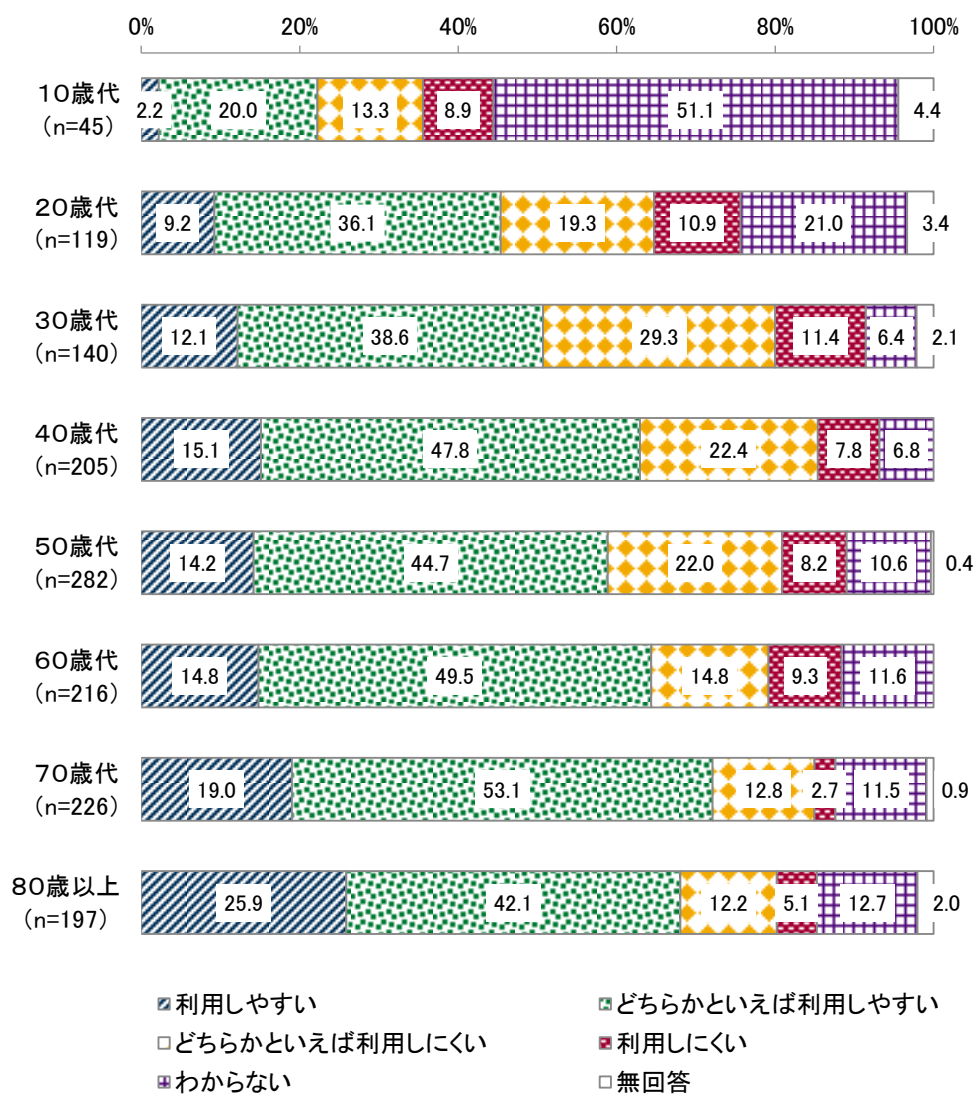
男女で大きな差異は見られない。

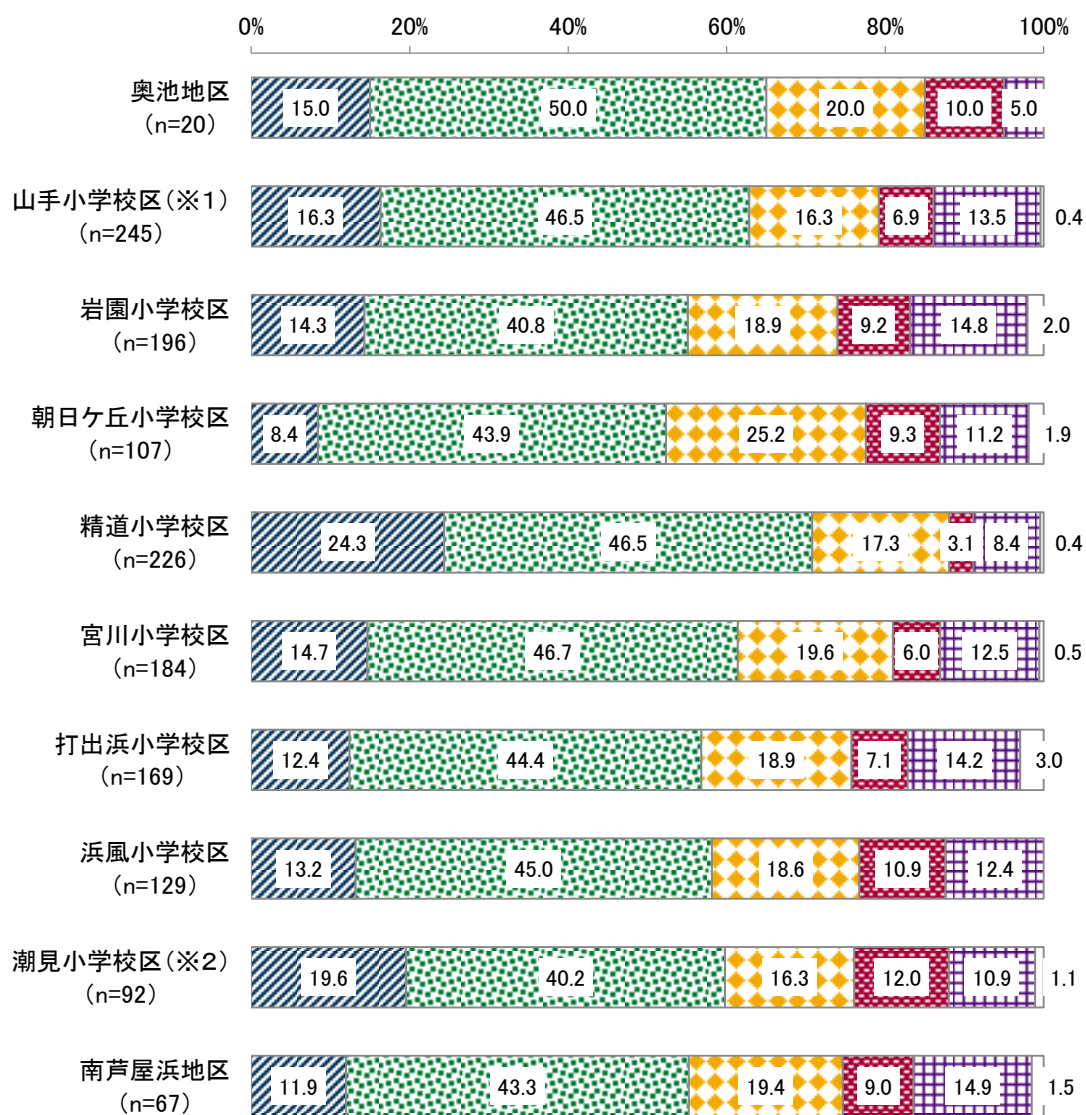
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区は他の地区と比較して「利用しやすい」の割合が低く、「どちらかといえば利用しにくい」「利用しにくい」の割合が高くなっている。

図表 II- 7 2 市役所への届け出や書類申請などの手続き（クロス集計）







3. 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについて

(1) 問 29 第5次芦屋市総合計画の各施策の達成状況についての満足度

「満足」と「やや満足」の割合の合計に着目すると、

「⑨【自然環境】美しい緑と良好なまちなみの景観が保たれ、公園や公共施設などの公共空間が活用されている。」における割合が最も高く81.3%となっている。

次いで、「⑥【生活環境】日々を、快適に過ごすことができ、芦屋市で暮らすことにちょっとした価値を感じる。（75.4%）」、「⑩【都市計画】道路や橋、上下水道、ごみ処理施設など生活に欠かせない施設・設備が整備されている。（74.3%）」となっている。

前回調査からの満足度の上昇率に着目すると、「⑩【都市計画】道路や橋、上下水道、ごみ処理施設など生活に欠かせない施設・設備が整備されている。」（11.1 ポイント増加）、「⑬【行政経営の柔軟性】行政がまちづくりの担い手として信頼できる組織になっている。」（8.5 ポイント増加）、「⑨【自然環境】美しい緑と良好なまちなみの景観が保たれ、公園や公共施設などの公共空間が活用されている。」（7.6 ポイント増加）の満足度が大きく上昇している。

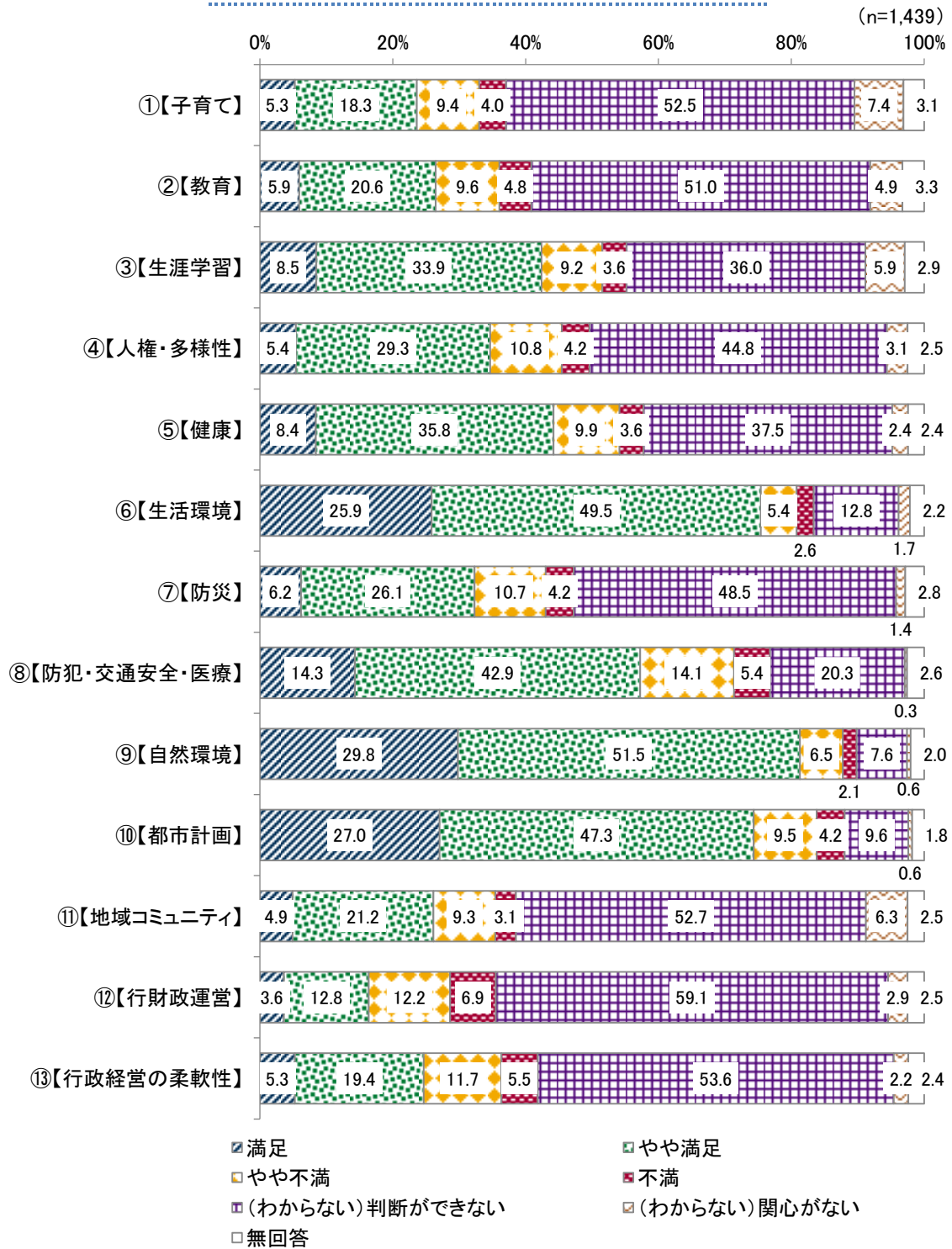
「不満」と「やや不満」の割合の合計に着目すると、

「⑧【防犯・交通安全・医療】犯罪や交通事故が起こりにくいまちになっている。また、必要な時に適切な医療を受けることができる。」における割合が最も高く19.5%となっている。

次いで、「⑫【行財政運営】今後、厳しい財政運営が予測されるなかで、長期的な視点に立った経営が行われている。（19.1%）」、「⑬【行政経営の柔軟性】行政がまちづくりの担い手として信頼できる組織になっている。（17.2%）」となっている。

前回調査からの不満度の改善率に着目すると、「⑬【行政経営の柔軟性】行政がまちづくりの担い手として信頼できる組織になっている。」（25.7 ポイント減少）、「⑫【行財政運営】今後、厳しい財政運営が予測されるなかで、長期的な視点に立った経営が行われている。」（25.3 ポイント減少）、「⑪【地域コミュニティ】市民が自分のまちに関わりたいと思い、地域主体での課題解決に向けた取組が行われている。」（20.4 ポイント減少）の不満度が大きく改善されている。

図表 II-7 3 各施策の達成状況についての満足度

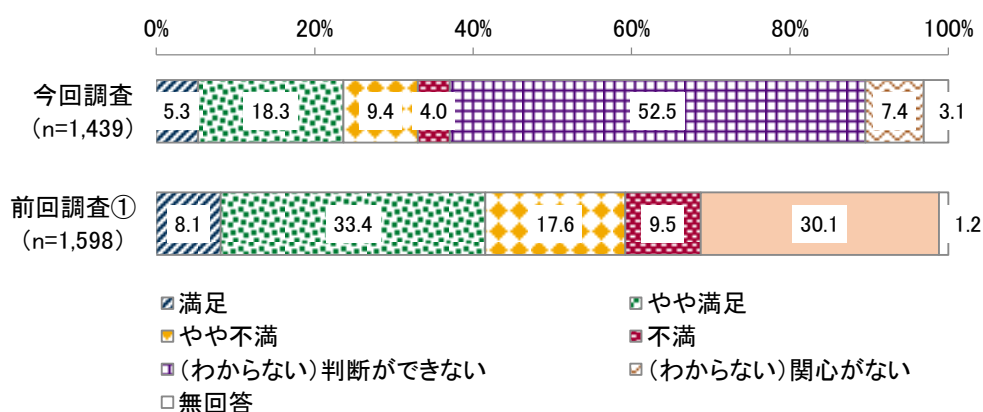


① 子育て

「（わからない）判断ができない」が 52.5%で最も高く、次いで、「やや満足」が 18.3%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 23.6%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-7 4 子育ての満足度



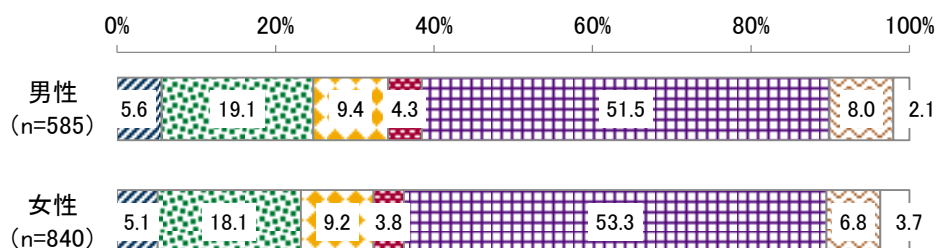
(注) 前回調査①では「わからない」だったものが、今回は「（わからない）判断ができない」「（わからない）関心がない」に分けられている。以下⑬まで同様。

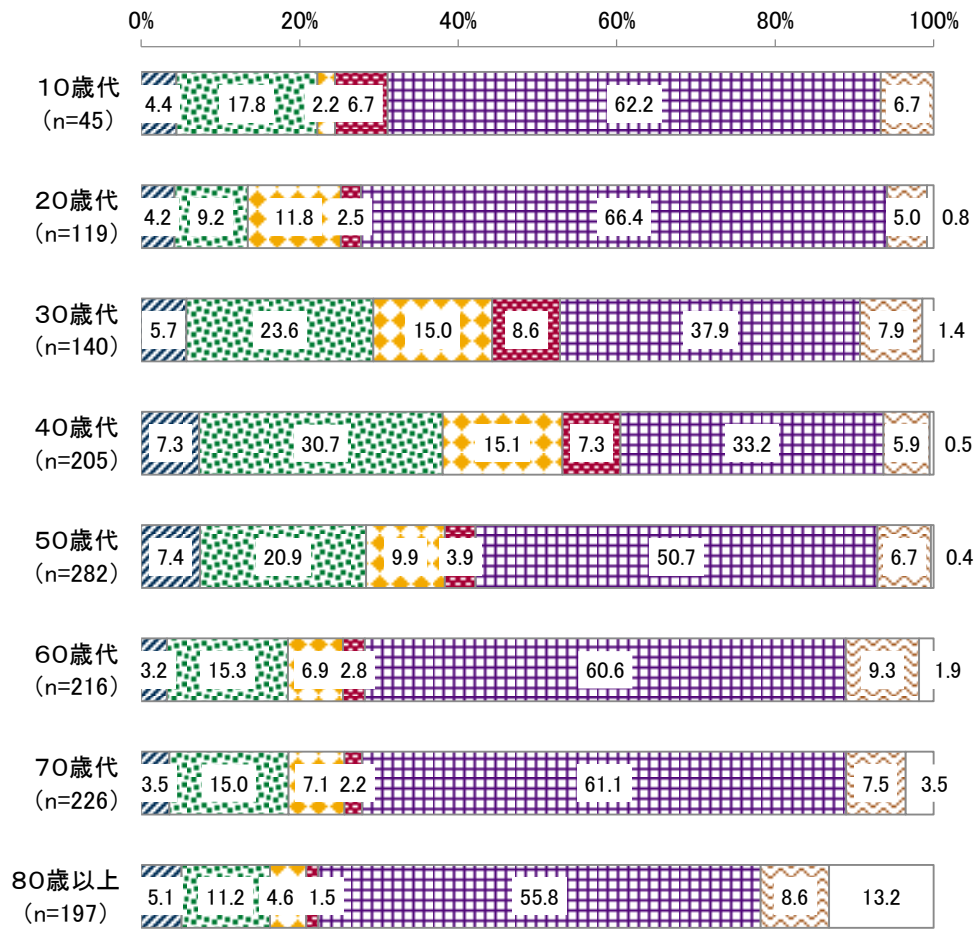
男女で大きな差異はみられない。

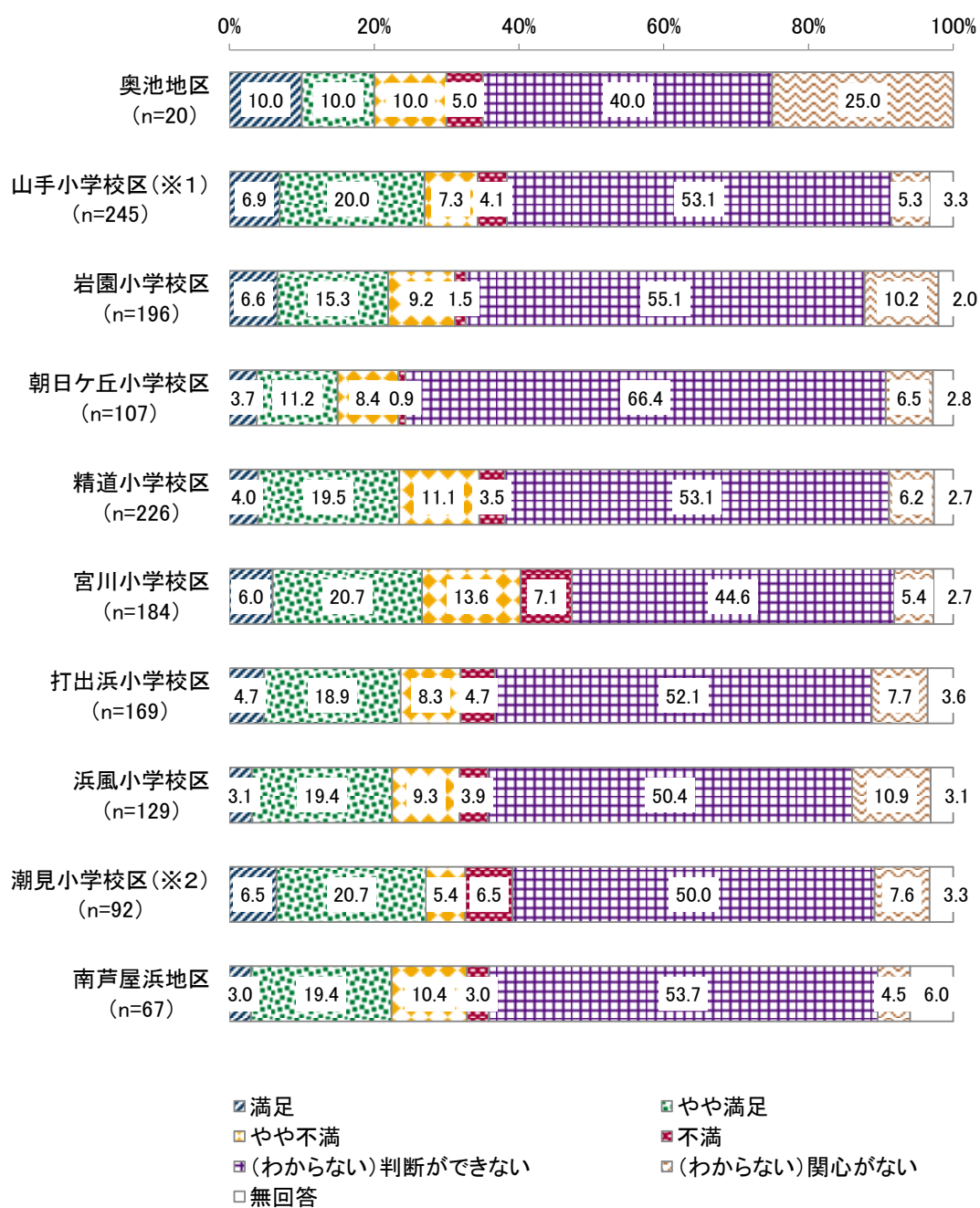
年代別にみると、30 歳代、40 歳代は他の年代と比較して、「わからない」の割合が少なくなっている。

地区別にみると、宮川小学校区は他の地区と比較して、「わからない」の割合が少なくなっている。

図表 II-7 5 子育ての満足度（クロス集計）





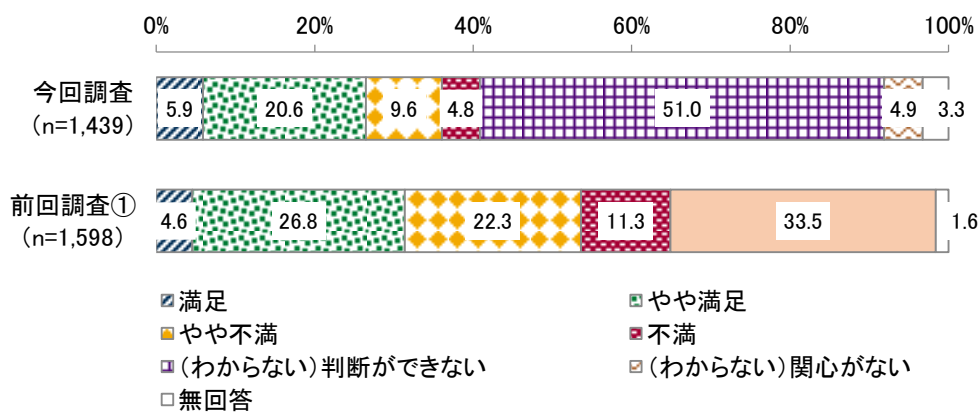


② 教育

「（わからない）判断ができない」が 51.0%で最も高く、次いで、「やや満足」が 20.6%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 26.5%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-7 6 教育の満足度

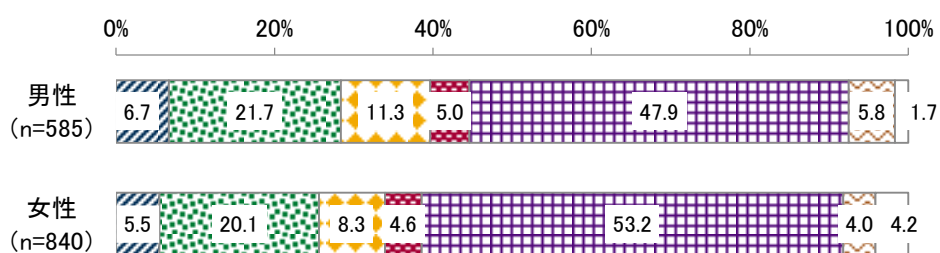


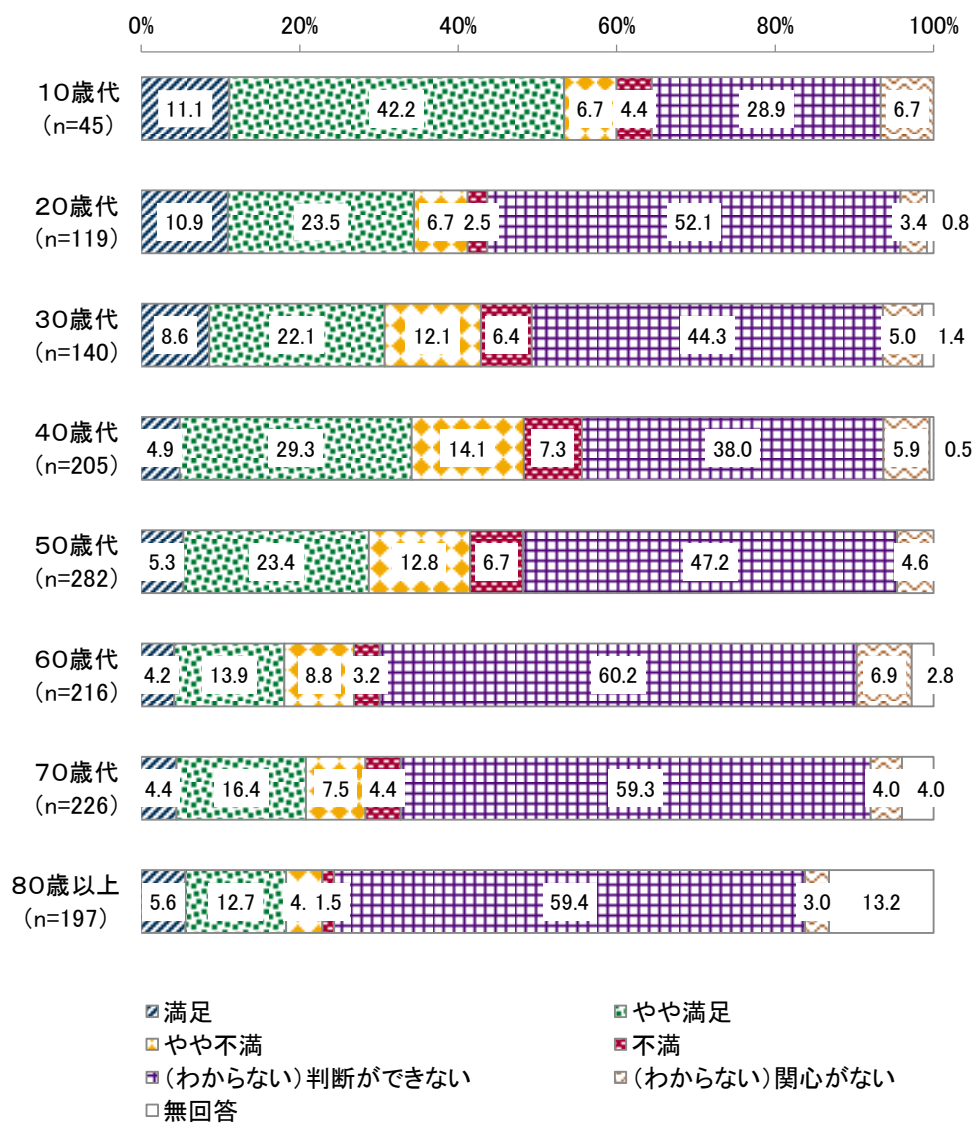
男女で大きな差異はみられない。

年代別にみると、10 歳代、40 歳代は他の年代と比較して、「わからない」の割合が低くなっている。

地区別でみると、浜風小学校区、南芦屋浜地区は、他の地区と比較して「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-7 7 教育の満足度（クロス集計）



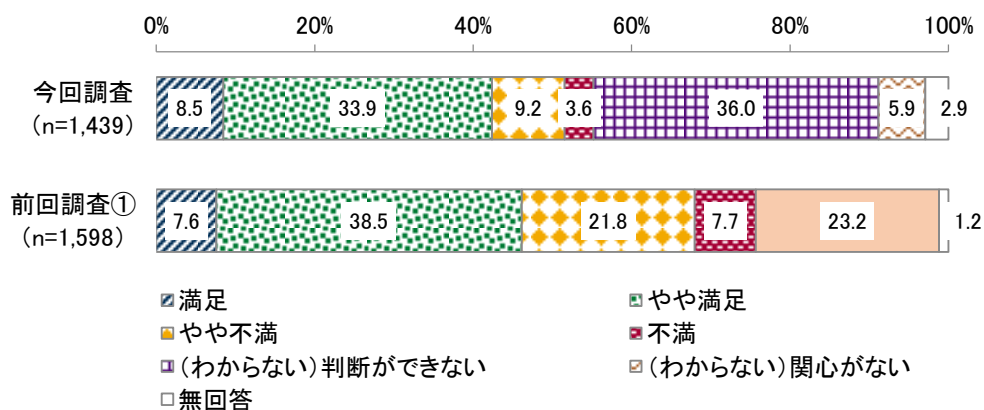


③ 生涯学習

「（わからない）判断ができない」が 36.0%で最も高く、次いで、「やや満足」が 33.9%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 42.4%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-78 生涯学習の満足度

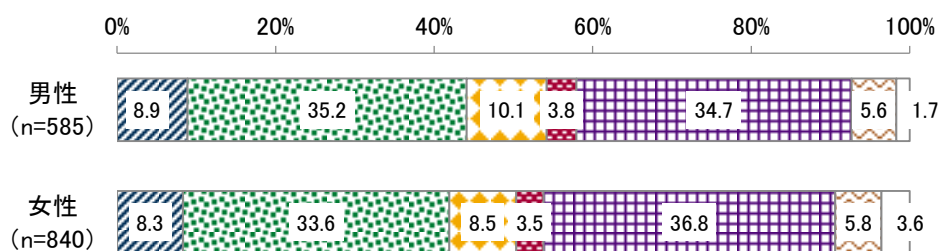


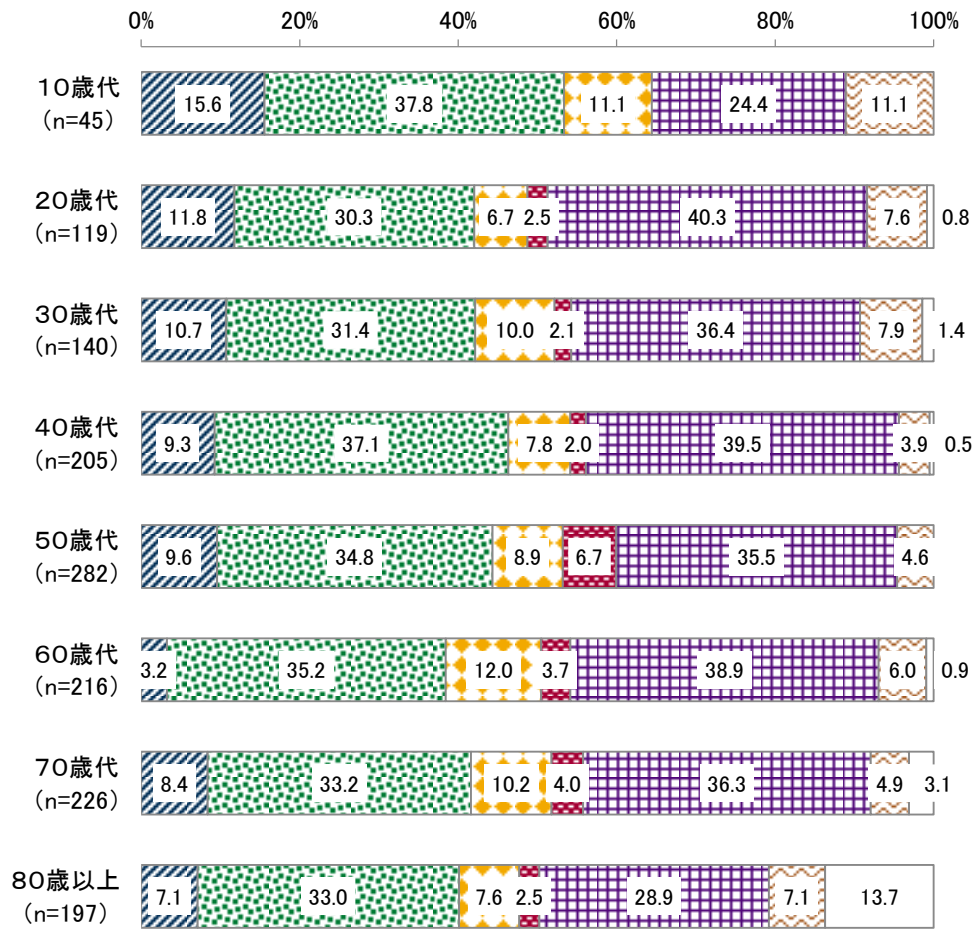
男女で大きな差異はみられない。

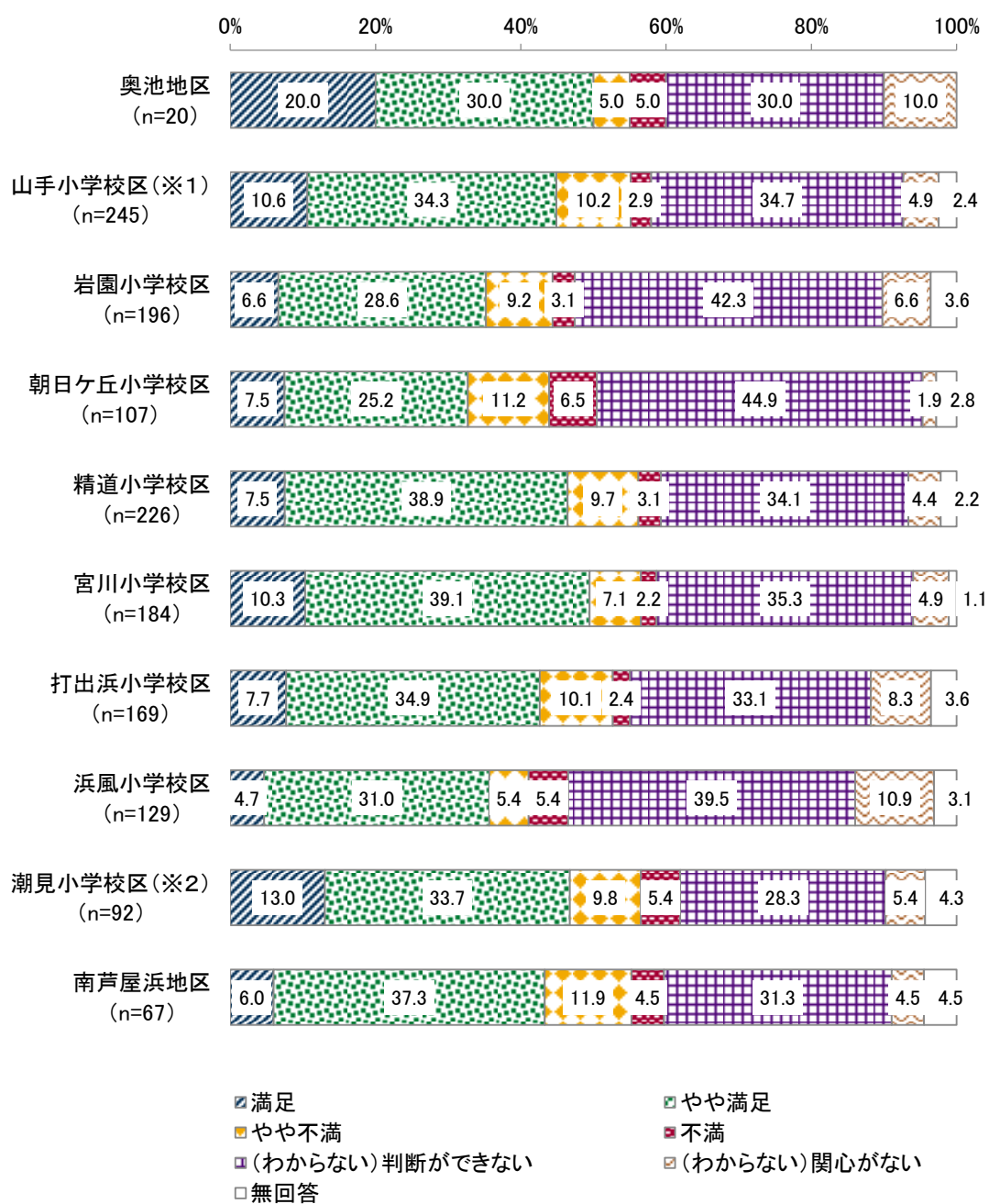
年代別でみると、60 歳代は他の年代と比較して、「満足」の割合が低くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-79 生涯学習の満足度（クロス集計）





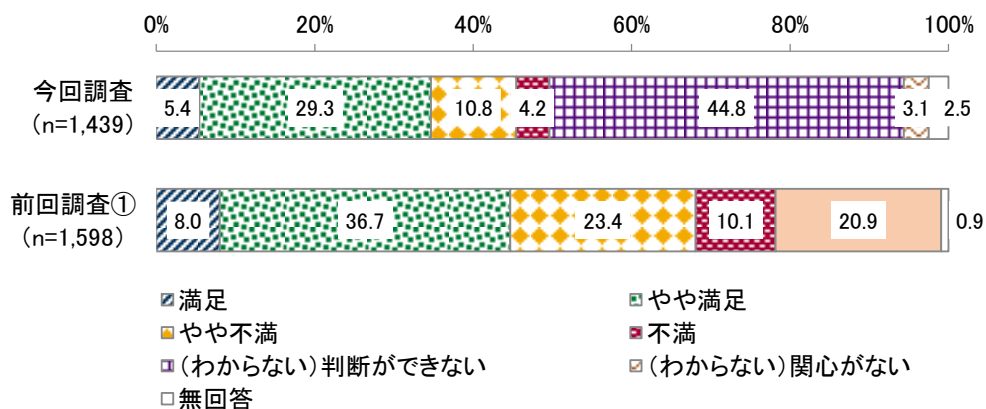


④ 人権・多様性

「（わからない）判断ができない」が 44.8%で最も高く、次いで、「やや満足」が 29.3%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 34.7%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-80 人権・多様性の満足度

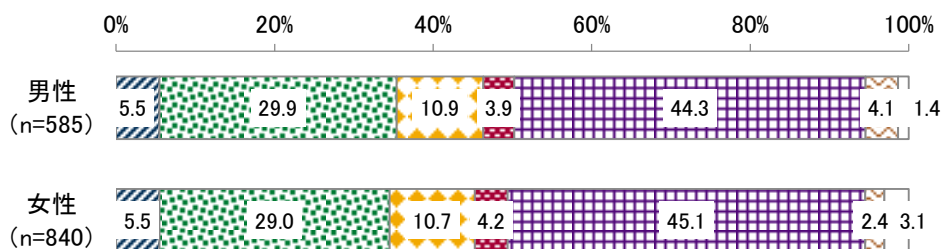


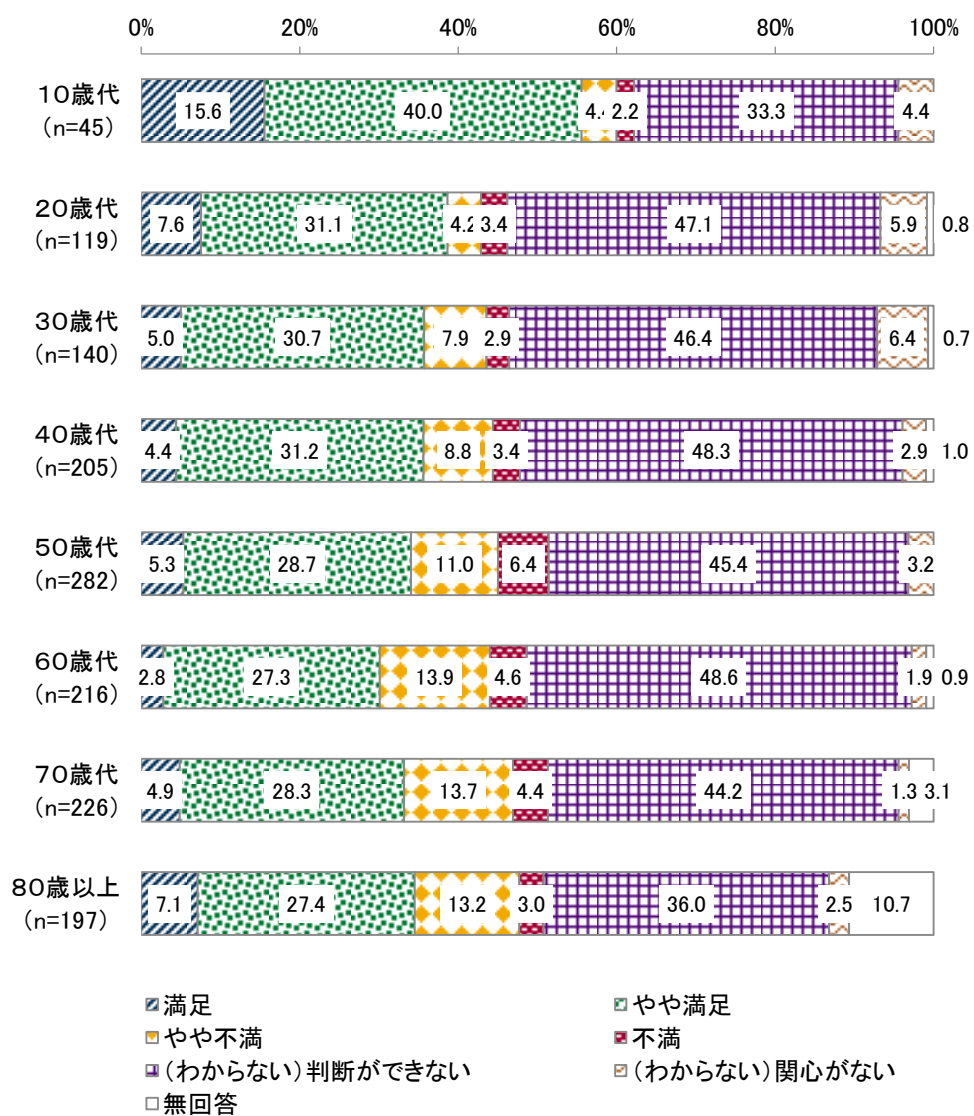
男女で大きな差異はみられない。

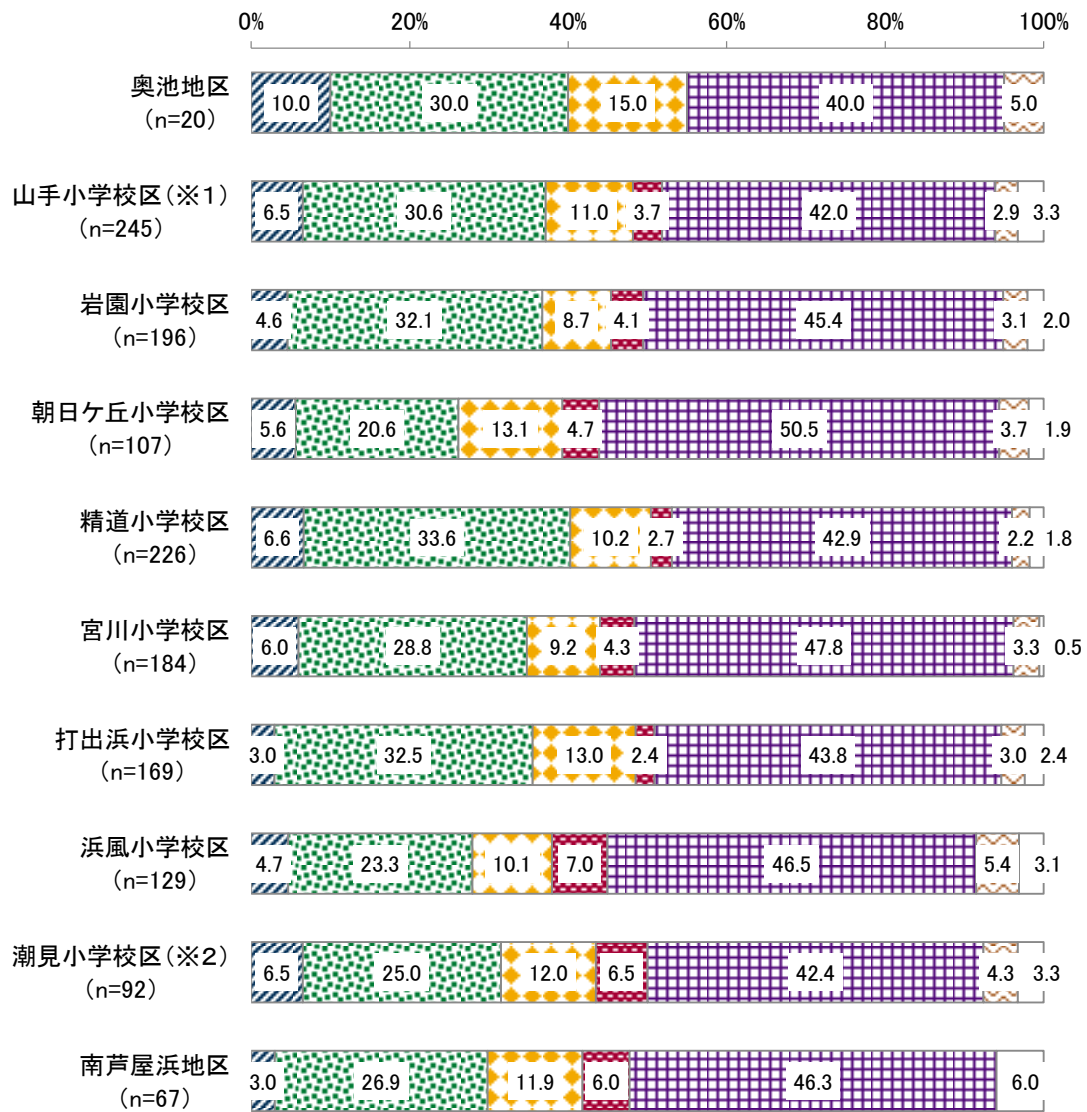
年代別にみると、60 歳代以上は、他の年代と比較して「やや不満」の割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区、浜風小学校区は他の地区と比較して「満足」「やや満足」の割合が低くなっている。

図表 II-81 人権・多様性の満足度（クロス集計）





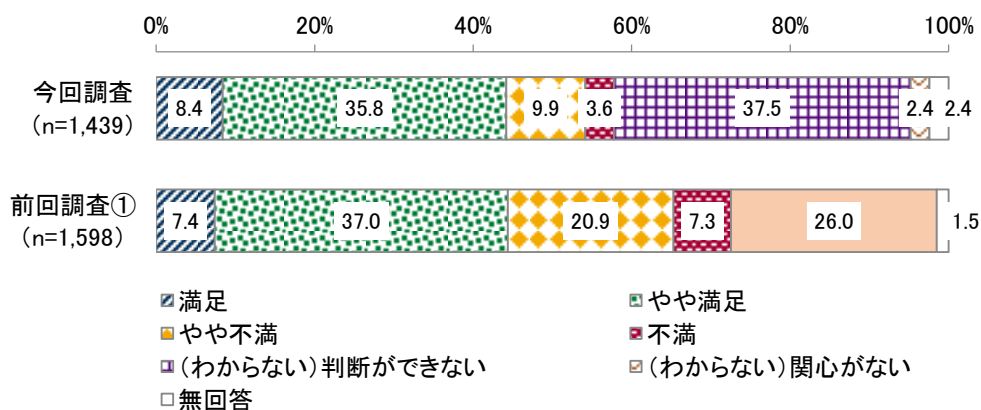


⑤ 健康

「（わからない）判断ができない」が 37.5%で最も高く、次いで、「やや満足」が 35.8%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 44.2%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-8 2 健康の満足度

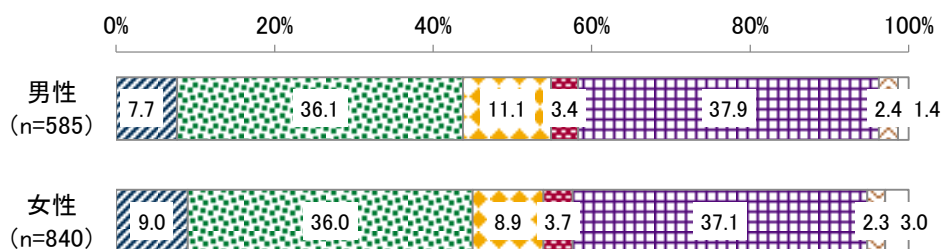


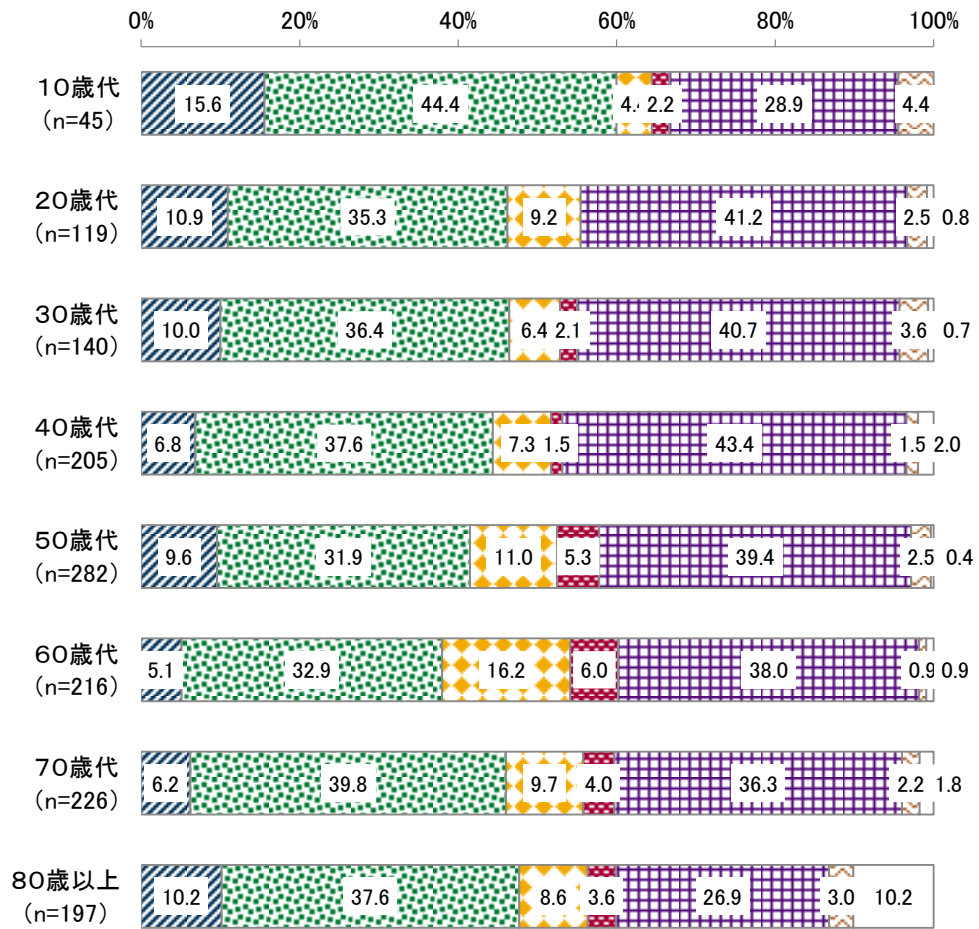
男女で大きな差異はみられない。

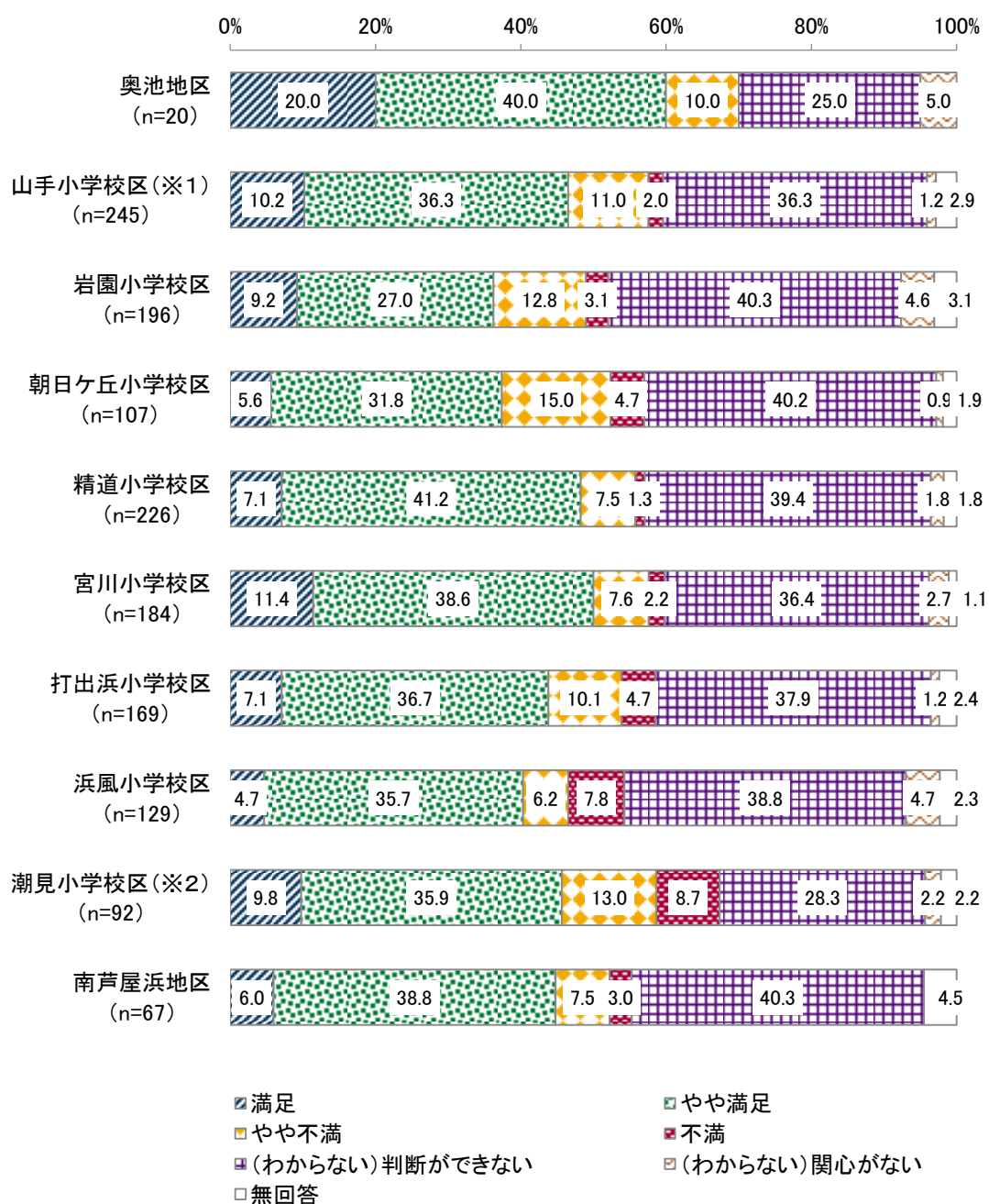
年代別にみると、60 歳代は他の年代と比較して「満足」「やや満足」と回答した割合が低くなっている。

地区別にみると、岩園小学校区、朝日ヶ丘小学校区、浜風小学校区は他の地区と比較して、「満足」「やや満足」と肯定的な回答をした割合が低くなっている。

図表 II-8 3 健康の満足度（クロス集計）





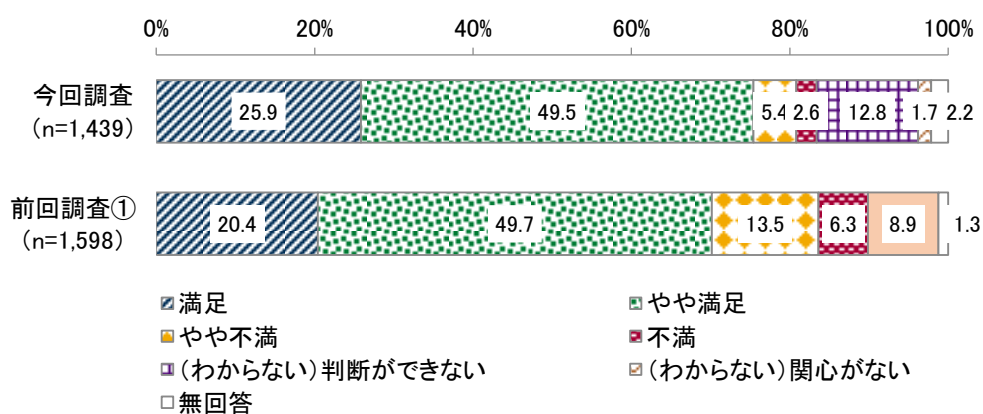


⑥ 生活環境

「やや満足」が 49.5%で最も高く、次いで、「満足」が 25.9%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 75.4%となっている。

前回調査①と比較すると、「満足」「わからない」の割合が上昇し、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下している。

図表 II-8 4 生活環境の満足度

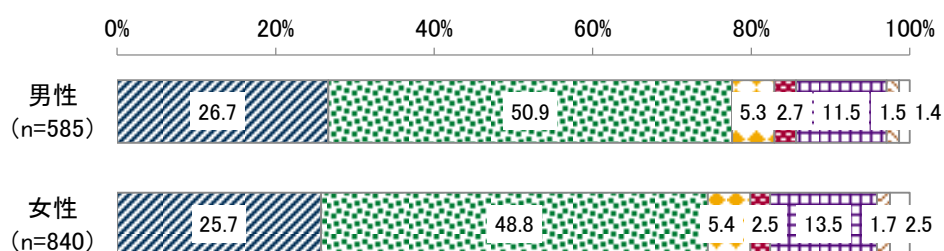


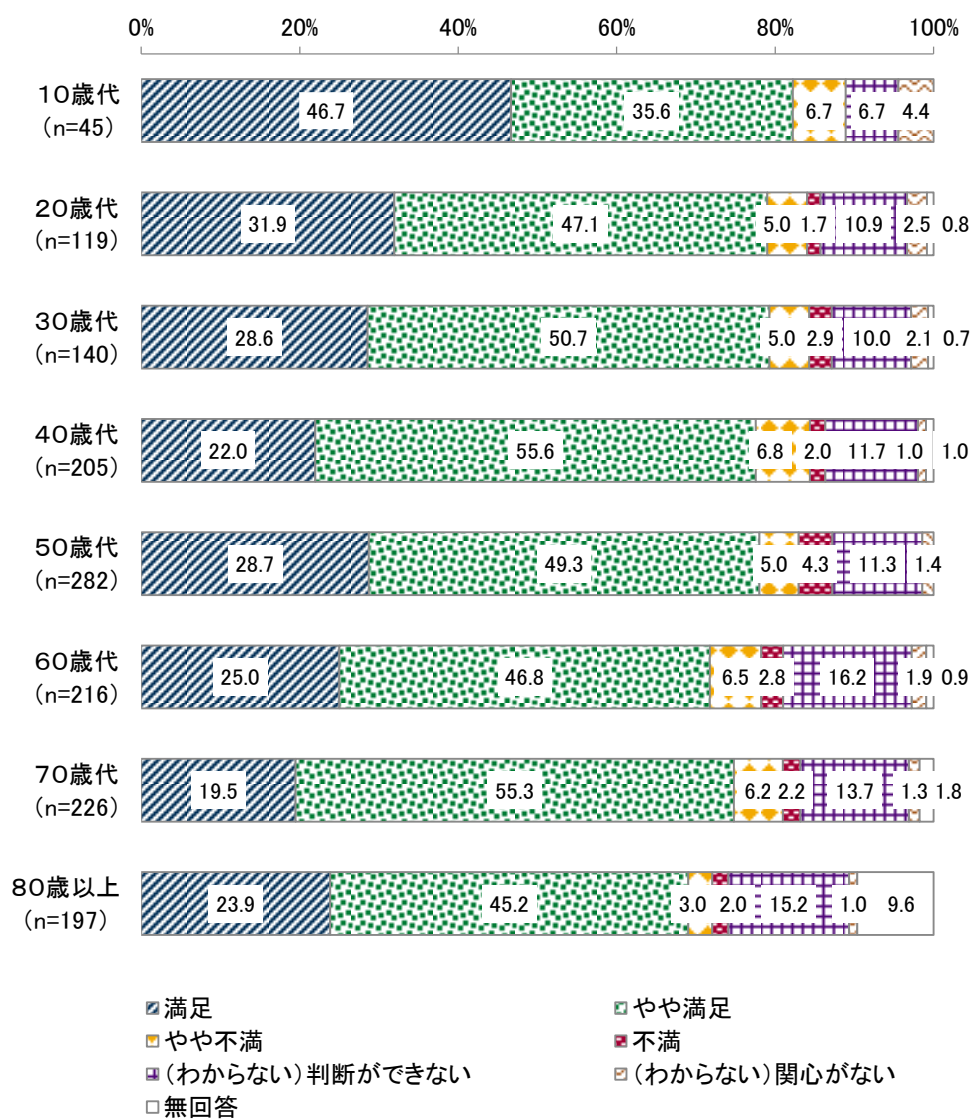
男女で大きな差異はみられない。

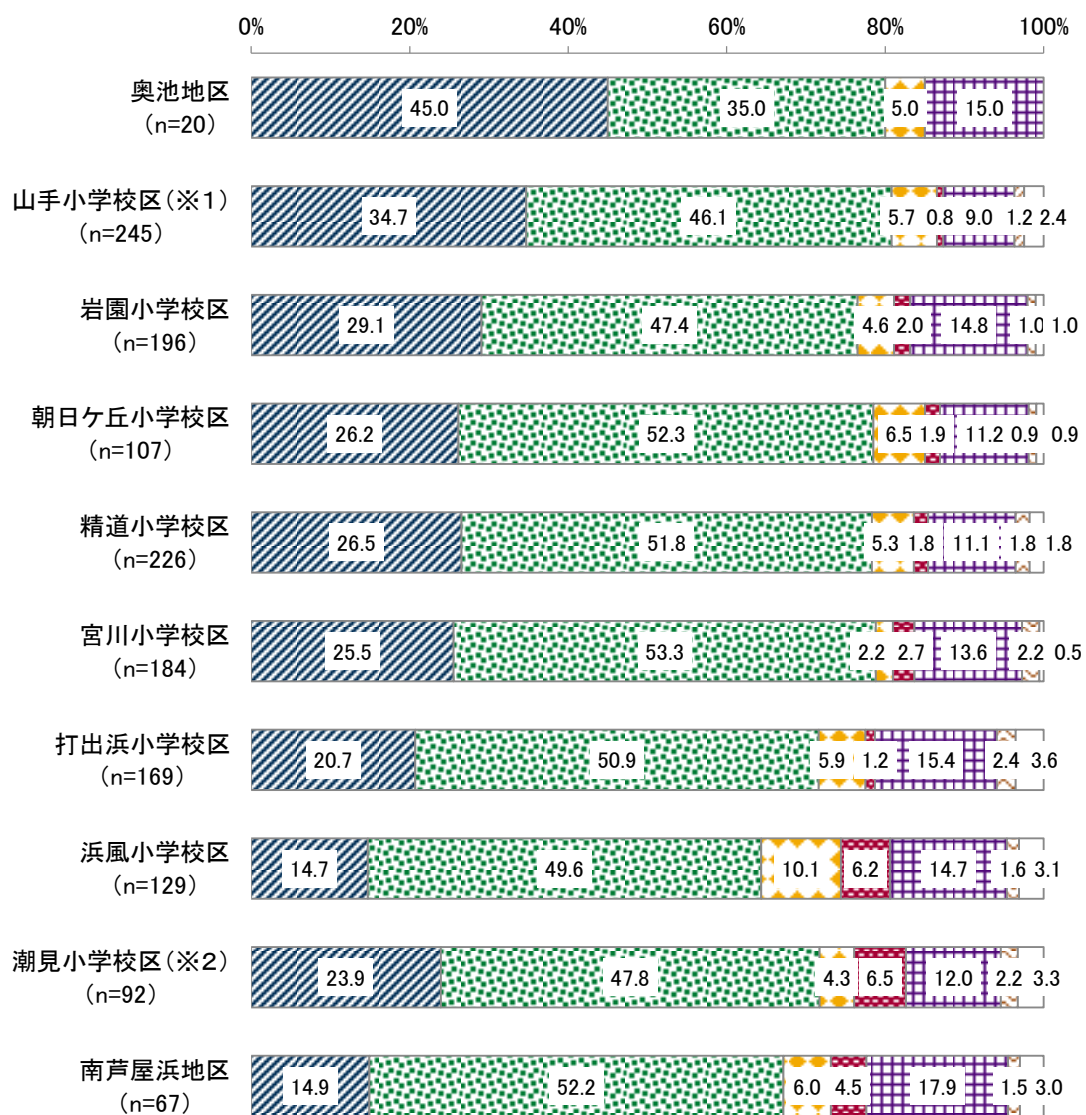
年代別にみると、60 歳代以上は、他の年代と比較して、「満足」「やや満足」と肯定的な回答をした割合が低くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区、南芦屋浜小学校区は他の地区と比較して「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-8 5 生活環境の満足度（クロス集計）





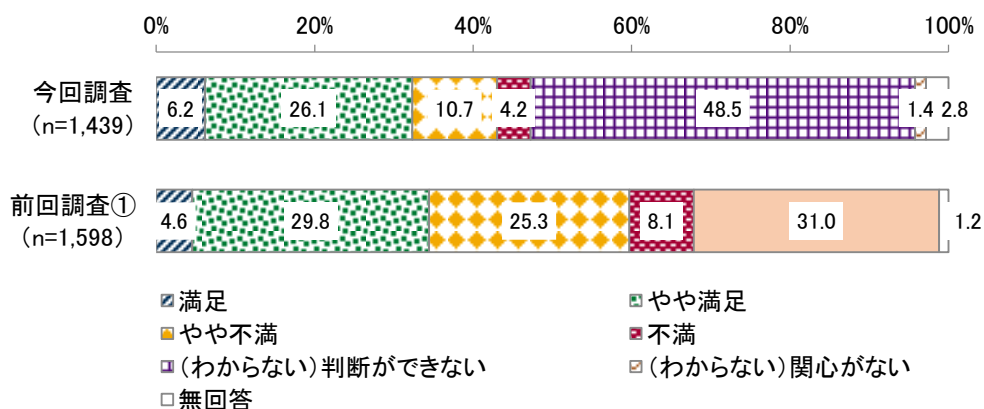


⑦ 防災

「（わからない）判断ができない」が 48.5%で最も高く、次いで、「やや満足」が 26.1%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 32.3%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-8 6 防災の満足度

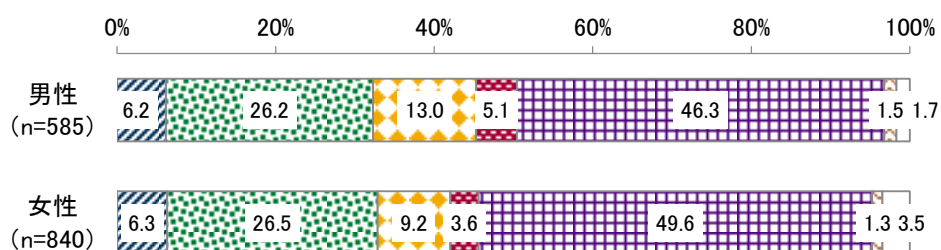


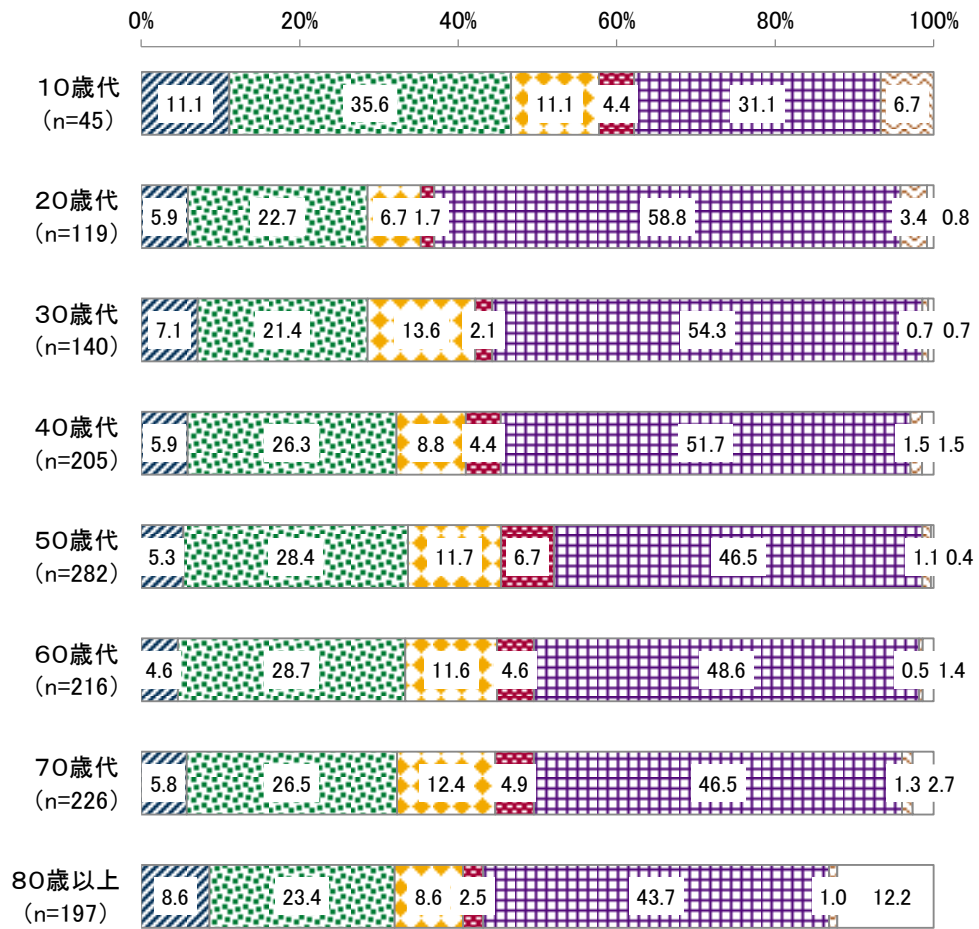
男性の方が女性よりも「やや不満」の割合が高くなっている。

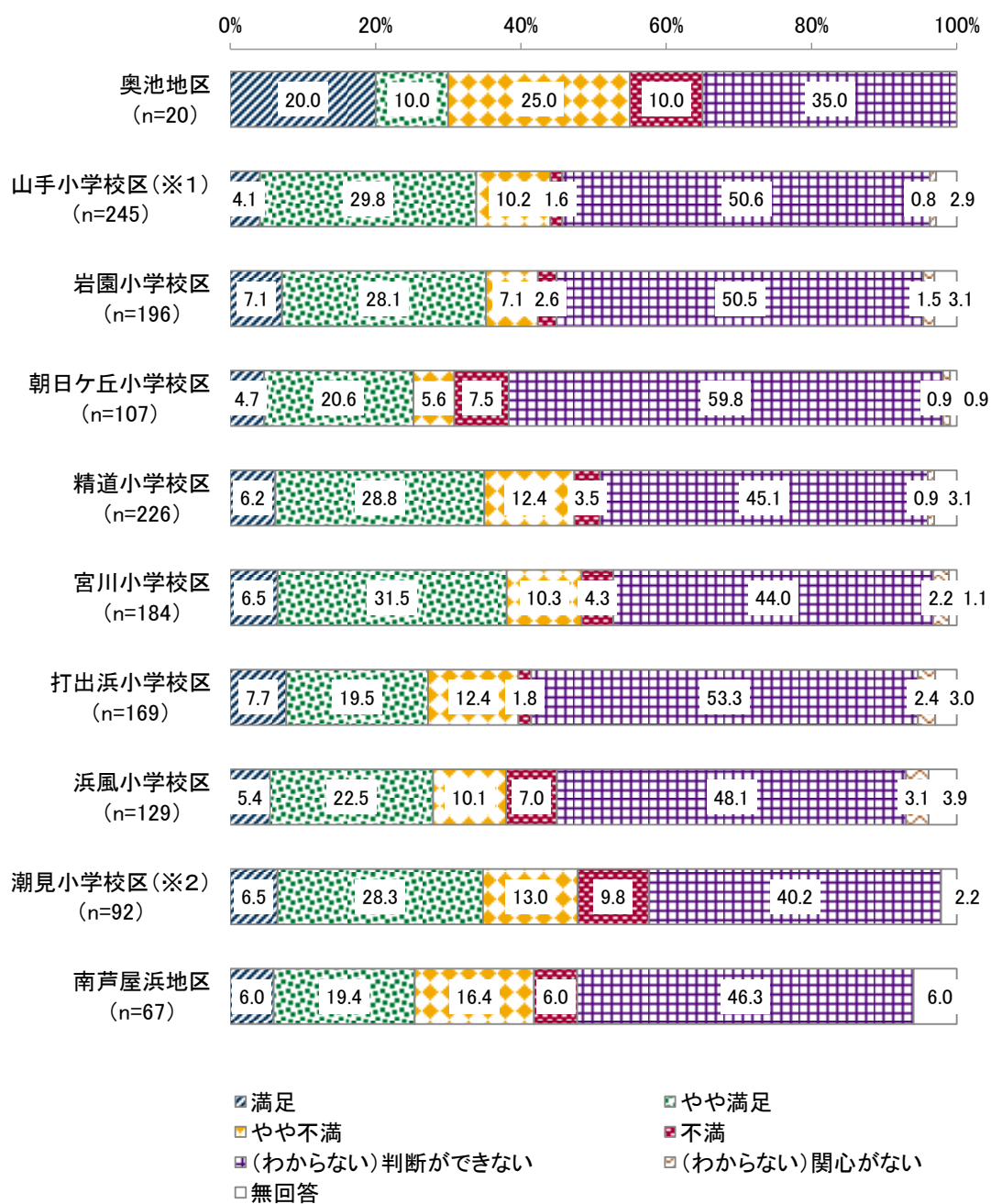
年代別にみると、「10 歳代」は他の年代と比較して、「満足」の割合が高くなっている。

地区別にみると、山手小学校区、朝日ヶ丘小学校区は、他の地区と比較して「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-8 7 防災の満足度（クロス集計）





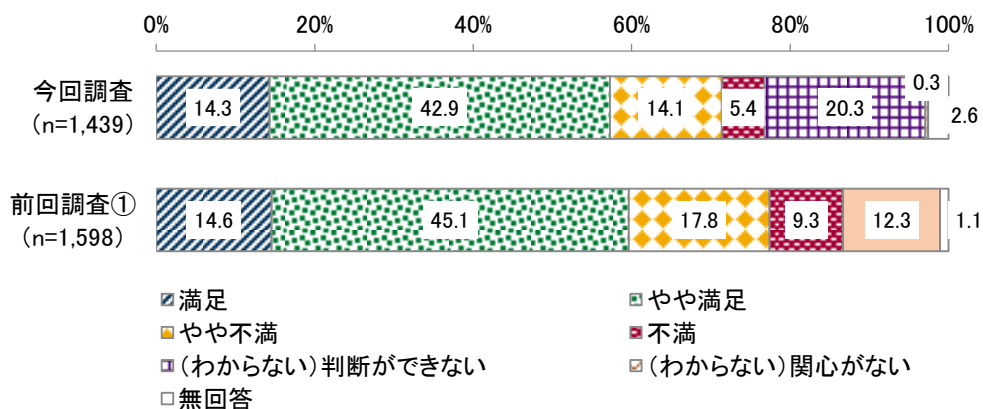


⑧ 防犯・交通安全・医療

「やや満足」が 42.9%で最も高く、次いで、「（わからない）判断ができない」が 20.3%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 57.2%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が上昇している。

図表 II-88 防犯・交通安全・医療の満足度

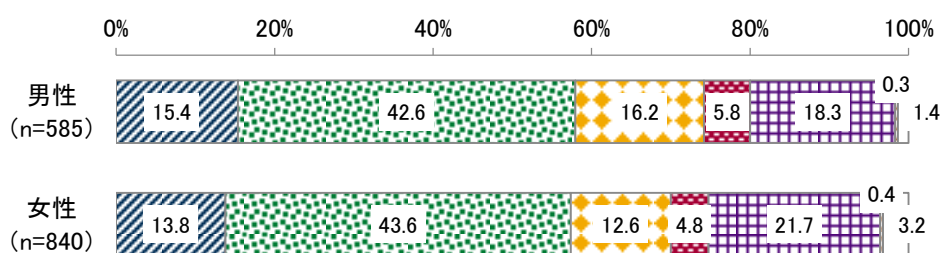


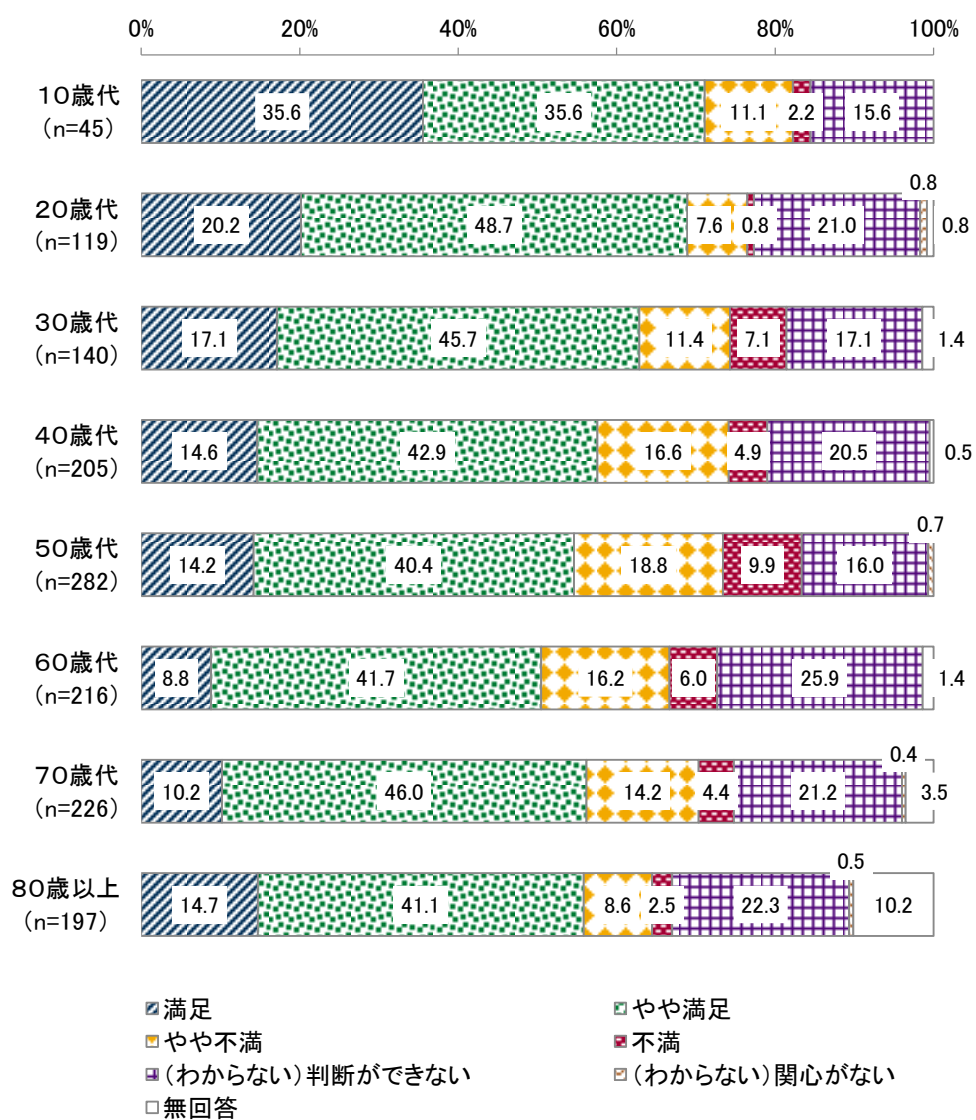
男性は女性よりも「やや不満」の割合が高くなっている。

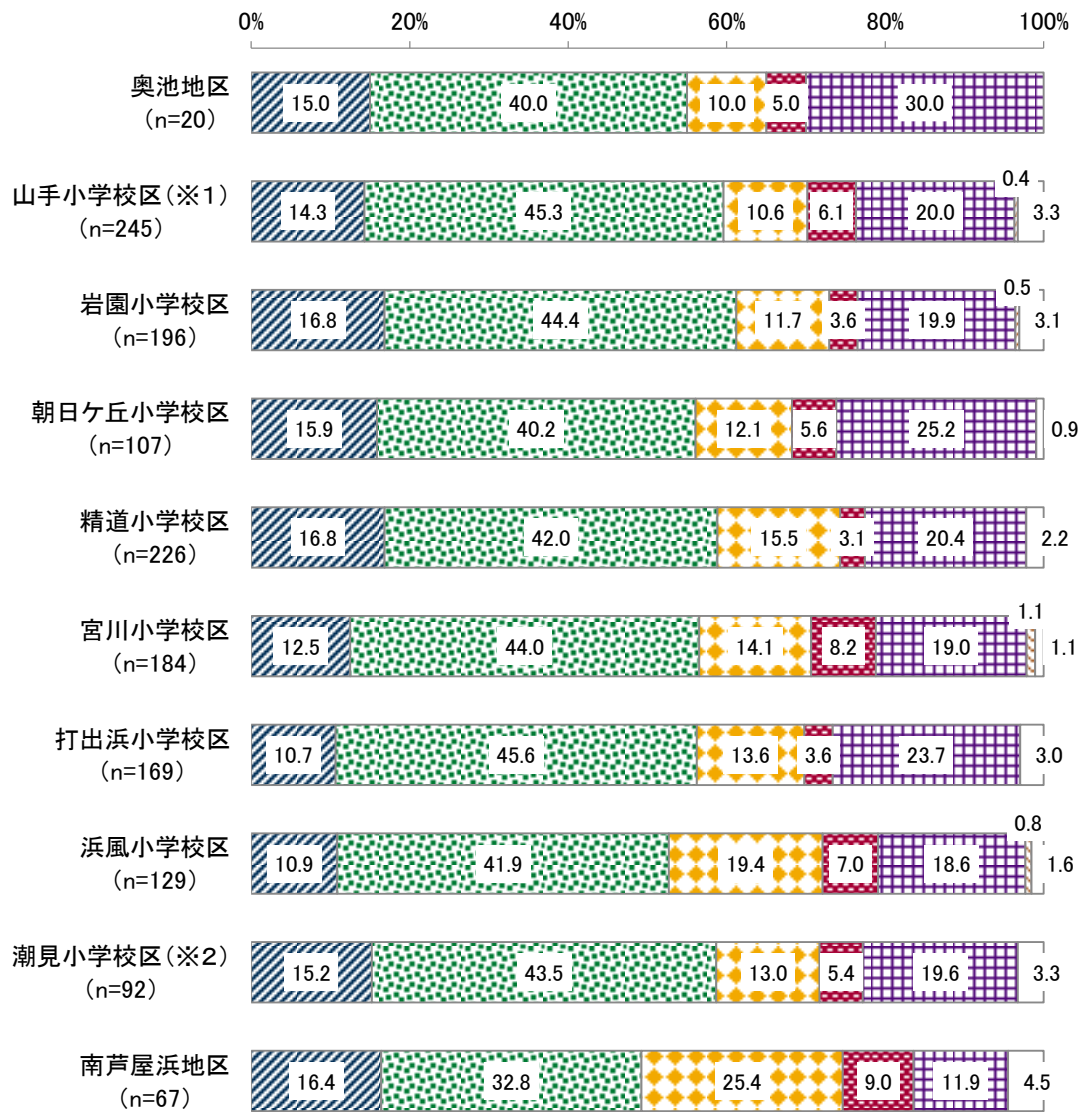
年代別にみると、60 歳代、70 歳代は他の年代と比較して「満足」の割合が低くなっている。

地区別にみると、打出浜小学校区、浜風小学校区は、他の地区と比較して「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-89 防犯・交通安全・医療の満足度（クロス集計）





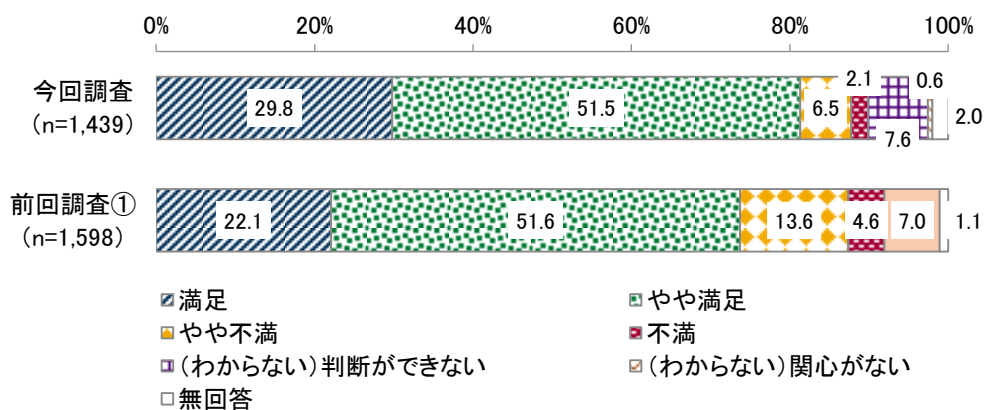


⑨ 自然環境

「やや満足」が 51.5%で最も高く、次いで、「満足」が 29.8%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 81.3%となっている。

前回調査①と比較すると、「満足」の割合が上昇し、「やや不満」「不満」の割合が低下している。

図表 II-90 自然環境の満足度

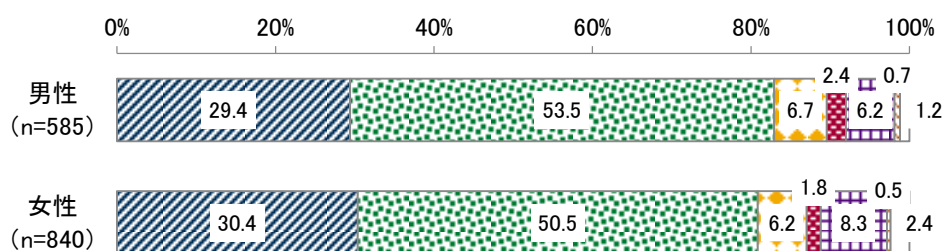


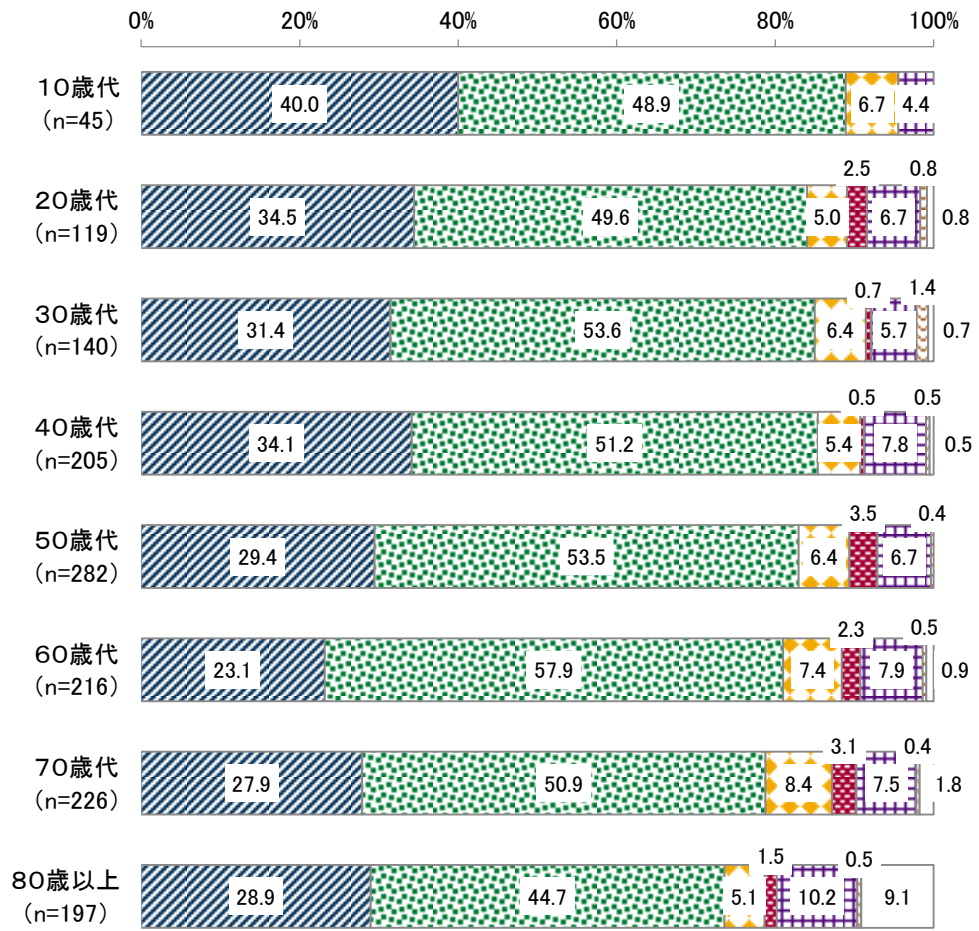
男女で大きな差異はみられない。

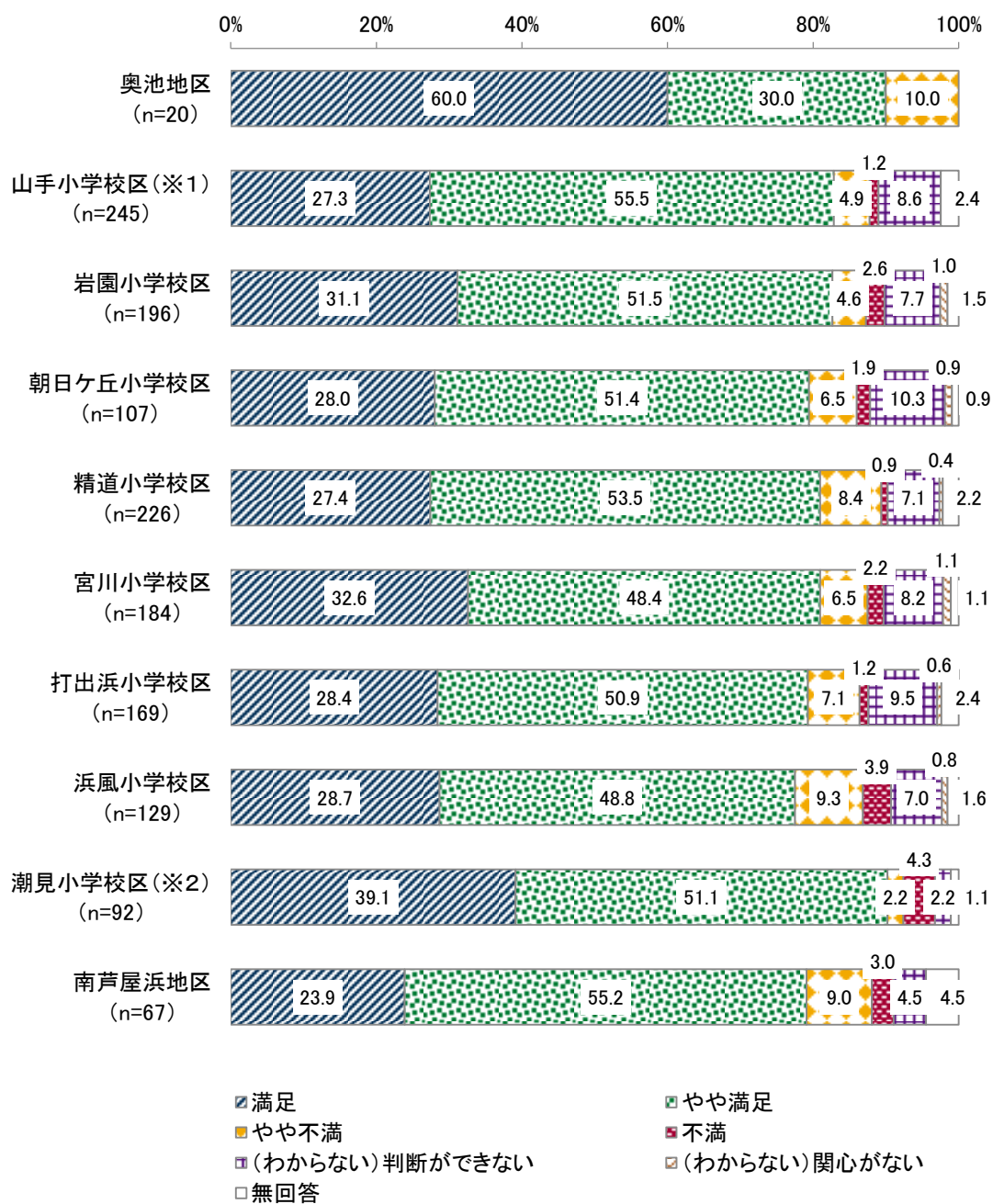
年代別にみると、60 歳代は他の年代と比較して、「満足」の割合が低くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は、他の地区と比較して「満足」の割合が低くなっている。

図表 II-91 自然環境の満足度（クロス集計）





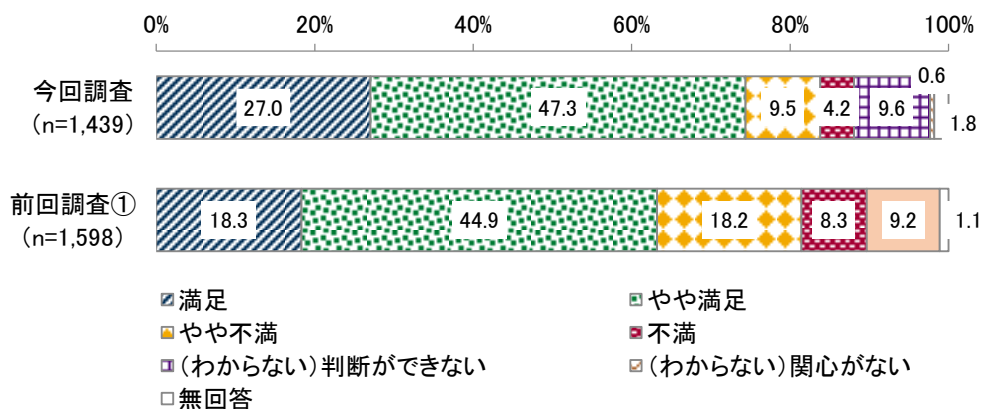


⑩ 都市計画

「やや満足」が 47.3%で最も高く、次いで、「満足」が 27.0%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 74.3%となっている。

前回調査①と比較すると、「満足」「やや満足」の割合が上昇し、「やや不満」「不満」の割合が低下している。

図表 II-9 2 都市計画の満足度

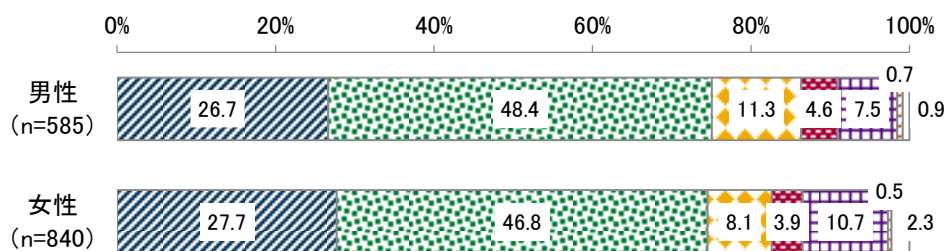


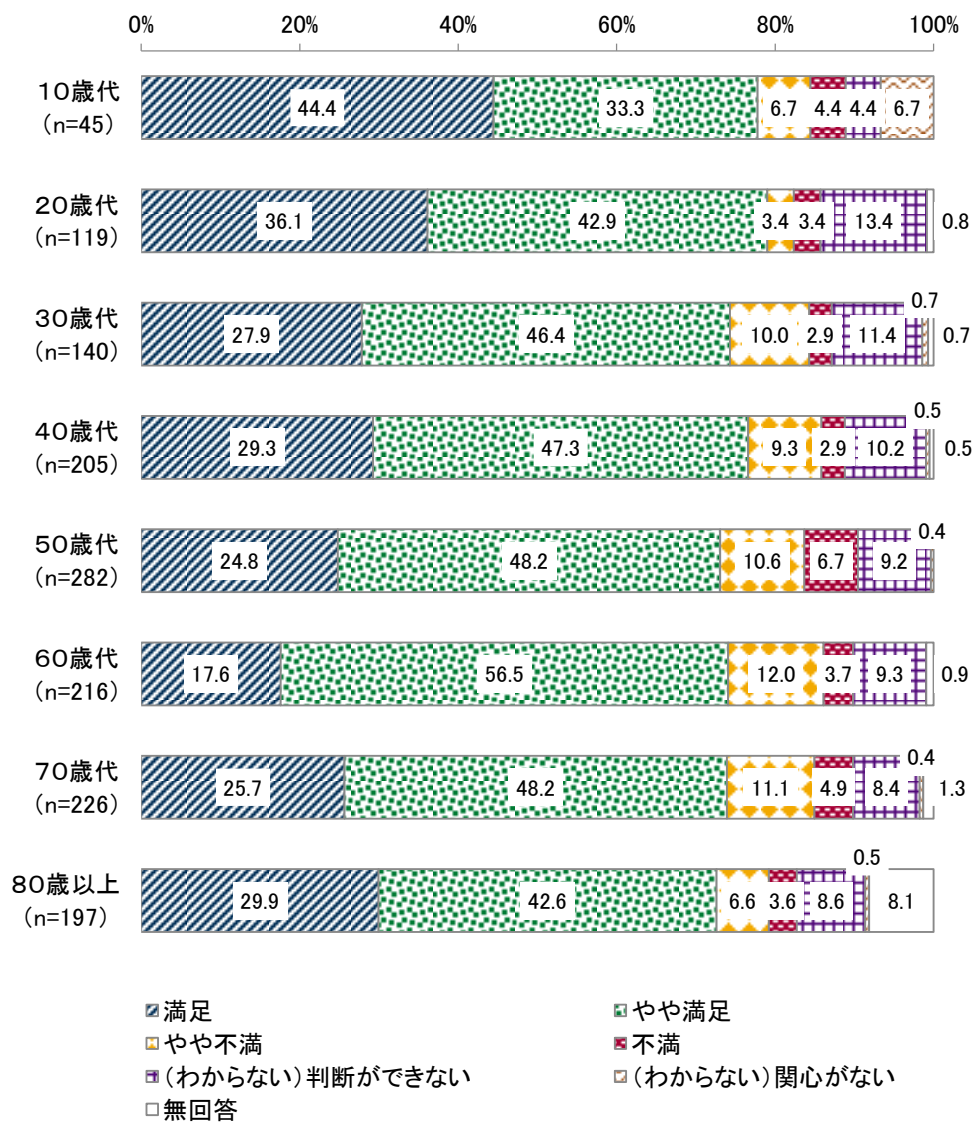
男性は女性と比較して「やや不満」の割合が少し高くなっている。

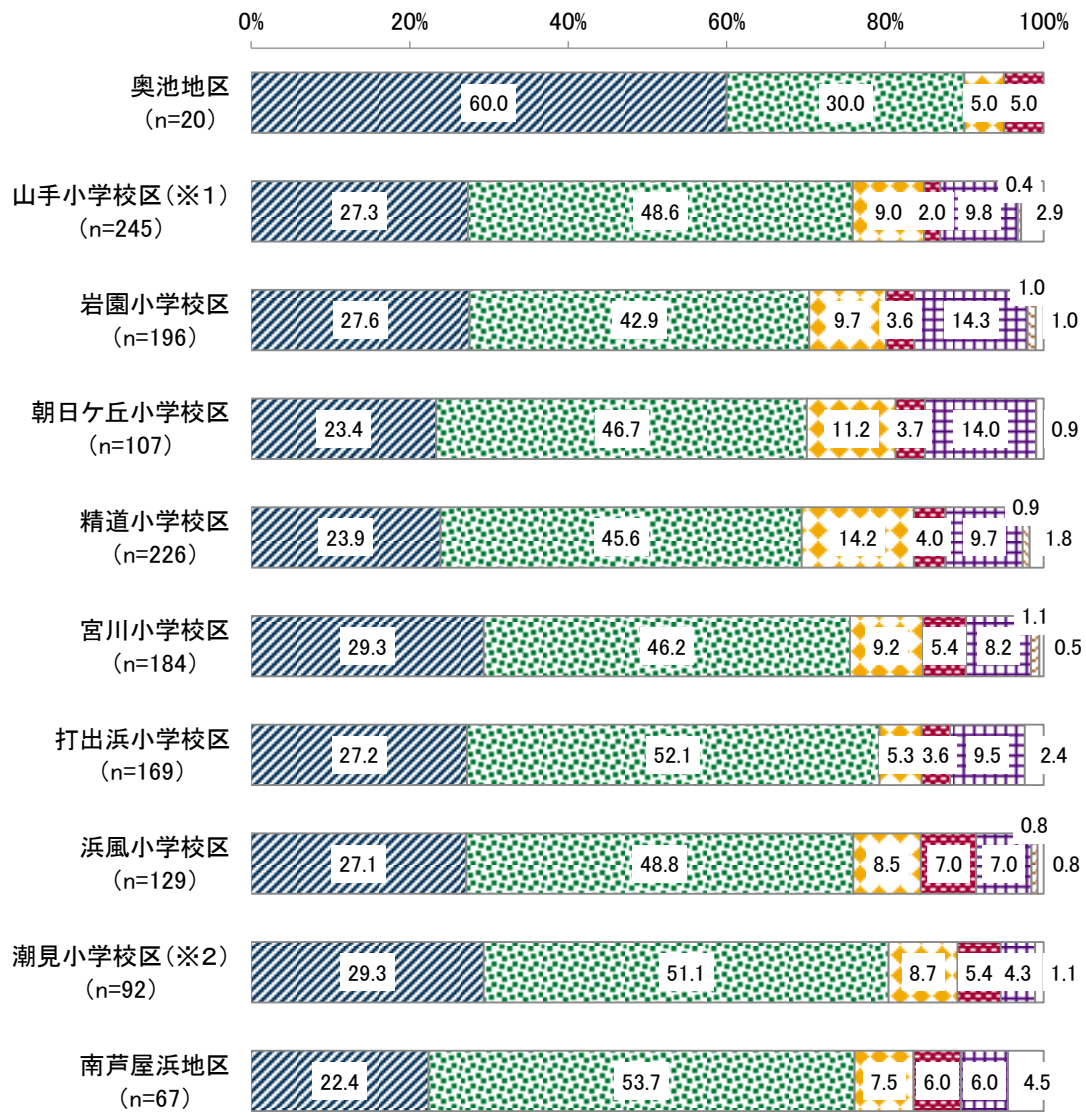
年代別にみると、60 歳代は他の年代と比較して「満足」の割合が低くなっている。

地区別で大きな差異はみられない。

図表 II-9 3 都市計画の満足度（クロス集計）





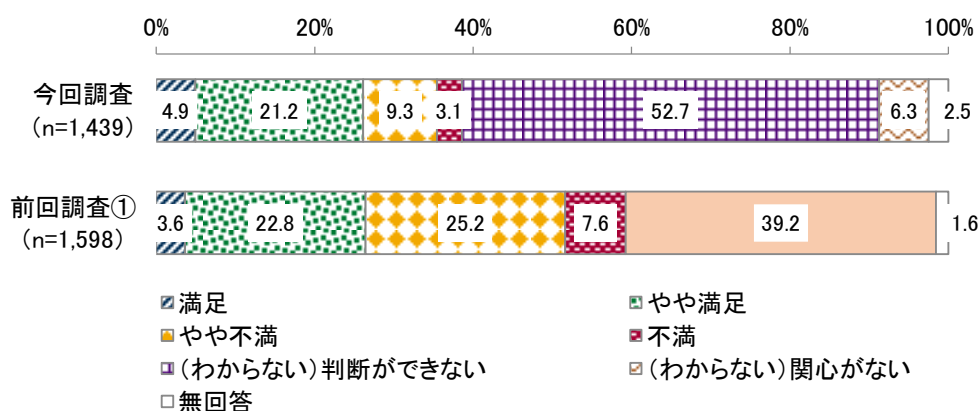


⑪ 地域コミュニティ

「（わからない）判断ができない」が 52.7%で最も高く、次いで、「やや満足」が 21.2%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 26.1%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に増加している。

図表 II-9 4 地域コミュニティの満足度

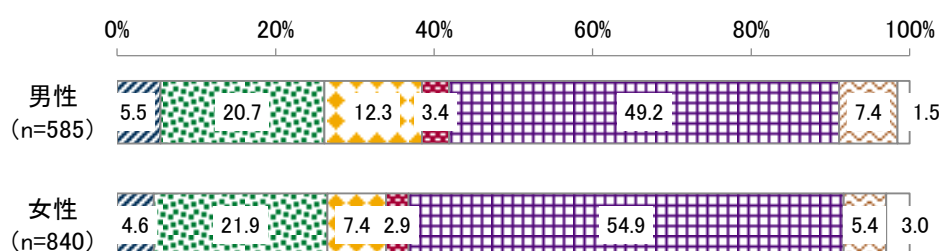


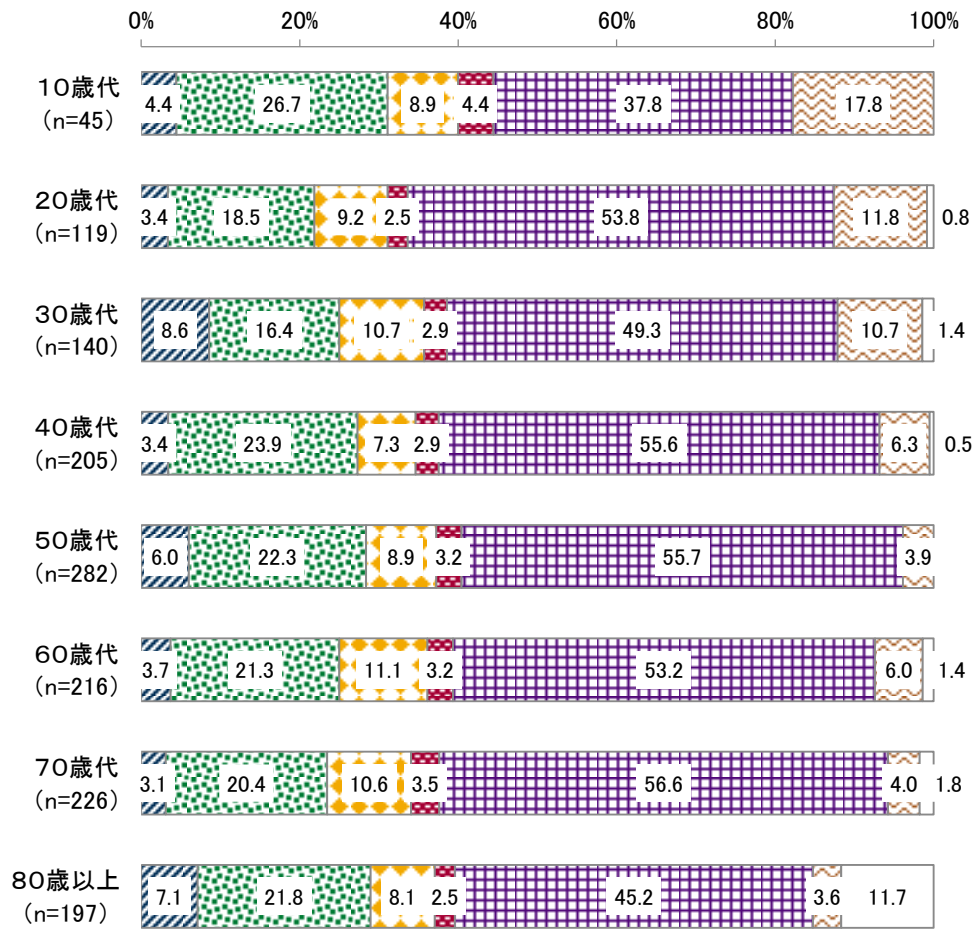
男性は女性よりも「やや不満」の割合が高くなっている。

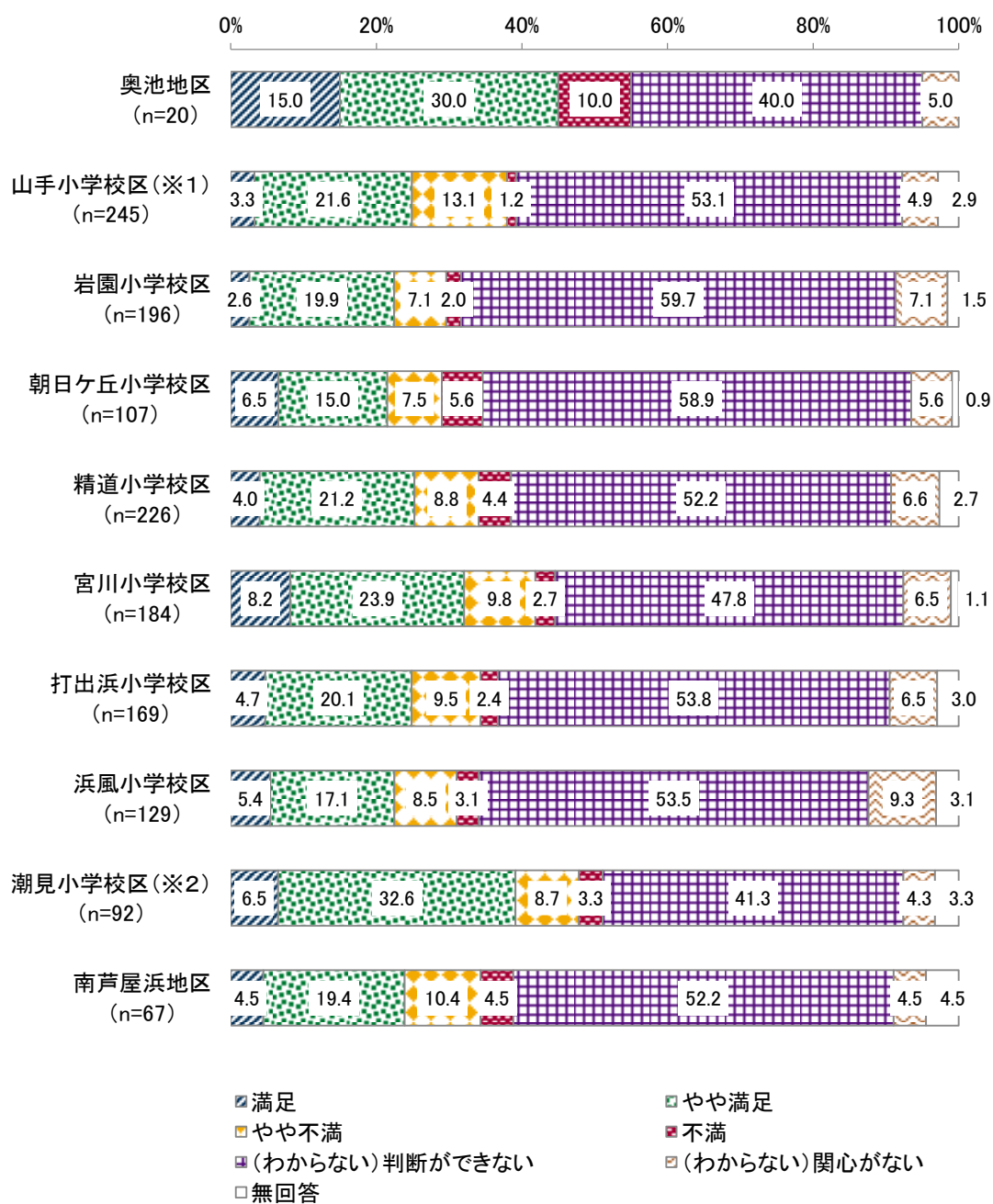
年代別にみると、10 歳代から 30 歳代は、他の年代と比較して「わからない（関心が無い）」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して「満足」「やや満足」の肯定的な回答をした割合が高くなっている。

図表 II-9 5 地域コミュニティの満足度（クロス集計）





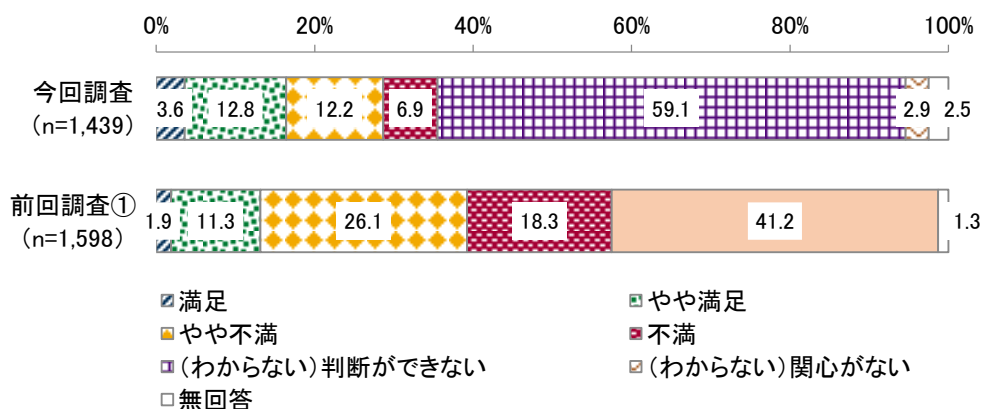


⑫ 行財政運営

「（わからない）判断ができない」が 59.1%で最も高く、次いで、「やや満足」が 12.8%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 16.4%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや不満」「不満」の割合が低下し、「わからない」の割合が大幅に上昇している。

図表 II-9 6 行財政運営の満足度

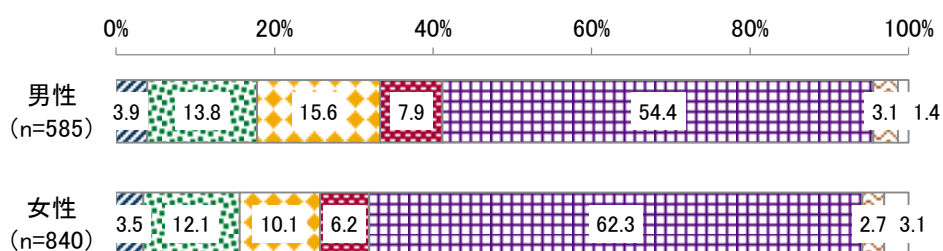


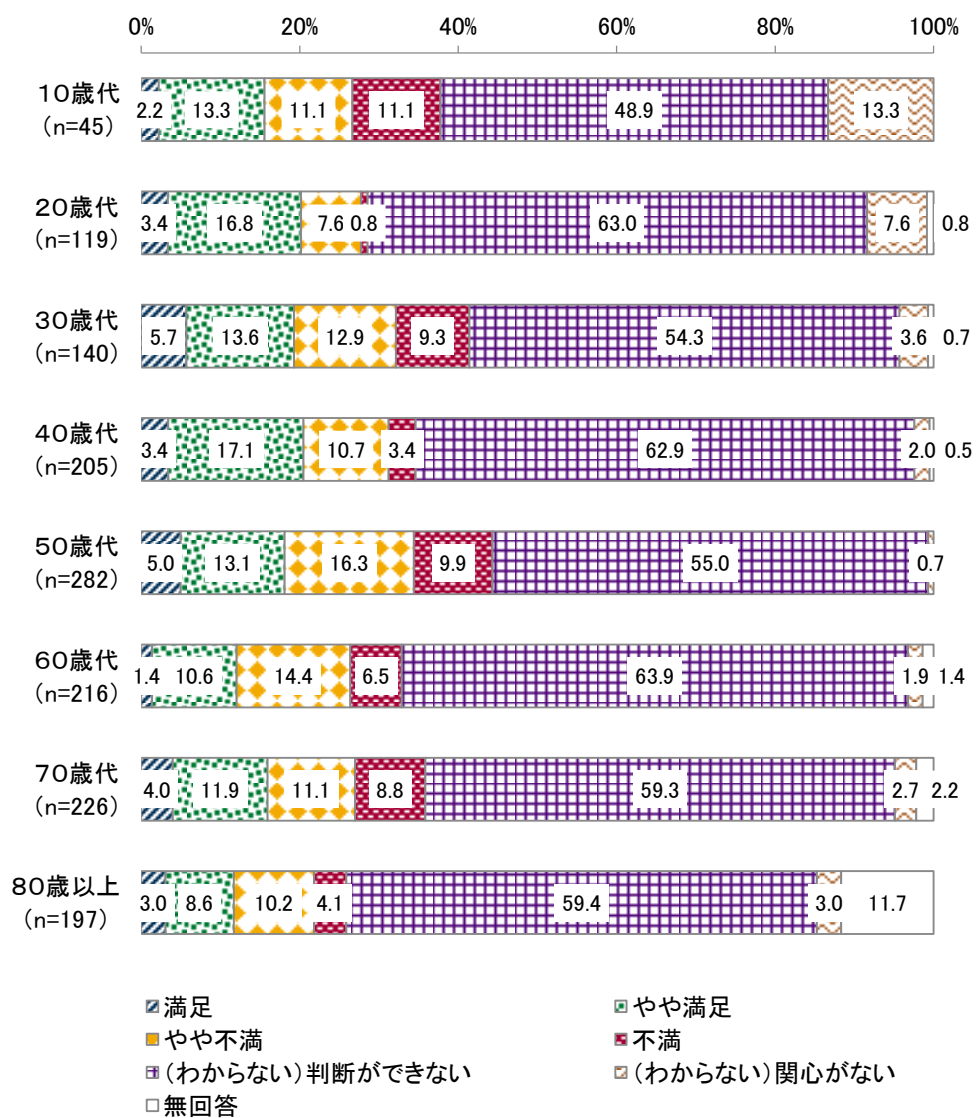
男性は女性よりも「わからない」の割合が低くなっている。

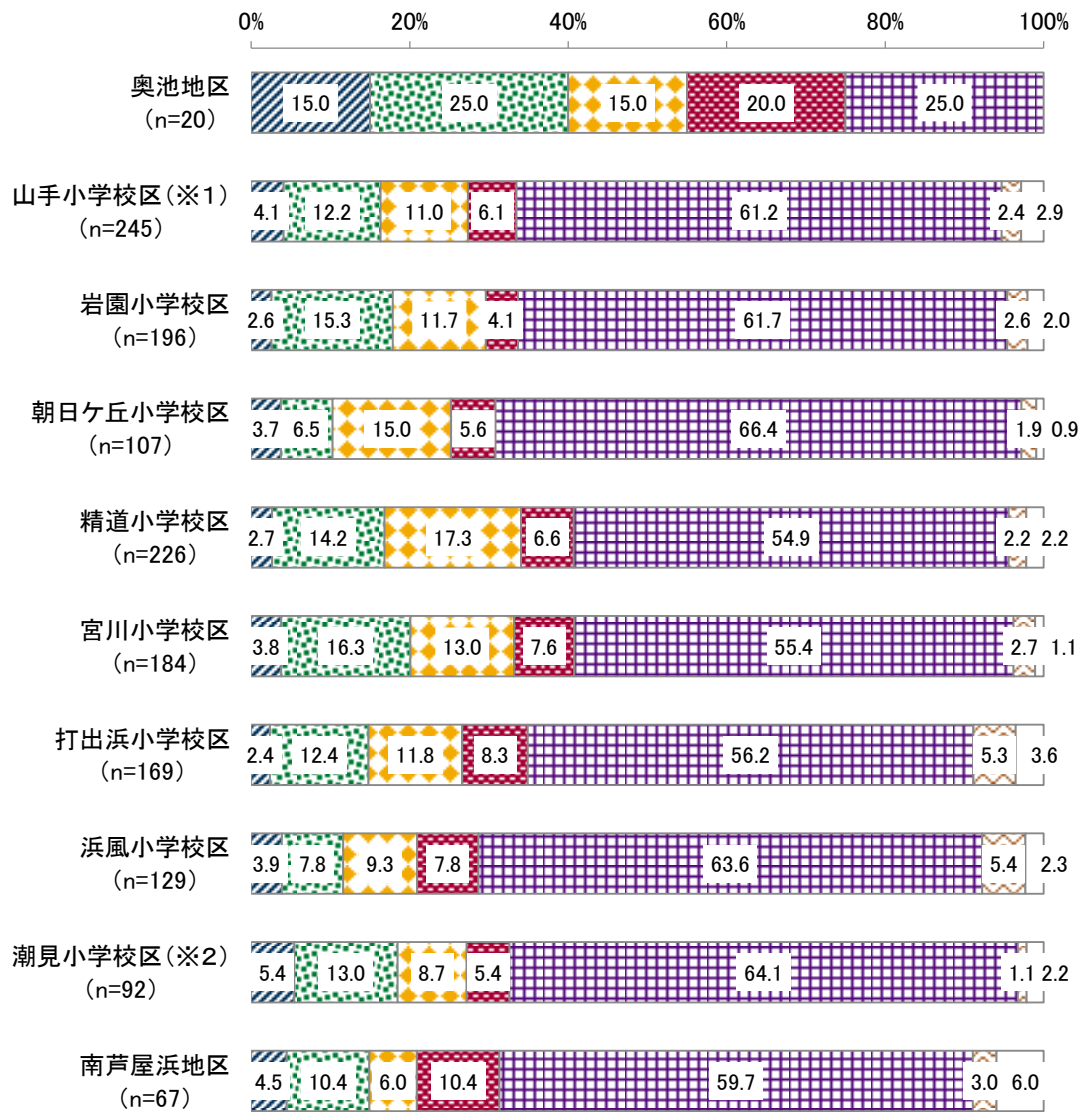
年代別にみると、30 歳代、50 歳代は、他の年代と比較して「不満」「やや不満」と否定的な回答をした割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区、精道小学校区は他の地区と比較して、「やや不満」と回答した割合が高くなっている。

図表 II-9 7 行財政運営の満足度（クロス集計）





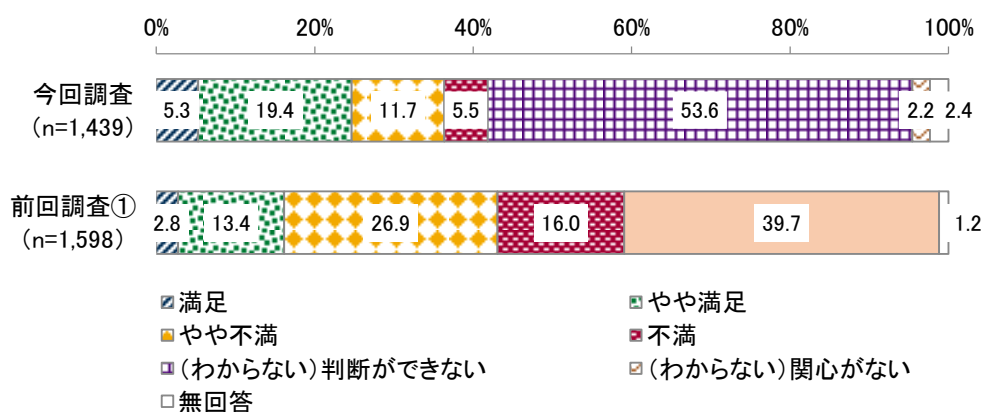


⑬ 行政経営の柔軟性

「（わからない）判断ができない」が 53.6%で最も高く、次いで、「やや満足」が 19.4%となっている。「満足」と「やや満足」の合計では 24.7%となっている。

前回調査①と比較すると、「やや満足」「わからない」の割合が上昇し、「やや不満」「不満」の割合は減少している。

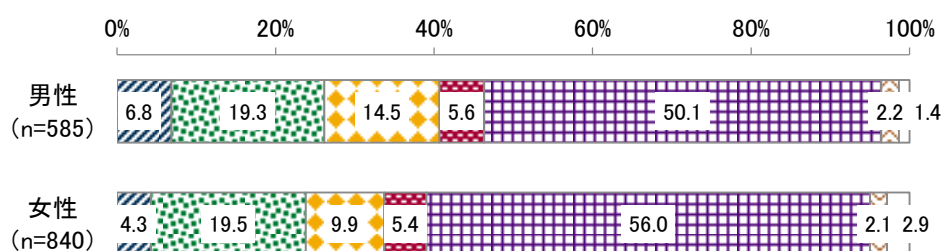
図表 II-98 行政経営の柔軟性の満足度

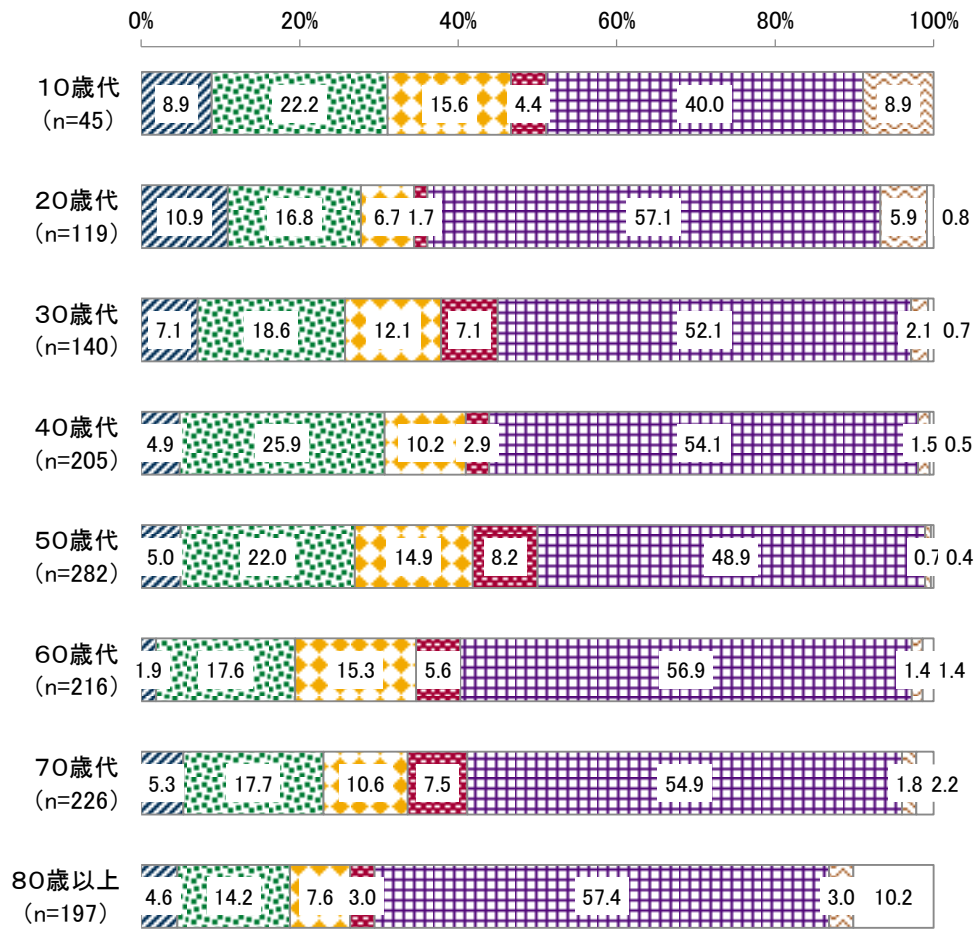


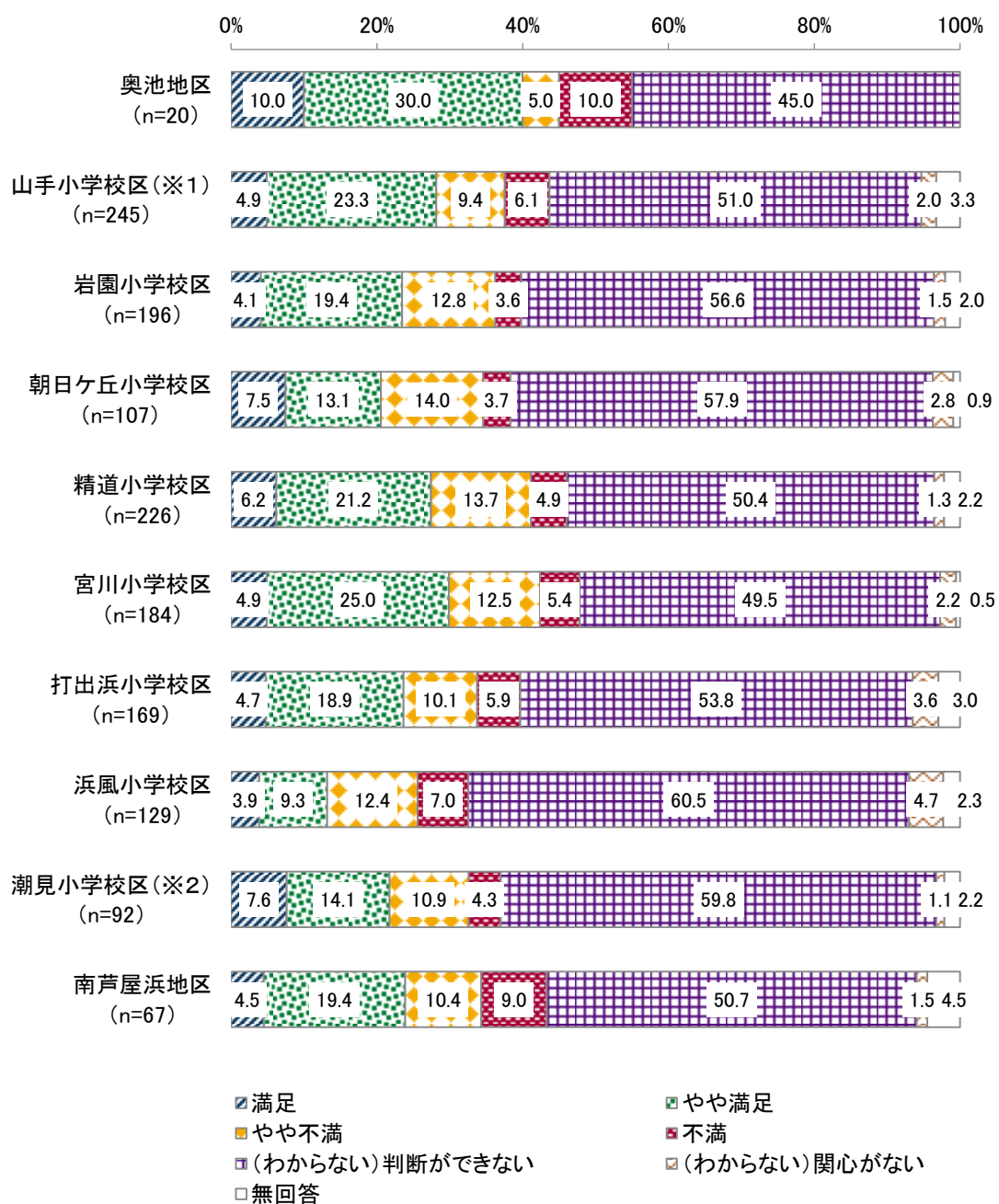
男性は女性よりも「やや不満」と回答した割合が高く、「わからない」と回答した割合が低くなっている。年代別にみると、20 歳代、80 歳代は、他の年代と比較して「やや不満」「不満」と否定的な回答をした割合が低くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区は他の地区と比較して「わからない」と回答した割合が高くなっている。

図表 II-99 行政経営の柔軟性の満足度（クロス集計）





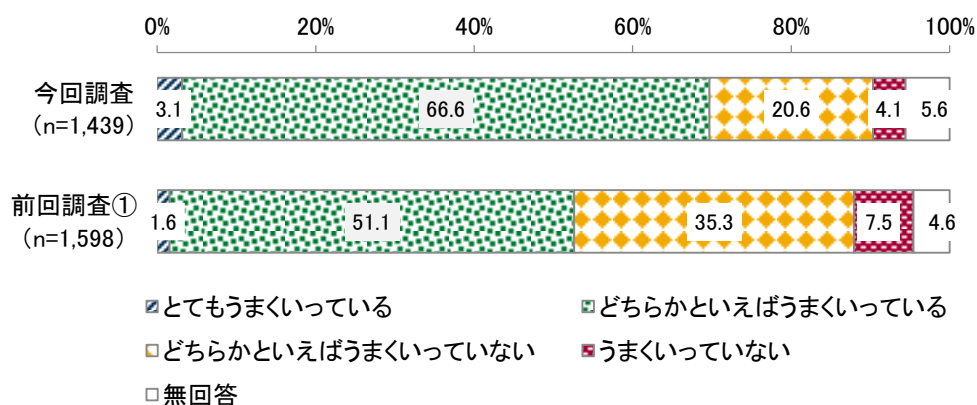


(2) 問 30 芦屋市の現状の評価

「どちらかといえばうまくいっている」の割合が最も高く 66.6%となっている。次いで、「どちらかといえばうまくいっていない（20.6%）」、「うまくいっていない（4.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「どちらかといえばうまくいっている」の割合が大幅に上昇し、「どちらかといえばうまくいっていない」の割合が大幅に低下し、「うまくいっていない」の割合が低下している。

図表 II-100 芦屋市の現状の評価

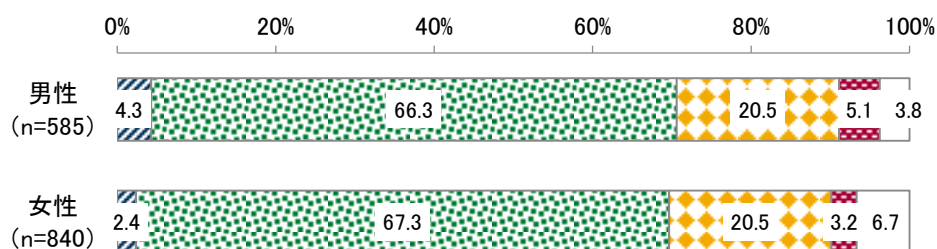


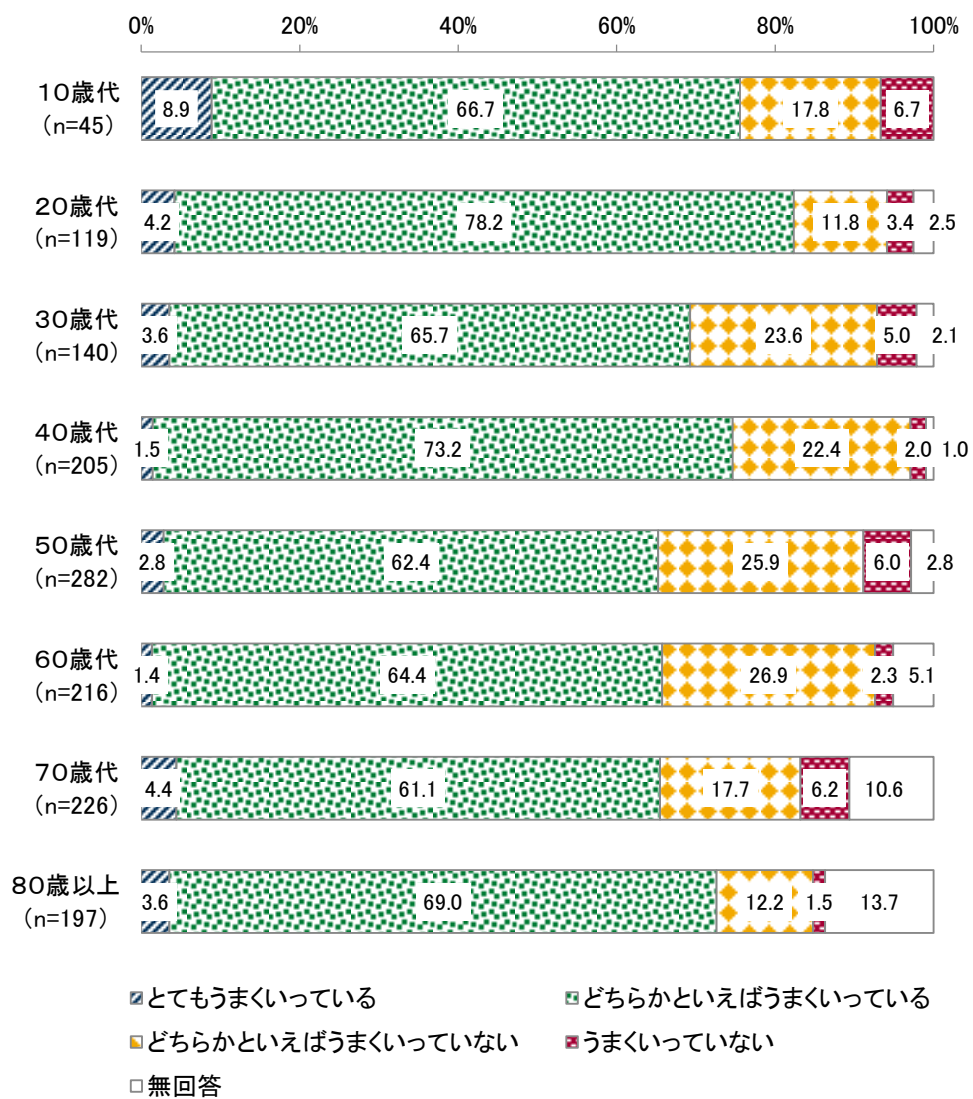
男女で大きな差異はみられない。

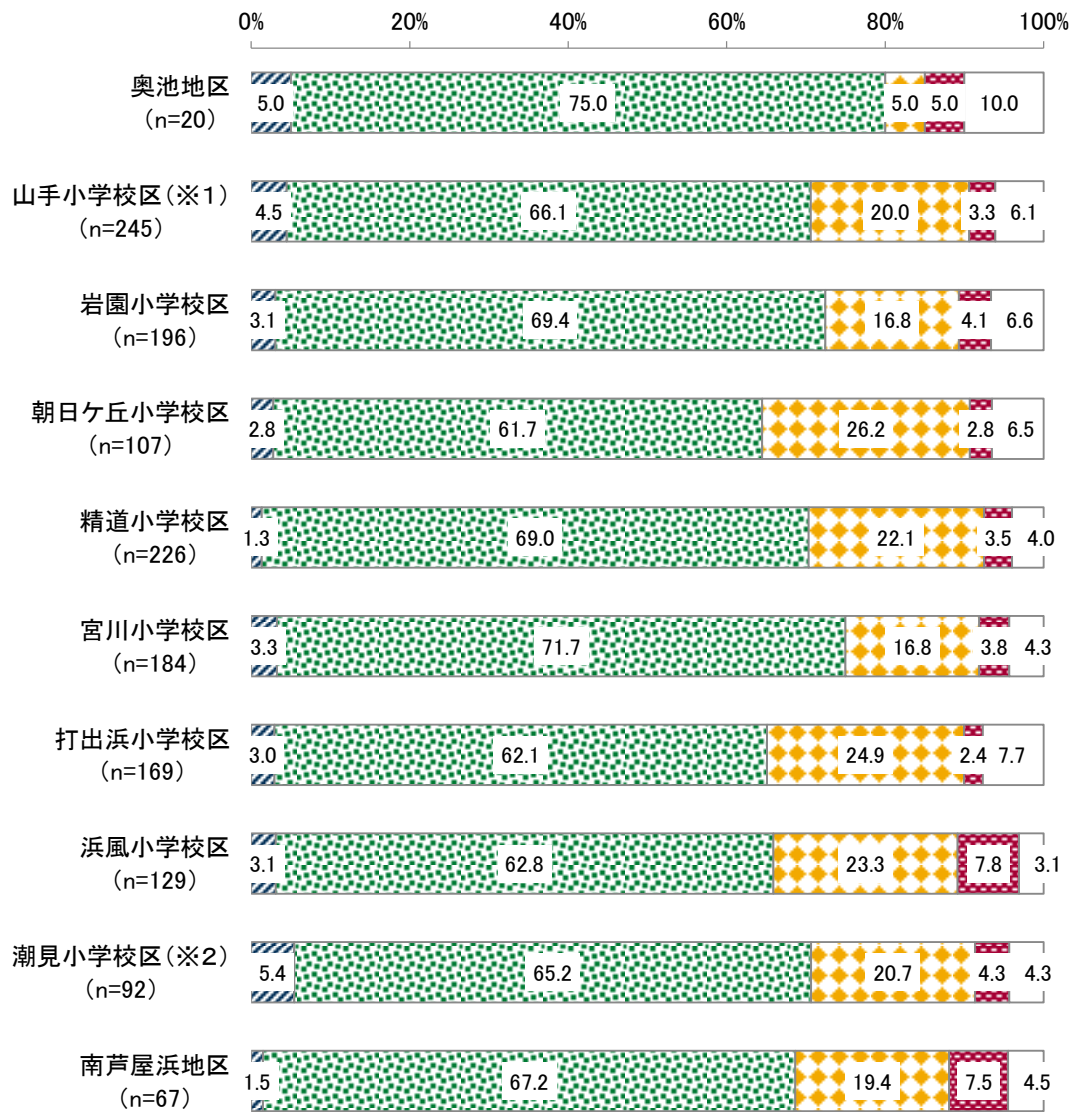
年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「とてもうまくいっている」「どちらかといえばうまくいっている」の肯定的な回答をした割合が高くなっている。

地区別にみると、朝日ヶ丘小学校区、打出浜小学校区、浜風小学校区は他の地区と比較して「とてもうまくいっている」「どちらかといえばうまくいっている」の肯定的な回答をした割合が低くなっている。

図表 II-101 芦屋市の現状の評価（クロス集計）





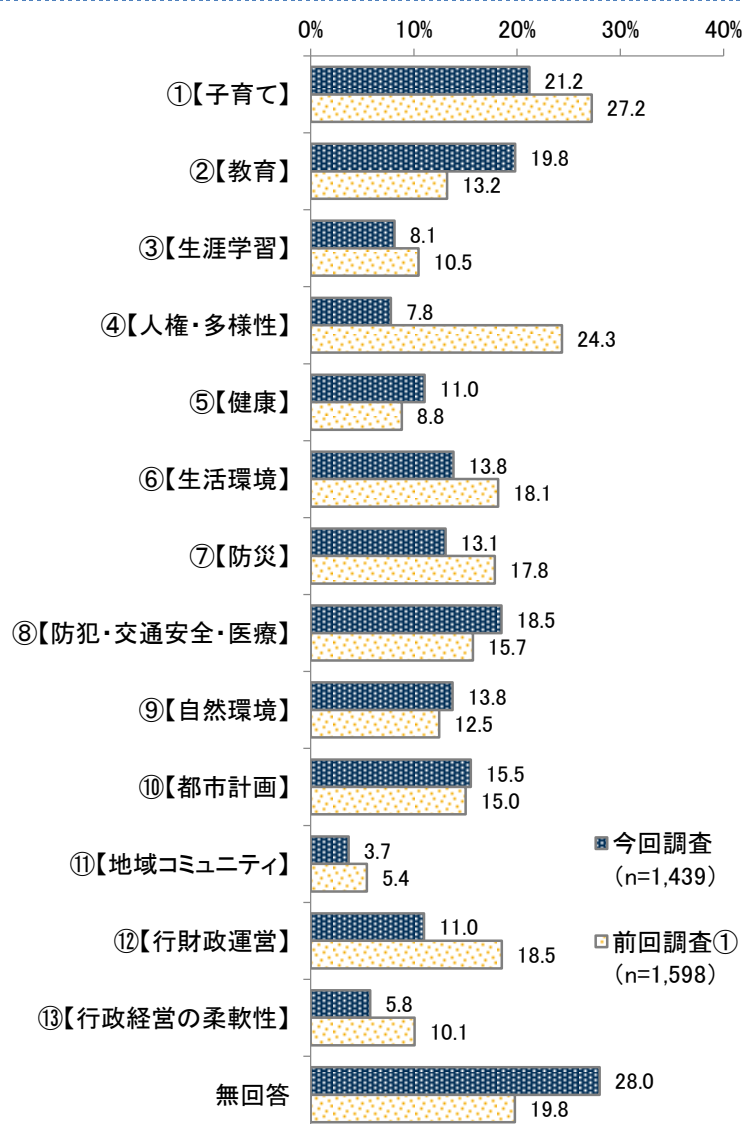


(3) 問 31 魅力創出のため今後力を入れるべき施策目標（3つまで選択）

「①【子育て】家庭環境に応じて子育てできる制度などが整っており、安心して子育てできる。」の割合が最も高く 21.2%となっている。次いで、「②【教育】時代に応じた質の高い教育が平等に受け取ることができ、こどもや若者が心身ともに健全に成長し社会で活躍できる環境が整っている。（19.8%）」、「⑧【防犯・交通安全・医療】犯罪や交通事故が起こりにくいまちになっている。また、必要な時に適切な医療を受けることができる。（18.5%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「②【教育】」の割合が上昇し、「④【人権・多様性】」の割合が大幅に低下し、「①【子育て】」「⑥【生活環境】」「⑦【防災】」「⑫【行財政運営】」「⑬【行政経営の柔軟性】」の割合が低下している。

図表 II-102 魅力創出のため今後力を入れるべき施策目標



男性の方が、女性と比較して「⑧【防犯・交通安全・医療】」の割合が高くなっている。

年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して、「①【子育て】」の割合が大幅に高くなっている。また、40 歳代以上は他の年代と比較して、「⑨【自然環境】」の割合が高くなっている。

地区別にみると、宮川小学校区は、他の地区と比較して、「①【子育て】」の割合が高くなっている。
また、潮見小学校区は、他の地区と比較して、「⑩【都市計画】」「⑫【行財政運営】」の割合が高くなっている。

図表 II-103 魅力創出のため今後力を入れるべき施策目標（クロス集計）

(%)

	調査数	① 「子育て」	② 「教育」	③ 「生涯学習」	④ 「多様な人権」	⑤ 「健康」	⑥ 「生活環境」	⑦ 「防災」	⑧ 「医療・交通安全」
市全体	1,439	21.2	19.8	8.1	7.8	11.0	13.8	13.1	18.5
性別									
男性	585	23.8	20.7	7.4	6.5	12.1	16.6	13.8	21.5
女性	840	19.5	19.4	8.8	8.8	10.2	12.1	12.7	16.5
年代別									
10歳代	45	26.7	20.0	6.7	4.4	8.9	11.1	17.8	11.1
20歳代	119	30.3	21.0	10.1	3.4	5.9	14.3	12.6	18.5
30歳代	140	50.7	34.3	4.3	3.6	5.7	11.4	8.6	18.6
40歳代	205	34.1	35.6	8.3	4.9	6.8	15.1	14.6	19.5
50歳代	282	17.0	18.1	6.7	9.9	12.8	16.3	14.5	24.1
60歳代	216	16.2	14.8	10.2	10.6	14.4	12.5	14.8	18.1
70歳代	226	8.8	11.1	10.2	8.0	17.7	11.9	13.3	16.4
80歳以上	197	5.6	10.2	7.6	11.2	9.1	14.2	10.2	14.2
居住地区									
奥池地区	20	15.0	25.0	10.0	20.0	0.0	5.0	15.0	20.0
山手小学校区(※1)	245	20.4	17.6	12.7	5.3	11.8	15.5	13.1	22.0
岩園小学校区	196	19.9	22.4	6.1	6.6	8.7	15.3	10.2	20.9
朝日ヶ丘小学校区	107	21.5	15.0	10.3	11.2	14.0	17.8	15.0	15.9
精道小学校区	226	21.7	22.6	6.2	8.4	13.3	8.8	17.3	20.4
宮川小学校区	184	26.6	18.5	8.7	8.2	8.7	16.3	11.4	15.2
打出浜小学校区	169	22.5	21.9	10.1	10.1	11.8	13.6	12.4	14.8
浜風小学校区	129	19.4	18.6	5.4	4.7	10.9	14.7	11.6	16.3
潮見小学校区(※2)	92	17.4	15.2	3.3	6.5	13.0	9.8	13.0	17.4
南芦屋浜地区	67	19.4	25.4	6.0	10.4	9.0	14.9	13.4	20.9

	⑨ 「自然環境」	⑩ 「都市計画」	⑪ 「地域コミュニティ」	⑫ 「行財政運営」	⑬ 「営の柔軟性」	無回答
市全体	13.8	15.5	3.7	11.0	5.8	28.0
性別						
男性	15.6	16.9	3.8	12.6	5.8	22.9
女性	12.5	14.4	3.7	10.0	5.7	31.0
年代別						
10歳代	2.2	20.0	4.4	4.4	4.4	11.1
20歳代	9.2	10.9	4.2	6.7	4.2	27.7
30歳代	9.3	12.1	2.9	12.1	4.3	25.0
40歳代	14.6	15.1	4.4	8.8	5.4	18.5
50歳代	14.5	17.4	5.3	14.2	6.4	22.7
60歳代	17.6	15.3	6.5	13.0	7.4	26.4
70歳代	15.9	15.0	0.9	11.1	6.2	34.1
80歳以上	13.2	17.3	1.0	9.6	5.1	46.2
居住地区						
奥池地区	35.0	30.0	10.0	0.0	0.0	30.0
山手小学校区(※1)	18.0	15.5	3.7	9.8	5.7	26.1
岩園小学校区	12.8	14.3	3.6	13.3	6.1	30.6
朝日ヶ丘小学校区	13.1	14.0	2.8	11.2	6.5	24.3
精道小学校区	15.0	15.5	4.0	8.0	5.3	27.9
宮川小学校区	12.0	12.0	2.7	14.1	5.4	27.2
打出浜小学校区	11.8	11.2	5.3	11.8	6.5	27.2
浜風小学校区	11.6	15.5	3.9	9.3	6.2	30.2
潮見小学校区(※2)	12.0	22.8	3.3	16.3	4.3	32.6
南芦屋浜地区	9.0	28.4	1.5	7.5	7.5	22.4

(4) 問 31 今後力を入れるべき施策目標を選んだ理由

全 13 施策目標に対して、1,553 件の意見が得られた（前回調査より 1,038 件減）。

意見数の多いものから順に、①【子育て】家庭環境に応じて子育てできる制度などが整っており、安心して子育てできる（214 件）、⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる（199 件）、②自らの未来への道を切り拓く力が育っている（174 件）となっている。

図表 II-104 施策目標ごとの具体的意見の例

①誰もが安心して生み育てられる環境が充実している（意見数 214 件）（前回調査より 187 件減）

【主な記述】

- ・【選んだ理由】未来の投資となるため・こどもは大事である（47 件）
- ・安心して子育てができる支援施策・環境を充実させてほしい（39 件）
- ・子育て時の経済的支援をしてほしい（19 件）
- ・保育料無償化してほしい・保育料が高い（18 件）
- ・こどもが過ごせる場所・施設を充実させてほしい（14 件）
- ・【選んだ理由】子育てしやすい環境が必要であるため（12 件）
- ・他市のような施策を希望（12 件）
- ・教育無償化・負担軽減してほしい（10 件）
- ・若い・子育て世帯を増やすまちづくりが必要（9 件）
- ・期待・感謝の声（8 件）
- ・医療費無償化してほしい・医療費が高い（8 件）
- ・就学前施設等の整備をしてほしい（5 件）
- ・妊娠・出産時における環境を整備してほしい（5 件）
- ・申請の簡略化をしてほしい（2 件）
- ・地域・多世代交流をしてほしい（2 件）
- ・もっと子育て世代の意見を聞くべき（2 件）
- ・もっと PR してほしい（2 件）

②自らの未来への道を切り拓く力が育っている（意見数 174 件）（前回調査より 1 件減）

【主な記述】

- ・（学校）教育の質を充実させてほしい（46 件）
- ・期待の声（15 件）
- ・学生・若者への補助をしてほしい（14 件）
- ・教諭・教師の負担軽減が必要（12 件）
- ・【選んだ理由】こどもにとって教育は大事であるから（12 件）
- ・若い世代・子育て世代へ力を入れてほしい（12 件）
- ・【選んだ理由】教育は基礎だから（10 件）
- ・いじめ対策を充実させてほしい（7 件）
- ・不登校対策を希望（6 件）
- ・学区の見直しを希望（5 件）
- ・一人ひとりにあった教育をしてほしい（5 件）

- ・ 学校施設を充実させてほしい（4 件）
- ・ 平等な教育機会の確保すべき（格差をなくす）（4 件）
- ・ 昔からの対応を変えるべきである（3 件）
- ・ 英語教育に力を入れるべき（3 件）
- ・ 学習環境を改善してほしい（3 件）
- ・ 学校までが遠い（2 件）
- ・ 学童に関する要望（2 件）
- ・ 学びの場が欲しい（2 件）
- ・ こどもにもっと教育をしてほしい（2 件）
- ・ 「ちよどの学び」には反対である（2 件）
- ・ 学校制度に新たな考え方を入れるべき（2 件）
- ・ もっと参画したい（1 件）

③生涯を通じた学びの文化が醸成されている（意見数 91 件）（前回調査より 55 件減）
--

【主な記述】

- ・ イベント・企画を充実させてほしい（16 件）
- ・ 【選んだ理由】地域の発展につながるから（11 件）
- ・ 図書館・利用環境を充実させてほしい（9 件）
- ・ 周知・啓発が必要（7 件）
- ・ 施設が少ない（6 件）
- ・ 【選んだ理由】高齢者施策として重要だから（6 件）
- ・ スポーツ施設を整備してほしい（6 件）
- ・ 学びの場を充実させてほしい（5 件）
- ・ 利用しやすい(このまま維持してほしい)（5 件）
- ・ 美術博物館を充実させてほしい（5 件）
- ・ スポーツを充実させてほしい（5 件）
- ・ （施設やイベントが）近場であればうれしい（4 件）
- ・ 若者に対する文化施策が必要（3 件）
- ・ 世代間交流を促進させてほしい（3 件）

④あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる（意見数 69 件）（前回調査より 189 件減）

【主な記述】

- ・ 高齢者が暮らしやすいまちづくりが必要（25 件）
- ・ 障がい者が暮らしやすいまちづくりが必要（15 件）
- ・ あらゆる人が暮らしやすいまちづくりが必要（8 件）
- ・ 外国人が暮らしやすいまちづくりが必要（6 件）
- ・ 【選んだ理由】多様性・相互理解が大事であるため（5 件）
- ・ 啓発・広報を充実させてほしい（4 件）
- ・ 福祉を充実してほしい（2 件）
- ・ 【選んだ理由】現在、取組が弱いと思っているため（2 件）
- ・ 弱者でない者の負担を多くしないでほしい（1 件）

- ・ 人権を大切にしてほしい（1 件）

⑤健康になるまちづくりが進んでいる（意見数 66 件）（前回調査より 40 件減）

【主な記述】

- ・ 医療資源を充実させてほしい（17 件）
- ・ 健康イベント・企画を充実させてほしい（15 件）
- ・ 【選んだ理由】健康は生きるため大事である（12 件）
- ・ 【選んだ理由】高齢者が多いまちであるため（5 件）
- ・ 啓発・広報を充実させてほしい（5 件）
- ・ 施策に対するお礼（4 件）
- ・ ワクチン・予防接種に関する要望（3 件）
- ・ 健康診断・検診を充実させてほしい（3 件）
- ・ こども・若者のイベントが不足している（2 件）

⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている（意見数 129 件）（前回調査より 100 件減）

【主な記述】

- ・ カラス対策が必要（20 件）
- ・ 商業施設・飲食店などを充実させてほしい（15 件）
- ・ 【選んだ理由】快適な環境・街並みを維持してほしいため（12 件）
- ・ 喫煙マナーが悪い・受動喫煙対策をしてほしい（12 件）
- ・ ごみ収集回数・方法を検討してほしい（12 件）
- ・ ごみ分別ルールを研究・対策してほしい（11 件）
- ・ 【選んだ理由】芦屋の良さを活かしてほしい（8 件）
- ・ ごみの置き場所を検討してほしい（7 件）
- ・ (ポイ捨てなど)マナーが守れていない（6 件）
- ・ 生態系の保全をしてほしい（5 件）
- ・ 南北格差がある（5 件）
- ・ ごみ袋を見直してほしい（4 件）
- ・ ペット、動物に関する要望（4 件）
- ・ 地域活性化の取組をしてほしい（3 件）
- ・ あしや温泉に関する要望（2 件）
- ・ 良い生活環境であることを望む（2 件）
- ・ 行政サービスを向上してほしい（1 件）

⑦災害に強いまちづくりが進んでいる（意見数 103 件）（前回調査より 115 件減）

【主な記述】

- ・ 防災対策を充実させてほしい（15 件）
- ・ 啓発・広報を充実させてほしい（14 件）
- ・ 無電柱化を進めてほしい（12 件）
- ・ 南海トラフなど地震対策が必要（9 件）
- ・ 水害対策が必要（9 件）

- ・【選んだ理由】災害はいつ起こるかわからないから（8 件）
- ・【選んだ理由】被災時の助け合いが必要であるため（5 件）
- ・避難場所を充実させてほしい（5 件）
- ・防災無線が聞こえづらい（5 件）
- ・災害が不安である（4 件）
- ・避難訓練を充実させてほしい（3 件）
- ・阪神・淡路大震災の教訓を伝えることが必要（3 件）
- ・【選んだ理由】自治体の役割であるため（2 件）
- ・組織体制の確立が必要である（2 件）
- ・防災意識の向上が必要（2 件）
- ・土砂災害対策が必要（2 件）
- ・無電柱化には反対（1 件）
- ・【選んだ理由】高齢者が多いため（1 件）
- ・自身は対策をしている（1 件）

⑧日常の安全安心が確保されている（意見数 157 件）（前回調査より 66 件減）

【主な記述】

- ・医療体制を充実させてほしい（33 件）
- ・バイク・車のスピード違反・路上駐車など違反が多い（27 件）
- ・【選んだ理由】犯罪が増えているため（15 件）
- ・自転車のルール違反が多い（13 件）
- ・街灯が少ない、まちが暗い（13 件）
- ・犯罪対策をしてほしい（12 件）
- ・防犯カメラの設置を希望（11 件）
- ・外国人に関するご意見（7 件）
- ・【選んだ理由】芦屋市の魅力と感じているため（6 件）
- ・安心して暮らせる町を希望（5 件）
- ・不審者がいる地域がある（5 件）
- ・防犯パトロールをしてほしい（4 件）
- ・【選んだ理由】安心したいため（4 件）
- ・街灯が明るすぎ（1 件）
- ・啓発・広報を充実させてほしい（1 件）

⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている（意見数 141 件）（前回調査より 35 件減）

【主な記述】

- ・緑が多すぎる・管理ができていない（29 件）
- ・美しい景観をそのまま維持してほしい（19 件）
- ・緑をもっと増やしてほしい（16 件）
- ・公園を整備してほしい（16 件）
- ・【選んだ理由】景観に魅力があるから（13 件）
- ・芦屋川及び川沿いを整備してほしい（12 件）
- ・騒音対策をしてほしい（5 件）

- ・【選んだ理由】住みやすいまちとして魅力がある（5 件）
- ・空き家対策をしてほしい（5 件）
- ・南護岸をもっと活用してほしい（4 件）
- ・芦屋のイメージを大切にしてほしい（4 件）
- ・建物の建設についての要望（4 件）
- ・景観が悪いところがある（2 件）
- ・もっと PR してほしい（2 件）
- ・【選んだ理由】もっとより良くしてほしい（2 件）
- ・【選んだ理由】これ以上は望まない（2 件）
- ・看板の規制をしてほしい（1 件）

⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる（意見数 199 件）（前回調査より 13 件減）

【主な記述】

- ・道路環境を整備してほしい（30 件）
- ・バスを増便してほしい（27 件）
- ・歩道を整備・修繕してほしい（24 件）
- ・JR 芦屋駅南地区再開発への期待（15 件）
- ・ごみ処理場に関する要望（12 件）
- ・駅・駅周辺の交通対策が必要（12 件）
- ・交通利便性を向上してほしい（11 件）
- ・自転車レーンを整備してほしい（10 件）
- ・パイプラインの維持・整備してほしい（9 件）
- ・駐輪場を増やしてほしい（9 件）
- ・JR 芦屋駅南地区再開発への不満（8 件）
- ・【選んだ理由】インフラ整備は大事である（7 件）
- ・長期を見据え検討してほしい（5 件）
- ・水道・ガス管などについてのご意見（4 件）
- ・設備の老朽化が進んでいる（3 件）
- ・土地・施設を活用してほしい（3 件）
- ・【選んだ理由】十分整備されているため（3 件）
- ・橋梁の整備・修繕してほしい（3 件）
- ・不必要な工事が多い（2 件）
- ・パイプラインは不要である（1 件）
- ・南芦屋浜の整備について（1 件）

⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる（意見数 48 件）（前回調査より 31 件減）

【主な記述】

- ・市などの活動における周知不足（12 件）
- ・地域イベントを充実させてほしい（8 件）
- ・地域差や年代差などがある(高齢者が多い)（5 件）
- ・制度を構築すべき（5 件）

- ・市が関わり合いを持つべきである(地域住民の意見を聞くなど) (5 件)
- ・自治会に関する意見 (4 件)
- ・もう少し関わり合いを持ちたい (3 件)
- ・【選んだ理由】困ったときに助け合うため (2 件)
- ・あまり関わりあいたくない (2 件)
- ・柔軟性に欠ける (1 件)
- ・自治会の意見が反映されない (1 件)

⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている (意見数 74 件) (前回調査より 161 件減)

【主な記述】

- ・【選んだ理由】財政の健全化を希望しているため (13 件)
- ・判断できない・情報不足である (13 件)
- ・長期的に計画を立ててほしい (8 件)
- ・人口減少社会への対策をすべきである (7 件)
- ・子育て世帯が住みやすい施策を充実させてほしい (5 件)
- ・税収を増やしていくべき (4 件)
- ・芦屋らしさを PR してほしい (3 件)
- ・高齢化社会への対策をすべきである (3 件)
- ・職員への期待 (3 件)
- ・コンパクトな市を目指すべき (3 件)
- ・【選んだ理由】芦屋市に住みたいため (2 件)
- ・応益負担すべき (2 件)
- ・職員対応に対する要望 (2 件)
- ・ふるさと納税を活用すべき (2 件)
- ・住みやすいまちづくりを希望 (1 件)
- ・外部意見を取り入れてほしい (1 件)
- ・施設を分散してほしい (1 件)
- ・指定管理制度を見直してほしい (1 件)

⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている (意見数 30 件) (前回調査より 103 件減)

【主な記述】

- ・情報発信をしてほしい (8 件)
- ・市への期待・お礼 (5 件)
- ・パワハラをなくすべき (4 件)
- ・【選んだ理由】臨機応変の対応が必要 (2 件)
- ・住民税が高い (2 件)
- ・外部委託が多い (1 件)
- ・信頼できる組織になってほしい (1 件)
- ・職員のやる気をおこさせる給与制度にすべき (1 件)
- ・デジタル化は重要である (1 件)
- ・行政手続きに時間がかかる (1 件)

- ・ 企業を誘致すべき（1 件）
- ・ 評価が難しい（1 件）
- ・ 市内在住職員が少ない（1 件）
- ・ 庁内連携が必要（1 件）

その他（意見数 58 件）

【主な記述】

- ・ 議会に対する要望（7 件）
- ・ 市長への期待（2 件）
- ・ その他・特になし（49 件）

(5) 問 29×問 31 評点と重要度による散布図の提示

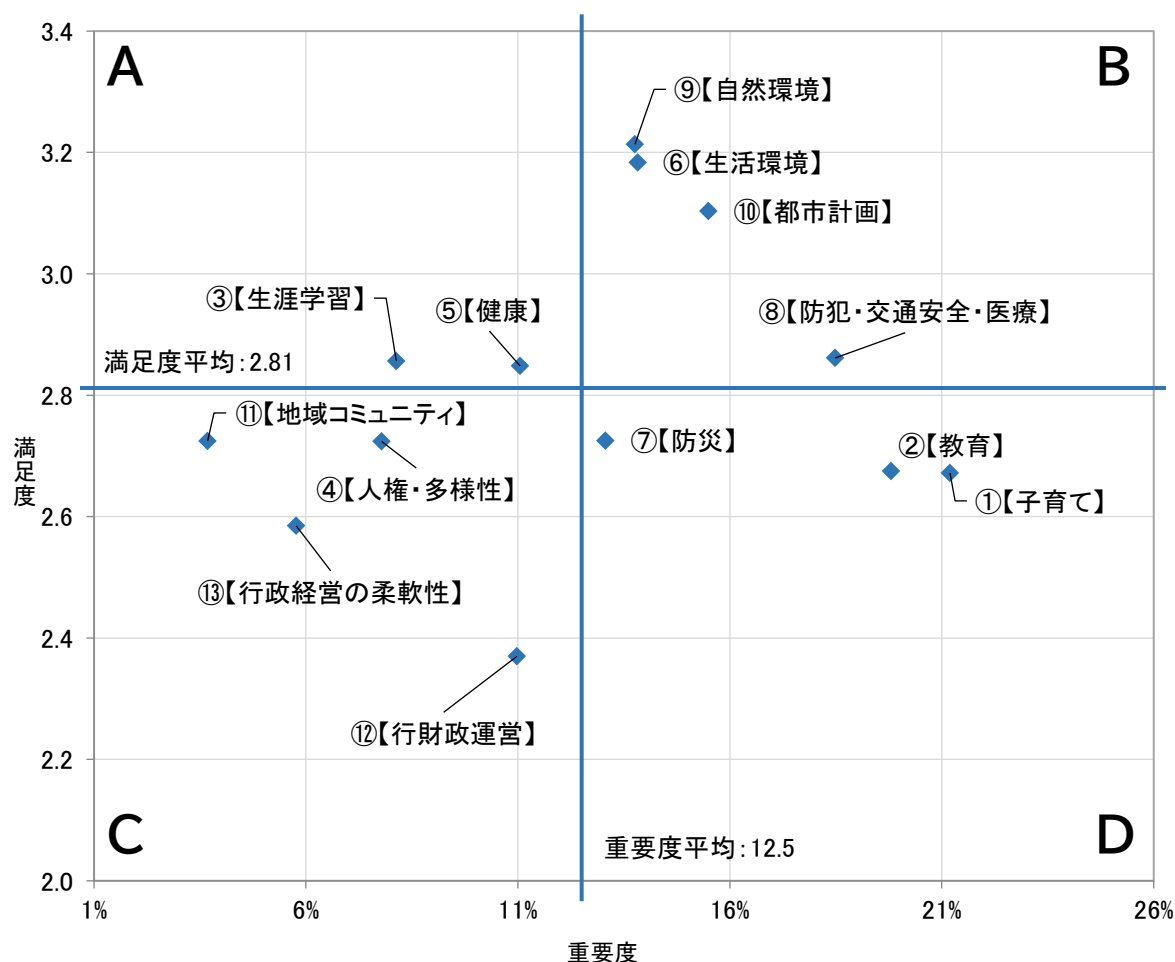
13 項目の施策目標について、

- ・縦軸を満足度とし、「満足」に 4 点、「やや満足」に 3 点、「やや不満」に 2 点、「不満」に 1 点の係数をかけ、母数（選択した回答者の数）で割って平均した評点を示す。
- ・横軸を重要度とし、問 31 において 13 項目の中から選ばれた、今後力を入れるべき施策目標（3 つ選択）の出現率を示す。

散布図を平均値で 4 象限に区分し、相対的な位置づけを明らかにする。

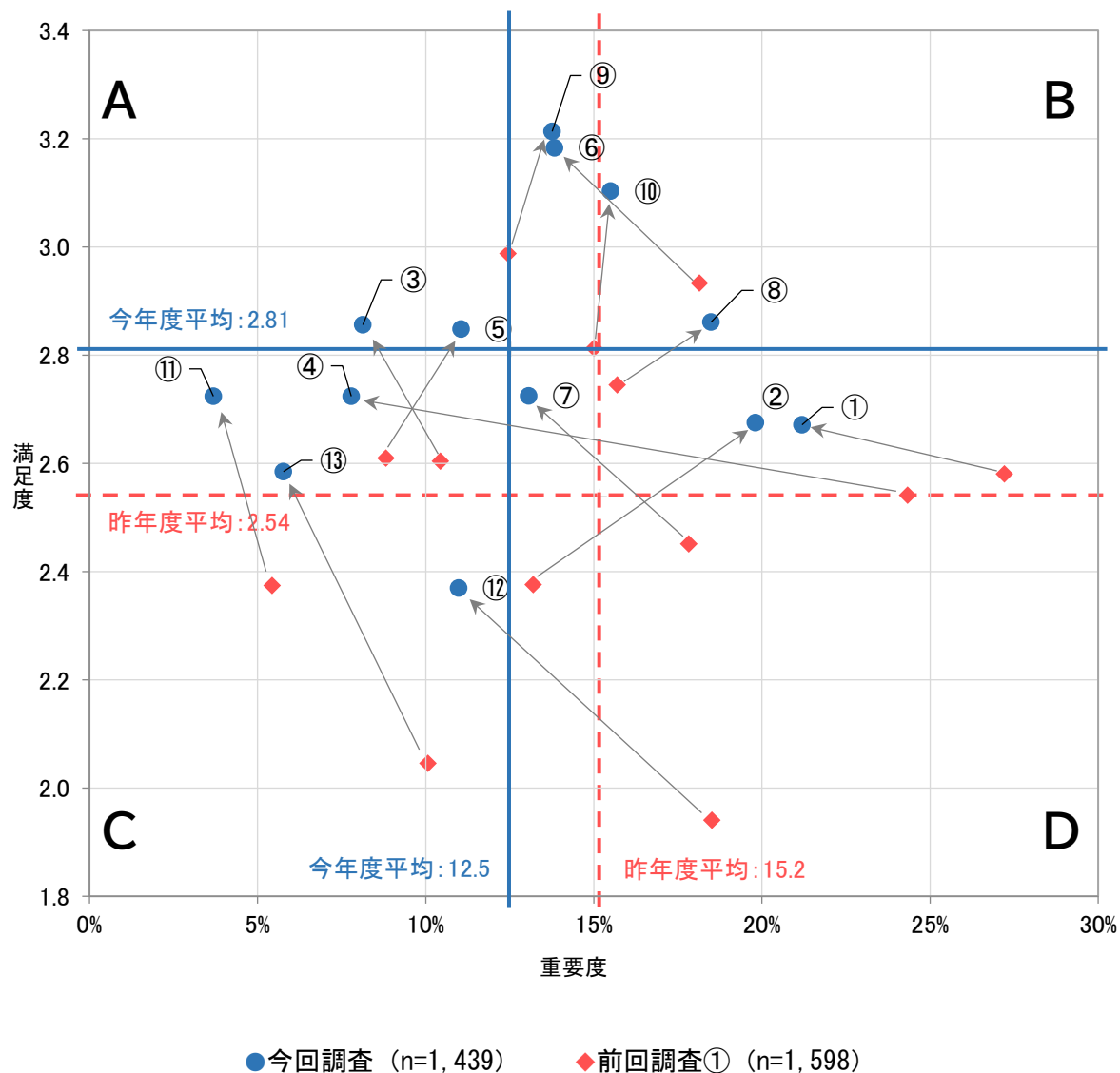
- ・象限 A …満足度が高く、重要度が低い⇒施策が評価され、緊急性は低いと意識される分野
- ・象限 B …満足度・重要度ともに高い⇒施策が評価されているが、さらに発展が求められる分野
- ・象限 C …満足度・重要度ともに低い⇒施策への評価は低く、関心も低い分野
- ・象限 D …満足度が低く、重要度が高い⇒施策への評価が低く、重点的な取組が求められる分野

図表 II-105 芦屋市の現状の評価



評点と重要度による散布図を前回調査①と比較した結果、満足度の平均は 0.27 点上がっており、重要度の平均は 2.7 ポイント下がっている。

図表 II-106 芦屋市の現状の評価（前回調査①との比較）

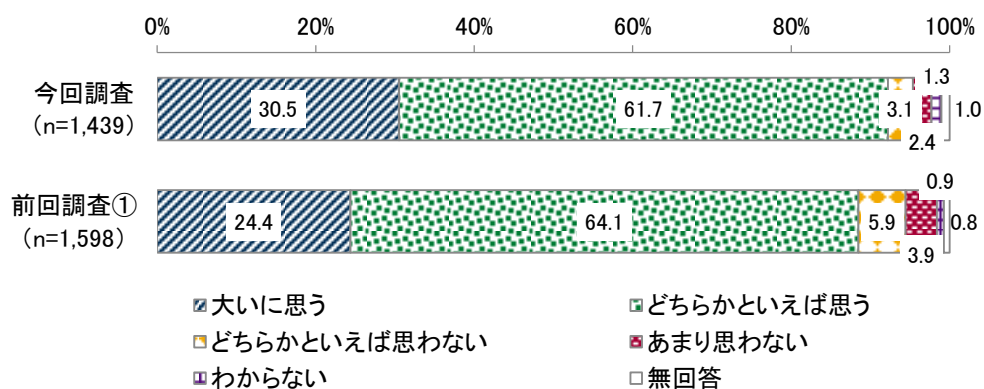


(6) 問 32 美しく清潔で快適なまちだと思うか

「どちらかといえば思う」の割合が最も高く 61.7%となっている。次いで、「大いに思う（30.5%）」、「どちらかといえば思わない（3.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「大いに思う」の割合が上昇し、「どちらかといえば思わない」の割合が低下している。

図表 II-107 美しく清潔で快適なまちだと思うか

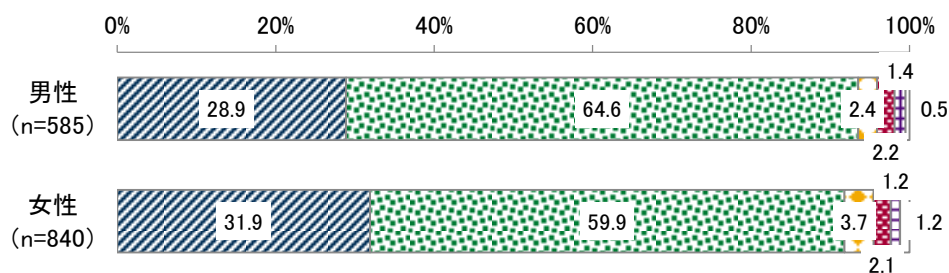


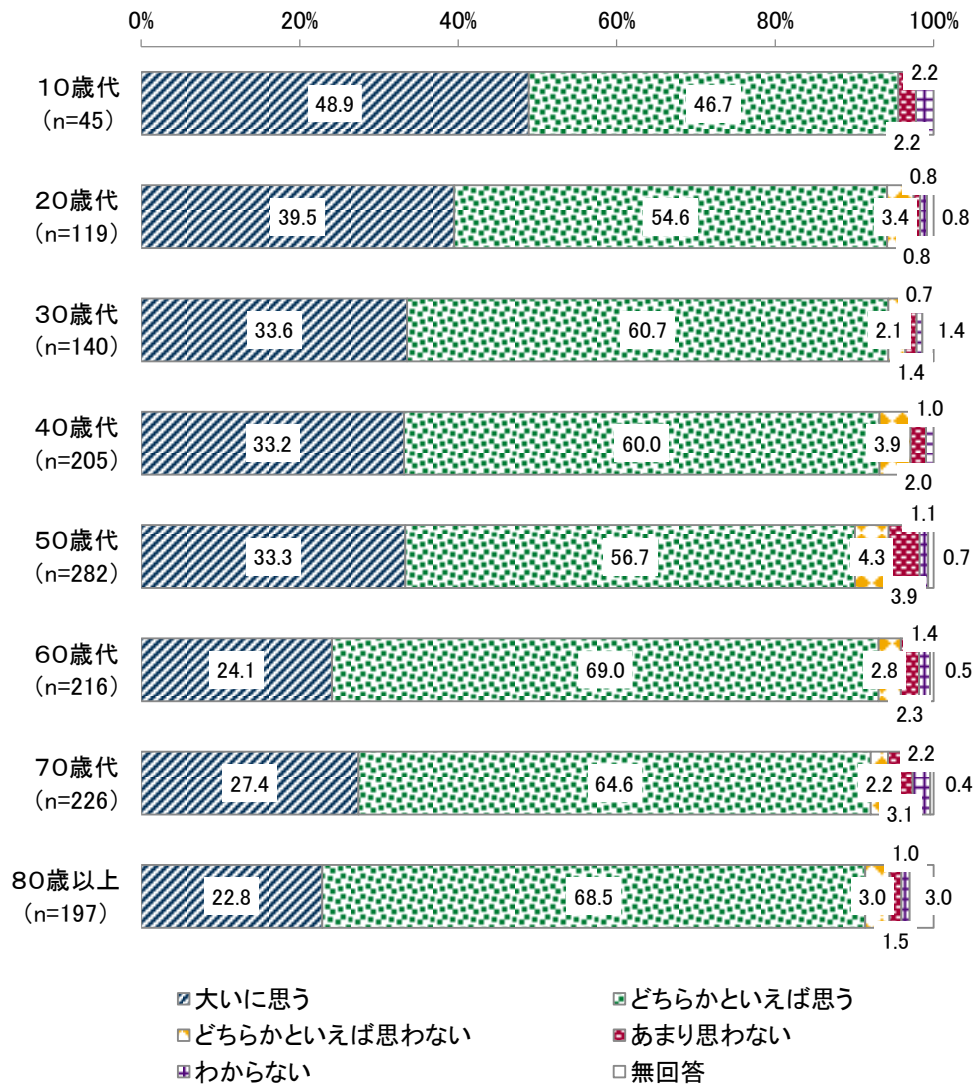
女性は男性よりも美しく清潔で快適なまちだと「大いに思う」割合が高くなっている。

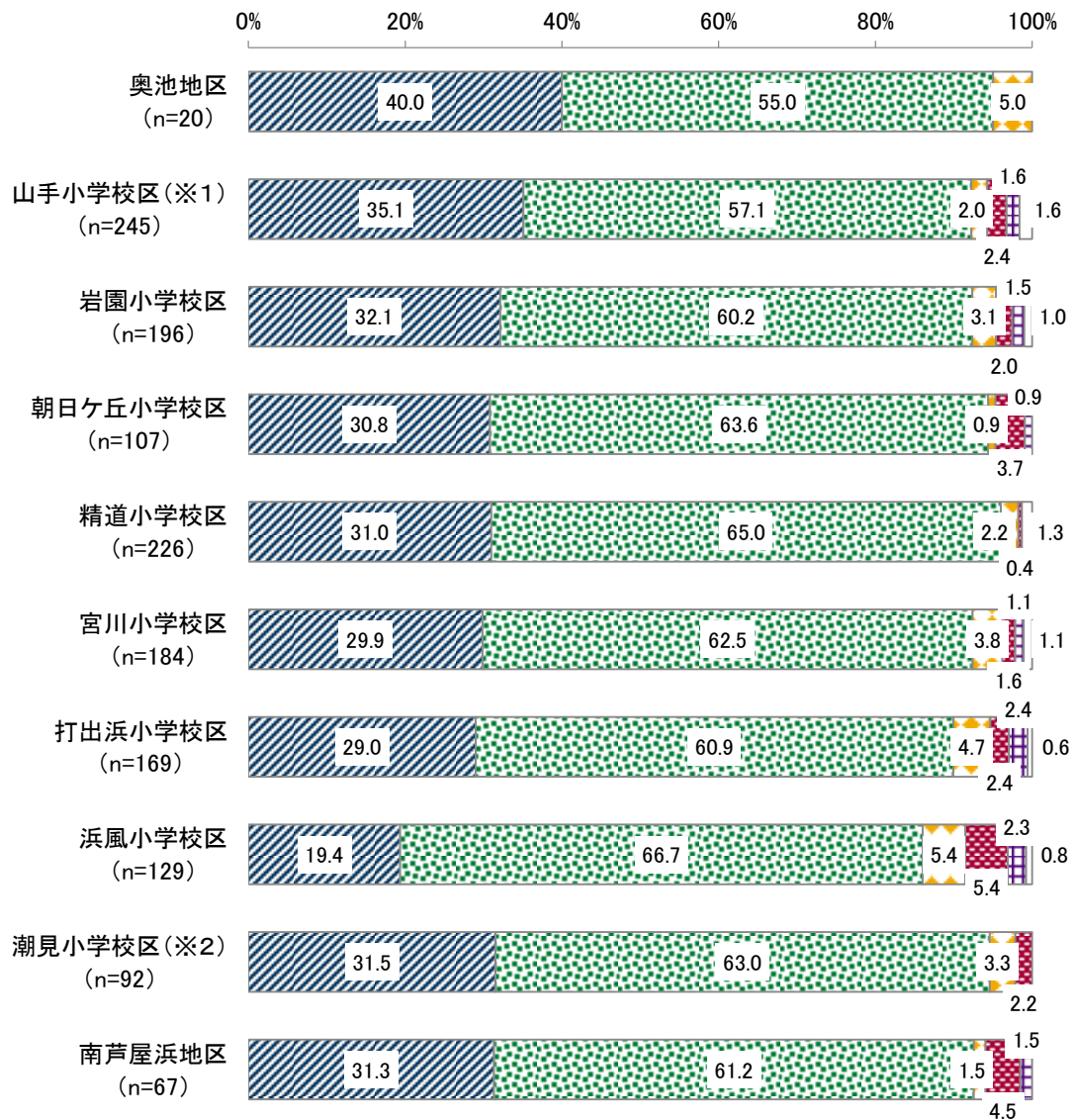
年代別にみると、60 歳代以上は、他の年代と比較して、「大いに思う」の割合が低くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区は他の地区と比較して、「大いに思う」の割合が低くなっている。

図表 II-108 美しく清潔で快適なまちだと思うか（クロス集計）







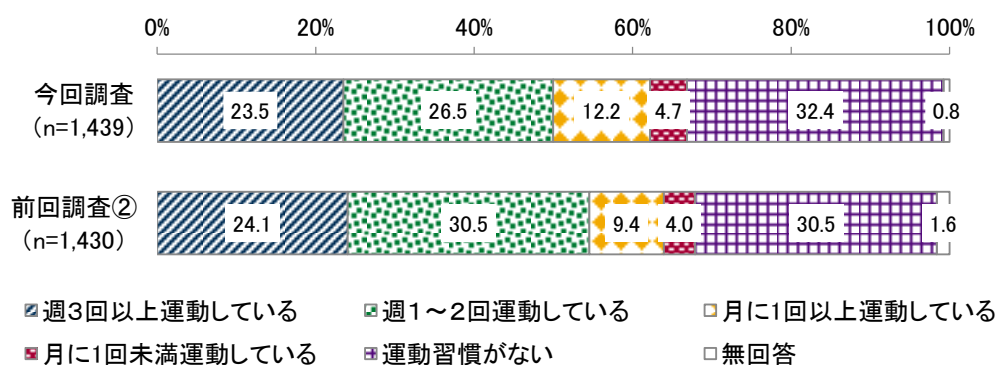
4. 健康づくりについて

(1) 問 33 運動習慣の有無

「運動習慣がない」の割合が最も高く 32.4%となっている。次いで、「週 1 ～ 2 回運動している (26.5%)」、「週 3 回以上運動している (23.5%)」となっている。

前回調査②と比較すると、「週 1 ～ 2 回運動している」の割合が低下し、「月に 1 回以上運動している」の割合が上昇している。

図表 II-109 運動習慣の有無



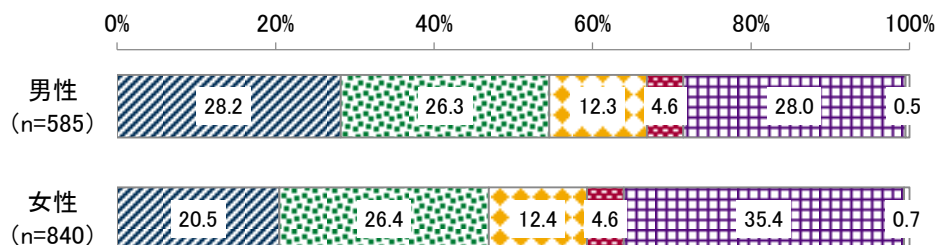
(注) 前回調査②の選択肢は「週 3 回以上」「週 1 回以上」「月 1 回以上」「月 1 回未満」「運動習慣がない」となっている。

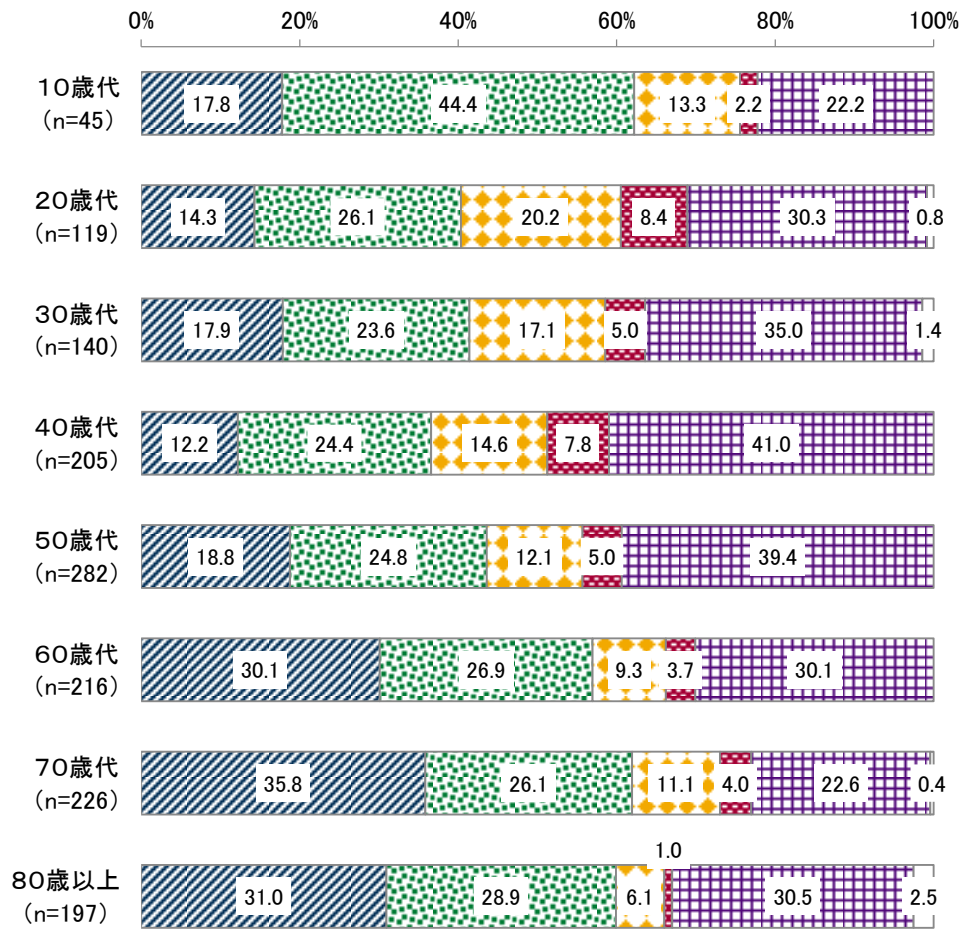
女性は男性よりも「週 3 回以上運動している」割合が低く、「運動習慣がない」割合が高くなっている。

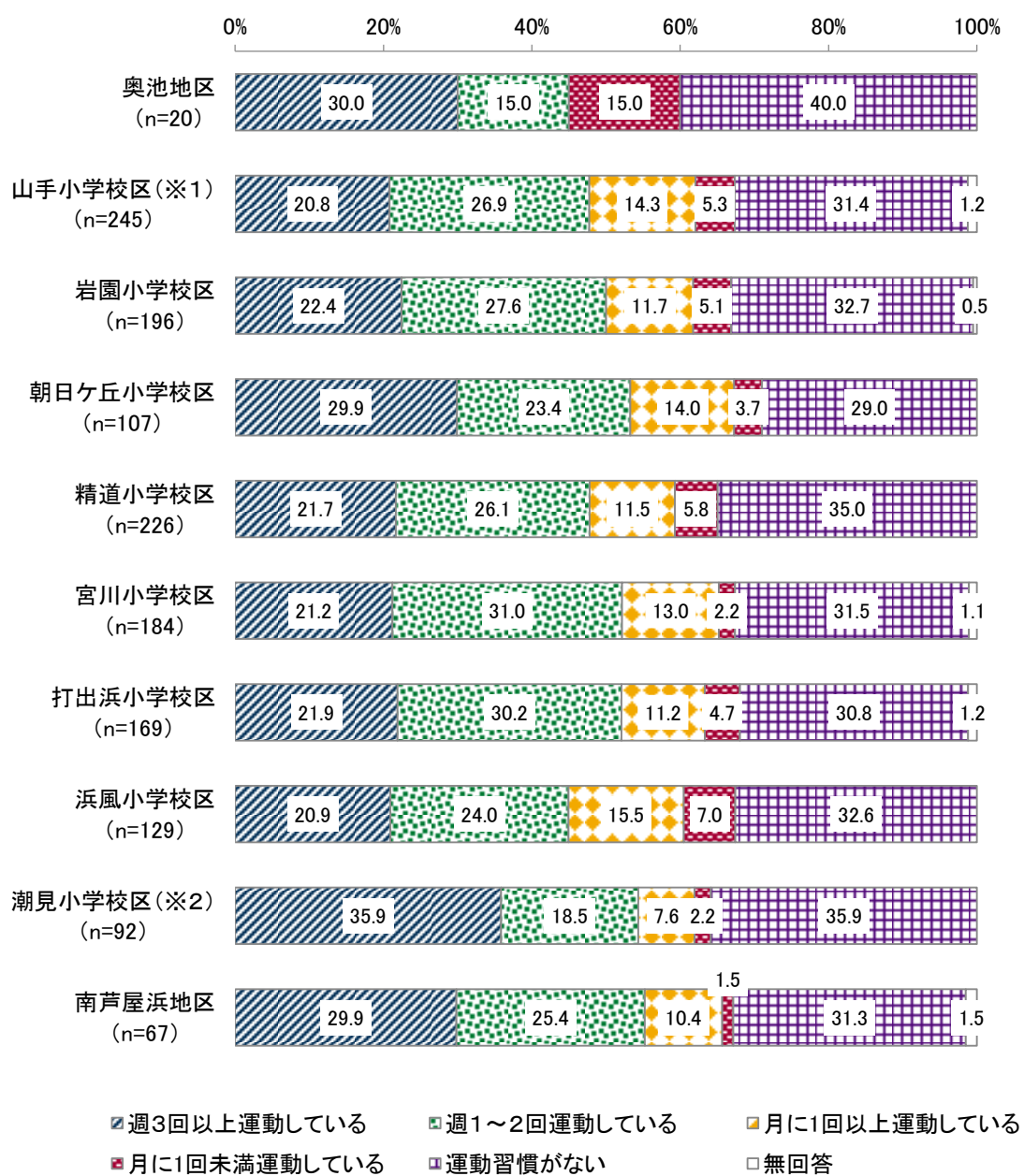
年代別にみると、40 歳代は他の年代と比較して、「週 3 回以上運動している」割合が低く、「運動習慣が無い」割合が高くなっている。60 歳代以上は、他の年代と比較して、「週 3 回以上運動している」割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は、他の地区と比較して、「週 3 回以上運動している」割合が高くなっている。

図表 II-110 運動習慣の有無 (クロス集計)





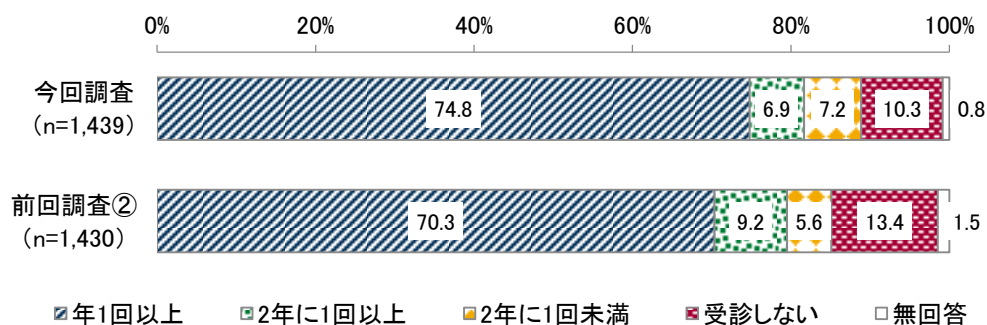


(2) 問 34 健康診査・健康診断の受診頻度

「年 1 回以上」の割合が最も高く 74.8%となっている。次いで、「受診しない（10.3%）」、「2 年に 1 回未満（7.2%）」となっている。

前回調査②と比較すると、「年 1 回以上」の割合が上昇し、「受診しない」の割合が低下している。

図表 II- 1 1 1 健康診査・健康診断の受診頻度



(注) 前回調査②の選択肢は「年 1 回以上」「2 年に 1 回程度」「2 年に 1 回未満」「受けていない」となっている。

(3) 問 35 BMI 値

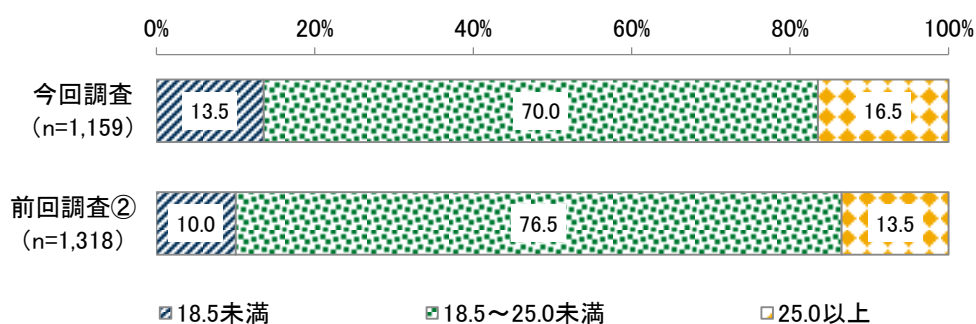
「18.5～25.0 未満」の割合が最も高く 70.0%となっている。次いで、「25.0 以上（16.5%）」、「18.5 未満（13.5%）」となっている。

前回調査②と比較すると、「18.5～25.0 未満」の割合が低下し、「18.5 未満」「25.0 以上」の割合が上昇している。

回答いただいた身長、体重から以下の計算式で算出した BMI 値を集計している。

【計算式】BMI 値 = 体重 (kg) ÷ 身長 (m) ÷ 身長 (m)

図表 II-112 BMI 値



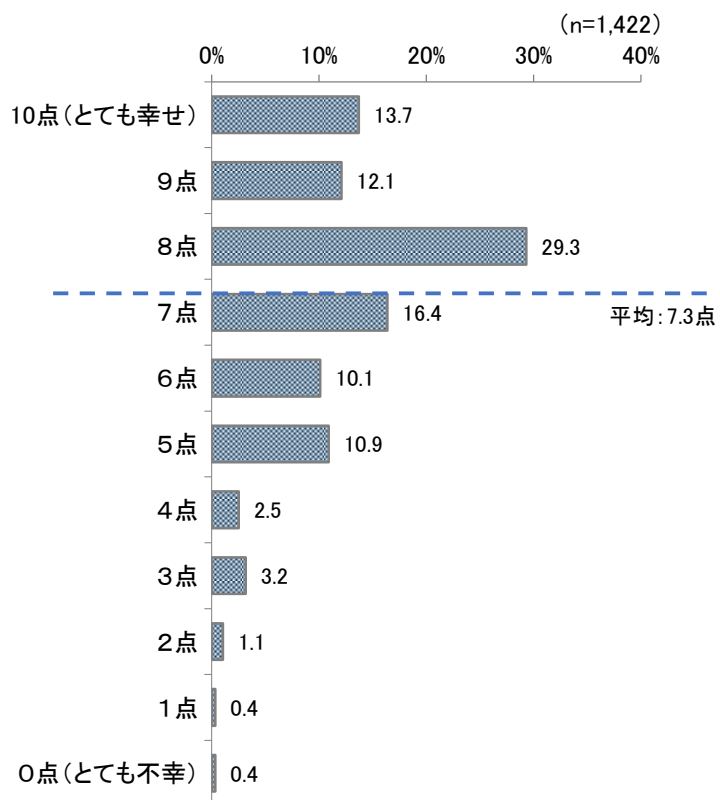
(注) 無回答を除く集計である。

5. あなたの暮らしについて

(1) 問 36 自身の幸福度

「8点」の割合が最も高く29.3%となっており、次いで、「7点（16.4%）」、「10点（13.7%）」となっている。平均は7.3点となっている。

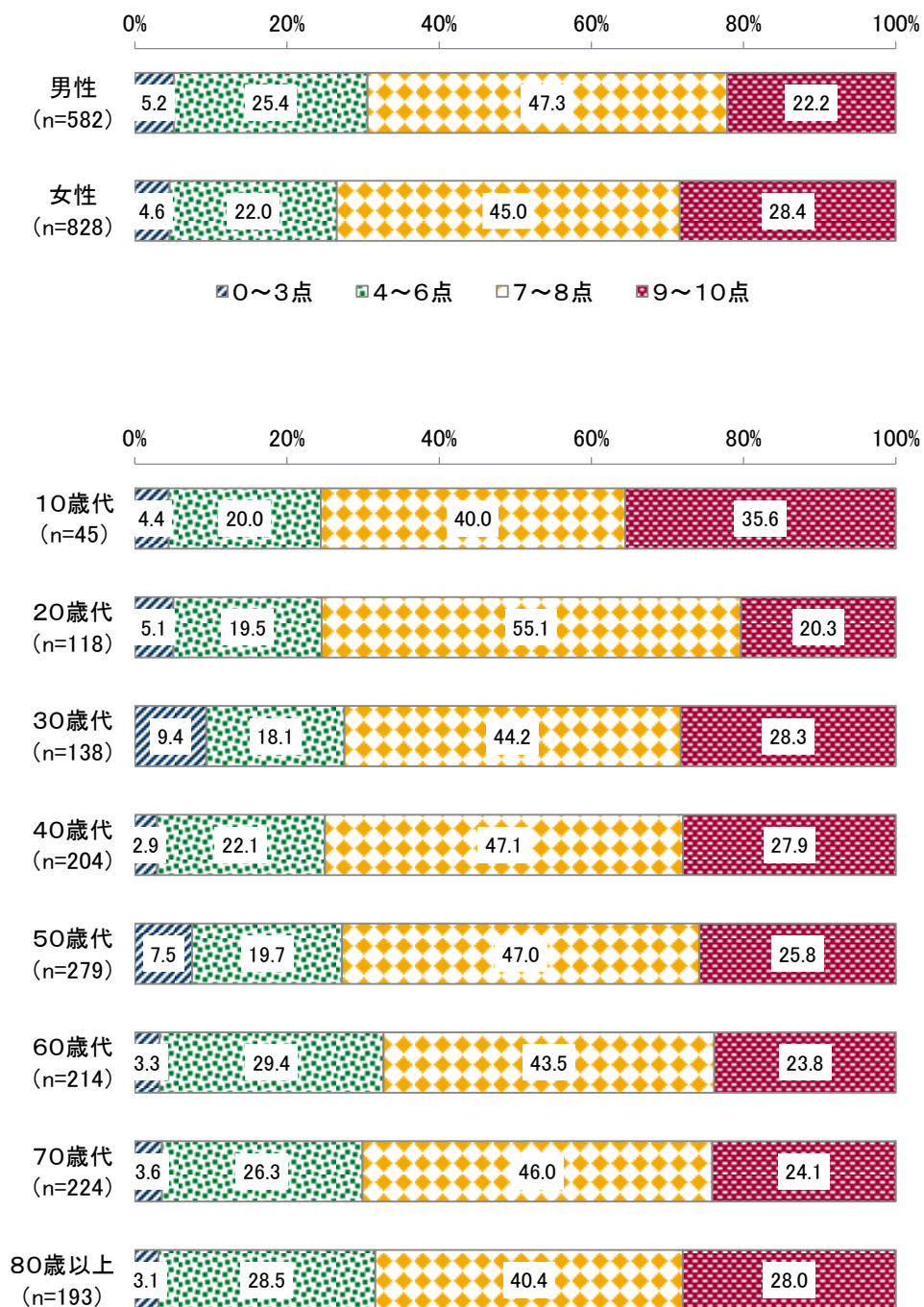
図表 II-113 自身の幸福度

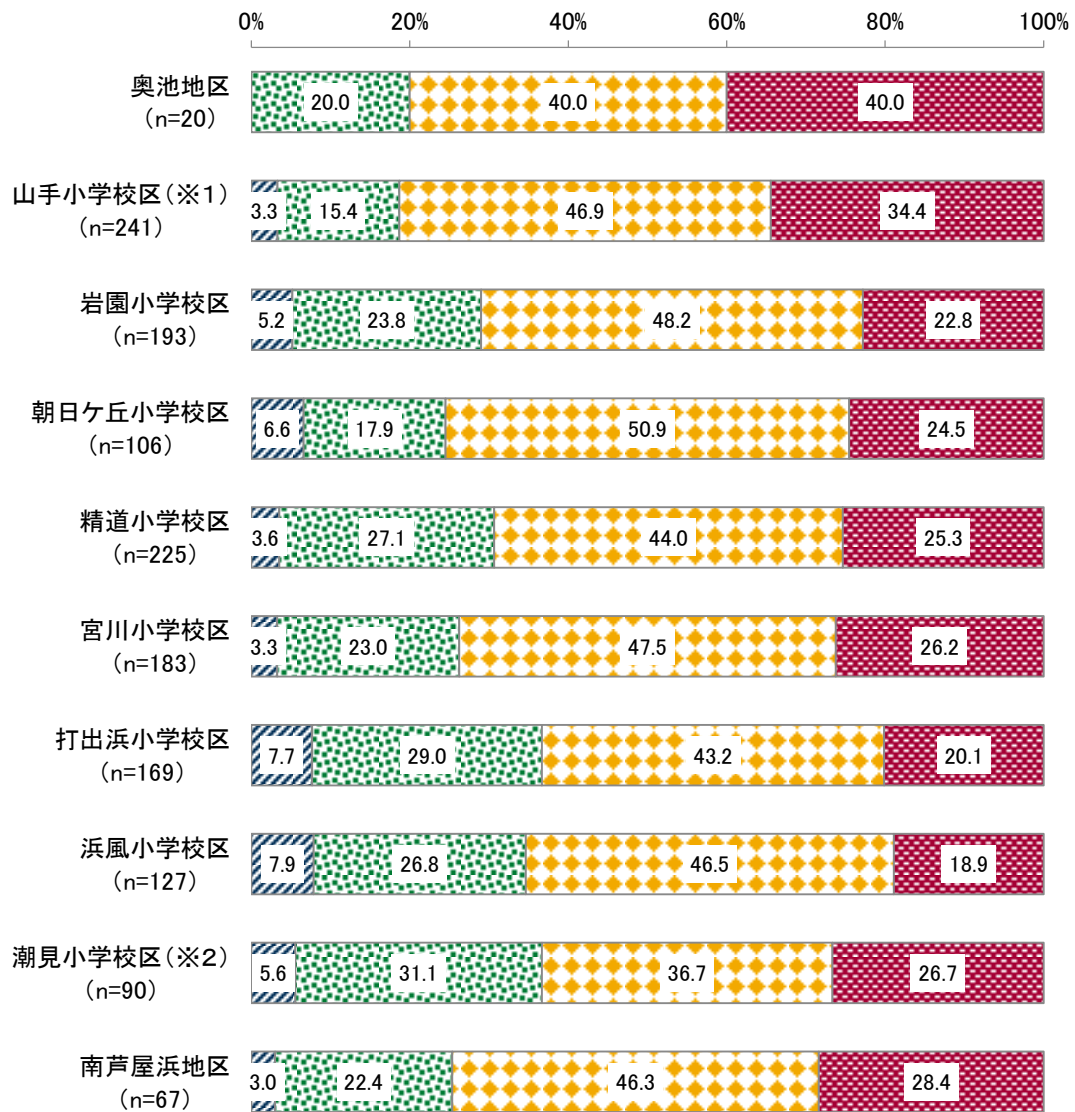


(注) 無回答を除く集計である。

女性は男性よりも 9～10 点の割合が高くなっており、4～6 点の割合が低くなっている。
 年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して 9～10 点の割合が低くなっていて、30 歳代は他の年代と比較して 0～3 点の割合が高くなっている。

図表 II-114 自身の幸福度（クロス集計）

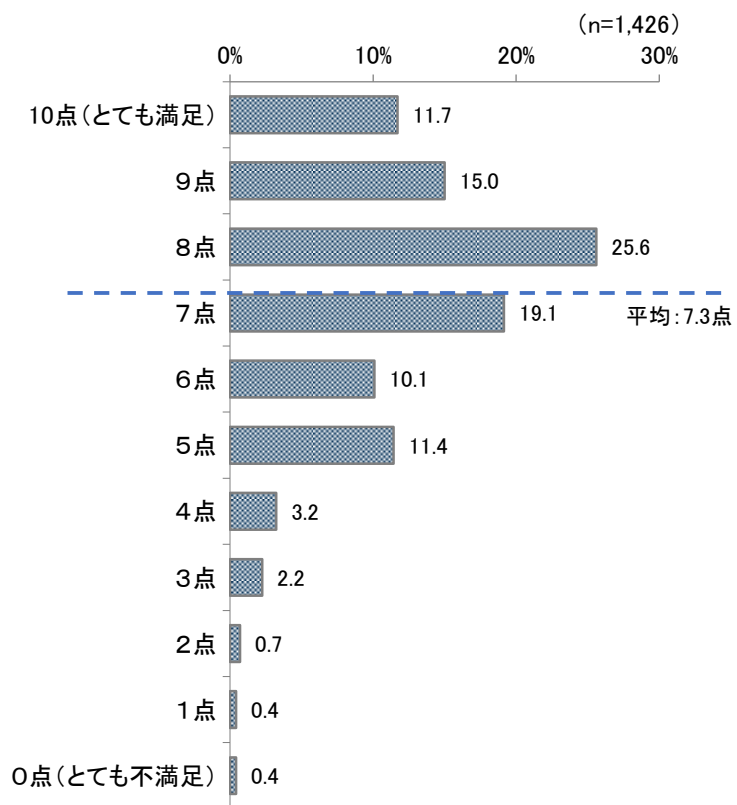




(2) 問 37 暮らしの満足度

「8点」の割合が最も高く25.6%となっており、次いで、「7点（19.1%）」、「9点（15.0%）」となっている。平均は7.3点となっている。

図表 II-115 暮らしの満足度

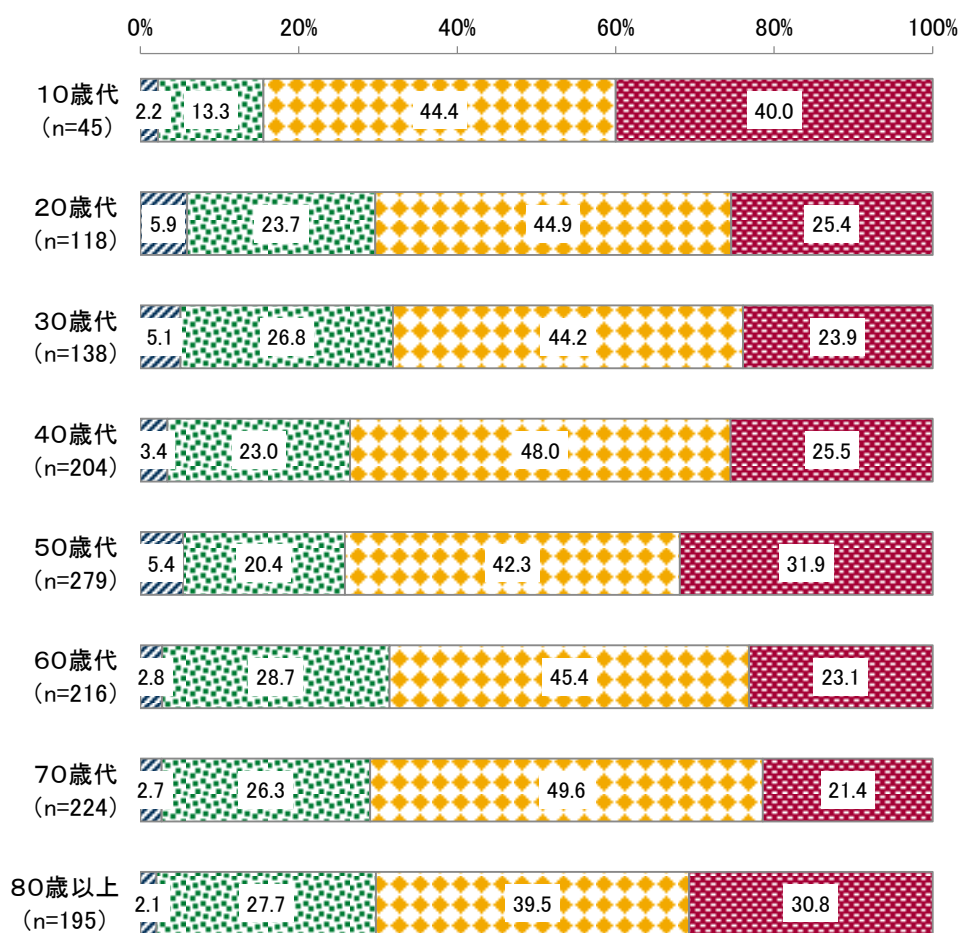
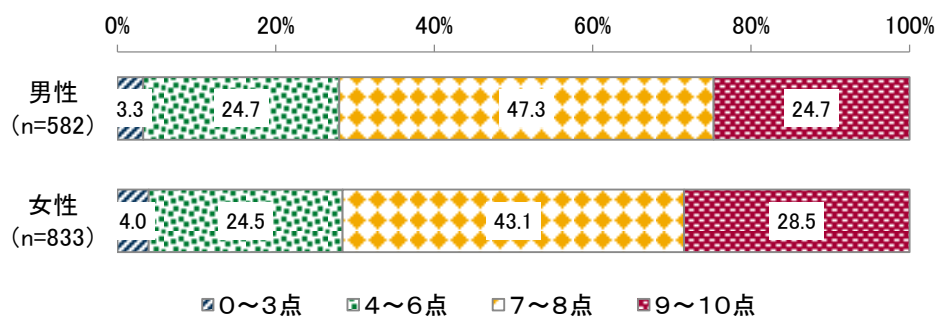


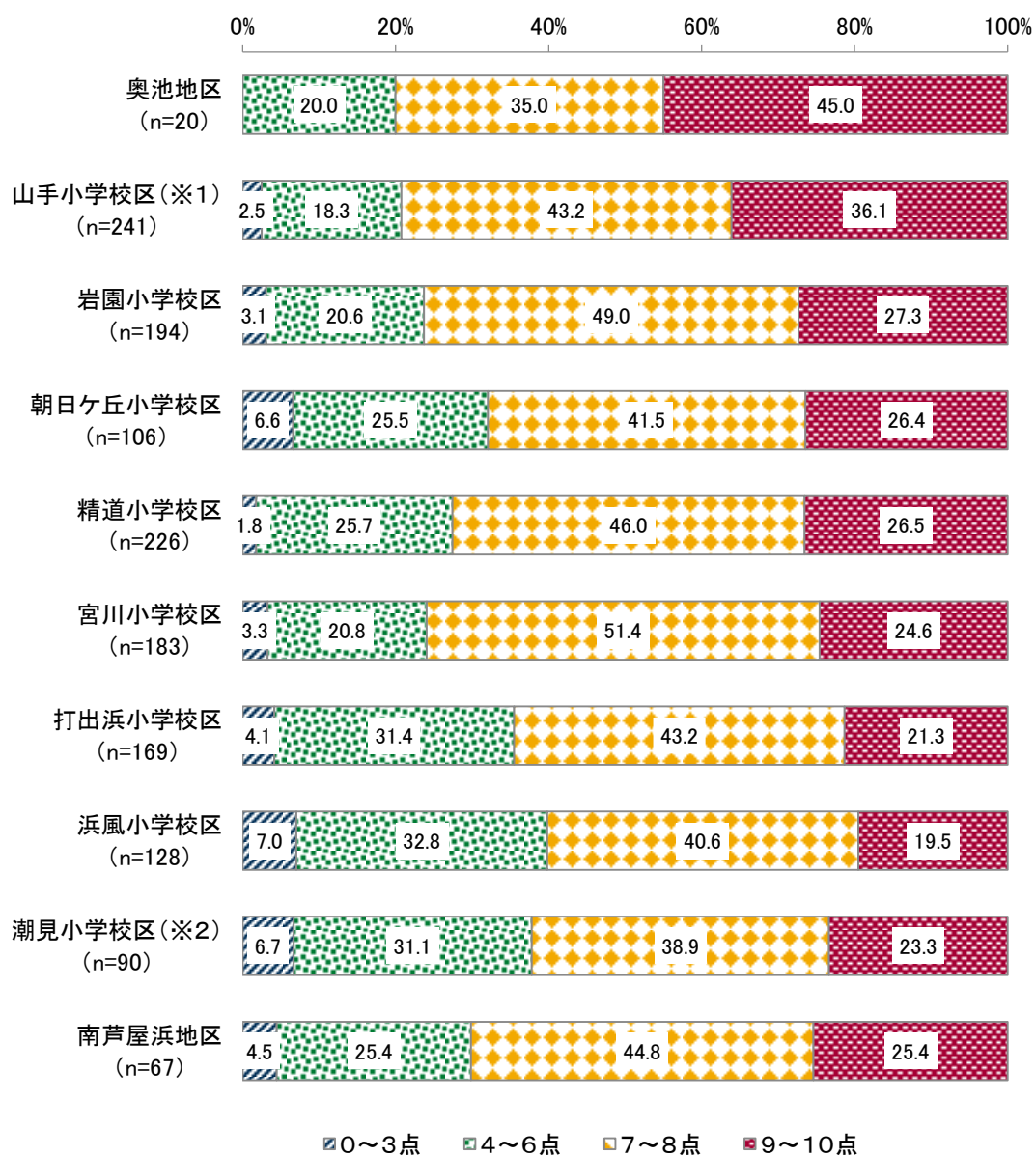
(注) 無回答を除く集計である。

女性は男性よりも 9～10 点の割合が高くなっている。

年代別にみると、50 歳代、80 歳以上は、他の年代と比較して、9～10 点の割合が高くなっている。

図表 II-116 暮らしの満足度（クロス集計）

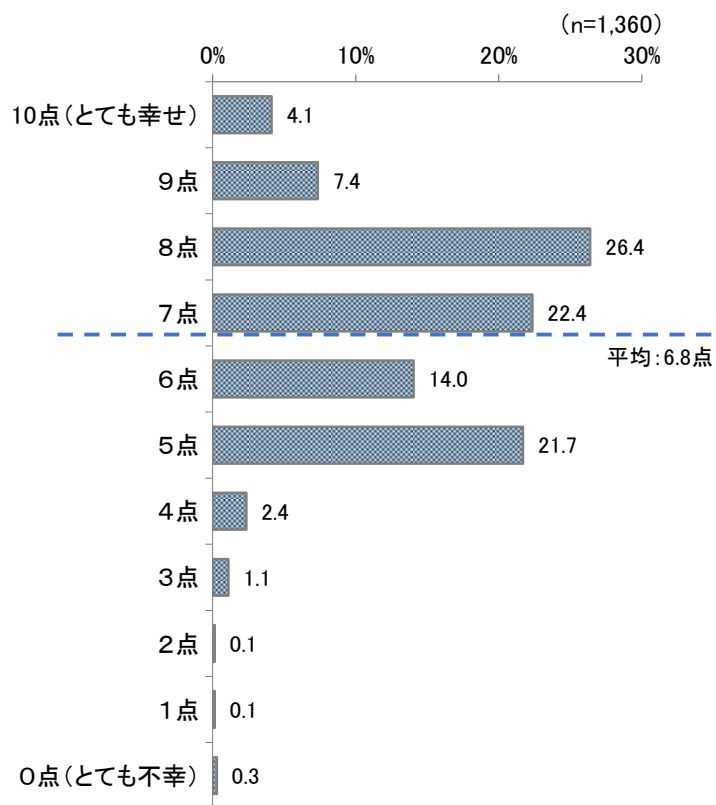




(3) 問 38 町内の幸福度

「8点」の割合が最も高く26.4%となっており、次いで、「7点（22.4%）」、「5点（21.7%）」となっている。平均は6.8点となっている。

図表 II-117 町内の幸福度

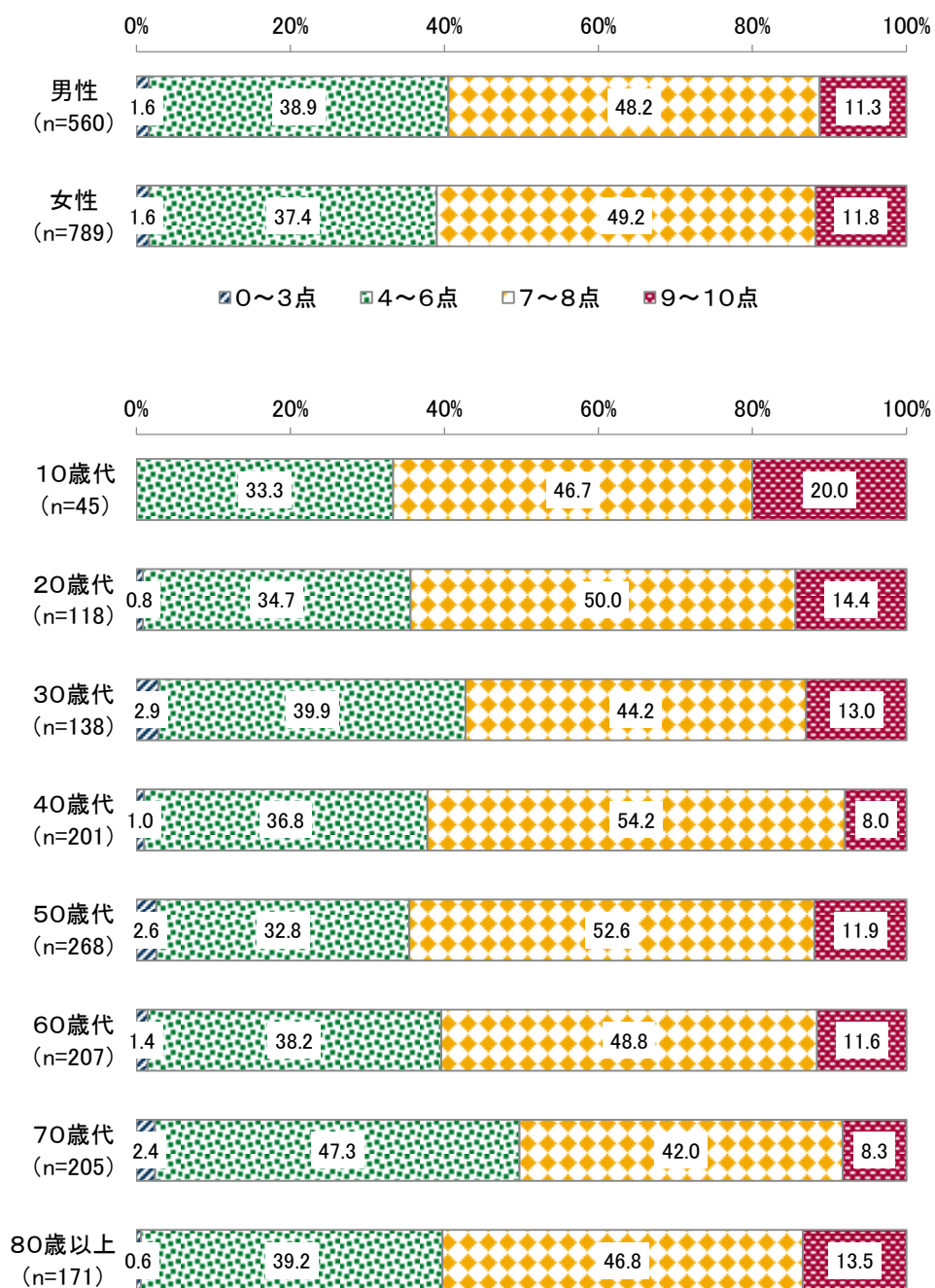


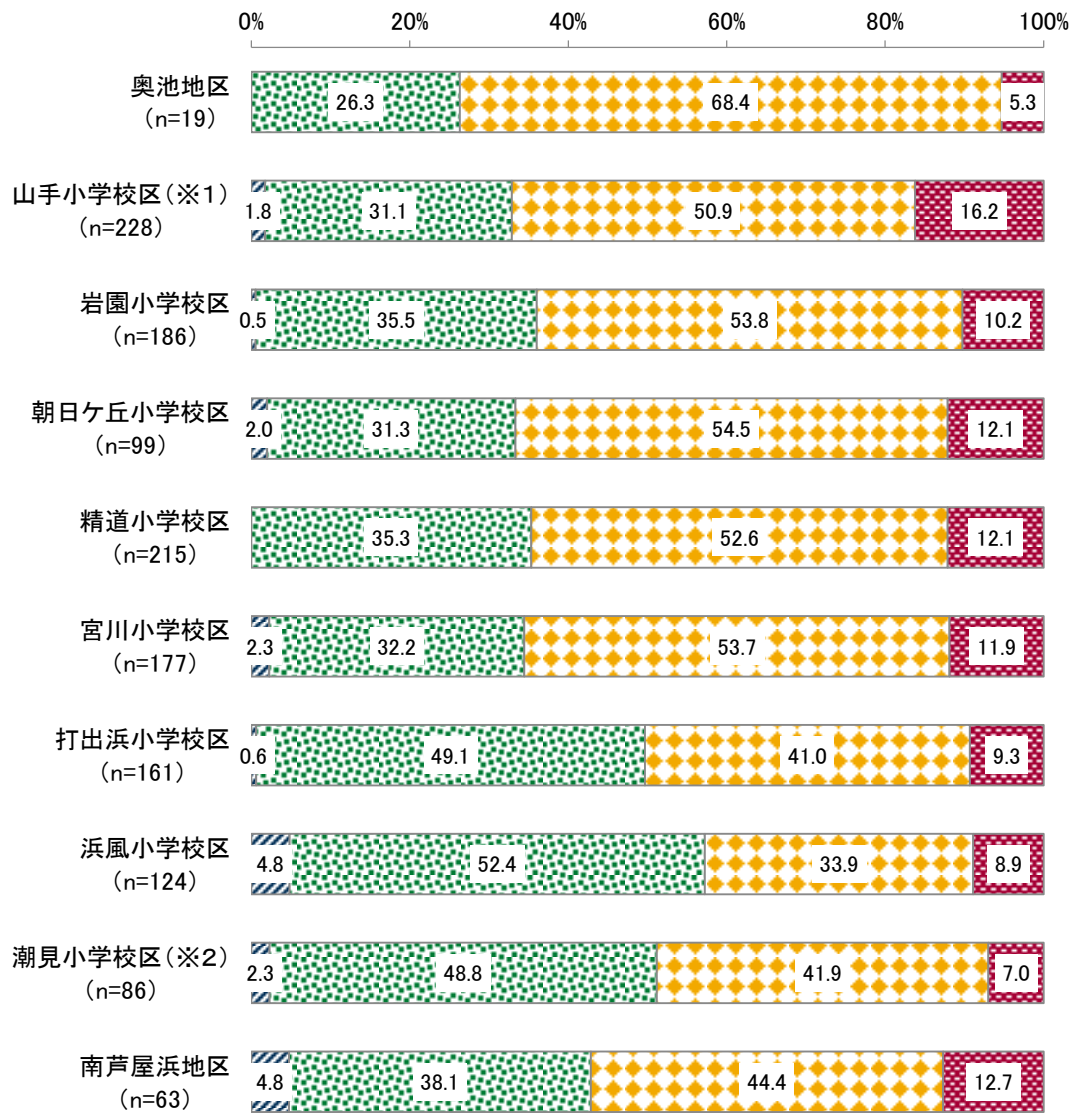
(注) 無回答を除く集計である。

男女で大きな差異は見られない。

年代別にみると、70歳代は他の年代と比較して9～10点の割合が低く、4～6点の割合が高くなっている。

図表 II- 118 町内の幸福度（クロス集計）

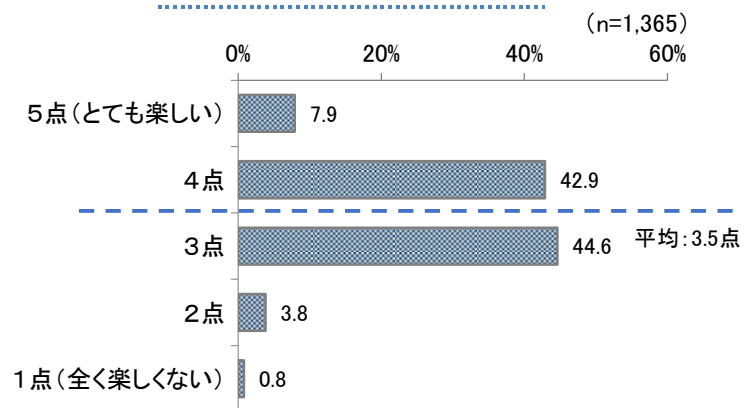




(4) 問 39 周りも楽しい

「3点」の割合が最も高く44.6%となっており、次いで、「4点（42.9%）」、「5点（7.9%）」となっている。平均は3.5点となっている。

図表 II-119 周りも楽しい

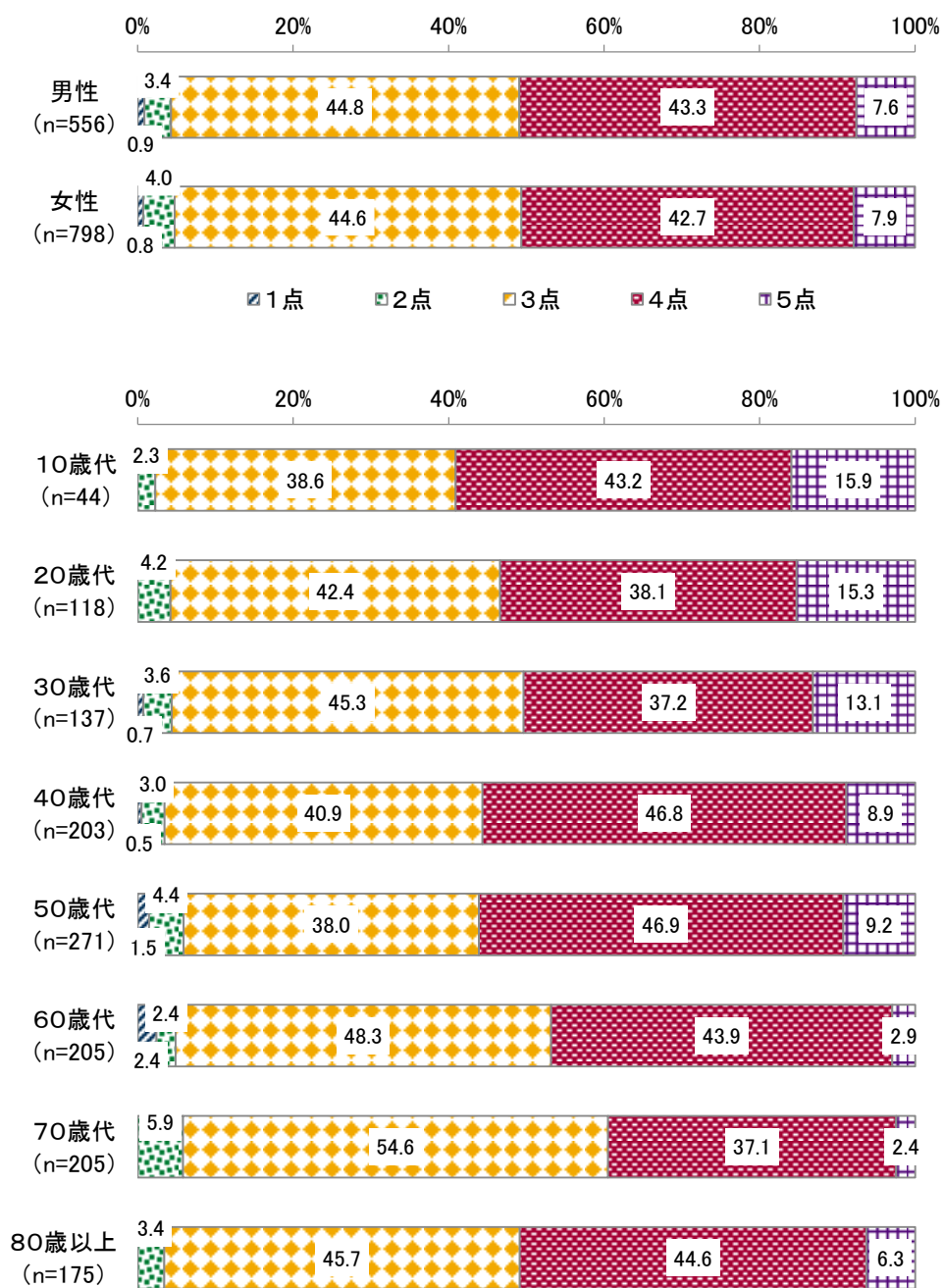


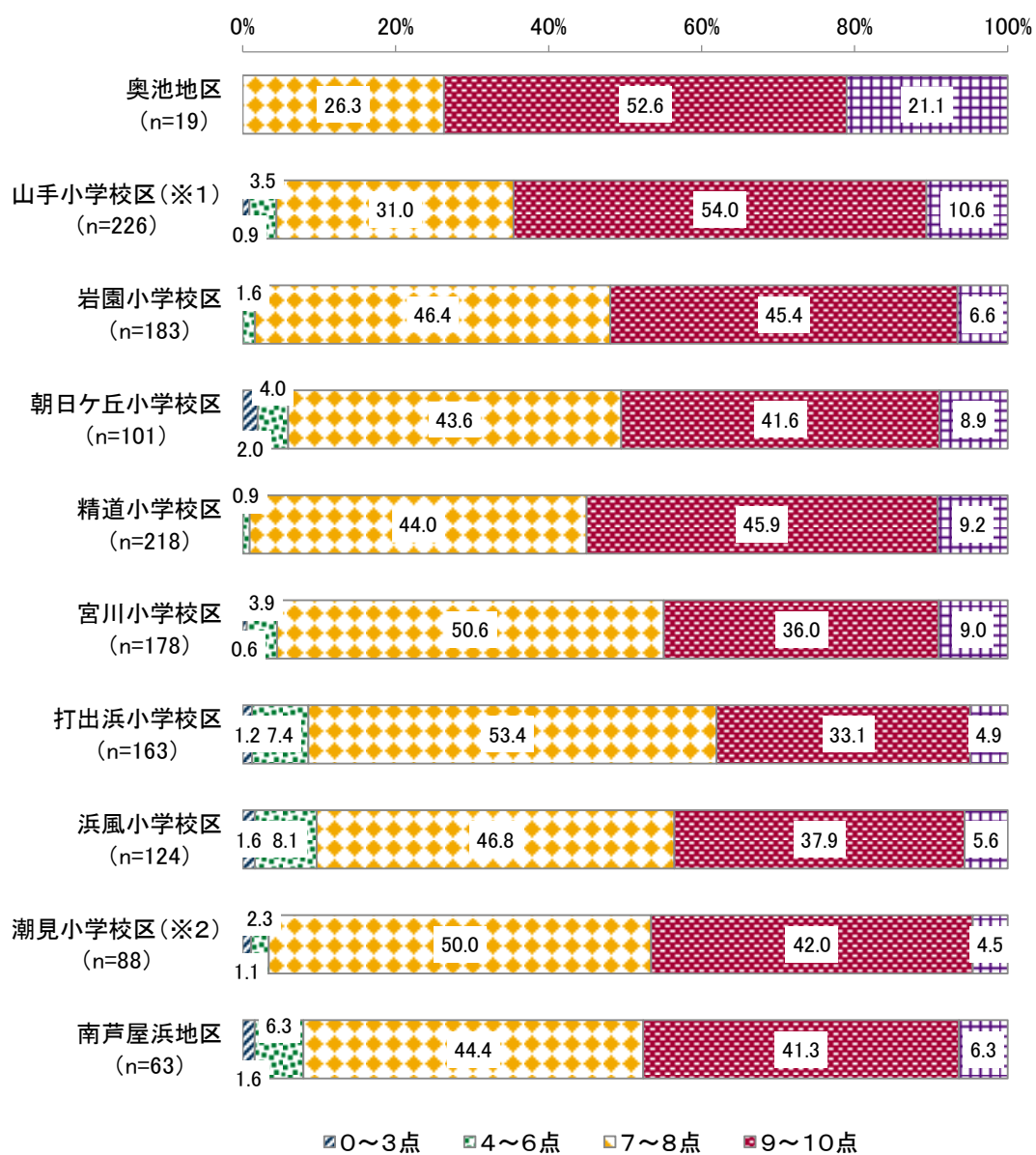
(注) 無回答を除く集計である。

男女で大きな差異はみられない。

年代別にみると、60歳代以上は、他の年代と比較して5点の割合が低くなっている。

図表 II-120 周りも楽しい（クロス集計）



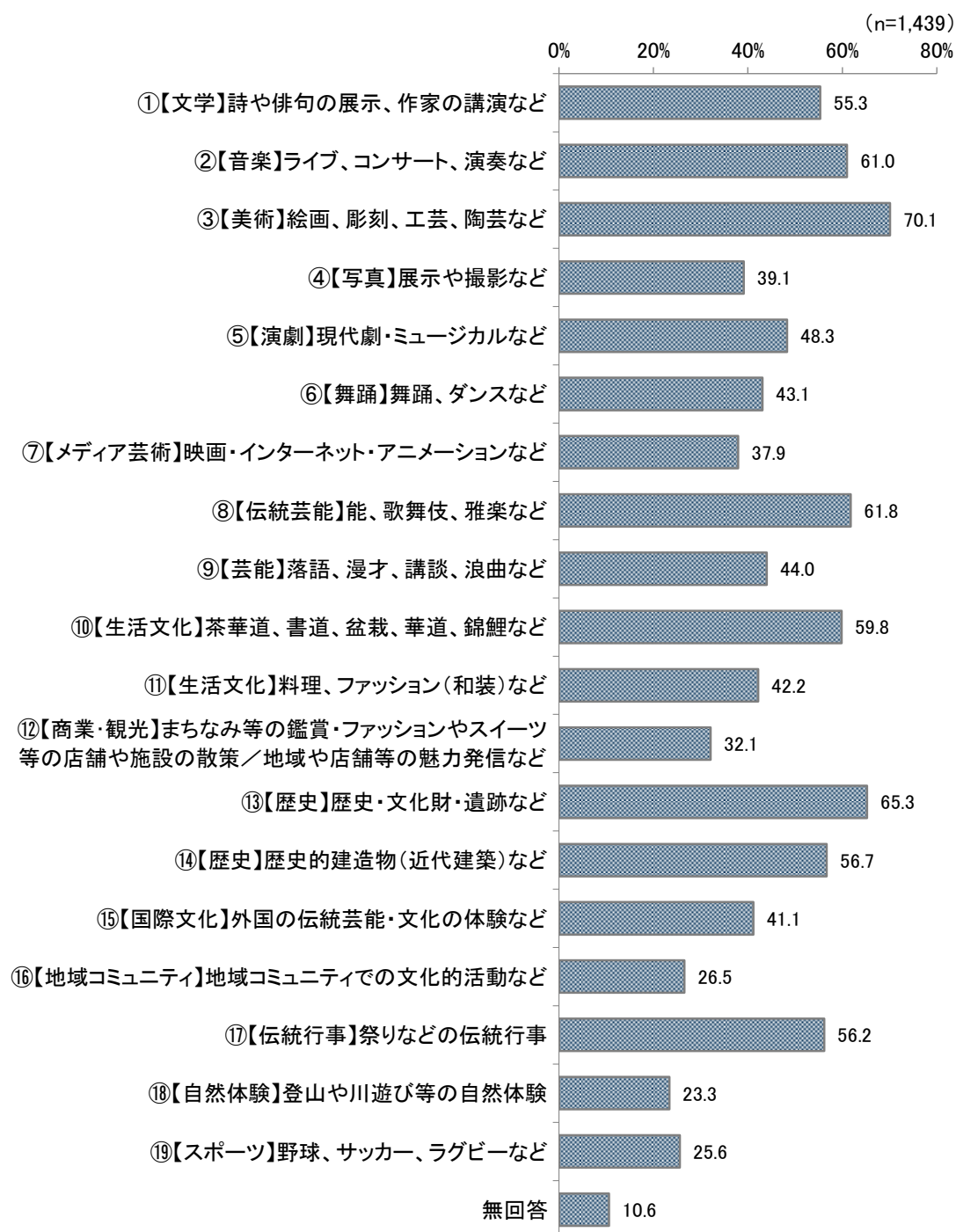


6. 文化的なふれあいや学び、市民参画について

(1) 問 40 「文化」という言葉に対してイメージするもの

「③【美術】絵画、彫刻、工芸、陶芸など」の割合が最も高く 70.1%となっている。次いで、「⑬【歴史】歴史・文化財・遺跡など（65.3%）」、「⑧【伝統芸能】能、歌舞伎、雅楽など（61.8%）」となっている。

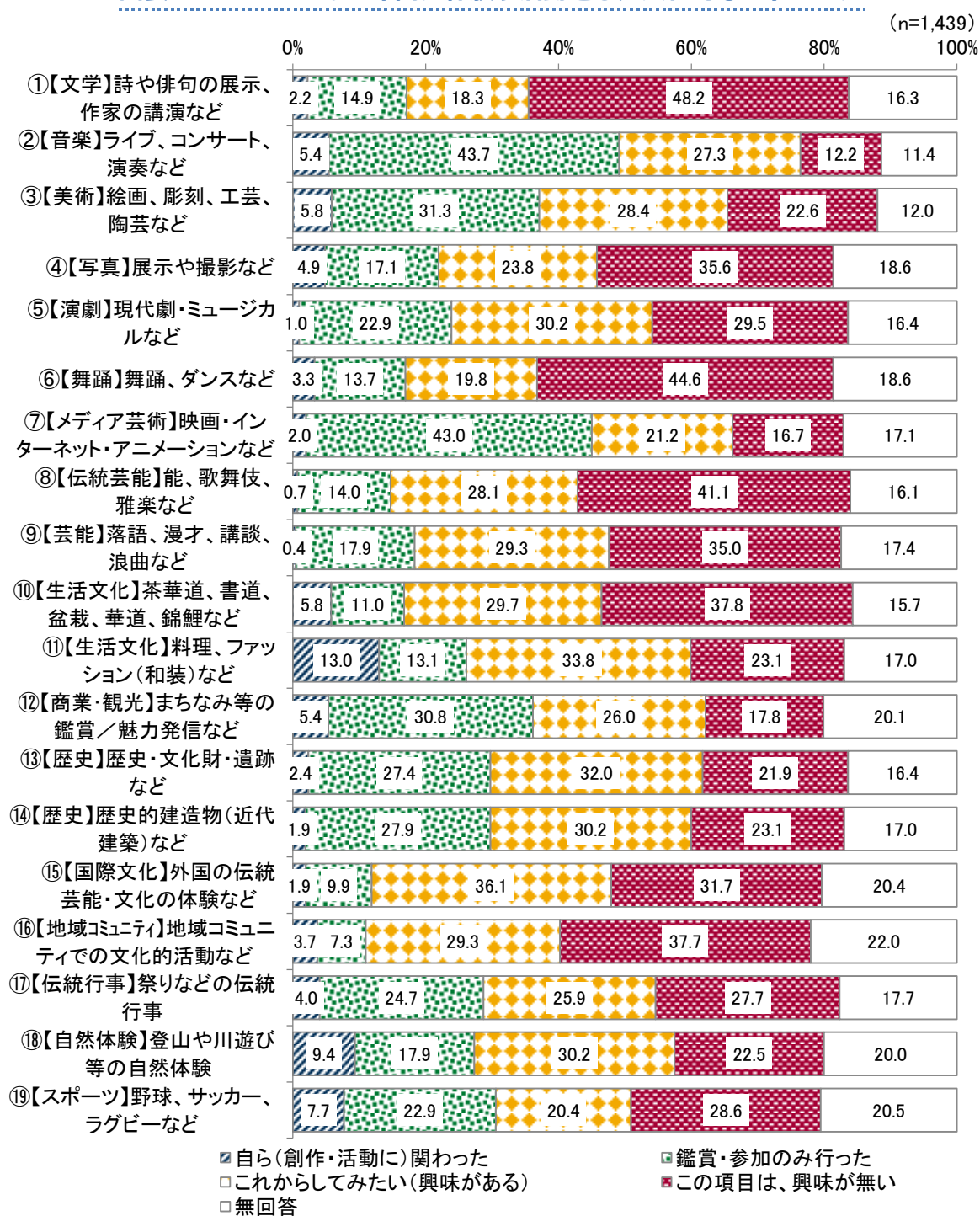
図表 II-121 「文化」という言葉に対してイメージするもの



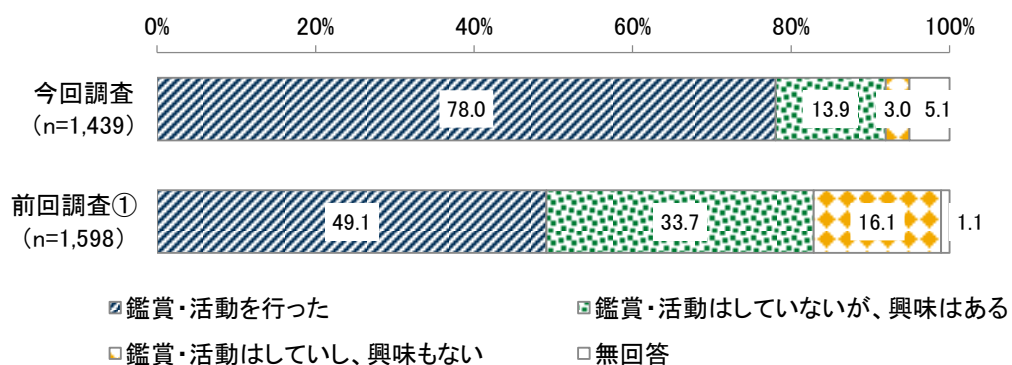
(2) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ

「自ら（創作・活動に）関わった」と「鑑賞・参加のみ行った」の割合の合計に着目すると、「②【音楽】」における割合が最も高く49.1%となっている。次いで、「⑦【メディア芸術】（45.0%）」、「③【美術】（37.1%）」となっている。

図表 II-122 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ



図表 II-123 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（指標との比較）



（注）指標と比較するため、今回調査の結果について①～⑯の項目で一つでも「自ら（創作・活動に）関わった」「鑑賞・参加のみ行った」と回答した項目がある回答者は「鑑賞・活動を行った」、その他の回答者のうち①～⑯の項目で一つでも「これからしてみたい（興味がある）」と回答している項目があれば「鑑賞・活動はしていないが、興味はある」として再集計をおこなった。

(3) 問 40 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）

今回調査で分割された「⑩【生活文化】茶華道、書道、盆栽、華道、錦鯉など」「⑪【生活文化】料理、ファッション（和装）など」および、新設された「⑮【国際文化】外国の伝統芸能・文化の体験など」「⑲【スポーツ】野球、サッカー、ラグビーなど」を除く、15 項目の前回調査との比較結果は以下のとおりとなっている。

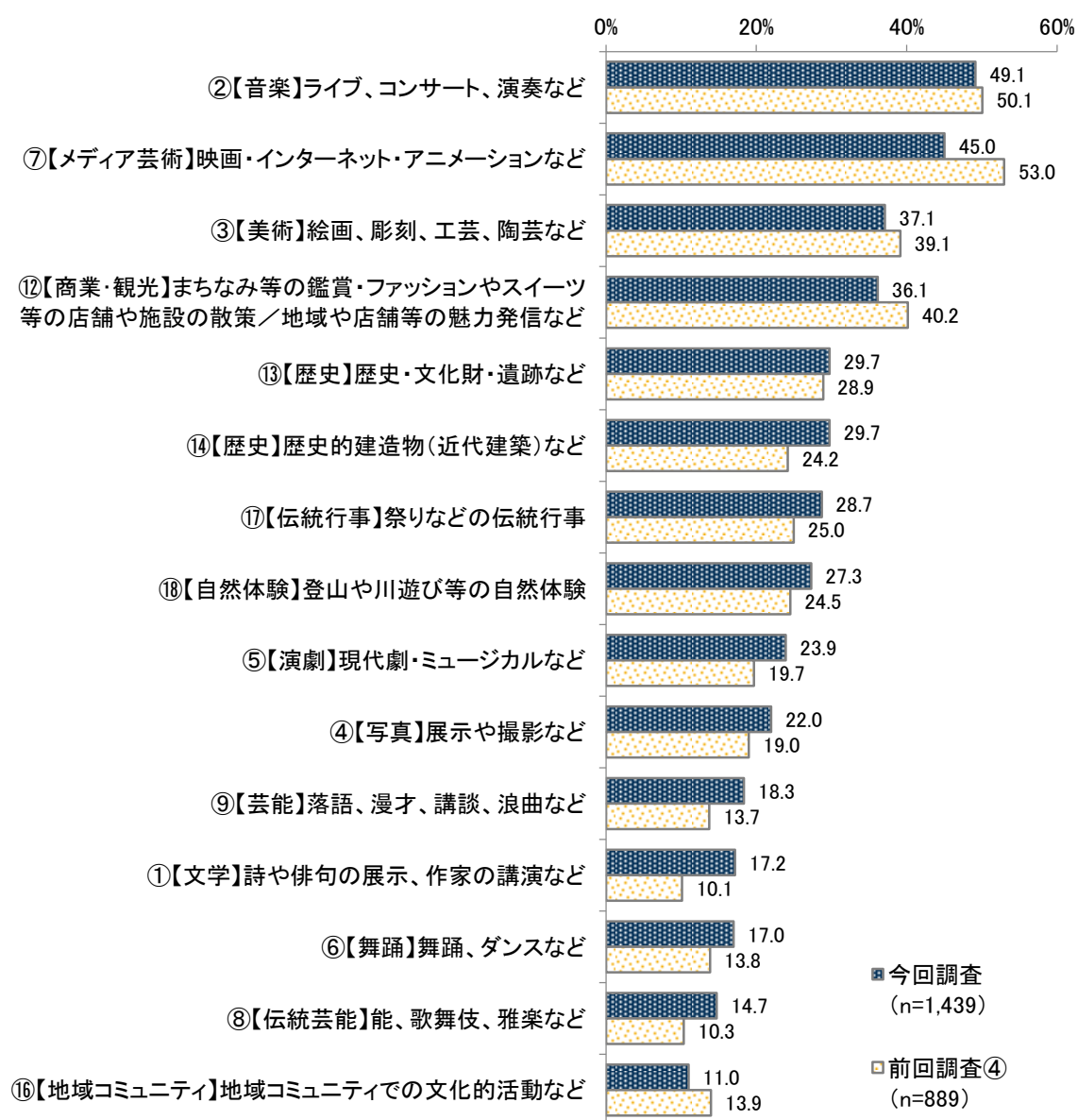
前回調査④と比較すると、「自ら（創作・活動に）関わった」「鑑賞・参加のみ行った」と回答した割合については、「⑦【メディア芸術】映画・インターネット・アニメーションなど」「⑫【商業・観光】まちなみ等の鑑賞・ファッションやスイーツ等の店舗や施設の散策/地域や店舗等の魅力発信など」の割合が低下し、「①【文学】詩や俳句の展示、作家の講演など」「④【写真】展示や撮影など」「⑤【演劇】現代劇・ミュージカルなど」「⑥【舞踊】舞踊、ダンスなど」「⑧【伝統芸能】能、歌舞伎、雅楽など」「⑨【芸能】落語、漫才、公団、浪曲など」「⑭【歴史】歴史的建造物（近代建築）など」「⑰【伝統行事】祭りなどの伝統行事」の割合が上昇している。

「これからしてみたい・興味がある」の割合については、全体的に低下している。

「この項目は、興味がない」の割合については、全体的に上昇している。

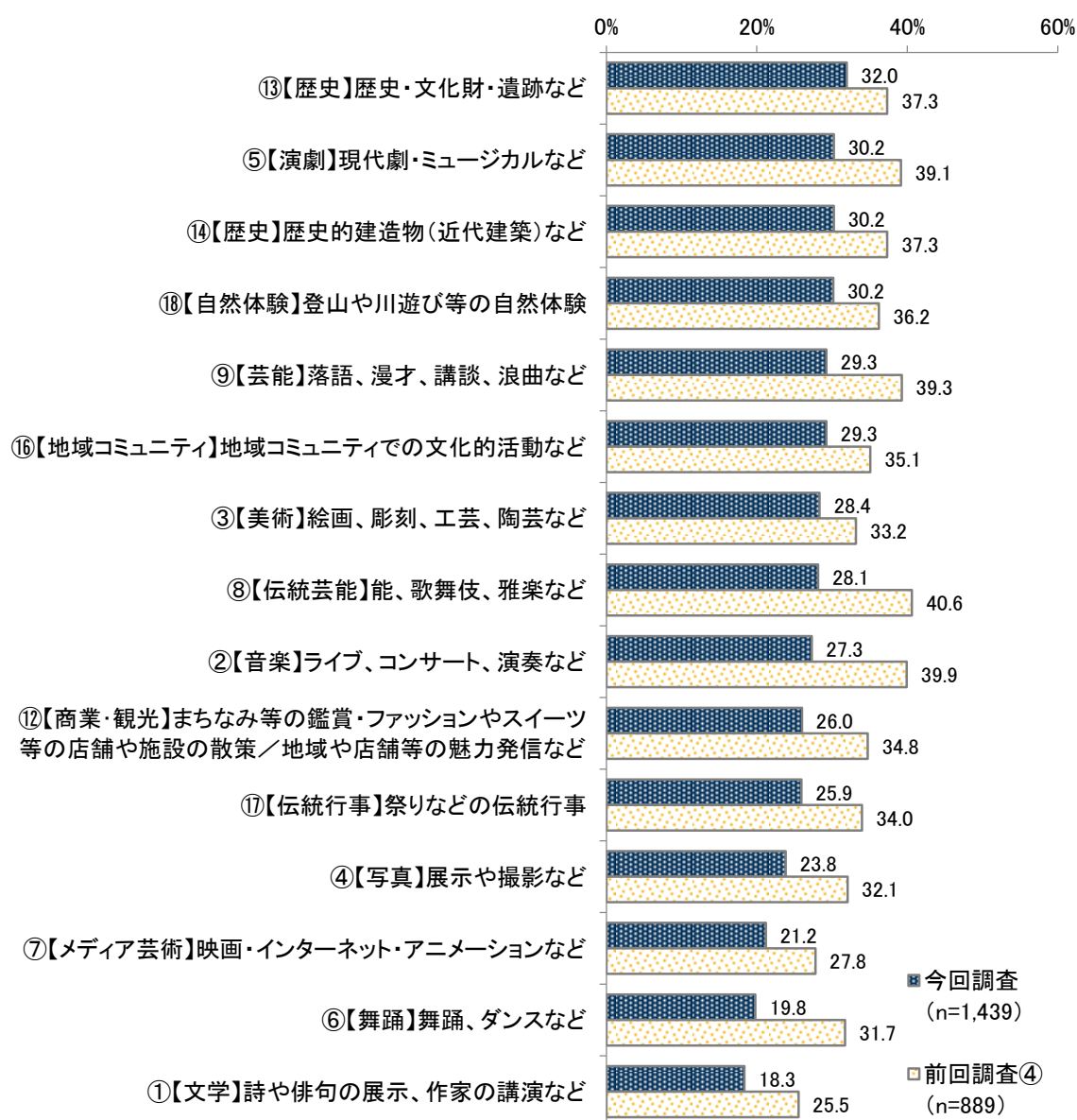
図表 II-124 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（前回調査④との比較）

【「自ら(創作・活動に)関わった」+「鑑賞・参加のみ行った」】



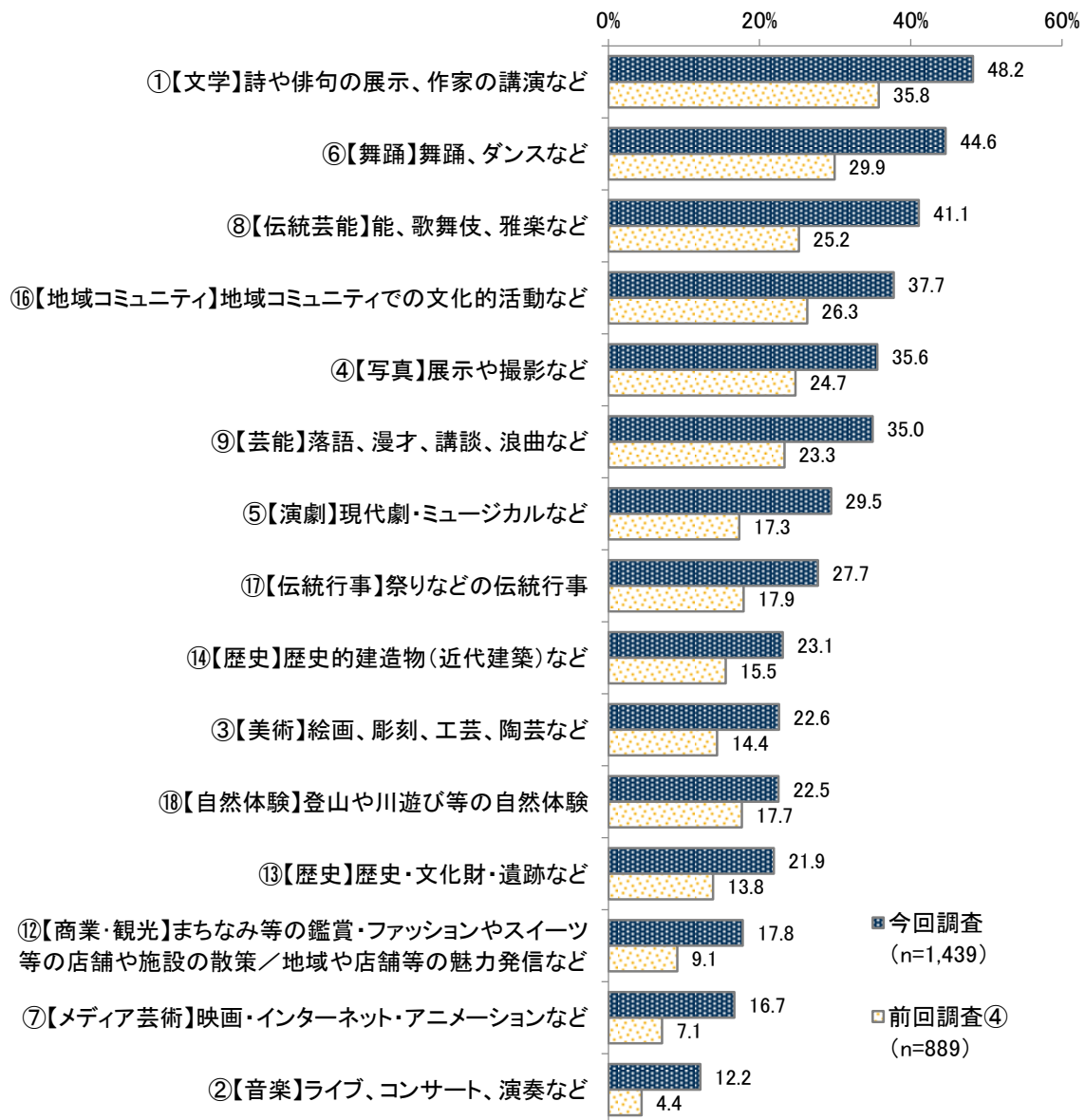
(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

【これからしてみたい・興味がある】



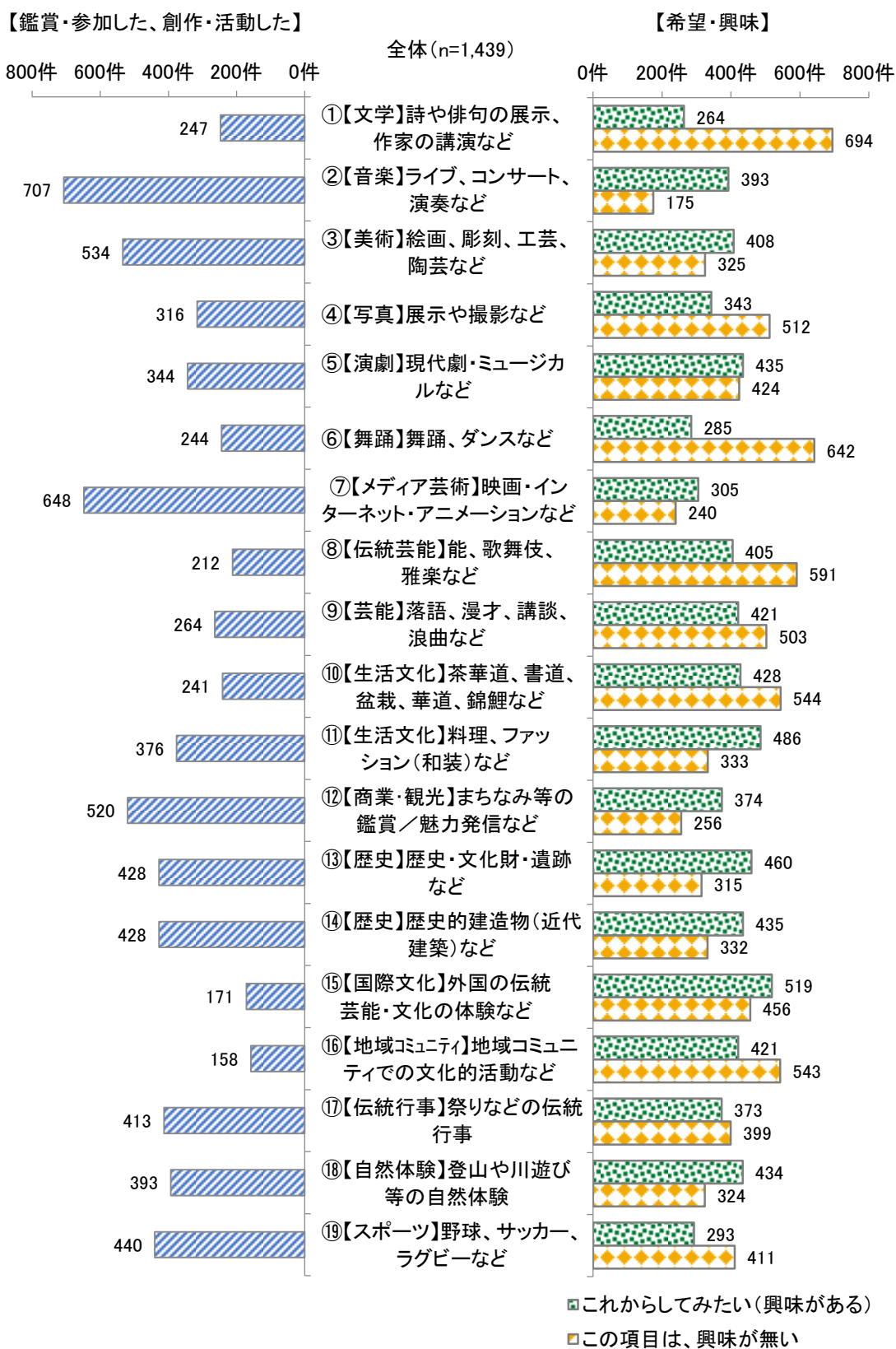
(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

【この項目は、興味がない】

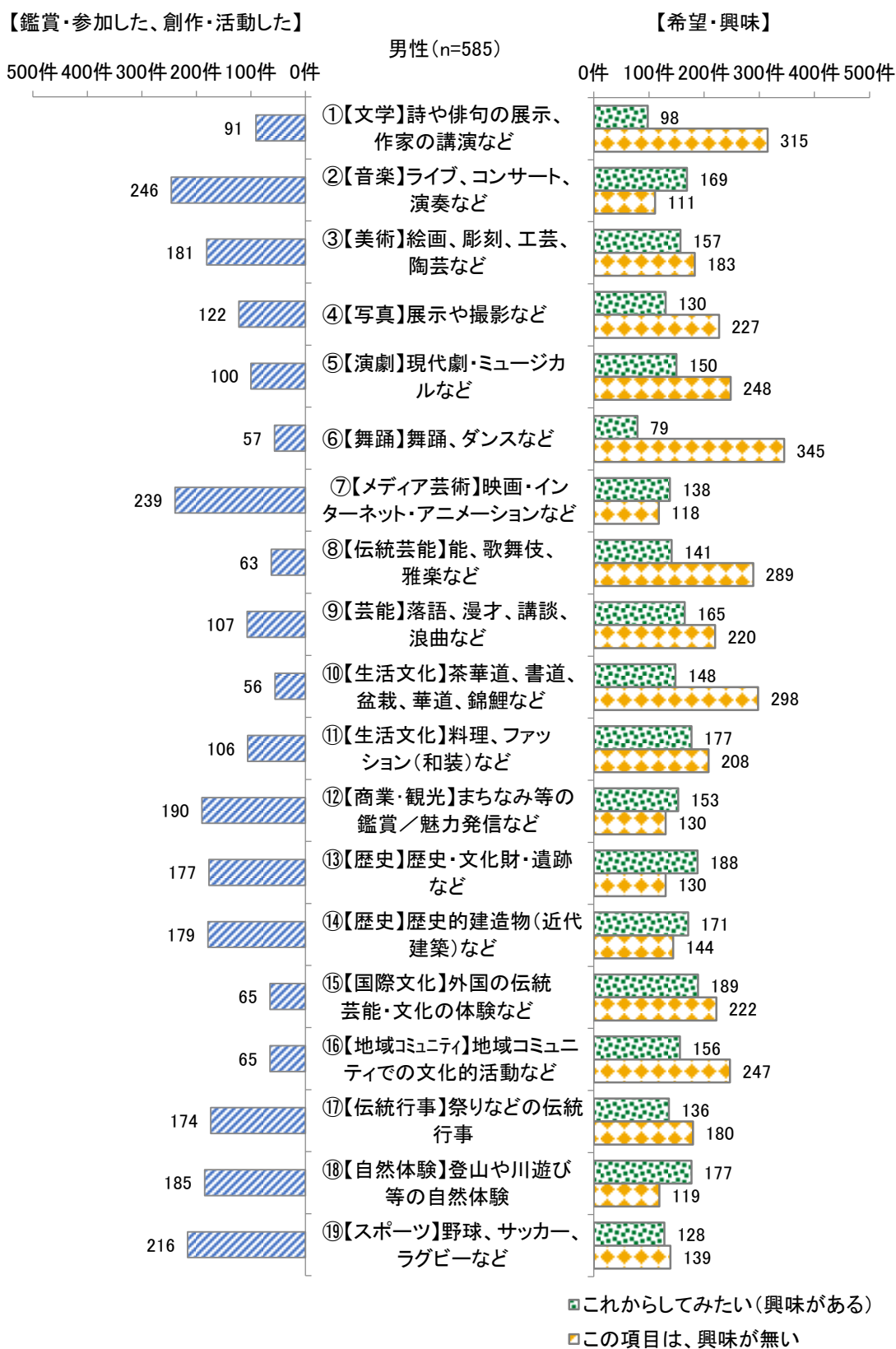


(注) 前回調査④と比較可能な項目のみを掲載している。

図表 II-125 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（件数）



図表 II-126 この1年間に体験や活動をした文化的なコト・モノ（クロス集計）



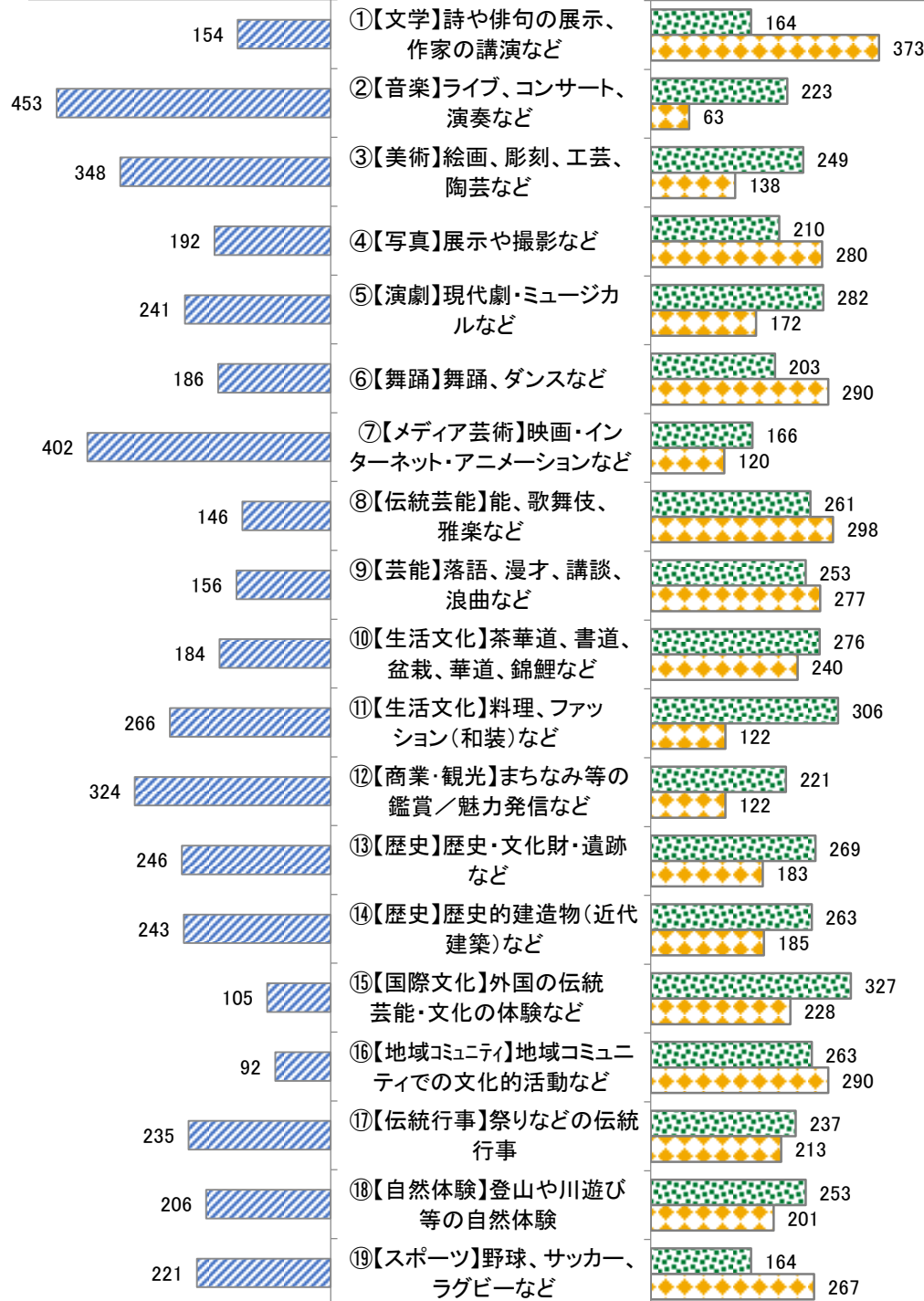
【鑑賞・参加した、創作・活動した】

女性(n=840)

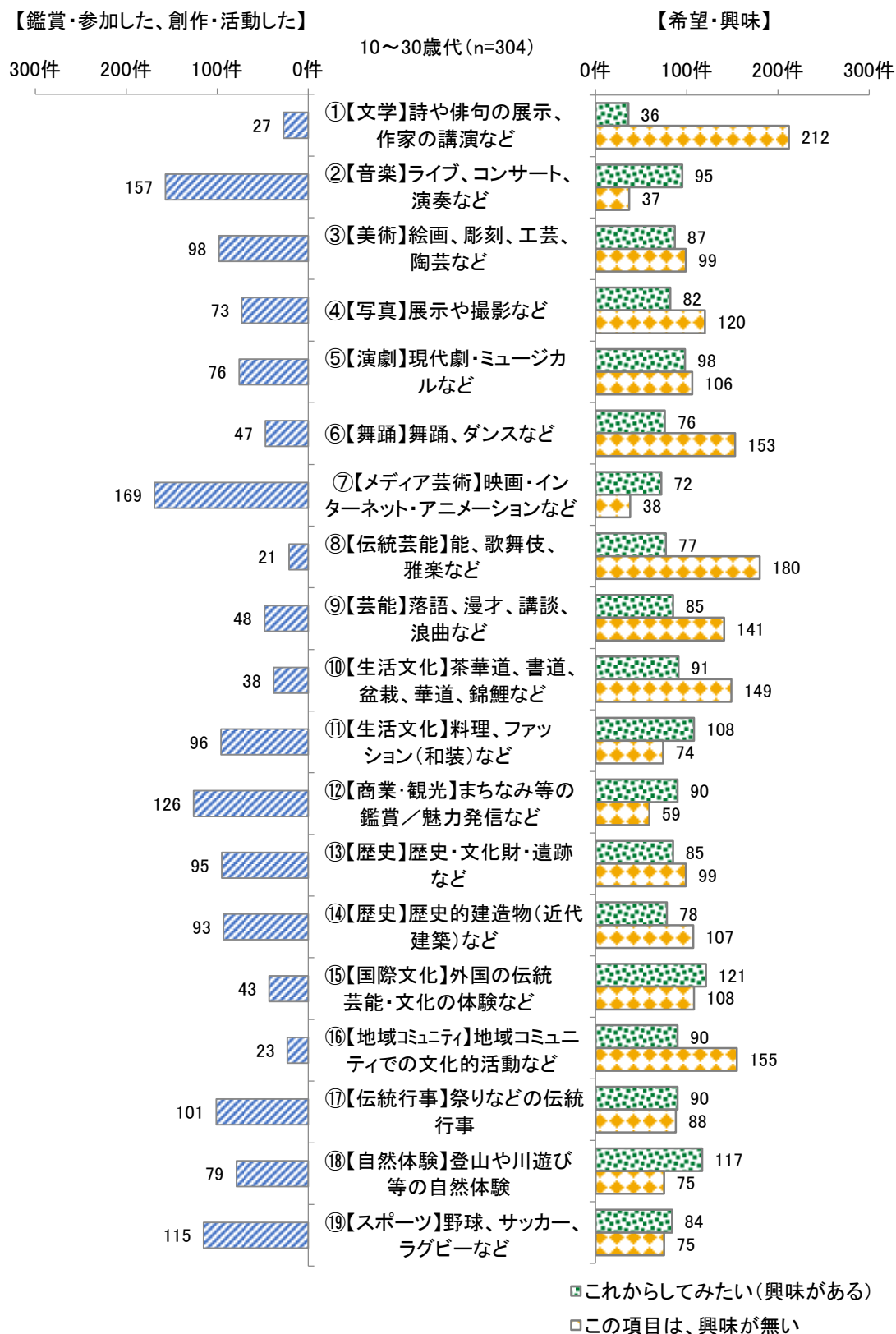
【希望・興味】

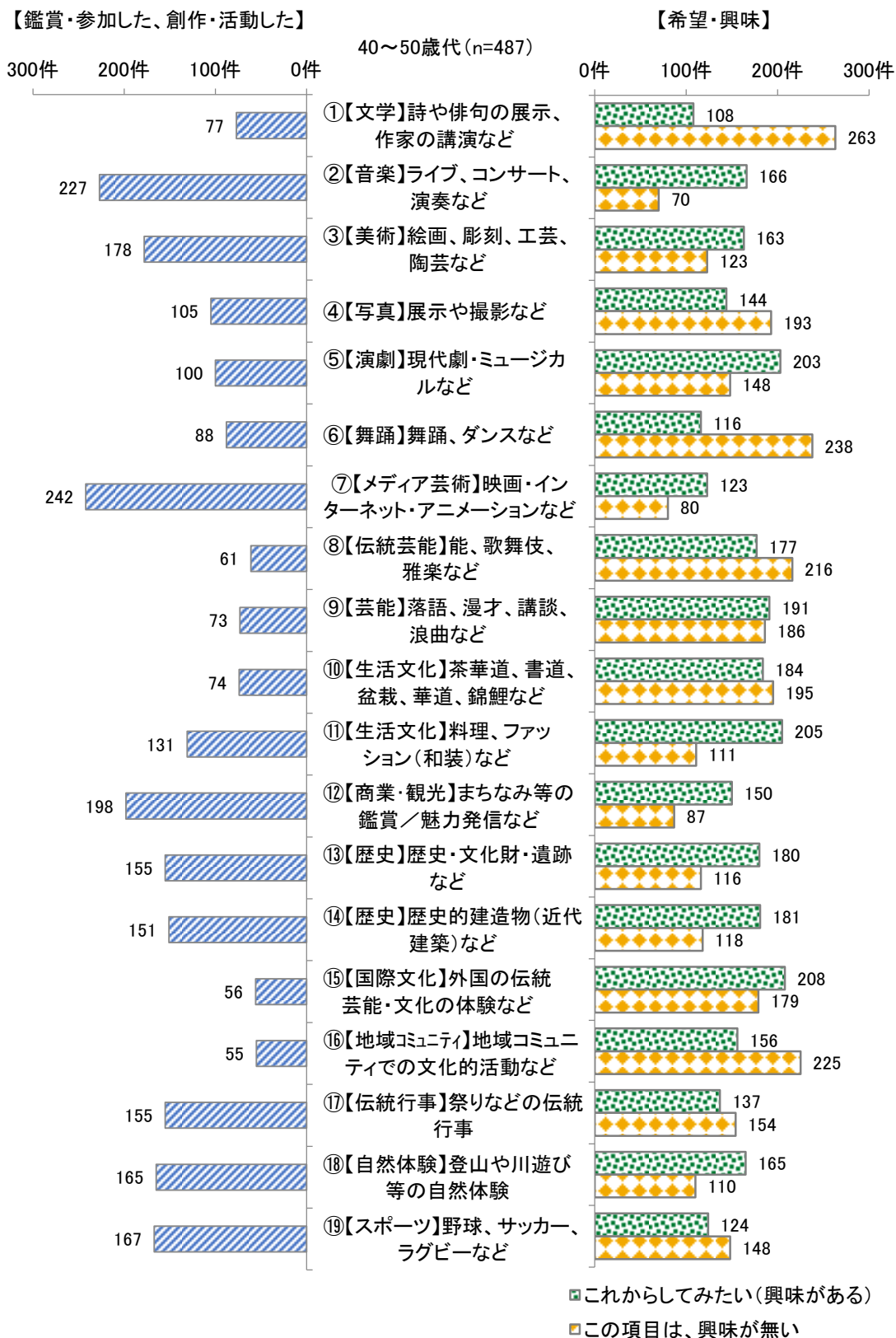
500件 400件 300件 200件 100件 0件

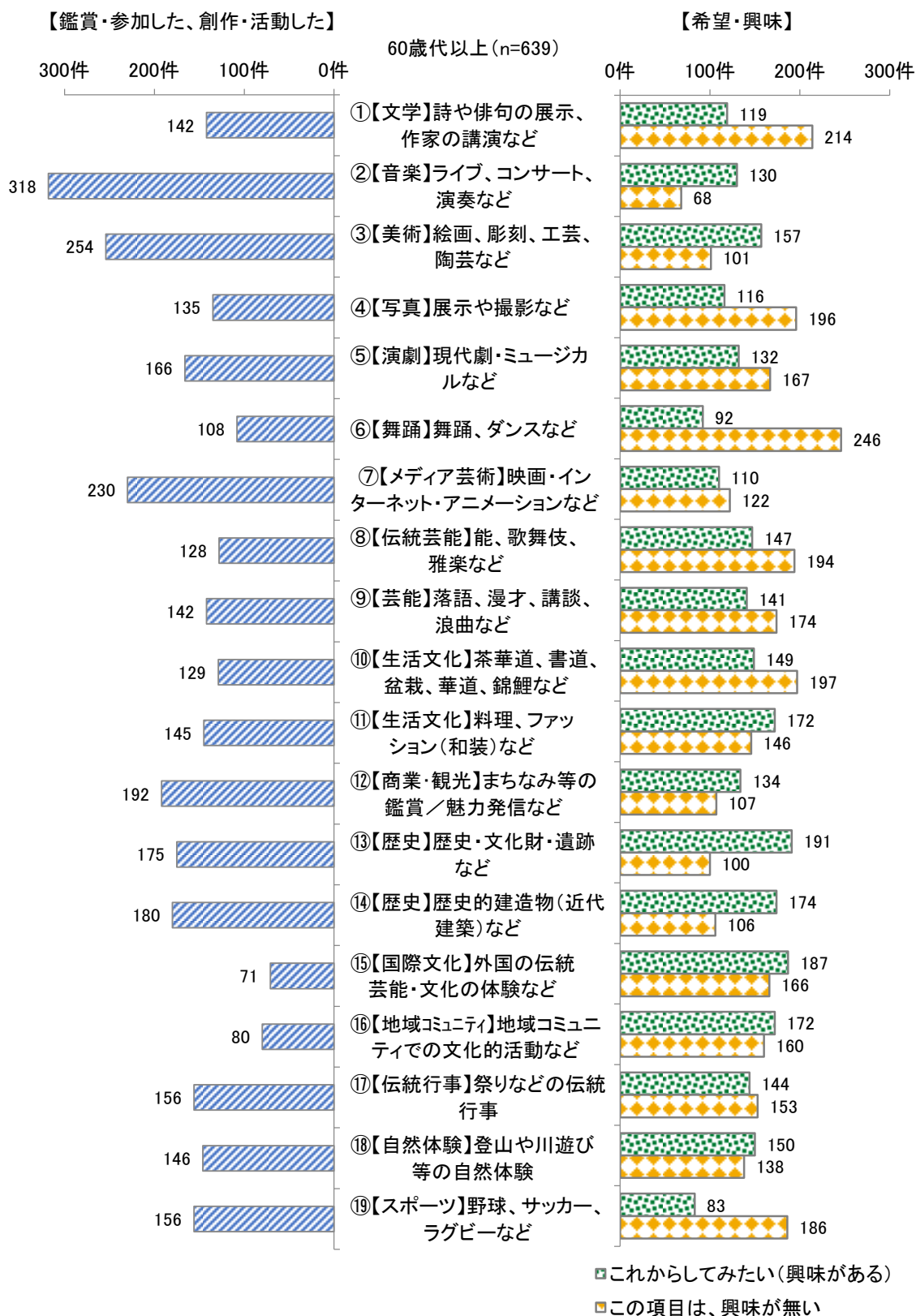
0件 100件 200件 300件 400件 500件



■これからしてみたい(興味がある)
■この項目は、興味が無い



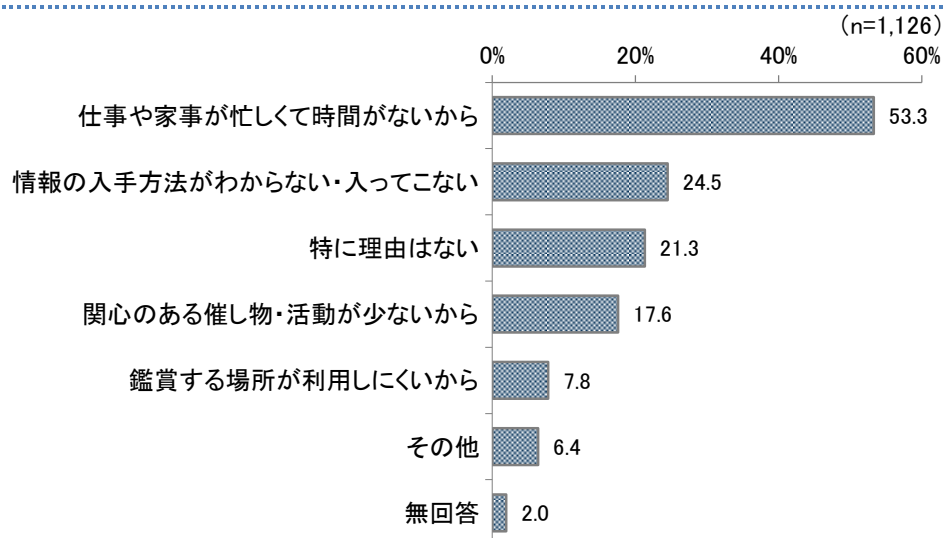




(4) 問 41 「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由（複数選択）

「仕事や家事が忙しくて時間がないから」の割合が最も高く 53.3%となっている。次いで、「情報の入手方法がわからない・入ってこない（24.5%）」、「特に理由はない（21.3%）」となっている。

図表 II- 127 「これからしてみたい」と回答した項目ができなかった主な理由

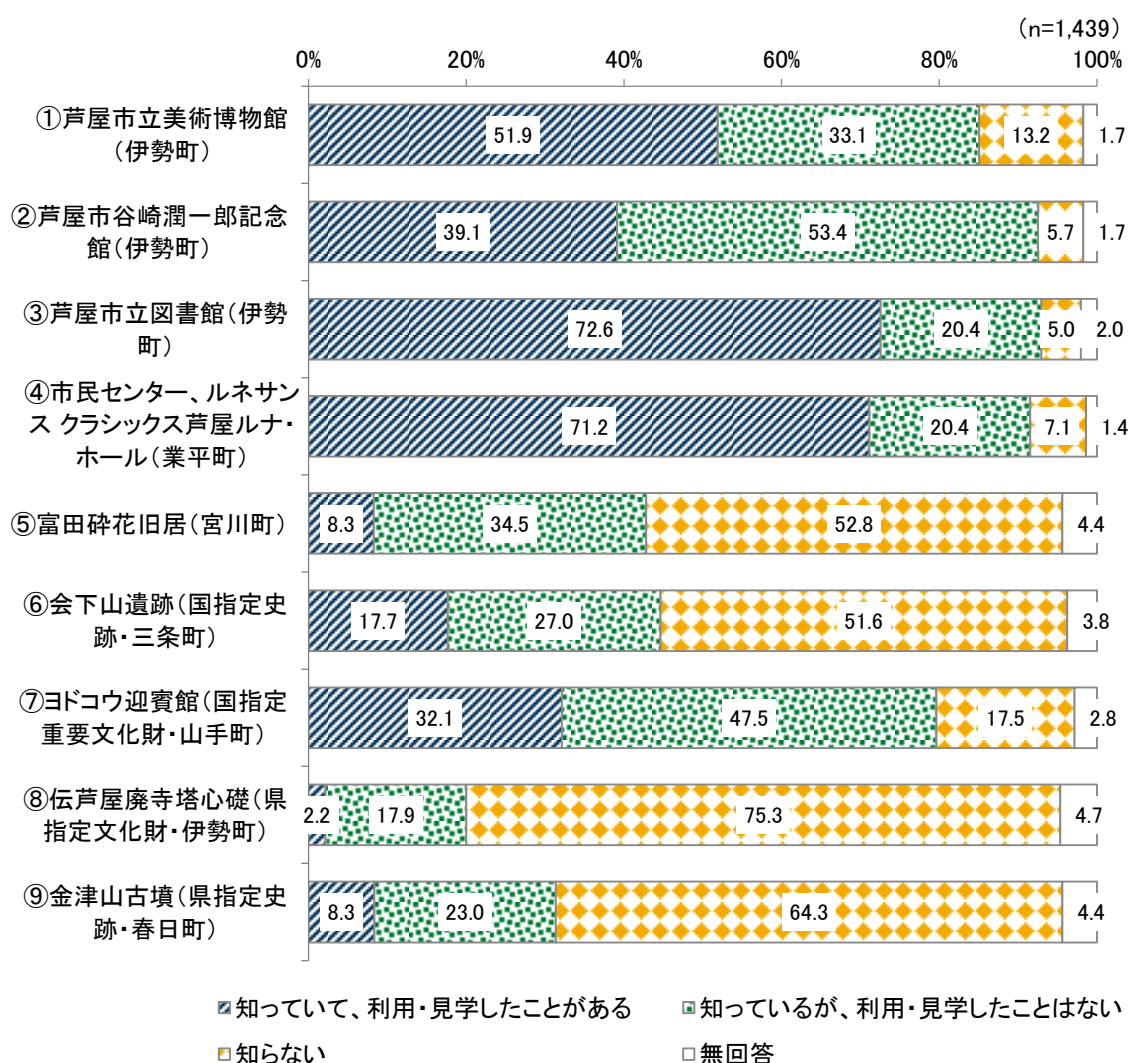


(5) 問 42 芦屋市の文化的資源の認知度

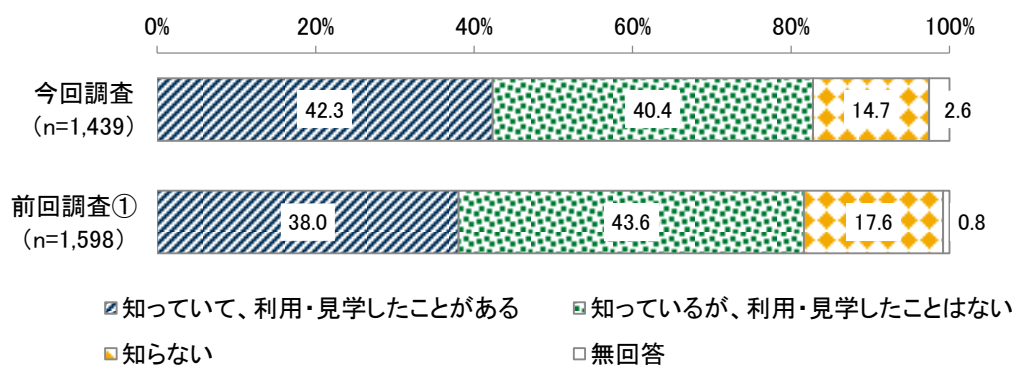
「知っている、利用・見学したことがある」と「知っているが、利用・見学したことはない」の割合の合計に着目すると、「③芦屋市立図書館（伊勢町）」における割合が最も高く 93.0%となっている。次いで、「②芦屋市谷崎潤一郎記念館（伊勢町）（92.5%）」、「④市民センター、ルネサンス 芦屋ルナ・ホール（業平町）（91.6%）」となっている。

「知らない」の割合に着目すると、「⑧伝芦屋廃寺塔心礎（県指定文化財・伊勢町）」における割合が最も高く 75.3%となっている。次いで、「⑨金津山古墳（県指定史跡・春日町）（64.3%）」、「⑤富田碎花旧居（宮川町）（52.8%）」となっている。

図表 II-128 芦屋市の文化的資源の認知度



図表 II- 1 2 9 芦屋市の文化的資源の認知度（指標との比較）



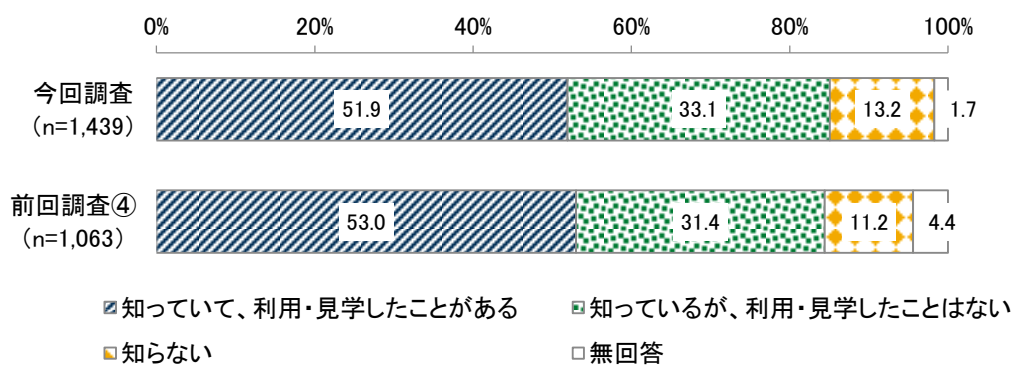
（注）指標と比較するため、今回調査の結果について⑥～⑨の項目で一つでも「知っている、利用・見学したことがある」と回答した項目がある回答者は「知っている、利用・見学したことがある」、その他の回答者のうち⑥～⑨の項目で一つでも「知っているが、利用・見学したことはない」と回答している項目があれば「知っているが、利用・見学したことはない」として再集計をおこなった。

① 芦屋市立美術博物館（伊勢町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 51.9%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 33.1%「知らない」が 13.2%となっている。

前回調査④と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 130 芦屋市立美術博物館

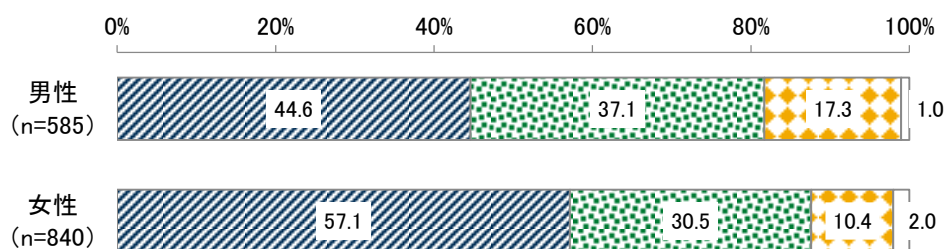


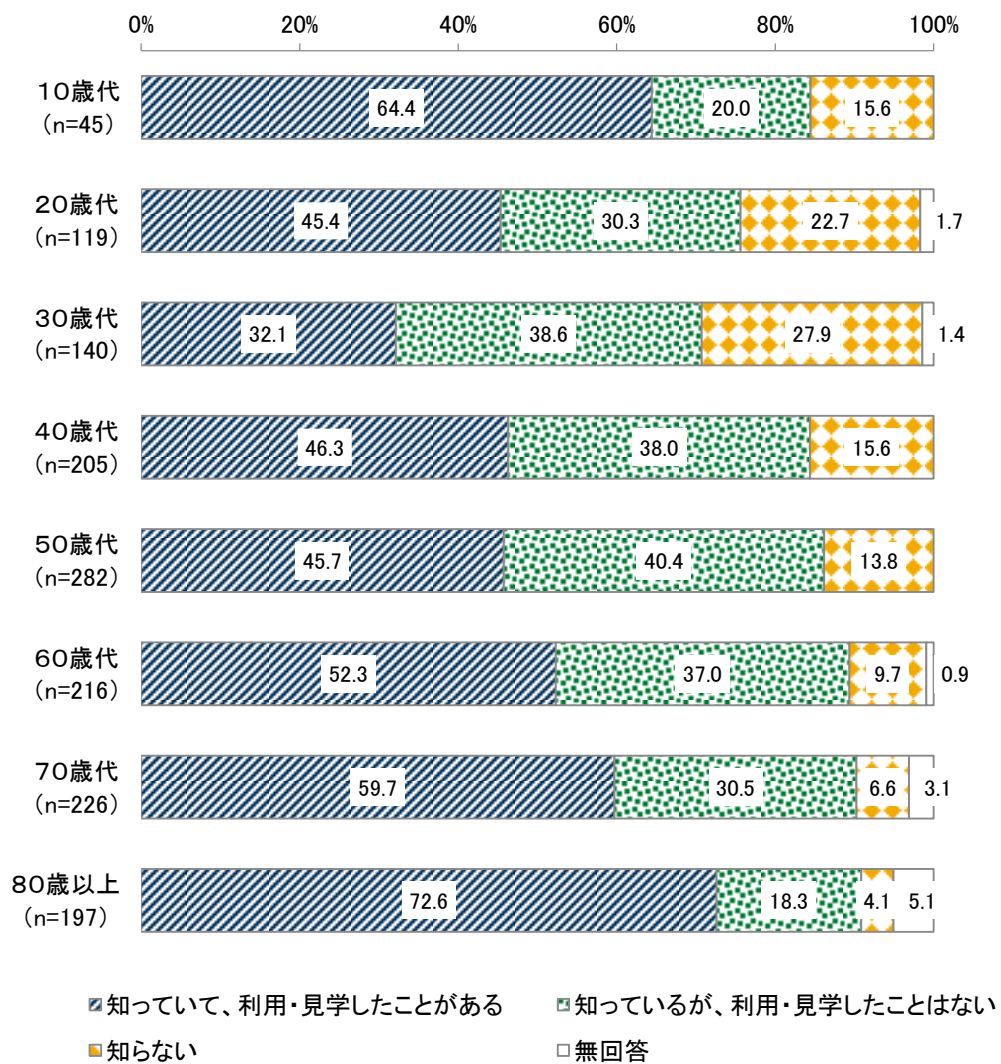
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

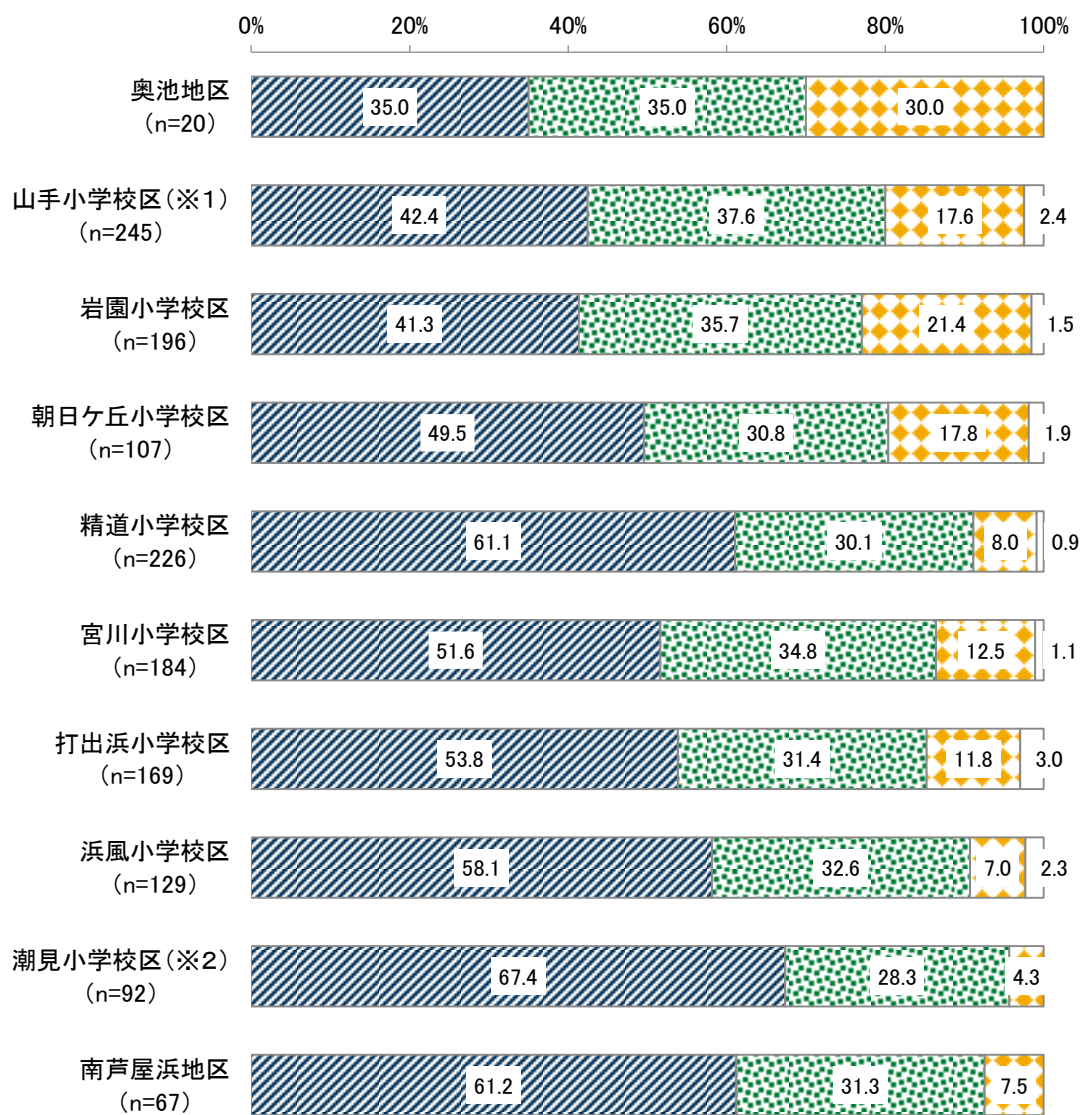
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低く、「知らない」割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して「知らない」の割合が低く、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II- 131 芦屋市立美術博物館（クロス集計）





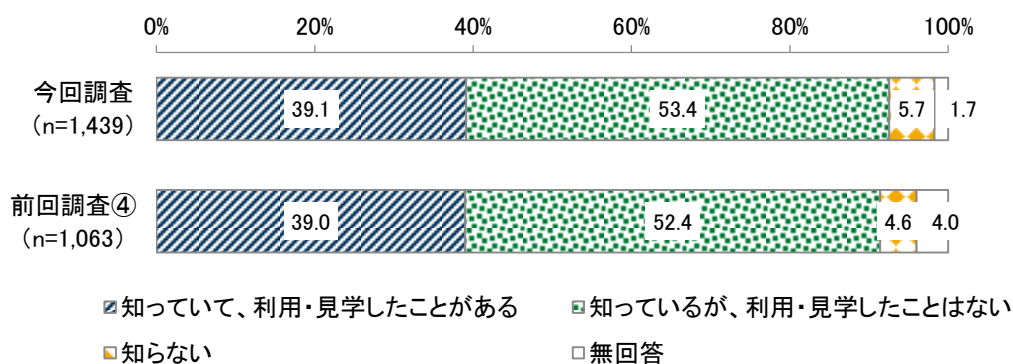


② 芦屋市谷崎潤一郎記念館（伊勢町）

「知っているが、利用・見学したことはない」が 53.4%で最も高く、次いで、「知っていて、利用・見学したことがある」が 39.1%「知らない」が 5.7%となっている。

前回調査④と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 132 芦屋市谷崎潤一郎記念館

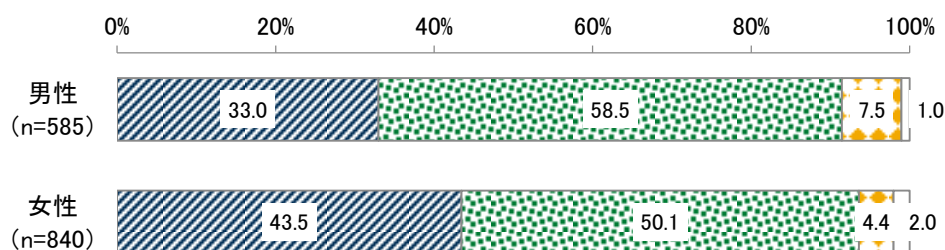


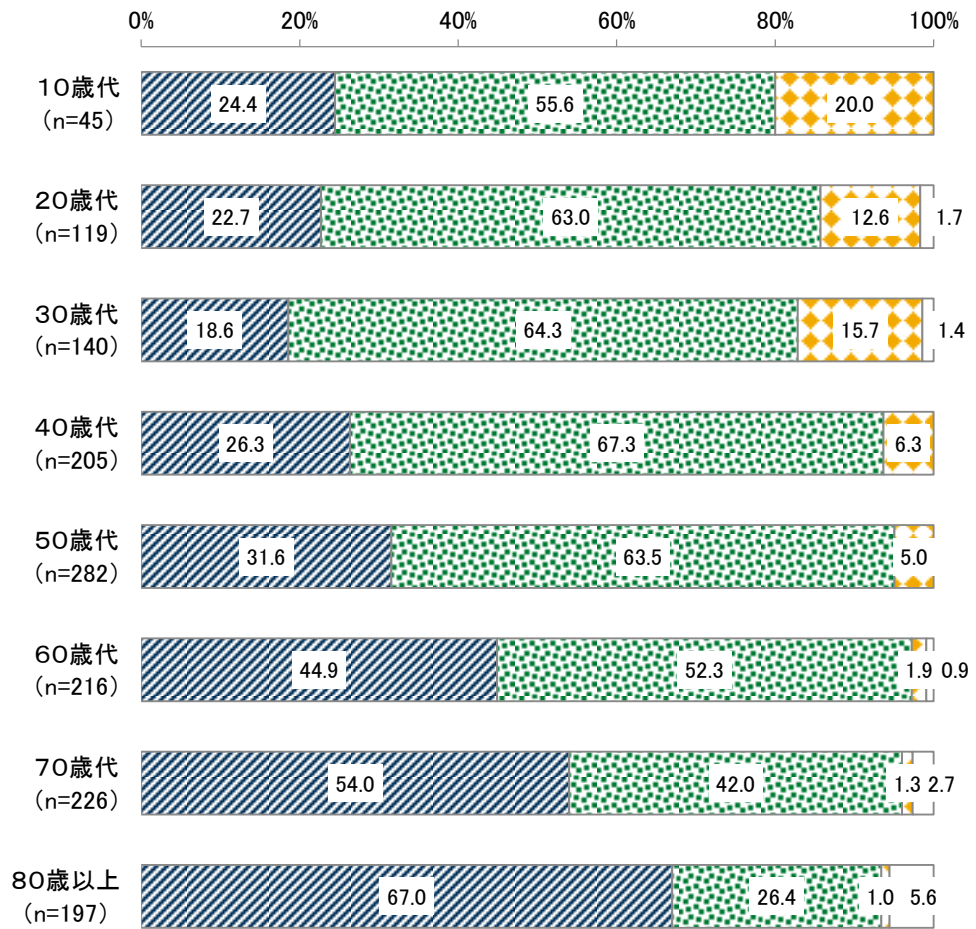
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

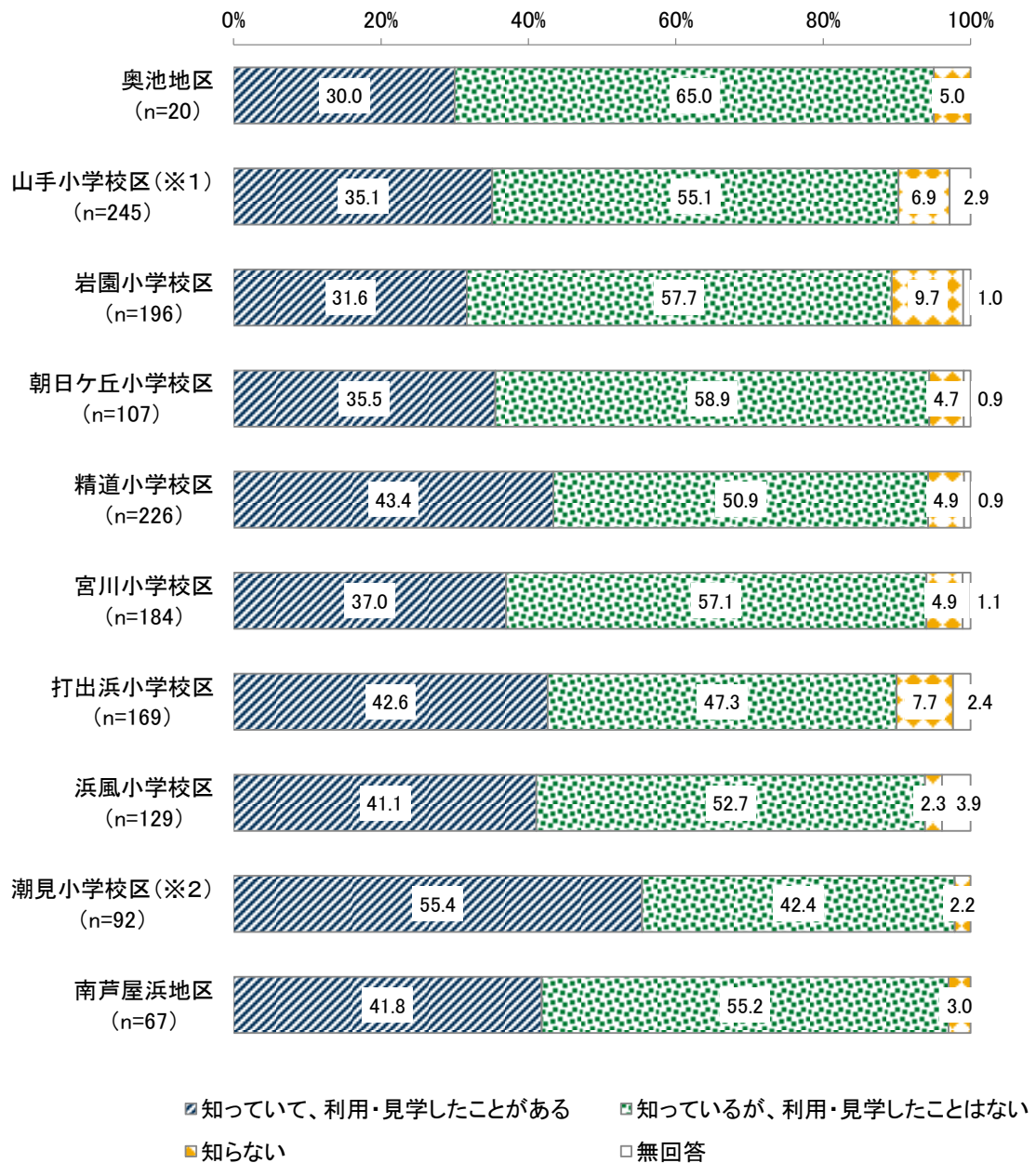
年代別にみると、30 歳代は他の年代と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

地区別にみると、岩園小学校区は他の地区と比較して「知らない」割合が高くなっている。

図表 II- 133 芦屋市谷崎潤一郎記念館（クロス集計）





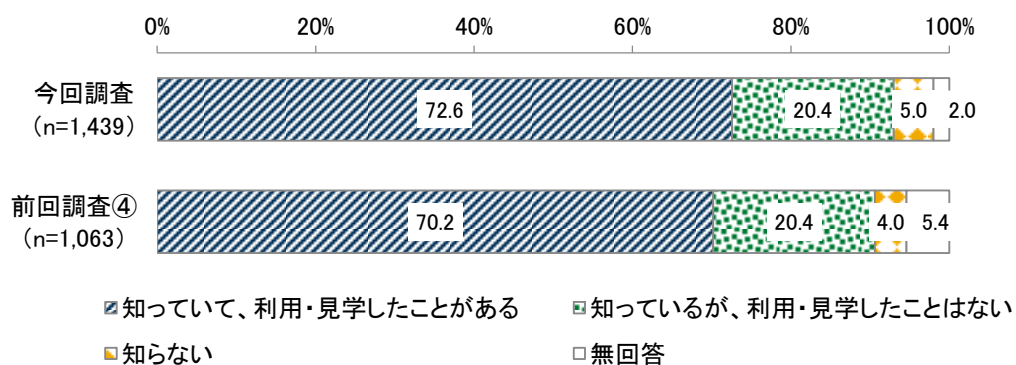


③ 芦屋市立図書館（伊勢町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 72.6%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 20.4%「知らない」が 5.0%となっている。

前回調査④と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II-134 芦屋市立図書館

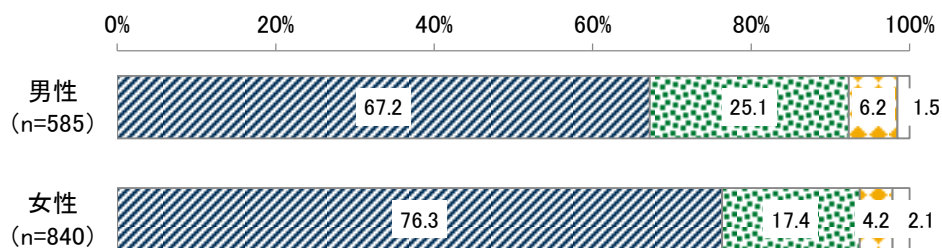


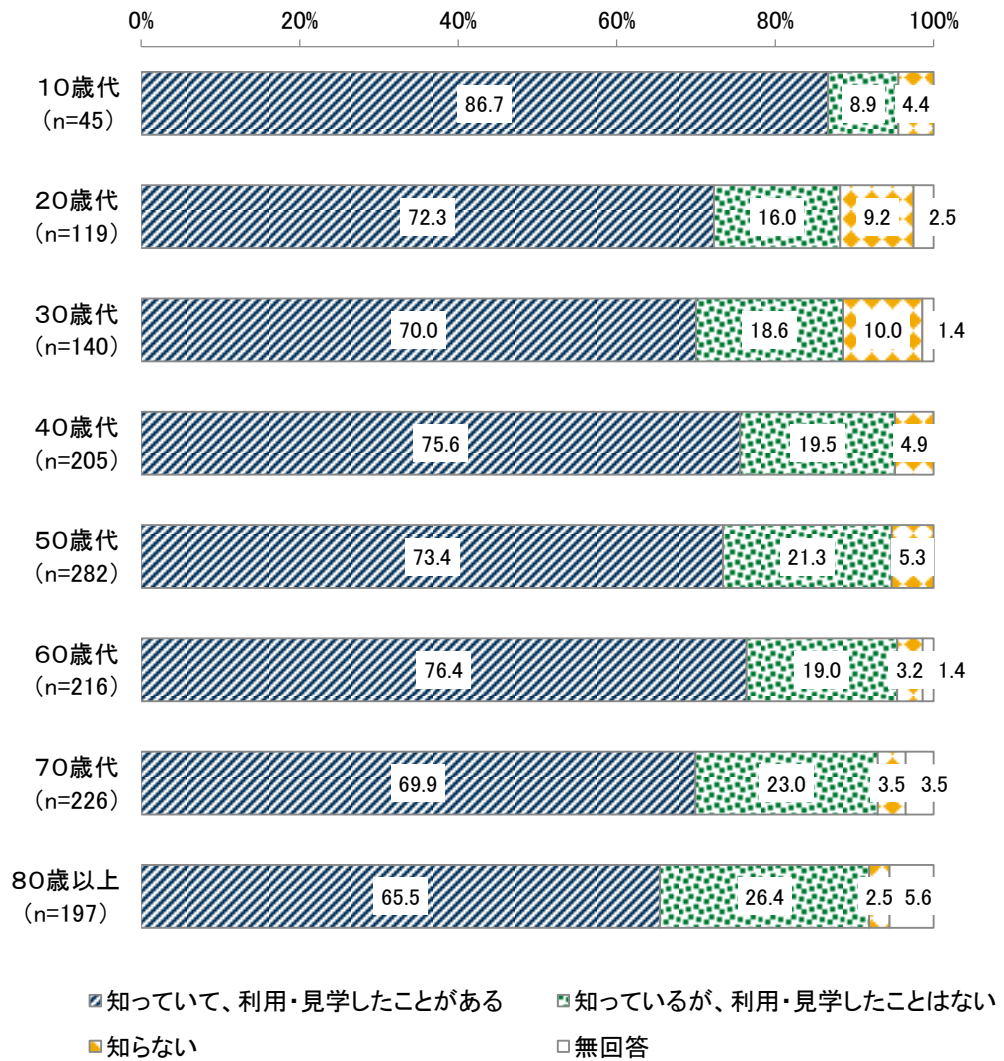
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

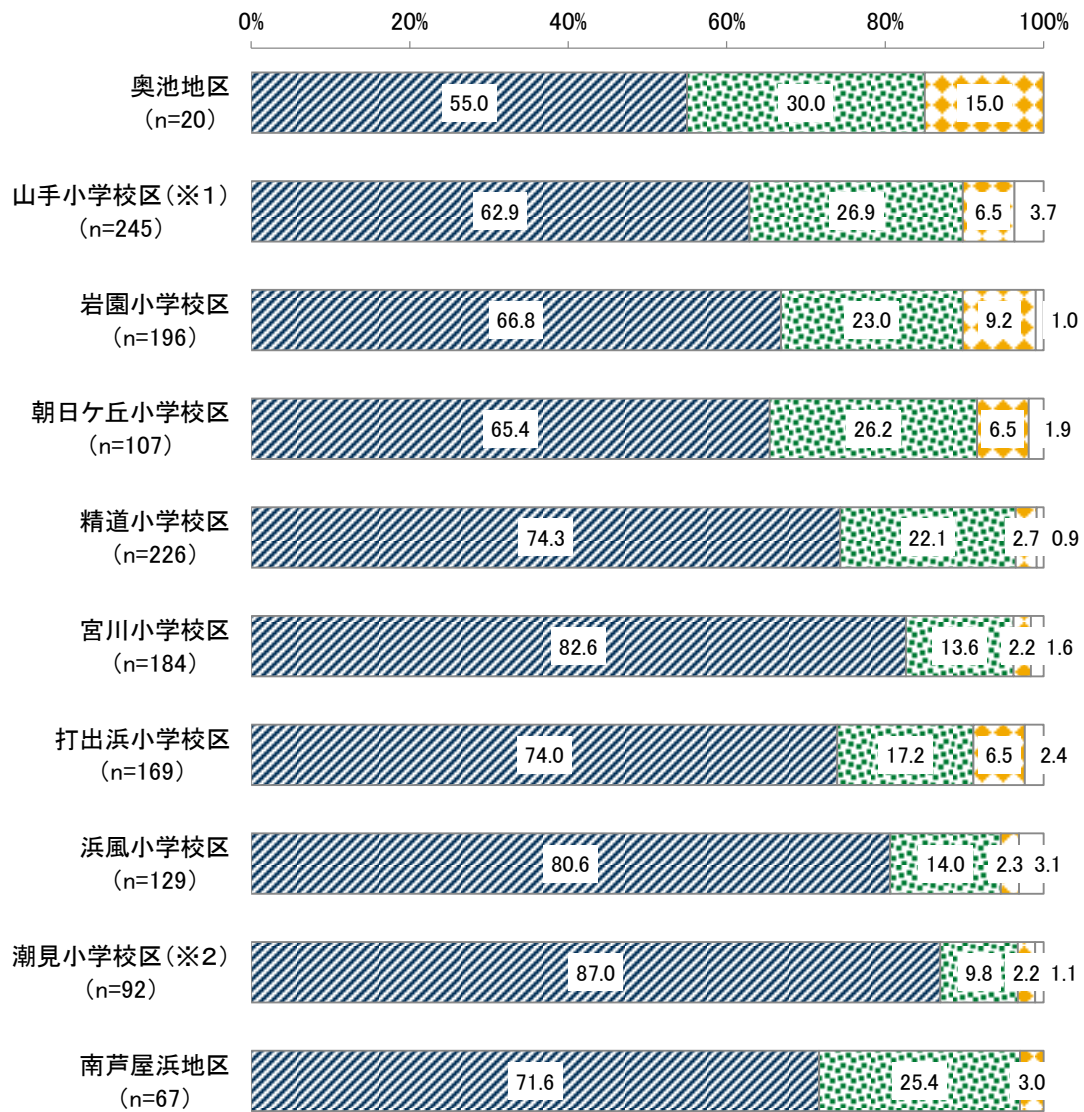
年代別にみると、10 歳代は他の年代と比較して、「知っていて、見学したことがある」割合が高くなっている。一方で、80 歳以上は「知っていて、見学したことがある」割合が低くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は、他の地区と比較して「知っていて、見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II-135 芦屋市立図書館（クロス集計）





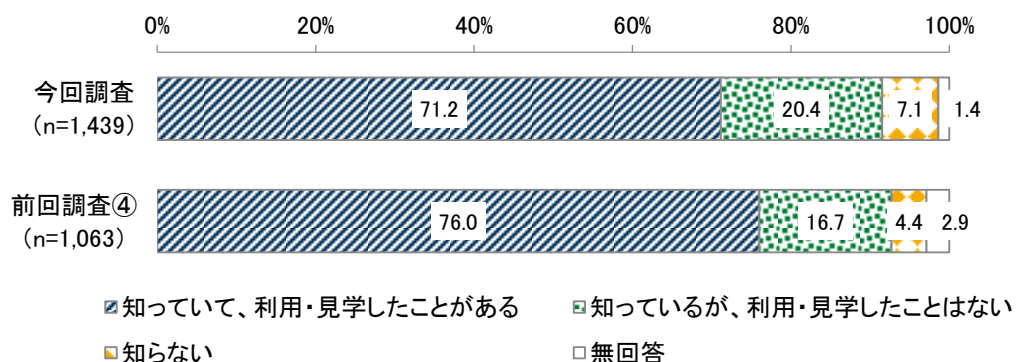


④ 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール（業平町）

「知っていて、利用・見学したことがある」が 71.2%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 20.4%「知らない」が 7.1%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が低下し、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II-136 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール

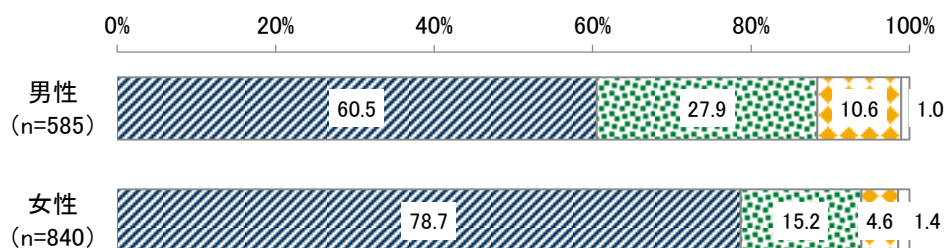


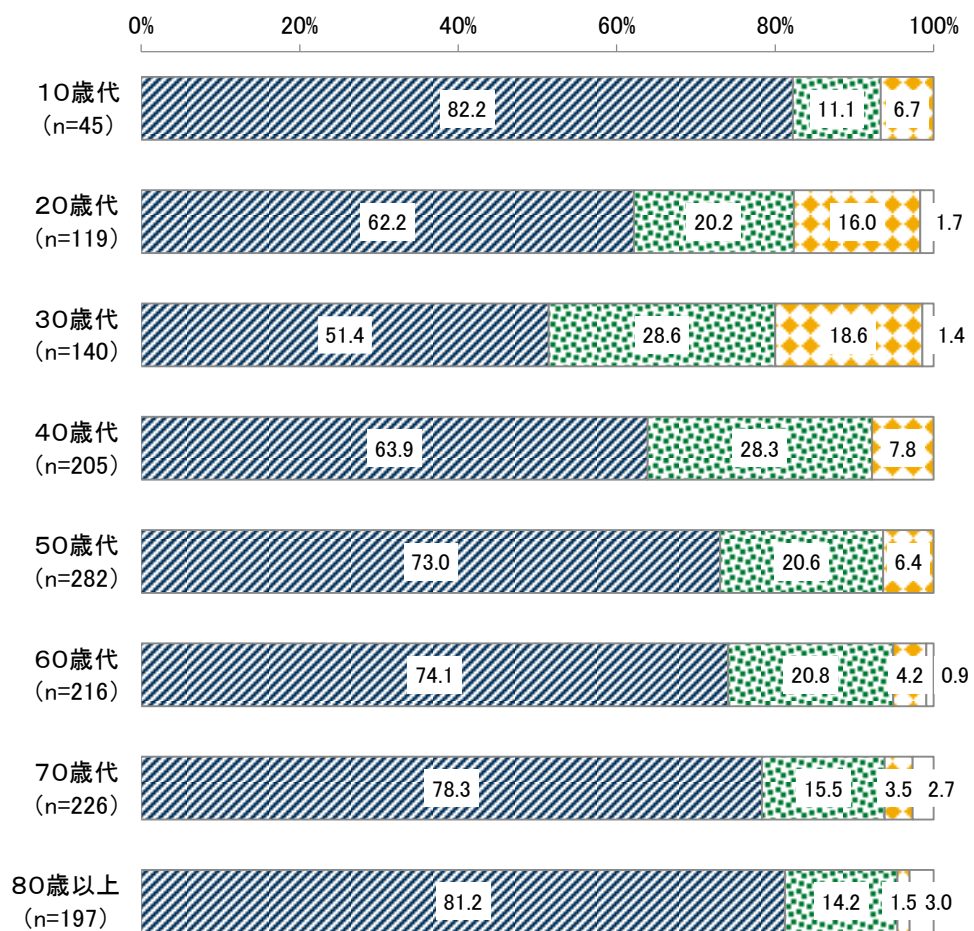
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

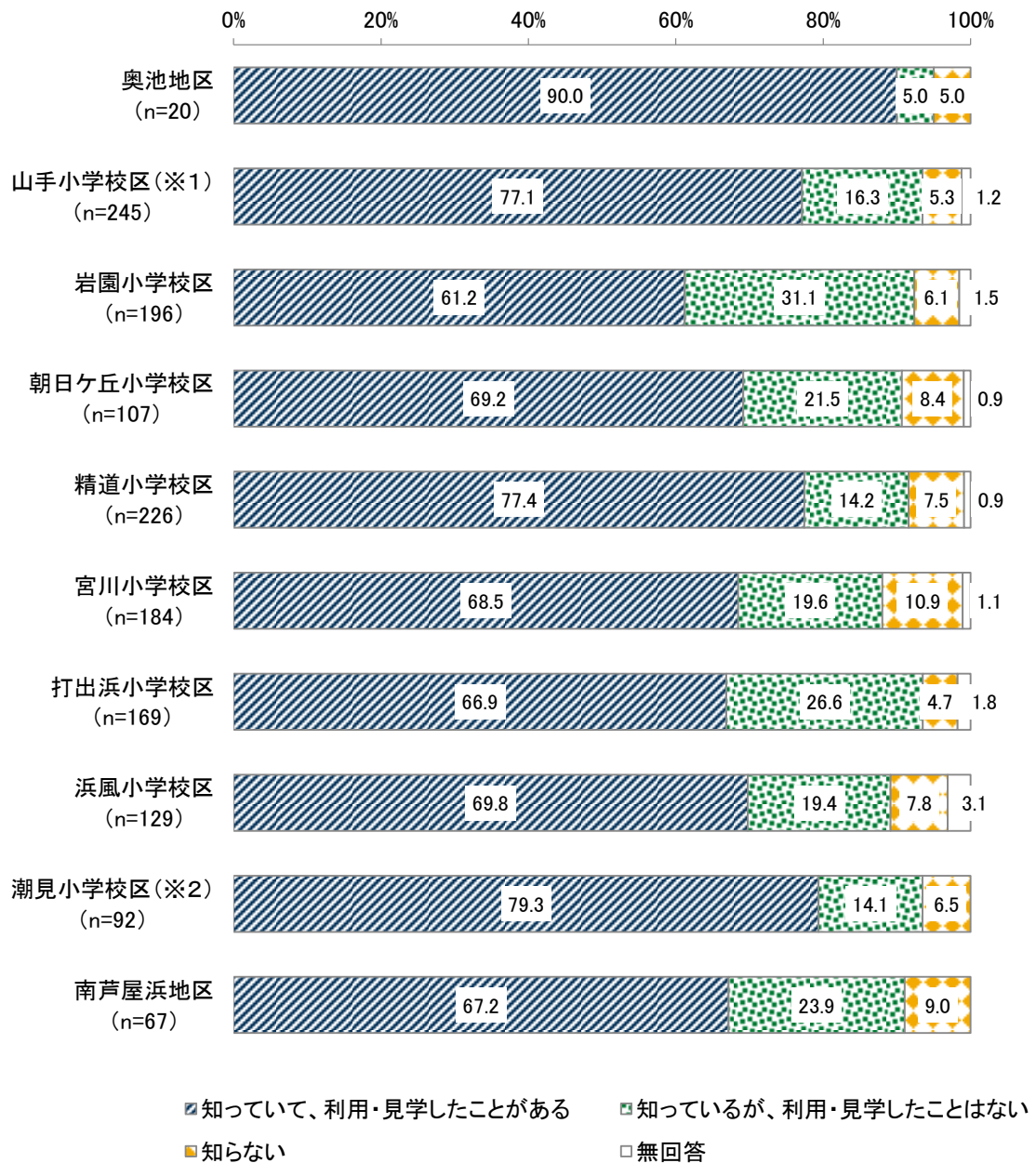
年代別にみると、30歳代は他の年代と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

地区別にみると、岩園小学校区は他の地区と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が低くなっている。

図表 II-137 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール（クロス集計）





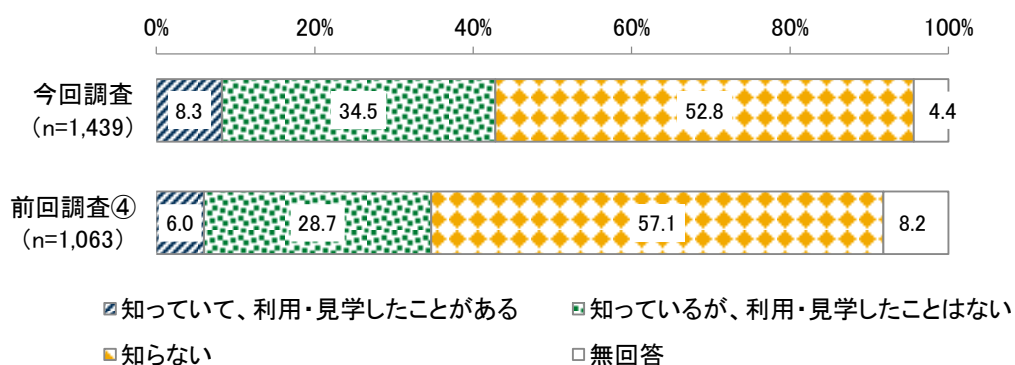


⑤ 富田碎花旧居（宮川町）

「知らない」が52.8%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が34.5%「知っていて、利用・見学したことがある」が8.3%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇し、「知らない」の割合が低下している。

図表 II-138 富田碎花旧居

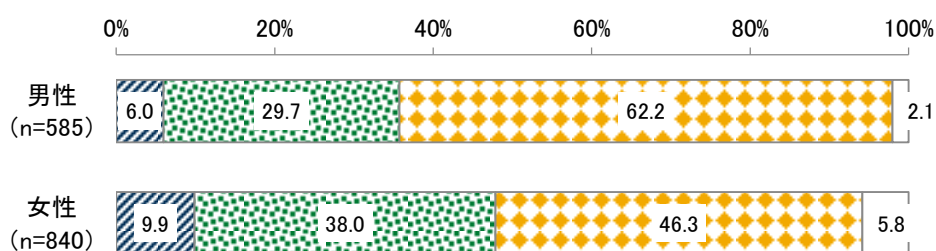


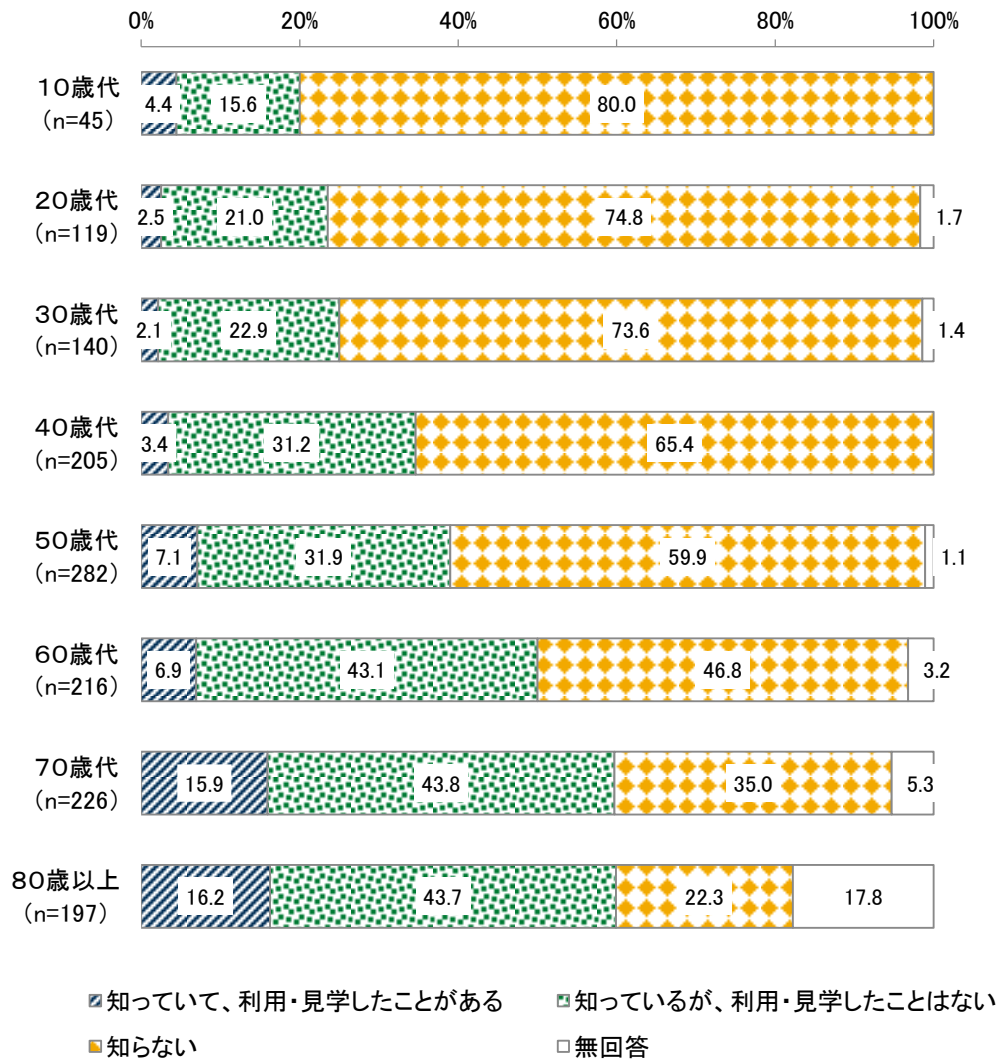
女性は男性よりも「知らない」割合が低くなっている。

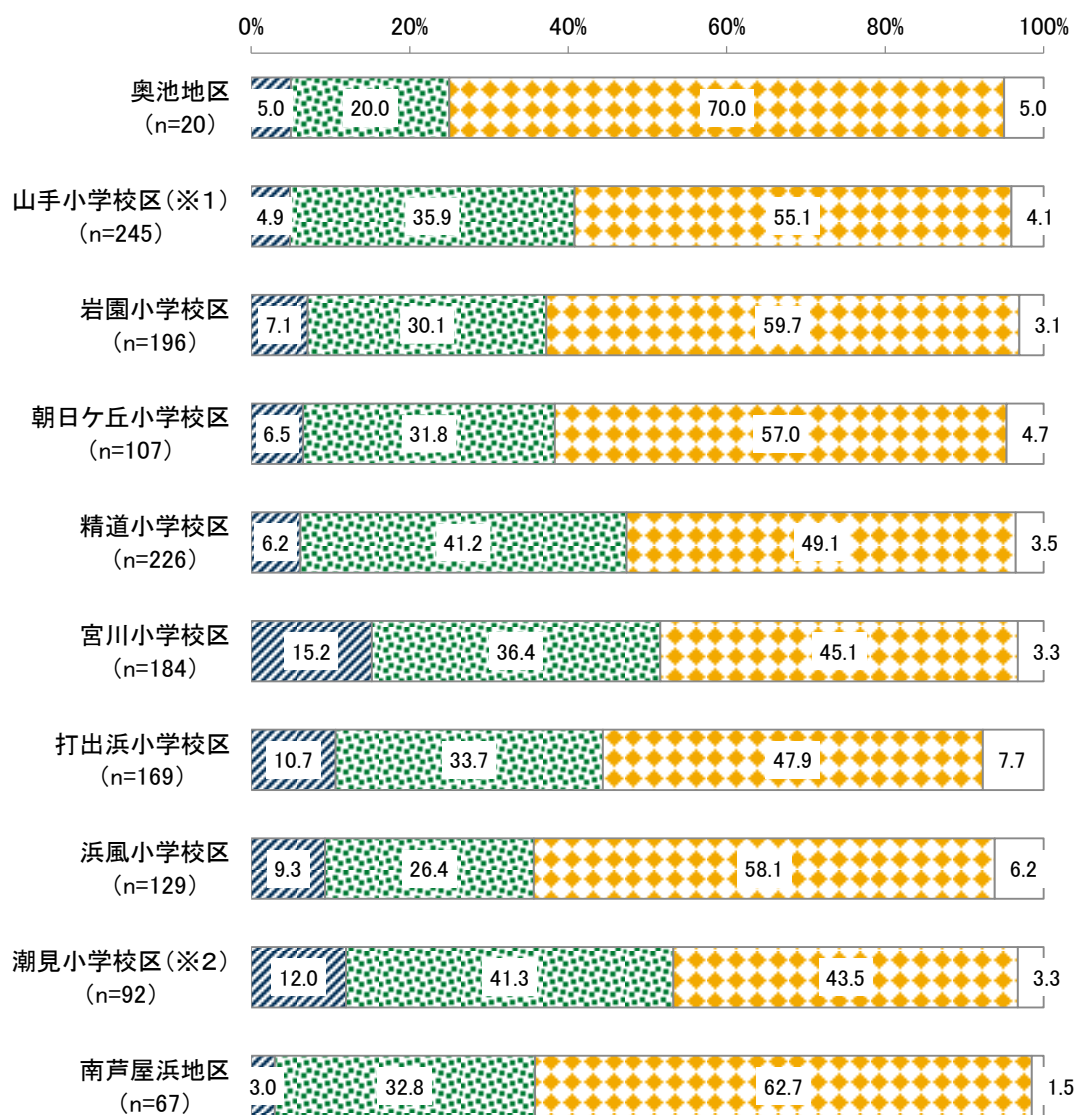
年代別にみると、年代が高くなるほど「知らない」割合が低くなっている。

地区別にみると、宮川小学校区は他の地区と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が高くなっている。

図表 II-139 富田碎花旧居（クロス集計）





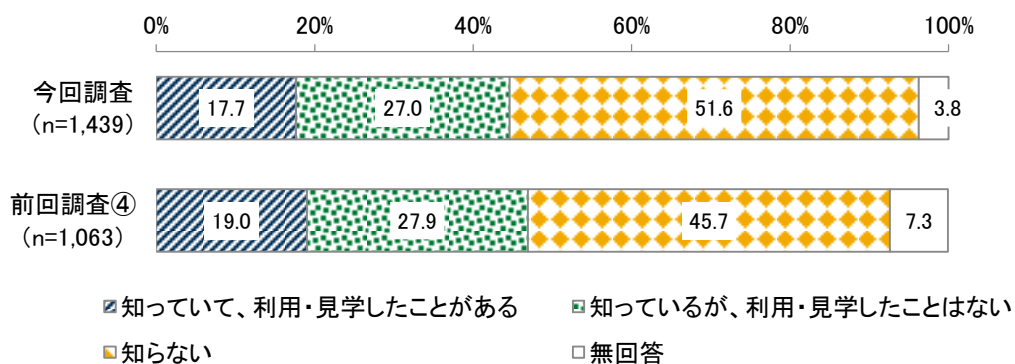


⑥ 会下山遺跡（国指定史跡・三条町）

「知らない」が 51.6%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が 27.0%「知っていて、利用・見学したことがある」が 17.7%となっている。

前回調査④と比較すると、「知らない」の割合が上昇している。

図表 II-140 会下山遺跡

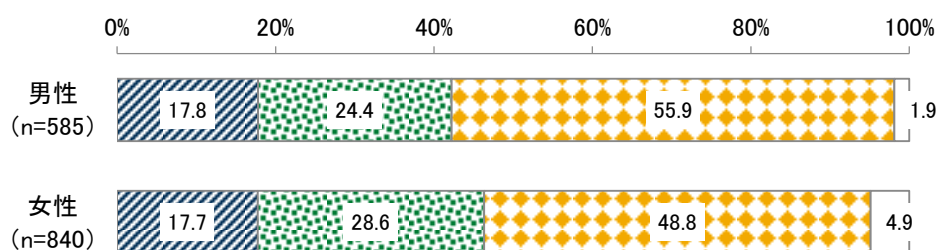


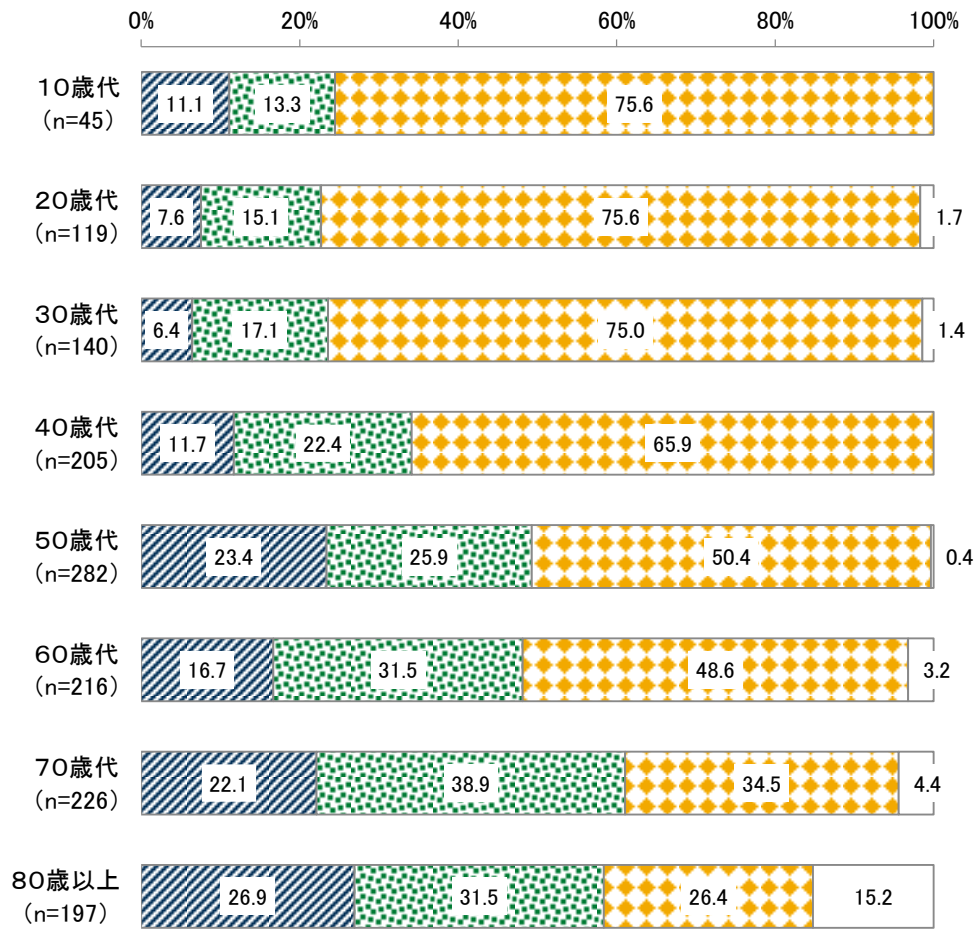
男性は女性よりも「知らない」割合が高くなっている。

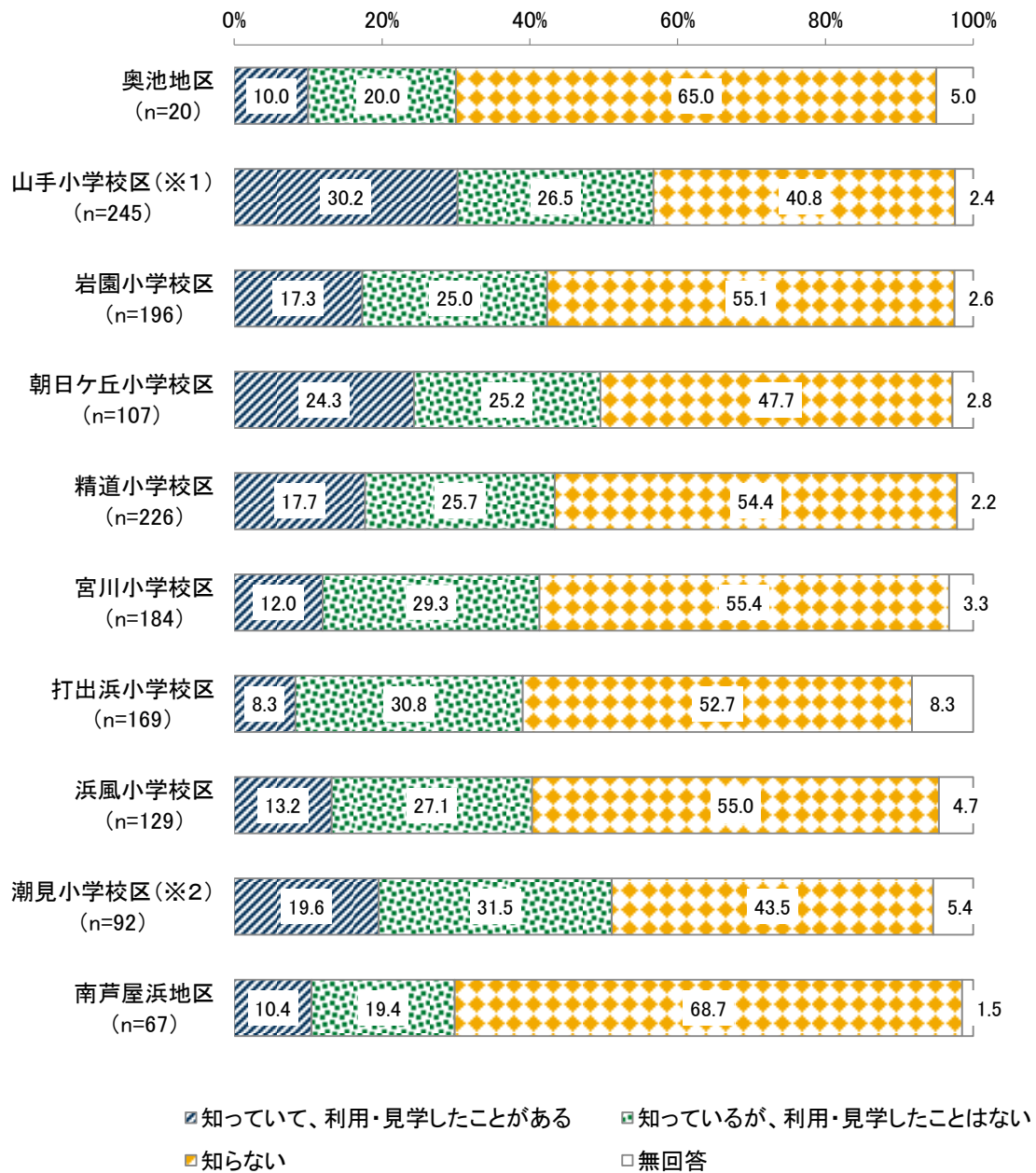
年代別にみると、40 歳代以上は、30 歳代までと比較して、「知らない」の割合が低くなっている。

地区別にみると、山手小学校区は他の地区と比較して「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高く、「知らない」割合が低くなっている。南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II-141 会下山遺跡（クロス集計）





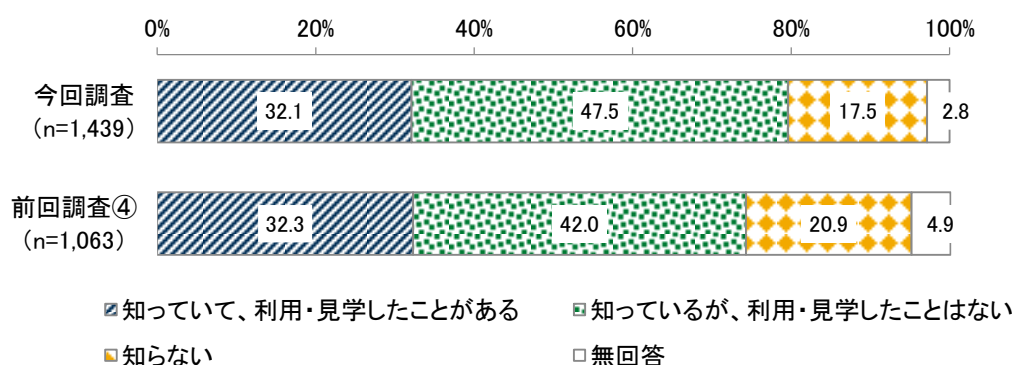


⑦ ヨドコウ迎賓館（国指定重要文化財・山手町）

「知っているが、利用・見学したことはない」が 47.5%で最も高く、次いで、「知っていて、利用・見学したことがある」が 32.1%「知らない」が 17.5%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇し、「知らない」の割合が低下している。

図表 II-142 ヨドコウ迎賓館

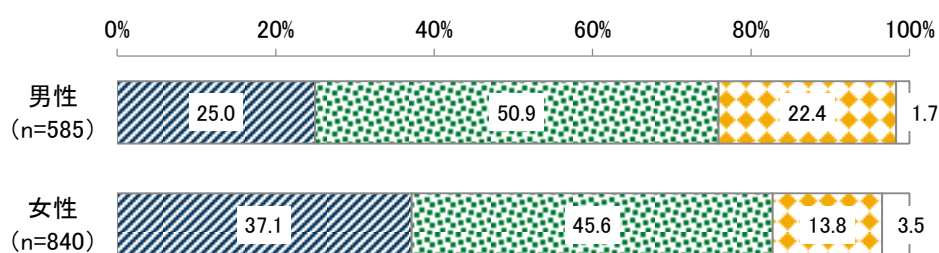


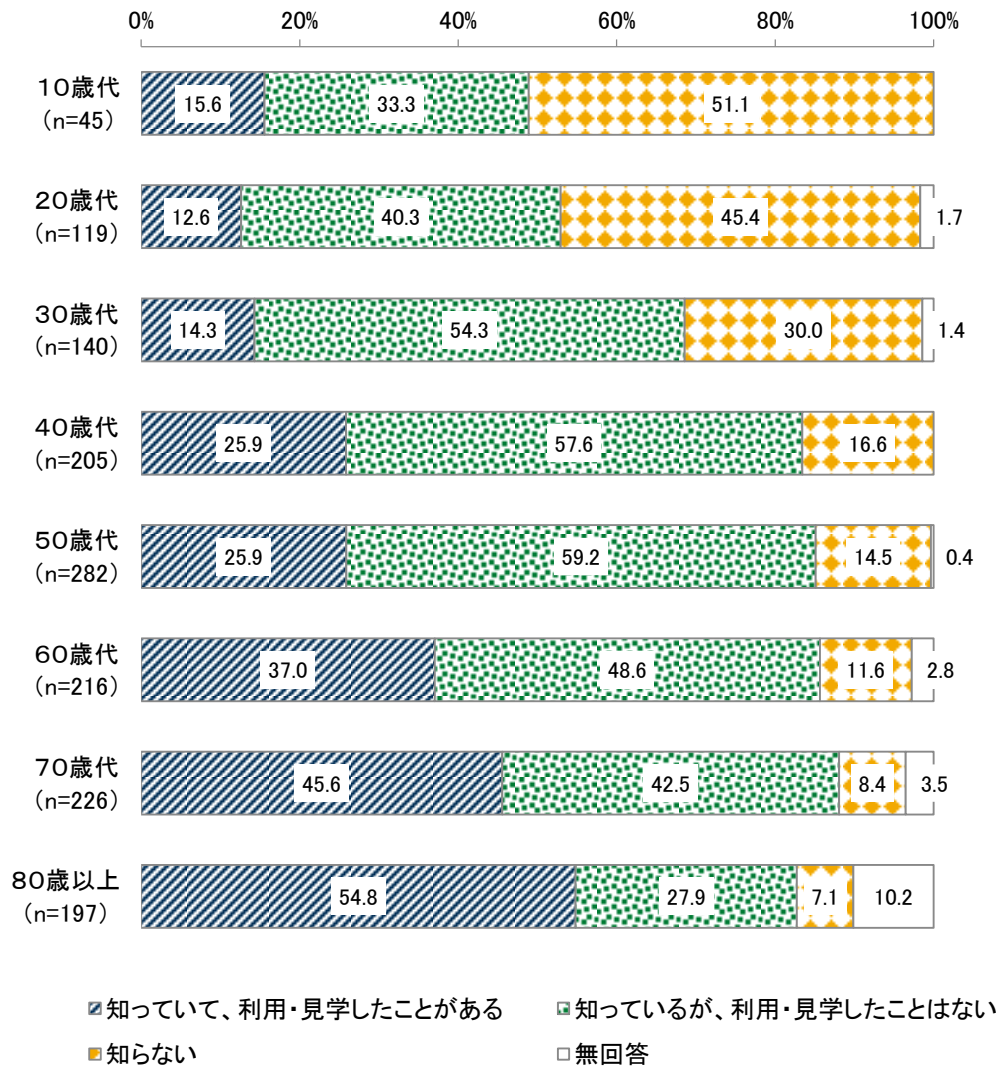
女性は男性よりも「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

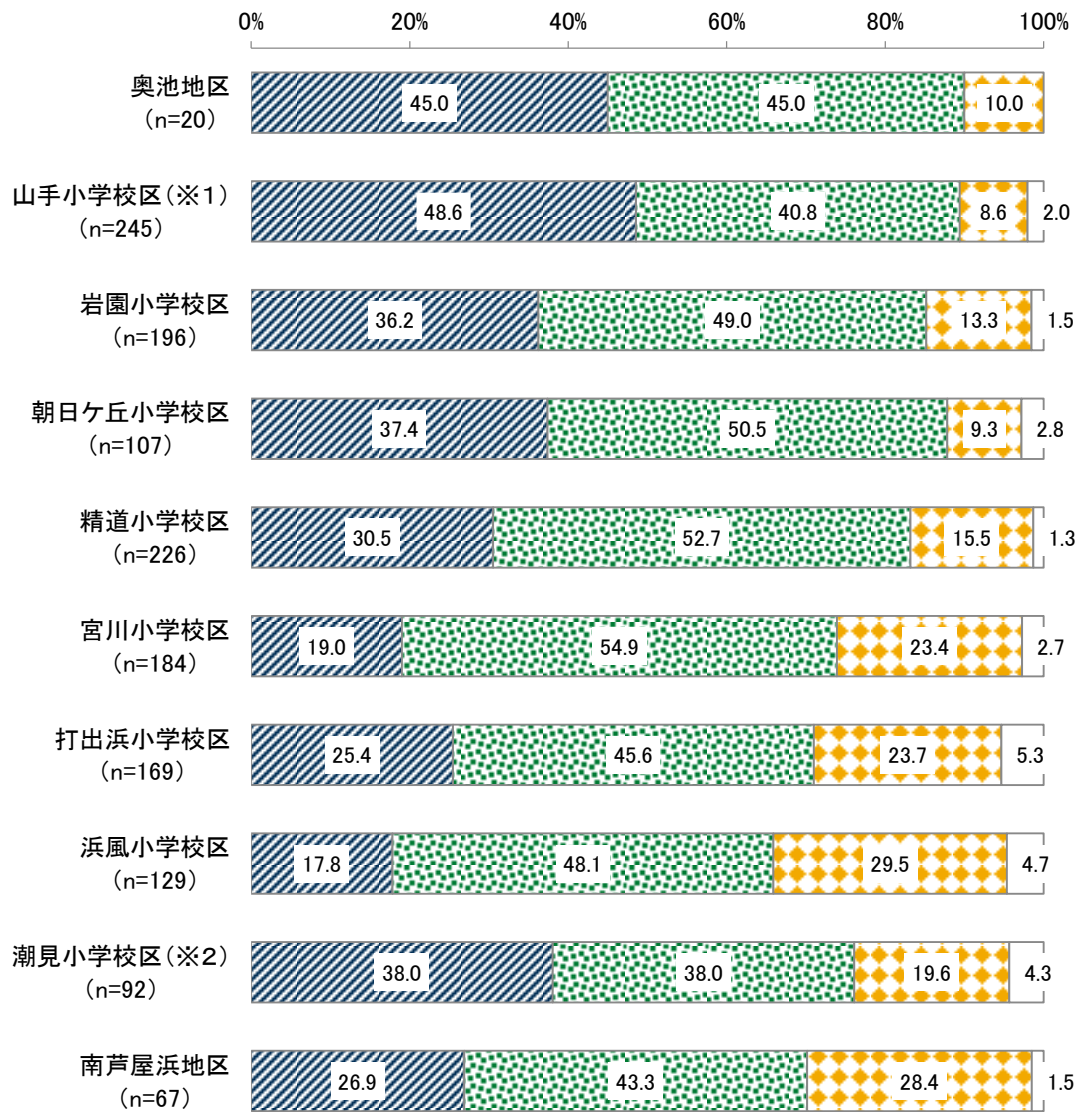
年代別にみると、高い年代になるほど、「知らない」の割合が低く、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が高くなっている。

地区別にみると、浜風小学校区は他の地区と比較して、「知らない」割合が高く、「知っていて、利用・見学したことがある」の割合が低くなっている。

図表 II-143 ヨドコウ迎賓館（クロス集計）





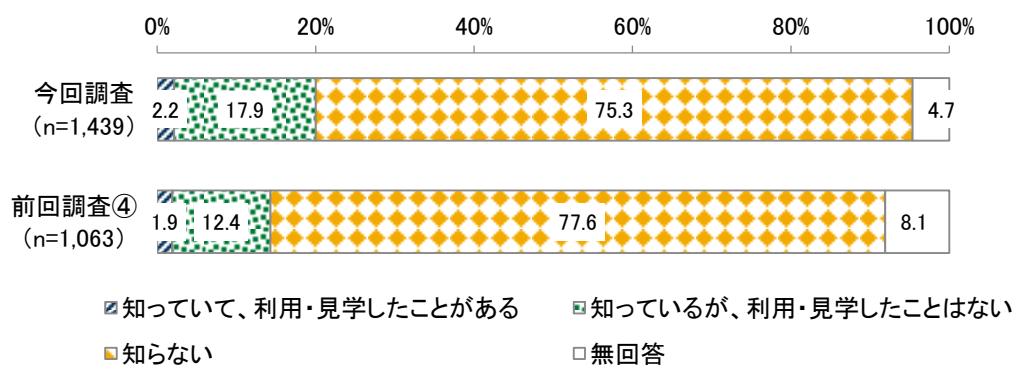


⑧ 伝芦屋廃寺塔心礎（県指定文化財・伊勢町）

「知らない」が75.3%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が17.9%「知っていて、利用・見学したことがある」が2.2%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II-144 伝芦屋廃寺塔心礎

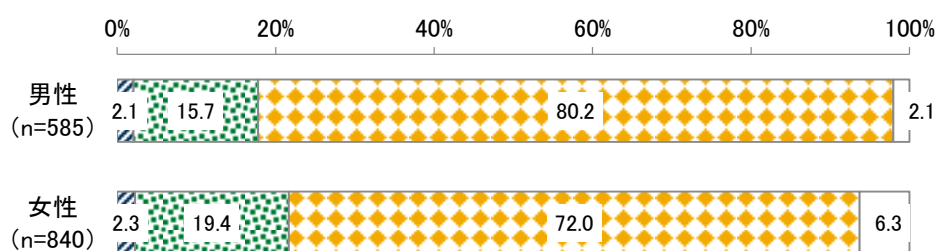


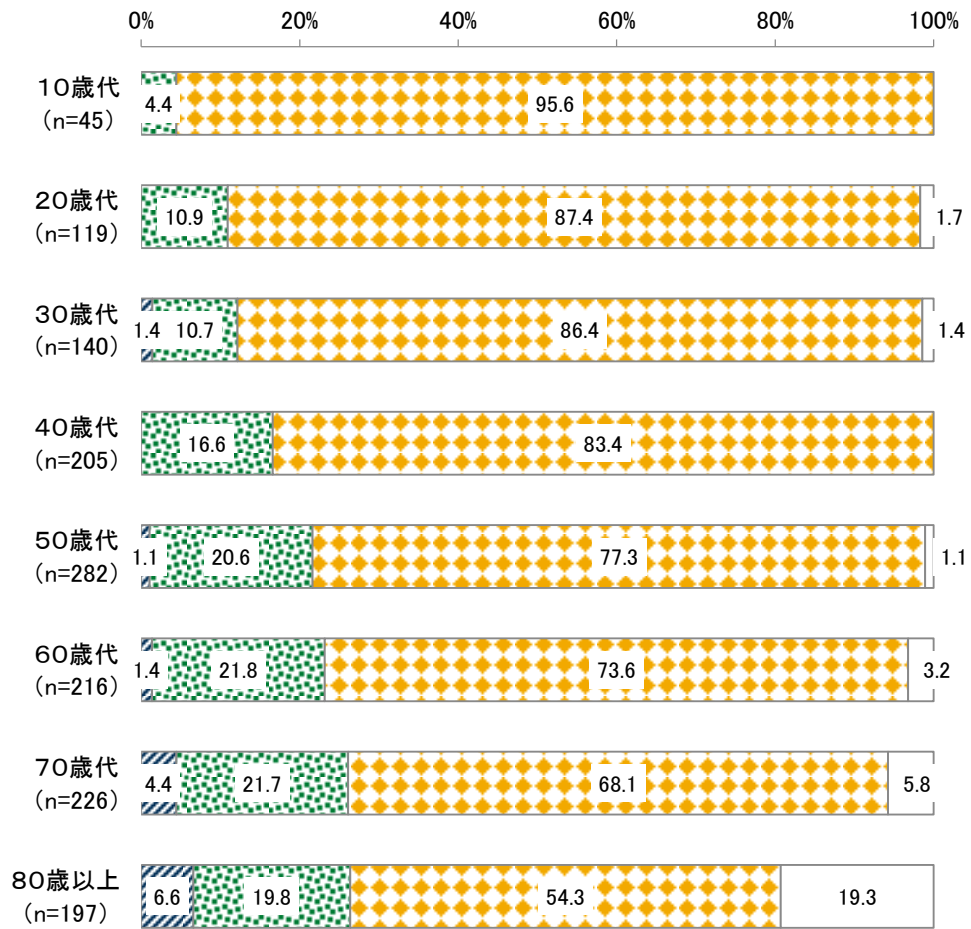
男女で大きな差異はみられない。

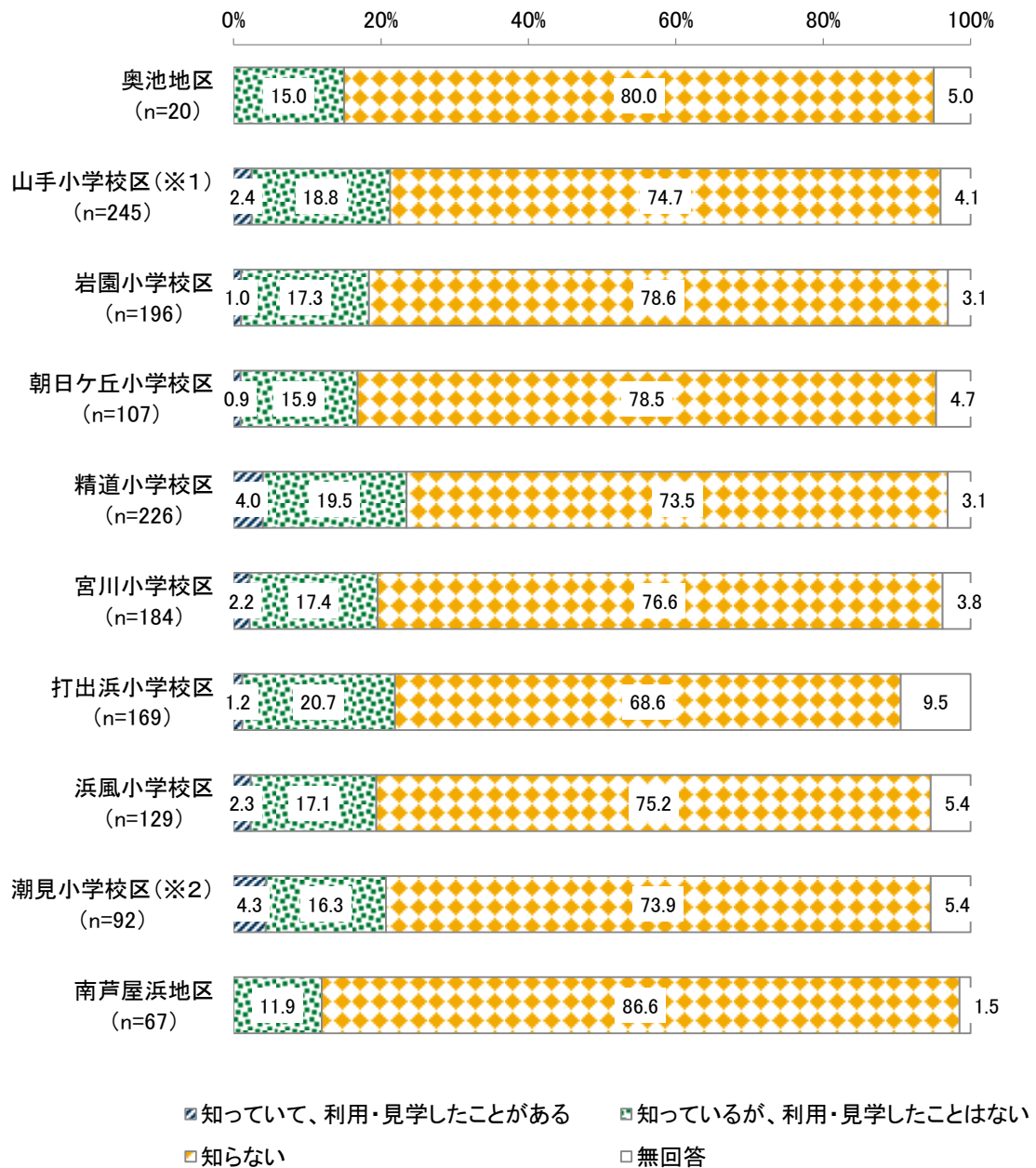
年代別にみると、年代が高くなるほど、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の「知っている」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、南芦屋浜地区は他の地区と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II-145 伝芦屋廃寺塔心礎（クロス集計）





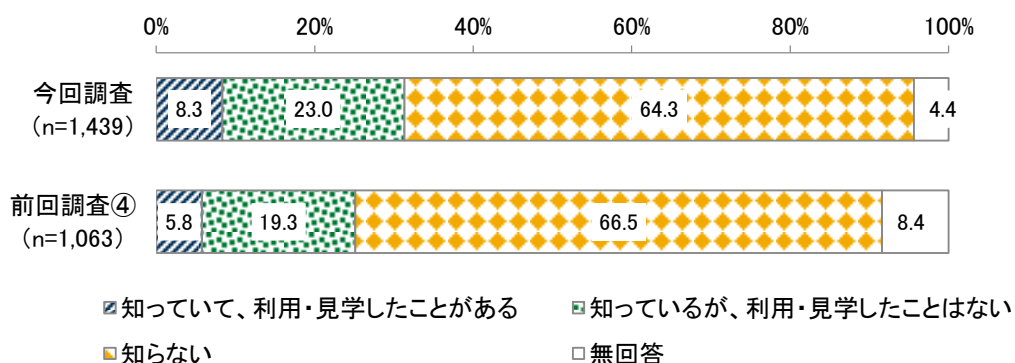


⑨ 金津山古墳（県指定史跡・春日町）

「知らない」が64.3%で最も高く、次いで、「知っているが、利用・見学したことはない」が23.0%「知っていて、利用・見学したことがある」が8.3%となっている。

前回調査④と比較すると、「知っているが、利用・見学したことはない」の割合が上昇している。

図表 II-146 金津山古墳

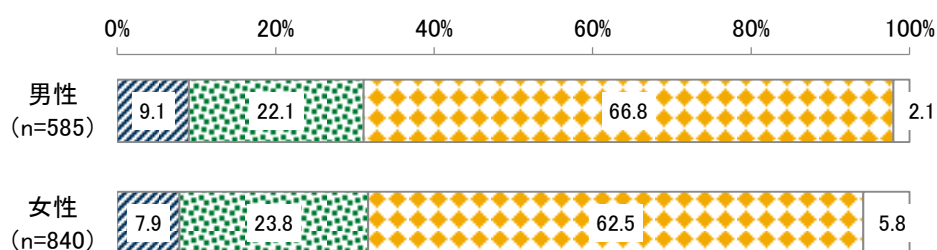


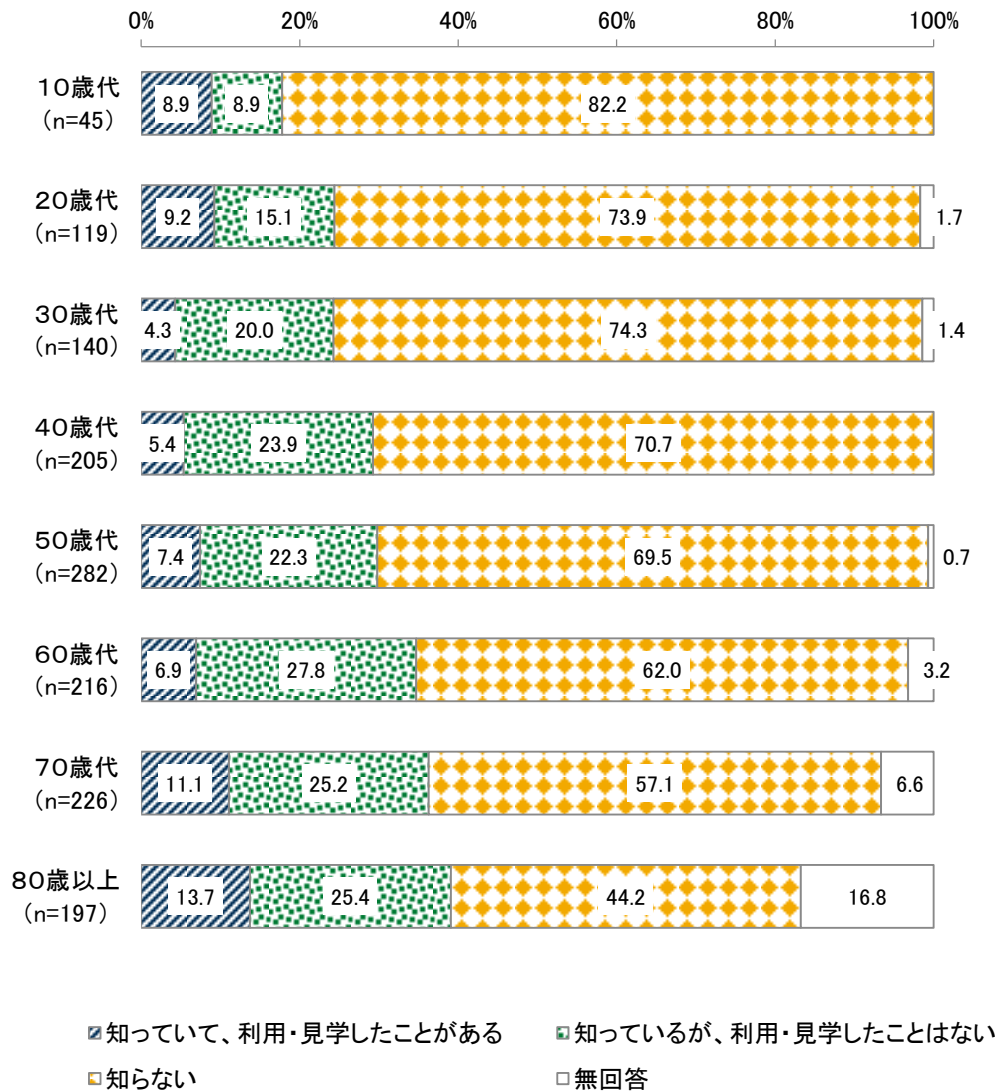
男女で大きな差異はみられない。

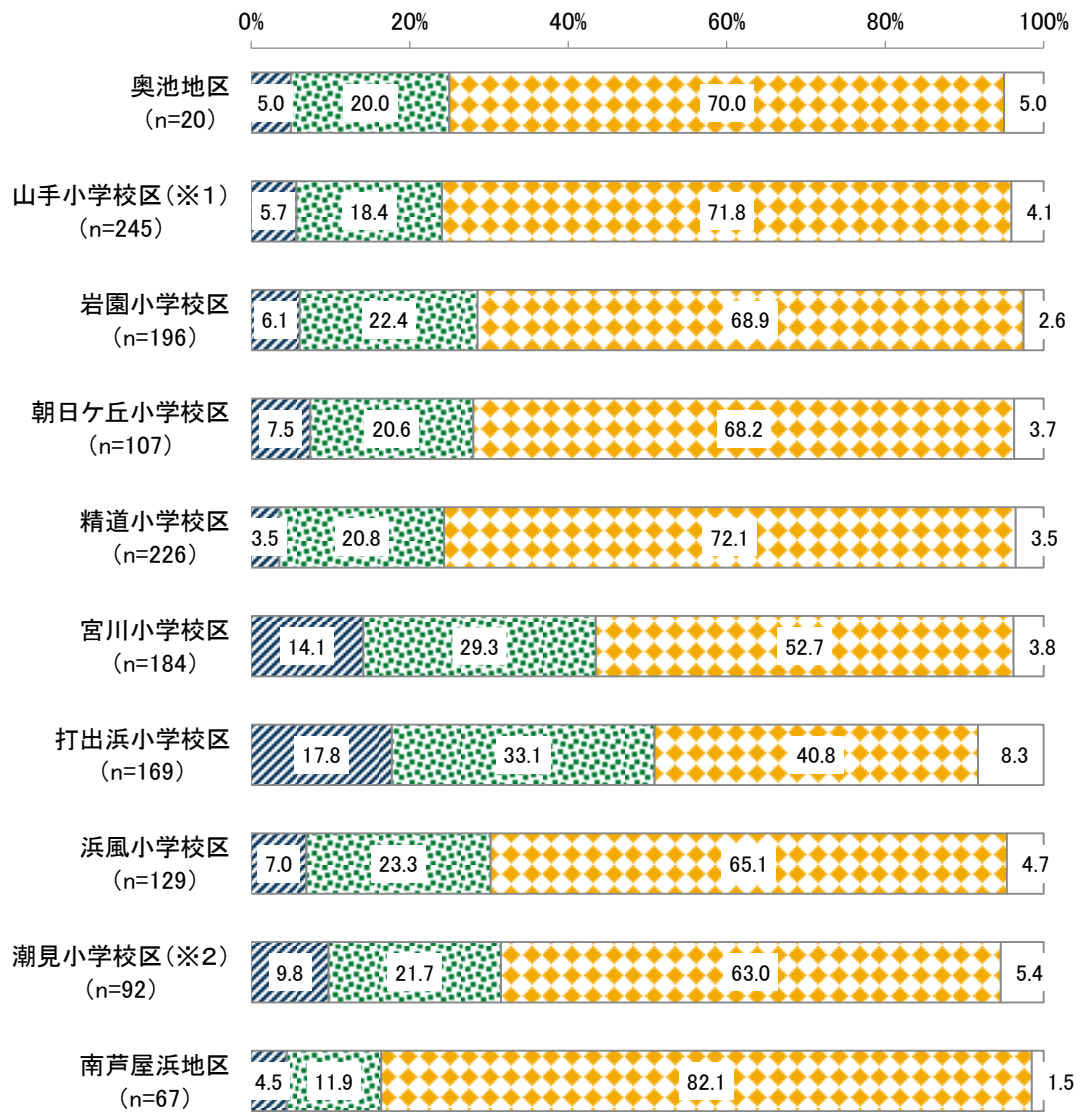
年代別にみると、年代が高くなるほど、「知っていて、利用・見学したことがある」「知っているが、利用・見学したことはない」の「知っている」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「知っていて、利用・見学したことがある」割合が高くなっている。

図表 II-147 金津山古墳（クロス集計）





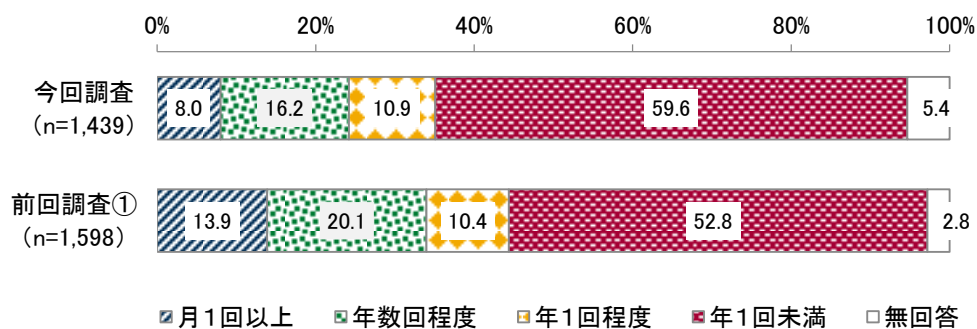


(6) 問 43 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度

「年 1 回未満」の割合が最も高く 59.6%となっている。次いで、「年数回程度（16.2%）」、「年 1 回程度（10.9%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が低下し、「年 1 回未満」の割合が上昇している。

図表 II- 148 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度

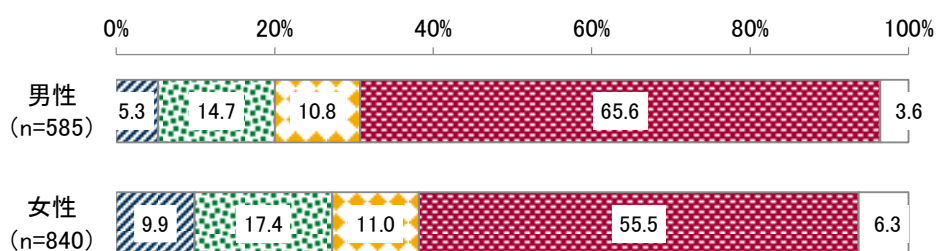


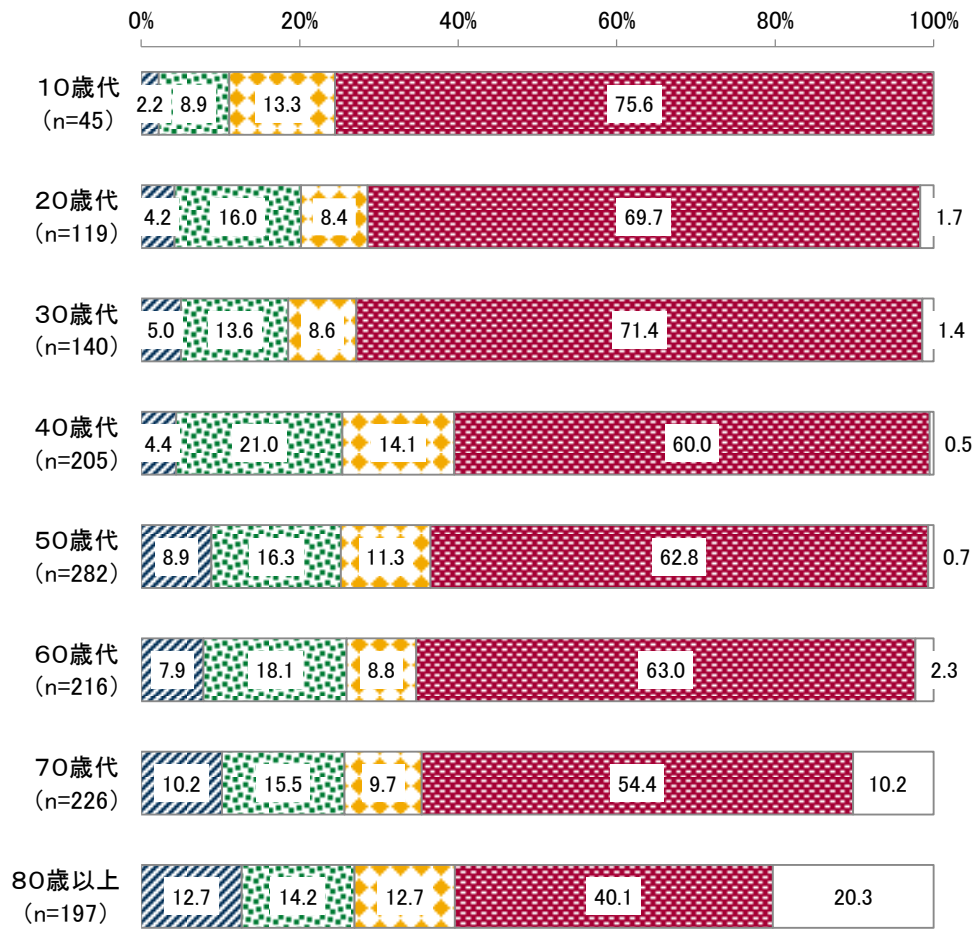
男性は女性よりも「年 1 回未満」の割合が高くなっている。

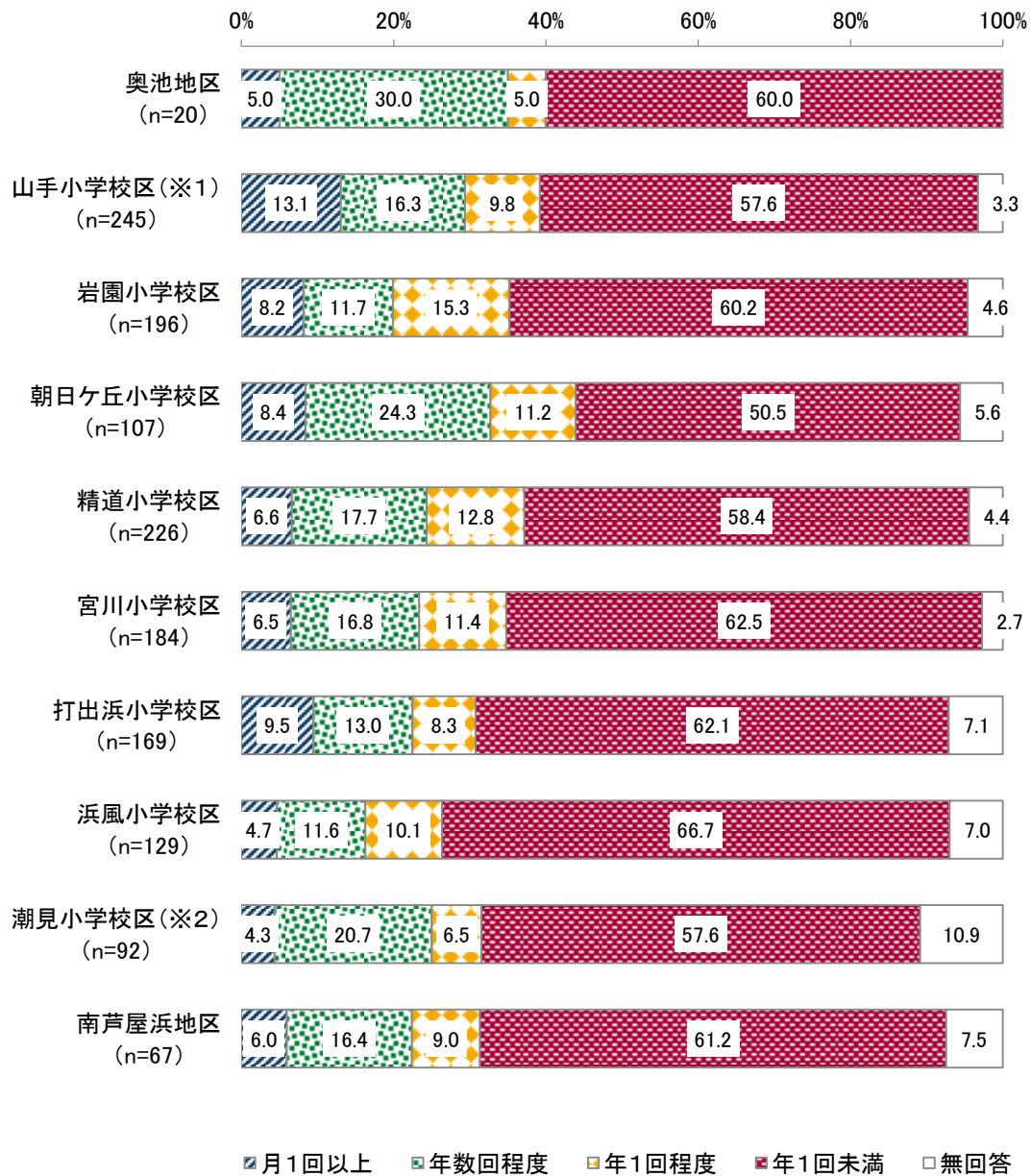
年代別にみると、10 歳代から 30 歳代は、それ以上の年代と比較して「年 1 回未満」の割合が高くなっている。

地区別にみると、山手小学校区は、他の地区と比較して「月 1 回以上」の割合が高くなっている。

図表 II- 149 学びのための学習会・セミナーへの参加頻度（クロス集計）





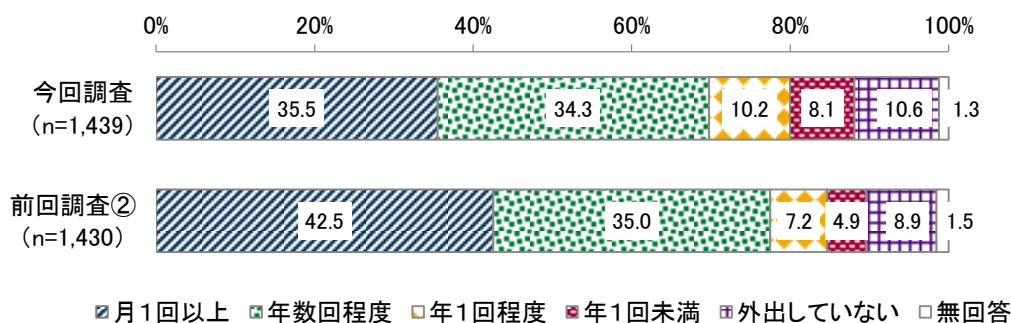


(7) 問 44 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度

「月 1 回以上」の割合が最も高く 35.5%となっている。次いで、「年数回程度（34.3%）」、「外出していない（10.6%）」となっている。

前回調査②と比較すると、「月 1 回以上」の割合が低下し、「年 1 回程度」「年 1 回未満」「外出していない」の割合が上昇している。

図表 II-150 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度

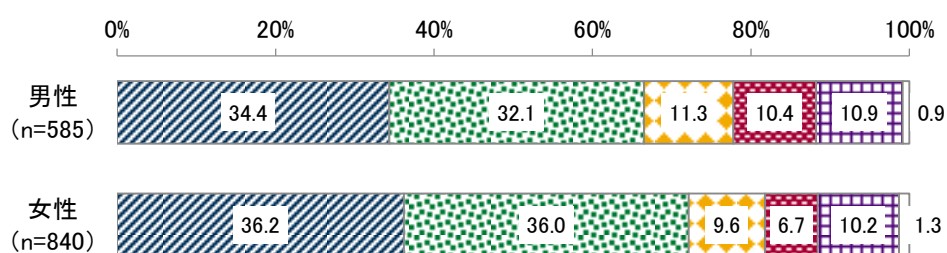


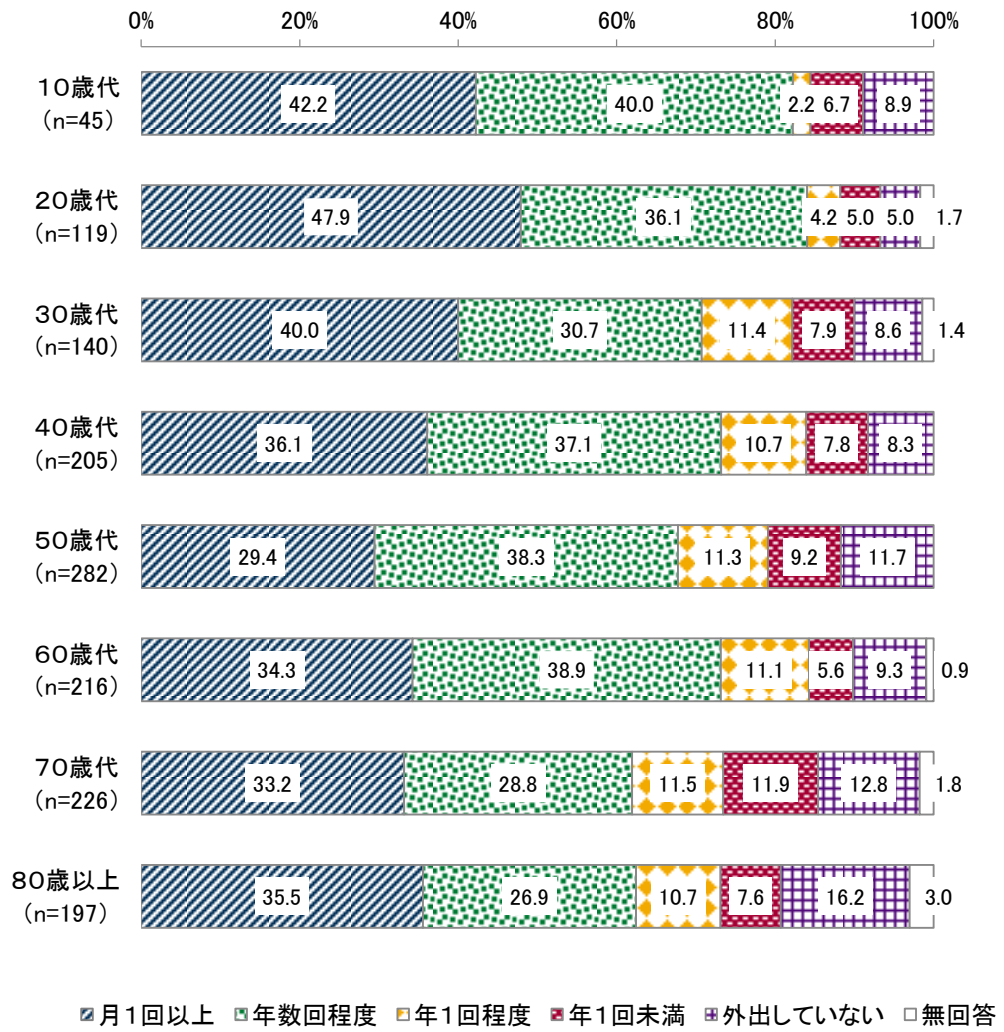
女性は男性よりも「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が高くなっている。

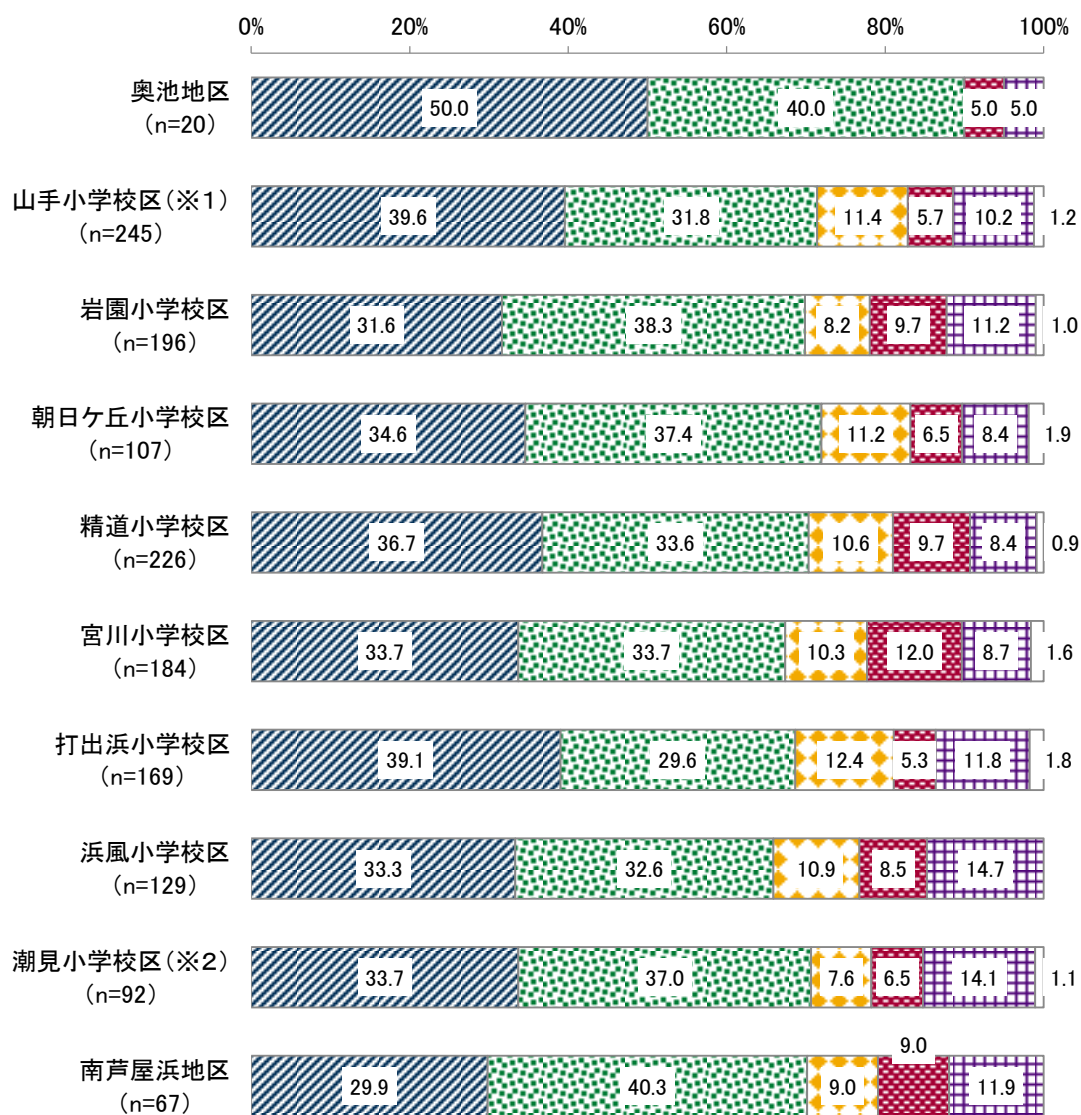
年代別にみると、10歳代、20歳代は、それ以上の年代と比較して、「月 1 回以上」「年数回程度」の割合が高くなっている。

地区別にみると、山手小学校区、打出浜小学校区は他の地区と比較して、「月 1 回以上」の割合が高くなっている。

図表 II-151 映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うための外出頻度
(クロス集計)







(8) 問 45 自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思うか

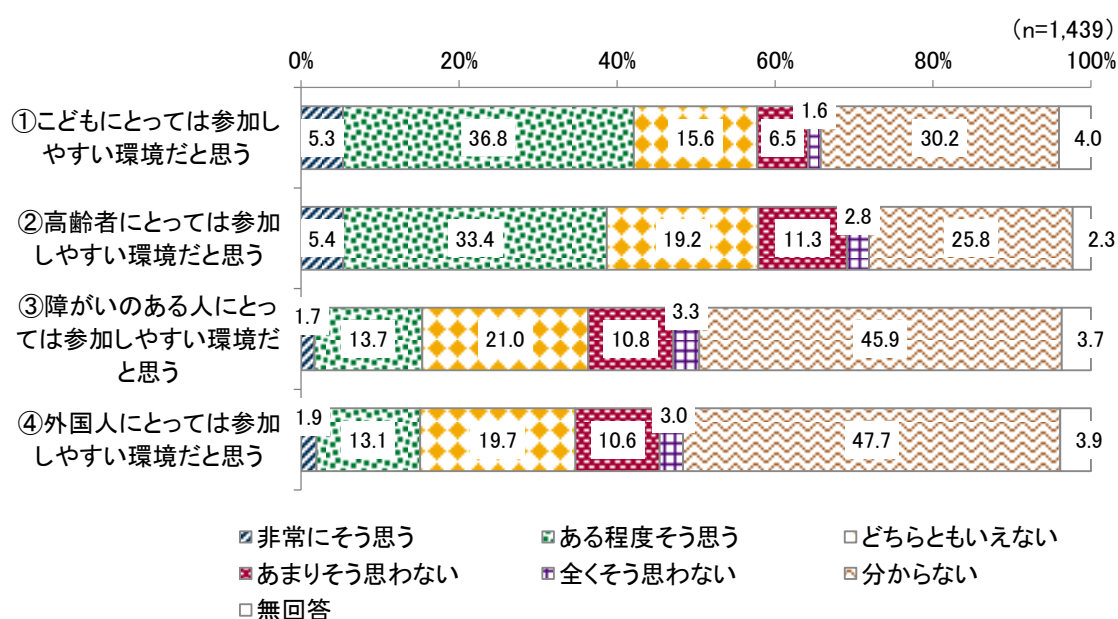
「①子どもにとっては参加しやすい環境だと思う」では「ある程度そう思う」が最も高く 36.8%となっている。次いで「分からない（30.2%）」、「どちらともいえない（15.6%）」となっている。

「②高齢者にとっては参加しやすい環境だと思う」では「ある程度そう思う」が最も高く 33.4%となっている。次いで「分からない（25.8%）」、「どちらともいえない（19.2%）」となっている。

「③障がいのある人にとっては参加しやすい環境だと思う」では「分からない」が最も高く 45.9%となっている。次いで「どちらともいえない（21.0%）」、「ある程度そう思う（13.7%）」となっている。

「④外国人にとっては参加しやすい環境だと思う」では「分からない」が最も高く 47.7%となっている。次いで「どちらともいえない（19.7%）」、「ある程度そう思う（13.1%）」となっている。

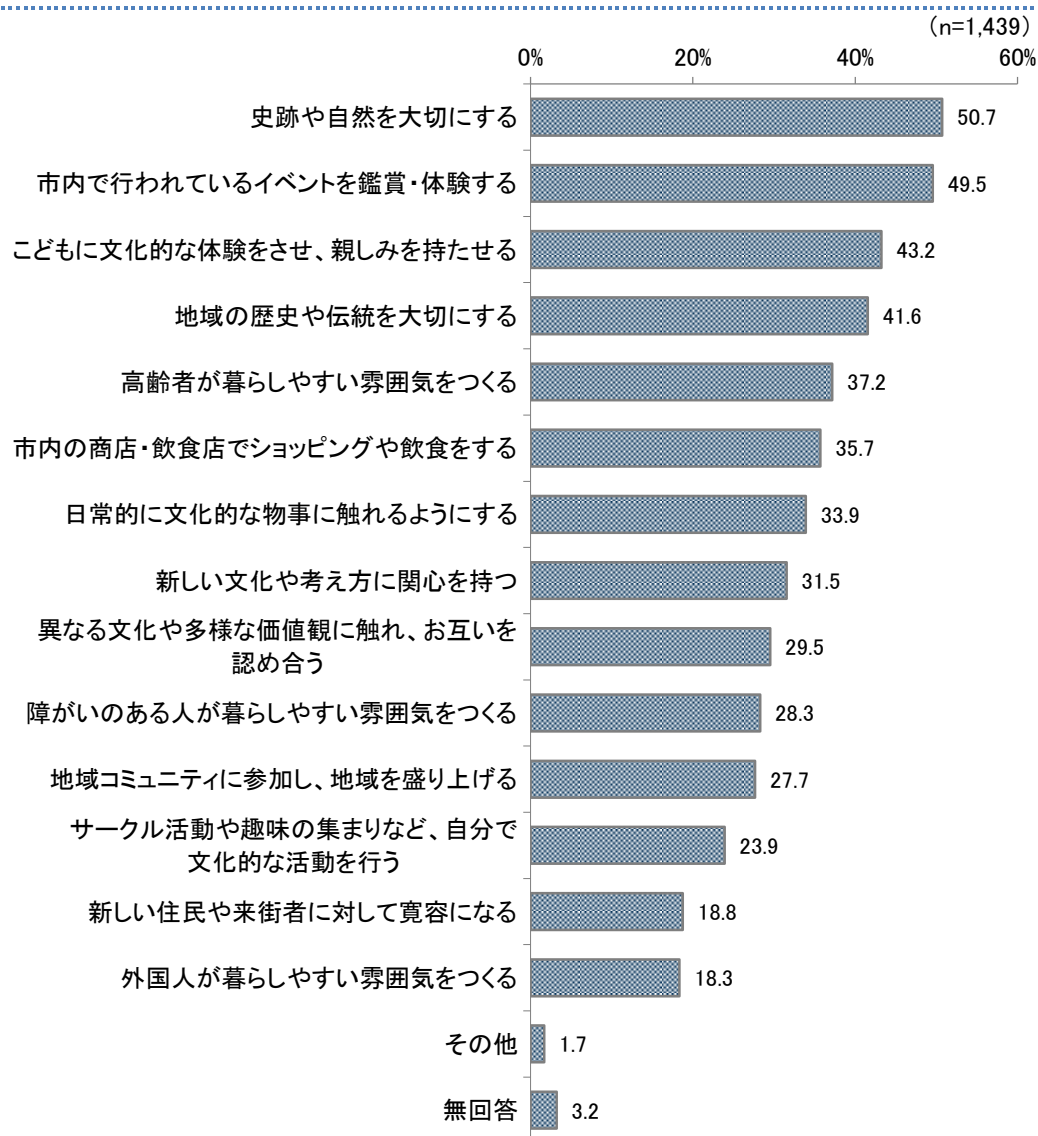
図表 II-152 自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思うか



**(9) 問 46 身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいと思うこと
(複数選択)**

「史跡や自然を大切にする」の割合が最も高く 50.7%となっている。次いで、「市内で行われているイベントを鑑賞・体験する（49.5%）」、「こどもに文化的な体験をさせ、親しみを持たせる（43.2%）」となっている。

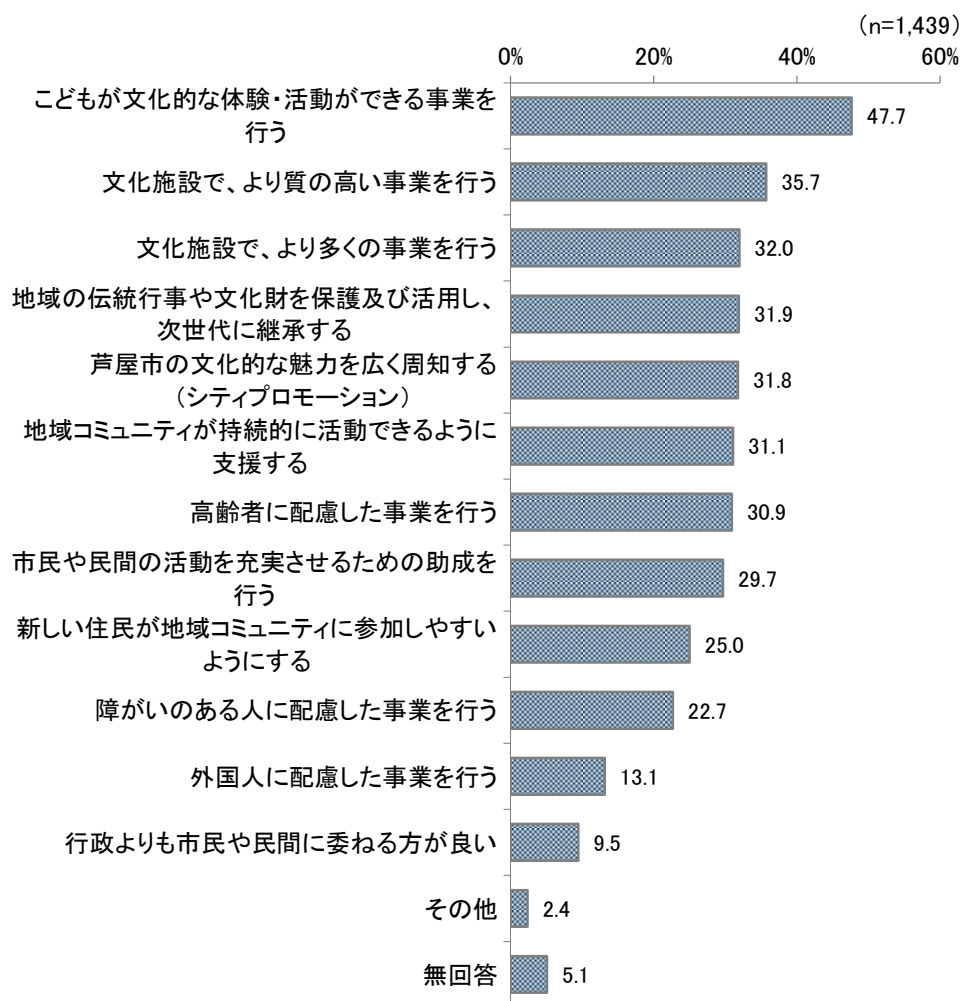
図表 II- 153 身近に文化を感じることができるまちであるために市民が行うとよいこと



**(10) 問 47 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいと思うこと
(複数選択)**

「こどもが文化的な体験・活動ができる事業を行う」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「文化施設で、より質の高い事業を行う（35.7%）」、「文化施設で、より多くの事業を行う（32.0%）」となっている。

図表 II- 154 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいこと



図表 II- 155 身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいこと
(クロス集計)

(%)

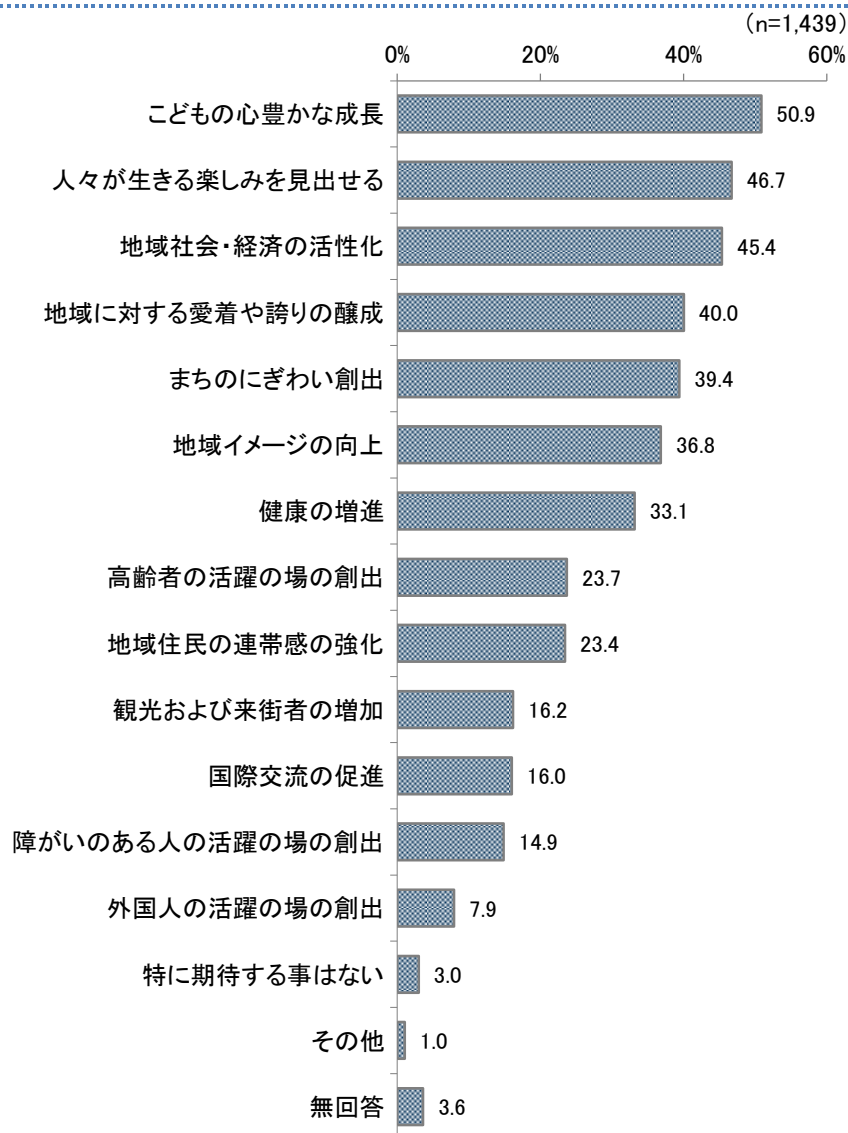
		調査数	文化施設で、より多くの事業を行う	文化施設で、より質の高い事業を行う	高齢者に配慮した事業を行う	障がいのある人に配慮した事業を行う	外国人に配慮した事業を行う	子どもが文化的な体験・活動ができる事業を行う	市民や民間の活動性を高めるための活動を充
	市全体	1,439	32.0	35.7	30.9	22.7	13.1	47.7	29.7
性別	男性	585	28.4	33.0	29.1	20.0	12.1	45.6	27.9
	女性	840	34.4	37.7	32.4	24.4	13.8	49.3	31.1
年代別	10歳代	45	26.7	33.3	15.6	17.8	20.0	46.7	24.4
	20歳代	119	36.1	26.1	15.1	16.8	16.8	52.9	33.6
	30歳代	140	28.6	33.6	12.9	15.0	8.6	57.1	29.3
	40歳代	205	31.7	36.1	17.6	14.6	8.3	60.5	23.4
	50歳代	282	33.0	41.1	29.1	23.0	13.8	44.7	29.8
	60歳代	216	28.7	37.0	37.0	24.5	13.0	45.4	32.4
	70歳代	226	31.4	36.3	47.3	29.2	12.4	40.7	31.9
	80歳以上	197	36.0	33.5	48.7	31.0	17.8	39.6	28.9
居住地区	奥池地区	20	45.0	45.0	35.0	20.0	25.0	45.0	30.0
	山手小学校区(※1)	245	35.1	40.4	32.2	22.0	13.9	50.2	29.4
	岩園小学校区	196	27.6	34.7	27.0	18.4	13.8	49.0	28.1
	朝日ヶ丘小学校区	107	29.0	40.2	26.2	21.5	10.3	43.9	38.3
	精道小学校区	226	31.4	39.4	29.2	26.1	13.7	46.9	24.3
	宮川小学校区	184	34.2	36.4	27.7	18.5	9.8	51.6	32.6
	打出浜小学校区	169	34.3	29.0	35.5	27.8	18.3	49.1	34.3
	浜風小学校区	129	29.5	26.4	32.6	23.3	14.7	44.2	28.7
	潮見小学校区(※2)	92	33.7	39.1	32.6	22.8	8.7	42.4	28.3
	南芦屋浜地区	67	28.4	29.9	41.8	26.9	7.5	46.3	25.4

		に支援する	地域コミュニティが持っている活動	新しい住民が地域に参加しやすいようにする	地域の伝統行事や文化を保護及び活用し、次世代に継承する	芦屋市の文化的な魅力を広く周知する（シンポジウム）	行政よりも市民や民間に委ねる方がよい	その他	無回答
市全体		31.1	25.0	31.9	31.8	9.5	2.4	5.1	
性別	男性	28.7	25.3	27.5	32.5	10.1	3.4	4.4	
	女性	32.9	24.9	34.9	31.4	9.0	1.5	5.4	
年代別	10歳代	35.6	28.9	24.4	37.8	11.1	4.4	2.2	
	20歳代	35.3	33.6	31.9	42.0	7.6	5.0	4.2	
	30歳代	27.9	27.9	26.4	34.3	7.9	2.9	3.6	
	40歳代	23.9	23.4	28.3	39.0	8.8	1.0	2.0	
	50歳代	29.4	24.5	34.4	31.6	9.6	2.8	2.8	
	60歳代	36.1	26.4	36.1	26.9	11.1	2.3	2.8	
	70歳代	31.0	20.8	29.6	28.8	11.9	0.9	8.8	
	80歳以上	34.0	21.8	36.0	23.9	7.1	2.0	11.2	
居住地区	奥池地区	30.0	15.0	30.0	30.0	0.0	0.0	5.0	
	山手小学校区(※1)	31.4	26.9	38.0	33.9	9.0	3.3	5.7	
	岩園小学校区	28.1	24.0	26.0	28.6	9.2	2.0	4.1	
	朝日ヶ丘小学校区	30.8	23.4	31.8	37.4	10.3	1.9	2.8	
	精道小学校区	36.7	27.0	32.7	33.2	11.5	1.8	4.4	
	宮川小学校区	31.0	26.1	33.2	28.8	8.2	2.2	3.3	
	打出浜小学校区	32.0	26.6	35.5	38.5	10.7	3.0	5.3	
	浜風小学校区	24.0	25.6	20.2	24.0	11.6	2.3	8.5	
	潮見小学校区(※2)	31.5	20.7	35.9	29.3	10.9	2.2	6.5	
	南芦屋浜地区	32.8	19.4	31.3	31.3	1.5	1.5	4.5	

(11) 問 48 文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること（複数選択）

「こどもの心豊かな成長」の割合が最も高く 50.9%となっている。次いで、「人々が生きる楽しみを見出せる（46.7%）」、「地域社会・経済の活性化（45.4%）」となっている。

図表 II-156 文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待すること

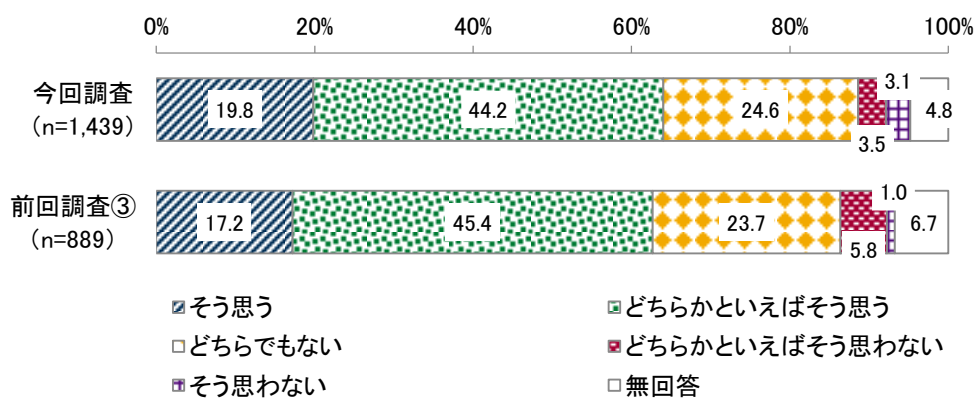


(12) 問 49 市民参画・協働を必要だと思うか

「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高く 44.2%となっている。次いで、「どちらでもない」(24.6%)、「そう思う」(19.8%)となっている。

前回調査③と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 II- 157 市民参画・協働を必要だと思うか

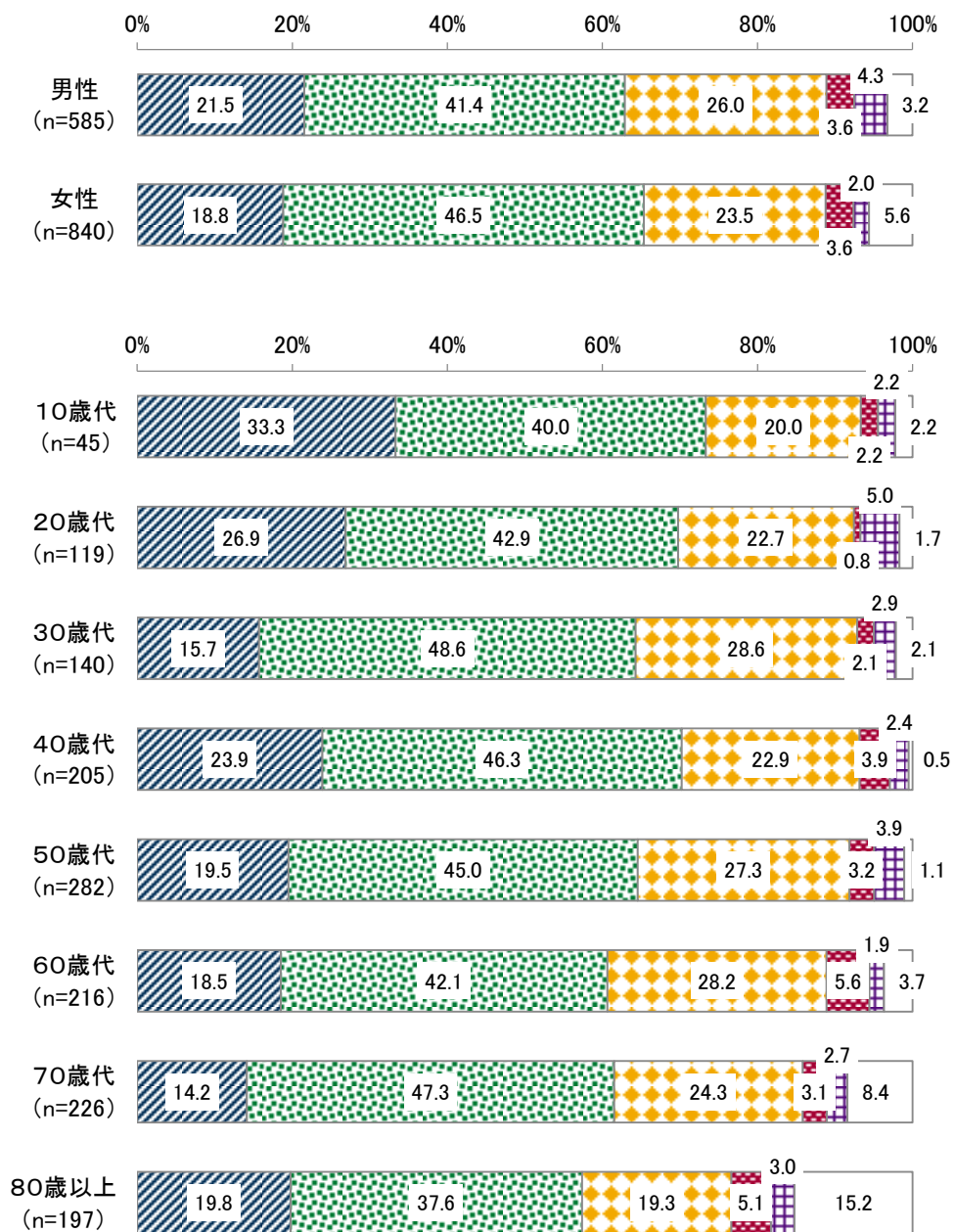


(注) 前回調査③では「どちらかといえばそう思う」は「少しはそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」は「あまりそう思わない」となっている。

女性は男性よりも、市民参画・協働を必要だと「思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が高くなっている。

年代別にみると、全体的に年代が上がるほど、市民参画・協働を必要だと「思う」割合が低い傾向にある。

図表 II-158 市民参画・協働を必要だと思うか（クロス集計）

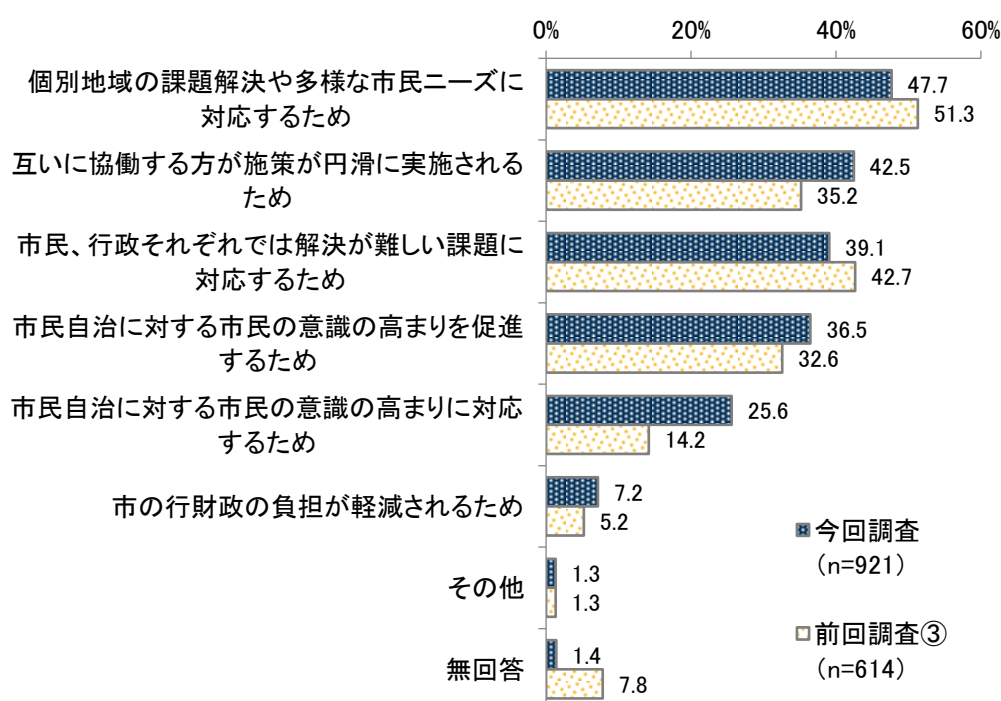


(13) 問 50 市民参画・協働が必要だと思う理由（3つまで選択）

「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」の割合が最も高く 47.7%となっている。次いで、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため（42.5%）」、「市民、行政それぞれでは解決が難しい課題に対応するため（39.1%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため」「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」「市民自治に対する市民の意識の高まりに対応するため」の割合が上昇し、「個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため」「市民、行政それぞれでは解決が難しい課題に対応するため」の割合が低下している。

図表 II-159 市民参画・協働が必要だと思う理由



男性は女性よりも、「互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため」「市の行財政の負担が軽減されるため」の割合が高くなっている。

年代別にみると、20 歳代は他の年代と比較して、「市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため」の割合が低くなっている。20 歳代、30 歳代は他の年代と比較して、「個別地域の課題解決や多様なニーズに対応するため」の割合が高くなっている。

図表 II-160 市民参画・協働が必要だと思う理由（クロス集計）

(%)

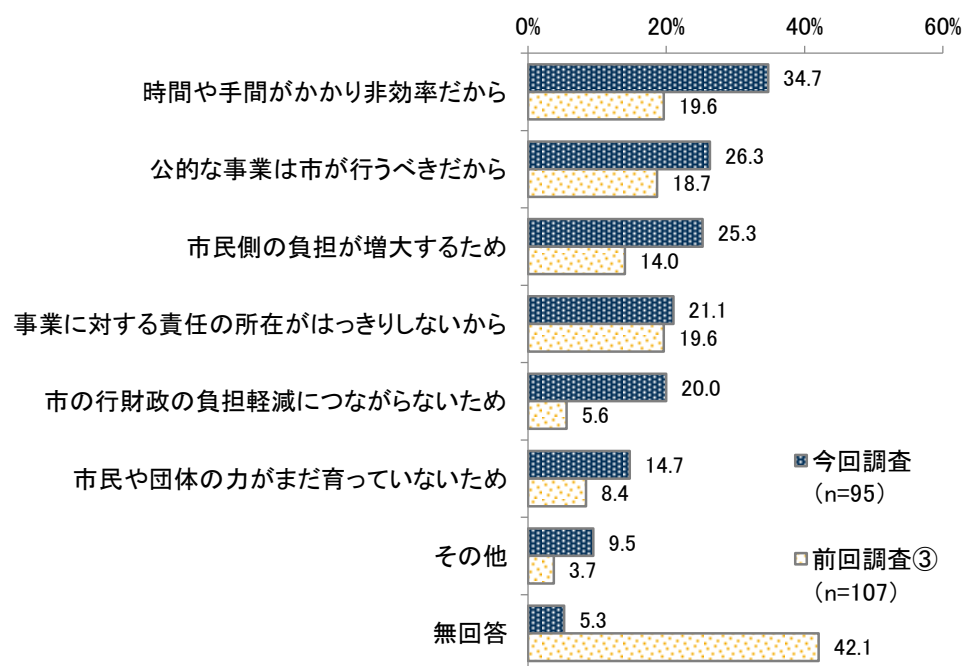
		調査数	市民自治に対する意識の高まりを促進するため	個別地域の課題解決や多様なニーズに対応するため	互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため	市の行財政の負担が軽減されるため	市民自治に対する意識の高まりに対する対応	市民自治に対する意識の高まりを促進するため	その他	無回答
市全体		921	39.1	47.7	42.5	7.2	25.6	36.5	1.3	1.4
性別	男性	368	39.7	44.8	45.7	9.5	24.5	36.1	1.9	1.1
	女性	549	38.6	49.4	40.4	5.6	26.4	36.6	0.9	1.6
年代別	10歳代	33	51.5	48.5	33.3	6.1	27.3	24.2	0.0	3.0
	20歳代	83	39.8	53.0	42.2	9.6	26.5	21.7	1.2	2.4
	30歳代	90	31.1	54.4	36.7	8.9	25.6	37.8	0.0	1.1
	40歳代	144	40.3	50.0	41.7	4.9	21.5	37.5	2.1	0.0
	50歳代	182	41.8	46.7	46.2	4.9	21.4	29.1	2.7	2.2
	60歳代	131	39.7	41.2	42.7	7.6	26.7	38.2	0.8	1.5
	70歳代	139	38.1	50.4	47.5	10.1	29.5	43.2	0.0	0.7
	80歳以上	113	34.5	41.6	38.1	7.1	30.1	51.3	1.8	1.8

(14) 問 51 市民参画・協働が不要だと思う理由（3つまで選択）

「時間や手間がかかり非効率だから」の割合が最も高く 34.7%となっている。次いで、「公的な事業は市が行うべきだから（26.3%）」、「市民側の負担が増大するため（25.3%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「市民側の負担が増大するため」「市の行財政の負担軽減につながらないため」の割合が大幅に上昇した。

図表 II- 161 市民参画・協働が不要だと思う理由



（注）前回調査③では「市民側の負担が増大するため」は「市民の側の負担が増大するため」となっている。

女性は男性よりも「時間や手間がかかり非効率だから」「市民や団体の力がまだ育っていないため」「市民側の負担が増大するため」の割合が高く、「市の行財政の負担軽減につながらないため」の割合が低くなっている。

図表 II-162 市民参画・協働が不要だと思う理由（クロス集計）

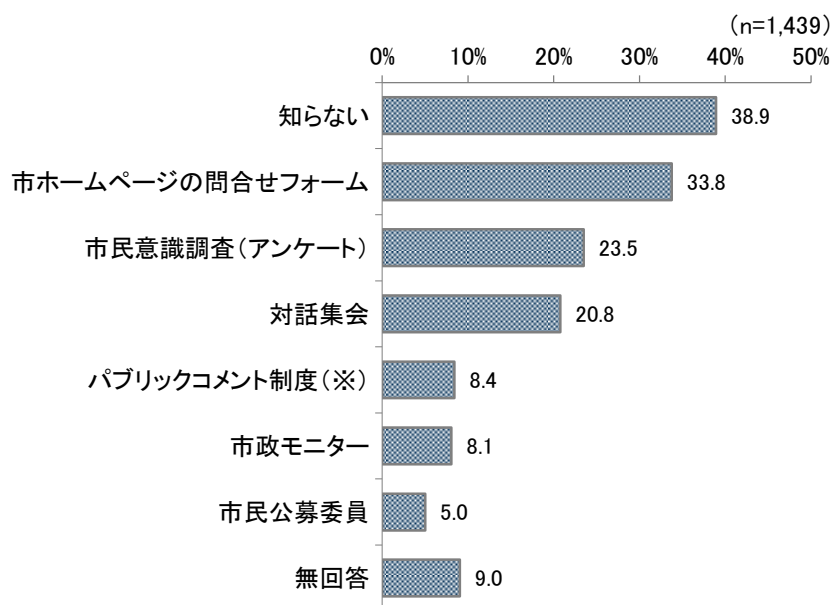
(%)

		調査数	時間や手間がかかり非効率だから	市民や団体の力がまだ育っていないため	市の行財政の負担軽減につながらないため	市民側の負担が増大するため	公的な事業は市が行うべきだから	事業に対する責任の所在がはっきりしないのか	その他	無回答
市全体		95	34.7	14.7	20.0	25.3	26.3	21.1	9.5	5.3
性別	男性	46	26.1	8.7	23.9	17.4	26.1	21.7	17.4	6.5
	女性	47	42.6	21.3	14.9	31.9	25.5	21.3	2.1	4.3
年代別	10歳代	2	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	20歳代	7	28.6	0.0	28.6	57.1	0.0	28.6	0.0	0.0
	30歳代	7	42.9	28.6	14.3	28.6	28.6	28.6	14.3	0.0
	40歳代	13	61.5	15.4	38.5	38.5	23.1	7.7	0.0	0.0
	50歳代	20	35.0	20.0	10.0	10.0	30.0	15.0	5.0	10.0
	60歳代	16	25.0	12.5	0.0	31.3	31.3	31.3	18.8	0.0
	70歳代	13	30.8	15.4	23.1	15.4	46.2	38.5	7.7	0.0
	80歳以上	16	18.8	6.3	25.0	18.8	12.5	6.3	18.8	18.8

(15) 問 52 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（複数選択）

「知らない」の割合が最も高く 38.9%となっている。次いで、「市ホームページの問合せフォーム（33.8%）」、「市民意識調査（アンケート）」（23.5%）」となっている。

図表 II-163 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの



(※) 市が施策を策定するにあたり広く市民の意見を求め、その意見に対する市の考えなどを公表する手続き。

女性は男性よりも「対話集会」の認知度が高くなっている。

年代別にみると、10 歳代は他の年代と比較して、「知らない」の割合が高くなっている。

図表 II-164 市民の声を届ける方法や機会について知っているもの（クロス集計）

		調査数	市のホームページの問合せフォーム	市政モニター	市民公募委員	市民意識調査(アンケート)	パブリックコメント制度	対話集会	知らない	無回答
市全体		1,439	33.8	8.1	5.0	23.5	8.4	20.8	38.9	9.0
性別	男性	585	35.0	8.4	5.0	22.9	9.7	17.1	41.5	8.0
	女性	840	33.3	8.0	5.0	24.2	7.1	23.5	37.0	9.5
年代別	10歳代	45	17.8	4.4	2.2	13.3	13.3	13.3	64.4	4.4
	20歳代	119	34.5	4.2	4.2	25.2	8.4	14.3	42.0	8.4
	30歳代	140	38.6	4.3	4.3	28.6	7.9	16.4	42.1	6.4
	40歳代	205	38.5	6.3	6.8	20.0	10.2	26.8	36.1	4.9
	50歳代	282	40.1	6.4	3.2	24.8	9.2	20.9	39.0	4.3
	60歳代	216	37.0	10.6	3.7	20.4	7.4	21.3	37.0	12.0
	70歳代	226	29.6	8.8	9.7	27.4	10.2	23.5	37.2	8.8
	80歳以上	197	21.3	14.2	3.0	21.8	2.5	19.3	36.0	19.8

7. 市政情報について

(1) 問 53 市政情報の認知度

「①広報あしや」では「よく知っている」が最も高く 46.6%となっている。次いで「知っているし、見たことがある（41.4%）」、「存在は知っているが、見たことが無い（5.4%）」となっている。

「②市のホームページ」では「知っているし、見たことがある」が最も高く 44.8%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（18.0%）」、「見たことが無い（14.7%）」となっている。

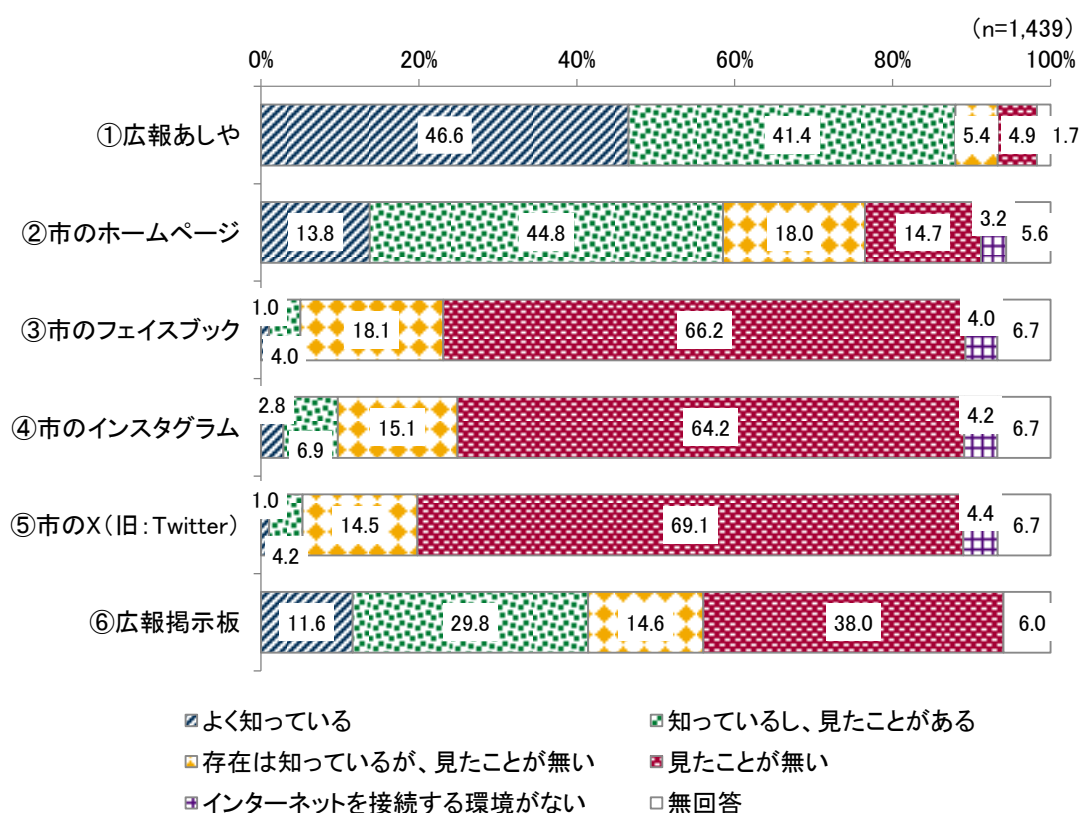
「③市のフェイスブック」では「見たことが無い」が最も高く 66.2%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（18.1%）」、「インターネットを接続する環境がない（4.0%）」となっている。

「④市のインスタグラム」では「見たことが無い」が最も高く 64.2%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（15.1%）」、「知っているし、見たことがある（6.9%）」となっている。

「⑤市の X（旧：Twitter）」では「見たことが無い」が最も高く 69.1%となっている。次いで「存在は知っているが、見たことが無い（14.5%）」、「インターネットを接続する環境がない（4.4%）」となっている。

「⑥広報掲示板」では「見たことが無い」が最も高く 38.0%となっている。次いで「知っているし、見たことがある（29.8%）」、「存在は知っているが、見たことが無い（14.6%）」となっている。

図表 II-165 市政情報の認知度



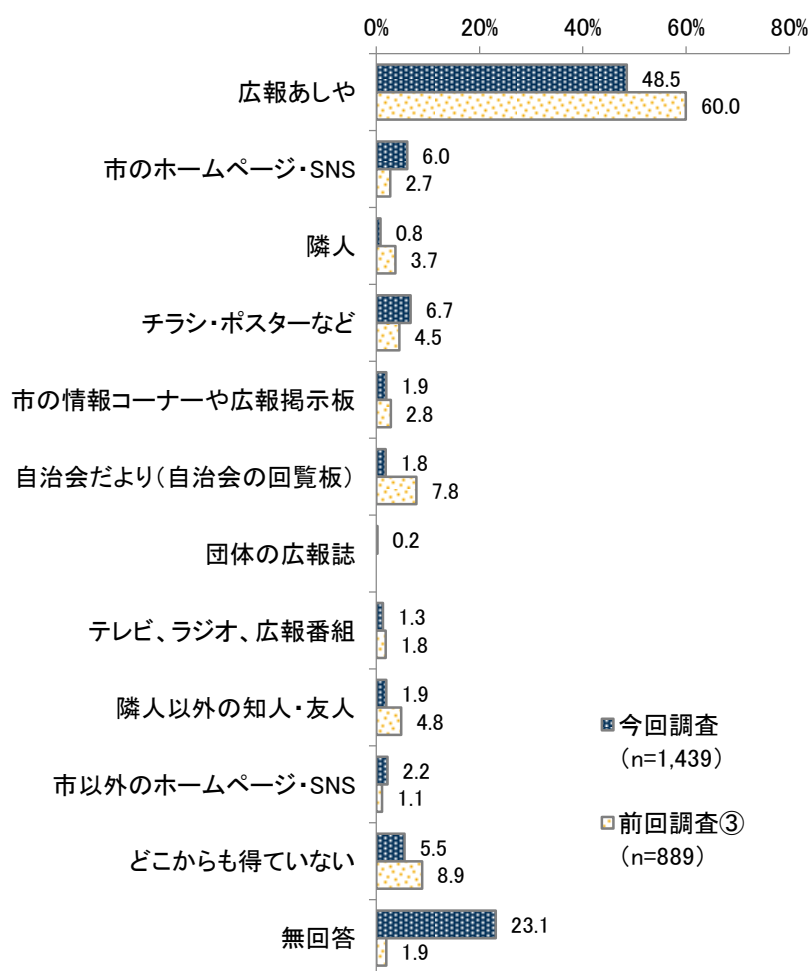
(注) 「①広報あしや」「⑥広報掲示板」については選択肢「インターネットを接続する環境がない」がない。

(2) 問 54 地域や文化などに関する情報の入手方法

「広報あしや」の割合が最も高く 48.5%となっている。次いで、「チラシ・ポスターなど（6.7%）」、「市のホームページ・SNS（6.0%）」となっている。

前回調査③と比較すると、「広報あしや」「自治会だより」の割合が低下し、「市のホームページ・SNS」の割合が上昇している。

図表 II- 166 地域や文化などに関する情報の入手方法



(注) 前回調査③では設問が「地域の情報をどのように入手していますか。」となっており、選択肢「市のホームページ・SNS」は「市の HP・SNS」、「市以外のホームページ・SNS」は「市以外の HP・SNS」となっている。「団体の広報誌」は今回新たに追加された選択肢である。

女性は男性よりも「広報あしや」の割合が高くなっている。

年代別にみると、50歳代以上は、「広報あしや」から情報を入手している割合が高く、10歳代は「どこからも得ていない」の割合が高くなっている。

地区別にみると、潮見小学校区は他の地区と比較して「広報あしや」から情報を入手している割合が高くなっている。

図表 II-167 地域や文化などに関する情報の入手方法（クロス集計）

(%)

		調査数	広報あしや	S N ベ市の S ジ・ホーム	隣人	チラシ・ポスターなど	市の情報コーナーや広報掲示板	覧板（自治会だの回り	団体の広報誌
市全体		1,439	48.5	6.0	0.8	6.7	1.9	1.8	0.2
性別	男性	585	45.3	7.4	1.4	7.5	1.4	2.4	0.3
	女性	840	51.0	5.1	0.5	6.1	2.3	1.4	0.1
年代別	10歳代	45	17.8	11.1	4.4	13.3	2.2	0.0	0.0
	20歳代	119	28.6	10.1	2.5	8.4	1.7	3.4	0.0
	30歳代	140	29.3	8.6	1.4	13.6	5.7	2.1	0.7
	40歳代	205	45.9	10.2	0.0	11.2	1.0	2.0	0.5
	50歳代	282	52.5	6.7	0.7	5.7	2.5	1.4	0.0
	60歳代	216	49.1	5.1	0.0	3.2	1.9	1.9	0.0
	70歳代	226	63.7	1.8	0.9	3.5	1.3	1.8	0.4
	80歳以上	197	61.9	0.0	0.5	2.5	0.5	1.5	0.0
居住地区	奥池地区	20	40.0	10.0	0.0	5.0	0.0	10.0	0.0
	山手小学校区(※1)	245	50.2	5.7	0.4	7.8	2.0	1.2	0.0
	岩園小学校区	196	41.3	9.7	0.5	5.6	1.5	3.1	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	107	44.9	6.5	0.9	9.3	0.9	0.0	0.0
	精道小学校区	226	54.0	4.4	1.3	7.1	4.0	0.4	0.0
	宮川小学校区	184	45.1	6.0	0.5	6.0	1.6	3.8	0.5
	打出浜小学校区	169	46.7	4.1	0.6	6.5	1.8	1.2	0.6
	浜風小学校区	129	45.7	8.5	0.8	6.2	2.3	1.6	0.0
	潮見小学校区(※2)	92	63.0	3.3	1.1	3.3	0.0	2.2	1.1
	南芦屋浜地区	67	53.7	3.0	3.0	9.0	1.5	1.5	0.0

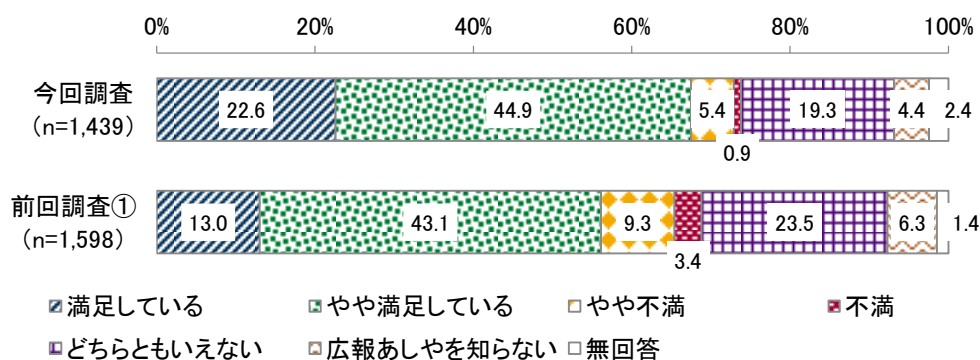
		オテレ、広報、番組	人隣・友人以外の知	S M N ベ市の S 外のホーム	てどこないからも得	無回答
市全体		1.3	1.9	2.2	5.5	23.1
性別	男性	2.4	1.4	2.9	7.7	20.0
	女性	0.6	2.4	1.7	3.7	25.2
年代別	10歳代	0.0	11.1	2.2	20.0	17.8
	20歳代	3.4	4.2	6.7	15.1	16.0
	30歳代	1.4	3.6	4.3	5.7	23.6
	40歳代	1.0	2.4	2.4	7.3	16.1
	50歳代	0.4	1.4	3.2	4.3	21.3
	60歳代	2.8	0.9	0.5	2.8	31.9
	70歳代	0.4	0.9	0.4	1.8	23.0
	80歳以上	1.5	0.0	0.0	3.0	28.4
居住地区	奥池地区	0.0	0.0	0.0	5.0	30.0
	山手小学校区(※1)	0.8	3.3	2.0	4.1	22.4
	岩園小学校区	2.6	1.5	3.6	9.2	21.4
	朝日ヶ丘小学校区	0.9	1.9	0.9	5.6	28.0
	精道小学校区	0.9	2.7	1.8	2.2	21.2
	宮川小学校区	0.5	0.0	2.7	4.9	28.3
	打出浜小学校区	1.2	3.0	3.0	5.9	25.4
	浜風小学校区	2.3	0.8	1.6	10.9	19.4
	潮見小学校区(※2)	3.3	0.0	1.1	2.2	19.6
	南芦屋浜地区	0.0	4.5	1.5	4.5	17.9

(3) 問 55 「広報あしや」の満足度

「やや満足している」の割合が最も高く 44.9%となっている。次いで、「満足している（22.6%）」、「どちらともいえない（19.3%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「満足している」の割合が上昇し、「やや不満」の割合が低下している。

図表 II-168 「広報あしや」の満足度

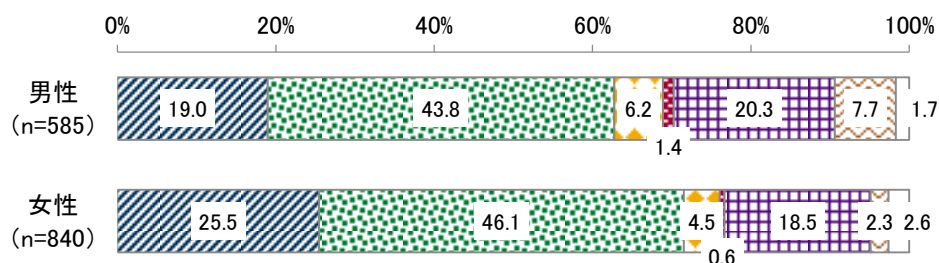


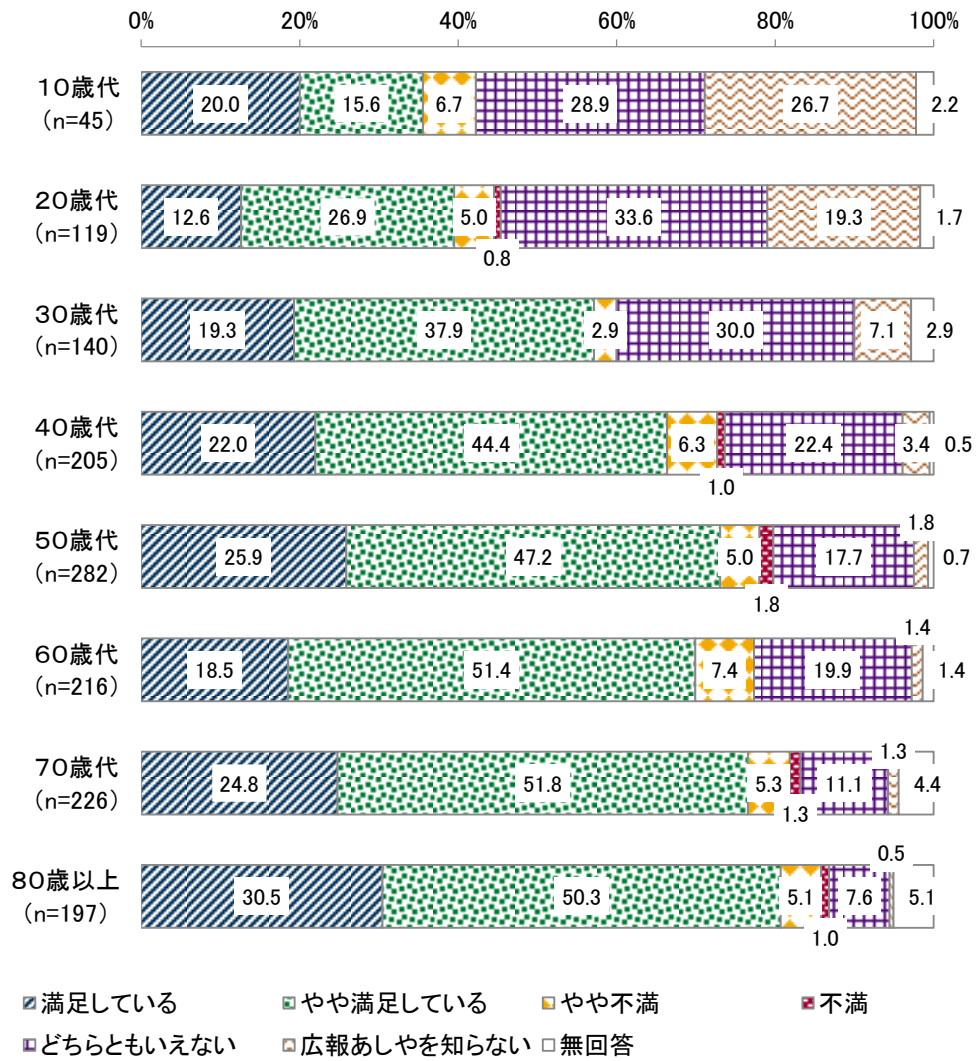
女性は男性よりも「満足している」割合が高くなっている。

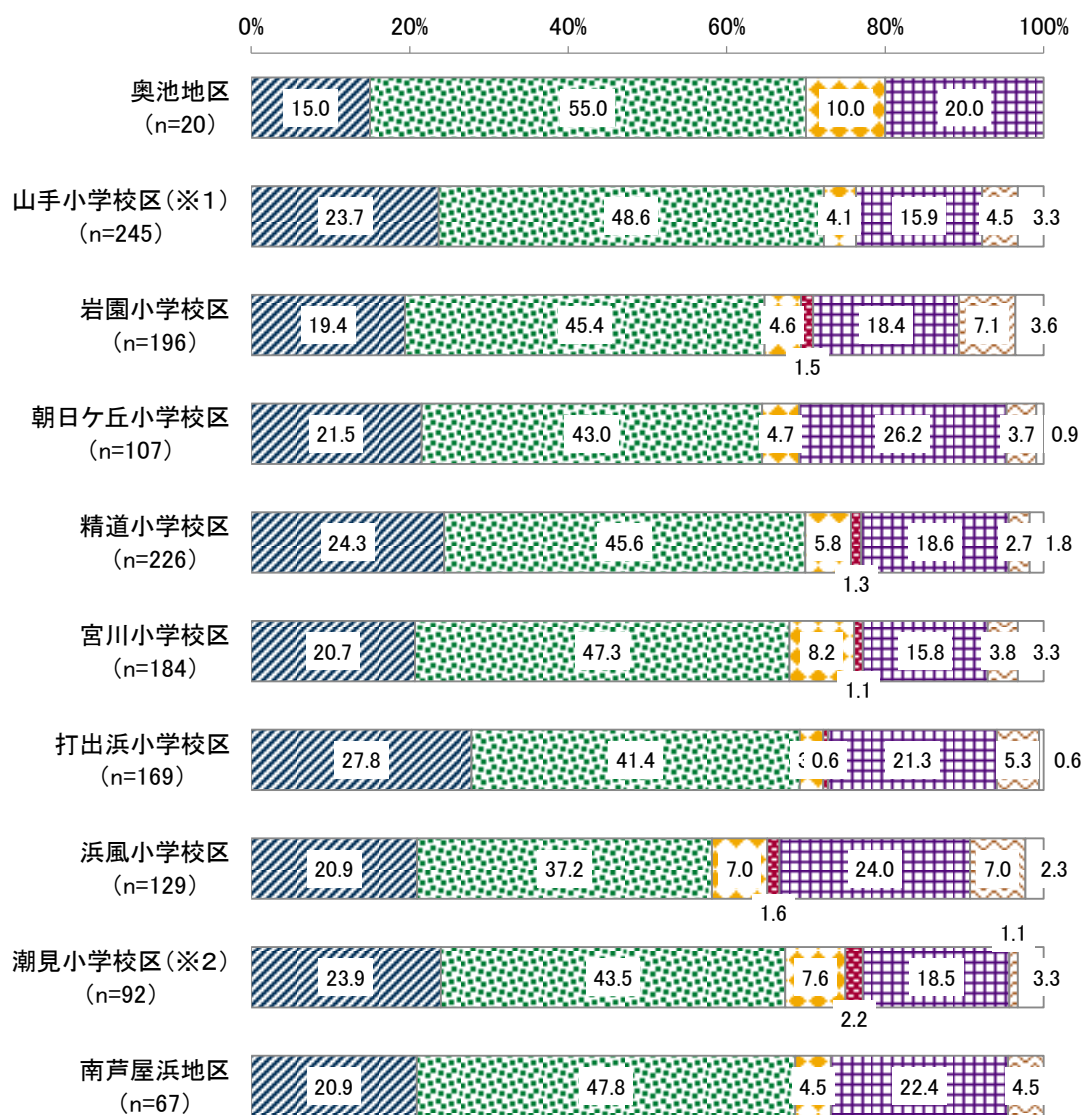
年代別にみると、年代が上がるほど「広報あしやをしらない」の割合は低くなっている。

地区別にみると、大きな差異はみられない。

図表 II-169 「広報あしや」の満足度（クロス集計）





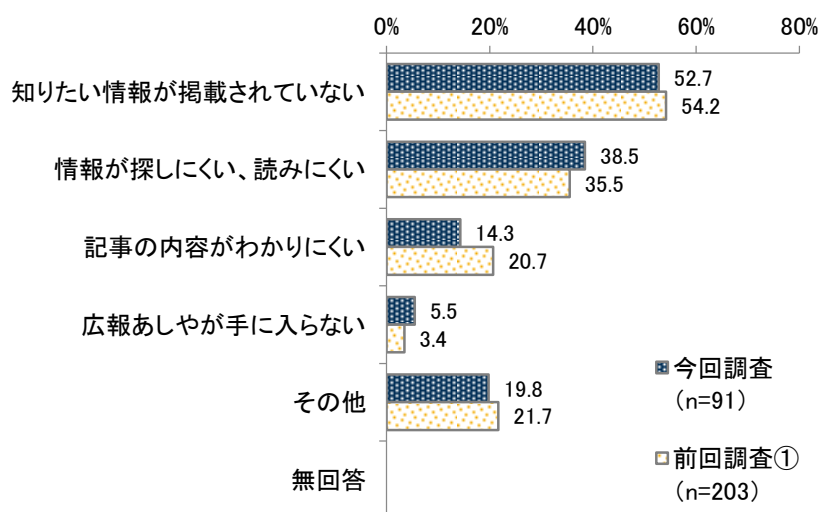


(4) 問 56 「広報あしや」に不満な理由（複数選択）

「知りたい情報が掲載されていない」の割合が最も高く 52.7%となっている。次いで、「情報が探しにくい、読みにくい（38.5%）」、「その他（19.8%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「情報が探しにくい、読みにくい」の割合が上昇し、「記事の内容がわかりにくい」の割合が低下している。

図表 II-170 「広報あしや」に不満な理由



女性は男性よりも「情報が探しにくい、読みにくい」「知りたい情報が掲載されていない」ことを理由とする割合が高くなっている。

図表 II-171 「広報あしや」に不満な理由（クロス集計）

(%)

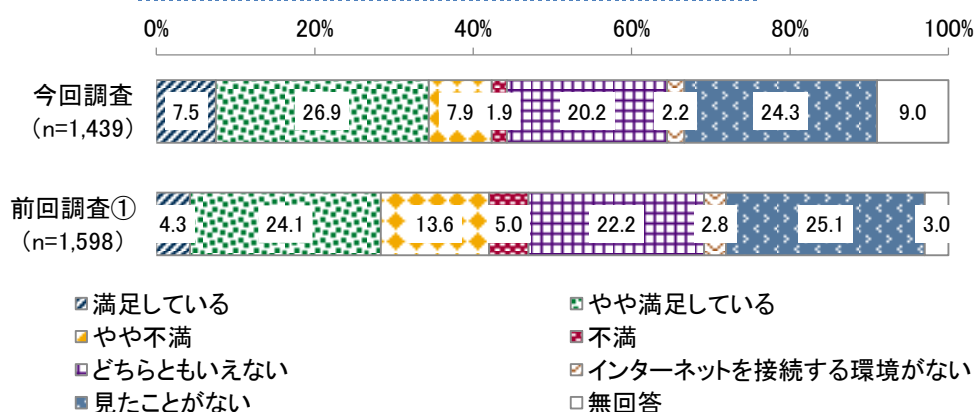
		調査数	広報あしやが手に取れない	情報が読みにくい	掲載された情報が古い	記事の内容がわかりにくい	その他	無回答
市全体		91	5.5	38.5	52.7	14.3	19.8	0.0
性別	男性	44	6.8	31.8	50.0	13.6	22.7	0.0
	女性	43	4.7	44.2	55.8	11.6	18.6	0.0
年代別	10歳代	3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	20歳代	7	14.3	28.6	57.1	0.0	28.6	0.0
	30歳代	4	0.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	40歳代	15	0.0	26.7	60.0	13.3	13.3	0.0
	50歳代	19	5.3	36.8	57.9	15.8	26.3	0.0
	60歳代	16	0.0	56.3	37.5	25.0	12.5	0.0
	70歳代	15	0.0	26.7	60.0	13.3	20.0	0.0
	80歳以上	12	25.0	50.0	41.7	0.0	33.3	0.0
居住地区	奥池地区	2	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	山手小学校区(※1)	10	20.0	40.0	60.0	20.0	10.0	0.0
	岩園小学校区	12	0.0	41.7	33.3	8.3	16.7	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	5	0.0	60.0	80.0	0.0	0.0	0.0
	精道小学校区	16	6.3	37.5	56.3	12.5	18.8	0.0
	宮川小学校区	17	5.9	29.4	64.7	17.6	11.8	0.0
	打出浜小学校区	6	0.0	50.0	50.0	16.7	16.7	0.0
	浜風小学校区	11	0.0	36.4	36.4	18.2	36.4	0.0
	潮見小学校区(※2)	9	0.0	44.4	33.3	22.2	44.4	0.0
	南芦屋浜地区	3	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

(5) 問 57 「市のホームページ」の満足度

「やや満足している」の割合が最も高く 26.9%となっている。次いで、「見たことがない（24.3%）」、「どちらともいえない（20.2%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「満足している」「やや満足している」の割合が上昇し、「やや不満」「不満」の割合が低下している。

図表 II- 172 「市のホームページ」の満足度

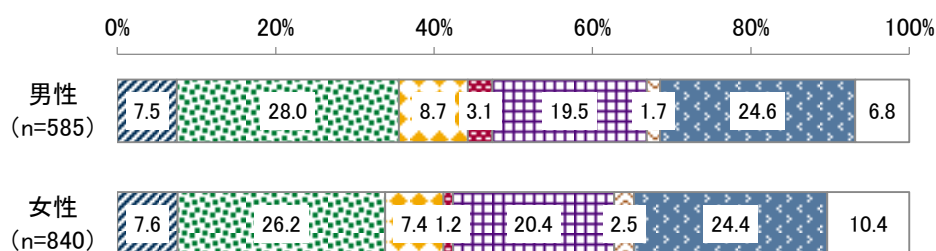


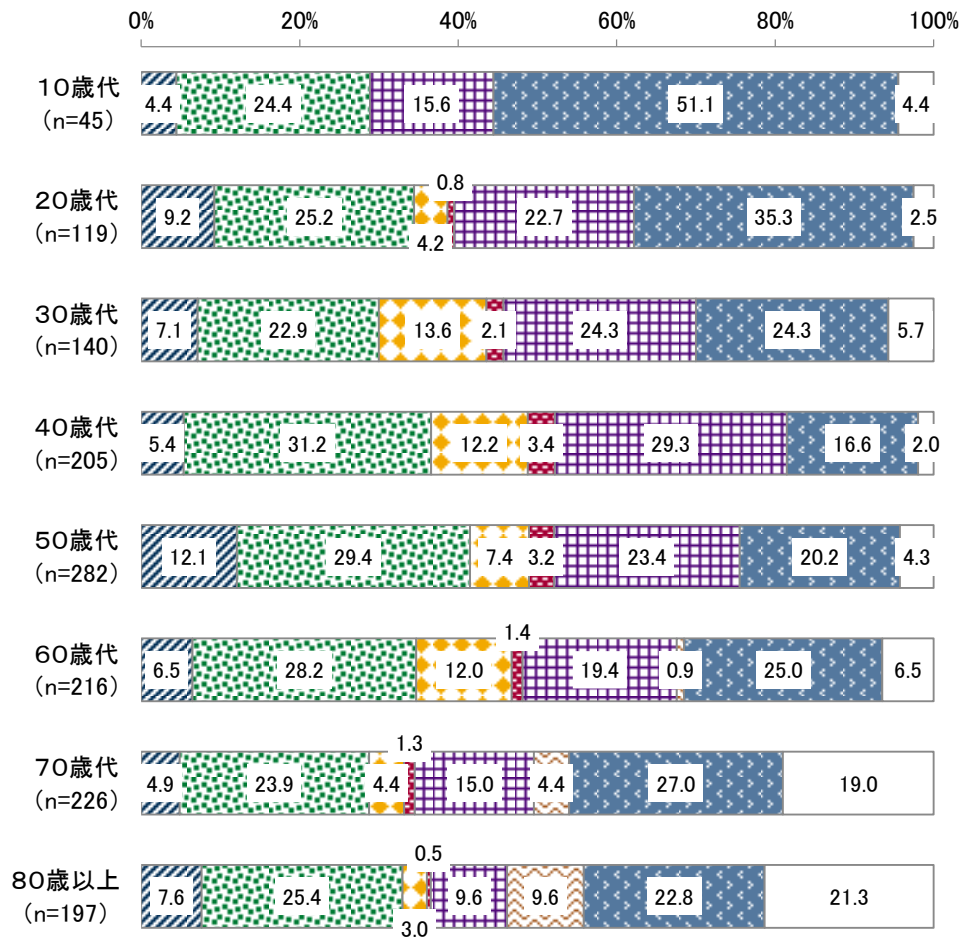
男女で大きな差異はみられない。

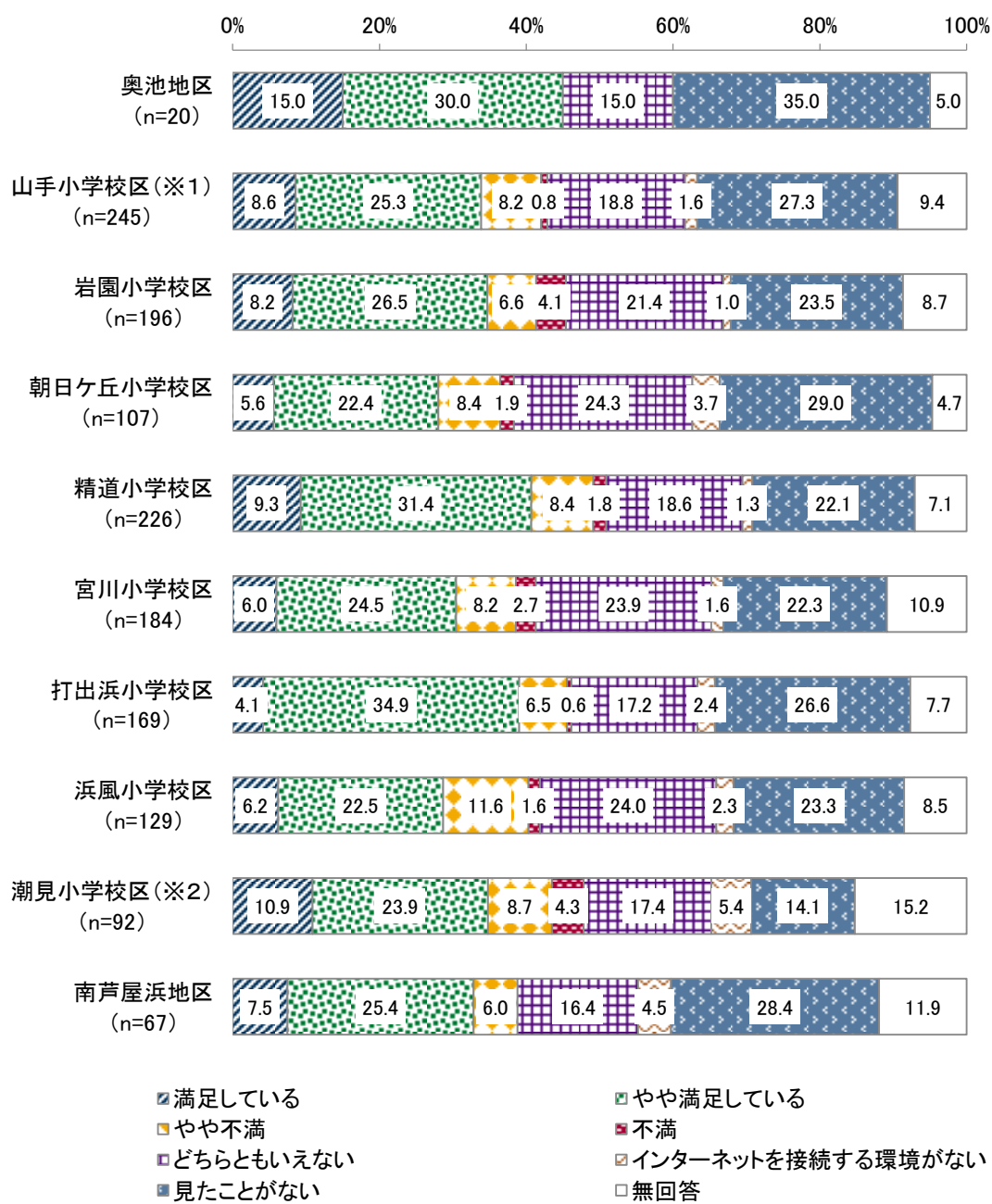
年代別にみると、30 歳代、40 歳代、60 歳代は他の年代と比較して「やや不満」と回答した割合が高くなっている。

地区別にみると、精道小学校区は他の地区と比較して、「満足」「やや満足」と回答した割合が高くなっている。

図表 II- 173 「市のホームページ」の満足度（クロス集計）





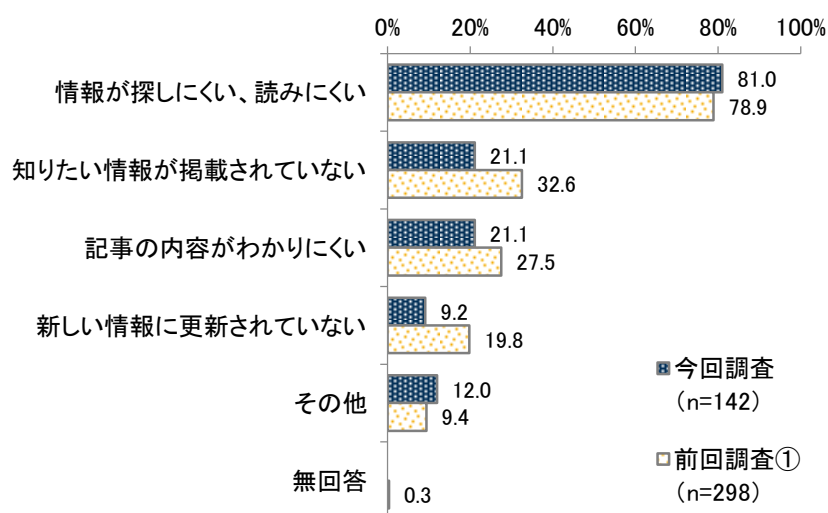


(6) 問 58 「市のホームページ」に不満な理由（複数選択）

「情報が探しにくい、読みにくい」の割合が最も高く 81.0%となっている。次いで、「知りたい情報が掲載されていない（21.1%）」、「記事の内容がわかりにくい（21.1%）」となっている。

前回調査①と比較すると、「知りたい情報が掲載されていない」「記事の内容がわかりにくい」「新しい情報に更新されていない」の割合が低下している。

図表 II- 174 「市のホームページ」に不満な理由



女性は男性よりも「情報が探しにくい」ことを理由に不満と回答した割合が高くなっている。男性は女性よりも「知りたい情報が掲載されていない」ことを理由に不満と回答した割合が高くなっている。

図表 II- 175 「市のホームページ」に不満な理由（クロス集計）

(%)

		調査数	新 さし れい て情 報に い更	い 情 報 読 が み 探 に し く いく	い 掲 知 載 り さ れ い て情 報 なが	か 記 り 事 に の 内 容 が わ	そ の 他	無 回 答
市全体		142	9.2	81.0	21.1	21.1	12.0	0.0
性別	男性	69	8.7	76.8	24.6	23.2	14.5	0.0
	女性	72	9.7	84.7	18.1	19.4	9.7	0.0
年代別	10歳代	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代	6	16.7	100.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	30歳代	22	4.5	86.4	13.6	18.2	13.6	0.0
	40歳代	32	3.1	90.6	21.9	31.3	6.3	0.0
	50歳代	30	20.0	66.7	23.3	23.3	20.0	0.0
	60歳代	29	3.4	86.2	17.2	24.1	6.9	0.0
	70歳代	13	15.4	76.9	30.8	0.0	7.7	0.0
	80歳以上	7	14.3	57.1	42.9	0.0	28.6	0.0
居住地区	奥池地区	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	山手小学校区(※1)	22	0.0	77.3	9.1	18.2	9.1	0.0
	岩園小学校区	21	9.5	81.0	28.6	33.3	14.3	0.0
	朝日ヶ丘小学校区	11	9.1	81.8	9.1	36.4	18.2	0.0
	精道小学校区	23	4.3	87.0	26.1	17.4	4.3	0.0
	宮川小学校区	20	10.0	65.0	30.0	10.0	25.0	0.0
	打出浜小学校区	12	8.3	83.3	16.7	8.3	0.0	0.0
	浜風小学校区	17	23.5	82.4	17.6	23.5	23.5	0.0
	潮見小学校区(※2)	12	16.7	91.7	33.3	25.0	0.0	0.0
	南芦屋浜地区	4	0.0	100.0	0.0	25.0	0.0	0.0

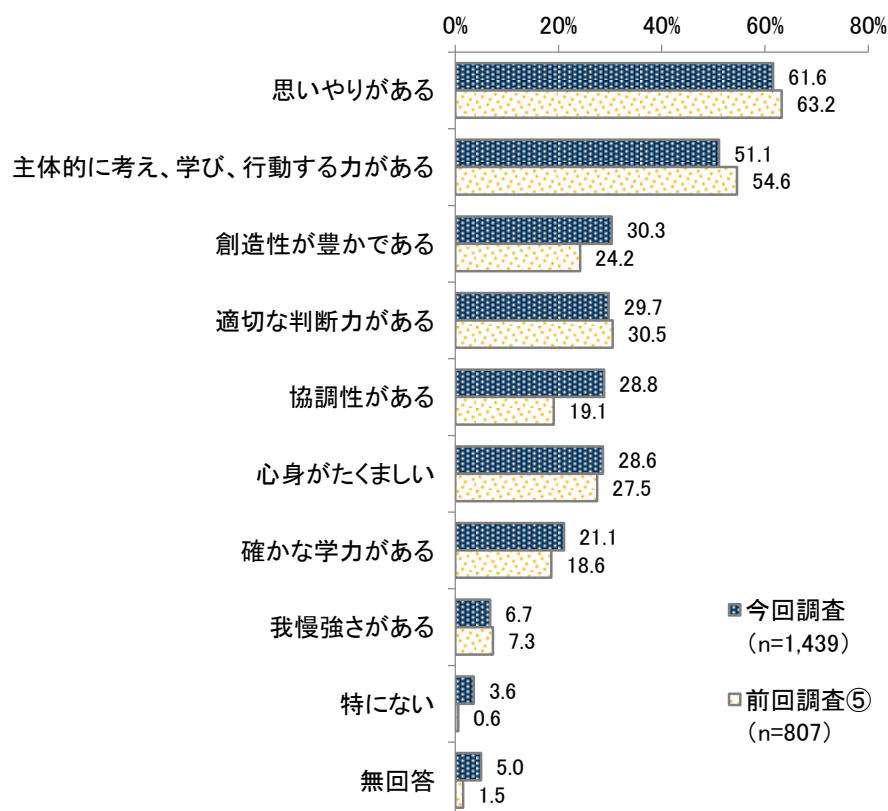
8. 教育や学習に関する取組について

(1) 問 59 芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思うか（3つまで選択）

「思いやりがある」の割合が最も高く 61.6%となっている。次いで、「主体的に考え、学び、行動する力がある（51.1%）」、「創造性が豊かである（30.3%）」となっている。

前回調査⑤と比較すると、「創造性が豊かである」「協調性がある」の割合が上昇している。

図表 II-176 芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思うか



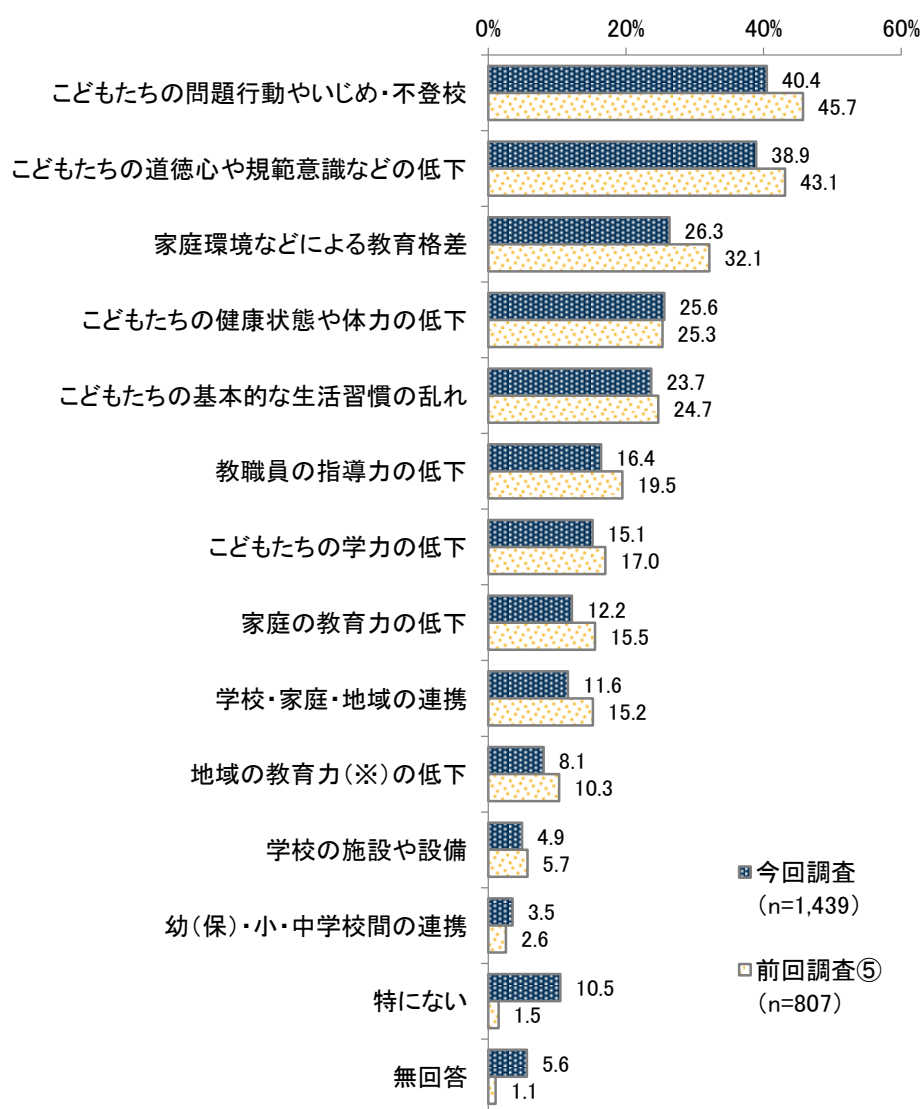
（注）前回調査⑤では「主体的に考え、学び、行動する力がある」は「自ら学び、考え、主体的に行動する力がある」となっている。また、前回調査⑤では上記に加えて「他人を認められる」「自立心がある」「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がない。

(2) 問 60 こどもたちや教育について課題と感じていること（3つまで選択）

「こどもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が最も高く 40.4%となっている。次いで、「こどもたちの道徳心や規範意識などの低下（38.9%）」、「家庭環境などによる教育格差（26.3%）」となっている。

前回調査⑤と比較すると、「こどもたちの問題行動やいじめ・不登校」「こどもたちの道徳心や規範意識などの低下」「家庭環境などによる教育格差」をはじめ、全体的に低下し、「特にない」の割合が上昇している。

図表 II-177 こどもたちや教育について課題と感じていること



(※) 地域の教育力：地域はこどもにとって、様々な年齢層や立場の人々と触れ合うことで、社会経験を積み重ね、社会性や公共性を得ることのできる「場」であり、その意味からも地域における教育は重要と考えられています。

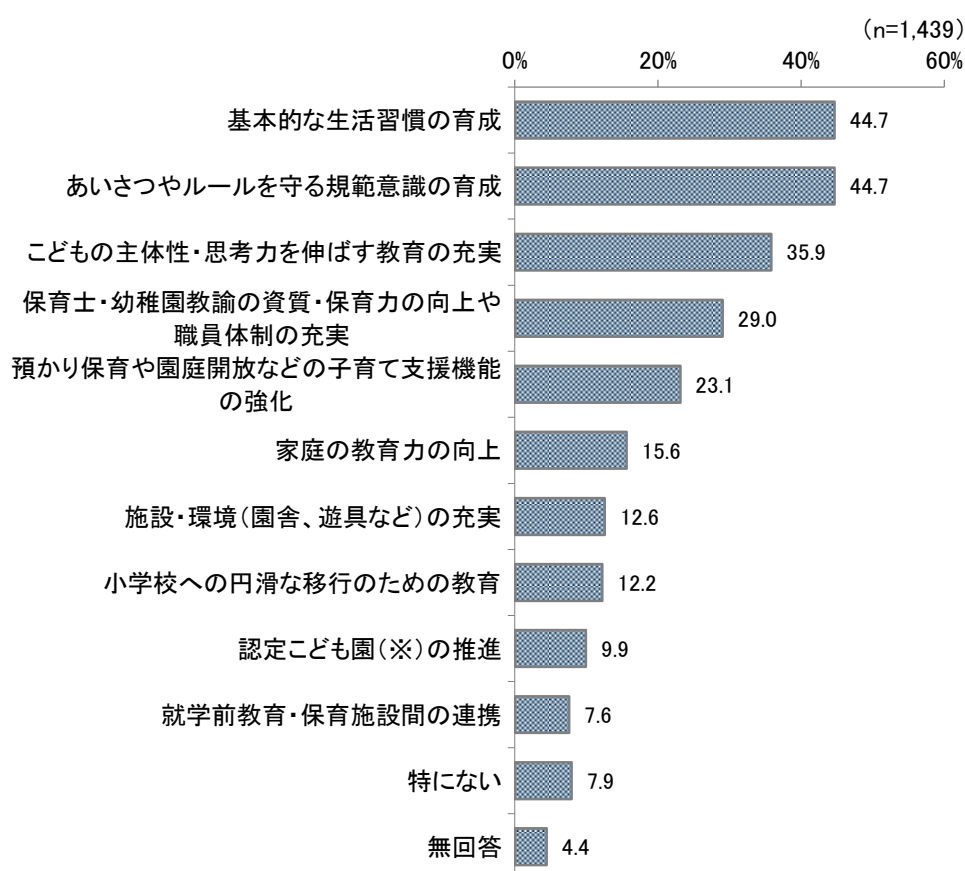
(注) 前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がない。

(3) 問 61 就学前教育の充実のために必要な取組（3つまで選択）

「基本的な生活習慣の育成」、「あいさつやルールを守る規範意識の育成」の割合が高く、それぞれ44.7%となっている。次いで、「こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実（35.9%）」となっている。

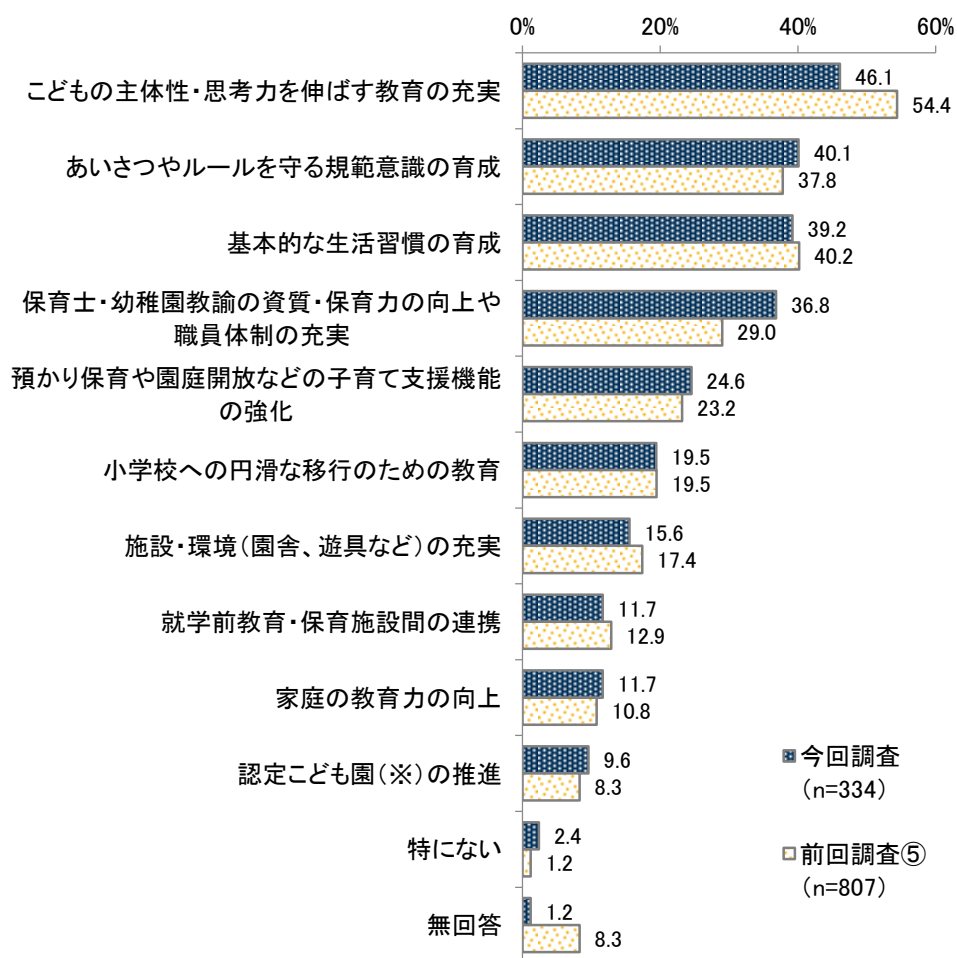
高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「保育士・幼稚園教諭の資質・保育力の向上や職員体制の充実」の割合が上昇し、「こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実」の割合が低下している。

図表 II-178 就学前教育の充実のために必要な取組



(※) 認定こども園：幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設

図表 II- 179 就学前教育の充実のために必要な取組（前回調査⑤との比較）



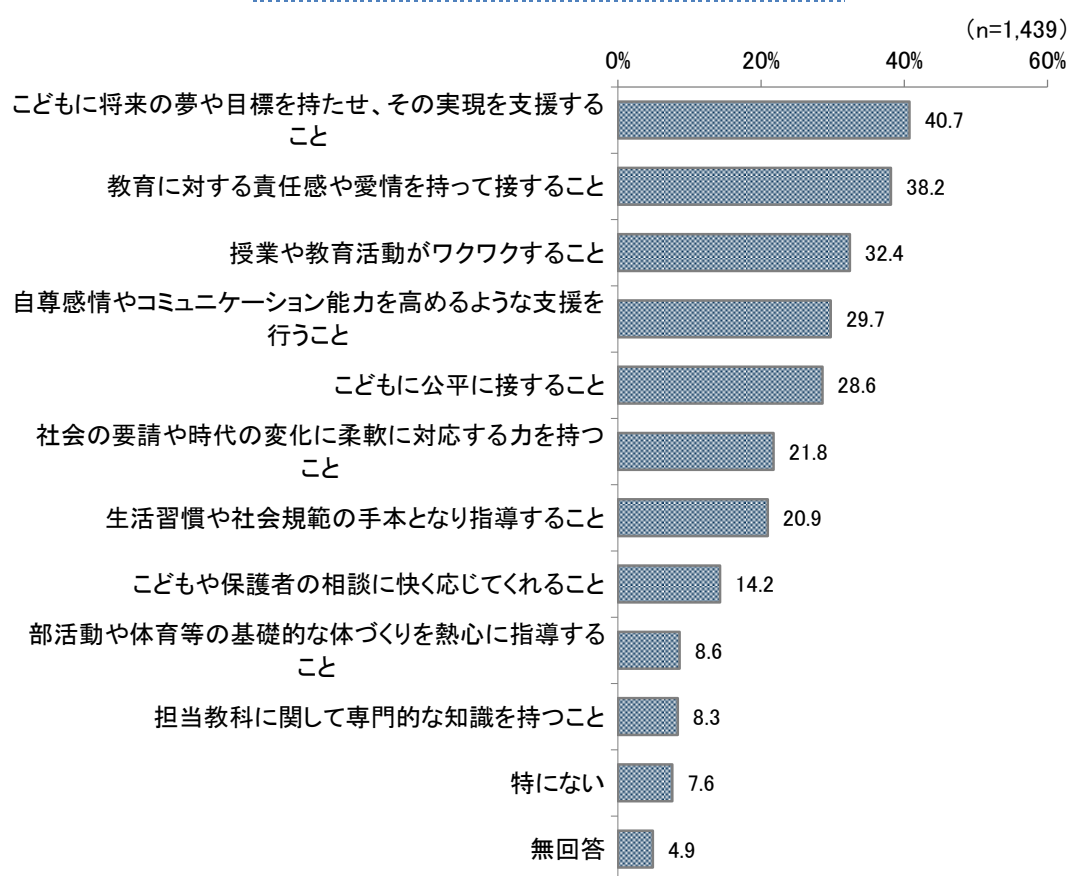
（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(4) 問 62 小・中学校に対して望むこと（3つまで選択）

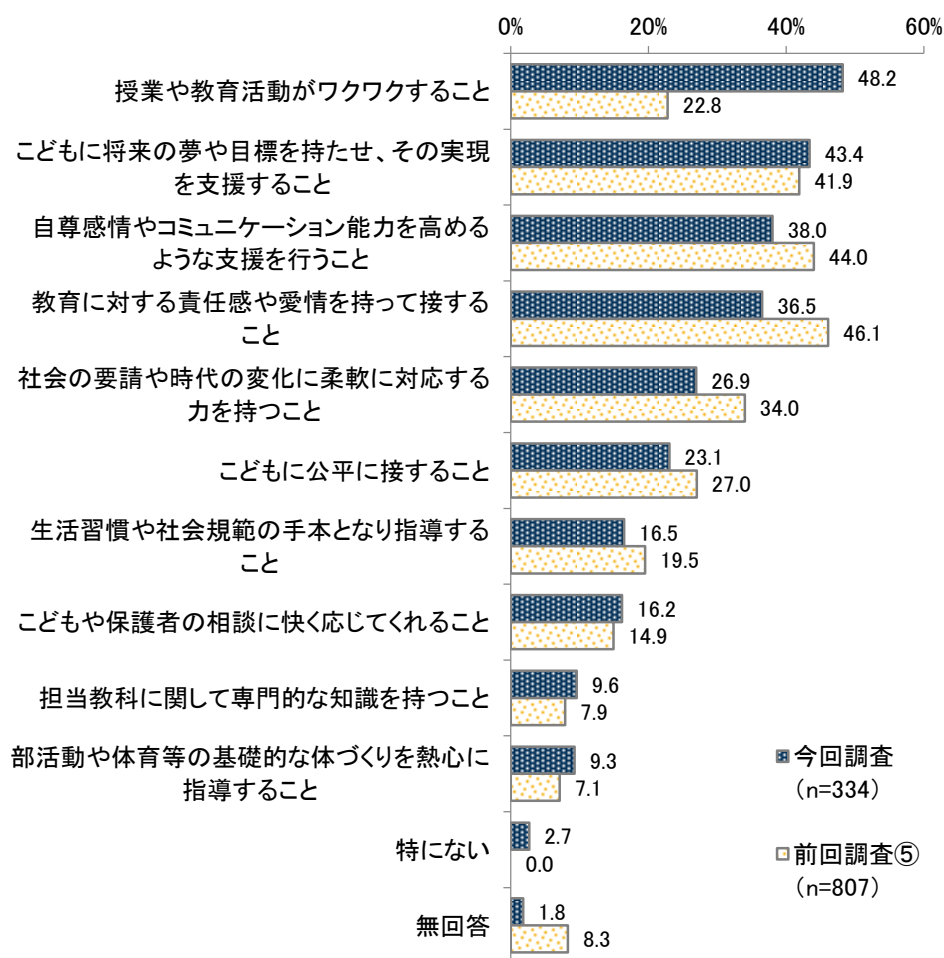
「こどもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること」の割合が最も高く 40.7%となっている。次いで、「教育に対する責任感や愛情を持って接すること（38.2%）」、「授業や教育活動がワクワクすること（32.4%）」となっている。

高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「授業や教育活動がワクワクすること」の割合が大幅に上昇し、「自尊感情やコミュニケーション能力を高めるような支援を行うこと」「教育に対する責任感や愛情を持って接すること」「社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持つこと」「こどもに公平に接すること」「生活習慣や社会規範の手本となり指導すること」の割合が低下している。

図表 II-180 小・中学校に対して望むこと



図表 II-181 小・中学校に対して望むこと（前回調査⑤との比較）



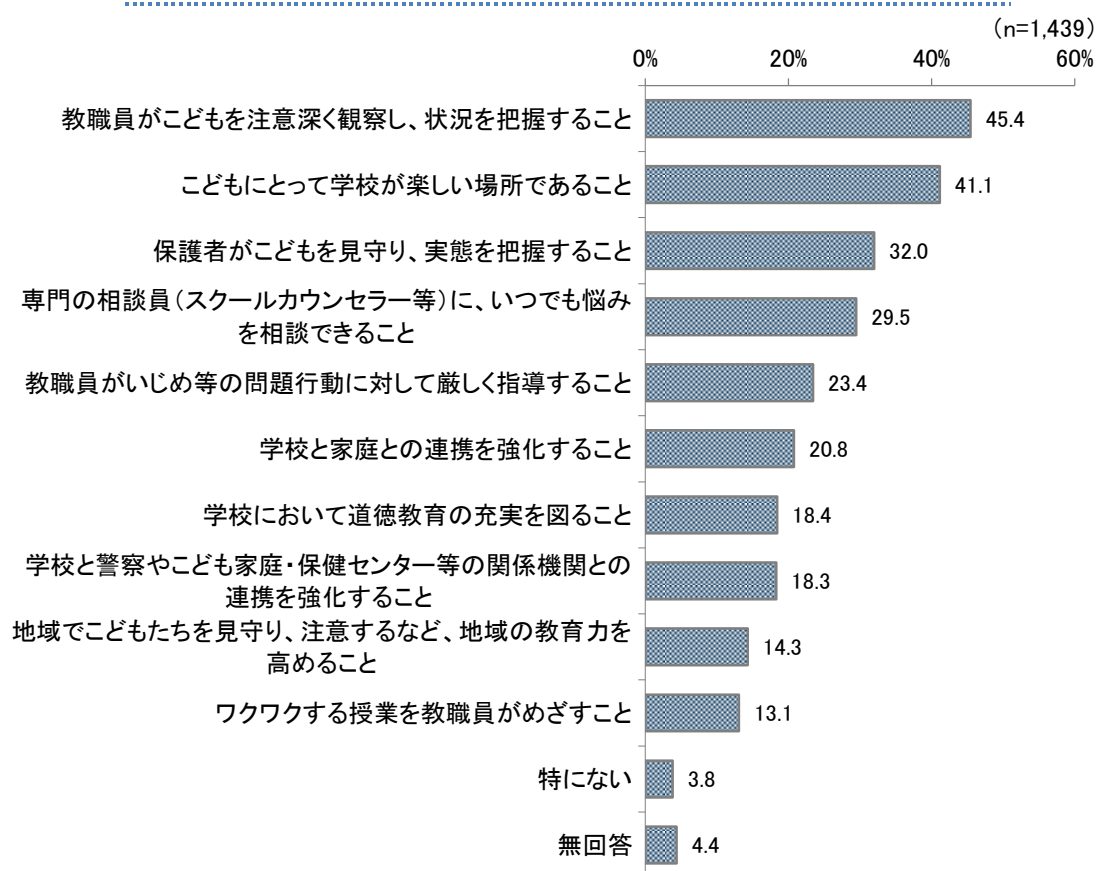
（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、「授業や教育活動がワクワクすること」は「わかりやすい授業を工夫すること」となっているほか、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(5) 問 63 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと（3つまで選択）

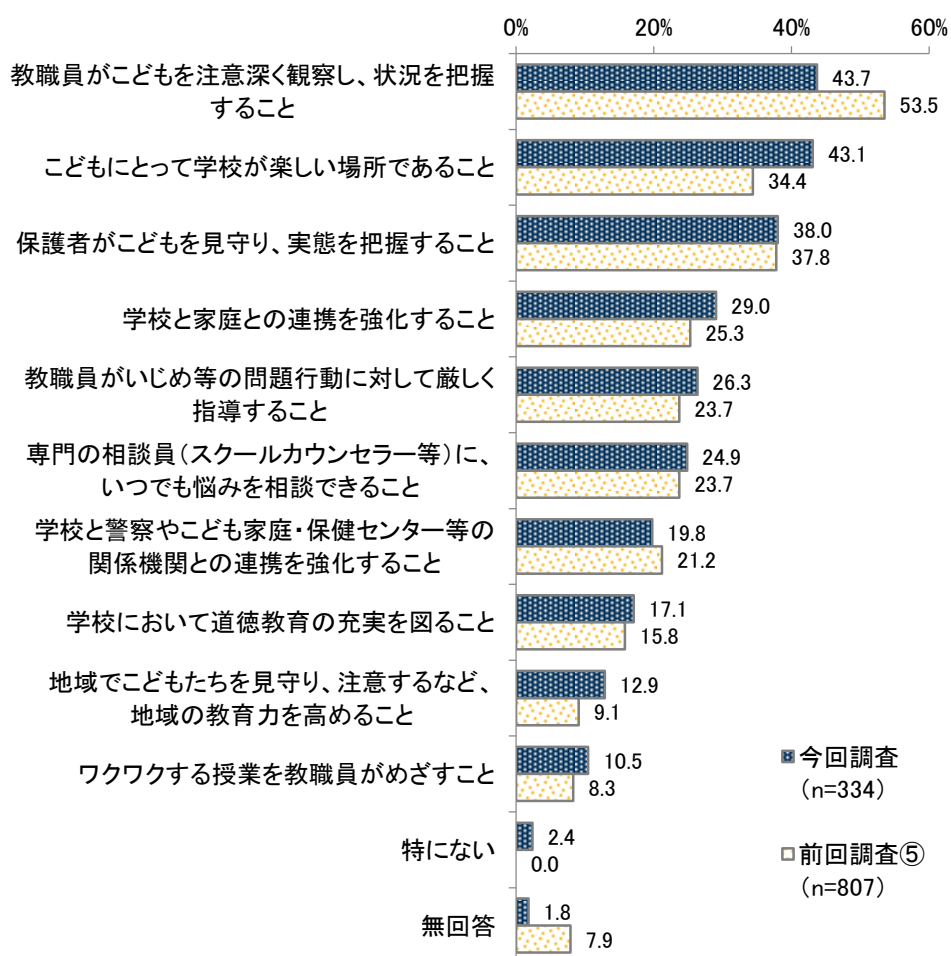
「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が最も高く 45.4%となっている。次いで、「子どもにとって学校が楽しい場所であること（41.1%）」、「保護者が子どもを見守り、実態を把握すること（32.0%）」となっている。

高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較すると、「教職員が子どもを注意深く観察し、状況を把握すること」の割合が低下し、「子どもにとって学校が楽しい場所であること」「学校と家庭の連携を強化すること」「地域で子どもたちを見守り、注意するなど、地域の教育力を高めること」の割合が上昇している。

図表 II-182 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと



図表 II- 183 いじめや不登校などを防ぐために必要だと思うこと（前回調査⑤との比較）

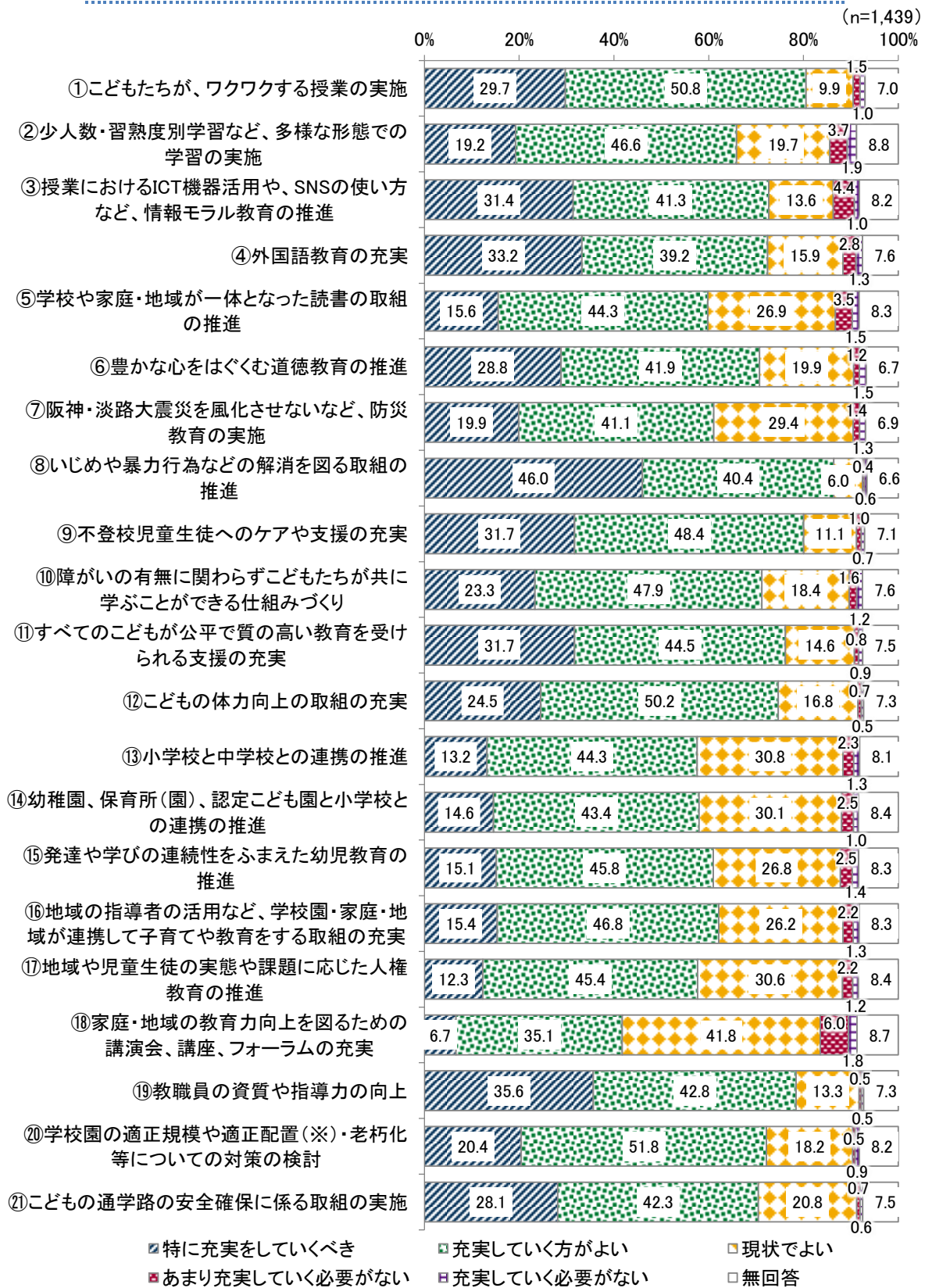


（注）前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。また、前回調査⑤では、「ワクワクする授業を教職員がめざすこと」は「わかる授業、楽しい授業を教職員がめざすこと」となっているほか、上記に加えて「わからない」「その他」という選択肢があったが、今回は該当する選択肢がないため表示していない。

(6) 問 64 今後力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業

「特に充実をしていくべき」と「充実していく方がよい」の割合の合計に着目すると、「⑧いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進」における割合が最も高く 86.4%となっている。次いで、「①こどもたちが、ワクワクする授業の実施（80.5%）」、「⑨不登校児童生徒へのケアや支援の充実（80.1%）」となっている。

図表 II-184 今後力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業



(※) 学校園の適正規模や適正配置：少子化が進む中、学校や幼稚園において、どの程度の規模や人数で教育を行うことが望ましいのかを考えていくこと。

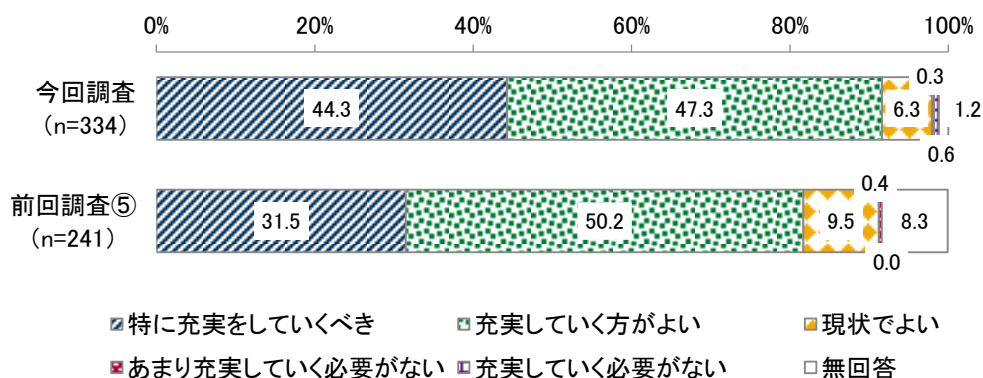
各施策について、高校生までの子どもがいる回答者に限定し、前回調査⑤と比較を行った。

① こどもたちが、ワクワクする授業の実施

「充実していく方がよい」が 47.3%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 44.3%、「現状でよい」が 6.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が上昇し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-185 こどもたちが、ワクワクする授業の実施



(注1) 前回調査⑤では、項目が「子どもたちが、「わかる」と実感できる授業の実施」となっている。

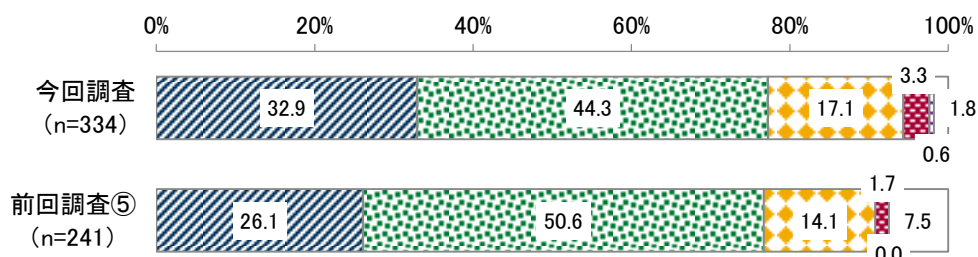
(注2) 前回調査⑤では、「高校生までの子どもがいる回答者」に限定して聞いていたため、今回調査のデータから「高校生までの子どもが居る世帯」のみを抽出した結果と比較している。以下②まで同様。

② 少人数・習熟度別学習など、多様な形態での学習の実施

「充実していく方がよい」が 44.3%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 32.9%、「現状でよい」が 17.1%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「現状で良い」の割合が上昇している。

図表 II-186 少人数・習熟度別学習など、多様な形態での学習の実施

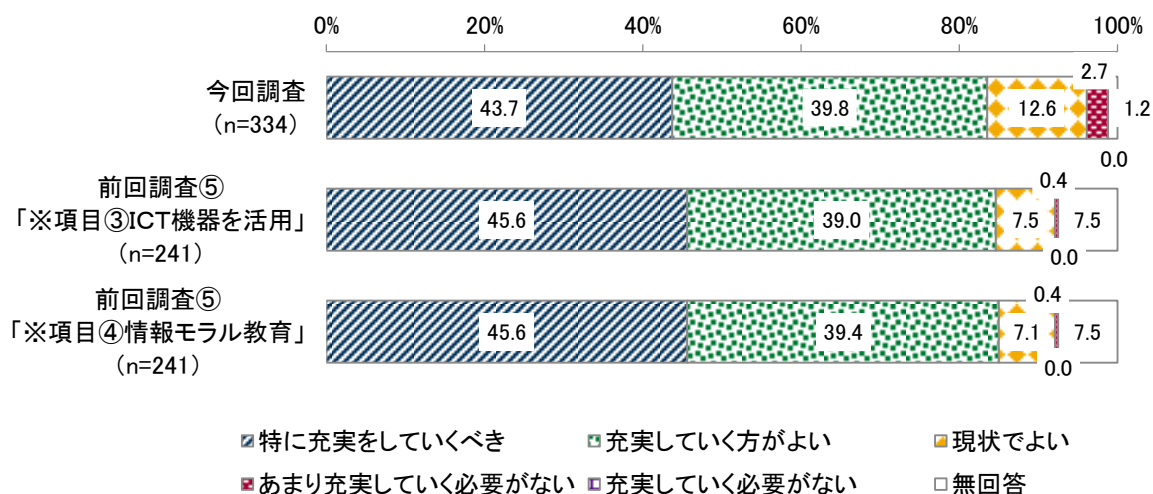


③ 授業における ICT 機器活用や、SNS の使い方など、情報モラル教育の推進

「特に充実をしていくべき」が 43.7%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 39.8%、「現状でよい」が 12.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「現状でよい」の割合が上昇している。

図表 II-187 授業における ICT 機器活用や、SNS の使い方など、情報モラル教育の推進



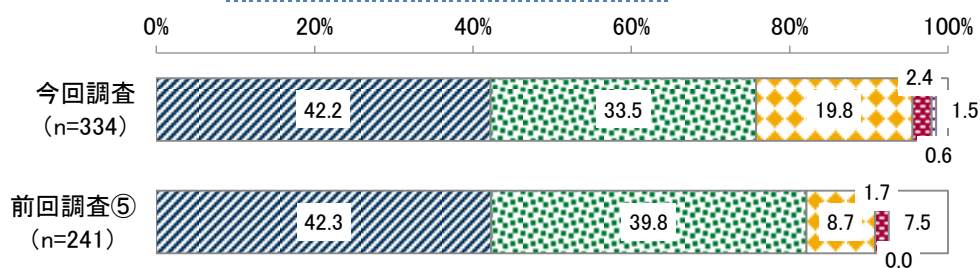
(※) 前回調査⑤は、「項目③：コンピュータなどの I C T 機器を活用した授業の推進」、「項目④：情報モラル教育の推進（携帯電話・スマートフォンや S N S の正しい使い方）」の 2 項目に分かれていた。

④ 外国語教育の充実

「特に充実をしていくべき」が 42.2%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 33.5%、「現状でよい」が 19.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「現状でよい」の割合が上昇している。

図表 II-188 外国語教育の充実

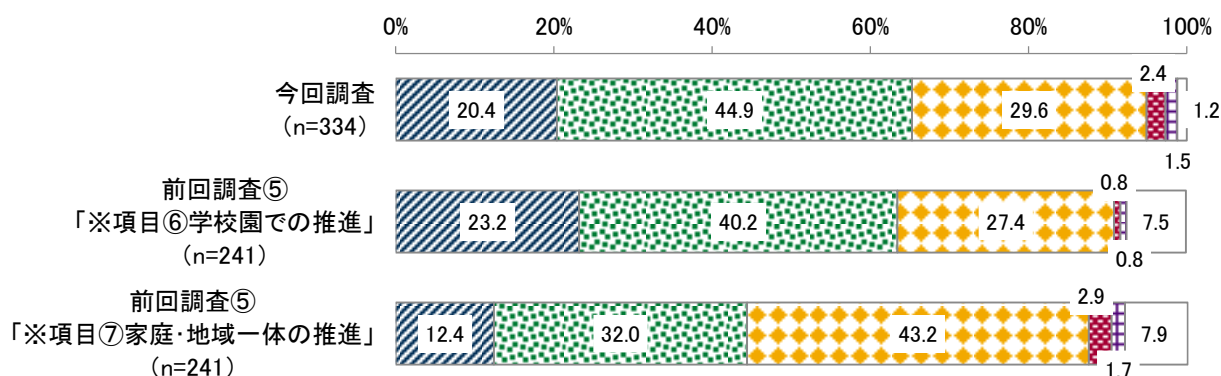


⑤ 学校や家庭・地域が一体となった読書の取組の推進

「充実していく方がよい」が 44.9%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 29.6%、「特に充実をしていくべき」が 20.4%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「学校園における読書の取組の推進」との比較においては大きな変化はみられない。「家庭・地域と一体となった「読書のまちづくり」の推進」との比較においては、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が減少している。

図表 II-189 学校や家庭・地域が一体となった読書の取組の推進



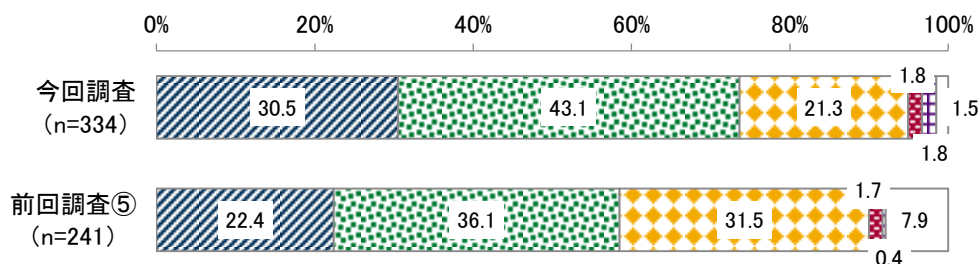
(※) 前回調査⑤は、「項目⑥：学校園における読書の取組の推進」、「項目⑦：家庭・地域と一体となった「読書のまちづくり」の推進」の2項目に分かれていた。

⑥ 豊かな心をはぐくむ道德教育の推進

「充実していく方がよい」が 43.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 30.5%、「現状でよい」が 21.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が上昇し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-190 豊かな心をはぐくむ道德教育の推進

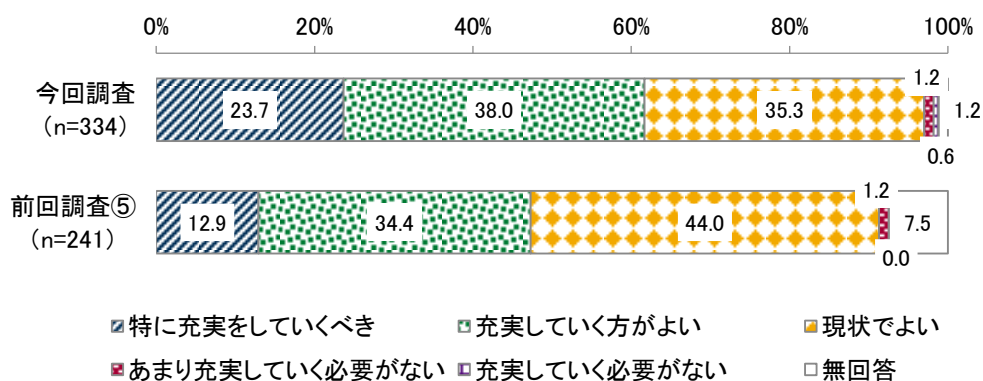


⑦ 阪神・淡路大震災を風化させないなど、防災教育の実施

「充実していく方がよい」が 38.0%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 35.3%、「特に充実をしていくべき」が 23.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-191 阪神・淡路大震災を風化させないなど、防災教育の実施

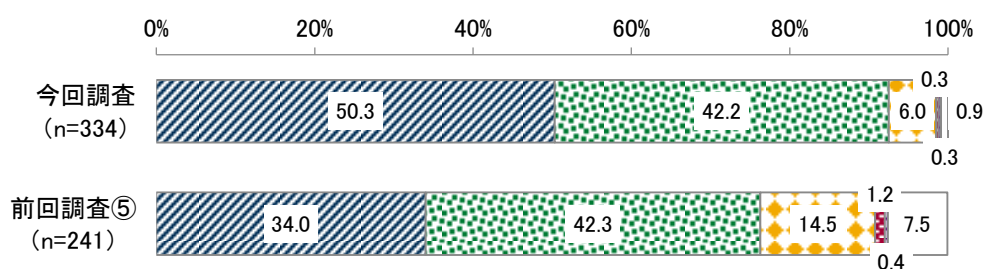


⑧ いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進

「特に充実をしていくべき」が 50.3%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 42.2%、「現状でよい」が 6.0%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が大幅に増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-192 いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進

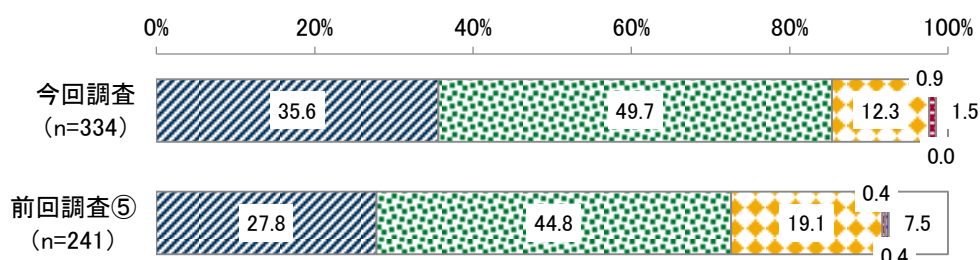


⑨ 不登校児童生徒へのケアや支援の充実

「充実していく方がよい」が 49.7%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 35.6%、「現状でよい」が 12.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 193 不登校児童生徒へのケアや支援の充実

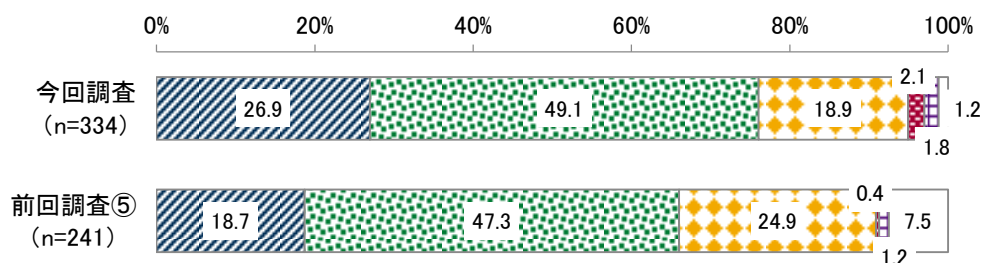


⑩ 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり

「充実していく方がよい」が 49.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 26.9%、「現状でよい」が 18.9%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 194 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり

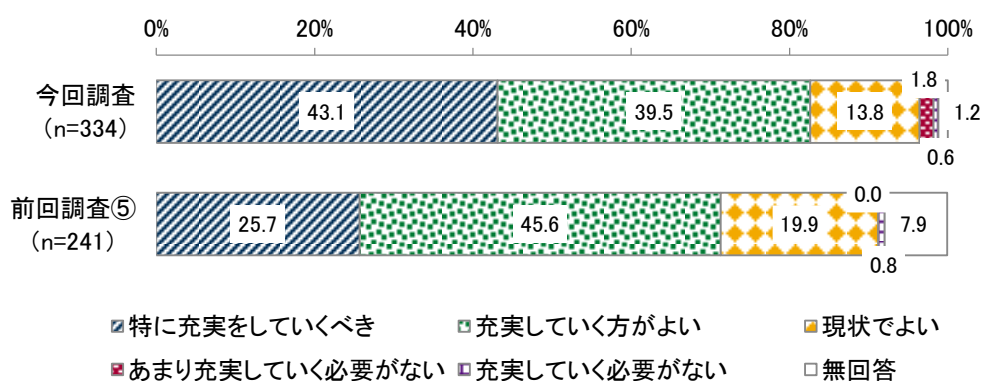


⑪ すべてのこどもが公平で質の高い教育を受けられる支援の充実

「特に充実をしていくべき」が43.1%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が39.5%、「現状でよい」が13.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 195 すべてのこどもが公平で質の高い教育を受けられる支援の充実

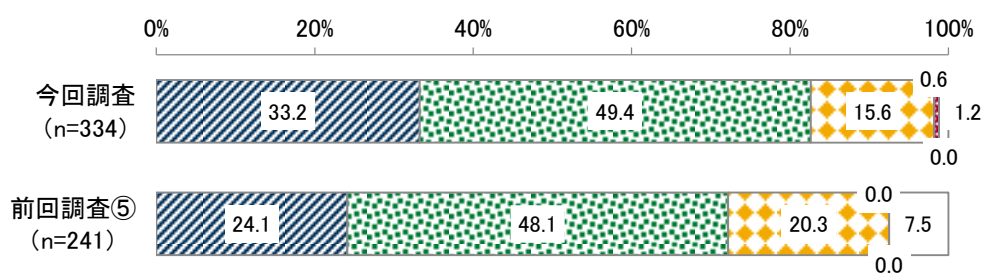


⑫ こどもの体力向上の取組の充実

「充実していく方がよい」が49.4%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が33.2%、「現状でよい」が15.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II- 196 こどもの体力向上の取組の充実

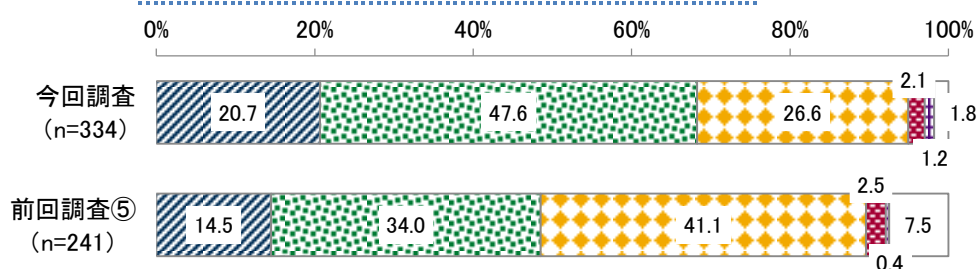


⑬ 小学校と中学校との連携の推進

「充実していく方がよい」が 47.6%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 26.6%、「特に充実をしていくべき」が 20.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-197 小学校と中学校との連携の推進

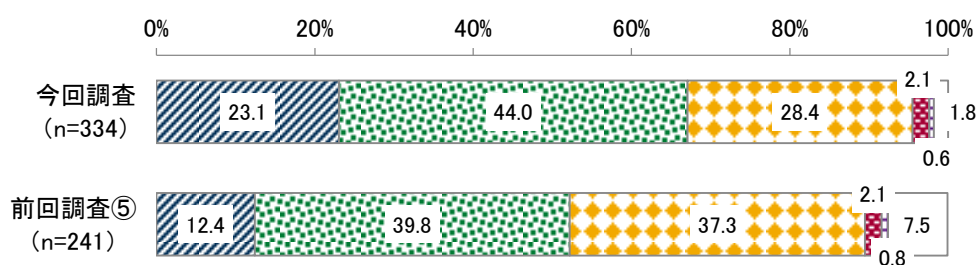


⑭ 幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校との連携の推進

「充実していく方がよい」が 44.0%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 28.4%、「特に充実をしていくべき」が 23.1%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-198 幼稚園、保育所（園）、認定こども園と小学校との連携の推進

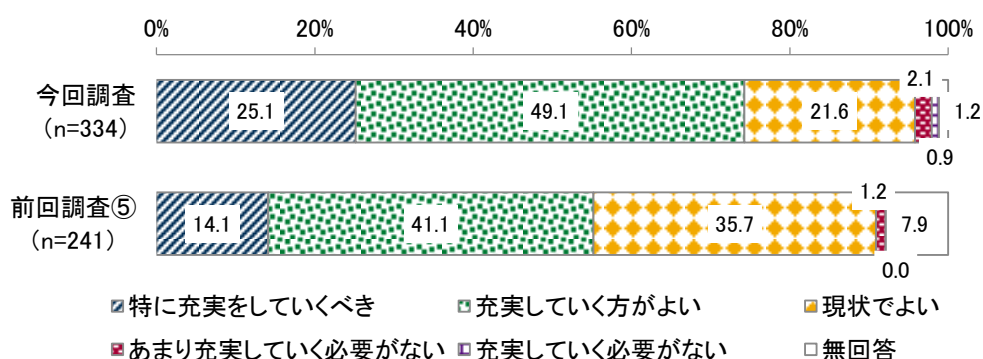


⑮ 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

「充実していく方がよい」が 49.1%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 25.1%、「現状でよい」が 21.6%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-199 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進

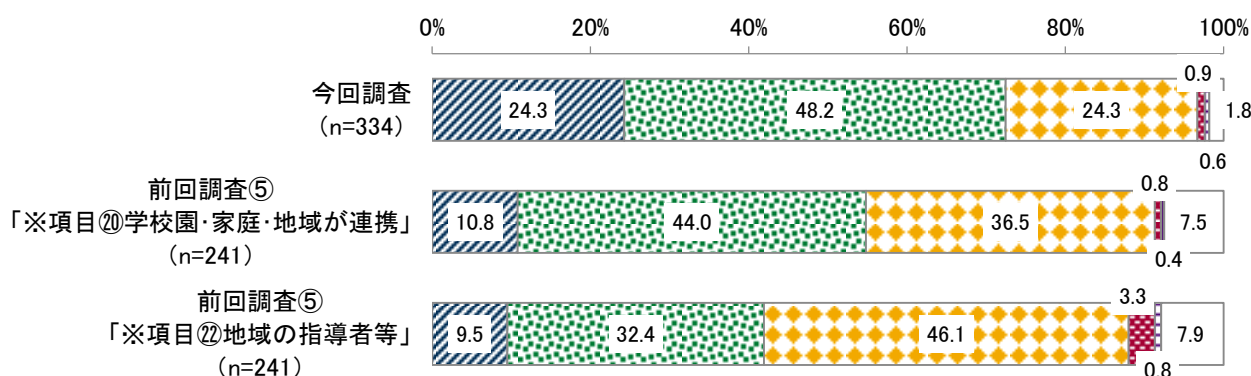


⑯ 地域の指導者の活用など、学校園・家庭・地域が連携して子育てや教育をする取組の充実

「充実していく方がよい」が 48.2%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が 24.3%、「現状でよい」が 24.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、統合前の 2 項目「学校園・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組の充実」、「地域の指導者等を活用した授業の実施」どちらと比較しても、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-200 地域の指導者の活用など、学校園・家庭・地域が連携して子育てや教育をする取組の充実



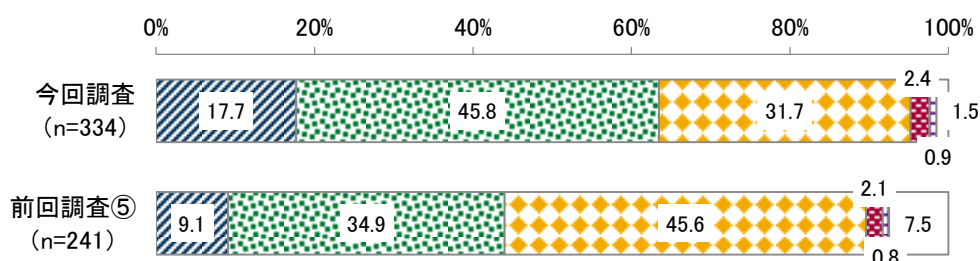
(※) 前回調査⑤は、「項目⑳：学校園・家庭・地域が連携して子育てをしていくための取組の充実」、「項目㉑：地域の指導者等を活用した授業の実施」の 2 項目に分かれていた。

⑰ 地域や児童生徒の実態や課題に応じた人権教育の推進

「充実していく方がよい」が 45.8%で最も高く、次いで、「現状でよい」が 31.7%、「特に充実をしていくべき」が 17.7%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-201 地域や児童生徒の実態や課題に応じた人権教育の推進

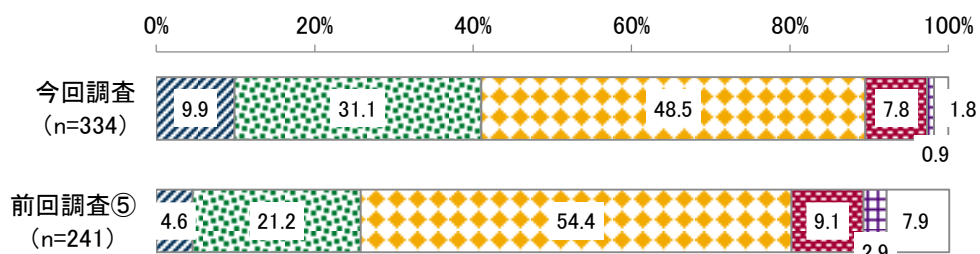


⑱ 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの充実

「現状でよい」が 48.5%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 31.1%、「特に充実をしていくべき」が 9.9%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-202 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの充実

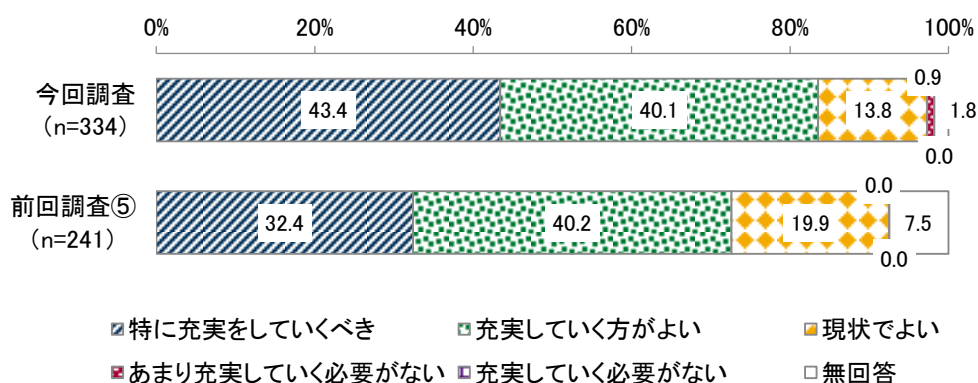


⑱ 教職員の資質や指導力の向上

「特に充実をしていくべき」が43.4%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が40.1%、「現状でよい」が13.8%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-203 教職員の資質や指導力の向上

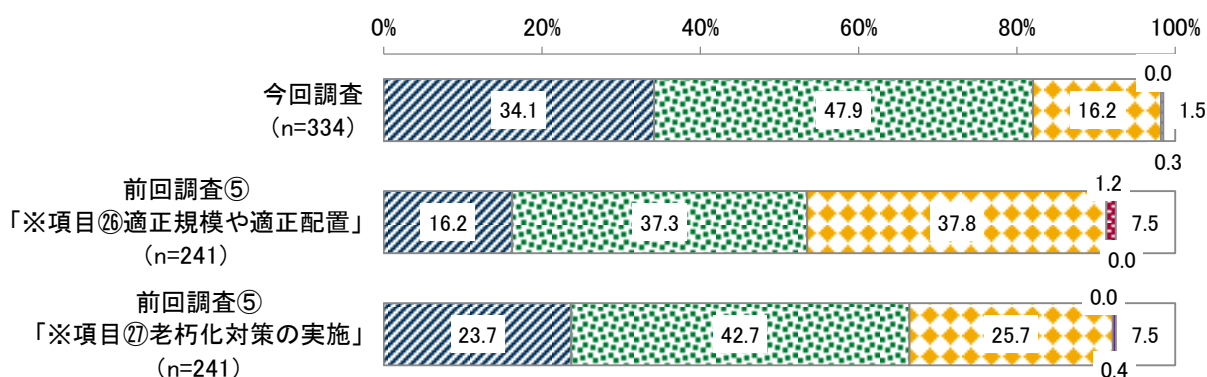


⑳ 学校園の適正規模や適正配置・老朽化等についての対策の検討

「充実していく方がよい」が47.9%で最も高く、次いで、「特に充実をしていくべき」が34.1%、「現状でよい」が16.2%となっている。

前回調査⑤と比較すると、統合前の2項目「学校園の適正規模や適正配置についての検討」、「学校校舎・施設の老朽化対策の実施」どちらと比較しても、「特に充実をしていくべき」「充実していく方がよい」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-204 学校園の適正規模や適正配置・老朽化等についての対策の検討



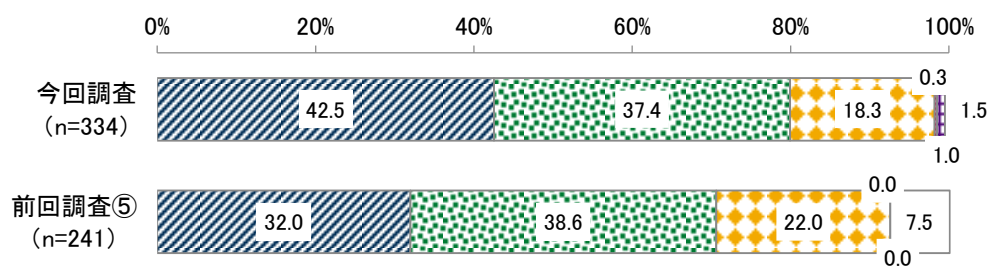
(※) 前回調査⑤は、「項目②⑥：学校園の適正規模や適正配置についての検討」、「項目②⑦：学校校舎・施設の老朽化対策の実施」の2項目に分かれていた。

②① こどもの通学路の安全確保に係る取組の実施

「特に充実をしていくべき」が 42.5%で最も高く、次いで、「充実していく方がよい」が 37.4%、「現状でよい」が 18.3%となっている。

前回調査⑤と比較すると、「特に充実をしていくべき」の割合が増加し、「現状でよい」の割合が低下している。

図表 II-205 こどもの通学路の安全確保に係る取組の実施

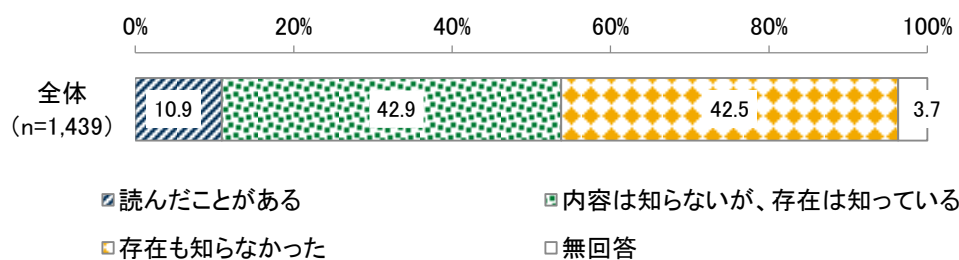


9. 総合計画・各種計画について

(1) 問 65 総合計画の認知度

「内容は知らないが、存在は知っている」の割合が最も高く 42.9%となっている。次いで、「存在も知らなかった（42.5%）」、「読んだことがある（10.9%）」となっている。

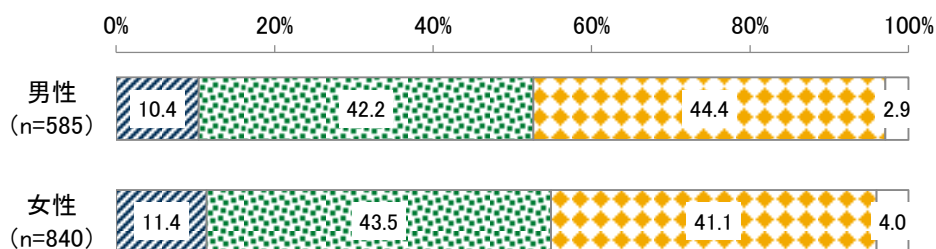
図表 II-206 総合計画の認知度



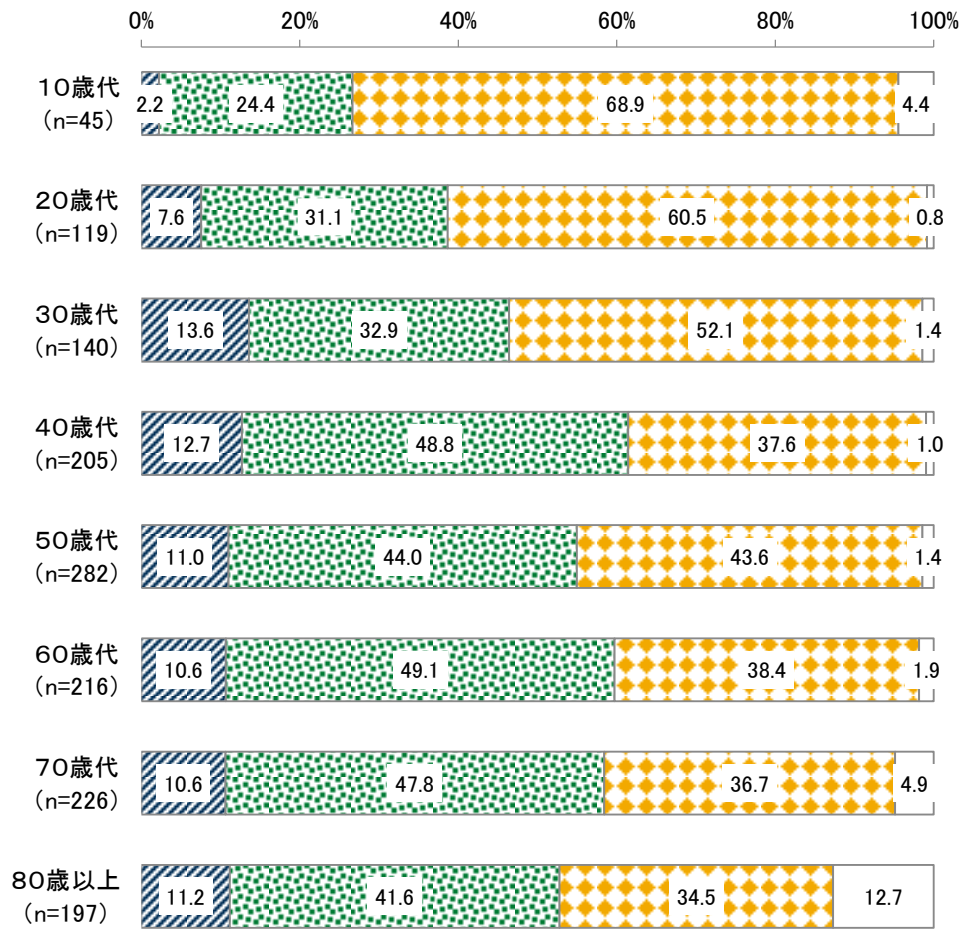
男女で総合計画の認知度に大きな差異はみられない。

年代別にみると、40 歳代以上はそれ以下の年代と比較して、「存在も知らなかった」の割合が低くなっている。

図表 II-207 総合計画の認知度（クロス集計）



い



(2) 問 66 まちづくり全般について、ご意見など

芦屋市のまちづくり全般について、延べ 758 件の回答があった。

施策項目別に整理すると、「⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる」が 97 件で最も多く、次いで「②自らの未来への道を切り拓く力が育っている」が 96 件、「⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている」が 87 件、「⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている」が 84 件、「⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている」が 83 件と続いている。

図表 II-208 施策項目別の整理結果

施策名	延べ件数	前回調査①
まちづくり全体について		201
①誰もが安心して生み育てられる環境が充実している	24	102
②自らの未来への道を切り拓く力が育っている	96	24
③生涯を通じた学びの文化が醸成されている	19	24
④あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる	72	146
⑤健康になるまちづくりが進んでいる	13	6
⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている	84	104
⑦災害に強いまちづくりが進んでいる	16	16
⑧日常の安全安心が確保されている	43	127
⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている	87	37
⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる	97	33
⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる	29	9
⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている	18	12
⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている	83	89
その他	77	198
合 計	758	1,128

(注) 前回調査⑤では、「②自らの未来への道を切り拓く力が育っている」は「②未来への道を切り拓く力が育っている」となっている。また、前回調査⑤では「まちづくり全体について」という項目があったが今回は該当項目での集計は行われていない。

図表 II-209 施策項目別の整理結果（詳細）

意見分類	延べ件数
①誰もが安心して生み育てられる環境が充実している	24
子育てしやすいまちづくりをしてほしい	8
子育て支援の拡充をしてほしい	4
保育料を見直してほしい	4
その他	8
②自らの未来への道を切り拓く力が育っている	96
こども・若い世代に住みやすいまちづくりをしてほしい	34
教育に力を入れたまちづくりをしてほしい	33
学校現場の環境を改善すべき	10
教職員の労働環境の改善をしてほしい	8
不登校・いじめ対策をしてほしい	7
その他	4
③生涯を通じた学びの文化が醸成されている	19
文化芸術に力を入れてほしい	9
その他	10
④あらゆる人が心地よく暮らせるまちづくりが進んでいる	72
高齢者に対する施策を充実させてほしい	36
全ての人に優しいまちづくりをしてほしい	18
障がい福祉を充実させてほしい	10
外国人について	6
その他	2
⑤健康になるまちづくりが進んでいる	13
医療資源を充実させてほしい	8
その他	5
⑥良好な生活環境が整い魅力的な暮らしが創出されている	84
商業施設・飲食店等を整備してほしい	21
喫煙マナーが悪い・受動喫煙対策をしてほしい	8
ごみ分別ルールを研究・啓発してほしい	6
ごみ袋を見直してほしい	6
娯楽施設を増やしてほしい	5
ごみ収集の回数・人数を増やして欲しい	5
ペット共生を目指してほしい	5
ごみ収集場所を検討してほしい	4
地域活性化に取り組んでほしい	4
鳥害への対策をしてほしい	3
その他	17
⑦災害に強いまちづくりが進んでいる	16
災害時の対策・防災の強化してほしい	10
電柱の地中化を推進してほしい	6
⑧日常の安全安心が確保されている	43
自転車の運転マナー・ルール啓発をしてほしい	8
安全安心なまちづくりをしてほしい	11
車・バイクのマナーが悪い	7
防犯対策してほしい	6
街灯を設置してほしい	6
路上駐車を取り締まりを強化してほしい	5

⑨住宅都市の魅力が受け継がれ、高められている	87
自然豊かなをまちなみをこのまま維持してほしい	17
街路樹や草を整備してほしい	15
住み続けたい・住んでみたいと思えるまちづくりをしてほしい	13
公園を整備・増やしてほしい	10
魅力的なまちづくりをしてほしい	9
騒音対策をしてほしい	5
空き家の活用・対策をしてほしい	4
公園は充実している	3
ドッグランの充実をしてほしい	3
その他	8
⑩持続可能なインフラ整備が進んでいる	97
道路環境を整備してほしい	23
交通の利便性を向上させてほしい	22
JR芦屋駅南側開発への期待	15
歩道を整備してほしい	9
駅・駅周辺を整備してほしい	8
踏切対策・高架化をしてほしい	7
その他JR芦屋駅南側に対する疑問	5
駐輪場を増設してほしい	3
自転車道を整備してほしい	3
その他	2
⑪協働の意欲が高まり地域住民主体のまちづくりが進んでいる	29
地域交流を活性化させてほしい	17
市政へ意見を出す機会が多くなればよい	8
その他	4
⑫人口減少社会に対応した健全で効果的な行財政運営が行われている	18
行財政改革が必要	5
税金が高い	5
その他	8
⑬急速な社会変化に対応できる組織となっている	83
市・市職員への応援・感謝	38
情報発信に力を入れてほしい	16
市政全般への提言	9
「芦屋らしさ」を重視してほしい	9
市職員の対応を改善してほしい	4
その他	7
その他	77
市長への応援・期待	21
市議会に対する意見	9
その他	47

III. 資料編

1. 調査票

回答コード：XXXX

芦屋市 総合計画策定に向けた市民意識調査 調査票

ご協力をお願い

市民の皆さまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

芦屋市では総合的なまちづくりの指針となる、市の最上位の計画として、令和3年9月に「第5次芦屋市総合計画」を策定して様々な取組を行っており、期間が令和7年度までとなっていることから、新しいまちづくりの指針となる「第5次芦屋市総合計画後期基本計画」の策定を予定しています。

この調査は、計画の見直しの資料として、市民の皆さまの現在の状況について把握するために実施するもので、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に選んだ3,000人の方を対象に調査票を送付させていただいております。所要時間は約20分です。

なお、今回の総合計画には、教育において重点的に取り組む中期的な考え方や具体的施策を示す「教育振興基本計画」、文化政策の方向性を包括的に示す「文化推進基本計画」、市民参画及び協働による市政を総合的に推進するための「市民参画協働推進計画」を統合しており、それらに必要な設問も含まれます。

芦屋市では、住み続けたいまち、住んでみたいまちづくりを目指しており、市民の皆さまのご意見やニーズを的確に把握することが大切だと考えています。つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年(2024年)10月

芦屋市

ご回答にあたってのお願い

★次の2つの方法からいずれか1つをお選びいただき、**11月1日(金)**までに回答してください。

※両方を提出いただいた場合には紙の回答を優先します。

① パソコン・スマートフォン等によりインターネットで回答

- ① 右の二次元コードまたは、下記URLよりご回答ください。
URL: https://questant.jp/q/ashiya_soukei
○回答コードは、この紙の右上に書かれている数字を入力してください。
※回答コードは、回答数を管理するためのものであり、回答者を特定するためのものではありません。



② アンケート用紙に直接記入し、郵送により回答

- ① 黒のボールペンまたは濃い鉛筆で記入ください。
- ② 回答は、選択肢の番号、または該当する場所に○をつけてください。○をつける個数が指定されている設問もありますので、案内に従ってください。
- ③ ご記入いただきましたら、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**11月1日(金)**までにポストにご投函ください。

◇封筒のあて名の方がご回答ください。(できるだけご本人がお答えください。ご本人が記入等しにくい場合は同居のご家族や介助者の方の入力、代筆をお願いします。)

◇この調査資料の利用に当たっては、芦屋市個人情報保護法施行条例の規定に基づき、適正に行います。

◇調査票に住所や名前を記入しないでください。いただいた回答は厳重に管理し、個人が特定されないよう統計的に処理したうえで、今後の市政運営の基礎資料とするほか、ホームページなどで公表します。また、調査の目的以外には一切利用しませんので、ありのままをお答えください。

これは^{あしや}芦屋のまちづくりについてのアンケート用紙^{ようし}です。
ふりがな^つ付きのアンケート用紙^{ようし}が必要^{ひつよう}な場合は、下のEメール^{しあ}までご連絡^{れんらく}ください。
^{あしや}芦屋市 ^{きかくぶ}企画部 ^{しちやうこうしつ}市長公室 ^{せいさくすいしんか}政策推進課

Survey on the Community Development in Ashiya City

If you need a Japanese with *furigana* version of the questionnaire,
please contact the office by email listed below.

Ashiya City Planning Department Mayoral Public Office The Policy Promotion Section

◆お問い合わせ先◆

芦屋市企画部市長公室政策推進課 〒659-8501 兵庫県芦屋市精道町7-6
電話:0797-38-2127 FAX:0797-31-4841
Eメール:seisakusuisin@city.ashiya.lg.jp

I. あなた(回答者)ご自身についておたずねします。

問 1 あなたの年齢(令和6年 10 月1日現在)は、以下のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳以上

問 2 あなたの性別は、以下のうちどれにあてはまりますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 男性	2. 女性
3. 1、2に当てはまらない	4. 答えたくない

問 3 あなたは、現在、どちらにお住まいですか。校区番号1～10から1つだけ選んで数字に○をつけてください。

校区番号	町 名
1. 奥池地区	奥池町、奥池南町
2. 山手小学校区 (奥池地区除く)	奥山、山手町、山芦屋町、東芦屋町、西山町、三条町、大原町、船戸町、松ノ内町、月若町、西芦屋町、三条南町、上宮川町、葉平町、前田町、清水町、剣谷
3. 岩園小学校区	六麓荘町、岩園町、翠ヶ丘町、親王塚町、楠町
4. 朝日ヶ丘小学校区	朝日ヶ丘町、東山町
5. 精道小学校区	茶屋之町、大樹町、公光町、川西町、津知町、竹園町、精道町、浜芦屋町、平田北町、伊勢町、松浜町、平田町
6. 宮川小学校区	打出小槌町、宮塚町、若宮町、宮川町、浜町、西藏町、呉川町
7. 打出浜小学校区	春日町、打出町、南宮町、大東町
8. 浜風小学校区	新浜町、浜風町、高浜町
9. 潮見小学校区 (南芦屋浜地区除く)	若葉町、緑町、潮見町
10. 南芦屋浜地区	陽光町、海洋町、南浜町、涼風町

問 4 あなたは芦屋市内に通算で何年住んでいますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 1年未満	2. 1年以上～3年未満	3. 3年以上5年未満
4. 5年以上10年未満	5. 10年以上15年未満	6. 15年以上20年未満
7. 20年以上		

問 5 お住まいの家族の構成を教えてください。

大人	こども	
()人	高校生より大きい ()人	高校生まで(高校生含む) ()人

II. お住まいの地域での生活や住みやすさについておたずねします。

問 6 あなたは、(転勤等による移転予定の有無に関わらず)今のお住まいにずっと住んでいたいと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 今の場所に住み続けたい	2. 市内の他の場所で住み続けたい
3. いずれ市外に引っ越したい	4. すでに市外に引っ越す予定がある
5. その他()	

問 7 あなたが現在芦屋市に住み続けている理由を、次の中から3つまで選んで、数字に○をつけてください。

1. 自然環境が豊か	2. まちなみが美しい
3. 通勤通学などの交通の便が良い	4. 日常生活の利便性が高い(買い物・病院・図書館等)
5. 災害に強い(自然災害の少なさや防災設備の充実など)	6. 犯罪件数や交通事故が少ない
7. 物価や住居費が安い	8. 子育て支援施策(支援金や見守り等)が充実している
9. 働きながら子育てできる環境(保育施設等)が整っている	10. 教育環境が充実している
11. 福祉サービスが充実している	12. 地域イメージが良い
13. 自分または家族が生まれ育ったところである	14. 親や子供の家に近い
15. 住居を購入した(購入する予定がある)	16. その他()

問 8 あなたは、地域の活動や行事に参加していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 運営に関わっている
2. よく参加している(年数回以上参加)
3. ときどき参加している(参加者として年1回以上参加)
4. 参加していない

問9 あなたが「すでに参加している」地域の活動、または、「今後参加したい」地域の活動はどのようなものですか。「すでに参加している地域の活動」への参加状況については、問8で1から3に○をつけた方にご回答をお願いします。また、「今後参加したい活動」は、問8で4に○をつけた方を含めすべての方にご回答をお願いします。(あてはまるものすべてに○)

	すでに参加している 地域の活動			今後 参加したい活動
	運 営 に 関 わ っ て い る	年 数 回 以 上 参 加	年 1 回 以 上 参 加	
① 迷惑駐車や駐輪、歩道や通学路など交通安全に関するこ と	1	2	3	4
② ゴミ出しやボイ捨て、リサイクルなど環境衛生に関するこ と	1	2	3	4
③ 看板や空き地の放置、緑化や園芸など景観に関するこ と	1	2	3	4
④ 避難場所やルートなど災害への備えに関するこ と	1	2	3	4
⑤ 夜道の暗さや治安など防犯に関するこ と	1	2	3	4
⑥ 見守り・支援など高齢者や障がいのある人に関するこ と	1	2	3	4
⑦ 保育、学習支援など教育や子育てに関するこ と	1	2	3	4
⑧ 祭りなどの地域の伝統行事や、通訳、国際交流など、文 化・芸術や国際協力に関するこ と	1	2	3	4
⑨ 健康づくりやスポーツに関するこ と	1	2	3	4
⑩ 地域のにぎわいや活気に関するこ と	1	2	3	4
⑪ その他(具体的にあれば:)	1	2	3	4

問10 【問8で1から3に○をつけた方にお尋ねします。】参加している理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 活動に興味があった | 2. 地域の人とのつながりが欲しかった |
| 3. 知り合いや家族が参加していた | 4. 地域の情報が欲しかった |
| 5. 活動内容や参加方法について情報を得た | 6. 活動に対する金銭的負担が少なかった |
| 7. 活動に対する時間的負担が少なかった | 8. 体力的に無理なく活動できると感じた |
| 9. 自身のスキルや経験を活かせると感じた | 10. 特に理由はない |
| 11. その他() | |

問 11 【問8で4に○をつけた方にお尋ねします。】参加していない理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1. 興味のある活動がない | 2. 人間関係がわずらわしい |
| 3. 知り合いや一緒に参加する仲間がいない | 4. 内容や参加方法など、活動に関する情報がない |
| 5. 活動に対する金銭的負担がある | 6. 活動に対する時間的負担がある |
| 7. 体力面で負担を感じる | 8. 自身のスキルや経験が足りないと感じる |
| 9. 居住地以外の活動に参加している | 10. 特に理由はない |
| 11. その他() | |

問 12 あなたは、ものづくり、映画、アウトドア、まちづくり活動など、居住する地域にとらわれない趣味の活動や行事に参加していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | |
|------------------------------|
| 1. 運営に関わっている |
| 2. よく参加している(年数回以上参加) |
| 3. ときどき参加している(参加者として年1回以上参加) |
| 4. 参加していない |

問 13 あなたは、日常的に近所のこどもと接する機会がありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1. 一緒に地域活動等をすることがある | 2. 会話をすることがある |
| 3. あいさつをすることがある | 4. 全くない |

問 14 あなたは、日々の生活の中で困りごとが発生したときに、家族や親族以外で相談できる人(友人、知人、民生委員等)や場所がありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

問 15 あなたは、お住まいの地域の人とどの程度の関わりがありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------------|-----------------------|
| 1. お互いの家を行き来する付き合いがある | 2. 悩みを相談したり、有事に協力しあえる |
| 3. 日常的に立ち話をする | 4. 近所の人の顔がわかり、会えば挨拶する |
| 5. 近所の人の顔はわかるが、会っても挨拶することはほとんどない | 6. 全く付き合いがない |

問 16 あなたは、地域の人との関わりは必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 思う ➡問 17へ | 2. 思わない ➡問 18へ |
|-------------------|---------------------|

問 17 【問 16で、1に○をつけた方にお尋ねします。】地域の人との関わりが必要だと思う理由や、あなたの状況に合うものを選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 災害や病気など、いざという時に助け合いたいため | 2. お互いに気持ちよく過ごすため |
| 3. 避けられないため | 4. お祭りや運動会などの地域行事に参加している |
| 5.一緒に活動を行っている人がいる | 6. 特に理由はない |

問 18 【問 16で、2に○をつけた方にお尋ねします。】地域の人との関わりが不必要だと思う理由や、あなたの状況に合うものを選んでください。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. きっかけがないため | 2. 人を知らないため |
| 3. 忙しく、関わっている時間がないため | 4. 精神的に余裕がないため |
| 5. メリットがわからないため | 6. 人間関係がわずらわしいため |
| 7. 既存のコミュニティに入りづらいため | 8. 他人の関与を歓迎しない人が増えたため |
| 9. 定住を考えていないため | 10. 特に理由はない |

問 19 高齢者や障がいのある人などが安心して暮らせるまちだと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | | | |
|---------|---------------------|------------------|---------------------|---------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえば
そう思う | 3. どちらとも
いえない | 4. どちらかといえば
思わない | 5. 思わない |
|---------|---------------------|------------------|---------------------|---------|

問 20 あなたは、お住まいの地域のまちなみやまちなかの緑の景観について、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 良い | 2. どちらかといえば良い | 3. どちらかといえば悪い | 4. 悪い |
|-------|---------------|---------------|-------|

問 21 あなたは、まちなかの緑の景観を育てたり維持する活動(植物の育成や管理、清掃など緑化・保全に関する活動)にどれくらいの頻度で参加していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 月1回以上 | 2. 年数回程度 | 3. 年1回程度 | 4. 年1回未満 |
|----------|----------|----------|----------|

問 22 あなたは、市内の公園をどれくらいの頻度で利用していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 1. 月1回以上 | 2. 年数回程度 | 3. 年1回程度 | 4. 年1回未満 |
|----------|----------|----------|----------|

問 23 地震や津波、大雨、暴風など、自然災害の発生に対し、日頃からの備えについてお聞きます。次の中からできていることをすべて選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 芦屋市防災ガイドブックを読んだことがある | 2. あしや防災ネットに登録している |
| 3. 芦屋市の防災SNSをフォローしている | 4. 緊急告知ラジオを所持している |
| 5. 家具の転倒防止対策をしている | 6. 家族等で災害時の連絡方法や避難場所を決めている(知っている) |
| 7. 災害時の持ち出し袋を用意している | 8. 3日分以上の食料備蓄をしている |
| 9. 自分の家がハザードエリアにあるかどうか把握している | 10. 避難行動を始めるきっかけを決めている |
| 11. 地域の防災訓練に参加している | |

問 24 地球温暖化防止に向けた取組についてお聞きます。次の中からできていることをすべて選んで、数字に○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. 買い物にマイバッグを持っていく、分別を積極的に行うなど、ゴミを減らす工夫をしている |
| 2. 冷暖房や給湯の温度設定は控えめにする |
| 3. 不要な電気は消す、使っていない家電のコンセントは抜くなど、節電に取り組む |
| 4. 省エネ製品を選んで買う |
| 5. 自動車の利用を控え公共交通機関を利用する |

問 25 あなたは、徒歩、自転車、自家用車、公共交通などの手段に関わらず、市内の移動の便利さについて、どのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 便利 | 2. どちらかといえば便利 | 3. どちらかといえば不便 | 4. 不便 |
|-------|---------------|---------------|-------|

問 26 あなたは、下記の用品について普段どこで購入されていますか。①～⑥の項目ごとに、主なものを1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

	主に市内	主に市外	主にインターネット	購入しない
① 食料品	1	2	3	4
② 日用品 台所・掃除・洗濯用品等	1	2	3	4
③ 衣料品	1	2	3	4
④ 医薬品	1	2	3	4
⑤ 書籍	1	2	3	4
⑥ 化粧品	1	2	3	4

問 27 あなたは、家事や育児など夫婦間での分担についてどのようにお考えですか。①～③の項目ごとに、
 <A 理想>と<B 現実>それぞれにあてはまるものを1つずつ選んで、数字に○をつけてください。

	A 理想 全員がお答えください。				B 現実 配偶者のいる方(事実婚及びパートナーシップを含む)がお答えください。 ③は該当する方のみお答えください。			
	主に自分	適宜 分担 ・ 同程度	主に 配偶者	わ か ら な い	主に自分	適宜 分担 ・ 同程度	主に 配偶者	わ か ら な い
① 生活費の負担	1	2	3	4	1	2	3	4
② 家事	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 育児・子育て	1	2	3	4	1	2	3	4

問 28 あなたは、市役所への届け出や書類申請などの手続きについてどのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 利用しやすい	2. どちらかといえば利用しやすい
3. どちらかといえば利用しにくい	4. 利用しにくい
5. わからない	

Ⅲ. 芦屋市のまちづくりの目標の達成状況などについておたずねします。

問 29 下表に示す13の項目は、第5次芦屋市総合計画(令和3年度～令和12年度)の基本構想に掲げる施策の目標です。13項目それぞれについて、あなたは、芦屋市の現状をどのように感じていますか。各項目についてあなたの考えに最も近いものを1～6から1つずつ選び、数字に○をつけてください

施策の目標 (13項目)	芦屋市の現状についての考え					
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない 判断ができない	関心がない
① 【子育て】家庭環境に応じて子育てできる制度などが整っており、安心して子育てできる。	1	2	3	4	5	6
② 【教育】時代に応じた質の高い教育が平等に受けることができ、こどもや若者が心身ともに健全に成長し社会で活躍できる環境が整っている。	1	2	3	4	5	6
③ 【生涯学習】歴史や芸術、スポーツなど、市民による活動や学びの機会・場が身近にあり、文化的資源が継承され、まちへの愛着の醸成や生活の質の向上に活用されている。	1	2	3	4	5	6
④ 【人権・多様性】お互いに多様性を認め、助け合うことで、高齢者や障がいのある人なども含め誰もが暮らしやすい地域になっている。	1	2	3	4	5	6
⑤ 【健康】市民が気軽に健康づくりに取り組み、誰もがいつでも自分らしく生き生きと過ごすことができる。	1	2	3	4	5	6
⑥ 【生活環境】日々を、快適に過ごすことができ、芦屋市で暮らすことにちょっとした価値を感じる。	1	2	3	4	5	6
⑦ 【防災】まちの防災機能が充実しており、災害発生時には地域で協力し合えるようになっている。	1	2	3	4	5	6
⑧ 【防犯・交通安全・医療】犯罪や交通事故が起こりにくいまちになっている。また、必要な時に適切な医療を受けることができる。	1	2	3	4	5	6
⑨ 【自然環境】美しい緑と良好なまちなみの景観が保たれ、公園や公共施設などの公共空間が活用されている。	1	2	3	4	5	6
⑩ 【都市計画】道路や橋、上下水道、ごみ処理施設など生活に欠かせない施設・設備が整備されている。	1	2	3	4	5	6
⑪ 【地域コミュニティ】市民が自分のまちに関わりたいと思い、地域主体での課題解決に向けた取組が行われている。	1	2	3	4	5	6
⑫ 【行財政運営】今後、厳しい財政運営が予測されるなかで、長期的な視点に立った経営が行われている。	1	2	3	4	5	6
⑬ 【行政経営の柔軟性】行政がまちづくりの担い手として信頼できる組織になっている。	1	2	3	4	5	6

【次ページの問 30・問 31は施策の目標(13項目)をご参照いただきながらご回答ください。】

問 30 あなたは、問 29 にある13項目の施策の目標全体を通して見たときに、芦屋市の現状をどのように感じていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

※ 直感的に選択してください。

1. とてもうまくいっている	2. どちらかといえばうまくいっている
3. どちらかといえばうまくいっていない	4. うまくいっていない

問 31 問 29 にある13項目の施策の目標のうち、芦屋市の魅力創出の視点から今後特に力を入れて取り組むべきと思われる番号を問29の表の中から3つ以内で選んで、下記に数字をご記入ください。また、理由やご意見をお聞かせください。

力を入れるべき施策目標 (①～⑬の番号を記入)	選ばれた理由やご意見 (困っていること、今後期待されること、施策に対するアイデアなど)

問 32 あなたは、芦屋市は、美しく清潔で快適なまちだと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 大いに思う	2. どちらかといえば思う
3. どちらかといえば思わない	4. あまり思わない
5. わからない	

IV. 健康づくりについてお尋ねします。

問 33 あなたは、ウォーキングやジョギング、スポーツ教室、ジムなどでの活動など、運動の習慣がありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 週3回以上運動している	2. 週1～2回運動している
3. 月に1回以上運動している	4. 月に1回未満運動している
5. 運動習慣がない	

問 34 あなたはどの程度の頻度で健康診査・健康診断を受診していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 年1回以上	2. 2年に1回以上
3. 2年に1回未満	4. 受診しない

問 35 あなたのおおよその身長・体重を教えてください。この設問は、BMI 値に換算し、市民の皆様の健康に関する市の指標として用います。答えたくない場合は設問を飛ばしていただいて構いません。

身長：(cm) 体重：(kg)

※ BMI 値 = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m) ※ 体重、身長については、おおよそで結構です。

V. あなたの暮らしについてお尋ねします。

問 36 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点ですか。当てはまる数字に丸を付けてください。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

(とても不幸)

(とても幸せ)

問 37 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。「とても満足」を 10 点、「とても不満足」を 0 点とすると、何点ですか。当てはまる数字に丸を付けてください。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

(とても不満足)

(とても満足)

問 38 現在、あなたの町内の人々は、どれくらい幸せだと思いますか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点ですか。当てはまる数字に丸を付けてください。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

(とても不幸)

(とても幸せ)

問 39 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思いますか。「とても楽しい」を 5 点、「全く楽しくない」を 1 点とすると、何点ですか。当てはまる数字に丸を付けてください。

1 2 3 4 5

(全く楽しくない)

(とても楽しい)

VI. 文化的なふれあいや学び、市民参画についておたずねします。

本市でいう、「文化」の範囲は、芸術、芸能、生活文化、文化財などのいわゆる従来の「文化」だけではなく、景観、デザイン、ファッションやスイーツ・パンなどを含む食に関する事、まつり、花や緑・山川海の自然など広い視点を対象としています。

市民参画・協働とは、市民が市政に参加する意思を反映させることを目的として市の施策の企画立案、実施及び評価の過程に参加し、市民及び市がまちづくりについて、それぞれの役割と責務を自覚し、互いに尊重し、協力することをいいます。

問 40 「文化」という言葉に対して何を連想しますか。「あなたが「文化」とイメージするもの」の列にある□にチェックをつけてください。また、この1年間で文化的なコト・モノに触れたり、体験や活動をしましたか。その内容は何か。さらに、これからしてみたい・興味がある内容(ジャンル)があればご記入ください。(①～⑪の項目ごとにA・B・C・Dそれぞれあてはまるものに1つずつ○をつけてください。)

ジャンル	内 容	「文化」とイメージするもの	A～Dのうち1つを選択			
			自ら(創作・活動に)関わった。	鑑賞・参加のみ行った	これからしてみたい(興味がある)	この項目は、興味が無い
① 文 学	詩や俳句の展示、作家の講演など	☐	A	B	C	D
② 音 楽	ライブ、コンサート、演奏など	☐	A	B	C	D
③ 美 術	絵画、彫刻、工芸、陶芸など	☐	A	B	C	D
④ 写 真	展示や撮影など	☐	A	B	C	D
⑤ 演 劇	現代劇・ミュージカルなど	☐	A	B	C	D
⑥ 舞 踊	舞踊、ダンスなど	☐	A	B	C	D
⑦ メディア芸術	映画・インターネット・アニメーションなど	☐	A	B	C	D
⑧ 伝統芸能	能、歌舞伎、雅楽など	☐	A	B	C	D
⑨ 芸 能	落語、漫才、講談、浪曲など	☐	A	B	C	D
⑩ 生活文化	茶華道、書道、盆栽、華道、錦鯉など	☐	A	B	C	D
⑪ 生活文化	料理、ファッション(和装)など	☐	A	B	C	D

⑫ 商業・観光	まちなみ等の鑑賞・ファッションやスイーツ等の店舗や施設の散策／地域や店舗等の魅力発信など	☐	A	B	C	D
⑬ 歴史	歴史・文化財・遺跡など	☐	A	B	C	D
⑭ 歴史	歴史的建造物(近代建築)など	☐	A	B	C	D
⑮ 国際文化	外国の伝統芸能・文化の体験など	☐	A	B	C	D
⑯ 地域コミュニティ	地域コミュニティでの文化的活動など	☐	A	B	C	D
⑰ 伝統行事	祭りなどの伝統行事	☐	A	B	C	D
⑱ 自然体験	登山や川遊び等の自然体験	☐	A	B	C	D
⑲ スポーツ	野球、サッカー、ラグビーなど	☐	A	B	C	D

問 41 【問 40で「C. これからしてみたい」と1つでも答えた方にお尋ねします。】昨年度までやってみたかったけれどできなかった主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 関心のある催し物・活動が少ないから 2. 鑑賞する場所が利用しにくいから 3. 情報の入手方法がわからない・入ってこない 4. 仕事や家事が忙しくて時間がないから 5. 特に理由はない 6. その他()
--

問 42 あなたは、芦屋市の文化的資源をご存知ですか。また、利用・見学したことはありますか。下記の項目ごとにお答えください。(①～④の項目ごとにA・B・Cいずれかに1つずつ○をつけてください。)

項 目	利用・見学したことがある	知っているが、利用・見学したことはない	知らない
① 芦屋市立美術館(伊勢町)	A	B	C
② 芦屋市谷崎潤一郎記念館(伊勢町)	A	B	C
③ 芦屋市立図書館(伊勢町)	A	B	C
④ 市民センター、ルネサンス クラシックス芦屋ルナ・ホール(葉平町)	A	B	C

⑤ 富田碎花旧居(宮川町)	A	B	C
⑥ 会下山遺跡(国指定史跡・三条町)	A	B	C
⑦ ヨドコウ迎賓館(国指定重要文化財・山手町)	A	B	C
⑧ 伝芦屋庵寺塔心礎(県指定文化財・伊勢町)	A	B	C
⑨ 金津山古墳(県指定史跡・春日町)	A	B	C

問 43 あなたは、知識・技術の習得など、自分の学びのために、学習会・セミナーへの参加などの機会がどれくらいの頻度でありますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 月1回以上	2. 年数回程度	3. 年1回程度	4. 年1回未満
----------	----------	----------	----------

問 44 あなたは、映画・音楽・美術・読書・スポーツ等に触れる体験を行うため、どれくらいの頻度で外出していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 月1回以上	2. 年数回程度	3. 年1回程度
4. 年1回未満	5. 外出していない	

問 45 あなたは、芦屋市が自然・社会・文化などの体験や、それらに参加しやすい環境だと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

項 目	非常に そう思う	ある 程度 そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	全 く そ う 思 わ な い	分 か ら な い
① こどもにとっては参加しやすい環境だと思う	1	2	3	4	5	6
② 高齢者にとっては参加しやすい環境だと思う	1	2	3	4	5	6
③ 障がいのある人にとっては参加しやすい環境だと思う	1	2	3	4	5	6
④ 外国人にとっては参加しやすい環境だと思う	1	2	3	4	5	6

問 46 芦屋市が身近に文化を感じることができるまちであるために市民自身が行うとよいと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 市内で行われているイベントを鑑賞・体験する | 2. サークル活動や趣味の集まりなど、自分で文化的な活動を行う |
| 3. 地域コミュニティに参加し、地域を盛り上げる | 4. 市内の商店・飲食店でショッピングや飲食をする |
| 5. 日常的に文化的な物事に触れるようにする | 6. 史跡や自然を大切にする |
| 7. 新しい文化や考え方に関心を持つ | 8. 地域の歴史や伝統を大切にする |
| 9. 新しい住民や来街者に対して寛容になる | 10. こどもに文化的な体験をさせ、親しみを持たせる |
| 11. 高齢者が暮らしやすい雰囲気をつくる | 12. 障がいのある人が暮らしやすい雰囲気をつくる |
| 13. 外国人が暮らしやすい雰囲気をつくる | 14. 異なる文化や多様な価値観に触れ、お互いを認め合う |
| 15. その他() | |

問 47 あなたが、芦屋市が身近に文化を感じることができるまちであるために行政が行うとよいと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 文化施設で、より多くの事業を行う | 2. 文化施設で、より質の高い事業を行う |
| 3. 高齢者に配慮した事業を行う | 4. 障がいのある人に配慮した事業を行う |
| 5. 外国人に配慮した事業を行う | 6. こどもが文化的な体験・活動ができる事業を行う |
| 7. 市民や民間の活動を充実させるための助成を行う | 8. 地域コミュニティが持続的に活動できるように支援する |
| 9. 新しい住民が地域コミュニティに参加しやすいようにする | 10. 地域の伝統行事や文化財を保護及び活用し、次世代に継承する |
| 11. 芦屋市の文化的な魅力を広く周知する(シティプロモーション) | 12. 行政よりも市民や民間に委ねる方が良い |
| 13. その他() | |

問 48 あなたは、文化の推進を図ることにより社会にもたらされる効果として期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○をつけてください。)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. まちのにぎわい創出 | 2. 地域社会・経済の活性化 |
| 3. 観光および来街者の増加 | 4. 高齢者の活躍の場の創出 |
| 5. 障がいのある人の活躍の場の創出 | 6. 外国人の活躍の場の創出 |
| 7. 地域イメージの向上 | 8. 地域に対する愛着や誇りの醸成 |
| 9. 地域住民の連帯感の強化 | 10. 人々が生きる楽しみを見出せる |
| 11. こどもの心豊かな成長 | 12. 健康の増進 |
| 13. 国際交流の促進 | 14. 特に期待する事はない |
| 15. その他() | |

問 49 あなたは、市民参画・協働を必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | | |
|------------------------------|-------------------------|-------------------|
| 1. そう思う ➡問 50へ | 2. どちらかといえばそう思う ➡問 50 へ | 3. どちらでもない ➡問 52へ |
| 4. どちらかといえば
そう思わない ➡問 51へ | 5. そう思わない ➡問 51へ | |

問 50 【問 49 で 1 または 2 に ○ をつけた方にお尋ねします。】必要だと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 市民、行政それぞれでは解決が難しい課題に対応するため | 2. 個別地域の課題解決や多様な市民ニーズに対応するため |
| 3. 互いに協働する方が施策が円滑に実施されるため | 4. 市の行財政の負担が軽減されるため |
| 5. 市民自治に対する市民の意識の高まりに対応するため | 6. 市民自治に対する市民の意識の高まりを促進するため |
| 7. その他() | |

問 51 【問 49 で 4 または 5 に ○ をつけた方にお尋ねします。】不要だと思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 時間や手間がかかり非効率だから | 2. 市民や団体の力がまだ育っていないため |
| 3. 市の行財政の負担軽減につながらないため | 4. 市民側の負担が増大するため |
| 5. 公的な事業は市が行うべきだから | 6. 事業に対する責任の所在がはっきりしないから |
| 7. その他() | |

問 52 あなたは、市民の声を届ける方法や機会を知っていますか。あてはまるものをすべて選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 市ホームページの問合せフォーム | 2. 市政モニター |
| 3. 市民公募委員 | 4. 市民意識調査(アンケート) |
| 5. パブリックコメント制度※ | 6. 対話集会 |
| 7. 知らない | |

(※市が施策を策定するにあたり広く市民の意見を求め、その意見に対する市の考えなどを公表する手続き)

VII. 市政情報についておたずねします。

問 53 あなたは、下記における市からの情報を見たことがありますか。下記の項目ごとにお答えください。
(①～⑥の項目ごとにA～Dいずれかに1つずつ○をつけてください。)

項 目	よく知っている	知っているし、 見たことがある	知っているが、 見たことが無い	見たことが無い	インターネットを 接続する環境がない
① 広報あしや	A	B	C	D	
② 市のホームページ	A	B	C	D	E
③ 市のフェイスブック	A	B	C	D	E
④ 市のインスタグラム	A	B	C	D	E
⑤ 市のX(旧:Twitter)	A	B	C	D	E
⑥ 広報掲示板	A	B	C	D	

問 54 あなたは、地域や文化などに関する情報をどのように入手していますか。次の中から最も多いものを1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 広報あしや | 2. 市のホームページ・SNS |
| 3. 隣人 | 4. チラシ・ポスターなど |
| 5. 市の情報コーナーや広報掲示板 | 6. 自治会だより(自治会の回覧板) |
| 7. 団体の広報誌 | 8. テレビ、ラジオ、広報番組 |
| 9. 隣人以外の知人・友人 | 10. 市以外のホームページ・SNS |
| 11. どこからも得ていない | |

問 55 あなたは、「広報あしや」に満足していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 満足している	2. やや満足している
3. やや不満	4. 不満
5. どちらともいえない	6. 広報あしやを知らない

問 56 【問 55 で「3」または「4」に○をつけた方にお尋ねします。】 不満の理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、数字に○をつけてください。

1. 広報あしやが手に入らない	2. 情報が探しにくい、読みにくい
3. 知りたい情報が掲載されていない	4. 記事の内容がわかりにくい
5. その他()	

問 57 あなたは、「市のホームページ」に満足していますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。

1. 満足している	2. やや満足している
3. やや不満	4. 不満
5. どちらともいえない	6. インターネットを接続する環境がない
7. 見たことがない	

問 58 【問 57 で「3」または「4」に○をつけた方にお尋ねします。】 不満の理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、数字に○をつけてください。

1. 新しい情報に更新されていない	2. 情報が探しにくい、読みにくい
3. 知りたい情報が掲載されていない	4. 記事の内容がわかりにくい
5. その他()	

VIII. 教育や学習に関する取組についておたずねします。

問 59 あなたは、芦屋市のこどもたちに、どのようなこどもになってほしいと思いますか。(主なものを3つに○をつけてください)

1. 思いやりがある	2. 協調性がある
3. 確かな学力がある	4. 心身がたくましい
5. 我慢強さがある	6. 主体的に考え、学び、行動する力がある
7. 創造性が豊かである	8. 適切な判断力がある
9. 特にない	

問 60 あなたがこどもたちや教育について課題と感じていることは何ですか。(主なものを3つに○をつけてください)

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. こどもたちの学力の低下 | 2. こどもたちの道徳心や規範意識などの低下 |
| 3. こどもたちの健康状態や体力の低下 | 4. こどもたちの基本的な生活習慣の乱れ |
| 5. こどもたちの問題行動やいじめ・不登校 | 6. 家庭環境などによる教育格差 |
| 7. 家庭の教育力の低下 | 8. 地域の教育力(※)の低下 |
| 9. 学校・家庭・地域の連携 | 10. 幼(保)・小・中学校間の連携 |
| 11. 学校の施設や設備 | 12. 教職員の指導力の低下 |
| 13. 特になし | |

※ 地域の教育力:地域はこどもにとって、様々な年齢層や立場の人々と触れ合うことで、社会経験を積み重ね、社会性や公共性を得ることのできる「場」であり、その意味からも地域における教育は重要と考えられています。

問 61 あなたは、芦屋市の就学前教育の充実のためにどのような取組が必要だと思いますか。(主なものを3つに○をつけてください)

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| 1. 基本的な生活習慣の育成 | 2. あいさつやルールを守る規範意識の育成 |
| 3. 小学校への円滑な移行のための教育 | 4. こどもの主体性・思考力を伸ばす教育の充実 |
| 5. 保育士・幼稚園教諭の資質・保育力の向上や職員体制の充実 | 6. 施設・環境(園舎、遊具など)の充実 |
| 7. 認定こども園(※)の推進 | 8. 預かり保育や園庭開放などの子育て支援機能の強化 |
| 9. 就学前教育・保育施設間の連携 | 10. 家庭の教育力の向上 |
| 11. 特になし | |

※ 認定こども園:幼稚園と保育所の機能や特徴をあわせ持ち、地域の子育て支援も行う施設

問 62 あなたは小・中学校に対してどのようなことを望みますか。(主なものを3つに○をつけてください)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 教育に対する責任感や愛情を持って接すること |
| 2. 授業や教育活動がワクワクすること |
| 3. 生活習慣や社会規範の手本となり指導すること |
| 4. こどもに将来の夢や目標を持たせ、その実現を支援すること |
| 5. こどもや保護者の相談に快く応じてくれること |
| 6. 担当教科に関して専門的な知識を持つこと |
| 7. こどもに公平に接すること |
| 8. 社会の要請や時代の変化に柔軟に対応する力を持つこと |
| 9. 部活動や体育等の基礎的な体づくりを熱心に指導すること |
| 10. 自尊感情やコミュニケーション能力を高めるような支援を行うこと |
| 11. 特になし |

問 63 あなたは、いじめや不登校などを防ぐためにはどのようなことが必要だと思いますか。(主なもの3つに○をつけてください)

1. 教職員がこどもを注意深く観察し、状況を把握すること
2. 保護者がこどもを見守り、実態を把握すること
3. 教職員がいじめ等の問題行動に対して厳しく指導すること
4. ワクワクする授業を教職員がめざすこと
5. 地域でこどもたちを見守り、注意するなど、地域の教育力を高めること
6. 専門の相談員(スクールカウンセラー等)に、いつでも悩みを相談できること
7. 学校と警察やこども家庭・保健センター等の関係機関との連携を強化すること
8. 学校において道德教育の充実を図ること
9. こどもにとって学校が楽しい場所であること
10. 学校と家庭との連携を強化すること
11. 特にない

問 64 次の教育施策や教育事業について、あなたは、今後芦屋市で力を入れて行う必要があると思いますか。(①～⑦の各項目について、それぞれ1つずつ選んで、数字に○をつけてください。)

項 目	特に充実を していくべき	充実していく 方がよい	現状でよい	あまり充実していく 必要がない	充実していく 必要がない
① こどもたちが、ワクワクする授業の実施	1	2	3	4	5
② 少人数・習熟度別学習など、多様な形態での学習の実施	1	2	3	4	5
③ 授業における ICT 機器活用や、SNS の使い方など、情報モラル教育の推進	1	2	3	4	5
④ 外国語教育の充実	1	2	3	4	5
⑤ 学校や家庭・地域が一体となった読書の取組の推進	1	2	3	4	5
⑥ 豊かな心をはぐくむ道德教育の推進	1	2	3	4	5
⑦ 阪神・淡路大震災を風化させないなど、防災教育の実施	1	2	3	4	5

項 目	特に充実を していくべき	充実していく 方がよい	現状でよい	あまり充実していく 必要がない	充実していく 必要がない
⑧ いじめや暴力行為などの解消を図る取組の推進	1	2	3	4	5
⑨ 不登校児童生徒へのケアや支援の充実	1	2	3	4	5
⑩ 障がいの有無に関わらず子どもたちが共に学ぶことができる仕組みづくり	1	2	3	4	5
⑪ すべての子どもが公平で質の高い教育を受けられる支援の充実	1	2	3	4	5
⑫ こどもの体力向上の取組の充実	1	2	3	4	5
⑬ 小学校と中学校との連携の推進	1	2	3	4	5
⑭ 幼稚園、保育所(園)、認定こども園と小学校との連携の推進	1	2	3	4	5
⑮ 発達や学びの連続性をふまえた幼児教育の推進	1	2	3	4	5
⑯ 地域の指導者の活用など、学校園・家庭・地域が連携して子育てや教育をする取組の充実	1	2	3	4	5
⑰ 地域や児童生徒の実態や課題に応じた人権教育の推進	1	2	3	4	5
⑱ 家庭・地域の教育力向上を図るための講演会、講座、フォーラムの充実	1	2	3	4	5
⑲ 教職員の資質や指導力の向上	1	2	3	4	5
⑳ 学校園の適正規模や適正配置(※)・老朽化等についての対策の検討	1	2	3	4	5
㉑ こどもの通学路の安全確保に係る取組の実施	1	2	3	4	5

※ 学校園の適正規模や適正配置：少子化が進む中、学校や幼稚園において、どの程度の規模や人数で教育を行うことが望ましいのかを考えていくこと

IX. 総合計画・各種計画について おたずねします。

問 65 あなたは、芦屋市総合計画についてどの程度知っていますか。次の中から1つだけ選んで、数字に○をつけてください。※概要版でも可

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 読んだことがある | 2. 内容は知らないが、存在は知っている |
| 3. 存在も知らなかった | |

問 66 今後の芦屋市のまちづくり全般について、ご意見などがございましたら、お聞かせください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて、**11月1日(金)までに**ポストにご投函ください。
(切手は不要です。また、お名前・ご住所を返信用封筒にご記入いただく必要はありません。)